科目ナンバリング： UGH001
授業形態： 講義
科目名： 人生と哲学
担当教員： 相馬　宗胤(SOMA　Munetane)

【授業の紹介】
　哲学に魅力を感じる者もいれば、敬遠したくなる者もいると思います。哲学は人生に必要なものだと期待感を持つ者もいれば、そんなものは自分には不要だと考える者もいると思います。そのような「哲学」とは一体何であり、「哲学」とは何をすることで、どう役に立つものなのでしょうか。こういった問いについて考えていくことを通して、哲学をする経験を積むことが本授業科目のめざすところです。授業では、たとえば、哲学の定義、哲学的思考、哲学教育、哲学の歴史などのテーマに関する講義も行いますが、終盤は、自分たちで書いた哲学エッセイをもとに授業を進めていく予定です。
　本授業科目は、課題の連絡や資料の共有にあたり、Webベースのサービス（たとえば、GoogleClassroomやSlackなど）を使用する予定です。具体的な使用方法は、第1回授業時に連絡します。
　本授業科目は、授業課題を多く課す予定であり、かつ、課題を出すことで授業が成り立つように組み立てようと考えています。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	

【到達目標】
１．哲学的思考の特徴を理解し、それを駆使しようとすることができる。
２．授業で紹介された哲学の知（哲学史、哲学者の思想など）を理解する。
３．哲学とは何かという問いに対して、自分なりの考え（答え）を述べることができる。

【成績の評価】
・授業後の課題の提出状況及びその質（60%）
・哲学エッセイ（40%）

※　提出されたエッセイについては、適宜フィードバックを行う。フィードバックにあたっては、Google Classroomを使用する。

【使用テキスト】
テキストは指定しません。授業資料は適宜配布します。

【参考文献】
・『概念と歴史がわかる――西洋哲学小事典』（生松敬三・木田元・伊東俊太郎・岩田靖夫編、筑摩書房、2011年）。
・『物語　哲学の歴史――自分と世界を考えるために』(伊藤邦武著、中央公論新社、2012年)
・『はじめての哲学的思考』（苫野一徳、筑摩書房、2017年）
・『思考の用語辞典――生きた哲学のために』（中山元著、筑摩書房、2007年）

※その他、授業時に適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	授業の説明／哲学の対象	【授業後】提示された授業後の課題に取り組む（2時間）。	
2	学問体系としての哲学と実践としての哲学	【授業前】提示された授業前の課題に取り組む（2時間）。 【授業後】提示された授業後の課題に取り組む（2時間）。	
3	哲学の学び方	同上。	
4	哲学的思考の性質や方法１――記号論的アプローチ	同上。	
5	哲学的思考の性質や方法２――比喩によるアプローチ	同上。	
6	哲学的思考の性質や方法３――対話によるアプローチ	同上。	
7	哲学の具体例１――古代の哲学	同上。	
8	哲学の具体例２――中世、近代の哲学	同上。	
9	哲学の具体例３――現代の哲学	同上。	
10	哲学エッセイという方法	同上。	
11	哲学の実践１――哲学エッセイの題材を考える	同上。	
12	哲学の実践２――哲学エッセイのためのアイデアを集める	同上。	
13	哲学の実践３――哲学エッセイの論証構造を検討する	同上。	
14	哲学の実践４――哲学エッセイの第一ドラフトを検討する	同上。	
15	授業全体の振り返り	【授業前】提示された授業前の課題に取り組む（2時間）。 【授業後】提示された授業後の課題に取り組む（2時間）。また、哲学エッセイを完成させる（2時間）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UGS002
授業形態： 講義
科目名： 日本国憲法
担当教員： 金子　匡良(KANEKO　Masayoshi)

【授業の紹介】
この授業では、日本国憲法の土台をなす立憲主義およびそれを生み出した歴史的背景について理解した上で、日本国憲法の構造および主要な規定内容について学んでいく。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	

【到達目標】
この授業は、以下の事項を修得することを目標とする。
①憲法の土台をなす立憲主義の内容について理解し、それを説明することができる。
②立憲主義が誕生した歴史的背景と立憲主義の変遷について理解し、それを説明することができる。
③日本国憲法の制定経緯について理解し、それを説明することができる。
④日本国憲法の構造および主要な規定内容について理解し、それを説明することができる。
⑤憲法の知識を通じて現代社会の諸問題を分析することができる。

【成績の評価】
成績評価は、定期試験の点数に基づいて行う（100%）。試験後に試験内容についてフィードバックを行う。

【使用テキスト】
なし。毎回の授業時に配布するプリントに基づいて授業を進める。

【参考文献】
長谷部恭男(解説)『日本国憲法』（岩波文庫、2019年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
国会議員政策担当秘書の実務経験がある。それを生かし、講義の中で憲法と現実政治との関連についても触れる。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	【憲法の意義と機能】 立憲主義の意義と憲法の規範構造について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
2	【憲法の歴史①：近代憲法の成立】 近代憲法が成立した経緯について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
3	【憲法の歴史②：近代憲法の変遷と現代憲法の成立】 近代憲法の変遷と現代憲法の成立について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
4	【日本国憲法の概要】 日本国憲法の全体構造と特徴について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
5	【国民主権】 国民主権の意義、およびその規範的意味について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
6	【天皇制】 象徴天皇制の概要と天皇の国事行為について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
7	【平和主義】 平和主義の意義と憲法9条に関する解釈・判例について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
8	【平等権】 平等権の意義と保障範囲、およびそれに関する判例について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
9	【表現の自由】 表現の自由の意義と保障範囲、およびそれに関する判例について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
10	【参政権】 参政権の意義と保障範囲、およびそれに関する判例について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
11	【社会権】 社会権の意義と保障範囲、およびそれに関する判例について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
12	【権力分立】 権力分立の意義およびその現代的変容について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
13	【違憲審査制】 違憲審査制の意義とその限界について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
14	【司法権の独立】 司法権の独立の意義とそれを脅かす要因につ	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	いて学ぶ。	復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
15	【授業のまとめ】 授業内容を振り返るとともに、試験を行った上でフィードバックを行う。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UGI001
授業形態： 講義
科目名： 人権教育
担当教員： 金子　匡良(KANEKO　Masayoshi)

【授業の紹介】
私たちは「人権」という言葉をよく耳にしますが、では「人権」とはいったい何なのかと問われると、うまく説明できない人が多いのではないでしょうか。そこでこの授業では、まず人権とは何かについて説明していきます。次に、日常生活の中で起こりやすい差別問題を取りあげ、なぜ差別が起こるのか、差別をなくすために何が必要なのかを考えていきます。それに続けて、女性の人権や障害者の人権といった具体的なテーマを取り上げ、日本や世界にどのような人権問題があるのか考えます。また、日本に古くから存在する部落差別（同和問題）についても取り上げます。

この授業はGoogle Classroomを用いたオンライン授業で行います。受講者は毎週金曜日にアップロードされる授業のプリントを見ながら動画を視聴して、自己学習をした上で、1週間後までに課題を提出してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
①人権の意味や役割を理解し、他人の権利や人格を尊重することができる。
②様々な人権問題の内容や沿革を正しく理解し、自分なりの言葉で説明することができる。
③現代社会を人権という観点から分析し、問題点を発見し、自分でその解決策を考案することができる。

【成績の評価】
成績評価は、毎回の課題の提出状況とその点数に基づいて行います（100%）。課題提出後に課題内容についてフィードバックを行います。なお、課題の提出回数が9回以下の場合は、成績評価の対象にならないので注意してください。

【使用テキスト】
アジア・太平洋人権情報センター（編）『人権ってなんだろう？』（解放出版社・2018年）

【参考文献】
適宜指示します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
国会議員政策担当秘書の実務経験があります。その経験を生かし、講義の中で現実政治と人権問題の関わりについても触れます。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	【人権の意味】 人権の定義と構成要素について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
2	【人権の内容と役割】 人権の具体的な権利内容とその機能について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
3	【平等と差別①：平等の意義と種類】 平等の定義と種類について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
4	【平等と差別②：差別の種類と解消方法】 差別の定義と種類、および差別の種類に応じた解消方法について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
5	【人権を守る仕組み】 人権救済の方法、および国内人権機関について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
6	【差別の構造と要因】 差別の構造とそれが生まれるメカニズムについて学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
7	【差別の解消方法】 差別の解消方法、特に偏見の低減方法について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
8	【女性の人権①】 女性の人権の歴史と日本の女性の社会的地位について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
9	【女性の人権②】 女性の人権の歴史と日本の女性の社会的地位について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
10	【女性の人権③】 女性に対するＤＶ、セクハラ、就労差別等について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
11	【女性の人権④】 男女雇用機会均等法の内容と意義について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
12	【女性の人権⑤】 男女雇用機会均等法成立までの経緯とそれに携わった関係者の努力について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
13	【部落差別①】 部落差別の内容とその特徴、歴史的経緯について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
14	【部落差別②】 部落差別の実態と課題について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
15	【ハンセン病元患者の人権】 ハンセン病問題の歴史的経緯と残された課題について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UG0301
授業形態： 講義
科目名： 総合科目
担当教員： 蓮井　明博(HASUI　Akihiro),糸目　真也(ITOME　Shinya)

【授業の紹介】
　現代の企業経営を、地域、産業、社会の立場で、深くかつ広い視野から探求するため、学外の権威ある指導者から企業経営観、企業文化論あるいは専門分野の先端情報等のテーマを中心に講義を願い、近代経営のあり方を考えます。講師陣の豊富な人生経験に触れることにより幅広い教養に裏付けられた知識や能力を身に付け、地域社会の中での自身の役割や係わりについて学習します。
　本講義は、経営・情報・会計などの知識を、組織においてどの様に活用しているか、グローバル社会においても自らの力を地域社会に役立てようとする志を持ち、ビジネスや起業などの活動を通して貢献しているかなどを、講師陣の体験談を交え聴講することが出来ます。
　特にこの授業は実社会でも、また講演会でもなかなかお目にかかれない、各界トップの講師陣が直接皆さんに語りかける講座で、本学特有のスペシャルメニューです。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	

【到達目標】
1.講師陣のお話しを聞き、社会人としての豊かな人間性を高めることができる。
2.講師陣の経営観や人生観などを吸収し、多様な考え方を取入れることができる。

【成績の評価】
随時課するレポートにより100%評価します。提出物は、評価して返却することでフィードバックします。

【使用テキスト】
ありません。

【参考文献】
必要の都度、指示します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。日本銀行や地域金融機関での実務経験を活かし、毎回の講師の方との意見交換なども交えながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 以下の「授業計画」は前年度の実績であり、今年度は決まり次第連絡する。		担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
2	高松丸亀街商店街振興組合 理事長　古川　康造　氏 持続可能な社会の構築～丸亀町商店街を題材に	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
3	特定非営利活動法人わははネット 理事長　中橋　恵美子　氏 「社会を変える」を仕事に	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
4	日本銀行高松支店 支店長　高田　英樹　氏 日本銀行の仕事とお金の話	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
5	株式会社香川銀行 代表取締役専務　近石　政義　氏 地域経済の課題と当行の取組み	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
6	ジェトロ香川 地域統括センター長（四国） 石原　孝志　氏 世界と私たち	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
7	高松琴平電気鉄道株式会社 代表取締役社長　真鍋　康正　氏	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
8	内閣府公正取引委員会事務総局 四国支所長　福田　秀一郎　氏 公共交通と街づくり	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
9	香川県教育委員会 教育次長　三好　健浩　氏 「教師」という職業	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
10	四国旅客鉄道株式会社 相談役　泉　雅文　氏 四国新幹線って要るの？	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
11	公益財団法人高松観光コンベンション・ビューロー 理事長　佐野　正　氏 出会い・夢・挑戦	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
12	香川証券株式会社 代表取締役社長　中條　博之　氏 証券会社の役割りと今後求められる人材	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
13	丸善工業株式会社 代表取締役会長　三谷　朋幹　氏 これまでの日本　これからの日本	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
14	香川経済同友会 代表幹事　佐藤　哲也　氏 ～夢とロマンと冗談と～四国なんでも88箇所巡礼	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
15	株式会社百十四銀行 代表取締役副頭取　香川　亮平　氏 金融の基礎知識と地方銀行の役割	予習としてテーマに関する専門用語やキーワード等を調べ、ノートに記載すること（2時間） 復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構築し、他者への説明ができるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（2時間）	担当：蓮井　明博 担当：糸目　信也
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UGH002
授業形態： 講義
科目名： 芸術文化
担当教員： 辻野　栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】
文芸、音楽、美術、演劇、舞踊、映画、アニメーション、漫画等の芸術文化は、人間の感性を豊かにする知的で創造的な活動です。また、人間が人間らしく生きるための糧ともなり、社会全体が活性化できる大きな力にもなります。本授業では、西洋美術史・日本美術史を中心として、歴史を辿りながら多くの芸術作品を図版や映像で鑑賞します。時代背景を学びながら、その時代の美術・文化の特徴についてレポート提出があります。
なお、学生への連絡等は、Google Classroomを通じて行います。クラスコードは、p6qm4y6です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	

【到達目標】
１．美術の歴史や流れの中に継承された伝統がどのように取り組まれ、形として表れているかを理解することができる。
２．美術作品に対して作者との心の交流を深め価値を見出したりすることができる。
３．作品を鑑賞して自分に語りかけ自己の感じ方を学ぶことができる。
４．様々な美術作品を鑑賞することで表現方法や技法を学ぶことができる。

【成績の評価】
各授業で講義内容についてのレポート提出があります。
レポート提出（80%）、授業態度・意欲（20%）で評価します。
提出されたレポートに対して、次の授業で講評することでフィードバックします。

【使用テキスト】
『いちばん親切な西洋美術史』　(池上英洋他 著、新生出版社、2016年)

【参考文献】
『すぐわかる日本の美術 改訂版』（田中 日佐夫 監修、東京美術、2009年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、芸術と芸術文化の意義 「洞窟壁画」	予習として、テキスト全体に目を通しておこと。そして、高校以前の世界史で出てきたラスコーやアルタミラの洞窟壁画をインターネット等で検索して、なぜクロマニョン人は、後期旧石器時代に真っ暗な洞窟の壁面に数多くの絵を描き残したのか考え、自分なりの意見をノートに記載しておくこと。（3時間） 復習として、授業で説明した内容を自分なりにまとめて他者に説明できるようにしておくこと。（1時間）	
2	西洋美術（エジプト・メソポタミア文明） 「ツタンカーメン王のマスク」他	予習として、テキストの20～25ページを読み込み、またインターネット等で検索して、古代4大文明の中で特にメソポタミア文明、エジプト文明についてどのような文明であったかを理解しておくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介したメソポタミア文明、エジプト文明で作られた彫刻や絵などの美術品の特徴について、他者に説明できるように自分なりにまとめて記載しておくこと。（2時間）	
3	西洋美術（エーゲ・ギリシャ・ローマ文明） 「ミロのビーナス」 他	予習として、テキストの26～43ページを読み込み、またインターネット等で検索して地中海沿岸で花開いたそれぞれの文明の特徴について理解しておくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介した建造物や彫刻等の中で特に古代ギリシャで大きく様式が変わった3つの期に作られた彫刻等の様式の特徴について、他者に説明できるように自分なりにまとめて記載しておくこと。（2時間）	
4	西洋美術（ルネサンス） 「モナ・リザ」ダ・ビンチ 他	予習として、テキストの44～93ページを読み込み、またインターネット等で検索して、3世紀頃から14世紀に花開いた文化運動のルネサンスまでの時代の流れや特徴について理解しておくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介した建造物や彫刻、絵画等の中で特にルネサンスで活躍した作家、作品について説明できるように自分なりにまとめて記載しておくこと。（2時間）	
5	西洋美術（北方ルネサンス・バロック・ロココ） 「真珠の耳飾りの少女」フェルメール 他	予習として、テキストの94～139ページを読み込み、またインターネット等で検索して、その時代背景や美術の特徴について理解しておくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介した絵画等の中で特に北方ルネサンス、バロック美術の特徴と活躍した作家、作品について説明できるように自分なりにまとめて記載しておくこと。（2時間）	
6	西洋美術（新古典主義・ロマン主義・印象派） 「印象・日の出」モネ 他	予習として、テキストの140～179ページを読み込み、またインターネット等で検索して、その時代背景や美術の特徴について理解しておくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介した絵画等の中で特に印象派の特徴や印象派に属する作家・作品について説明できるように自分なりにまとめて記載しておくこと。（2時間）	
7	西洋美術（世紀末美術） 「ユディット」クリムト 他	予習として、テキストの180～199ページを読み込み、またインターネット等で検索して、その時代背景や美術の特徴について理解して	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		おくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介した絵画、彫刻、工芸、建築等の中で特にアール・ヌーヴォーとアール・デコのそれぞれの特徴や違いについて、説明できるように自分なりにまとめて記載しておくこと。（2時間）	
8	西洋美術（近代美術） 「アヴィニョンの娘たち」ピカソ他	予習として、テキストの200～215ページを読み込み、またインターネット等で検索して、その時代背景や美術の特徴について理解しておくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介した絵画、彫刻等の中で特に近代美術の考え方やそれぞれの作家と作品について特徴や考え方を説明できるように自分なりにまとめて記載しておくこと。（2時間）	
9	日本美術（縄文～天平時代） 「法隆寺金堂釈迦三尊像」他	予習として、日本の美術の中で縄文時代から天平時代についてインターネット等で検索して、それぞれの文化、そこから生み出された美術作品について理解しておくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介した出土品、絵画、彫刻、工芸等の中で特に1万年以上続いた縄文時代について、世界に類を見ない1万年以上も続いた時代の生活や出土した土器等の特徴について、説明できるように自分なりにまとめて記載しておくこと。（2時間）	
10	日本美術（平安～鎌倉時代）「 金剛力士像」運慶　他	予習として、平安時代から鎌倉時代についてインターネット等で検索して、それぞれの文化、そこから生み出された美術作品について理解しておくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介した絵画、彫刻、工芸等の中で特に平安時代に発達した日本独自の絵画である大和絵の特徴的な表現技法について説明できるように自分なりにまとめて記載しておくこと。（2時間）	
11	日本美術（室町～江戸時代初期）「 唐獅子図」狩野永徳 他	予習として、室町時代から江戸時代初期についてインターネット等で検索して、それぞれの文化、そこから生み出された美術作品について理解しておくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介した絵画、彫刻、工芸等の中で特にその時代に活躍した絵画の流派である土佐派、狩野派、琳派のそれぞれの特徴と代表とされる画家について説明できるように自分なりにまとめて記載しておくこと。（2時間）	
12	日本美術（江戸中期～江戸後期）「 富嶽三十六景」葛飾北斎 他	予習として、江戸時代中期から江戸時代後期についてインターネット等で検索して、それぞれの文化、そこから生み出された美術作品について理解しておくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介した絵画等の中で特に元禄文化の美術、化政文化の美術について、それぞれそれぞれの特徴と代表とされる画家について説明できるように自分なりにまとめて記載しておくこと。（2時間）	
13	日本美術（明治～昭和初期）「 霊峰飛鶴」横山大観 他	予習として、明治時代から昭和初期についてインターネット等で検索して、それぞれの文化、そこから生み出された美術作品について理解しておくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介した絵画、彫刻等の中で特に明治の美術、大正の美術について、それぞれそれぞれの特徴と代表とされる画家について説明できるように自分なりにまとめ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		て記載しておくこと。（2時間）	
14	現代美術 「ナンバー１」ジャクソン・ポロック他	予習として、テキストの216～218ページを読み込み、またインターネット等で検索して、その時代背景や美術の特徴について理解しておくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介した絵画、彫刻等の中で特に戦後多様化していった現代美術の考え方やそれぞれの作家と作品の特徴や考え方について、説明できるように自分なりにまとめて記載しておくこと。（2時間）	
15	西洋・日本美術以外の美術 アフリカ大陸、中国、オセアニア、南アメリカ大陸の美術他	予習として、インターネット等で検索して、これまで紹介した西洋美術、日本美術以外の世界で発展した文明、文化から生み出された美術作品について理解しておくこと。（2時間） 復習として、授業で紹介した絵画、彫刻、工芸等の中でそれぞれの地域・文化の特徴や違いについて、説明できるように自分なりにまとめて記載しておくこと。（2時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UG0001
授業形態： 講義
科目名： うどん学
担当教員： 佃　昌道(TSUKUDA　Masamichi)

【授業の紹介】
香川県では、半夏の日にうどんを食べる習慣があるそうです。お祝にもうどんはつきものです。サラリーマンは昼食の多くをうどん屋で食べ、一人あたりのうどんの消費量も日本一です。近年香川県をうどん県と名うち全国に情報発信するようになり、香川県におけるうどんの認知度は益々上がる一方です。うどん県ならではの授業として、うどん学を開講し、うどんの歴史、製法、材料、販売など様々な角度からうどんを学習していきます。そして、うどんを通して、地域の文化や産業、観光などの観点から、うどんの特徴や今後の課題について学んでいきます。
また、調理実習時では、白衣またはエプロン・三角巾の着用が必要です。また、材料費を徴収します。
なお、材料費は受講している全員から徴収します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	

【到達目標】
うどんの文化、地理、歴史、経営商学に至る様々な角度からうどんについて考えるみることができる。
うどんの特徴が説明でき、うどん打ちをすることができる。
うどんを統計的に分析することにより、うどんを定量的に見ることができるようになる。この様な経験を基に、地域の課題に気づいて解決することができる。

【成績の評価】
授業内レポート（20%）、課題レポート（50%）、定期試験（30%）の評価を行う。
授業内レポート、課題レポート等は添削して返却します。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
必要に応じて、その都度指定する。
たとえば、うどん統計データであれば、香川県のホームページを参照するなど

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	うどんとは	授業で示された課題を解く（4時間）	
2	うどんの歴史	授業で示された課題を解く（4時間）	
3	うどんを広めた人々	授業で示された課題を解く（4時間）	
4	全国のうどん地図	うどん店の調査（4時間）	
5	うどん店を調査する	うどんと行事の調査（4時間）	
6	うどんと祭事、行事	授業で示された課題を解く（4時間）	
7	さぬきにうどん屋が多いわけ	授業で示された課題を解く（4時間）	
8	小麦とうどん	授業で示された課題を解く（4時間）	
9	うどんとだし、薬味	授業で示された課題を解く（4時間）	
10	うどんの消費と動向	授業で示された課題を解く（4時間）	
11	うどんを打つ	授業で示された課題を解く（4時間）	
12	うどんを食べる	授業で示された課題を解く（4時間）	
13	うどんと文学、うどんと経済学	授業で示された課題を解く（4時間）	
14	うどんと音楽、映画	授業で示された課題を解く（4時間）	
15	うどんと香川	授業で示された課題を解く（4時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UG0102
授業形態： 講義
科目名： 香川学【発】
担当教員： 西岡　達哉(NISHIOKA　Tatsuya)

【授業の紹介】
　授業の趣旨は、香川県の地理、歴史、人物、文化芸術などを教材として、香川県で生まれたこと、香川県で育ったこと、香川県で学んでいること、これから香川県で暮らし続けることなどの意味について理解させるとともに、職業人として必須の香川県に関する深層的な知識を身に付けさせることです。
　まずは、香川県の特徴ある風土や、香川県人の優れた知恵や技術、日本の歴史における香川県の位置などについての「気付き」の機会をつくります。
　そして、個々の事象について深く教授することにより、学生自らが将来にわたってこれらを継承するために必要な感性や創造・企画力などを育成していきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１．現代人の暮らしが先人の知恵や工夫によってかたちづくられていることを知ることができる。
２．香川県の風土や人々の知恵や技術などが全国に誇れるものであることを知ることができる。
３．将来の職業人として、香川県出身であることや香川県で働くことに大いなる意義を実感するとともに、香川県らしさを発揮した創意や工夫が生まれる素質を身に付けることができる。

【成績の評価】
授業における発表（10%）、授業におけるレポート（10%）、定期試験（80%）
成績の評価については、個人面談などを行うことにより口頭でフィードバックを行う。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
１．大学的香川ガイド（守田逸人編、昭和堂、2022年）
２．忘れられた日本人（宮本常一著、岩波文庫、1984年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
教育委員会における文化財保護や文化財調査、博物館及び美術館における文化芸術活動などの経験を活かして、香川県の気候、地形、人物、産業、美術工芸、建築、交通、歴史上の出来事などについて、具体的な事例を紹介します。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	○オリエンテーション（授業の趣旨や計画などの説明） ○香川の気候・地形１（内海と島、阿讃山脈とメサとビュート）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
2	○香川の地形２（扇状地、川、出水、ため池）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
3	○香川の人１（空海から松平頼重まで）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
4	○香川の人２（大久保諶之丞から大平正芳まで）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
5	○香川の産業１（第１次産業の歴史的及び文化史的特徴）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
6	○香川の産業２（第２次産業の歴史的及び文化史的特徴）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
7	○香川の産業３（第３次産業の歴史的及び文化史的特徴）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
8	○香川の美術工芸１（美術）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
9	○香川の美術工芸２（工芸）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
10	○香川の建築１（古建築）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
11	○香川の建築２（モダニズム建築）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
12	○香川の交通１（瀬戸大橋架橋以前）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
13	○香川の交通２（瀬戸大橋架橋以降）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
14	○日本史における香川の重大事件１ （崇徳院配流、源平合戦以前）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
15	○日本史における香川の重大事件２ （細川氏による支配以降）	居住地、通学路、学校などの周囲にある古いものや珍しいものなどについて、所有者に質問をしてみたり、図書館、博物館、資料館などで調べてみたりしてください。また、祖父母や近所の高齢者などから古い時代の話を聞いてみてください。（２時間） 香川県の地理や歴史、人物などについての図書を読んでみたり、インターネットで検索してみたりしてください。（２時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UG0002
授業形態： 演習
科目名： 香川学演習
担当教員： 西岡　達哉(NISHIOKA　Tatsuya)

【授業の紹介】

香川県には、長い歴史に培われた秀逸な「遺産」が多数現存します。これらには、国宝や重要文化財などの著名な物件とともに、地方の小コミュニティなどによって大切に保護されてきた無名の物件も数多く含まれています。

この授業の趣旨は、全学共通科目の「香川学」の趣旨を理解するとともに、学生自らが身近な物件に気付き、学生自身の五感を駆使することによって、香川県の隠された魅力を体感、体得することです。

授業の方法は、学生に対して居住地や通学路などの日常の生活圏に存在する地形、植生、動物相、遺跡、神社、寺院、祠、古民家、コンクリート建造物、墓地、石造物、記念碑、美術工芸品、文学作品、人物、祭礼、行事などのさまざまな物件についての調査研究を課し、調査報告書の作成を求めます。

調査研究の対象物件の選択は学生個々の自由裁量としますが、調査研究の過程において物件の種類別にディスカッションを行い、学生相互に影響し合う機会を設けます。

さらに学生に対しては、身近な祭礼や行事などへの積極的な参加を促します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】

１．学生個々の生活圏において継承すべき「遺産」の存在に気付くことができる。
２．香川県における学生個々の生活圏の存在意義を知ることができる。
３．ふるさとに対する興味や関心を涵養することができる。
４．社会貢献に対する情熱を醸成することができる。

【成績の評価】

調査研究の内容（25%）、口頭報告の内容（25%）、調査報告書の内容（50%）
成績の評価については、調査研究報告書に基づき、個人面談などを行うことにより口頭でフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

１．考現学入門（今和次郎著、ちくま文庫、1987年）
２．超芸術トマソン（赤瀬川原平編、ちくま文庫、1987年）
３．路上観察學入門（赤瀬川原平・南伸坊・藤森照信著、ちくま文庫、1986年）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

教育委員会における文化財保護や文化財調査、博物館及び美術館における文化芸術活動などの経験を活かして、香川県の気候、地形、人物、産業、美術工芸、建築、交通、歴史上の出来事などについて、具体的な事例を紹介します。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	授業の趣旨についての説明	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
2	香川県における「遺産」の現況についての解説	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
3	調査研究の方法についての説明	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含ま	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		れていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
4	学生による調査研究の対象物件についての検討	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 　次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 　さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
5	学生による調査研究の対象物件についての報告・ディスカッション１	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 　次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 　さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
6	学生による調査研究の対象物件についての報告・ディスカッション２	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
7	学生による自主的な調査研究１ 地形	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
8	学生による自主的な調査研究２ 植生	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
9	学生による自主的な調査研究３ 動物相	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
10	学生による自主的な調査研究４ 遺跡	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
11	学生による調査研究についての経過報告１ 地形～遺跡	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
12	学生による自主的な調査研究５ 神社	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 　次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 　さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
13	学生による自主的な調査研究６ 寺院	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 　次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 　さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
14	学生による自主的な調査研究７ 祠	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 　次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 　さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
15	学生による自主的な調査研究８ 古民家	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 　次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 　さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
16	学生による調査研究についての経過報告２ 神社～古民家	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 　次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 　さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
17	学生による自主的な調査研究９ コンクリート建造物	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
18	学生による自主的な調査研究10 墓地	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
19	学生による自主的な調査研究11 石造物	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてく	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ださい。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
20	学生による自主的な調査研究12 記念碑	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
21	学生による調査研究についての経過報告３ コンクリート建造物～記念碑	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
22	学生による自主的な調査研究13 美術工芸品	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
23	学生による自主的な調査研究14 文学作品	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
24	学生による自主的な調査研究15 人物	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
25	学生による自主的な調査研究16 祭礼	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。こ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		の計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 　次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 　さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
26	学生による調査研究についての経過報告４ 美術工芸品～祭礼	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 　次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 　さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
27	学生による自主的な調査研究17 行事	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 　次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 　さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		モとして保存しておいてください。	
28	学生による自主的な調査研究18 その他	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 　次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 　さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
29	学生による調査研究についての経過報告５ 行事～その他	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 　次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 　さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手することに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
30	調査報告書の作成	この授業において最も重要な学習は、授業時間外における調査研究です。 　調査研究を行うためには、まず「何について」「どのような手順で」「どのような方法で」「何を準備して」実施するのか事前に詳しく計画を立案しておくことが必要です。この計画づくりのために十分な学習時間を確保してください。（１時間）わからないことは授業においてしっかり質問して疑問を払しょくするように心がけてください。 　次に現地調査を行う際には、物件そのものを調査することはもちろんのこととして、少しその周囲にも視野を広げて観察してみてください。 　さらに、積極的に物件周囲の住民などと会話することにより、埋もれた情報を入手する	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ことに努めてください。文字や写真などに表現されていない情報の中に貴重な情報が含まれていることが多くあります。 　実施した調査研究の具体的な内容や、入手した情報などについては、可能な限り記憶が鮮明なうちに調査報告書にまとめておいてください。（１時間）決してキレイにまとめようとするのではなく、まずはありのままのメモとして保存しておいてください。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UGH003
授業形態： 講義
科目名： 歴史
担当教員： 溝渕　利博(MIZOBUCHI　Toshihiro)

【授業の紹介】
グローバル化が進展する中、今、「日本とは何か」が問われています。日本人一人ひとりへの問いかけがなされています。「過去を知らなければ、未来を語ることはできない」とよく言われます。未来は、過去を振り返ることによってのみ明らかになってきます。日本には先人が生み育ててきた長い文化の歴史があり、この授業科目は、文化史の視点に立って改めて日本の歴史を振り返り、日本文化の特質とその歴史的性格について学び理解することができます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１．日本の身近な文化財や伝統文化を通して、それらが生まれてきた風土や歴史的背景を理解できる。
２．日本や日本文化に対する関心を高め、歴史的なものの見方や考え方を習得できる。
３．新たな時代に相応しい日本文化を創造していく力を身に付けることができる。
４．日本の文化の成り立ちや特色ついて関心を高めるとともに、自らの郷土や国家の歴史・文化及び先人の努力等について理解を深めることができる。

【成績の評価】
授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な学習状況の度合い等（10
%）に加え、毎授業後に提出のリフレクションペーパー（10%）、ユニットごとの小テスト（20%）及び学修ノート（20%）・レポート（40%）の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。遅刻5回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】
尾藤正英著『日本文化の歴史』（岩波新書、2000年）

【参考文献】
家永三郎『日本文化史（第二版）』（岩波新書、1982年）佐々木高明著『日本文化の多重構造』（小学館、1997年）阿部猛・西垣晴次編『日本文化史ハンドブック』（東京堂出版、2002年）村井康彦著『日本の文化』（岩波ジュニア新書、2002年）大久保喬樹著『日本文化論の系譜』（中央新書、2003年）遠山淳他編『日本文化論キーワード』（有斐閣、2009年）ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・文化史とは何か。	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
2	日本文化の源流（P.1～P.14）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
3	古代国家の形成と日本神話（P.15～P.39））	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
4	仏教の受容とその発展（P.41～P.54））	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
5	漢風文化から国風文化へ（P.55～P.72）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
6	第1回～第5回までの範囲に関する小テスト（基礎知識と小論文）。平安時代の仏教文化（P.73～P.83））	第1回～第5回までの学修ノートを提出して内容の確認・評価を受けること。予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
7	鎌倉仏教文化の成立（P.85～P.110）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
8	内乱期の文化（P.111～P.124）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
9	国民的宗教の成立（P.125～P.136）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
10	近世国家の成立と歴史思想（P.137～P.156）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
11	第6回～第10回までの範囲に関する小テスト（基礎知識と小論文）。元禄文化（P.157～P.173）	第6回～第10回までの学修ノートを提出して内容の確認・評価を受けること。予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
12	儒学の日本的展開（P.175～P.185）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
13	国学と洋学・明治維新における公論尊重の理念（P.187～P.212）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
14	近代日本における西洋化と伝統文化（P.213～P.229）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
15	第11回～第14回までの範囲に関する小テスト（基礎知識と小論文）。これまでの授業のまとめと質疑応答～日本文化史から日本文化論へ～	第11回～第14回までの学修ノートを提出して内容の確認・評価を受けること。復習として、これまでの授業内容を踏まえて、日本文化史について自ら研究したことを「研究レポート」にまとめて提出すること。（4時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UGH004
授業形態： 講義
科目名： 地理
担当教員： 溝渕　利博(MIZOBUCHI　Toshihiro)

【授業の紹介】
地理学（geography）は空間的な視点から地表上の諸事象についてその実態や要因を研究する学問で、geo（土地）をgraphia（記述する）という語源に発しています。世界遺産は地球の生成や人類の歴史によって生み出された貴重な財産で、地理学の絶好な教科書でもある。現在では地球環境保護への関心が高まり、自然や景観の価値が見直されています。この授業科目は、人類共通の至宝である世界遺産等の学習を通して、世界の自然や民族・文化等の多様性や世界平和・地球環境保護に関する認識を深めます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１．世界遺産等の学習を通して、世界の自然や民族・文化等の多様性を理解できる。
２．世界の国や地域に関する知識を広めるとともに、地理学的空間認識能力を高めることができる。
３．世界平和や持続可能な地球環境保護に関する意識を高め、地理学に関する幅広い知見を身に付けることができる。
４．地理学を中心に地質学、生態学、文化人類学、環境学、国際関係学等を総合的学際的に学ぶことができ、広い視野と幅広い知識を身に付けることができる。

【成績の評価】
授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な学習状況の度合い等（10%）に加え、毎授業後に提出のリフレクションペーパー（10%）、ユニットごとの小テスト（20%）及び学修ノート（20%）・レポート（40%）の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。遅刻5回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】
NPO法人世界遺産アカデミー監修『きほんを学ぶ世界遺産100―世界遺産検定3級公式テキスト―第4版』（NPO法人世界遺産アカデミー、2023年3月19日発行）。世界の気候や風土を確認するため、手持ちの地図帳を持参すること。

【参考文献】
奈良大学文学部世界遺産を考える会編『世界遺産学を学ぶ人のために』（世界思想社、2000年）愛川フォール紀子監修・古田陽久・古田真美著『世界遺産入門ーユネスコから世界を学ぶー』（シンクタンクせとうち総合研究機構、2007年）安江則子編『世界遺産学への招待』（法律文化社、2011年）古田陽久著『世界遺産ガイドーユネスコ遺産の基礎知識―2024改訂版』（シンクタンクせとうち総合研究機構、2022年）ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、地理学と世界遺産、地域別世界遺産地図（P.1～.10）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
2	地理BASICテスト。世界遺産とは、世界遺産条約、世界遺産登録、世界遺産委員会、世界遺産の概念（P.11～P.18）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べて学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
3	地理BASICテスト。ユネスコ、世界遺産と日本、世界遺産と観光、無形文化遺産/世界の記憶、グラフと数字でみる世界遺産、世界遺産登録基準（P.19～P.24）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べて学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
4	地理BASICテスト。日本の世界遺産、食物連鎖、定住の始まり、隆起を続ける山地、平和を希求、墓所、絹産業、固有の生態系（P.25～P.39）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べて学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
5	地理BASICテスト。近代建築、信仰の山、伝統的集落、古都と激動の歴史、時代を代表する都、文化交流、道の遺産（P.40～P.53）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べて学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
6	第1回～第5回までの範囲に関する小テスト（基礎知識と小論文）。古墳群、都市と城郭建築、銀鉱山関連の産業遺産、海に囲まれた遺産、第二次世界大戦の傷跡、産業革命（P.54～P.65）	第1回～第5回までの学修ノートを提出して内容の確認・評価を受けること。予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べて学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
7	地理BASICテスト。信仰の島、アジア諸国へのキリスト教の広がり、植物の垂直分布、固有種、交易都市、日本の暫定リスト（P.66～P.78）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べて学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
8	地理BASICテスト。人類の誕生と古代文明、巨石文明、地中海世界の形成（オリエント、エジプト、ギリシャ）、ローマ帝国（P.79～P.92）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べて学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
9	地理BASICテスト。アジア世界の形成と宗教、中華文明の形成、東南・中央アジア世界の形成、仏教、イスラム教、世界三大宗教（P.93～P.110）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べて学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
10	地理BASICテスト。ヨーロッパ中世とルネサンス、大航海時代、西ヨーロッパ世界の成立、産業と都市、レコンキスタと十字軍、宗教分裂、宗教改革、ルネサンス、海洋都市国家と大航海時代、東ヨーロッパ世界（P.111～P.124）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べて学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
11	第6回～第10回までの範囲に関する小テスト（基礎知識と小論文）。アメリカ、アフリカ、オセアニアの文明と東アジアの変動、アメリカ大陸の文明、東アジアの変動、アフリカの諸王朝、オセアニア（P.125～P.134）	第6回～第10回までの学修ノートを提出して内容の確認・評価を受けること。予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べて学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
12	地理BASICテスト。近代国家の成立と世界の近代化、絶対王政、啓蒙専制君主、周辺主権国家、ウィーン体制、産業革命、南北アメリカの独立、産業革命と新素材/建築様式のまとめ（P.135～P.146）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べて学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
13	地理BASICテスト。テーマでみる世界遺産、文化的景観、戦争・紛争、危機遺産、負の遺産、探究学習の手引き（P.147～P.164）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べて学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
14	地理BASICテスト。世界の自然遺産、地球の歴史、火山、評価とフィヨルド、滝、海洋と湖、生物多様性、絶滅危惧種（P.165～P.179）	予習として、シラバスで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べて学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として、毎回の授業内容や講義レジュメ等について「なぜ}（疑問）と思ったことや自ら調べて考えたことなどを学修ノート等にまとめておくこと。（2時間）	
15	世界遺産検定小テストに挑戦。これまでの授業のまとめと質疑応答 ～世界の自然や文化の多様性を学ぶことの意義～	第11回～第14回までの学修ノートを提出して内容の確認・評価を受けること。世界遺産を白地図に記入した「世界遺産地図」の完成品を提出すること。（2時間）復習として、これまでの授業内容を踏まえて、世界遺産の現状と今後の課題等について自ら研究したことを「研究レポート」にまとめて提出すること。（4時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UGS004
授業形態： 講義
科目名： くらしと経済
担当教員： 髙塚　順子(TAKATSUKA　Junko)

【授業の紹介】
私たちは日々、生活者として経済活動を行っています。そして、そのくらしの中で、社会・経済に関する様々なニュースに触れています。そこで、本講義では、くらしの中の身近なトピックスを概観するとともに、そのトピックスを「自分事」として捉えることで、自分と地域社会とのつながりを見出し、社会の一員であるとの自覚を促します。また、自らのライフプランを考えることで、計画性をもって生活すること、社会・経済に関する情報や知識を得ることの重要性について学びを深めます。受講生の皆さんには、受講の意思を固めたなら、その意思を最後まで貫く努力をすることを求めます。なお、この授業科目は、上級情報処理士、上級ビジネス実務士取得のための選択科目に該当します。
また、授業は原則対面で実施します。ただし、学修の定着度や感染症拡大状況等により授業計画や方法を途中で変更する場合があります。
Google　Classroomのクラスコードは「owdivae」です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１．日本における社会・経済の課題への関心を深め、自分の考えを述べることができる。
２．個人のくらしが日本国内だけでなくグローバルな経済とつながっていることが理解できる。
３．自らのライフプランを考えるとともに、そのプランを実現させるためには、社会人基礎力の育成が必要であることが理解できる。

【成績の評価】
評価項目は、授業態度（10%）、課題（50%）、前期末筆記試験（40%）とする。
受講生には、他の受講生に迷惑をかけることのないよう、良好な受講態度が求められる。普段の学生生活から、自分の行為に責任をもち、周囲の方々へ配慮し、思いやりをもって接することを心がけて欲しい。受講態度が不適切な場合は、それに応じた減点をするので留意すること。また、遅刻や欠席する（した）場合は、その事実が判明した段階で可及的速やかに大学に連絡を入れること。30分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻2回は欠席1回に相当とみなす。さらに、授業の内容について理解を深めるような積極的な発問、回答の内容については、随時、評価に加点する。授業の内容や学習上の問題について質問や相談がある場合は、オフィスアワーを掲示等で確認のうえ、適宜教員研究室へ質問に来ること。
なお、各評価項目や配点の詳細は、第１回のガイダンスで連絡する。前期末筆記試験終了後、模範解答を研究室外に掲示する。

【使用テキスト】
なし。プリントを随時配布する。

【参考文献】
川廷昌弘著『未来をつくる道具　わたしたちのSDGs』ナツメ社、2020年.
河口　真理子著『SDGsで「変わる経済」と「新たな暮らし」』生産性出版、2020年.
折笠和文他著『日本経済の基本問題　―事例で学ぶ教養経済―』実教出版株式会社、2001年.
大江英樹著『知らないと損する　経済おかねの超基本１年生』東洋経済新報社、2016年.
池上彰著『政治と経済のしくみがわかるおとな事典』講談社、2012年.

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	ガイダンス Google Classroomへの参加 （クラスコード　owdivae）	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。課題を丁寧に仕上げ、期日までに提出すること（４時間）。	
2	SDGs①　SDGsの概要	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。講義で学んだこと、疑問点や気づいたことを、必ずその日のうちにメモ等にまとめること（２時間）。新聞やインターネットなどのさまざまなメディアから、講義で学んだことに関連する内容について情報収集を行うこと（２時間）。	
3	SDGs②　2030アジェンダ	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。課題を丁寧に仕上げ、期日までに提出すること（４時間）。	
4	SDGs③　SDGsの達成状況	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。講義で学んだこと、疑問点や気づいたことを、必ずその日のうちにメモ等にまとめること（２時間）。新聞やインターネットなどのさまざまなメディアから、講義で学んだことに関連する内容について情報収集を行うこと（２時間）。	
5	SDGs④　消費者・生活者とSDGs（食品ロス）第	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。講義で学んだこと、疑問点や気づいたことを、必ずその日のうちにメモ等にまとめること（２時間）。新聞やインターネットなどのさまざまなメディアから、講義で学んだことに関連する内容について情報収集を行うこと（２時間）。	
6	SDGs⑤　消費者・生活者とSDGs（エシカル消費・海洋汚染）	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。課題を丁寧に仕上げ、期日までに提出すること（４時間）。	
7	SDGs⑥　企業とSDGs（ジェンダーを含む）	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。講義で学んだこと、疑問点や気づいたことを、必ずその日のうちにメモ等にまとめること（２時間）。新聞やインターネットなどのさまざまなメディアから、講義で学んだことに関連する内容について情報収集を行うこと（２時間）。	
8	ライフプランを考える	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。講義で学んだこと、疑問点や気づいたことを、必ずその日のうちにメモ等にまとめること（２時間）。新聞やインターネットなどのさまざまなメディアから、講義で学んだことに関連する内容について情報収集を行うこと（２時間）。	
9	国家財政①　令和6年度国家予算	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。講義で学んだこと、疑問点や気づいたことを、必ずその日のうちにメモ等にまとめること（２時間）。新聞やインターネットなどのさまざまなメディアから、講義で学んだことに関連する内容について情報収集を行うこと（２時間）。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
10	国家財政②　危機的な財政状況	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。講義で学んだこと、疑問点や気づいたことを、必ずその日のうちにメモ等にまとめること（２時間）。新聞やインターネットなどのさまざまなメディアから、講義で学んだことに関連する内容について情報収集を行うこと（２時間）。	
11	国家財政③　高松税務署による「租税教室」	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。課題を丁寧に仕上げ、期日までに提出すること（４時間）。	
12	社会保障①　社会保障の役割	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。講義で学んだこと、疑問点や気づいたことを、必ずその日のうちにメモ等にまとめること（２時間）。新聞やインターネットなどのさまざまなメディアから、講義で学んだことに関連する内容について情報収集を行うこと（２時間）。	
13	社会保障②　公的年金	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。講義で学んだこと、疑問点や気づいたことを、必ずその日のうちにメモ等にまとめること（２時間）。新聞やインターネットなどのさまざまなメディアから、講義で学んだことに関連する内容について情報収集を行うこと（２時間）。	
14	香川労働局による講話　―「働くこと」と労働法（仮題）―	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。課題を丁寧に仕上げ、期日までに提出すること（４時間）。	
15	これまでの講義についてのまとめ（学習した重要項目の確認）と質疑応答	配布プリントは、紛失しないよう各自で用意するA4リングファイルあるいはフラットファイルに綴じること。講義で学んだこと、疑問点や気づいたことを、必ずその日のうちにメモ等にまとめること（２時間）。新聞やインターネットなどのさまざまなメディアから、講義で学んだことに関連する内容について情報収集を行うこと（２時間）。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UGN001
授業形態： 講義
科目名： 人間と環境
担当教員： 西本　真(NISHIMOTO Makoto)

【授業の紹介】
　現在世界中が気候変動問題について対策を取っていく中、日本でも脱炭素社会の実現に向けて2050年に温室効果ガス排出０を目指す方針が打ち出されました。このことにより、環境に対する国民の関心は、年々高まっており、自然環境への配慮や保全等が強く求められています。

　この授業では、地球環境問題の現状とその発生要因やメカニズムを理解し、今後の各個人の生活の在り方を考え、実践できる力と人に伝える力を養成するものです。

　具体的には持続可能な開発目標「SDGs」を理解し、それぞれの専門分野の講師から自然環境や気候変動などと人間との関わり等について学び、自分の行動、特に環境への対策がどこに繋がりどう広がっていくかを考え、脱炭素社会を目指した対策を取りながら持続可能な社会に向けた行動ができる力を習得するとともに、学んだことを伝える力を身に付けます。

　また、質問等を随時受け付け授業中に回答します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
（１）人間と環境との関わり合いについて理解できる。
（２）持続可能な社会を実現するために、今、私たちが考えなければならないこと、しなければならないことについて、自分なりの見解を持ち、実践できる素養を身に付けるとともに人に伝える力を身につけることができる。
（３）授業は正しい解が教えられるものではなく、考える習慣や感性を身につけるものであることを理解し、実践することができる。

【成績の評価】
　成績の評価は，各講義のあとの確認テストとレポート（30分以内で記入）を提出してもらいます。
　問題の回答とレポート内容60%、人に伝える資料内容（プレゼンテーション）30%、授業への参加状況(出席ではなくディスカッションへの参加状況，意見発表，質問など)10%とします。また、レポート・試験答案等は，希望する者に，返却します。
　各授業に公社職員が同行し評価をします。

【使用テキスト】
無し

【参考文献】
・新しい環境学（環境問題の基礎知識をマスターする）　著者　鈴木孝弘

・IPCC第6次評価報告書統合報告書政策決定者向け要約他
https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar6/index.html

その他適宜各講師により紹介

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	授業のガイダンス 授業の目的・内容・進め方、レポート及びプレゼンテーション等について	無し	（公財）香川県環境保全公社　地球温暖化防止コミュニケーター 西本 真
2	SDGs（持続可能な開発目標）について 社会の様々課題（特に環境問題）とSDGsとの繋がりを理解し、持続可能な世界を築くために私たちがすべきことなどを学ぶ	予習：事前配布した資料の確認（１時間） 復習：学んだことを身近な人に伝えて感想を聞く（２時間）	SDGsコンサルタント 三村 寛
3	脱炭素社会に向けて国の動向等について 世界中で気候変動対策が実施される中、脱炭素社会に向けて日本が目指す方向性や具体策などを学ぶ	予習：事前配布した資料の確認（１時間） 復習：学んだことを身近な人に伝えて感想を聞く（２時間）	環境省中国四国環境事務所四国事務所 職員
4	地球温暖化による気候変動について（香川県の気候について） 地球温暖化の基礎知識や香川県での気候について現在どのように変化が起きているかなど、気象庁の具体的なデータや事例をもとに学ぶ	予習：事前配布した資料の確認（１時間） 復習：学んだことを身近な人に伝えて感想を聞く（２時間）	気象庁高松気象台 職員
5	地球温暖化と生活防災について 地球の温暖化の影響はすでに日本でも起きている。地震だけでなく集中豪雨や台風といった気候変動による影響に私たちが備えるべきことを学ぶ	予習：事前配布した資料の確認（１時間） 復習：学んだことを身近な人に伝えて感想を聞く（２時間）	地球温暖化防止活動推進員・防災士 古井　秀樹
6	再生可能エネルギーの今とこれから 今後の脱化石燃料に向けたエネルギー源の転換を念頭に国内の電源構成や再生可能エネルギーの普及等について学ぶ	予習：事前配布した資料の確認（１時間） 復習：学んだことを身近な人に伝えて感想を聞く（２時間）	経済産業省四国経済産業局エネルギー対策課 職員
7	プラスチックごみと食品ロスの問題と対策について 近年問題になっているプラスチックごみやまだ食べられるのに捨てられている食品ロスを中心に香川県でのごみ対策について学ぶ	予習：事前配布した資料の確認（１時間） 復習：学んだことを身近な人に伝えて感想を聞く（２時間）	香川県循環型社会推進課 職員
8	エシカル消費について 地域の活性化や雇用なども含む、人や社会・環境に配慮した消費行動「倫理的消費(エシカル消費)」について学び自分のことだけでなく、自分以外の人や社会、環境のことを考える	予習：事前配布した資料の確認（１時間） 復習：学んだことを身近な人に伝えて感想を聞く（２時間）	地球温暖化防止活動推進員・消費生活アドバイザー 片山 仁子
9	地域を元気にする農業の取組みについて 地球温暖化で起きている農作物への影響を知ること、また生産者から消費者へ直接供給する産直などで地域を元気にする取組などを学ぶ	予習：事前配布した資料の確認（１時間） 復習：学んだことを身近な人に伝えて感想を聞く（２時間）	香川県農業協同組合中央会 職員
10	自然環境と持続可能な地域社会について 県内で自然環境の保全に取り組む事例や自然保護に取組みながら持続可能な地域を目指す具体的な取り組みを学び地域活動を考える	予習：事前配布した資料の確認（１時間） 復習：学んだことを身近な人に伝えて感想を聞く（２時間）	森林インストラクター・農学博士 横山 昌太郎
11	省エネ住宅設備　身近でできる住まいの省エ	予習：事前配布した資料の確認（１時間）	地球温暖化防止活動

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	ネ 　脱炭素社会に向けて切り離せない私たちの住まい、省エネ住宅（ＺＥＨ）や住宅設備の省エネ化及び家庭でできる取組みを学ぶ	復習：学んだことを身近な人に伝えて感想を聞く（２時間）	推進員・㈱LIXIL 釘宮 貴志
12	家電の今昔について 　ここ10年あまりで急激に技術開発されている家電、昔の家電とのエネルギー消費の違いや正しい家電の使い方が省エネにつながることを学ぶ	予習：事前配布した資料の確認（１時間） 復習：学んだことを身近な人に伝えて感想を聞く（２時間）	地球温暖化防止活動推進員・省エネ普及指導員 滝口 隆男
13	香川県での環境活動について 　香川県地球温暖化防止活動推進センター及び地球温暖化防止活動推進員等が取り組んでいる活動の事例や普及啓発活動などを学ぶ	予習：事前配布した資料の確認（１時間） 復習：学んだことを身近な人に伝えて感想を聞く（２時間）	（公財）香川県環境保全公社　地球温暖化防止コミュニケーター 西本 真
14	個人ワークまたはグループワーク（ディスカッション等） 　第２～13回の講義テーマを1つ選択し個人もしくは各グループでプレゼンテーション（短時間で人に伝えられる）ができるように各テーマについて資料を作成する	予習：これまでの講義のふりかえり（４時間） 復習：伝えるための資料作成（10時間）	（公財）香川県環境保全公社　地球温暖化防止コミュニケーター 西本 真
15	学生によるプレゼンテーション及び人間と環境まとめ 　個人もしくは各グループ３分程度でプレゼンテーションを行い（人数により時間を変更します）全講座を通しての気づきや学びを振り返る	予習：伝えるための資料作成（10時間）	（公財）香川県環境保全公社　地球温暖化防止コミュニケーター 西本 真
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UGS001
授業形態： 演習
科目名： ボランティア
担当教員： 蓮井　孝夫(HASUI　Takao),山本　龍太郎(YAMAMOTO　Ryutaro)

【授業の紹介】
この授業では、ボランティアの歴史や現状を学び、ボランティアとは何かについて考えていきます。そしてボランティア活動実施に当たり、活動の意義や社会的な役割などの基礎的知識を「ワークショップ・グループワーク」などのアクティブラーニングを通じ、対話的・主体的・実践的な深い学びをします。学外でのボランティア活動実施の準備として、ゲストスピーカーの体験談や様々な活動への情報提供・体験を行います。あわせて各種活動スキルを学びます。学外ボランティア活動を自主的に体験（必須）することは、多くの異世代の人たちと出会い、「対話と実践」を通じ、未来を開く心豊かな社会人の第一歩となるでしょう。積極的な活動参加を期待しています。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１．ボランティア活動を通じて、視野を広げることができる。
２．様々な立場の人と接することで、コミュニケーション能力を向上させることができる。
３．ボランティア活動の実体験から、自らの新しい価値観が生み出され、身につけることができる。
４．社会の構成員としての自覚を認識し、社会的課題解決に取り組めることができる。
５．「自ら学び、自ら考え、自ら気づき、自ら表現し、自ら行動し、社会的課題を解決する資質や能力」を身に　　つけることができる。

【成績の評価】
学外ボランティア活動・受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行います）。

【使用テキスト】
使用テキストなし、随時授業資料・レジュメを配付（保存のこと）

【参考文献】
藤田久美編著「大学生のためのボランティア活動ハンドブック」（ふくろう出版）
岡本栄一・菅井直也・妻鹿ふみ子著「学生のためにボランティア論」（大阪ボランティア協会）
巡静一・早瀬昇著「基礎から学ぶボランティアの理論と実際」（中央出版）
ホールファミリーケア協会編「新傾聴ボランティアのすすめ」（三省堂）
堀公俊、加藤彰著「ワークショップデザイン（知をつむぐ対話の場づくり）」
「ワールドカフェをやろう」香取一昭大川恒その他

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
①国際支援活動30年（ラオス国の教育支援）。現地に小学校13校建設に携わる。
②自殺予防活動38年（相談員）。団体立ち上げと相談員として関わる。
③朗読奉仕活動40年（朗読ボランティア養成等）視覚障害者へのＣＤ「あじさい」制作（毎月）し全国発送。大島青松園自治会機関誌「青松」の朗読ＣＤ化。
④ボランティア団体中間支援活動21年。市民ボランティア団体の活動を支援。
～等、現場でのボランティア経験を活かし、具体的な活動事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	「オリエンテーション」（ボランティア活動ＤＶＤ視聴）	（予習）これまで体験したボランティア活動のふりかえろう。 （復習）レジュメを読み返そう。	授業ノートを持参しよう。 全てのレジュメを保存しよう。
2	「子ども食堂」活動紹介 （えびすハッピー子ども食堂）	（予習）県内の「子ども食堂」調べよう。 (復習）「フードバンク」の活動調べよう。	ボランティア活動として参加しよう。
3	「セカンド・ハンド」活動紹介 （事務局職員）	（予習）全国の「セカンドハンド」活動調べよう。 (復習）高松市内の「セカンドハンド」店舗を訪ねてみよう。	ボランティア活動として参加しよう。
4	「折紙」体験 （日本折紙協会香川県支部長）	（予習）図書館の本などで折紙について調べよう。 (復習）再度、折紙して見よう。	折紙は大学が準備します。 保育所・幼稚園実習に役立てよう。
5	「国際教育支援（ラオス）」活動紹介 （香川国際ボランティアセンター理事）	(予習）県内の国際支援団体を調べよう。 （復習）香川国際ボランティアセンターのＨ，Ｐをみよう。	ラオスの子どものためにノート、鉛筆、衣類など集めてみよう。
6	「自殺予防活動（電話相談）」活動紹介（香川いのちの電話元理事）	（予習）県内の自殺者数、自殺原因を調べよう。 （復習）レジュメを読み返そう。「傾聴・受容・共感」を意識して友人らと会話してみよう。	
7	「朗読ボランティア」活動体験 (高松朗読会顧問）	（予習）すきな本を声を出して読んでみよう。 （復習）授業で体験した朗読を、再度挑戦してみよう。	保育所・幼稚園実習に役立てよう。
8	「紙芝居」活動体験 （高松朗読会顧問）	（予習）図書館の紙芝居を、声を出して表現してみよう。 （復習）授業で体験した紙芝居を、再度挑戦してみよう。	保育所・幼稚園実習に役立てよう。また友人らと高齢者・障害者施設を訪問してみよう。
9	「ＳＤＧｓゲーム」活動体験	(予習）ＳＤＧｓについて調べてみよう。 (復習）ＳＤＧｓ１７項目で取り組める活動を調べてみよう	
10	「こどもミュジカル」活動紹介 （ほくときみ・こどもミュージカル）	（予習）こどもの体験格差について調べてみよう。 （復習）こどもの体験格差について、自分が出来る事を考えよう。	保育所・幼稚園実習に役立てよう。
11	「ひろしまの原爆体験」取材活動紹介 （西日本放送取材者）	（予習）原爆・戦争被害の写真を見てみよう。 祖父母に体験を聞いてみよう。 (復習）あなたが戦争・平和について何ができるか考えてみよう。	
12	「（元中学校教員・美術）手記高松空襲」絵本原画作成過程	（予習）高松空襲について調べてみよう。 (復習）高松空襲体験記を読んでみよう。 高松平和資料館を訪ねてみよう。	
13	「ボランティア活動の理論」学習①	（予習）何のためにボランティア活動をする必要があるのか考えてみよう。 (復習）レジュメを読み返そう。自分が、今、取り組めるボランティア活動を探そう。	
14	「ボランティア活動の理論」学習②	（予習）何のためにボランティア活動をする必要があるのか考えてみよう。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（復習）レジュメを読み返そう。自分が、今、取り組めるボランティア活動を探そう。	
15	「ボランティア活動授業反省会＆グループワーク」	（予習）自分が、今取り組めるボランティア活動を探そう。 （復習）レジュメを読み返そう。ボランティア活動実践に向けて動きはじめよう。	「ボランティア活動体験報告」は、授業１５回目までは教師に提出。以後は、教務課に提出。締め切りは８月２５日正午。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UBL001
授業形態： 演習
科目名： 日本語表現基礎Ⅰ【発】
担当教員： 澤田　文男(SAWADA　Fumio)

【授業の紹介】
　○日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に付けるために、日本語の文章や情報を正確に吸収し、社会人として読み書きできる力を養います。
　○ディスカッションを多く取り入れ、聞く力や話す力を養い、発言力を養います。
　○各種の教育現場の職務に必要な日本語の基礎を内容としています。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
　○学生が、日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に付けることができる。
　○学生が、文章や情報を正確に読み解き、対話する力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができる。
　○学生が、今後の様々な社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けることができる。

【成績の評価】
　①授業に対する取組み姿勢を評価します。
　②課題の達成度を評価します。
　③上記①と②の合計（３０％）と定期試験の結果（７０％）を合わせて総合的に評価します。

　※フィードバック
　　定期試験の結果については、試験終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】
　○自作資料集

【参考文献】
　○保育所保育指針（平成２９年３月厚生労働省告示）
　○幼稚園教育要領（平成２９年３文部科学省告示）
　○小学校学習指導要領（平成２９年３月文部科学省告示）
　○関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

【実務経験】
　有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は実務経験のある教員による授業科目です。学校教育現場での授業の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
　無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	○授業内容オリエンテーション ○教育用語・漢字練習① 保育指針1～4 ○日本語の性格について ○課題発表・評価①具体性	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
2	○教育用語・漢字練習② 保育指針5～8 ○日本語の表記と文字の特徴 ○課題発表・評価②具体的表現	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
3	○教育用語・漢字練習③ 保育指針9～12 ○日本語の文字と表記の特徴 ○課題発表・評価③人と物	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
4	○教育用語・漢字練習④ 保育指針13～16 ○仮名及び仮名遣いの歴史 ○課題発表・評価④視点	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
5	○教育用語・漢字練習⑤ 保育指針17～20 ○現代仮名遣いの要点 ○課題発表・評価⑤五感の表現	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
6	○教育用語・漢字練習⑥ 保育指針21～24 ○日本語の音韻 ○課題発表・評価⑥個性	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
7	○教育用語・漢字練習⑦ 保育指針25～28 ○単語の種類 ○課題発表・評価⑦細部にこだわる	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
8	○教育用語・漢字練習⑧ 保育指針29～32 ○日本語文法概要 ○課題発表・評価⑧比喩表現	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
9	○教育用語・漢字練習⑨ 保育指針33～36 ○日本語文法トレーニング ○課題発表・評価⑨擬音語	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
10	○教育用語・漢字練習⑩ 保育指針37～40 ○敬語表現①尊敬語 ○課題発表・評価⑩書き出し	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
11	○教育用語・漢字練習⑪ 保育指針50～52 ○敬語表現②尊敬語トレーニング ○課題発表・評価⑪繊細な感覚	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
12	○教育用語・漢字練習⑫ 保育指針53～56 ○敬語表現③謙譲語 ○課題発表・評価⑫分かり易い表現	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
13	○教育用語・漢字練習⑬ 保育指針57～61 ○敬語表現④謙譲語トレーニング ○課題発表・評価⑬短文の引用	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
14	○教育用語・漢字練習⑭	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	幼教要領16～20 ◯敬語表現語⑤丁寧語 ◯課題発表・評価⑭俳句のルール	◯事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
15	◯教育用語・漢字練習⑮ 保育指針・幼教要領まとめ ◯敬語表現⑥敬語3種類トレーニング ◯課題発表・評価⑮時間軸 ◯定期試験予告	◯保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ◯事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：
授業形態：　演習
科目名：　日本語表現法Ⅰ【発】
担当教員：　澤田　文男(SAWADA　Fumio)

【授業の紹介】
　○日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に付けるために、日本語の文章や情報を正確に吸収し、社会人として読み書きできる力を養います。
　○ディスカッションを多く取り入れ、聞く力や話す力を養い、発言力を養います。
　○各種の教育現場の職務に必要な日本語の基礎を内容としています。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
　○学生が、日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に付けることができる。
　○学生が、文章や情報を正確に読み解き、対話する力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができる。
　○学生が、今後の様々な社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けることができる。

【成績の評価】
　①授業に対する取組み姿勢を評価します。
　②課題の達成度を評価します。
　③上記①と②の合計（３０％）と定期試験の結果（７０％）を合わせて総合的に評価します。

　※フィードバック
　　定期試験の結果については、試験終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】
　○自作資料集

【参考文献】
　○保育所保育指針（平成２９年３月厚生労働省告示）
　○幼稚園教育要領（平成２９年３文部科学省告示）
　○小学校学習指導要領（平成２９年３月文部科学省告示）
　○関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

【実務経験】
　有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は実務経験のある教員による授業科目です。学校教育現場での授業の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
　有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	○授業内容オリエンテーション ○教育用語・漢字練習① 保育指針1～4 ○日本語の性格について ○課題発表・評価①具体性	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
2	○教育用語・漢字練習② 保育指針5～8 ○日本語の表記と文字の特徴 ○課題発表・評価②具体的表現	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
3	○教育用語・漢字練習③ 保育指針9～12 ○日本語の文字と表記の特徴 ○課題発表・評価③人と物	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
4	○教育用語・漢字練習④ 保育指針13～16 ○仮名及び仮名遣いの歴史 ○課題発表・評価④視点	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
5	○教育用語・漢字練習⑤ 保育指針17～20 ○現代仮名遣いの要点 ○課題発表・評価⑤五感の表現	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
6	○教育用語・漢字練習⑥ 保育指針21～24 ○日本語の音韻 ○課題発表・評価⑥個性	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
7	○教育用語・漢字練習⑦ 保育指針25～28 ○単語の種類 ○課題発表・評価⑦細部にこだわる	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
8	○教育用語・漢字練習⑧ 保育指針29～32 ○日本語文法概要 ○課題発表・評価⑧比喩表現	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
9	○教育用語・漢字練習⑨ 保育指針33～36 ○日本語文法トレーニング ○課題発表・評価⑨擬音語	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
10	○教育用語・漢字練習⑩ 保育指針37～40 ○敬語表現①尊敬語 ○課題発表・評価⑩書き出し	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
11	○教育用語・漢字練習⑪ 保育指針50～52 ○敬語表現②尊敬語トレーニング ○課題発表・評価⑪繊細な感覚	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
12	○教育用語・漢字練習⑫	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	保育指針53～56 ○敬語表現③謙譲語 ○課題発表・評価⑫分かり易い表現	○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
13	○教育用語・漢字練習⑬ 保育指針57～61 ○敬語表現④謙譲語トレーニング ○課題発表・評価⑬短文の引用	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
14	○教育用語・漢字練習⑭ 幼教要領16～20 ○敬語表現語⑤丁寧語 ○課題発表・評価⑭俳句のルール	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
15	○教育用語・漢字練習⑮ 保育指針・幼教要領まとめ ○敬語表現⑥敬語3種類トレーニング ○課題発表・評価⑮時間軸 ○定期試験予告	○保育指針該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UBL002
授業形態： 演習
科目名： 日本語表現基礎II【発】
担当教員： 澤田　文男(SAWADA　Fumio)

【授業の紹介】
　○日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に付けるために、日本語の文章や情報を正確に吸収し、社会人として読み書きできる力を養います。
　○ディスカッションを多く取り入れ、聞く力や話す力を養い、発言力を養います。
　○各種の教育現場の職務に必要な日本語の基礎を内容としています。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
　○学生が、日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に付けることができる。
　○学生が、文章や情報を正確に読み解き、対話する力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができる。
　○学生が、今後の様々な社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けることができる。

【成績の評価】
　①授業に対する取組み姿勢を評価します。
　②課題の達成度を評価します。
　③上記①と②の合計（３０％）と定期試験の結果（７０％）を合わせて総合的に評価します。

　※フィードバック
　　定期試験の結果については、試験終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】
　○自作資料集

【参考文献】
　○「言葉の選び方大全」青春出版社　日本語研究会　2017年1月21日
　○「分かりやすい公用文の書き方」　株式会社ぎょうせい　礒崎陽輔　2020年10月15日
　○関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

【実務経験】
　有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は実務経験のある教員による授業科目です。学校教育現場での授業の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
　有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	○授業内容オリエンテーション ○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領1-3 ○人権を傷つける恐れのある語句 ○課題発表・評価①	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
2	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領3-6 ○アカデミックワードの基礎 ○課題発表・評価②	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
3	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領6-12 ○公用文の書き表し方の基準 ・熟字訓 ○課題発表・評価③	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
4	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領13-20 ○文脈による意味と読み方 ○課題発表・評価④	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
5	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領21-25 ○間違えやすい語句 ○課題発表・評価⑤	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
6	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領25-30 ○間違えやすい重言 ○課題発表・評価⑥	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
7	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領32-39 ○間違えやすい慣用句 ○課題発表・評価⑦	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
8	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領39-52 ○間違えやすい類似語 ○課題発表・評価⑧	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
9	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領52-65 ○間違えやすい外来語 ○課題発表・評価⑨	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
10	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領65-75 ○間違えやすい外来語表記 ○課題発表・評価⑩	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
11	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領75-89 ○助数詞の使い方 ○課題発表・評価⑪	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
12	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領89-97 ○語彙の増やし方 ○課題発表・評価⑫	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
13	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領97-100	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	○形容詞の多義性 ○課題発表・評価⑬	○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
14	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領101-111 ○簡潔な表現 ○課題発表・評価⑭	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
15	○教育用語・漢字練習 ・教育基本法第1章 ○日本語と漢字・漢文・故事成語 ○課題発表・評価⑮ ○テスト予告	○教育基本法第1章の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：
授業形態：　演習
科目名：　日本語表現法Ⅱ【発】
担当教員：　澤田　文男(SAWADA　Fumio)

【授業の紹介】
　○日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に付けるために、日本語の文章や情報を正確に吸収し、社会人として読み書きできる力を養います。
　○ディスカッションを多く取り入れ、聞く力や話す力を養い、発言力を養います。
　○各種の教育現場の職務に必要な日本語の基礎を内容としています。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
　○学生が、日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に付けることができる。
　○学生が、文章や情報を正確に読み解き、対話する力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができる。
　○学生が、今後の様々な社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けることができる。

【成績の評価】
　①授業に対する取組み姿勢を評価します。
　②課題の達成度を評価します。
　③上記①と②の合計（３０％）と定期試験の結果（７０％）を合わせて総合的に評価します。

　※フィードバック
　　定期試験の結果については、試験終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】
　○自作資料集

【参考文献】
　○保育所保育指針（平成２９年３月厚生労働省告示）
　○幼稚園教育要領（平成２９年３文部科学省告示）
　○小学校学習指導要領（平成２９年３月文部科学省告示）
　○関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

【実務経験】
　有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は実務経験のある教員による授業科目です。学校教育現場での授業の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
　有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	○授業内容オリエンテーション ○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領1-3 ○人権を傷つける恐れのある語句 ○課題発表・評価①5W1Hの表現	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
2	恐れのある語句 ○課題発表・評価①5W1Hの表現 ○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領3-6 ○アカデミックワードの基礎 ○課題発表・評価②故事成語の利用	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
3	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領6-12 ○公用文の書き表し方の基準 ・熟字訓 ○課題発表・評価③倒置法の表現	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
4	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領13-20 ○文脈による意味と読み方 ○課題発表・評価④三段構成の表現	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
5	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領21-25 ○間違えやすい語句 ○課題発表・評価⑤直喩法の表現	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
6	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領25-30 ○間違えやすい重言 ○課題発表・評価⑥誇張法の表現	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
7	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領32-39 ○間違えやすい慣用句 ○課題発表・評価⑦パロディ表現	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
8	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領39-52 ○間違えやすい類似語 ○課題発表・評価⑧個性的な表現	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
9	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領52-65 ○間違えやすい外来語 ○課題発表・評価⑨非形容詞の表現	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
10	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領65-75 ○間違えやすい外来語表記 ○課題発表・評価⑩イメージの表現	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
11	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領75-89 ○助数詞の使い方	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	○課題発表・評価⑪対句法の表現	(40分)	
12	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領89-97 ○語彙の増やし方 ○課題発表・評価⑫非接続詞の表現	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
13	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領97-100 ○形容詞の多義性 ○課題発表・評価⑬両立する表現	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
14	○教育用語・漢字練習 ・小学校学習指導要領101-111 ○簡潔な表現 ○課題発表・評価⑭隠喩法の表現	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
15	○教育用語・漢字練習 ・教育基本法第1章 ○日本語と漢字・漢文・故事成語 ○課題発表・評価⑮擬人法の表現 ○テスト予告	○小学校学習指導要領該当頁の用語・漢字練習(20分) ○事前配布の各回該当課題プリントの完成(40分)	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UBM001
授業形態： 講義
科目名： 数学基礎
担当教員： 土井　理裕(DOI Masahiro)

【授業の紹介】
この授業は、身近な生活の中にある課題や古典的話題に対して、数学のさまざまな考え方を用いて、根拠を基に筋道立てて考え、その解決方法を見つけるために、あなたが考え、あなたが解決する時間です。じっくりと考えること、多面的に考えることの面白さを体験し、数学的思考を高めていきましょう。
この授業ではGoogle Classroom(クラスコード：wuneiso)を使用し、ICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１．与えられた課題を理解し、解決方法を見つけることができる。
２．各自の考えた解決策を相互に検討し、解答を導くことができる。
３．自分のアイデアや解法をみんなに分かるように説明（証明）することができる。

【成績の評価】
受講態度（10%）　課題レポート（80%）　最終課題レポート（10%）
・毎回の授業の最後に、課題レポートを提出する（解説等を添付して返却します）。
・最終課題（①数学を学ぶ意義　②身近な生活の中にある数学　についてのレポート）を作成し、第15回の最終授業時に提出する。

【使用テキスト】
毎回、授業プリントを配布します。

【参考文献】
・「数学」はこんなところで役に立つ（白取春彦，青春出版社，2005）
・大人のための数学勉強法－どんな問題も解ける10のアプローチ（永野裕之，ダイヤモンド社，2012）
・算数から数学まで　まるごと８時間でわかる本（何森仁，小沢健一，明日香出版社，2014）
・本当はすごい小学算数（小田敏弘，日本実業出版社，20１5）
・算数少女ミカ　割合なんて，こわくない！（石原清貴，日本評論社，2018）
・改訂版 中学校3年間の数学が1冊でしっかりわかる本（小杉 拓也，かんき出版，2021）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校・特別支援学校での学校現場指導を活かし、具体的な数学に関する事例を示しながら授業していきます。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	ガイダンス、はじめの問題	はじめの問題（Google Classroomに提示）を解き、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
2	数と式	授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
3	数の性質（１）：倍数と約数	授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
4	数の性質（２）：小数と分数、ｎ進数	授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
5	方程式と不等式の解法	授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
6	方程式と不等式の応用	授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
7	割合	授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
8	生活の中の数学（１）：お金に関する話題	授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
9	生活の中の数学（２）：濃度に関する話題	授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
10	生活の中の数学（３）：変化に関する話題	授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
11	生活の中の数学（４）：量に関する話題	授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
12	数の規則性	授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
13	場合の数と確率	授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
14	図形の性質（１）：角度に関する話題	授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	進めるための予習が重要です。
15	図形の性質（２）：面積等に関する話題	次回の授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業プリントの復習を行う。また、返却された課題レポートの復習も行う。（２時間）	積み重ねのための復習と主体的に学習を進めるための予習が重要です。
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UBN001
授業形態： 講義
科目名： 自然科学基礎
担当教員： 糸目　真也(ITOME　Shinya)

【授業の紹介】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校・特別支援学校での学校現場での指導を活かし、具体的な科学に関する事例を取り上げながら授業を行います。地球、気象、宇宙を主な対象とするほかに、身近な生活の中にある科学や最先端の科学技術、最近深刻な環境問題にも触れていきます。
自然の事物・現象に主体的に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、自然の事物・現象を科学的に探究しようとする態度や資質・能力を育むことを目指します。

＜卒業認定・学位授与の方針における関連項目＞
１．豊かな人間性や主体的に生きる力
２．課題に気づいて解決する方法や社会に貢献できる力
＜学修成果における関連項目＞
①豊かな人間性や主体的に生きる力
②課題に気づいて解決する方法や社会に貢献できる力

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１　授業内容を理解し、自然の事物・現象に関する基礎的な知識を身に付けることができる。
２　授業で与えられた課題を理解し、その探究方法を見つけることができる。
３　授業を通して、日常生活においても、自然の事物・現象に主体的に興味を持って関わることができるようになる。

【成績の評価】
受講態度や課題レポートの提出状況及び期末試験の結果により、総合的に評価します。
概ね、受講態度（15%）、課題レポート（25%）、試験（60%）とします。
・授業で配布・使用して、授業中に記入したプリントを毎回の授業の終わりに提出する。
　（プリントは次の授業で返却します）
・授業で配布・使用したプリントの中から問題を作成して、試験を実施します。

【使用テキスト】
特にありません。授業中のスライド資料がテキストとなります。

【参考文献】
授業で、適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員が高等学校で地学の授業をした経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	地球を知る①：地球の内部構造とプレートの運動	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
2	地球を知る②：プレートの運動と地震	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
3	地球を知る③：プレートの運動と火山活動	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
4	地球の歴史を知る①：地球誕生～先カンブリア時代	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
5	地球の歴史を知る②：古生代の古生物と地球環境	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
6	地球の歴史を知る③：中生代～新生代の古生物と地球環境	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
7	地球の大気を知る①：大気の構造、太陽放射と地球放射	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
8	地球の大気を知る②：大気の大循環	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
9	地球の大気を知る③：日本の天気	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
10	宇宙を知る①：太陽系内の天体	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること	担当：糸目真也

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（２時間）	
11	宇宙を知る②：恒星と銀河	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
12	宇宙を知る③：巨大望遠鏡による観測	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
13	身近な科学：光と虹	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
14	現代社会の最先端科学：ＩＰＳ細胞、人工知能	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
15	現代社会の課題：環境問題	復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（４時間）	担当：糸目真也
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UBS002
授業形態： 講義
科目名： 社会科学基礎
担当教員： 平畑　博人(HIRAHATA　Hiroto)

【授業の紹介】
　情報化や技術革新により急速に社会が変化し先を見通すことが困難といわれている現代、日本や世界は様々な問題に直面しています。これからの社会を担う皆さんが避けては通れない問題です。
　この授業では、取り上げたいくつかの問題について基本的な解説を加え、一緒に考え勉強していきます。「そうだったのか！」、「それっておかしいぞ！」など、リアクションを期待しています。
　時事問題が中心となるので、就職試験や採用試験の対策を考えるのに一役買うことができればこの上ない喜びです。
　なお、受講者の希望により取り上げる問題を変更する場合があるとともに、外部の専門家を招へいしての授業も予定しています。
　また、アクティブ・ラーニング（ディスカッション、プレゼンテーション、３分間スピーチ）を通して自分の意見を表明し他人の考え方を知ることにより、社会の多様性に気づくきっかけになることを想定しています。
　この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：j27zepj）を使用し、ICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１．現代社会が直面する様々な問題への視野を広げることができる。
２．情報を収集、検討、議論することで、解決への道筋を見つけ自分が取るべき行動を見極めることができる。

【成績の評価】
授業への取り組み（30%）、提出物（35%）、プレゼンテーション（35%）
３分間スピーチやプレゼンテーションはその都度コメントする。提出物は後日返却する。プレゼンテーションの評価はオフィスアワーでコメントする。

【使用テキスト】
特になし。
授業プリントや資料を配付する。

【参考文献】
その都度指示する。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	ガイダンス並びにファクトとフェイク	予習として、予定されている授業内容を確認し、図書館で関係する本や雑誌を読んだりインターネット等で調べるなどして、ノート等にまとめておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
2	成人年齢の引き下げ	予習として、予定されている授業内容を確認し、図書館で関係する本や雑誌を読んだりインターネット等で調べるなどして、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
3	選挙と地方自治	予習として、予定されている授業内容を確認し、図書館で関係する本や雑誌を読んだりインターネット等で調べるなどして、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
4	コミュニケーション	予習として、予定されている授業内容を確認し、図書館で関係する本や雑誌を読んだりインターネット等で調べるなどして、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
5	児童虐待といじめ	予習として、予定されている授業内容を確認し、図書館で関係する本や雑誌を読んだりインターネット等で調べるなどして、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
6	ハラスメント	予習として、予定されている授業内容を確認し、図書館で関係する本や雑誌を読んだりインターネット等で調べるなどして、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
7	働き方改革	予習として、予定されている授業内容を確認し、図書館で関係する本や雑誌を読んだりインターネット等で調べるなどして、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
8	インターネットと携帯電話	予習として、予定されている授業内容を確認し、図書館で関係する本や雑誌を読んだり	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		インターネット等で調べるなどして、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
9	景気と物価変動	予習として、予定されている授業内容を確認し、図書館で関係する本や雑誌を読んだりインターネット等で調べるなどして、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
10	南海トラフ地震と防災	予習として、予定されている授業内容を確認し、図書館で関係する本や雑誌を読んだりインターネット等で調べるなどして、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
11	世界の分断と国際協調	予習として、予定されている授業内容を確認し、図書館で関係する本や雑誌を読んだりインターネット等で調べるなどして、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
12	ＳＤＧｓ	予習として、予定されている授業内容を確認し、図書館で関係する本や雑誌を読んだりインターネット等で調べるなどして、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
13	日本や世界が直面する様々な問題に対してあなたが言いたい事①	予習として、発表する問題について研究し、プレゼンテーションができるようにパワーポイントを作成し、発表原稿を整理すること。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
14	日本や世界が直面する様々な問題に対してあなたが言いたい事②	予習として、発表する問題について研究し、プレゼンテーションができるようにパワーポイントを作成し、発表原稿を整理すること。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
15	これからの日本や世界のためにあなたが取る	予習として、これまでの授業内容を振返	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	行動	り、自分の考え等をノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 　復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UBE101
授業形態： 演習
科目名： 英語基礎Ⅰ
担当教員： 竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro)

【授業の紹介】
　この授業では、日常生活でよく使われる語句や表現を学ぶことができます。言語活動を多く取り入れるので、受講生は自分自身、家族、友だち、学校、好きなことと嫌いなことなどについて英語で伝えるチャンスがあり、英語の技能を確実に高めることができます。各ユニットには、発音のポイントも配されており、満足な発音を身につけることができます。
　受講生には、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が必須です。Google Classroom Code: Id5vonh

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１．英語で会話をするための基礎的な語句や表現を身につけることができる。
２．会話文を音読することで英語に慣れ、覚えた表現を用いてコミュニケーションを図ることができる。
３．自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【成績の評価】
　「授業への関心・意欲・態度」１０％、「提出物等授業時間外に課す課題」１５％、「小テスト」２０％、「音読テスト」１５％、「定期試験」４０％の５項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。
　なお、３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻３回で欠席１回とみなします。

【使用テキスト】
New Getting Into English 始めよう英会話！＜改訂新版＞ （Joseph Cronin, Eric Bray著、南雲堂、2023）

【参考文献】
なし

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高校現場での英語指導の経験を活かして授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
2	Unit 1 Hi, I’m Rina. (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
3	Unit 1 Hi, I’m Rina. (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
4	Unit 2 How do you spell that? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
5	Unit 2 How do you spell that? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
6	Unit 3 What's the time? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
7	Unit 3 What's the time? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
8	Unit 4 Where are you from? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
9	Unit 4 Where are you from? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
10	Unit 5 What's your favorite food? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	Unit 5 What's your favorite food? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
12	Unit 6 How often do you get your hair cut? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
13	Unit 6 How often do you get your hair cut? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
14	Unit 7 What kinds of music do you like? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
15	Unit 7 What kinds of music do you like? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：
授業形態： 演習
科目名： プラクティカル・イングリッシュⅠ
担当教員： 竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro)

【授業の紹介】
　この授業では、日常生活でよく使われる語句や表現を学ぶことができます。言語活動を多く取り入れるので、受講生は自分自身、家族、友だち、学校、好きなことと嫌いなことなどについて英語で伝えるチャンスがあり、英語の技能を確実に高めることができます。各ユニットには、発音のポイントも配されており、満足な発音を身につけることができます。
　受講生には、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が必須です。Google Classroom Code: Id5vonh

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１．英語で会話をするための基礎的な語句や表現を身につけることができる。
２．会話文を音読することで英語に慣れ、覚えた表現を用いてコミュニケーションを図ることができる。
３．自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【成績の評価】
　「授業への関心・意欲・態度」１０％、「提出物等授業時間外に課す課題」１５％、「小テスト」２０％、「音読テスト」１５％、「定期試験」４０％の５項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。
　なお、３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻３回で欠席１回とみなします。

【使用テキスト】
New Getting Into English 始めよう英会話！＜改訂新版＞ （Joseph Cronin, Eric Bray著、南雲堂、2023）

【参考文献】
なし

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高校現場での英語指導の経験を活かして授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
2	Unit 1 Hi, I'm Rina. (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
3	Unit 1 Hi, I'm Rina. (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
4	Unit 2 How do you spell that? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
5	Unit 2 How do you spell that? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
6	Unit 3 What's the time? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
7	Unit 3 What's the time? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
8	Unit 4 Where are you from? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
9	Unit 4 Where are you from? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
10	Unit 5 What's your favorite food? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
11	Unit 5 What's your favorite food? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
12	Unit 6 How often do you get your hair cut? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
13	Unit 6 How often do you get your hair cut? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
14	Unit 7 What kinds of music do you like? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
15	Unit 7 What kinds of music do you like? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UBE102
授業形態： 演習
科目名： 英語基礎II
担当教員： 竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro)

【授業の紹介】
　この授業では、日常生活でよく使われる語句や表現を学ぶことができます。言語活動を多く取り入れるので、受講生は自分自身、家族、友だち、学校、好きなことと嫌いなことなどについて英語で伝えるチャンスがあり、英語の技能を確実に高めることができます。各ユニットには、発音のポイントも配されており、満足な発音を身につけることができます。
　受講生には、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が必須です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１．英語で会話をするための基礎的な語句や表現を身につけることができる。
２．会話文を音読することで英語に慣れ、覚えた表現を用いてコミュニケーションを図ることができる。
３．自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【成績の評価】
　「授業への関心・意欲・態度」１０％、「提出物等授業時間外に課す課題」１５％、「小テスト」２０％、「音読テスト」１５％、「定期試験」４０％の４項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。
　なお、３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻３回で欠席１回とみなします。

【使用テキスト】
New Getting Into English 始めよう英会話！＜改訂新版＞ （Joseph Cronin, Eric Bray著、南雲堂、2023）

【参考文献】
なし

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高校現場での英語指導の経験を活かして授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
2	Unit 8 Who's older, you or your sister? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
3	Unit 8 Who's older, you or your sister? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
4	Unit 9 How was your weekend? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
5	Unit 9 How was your weekend? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
6	Unit 10 Have you ever been abroad? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
7	Unit 10 Have you ever been abroad? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
8	Unit 11 What kinds of movies do you like? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
9	Unit 11 What kinds of movies do you like? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
10	Unit 12 What's the weather going to be like? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
11	Unit 12 What's the weather going to be like? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
12	Unit 13 What's your favorite coffee shop? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
13	Unit 13 What's your favorite coffee shop? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
14	Unit 14 Do you have a part-time job? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
15	Unit 14 Do you have a part-time job? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：
授業形態： 演習
科目名： プラクティカル・イングリッシュII
担当教員： 竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro)

【授業の紹介】
　この授業では、日常生活でよく使われる語句や表現を学ぶことができます。言語活動を多く取り入れるので、受講生は自分自身、家族、友だち、学校、好きなことと嫌いなことなどについて英語で伝えるチャンスがあり、英語の技能を確実に高めることができます。各ユニットには、発音のポイントも配されており、満足な発音を身につけることができます。
　受講生には、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が必須です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１．英語で会話をするための基礎的な語句や表現を身につけることができる。
２．会話文を音読することで英語に慣れ、覚えた表現を用いてコミュニケーションを図ることができる。
３．自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【成績の評価】
　「授業への関心・意欲・態度」１０％、「提出物等授業時間外に課す課題」１５％、「小テスト」２０％、「音読テスト」１５％、「定期試験」４０％の４項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。
　なお、３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻３回で欠席１回とみなします。

【使用テキスト】
New Getting Into English 始めよう英会話！＜改訂新版＞ （Joseph Cronin, Eric Bray著、南雲堂、2023）

【参考文献】
なし

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高校現場での英語指導の経験を活かして授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
2	Unit 8 Who's older, you or your sister? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
3	Unit 8 Who's older, you or your sister? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
4	Unit 9 How was your weekend? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
5	Unit 9 How was your weekend? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
6	Unit 10 have you ever been abroad? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
7	Unit 10 have you ever been abroad? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
8	Unit 11 What kinds of movies do you like? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
9	Unit 11 What kinds of movies do you like? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
10	Unit 12 What's the weather going to be like? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
11	Unit 12 What's the weather going to be like? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
12	Unit 13 What's your favorite coffee shop? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
13	Unit 13 What's your favorite coffee shop? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
14	Unit 14 Do you have a part-time job? (1)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
15	Unit 14 Do you have a part-time job? (2)	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UD0101
授業形態： 講義
科目名： 数理データサイエンスと未来【発】
担当教員： 佃　昌道(TSUKUDA　Masamichi),土井　理裕(DOI Masahiro)

【授業の紹介】
Society 5.0社会が到来し、大学での教育も大きく変化しようとしている。様々な課題解決の場におてもビッグデータやAIが活用される社会となっている。この様な状況において数理・データサイエンス・Aの知識や技術は、大変重要なテーマである。本講義では、入学当初に、・ 社会で起きている変化、・ データ・AI利活用の最新動向、・ 社会で活用されているデータ、・データ・AI利活用のための技術、・AI利活用の現場・AIの活用領域を中心に、STEAM教育の観点も含めSociety 5.0を実現するための学習として授業を行う。なお授業にあたっては学習管理システム（LMS）などを活用して授業を行う。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
Society 5.0を実現する社会を理解することができる。
Society 5.0社会においても豊かな人間性を発揮できる。
・Society 5.0社会で起きている事柄の理解
・データ・AI利活用の最新動向
・社会で活用されているデータ
・データ・AIの活用領域
・データ・AI利活用のための技術
・データ・AI利活用の現場
以上の理解が図れる。

【成績の評価】
提出物50%、小テスト50%により評価を行う。
提出物は、評価して返却する。小テストは、模範解答を小テストの次の授業で解説することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
世界を変えるSTEAM人材　シリコンバレー「デザイン思考」の核心 (朝日新書)ヤング吉原麻里子著朝日新聞出版 2019
東京大学のデータサイエンティスト育成講座　Pythonで手を動かして学ぶデ―タ分析　塚本邦尊，山田典一，大澤文孝　(著)，中山浩太郎 (監修)，松尾 豊[協力] マイナビ出版　2019

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	What’s 数理・データサイエンス・ＡＩ（体験で学ぶSociety5.0）	授業で提出された課題を解く（4時間）	
2	What’s 数理・データサイエンス・ＡＩ（数学、Computer Science、Data Scienceの領域）	授業で提出された課題を解く（4時間）	
3	数理・データサイエンス・ＡＩ（第4次産業革、データ駆動型社会、身近なIoTを体験）	授業で提出された課題を解く（4時間）	
4	身近な生活の中にあるデータを利活用する事を学ぶ	授業で提出された課題を解く（4時間）	
5	数理・データサイエンス・ＡＩて何	授業で提出された課題を解く（4時間）	
6	社会で活用されているデータ	授業で提出された課題を解く（4時間）	
7	社会で活用されているデータ利活用してみよう	授業で提出された課題を解く（4時間）	
8	データ・AIの活用領域	授業で提出された課題を解く（4時間）	
9	データ・AIの活用領域	授業で提出された課題を解く（4時間）	
10	データ・AI利活用のための技術(Technology)	授業で提出された課題を解く（4時間）	
11	データ・AI利活用のための技術(Technology)	授業で提出された課題を解く（4時間）	
12	データ・AI利活用の現場	授業で提出された課題を解く（4時間）	
13	データ・AI利活用の現場	授業で提出された課題を解く（4時間）	
14	データ・AI利活用の現場	授業で提出された課題を解く（4時間）	
15	数理・データサイエンス・ＡＩ将来	授業で提出された課題を解く（4時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：
授業形態： 講義
科目名： 総合講座【発】
担当教員： 佃　昌道(TSUKUDA　Masamichi),土井　理裕(DOI Masahiro)

【授業の紹介】
Society 5.0社会が到来し、大学での教育も大きく変化しようとしている。様々な課題解決の場におてもビッグデータやAIが活用される社会となっている。この様な状況において数理・データサイエンス・Aの知識や技術は、大変重要なテーマである。本講義では、入学当初に、・ 社会で起きている変化、・ データ・AI利活用の最新動向、・ 社会で活用されているデータ、・データ・AI利活用のための技術、・AI利活用の現場・AIの活用領域を中心に、STEAM教育の観点も含めSociety 5.0を実現するための学習として授業を行う。なお授業にあたっては学習管理システム（LMS）などを活用して授業を行う。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
Society 5.0を実現する社会を理解することができる。
Society 5.0社会においても豊かな人間性を発揮できる。
・Society 5.0社会で起きている事柄の理解
・データ・AI利活用の最新動向
・社会で活用されているデータ
・データ・AIの活用領域
・データ・AI利活用のための技術
・データ・AI利活用の現場
以上の理解が図れる。

【成績の評価】
提出物50%、小テスト50%により評価を行う。
提出物は、評価して返却する。小テストは、模範解答を小テストの次の授業で解説することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
世界を変えるSTEAM人材　シリコンバレー「デザイン思考」の核心 (朝日新書)ヤング吉原麻里子著朝日新聞出版 2019
東京大学のデータサイエンティスト育成講座　Pythonで手を動かして学ぶデ―タ分析　塚本邦尊，山田典一，大澤文孝　(著)，中山浩太郎 (監修)，松尾 豊[協力] マイナビ出版　2019

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	What’s 数理・データサイエンス・ＡＩ（体験で学ぶSociety5.0）	授業で示された課題を解く（4時間）	
2	What’s 数理・データサイエンス・ＡＩ（数学、Computer Science、Data Scienceの領域）	授業で示された課題を解く（4時間）	
3	数理・データサイエンス・ＡＩ（第4次産業革、データ駆動型社会、身近なIoTを体験）	授業で示された課題を解く（4時間）	
4	身近な生活の中にあるデータを利活用する事を学ぶ	授業で示された課題を解く（4時間）	
5	数理・データサイエンス・ＡＩて何	授業で示された課題を解く（4時間）	
6	社会で活用されているデータ	授業で示された課題を解く（4時間）	
7	社会で活用されているデータ利活用してみよう	授業で示された課題を解く（4時間）	
8	データ・AIの活用領域	授業で示された課題を解く（4時間）	
9	データ・AIの活用領域	授業で示された課題を解く（4時間）	
10	データ・AI利活用のための技術(Technology)	授業で示された課題を解く（4時間）	
11	データ・AI利活用のための技術（Technology）	授業で示された課題を解く（4時間）	
12	データ・AI利活用の現場	授業で示された課題を解く（4時間）	
13	データ・AI利活用の現場	授業で示された課題を解く（4時間）	
14	データ・AI利活用の現場	授業で示された課題を解く（4時間）	
15	数理・データサイエンス・ＡＩ将来	授業で示された課題を解く（4時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UCI101
授業形態： 講義
科目名： 情報基礎
担当教員： 神部　順子(KANBE　Junko)

【授業の紹介】
「AI」、「ビッグデータ」、「IoT」といったデータ利活用に関連する新技術の進展がこれからの社会に大きな変革をもたらしている。これらの新技術によって創出された新たな製品やサービス等を効果的に活用するために、また、社会人になる基礎力として、ITリテラシーに関する知識を身に付けることが必要となっている。この授業はデータやAIといったものを利活用する際に必要となる基本的な知識と習得し、現代社会におけるITへの認識を深めるよう展開していく。この知識や理解を深めるための実習課題を通し、情報技術活用によるメリットやデメリット、情報化社会に参画する態度についても考えることとする。
なお、この授業は国家試験である「ITパスポート試験」の入門としても役立つように配慮していく。また、高等学校教諭一種免許状（情報）の取得のための必修科目である。さらに、数理データサイエンスAI教育プログラムの科目である。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１．パソコンなど情報機器を活用するために最低限必要な、情報機器（ハードウェア）およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。
２．情報化社会に参画するための知識を習得できる。

【成績の評価】
授業内レポート（20%）、中間試験（30%）、定期試験（50%）の総合評価で行なう。リアクションペーパーに対するコメントや質問に対するフィードバックは次回授業にて行う。レポートおよび、中間試験結果については次の授業以降に返却・解説する。フィードバックとして期末試験の返却を希望する場合は、研究室まで取りに来ること。

【使用テキスト】
かんたん合格　ITパスポート教科書　令和６年度　坂下夕里＆ラーニング編集部　インプレス　2023年

【参考文献】
適宜、指示する。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション／情報社会で活用されているデータ紹介、データやAIに関する動向	予習として、Googleclassroomで指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）。	
2	ハードウェア（CPU、主記憶装置）	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）。	
3	ハードウェア（補助記憶装置、入出力装置、入出力インターフェース）	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）	
4	ソフトウェア（OS、ファイルの管理）	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）	
5	ソフトウェア（表計算ソフト、関数）	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）	
6	コンピュータで扱うデータ（2進数）	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）	
7	コンピュータで扱うデータ（マルチメディア）	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）	
8	データベース	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）	
9	ここまでの要点整理と中間試験	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関す	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		る課題をレポートにまとめて提出する（２時間）	
10	ネットワーク	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）。	
11	情報セキュリティの実際	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）。	
12	システムの導入	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）。	
13	システム開発とプロジェクトマネジメント	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）。	
14	情報社会における光と影	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）。	
15	データやAIを扱う上での留意事項	予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておく（２時間）。復習として、毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出する（２時間）。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCI102
授業形態： 演習
科目名： 情報基礎演習
担当教員： 林　敏浩(HAYASHI　Toshihiro)

【授業の紹介】
この授業は、情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業では、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。また、「数理・データサイエンス」の基礎知識についても併せて学習します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Wordを対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【成績の評価】
成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】
杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック　office2021版』（実教出版株式会社，2022）ISBN:9784407359435
※テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】
なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は当該回の予習などです（第１回目は高校まででどんな情報の学びをしたかまとめておいてください）。事後学習は自分のその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
2	文書作成（１）　基本操作と印刷	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
3	情報と社会（１）　電子メールによるコミュニケーション	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インタネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
4	文書作成（２）　表の作	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
5	文書作成（３）　書式の設定	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
6	情報と社会（２）　個人情報保護	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インタネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
7	文書作成（４）　図・画像などの挿入	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
8	文書作成（５）　Webブラウザとの連携	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
9	数理・データサイエンス（１）　数理・データサイエンスとは何か？	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インタネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
10	情報と社会（３）　情報倫理・情報モラル	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インタネットでその回に	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
11	情報と社会（４）　知的財産権	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インタネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
12	文書作成（６）　図の作成と編集	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
13	文書作成（７）　縦書き、PDF変換	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
14	情報と社会（５）　ネット犯罪	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インタネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
15	数理・データサイエンス（２）　身の周りの数理・データサイエンス	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インタネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
	定期試験(実施しない)		授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

科目ナンバリング： UCI103
授業形態： 演習
科目名： 情報応用演習
担当教員： 林　敏浩(HAYASHI　Toshihiro)

【授業の紹介】
この授業は、情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint）の機能について学習します。また、「数理・データサイエンス」の基礎知識についても併せて学習します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
1. Microsoft Excelを対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft PowerPointを対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【成績の評価】
成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】
杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック　office2021版』（実教出版株式会社，2022）ISBN:9784407359435
※テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】
なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	受講ガイダンス、表計算（１）　基本操作と印刷	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は当該回の予習などです（第１回目は前期の情報基礎演習でどのような情報の学びをしたかまとめておいてください）。事後学習は自分のその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
2	表計算（２）　表の作成	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
3	表計算（３）　基本編集	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
4	表計算（４）　表の書式設定と印刷	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
5	表計算（５）　数式（１）　絶対参照と相対参照、基本関数	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
6	表計算（６）　数式（２）　順位取得、条件判断	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
7	表計算（７）　数式（３）　表参照によるデータ取得、端数処理	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
8	表計算（８）　数式（４）　エラー回避、文字列操作	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
9	数理・データサイエンス（１）　データは人を騙す	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
10	数理・データサイエンス（２）　Excelを使ったデータ処理の基礎	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
11	プレゼンテーション（１）　基本操作と印刷	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
12	プレゼンテーション（２）　図やオブジェクトの挿入	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
13	プレゼンテーション（３）　SmartArt、グラフ、表の挿入	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
14	プレゼンテーション（４）　作図機能を用いた複雑な図の作成	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
15	プレゼンテーション（５）　特殊効果と自動実行	準備学習１時間、事後学習１時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
	定期試験(実施しない)		授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

科目ナンバリング： UDS101
授業形態： 講義
科目名： 数理データサイエンス基礎
担当教員： 浮穴　学慈(UKENA　Satoshige)

【授業の紹介】
　現代の情報化社会において、数理・データサイエンス・AIの重要性が認識され、様々な企業や組織での活動に必要とされるとともに、基礎的な考え方を理解し、日常生活や仕事において使いこなせる人材が必要とされるようになっています。この授業では、そもそも何のために何をどのように計量し、データを取得しようとしているのか、得られたデータをどのように使うのかについて、基礎的な学習を行うとともに、情報やAI(人工知能)の概要について学びます。
　この科目は、数理データサイエンスAI教育プログラムの選択科目です。

＜卒業認定・学位授与の方針における関連項目＞
２.課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

＜学修成果における関連項目＞
②課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
1.　情報とは何かを理解し、データと情報の違いを説明できる。
2.　データの集まりについて、その統計量を把握できる。
3.　数理モデルを考え、その妥当性を確かめることができる。
4.　機械学習の仕組みの概要を把握し、説明できる。

【成績の評価】
授業における取組みとコメント（25%）、小テスト型課題（25%）、定期試験代わりの課題（50%）
コメントについては、優秀なものについて解説を行うことにより、フィードバックを行う。
小テスト型課題および定期試験代わりの課題については、採点結果を返却することにより、フィードバックを行う。

【使用テキスト】
資料を配布します。

【参考文献】
伊藤大河ら著「大学基礎　データサイエンス」（実教出版）ISBN978-4-407-36122-3
Kay, Mr.Φ著「楽しいAI体験から始める機械学習 算数・数学をやらせてみたら」（技術評論社）ISBN978-4-297-11276-9, ￥2,180+税
加藤公一監修, 秋庭伸也ら著「見て試してわかる機械学習アルゴリズムの仕組み　機械学習図鑑」（翔泳社）ISBN978-4-7981-5565-4, ／2,680+税

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	受講ガイダンスとイントロダクション	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 小課題：授業内容に関連する小課題を自分なりに設定して調べる(2時間)	
2	データと情報	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 小課題：授業内容に関連する小課題を自分なりに設定して調べる(2時間)	
3	データの特徴を把握する	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 小課題：授業内容に関連する小課題を自分なりに設定して調べる(2時間)	
4	和の記号Σと数列の和	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 課題：和の記号Σと数列の和に関する課題(2時間)	
5	物事を数式を使って表す	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 小課題：授業内容に関連する小課題を自分なりに設定して調べる(2時間)	
6	データをもとに推測する	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 小課題：授業内容に関連する小課題を自分なりに設定して調べる(2時間)	
7	確率の基礎知識	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 課題：確率に関する課題(2時間)	
8	条件付確率とベイズの定理	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 課題：条件付確率に関する課題(2時間)	
9	確率分布と期待値	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 課題：期待値に関する課題(2時間)	
10	全数調査と標本調査	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 小課題：授業内容に関連する小課題を自分なりに設定して調べる(2時間)	
11	仮説検定	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 小課題：授業内容に関連する小課題を自分なりに設定して調べる(2時間)	
12	推定	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 課題：仮説検定と推定に関する課題(2時間)	
13	AIを使う	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 小課題：授業内容に関連する小課題を自分なりに設定して調べる(2時間)	
14	AIは考えているのか	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容をまとめる(2時間) 小課題：授業内容に関連する小課題を自分なりに設定して調べる(2時間)	
15	総括：定期試験代わりの課題に関する説明と	復習：配布資料や参考図書をもとに授業内容	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	今後の学習活動へのアドバイス	をまとめる(2時間) 課題：定期試験代わりの課題(2時間)	
	定期試験(実施しない)		定期試験代わりの課題を実施します

科目ナンバリング： UDS201
授業形態： 講義
科目名： データ分析活用法
担当教員： 正岡　利朗(MASAOKA　Toshirou)

【授業の紹介】
　データを処理して分析し、その活用を図るという観点より、企業及び公共組織等が商品の販売促進やサービスの向上などを企図して行うアンケート調査につき、教員が解説を行うかたちで、講義を進めます。アンケートを回答したことがあっても、自ら作る側に回った方は少ないと思われます。ですが、このような知識は、みなさんがさまざまな組織で仕事をするに当たり、身につけておいて決して損はしないものです。慣れてくると、考え方が整理され、アンケート調査の重要性、有用性がだんだんわかってきますので、興味のある方はこの機会にぜひ受講してみてください。
　なお、本授業は、グループワークで情報収集・ディスカッションを行うアクティブ・ラーニング形式を採用しています。また、高等学校教諭一種免許状（情報・商業）取得のための選択科目に該当します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．企業及び公共組織等が商品の販売やサービスなどを促進させるために行うアンケート調査について、理解を深めることができる。
２．リサーチの技法を確実に身につけることができる。
３．上記の各知識や授業中に得た情報処理能力を統合的に活用して、ソサエティー5.0に寄与する各技能や考え方を身につけることができる。

【成績の評価】
　レポート提出（100%）の結果により判断します。ただし、授業態度が不適切な場合はそれに応じた減点をしますので留意してください。なお、各受講生（グループ）のレポートの結果については講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】
　とくにありません（インターネットを使用する場合もある）。

【参考文献】
　酒井隆『アンケート調査の進め方＜第２版＞』日本経済新聞出版社、2012年。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	ガイダンス	よいレポート内容をまとめるには相当な時間外の学習が必須となります。さまざまな意見を総合して、自分の意見をまとめるための参考にするという態度を時間をかけてぜひ身につけてください。	
2	アンケート調査とは	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
3	企画・設計の手順（調査課題の設定）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
4	企画・設計の手順（調査方法の選定）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
5	企画・設計の手順（調査期間等の見通し）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
6	アンケート票の作成（言葉遣いについて）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
7	アンケート票の作成（調査ボリューム）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
8	アンケート票の作成（レイアウトの検討）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
9	集計・分析の手順（集計の手順）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
10	集計・分析の手順（集計方法）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
11	集計・分析の手順（集計上の留意点）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
12	報告書の作成（文章、分析内容の検討）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
13	報告書の作成（レイアウトの検討）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
14	とくにｗｅｂ調査について	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
15	これまでの授業のまとめ（学習した重点項目の確認）と質疑応答	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：
授業形態：　講義
科目名：　アンケート調査法
担当教員：　正岡　利朗(MASAOKA　Toshirou)

【授業の紹介】
　企業及び公共組織等が商品の販売促進やサービスの向上などを企図して行うアンケート調査につき、教員が解説を行うかたちで、講義を進めます。アンケートを回答したことがあっても、自ら作る側に回った方は少ないと思われます。ですが、このような知識は、みなさんがさまざまな組織で仕事をするに当たり、身につけておいて決して損はしないものです。慣れてくると、考え方が整理され、アンケート調査の重要性、有用性がだんだんわかってきますので、興味のある方はこの機会にぜひ受講してみてください。
　なお、本授業は、グループワークで情報収集・ディスカッションを行うアクティブ・ラーニング形式を採用しています。また、高等学校教諭一種免許状（情報・商業）取得のための選択科目に該当します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．企業及び公共組織等が商品の販売やサービスなどを促進させるために行うアンケート調査について、理解を深めることができる。
２．リサーチの技法を確実に身につけることができる。
３．上記の各知識や授業中に得た情報処理能力を統合的に活用して、ソサエティー5.0に寄与する各技能や考え方を身につけることができる。

【成績の評価】
　レポート提出（100%）の結果により判断します。ただし、授業態度が不適切な場合はそれに応じた減点をしますので留意してください。なお、各受講生（グループ）のレポートの結果については講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】
　とくにありません（インターネットを使用する場合もある）。

【参考文献】
　酒井隆『アンケート調査の進め方＜第２版＞』日本経済新聞出版社、2012年。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	ガイダンス	よいレポート内容をまとめるには相当な時間外の学習が必須となります。さまざまな意見を総合して、自分の意見をまとめるための参考にするという態度を時間をかけてぜひ身につけてください。	
2	アンケート調査とは	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
3	企画・設計の手順（調査課題の設定）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
4	企画・設計の手順（調査方法の選定）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
5	企画・設計の手順（調査期間等の見通し）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
6	アンケート票の作成（言葉遣いについて）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
7	アンケート票の作成（調査ボリューム）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
8	アンケート票の作成（レイアウトの検討）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
9	集計・分析の手順（集計の手順）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
10	集計・分析の手順（集計方法）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
11	集計・分析の手順（集計上の留意点）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
12	報告書の作成（文章、分析内容の検討）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
13	報告書の作成（レイアウトの検討）	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
14	とくにｗｅｂ調査について	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
15	これまでの授業のまとめ（学習した重点項目の確認）と質疑応答	毎回の授業開始前にはプリント等を予習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（２時間）。また、毎回の授業毎にＡ４・１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（２時間）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UCL001
授業形態： 講義
科目名： コミュニケーション表現【発】
担当教員： 織田　幸美(ODA　Yukimi)

【授業の紹介】
この授業では、対人コミュニケーションの理論や実践を中心に、将来社会人として有効な社会的スキルの獲得を目指します。特に理論の学習後「ペアワーク」「ロールプレイ」など様々なアクティブラーニングによる体験を通じて、将来、組織において社会性を持った活動・行動に「コミュニケーション能力」が生かせるよう配慮しています。また、自己の主張を他者に向けて発信するプレゼンテーション能力を身につけていきます。さらに、子どもの社会的スキルについても言及します。
　この授業ではGoogle Classroom(クラスコード：jae3vrr)を使用し，ICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
①コミュニケーションの理論を知り、自他の行動を振り返ることができる。
②演習等を通じて、「自己理解」「他者理解」「自己決定」ができる。
③「的確なコミュニケーションスキル」を身につけ、様々な世代の人と適切な交流をする力を身につけることができる。
④グループワーク等を通じ、プレゼンテーション力を身につけることができる。

【成績の評価】
受講態度（約３０％）、授業ふりかえりレポート（約３０％）、テスト（約４０％）で総合的に評価する。
（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う。）
30分以上の遅刻，離席は欠席特別な場合を除いて欠席とみなす。

【使用テキスト】
宮原哲（2006)「新版コミュニケーション論」　松柏社

【参考文献】
大坊郁夫(2005)「社会的スキル向上を目指す対人コミュニケーション」ナカニシヤ出版
大坊郁夫(2022)「人を結ぶコミュニケーション」福村出版
菊池章夫・堀家一也(編著)(1994)「社会的スキルの心理学」川島書店
國分康孝(監修)小林正幸・相川充(編著)(1999)「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる(小学校)」図書文化
小林正幸・宮前義和(編)(2007)「子どもの対人スキルサポートガイド」金剛出版

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
2	コミュニケーションの基本的な考え方	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
3	ことばとコミュニケーション	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
4	ノンバーバル・コミュニケーション	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
5	認識とコミュニケーション	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
6	人を動かすコミュニケーション	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
7	対人コミュニケーション	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
8	組織内コミュニケーション	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
9	異文化コミュニケーション	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
10	子どもの社会的スキルトレーニング①（あいさつ・話す・聞く・温かい言葉かけ）	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
11	子どもの社会的スキルトレーニング②（アサーション・ストレスマネジメント・アンガーマネジメント）	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
12	プレゼンテーションスキル①（グループ内打ち合わせ）	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
13	プレゼンテーションスキル②（発表グループA）	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
14	プレゼンテーションスキル③（発表グループB）	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめておくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
15	対人コミュニケーション力をさらなえる向上のために	予習としてその前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み，本時の課題を把握し，まとめてくこと。(2時間) 毎回の授業に関する課題に対してレポートを提出すること。（2時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　UCL002
授業形態：　演習
科目名：　コミュニケーション演習Ⅰ【発】
担当教員：　織田　幸美(ODA　Yukimi)

【授業の紹介】
　この授業では、入学したばかりの1年生を対象に「ピア・ヘルピング」の考え方を軸にして新たな人間関係を育み、「仲間」となるための知識や技能を身につけることを目指します。特にカウンセリング(傾聴）の技法を用いたコミュニケーションを相互交流や体験を通して学び、相手の心に寄り添い、コミュニケーションを図ることのできる実践力を養います。また「自己の見つめ直し」「自己表現」などを通じて、まず自分自身を深く知り、自らの考え・価値観をしっかり持つことができるようにします。
　この授業ではGoogle Classroom(クラスコード：67rztnv)を使用し，ICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
①「ピア・ヘルピング」の知識を身につけ、仲間と良好なコミュニケーションをとることができる。
②「仲間」の心情に寄り添い、傾聴技法を用いることできる。
②「自己理解」「他者理解」を深め、広げることができる。

【成績の評価】
受講態度（約50%）、授業ふりかえり・実践レポート（約50%）などで総合的に評価する。（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う。）
30分以上の遅刻，離席は欠席特別な場合を除いて欠席とみなす。

【使用テキスト】
テキストは使用しません。随時資料を配付します。

【参考文献】
日本教育カウンセラー協会(編)(2001)　「ピアヘルパー・ハンドブック」図書文化
日本教育カウンセラー協会(編)(2002)　「ピアヘルパー・ワークブック」図書文化
宮原哲(2006)「入門コミュニケーション論」松柏社

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・構成的グループエンカウンター	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
2	カウンセリングの定義と種類	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
3	ピア・ヘルピングの関係領域とプロセス	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
4	ピア・ヘルパーのパーソナリティ、カウンセリングの動向	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
5	言語的技法①（受容・繰り返し・明確化）	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
6	言語的技法②（支持・質問・総合練習）	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
7	非言語的技法	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
8	対話上の諸問題への対処法	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
9	問題への対処法	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
10	心構え・スキルの上達法	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
11	青年期の課題①(学業領域)	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
12	青年期の課題②（進路・友人領域）	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
13	青年期の課題③（グループ領域）	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
14	青年期の課題④（関係修復・心理領域）	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
15	まとめ ・ピアヘルピングとコミュニケーション	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」をまとめて提出すること。（2時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UCL003
授業形態： 演習
科目名： コミュニケーション演習Ⅱ【発】
担当教員： 織田　幸美(ODA　Yukimi)

【授業の紹介】
「コミュニケーション演習Ⅰに続き、より深く広くカウンセリング技法やスキルを通し、より多様な人との「適切なコミュニケーション」を学びます。自分のコミュニケーション方略の傾向について理解した上で傾聴や解決のための技法、「爽やかな自己主張」のための理論や技法をロールプレイを中心に学び、自他の心理的な問題への対処法とそれによって周囲との適切なコミュニケーションを図ることができ、より安定した心で毎日を過ごすことができるようになることを目指します。
　この授業ではGoogle Classroom(クラスコード：66kobui)を使用し，ICTを活用した双方向型授業を実施します。
　内容の連続性を鑑み，「コミュニケーション演習Ⅰ」を受講していることを望みます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
①カウンセリングの概念や技法を知り、生活の中で応用することができる。
②解決志向ブリーフセラピーの概念や技法を知り、生活の中で応用することができる。
③アサーション・スキルの概念や技法を知り、生活の中で応用することができる。
④「自己理解」「他者理解」を深めたり・広めたりすることができる。

【成績の評価】
受講態度（約50%）、授業ふりかえり・実践レポート（約50%）などで総合的に評価する。（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う。）
30分以上の遅刻，離席は欠席特別な場合を除いて欠席とみなす。

【使用テキスト】
テキストは使用しません。随時資料を配付します。

【参考文献】
窪内節子(編著)（1997)「楽しく学ぶ心のワークブック」学術図書出版社
森俊夫・黒沢幸子(2002)「解決志向ブリーフセラピー」ほんの森出版
平木典子(1993)「アサーショントレーニング」日本･精神技術研究所

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（2時間）	
2	自分を知ろう①（自他から見た自分）	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	
3	自分を知ろう②（交流分析・エゴグラム）	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	
4	傾聴技法①（受容・繰り返し）	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	
5	傾聴技法②（質問・要約）	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	
6	傾聴技法③（感情の明確化）	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	
7	積極技法①（支持・自己開示）	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	
8	積極技法②（助言・フィードバック）	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	
9	解決志向ブリーフセラピー①（中心哲学）	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	
10	解決志向ブリーフセラピー②（解決像の構築・外在化）	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	解決志向ブリーフセラピー③（コンプリメント・リフレ―ミング）	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	
12	さわやかな自己主張―アサーション・スキル①（アサーションとは）	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	
13	さわやかな自己主張―アサーション・スキル②（アサーティブな表現）	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	
14	さわやかな自己主張―アサーション・スキル③（言葉以外のアサーション）	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	
15	まとめ・これからのコミュケーション	構成的グループエンカウンターについて資料を読み，授業中にグループで実践できるように計画を立てておくこと。（1時間）復習として「授業ふりかえりレポート」または学んだスキルについて実践し，「実践レポート」にまとめて提出すること。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UCS001
授業形態： 講義
科目名： マスメディアと社会
担当教員： 山下　淳二(YAMASHITA　Junji)

【授業の紹介】
　ネット社会の進展につれ変貌するマスコミュニケーションの実相を新聞を中心としたオールドメディアの側から明らかにし、現代社会において望ましいマスメディアの在り方、市民との関係について学ぶ。情報はどのようにとらえられ、加工され、送られるのか。40年を超える新聞づくりの経験を生かしながら、送り手側の問題点、受け手側の課題を探る。その中で得られるメディア・リテラシーは、自ら考え、判断し、行動する力の基礎となるだろう。言葉を換えれば、「情報化社会を知的に生きる基礎」と言える。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	

【到達目標】
情報を読むことは単に字面を追うことではない。
１．毎回の授業の冒頭は、最新のニュースを題材に、読み方を議論しながら情報を鵜呑みにしない視点を磨くことができる。
２．情報を主体的に読み解く力、メディア・リテラシーの獲得をめざす。

【成績の評価】
この１週間の出来事の中から、テーマを選び毎週提出するミニ・リポートは、独自の視点を養い、情報の偏りの有無などを発見する作業。
毎授業の初めに、前週のリポートの主な評価をコメント付きで発表し、全員で考える材料とすることでフィードバックします。（50%）
最後に、統一のテーマを設定して締めくくりのリポート提出を求める。（50%）

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
日々の新聞、雑誌など

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
2	マスメディアの興亡（歴史）	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
3	ネット社会のマスメディア（現状）	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
4	ニュースとは何か	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
5	ニュースの価値判断	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
6	報道と人権（概論）	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
7	報道と人権（えん罪の構造）	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
8	知る権利と報道の自由	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
9	取材源の秘匿と報道倫理	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
10	マスメディアの構造的問題（記者クラブ）	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ア・リテラシーの実践である。	
11	マスメディアの構造的問題（新聞の宅配制度と特殊指定）	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
12	マスメディアの構造的問題（クライアントとの距離感）	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
13	マスメディアの構造的問題（クロス・オーナー・シップ）	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
14	メディア・リテラシー	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
15	これまでの講義のまとめ及び質疑応答	１週間のうち１本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをリポートする（３時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（１時間）。メディア・リテラシーの実践である。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　UCH001
授業形態：　講義
科目名：　比較文化
担当教員：　井上　隆史(INOUE Takashi)

【授業の紹介】
今日のアジアは成長著しく、活気にあふれています。中国、朝鮮半島、モンゴル、東南アジアなど多くのアジアの国とかかわって、様々なドキュメンタリーを制作してきたジャーナリストの眼から見、肌で感じた文化と歴史、人々の暮らしを紹介します。中でもライフワークとして取り組んだのがシルクロードですが、２１世紀のシルクロードは、まさに激動と混迷の時代に入ってしまいました。アジアの国々で、そしてシルクロードの地で今何が起きているのか？人々はどんな暮らしをしているのか・・・？古代と現代を行き来し、時空を超えた旅をしながら、それぞれの国や地域の魅力にも迫りたいと思います。
グローバル時代を生き抜くためには、歴史の事象や世界を「複眼」で見ることを心がけなければなりません。まずは世界を知ることです。特に同じアジア文化圏の歴史や今に触れて実情を知り、日本との繋がりやその違いを見つめ直すことが重要です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	

【到達目標】
１　授業で取り上げた国々や事件・事象の中で最も関心を持ったテーマについて、自分なりの意見を１５００字程度で書くことができる。
２　浮かび上がった日本および日本人の問題点・課題を自分なりにわかりやすく述べることができる。

【成績の評価】
レポート（50%）授業への参加状況（50%）レポートは集中講義終了後採点し、コメントをつけて返却することでフィードバックをします。

【使用テキスト】
必要に応じて講義の時に配布します。

【参考文献】
「アフガニスタン・さまよえる国宝」（2017年　NHK出版）
「アフガニスタンを知るための７０章」（2021年　明石書店）
「みろくへの道」（2023年　東京藝術大学）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	モンゴルから世界を見る①世界最大の帝国モンゴルとは何だったのか？	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
2	モンゴルから世界を見る②幻の東方キリスト教国プレスターージョンの幻影	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
3	モンゴルから世界を見る③パクスモンゴリカ（モンゴルの平和）とその正と負の遺産	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
4	シルクロードは麺ロード①讃岐うどんの原点である麺文化の源流を探る	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
5	シルクロードは麺ロード②中国の黄色い大地「黄土高原」の豊かな麺文化	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
6	シルクロードは麺ロード③イタリアに麺文化を伝えたのはマルコポーロか？イスラム商人か？	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
7	シルクロード最大の謎・楼蘭に挑む①タクラマカン砂漠の砂の中に眠る謎の王国「楼蘭」	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		と。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
8	シルクロード最大の謎・楼蘭に挑む②ミイラのＤＮＡ分析からわかってきた古代楼蘭の実像	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
9	シルクロード最大の謎・楼蘭に挑む③古代ユーラシアの知られざる人類大移動。	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
10	アジアの国々の素顔に迫る①ベトナム戦争に翻弄された国民的歌手の悲劇とドイモイ	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
11	アジアの国々の素顔に迫る②謎の国北朝鮮の実像。日本の古代文化の源流を見、人々の生の声を聴く	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
12	アジアの国々の素顔に迫る③ビルマ（ミャンマー）独立運動と日本。	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
13	遠くて近い国アフガニスタン①アフガニスタン文化遺産保護活動と日本文化の源流	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
14	遠くて近い国アフガニスタン②20年にわたる戦乱と流出文化財の悲劇	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
15	遠くて近い国アフガニスタン③タリバン政権と世界に見捨てられた国の未来像	授業計画の各回のテーマや舞台になる地域について、授業の前に下調べをしてそれぞれの関心事項や疑問をノート等にまとめておくこと。（２時間） 授業で初めて知ったことや異文化やそれぞれの歴史について感じたことについてA4用紙１枚程度にまとめておくこと。（２時間） こうした姿勢が将来異文化と出合った時に、コミュニケーションを生み、相互理解につながっていきます。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UCE101
授業形態： 演習
科目名： 英語Ⅰ【発あ】
担当教員： 藤井　昭洋(FUJII　Akihiro)

【授業の紹介】
本授業では、中学校・高等学校で習った英語文法力の定着を図るとともに、卒業後の社会において求められる英語でのコミュニケーション力の強化のために必要となる聴解力と読解力の強化に努めます。家庭では予習と復習が求められ、その確認のため毎回授業のはじめに小テストを行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
バランスの取れた英語力の習得のためには、当然のことながら文法・語法の理解は不可欠です。この授業で目指すものは、以下の三つです。

①基礎的な文法を確実に理解し、使うことができる。
②まとまった長さの英文を読み、内容を理解することができる。
③実用英語技能検定試験準2級程度の英文を聞き、理解することができる。

【成績の評価】
小テスト(40 %)、宿題(10 %)および 定期試験(50 %)の結果を総合的に判断して行ないます。毎時間行なう小テストは、その直後に解答を解説します。また宿題としての提出物は、評価したものをその後の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】
山田久美　他、　Starting　Gate（「基礎から始める英語演習」）（南雲堂）

【参考文献】
オリエンテーションの時、指示します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・英語のbe動詞	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
2	一般動詞（現在）+ Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
3	一般動詞（過去）+ Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
4	進行形 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
5	未来形 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
6	助動詞　+ Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
7	名詞・冠詞 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
8	代名詞 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
9	前置詞 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
10	形容詞・副詞+ Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		分）	
11	比較 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
12	命令文・感嘆文 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
13	接続詞(Ｉ) + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
14	不定詞(Ｉ)・動名詞(Ｉ) + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
15	受動態 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCE101
授業形態： 演習
科目名： 英語Ⅰ【発い】
担当教員： 竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro)

【授業の紹介】
　英語の４技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っているまとまった内容の英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。75語～100語から成るReadingの素材は、天気、旅行、文化など身近な話題が中心で、受講生にとって取り組みやすいものとなっています。
　受講生には、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が必須です。 Google Classroom Code: t2tpafg

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
２．本文を音読することで英語に慣れ、覚えた英文を用いてコミュニケーションを図ることができる。
３．自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【成績の評価】
　「授業への関心・意欲・態度」１０％、「提出物等授業時間外に課す課題」１５％、「小テスト」２０％、「音読テスト」１５％、「定期試験」４０％の５項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。
　なお、３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻３回で欠席１回とみなします。

【使用テキスト】
Reading Links 2 （Andrew E. Bennett著、南雲堂、2021年）

【参考文献】
なし

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高校現場での英語指導の経験を活かして授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
2	Unit 1 Weather	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
3	Unit 1 Weather Unit 2 The Internet	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
4	Unit 2 The Internet Unit 3 Animals	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
5	Unit 3 Animals	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
6	Unit 4 Friends	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
7	Unit 4 Friends Unit 5 Helping Others	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
8	Unit 5 Helping Others Unit 6 Traveling	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
9	Unit 6 Traveling	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
10	Unit 7 Collections and Gifts	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
11	Unit 7 Collections and Gifts Unit 8 Careers	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
12	Unit 8 Careers Unit 9 European Cultures	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
13	Unit 9 European Cultures	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
14	Unit 10 Gifted Children Part 1: Child Prodigies	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
15	Unit 10 Gifted Children Part 2: What makes a prodigy?	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCE102
授業形態： 演習
科目名： 英語II【発あ】
担当教員： 藤井　昭洋(FUJII　Akihiro)

【授業の紹介】
英語Ｉに引き続き、この授業では文法力のさらなる定着を図るとともに、身近な話題を扱いながら、英語の4技能の運用能力をさらに高め、将来社会人として最低限必要な英語力の涵養に努めます。また、実用英語技能検定試験やTOEICの問題にあたりながら、英語による問題解決能力の向上をもめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
1. 基本的な英文法を理解し、使うことができる。
2. 平易な英文の読解ができる。
3. 日常的な英文を聞いて、概要をつかむことができる。
4. 英検準2級の問題は、ほぼ解くことができる。

【成績の評価】
小テスト(40 %)、提出物（10%）および 定期試験(50 %)の結果を総合的に判断して行ないます。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は、評価したものを次の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】
前期の進度により、後期に使用するテキストは，前期の最後に指示します。

【参考文献】
オリエンテーションの時、指示します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・前期の復習	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
2	比較 + Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
3	接続詞 + Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
4	５文型 + Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
5	各種疑問文 + Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
6	不定詞　+ Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
7	Itの特別用法　+ Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
8	時制 + Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
9	関係代名詞（１）（基本 + Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
10	関係代名詞（２）（発展）+ Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
11	完了形（結果、継続）+ Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
12	完了形（経験）+ Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
13	仮定法　（基本）+ Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
14	仮定法（過去完了）+ Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
15	英語の重要構文と熟語 + Reading & Listening	１．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（１５分） ２．提出物の準備をすること。（１５分） ３．次回の授業の予習をすること。（３０分）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCE102
授業形態： 演習
科目名： 英語II【発い】
担当教員： 竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro)

【授業の紹介】
　英語Ⅲに引き続き、英語の４技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っているまとまった内容の英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。75語～100語から成るReadingの素材は、宇宙、文化、言語など身近な話題が中心で、受講生にとって取り組みやすいものとなっています。
　受講生には、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が必須です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
２．本文を音読することで英語に慣れ、覚えた英文を用いてコミュニケーションを図ることができる。
３．自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【成績の評価】
　「授業への関心・意欲・態度」１０％、「提出物等授業時間外に課す課題」１５％、「小テスト」２０％、「音読テスト」１５％、「定期試験」４０％の５項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。
　なお、３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻３回で欠席１回とみなします。

【使用テキスト】
Reading Links （Andrew E. Bennett著、南雲堂、2021年）

【参考文献】
なし

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高校現場での英語指導の経験を活かして授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
2	Unit 11 Restaurants	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
3	Unit 11 Restaurants Unit 12 Transportation	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
4	Unit 12 Transportation Unit 13 Homes	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
5	Unit 13 Homes	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
6	Unit 14 Space	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
7	Unit 14 Space Unit 15 Personality	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
8	Unit 15 Personality Unit 16 Design and Fashion	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
9	Unit 16 Design and Fashion	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
10	Unit 17 Asian Cultures	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
11	Unit 17 Asian Cultures Unit 18 Modern Life	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
12	Unit 18 Modern Life Unit 19 Growing Things	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
13	Unit 19 Growing Things	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
14	Unit 20 Languages Part 1: Sign Language	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
15	Unit 20 Languages Part 2: Learning English	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（３０分） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCE201
授業形態： 演習
科目名： 英語III【発あ】
担当教員： 竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro)

【授業の紹介】
　英語の４技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っているまとまった内容の英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。Readingの素材は、「身近な不思議を英語で学ぶ」内容となっており、受講生の知的好奇心を刺激し、様々な社会的・文化的事象に目を向けるきっかけを与えてくれます。
　受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が必須です。 Google Classroom Code: m3hynhd

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
２．本文を音読することで英語に慣れ、覚えた英文を用いてコミュニケーションを図ることができる。
３．自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【成績の評価】
　「授業への関心・意欲・態度」１０％、「提出物等授業時間外に課す課題」１５％、「小テスト」２０％、「音読テスト」１５％、「定期試験」４０％の５項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。
　なお、３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻３回で欠席１回とみなします。

【使用テキスト】
Answers to Everyday Questions 1【High-beginning】（アーノルド・アラオ、三原京、巳波義典、木村博是、南雲堂、2024）

【参考文献】
なし

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高校現場での英語指導の経験を活かして授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	第１回　オリエンテーション	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
2	Unit 1 On What Day Does the Week Start?（語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
3	Unit 1 On What Day Does the Week Start?（文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
4	Unit 2 Why Does a Week Have Seven Days?（語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
5	Unit 2 Why Does a Week Have Seven Days?（文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
6	Unit 3 Where Do the Names of the Days Come from?（語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
7	Unit 3 Where Do the Names of the Days Come from?（文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
8	Unit 4 A "Rain Check" in Baseball（語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
9	Unit 4 A "Rain Check" in Baseball（文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
10	Unit 6 A "Baller" in Basketball（語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
11	Unit 6 A "Baller" in Basketball（文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
12	Unit 7 Why Is English Spelling So Difficult?（語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
13	Unit 7 Why Is English Spelling So Difficult? （文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
14	Unit 8 How Do You Make a Hamburger? （語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
15	Unit 8 How Do You Make a Hamburger? （文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCE201
授業形態： 演習
科目名： 英語III【発い】
担当教員： ブルスビーン　アマド　タボアダ

【授業の紹介】
In this course, the students will take part in a number of conversations about various issues in modern society. The course aims to help students develop and express their thoughts and feelings in English, as well as build their knowledge of basic English grammar and vocabulary. They will take part in reading and writing tasks, as well as conversations and simple debates.

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
By the end of the course, the students should have developed some confidence in expressing their opinions on social issues through English. They should also have developed a stronger understanding of basic grammar and a larger bank of vocabulary.

【成績の評価】
in class effort: 30%
midterm exam: 20%
Homework: 20%
Final exam: 30%

Students will receive feedback and advice on their progress during class-time.

【使用テキスト】
Topic Talk: issues, Second Edition
EFL Press
￥2,805
Order from: http://www.eflpress.com/JP/orders.html

【参考文献】
https://breakingnewsenglish.com/

A very useful website for self study. The articles are taken from real news articles and edited to match many different English Levels.

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	course explanation and self introductions. Students will learn about what they need for the course as well as what is expected of them to succeed.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
2	Health. We will discuss health and healthy living.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
3	Health. We will talk about moral and social issues with regards to health.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
4	Animals. We will discuss pets and our relationship in society with animals.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
5	We will continue with the topic of animals, but also introduce the "conditional tense" to imagine how things could be different.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
6	Fashion and self expression	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
7	midterm exam	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
8	Fashion and self expression continued. Adjectives and comparisons.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
9	Families and relationships.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
10	Families and relationships continued. We will also practiced should/shouldn't/ have to/ mustn't	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
11	Culture and culture shock.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
12	Culture and culture shock continued. Comparisons and differences.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
13	Love and marriage.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
14	Personal expectations. Should / shouldn't.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
15	Work and office life.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCE202
授業形態： 演習
科目名： 英語IV【発あ】
担当教員： 竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro)

【授業の紹介】
　英語Ⅲに引き続き、英語の４技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っているまとまった内容の英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。Readingの素材は、「身近な不思議を英語で学ぶ」内容となっており、受講生の知的好奇心を刺激し、様々な社会的・文化的事象に目を向けるきっかけを与えてくれます。
　受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が必須です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
２．本文を音読することで英語に慣れ、覚えた英文を用いてコミュニケーション活動を行うことができる。
３．自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【成績の評価】
「授業への関心・意欲・態度」１０％、「提出物等授業時間外に課す課題」１０％、「小テスト」２０％、「音読テスト」２０％、「定期試験」４０％の５項目を総合的に評価します。小テスト、授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。
　なお、３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻３回で欠席１回とみなします。

【使用テキスト】
Answers to Everyday Questions 1【High-beginning】（アーノルド・アラオ、三原京、巳波義典、木村博是、南雲堂、2024）

【参考文献】
なし

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高校現場での英語指導の経験を活かして授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
2	Unit 9 How Are New Words Born?（語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
3	Unit 9 How Are New Words Born?（文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
4	Unit 10 How Do Colors Make You Feel?（語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
5	Unit 10 How Do Colors Make You Feel?（文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
6	Unit 11 What happens When You See Red?（語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
7	Unit 11 What happens When You See Red?（文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
8	Unit 12 Do You Have a Green Thumb？（語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
9	Unit 12 Do You Have a Green Thumb？（文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
10	Unit 13 The Word "Puke" in As You Like It（語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
11	Unit 13 The Word "Puke" in As You Like It（文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
12	Unit 14 Hip-Hop and A Midsummer Night's Dream（語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
13	Unit 14 Hip-Hop and A Midsummer Night's Dream（文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
14	Unit 15 Shakespeare's Unusual Talent（語彙、長文）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
15	Unit 15 Shakespeare's Unusual Talent（文法問題等）	予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（１時間） 復習として、音読テストを３回実施するとともに、小テストを５回実施します。そのためのワークシートを５枚課します。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCE202
授業形態： 演習
科目名： 英語IV【発い】
担当教員： ブルスビーン　アマド　タボアダ

【授業の紹介】
Building from the previous course, students will continue to participate in different conversation activities ranging from personal to societal matters. Through combination of writing speaking and listening tasks the students will have opportunity to use English to express their own experiences and opinions.

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
By the end of the course come on the students will have fair understanding of grammatical rules and expressions used in day-to-day life, and should have built up a word bank that can help them converse with English speakers.

【成績の評価】
In-class effort (individual and collaborative work): 30%
Homework: 10%
Midterm Exam: 25%
Final Exam: 35%

Students will receive feedback and advice on their progress during class time.

【使用テキスト】
Speak Now 2
Communicate with Confidence
by Jack C. Richards and David Bohlke,
Oxford University Press
(ISBN 978-0-19-403016-8)

【参考文献】
https://breakingnewsenglish.com/

A very useful website for self study. The articles are taken from real news articles and edited to match many different English Levels.

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	Course explanation and self-introductions. Random questions.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
2	Unit 17. That sounds fun! We will talk about free-time activities.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
3	Unit 18. I'd love to go. We will learn expressions about inviting and responding to invitations.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
4	Unit 19. I'm sorry but I can't. We will study how to politely decline an invitation.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
5	Unit 20. Sorry, I'm late. The class will be more familiar of apologetic expressions.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
6	Unit 21. Did you go alone? The class will ask and describe to each other past events.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
7	Unit 22. Which do you prefer? The students will talk about their preferences and explain why.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
8	Unit 23. You must get a visa. We will learn about the do's and don'ts of traveling abroad.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
9	Review of Units 17-23 and Midterm Exam	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
10	Unit 24. When is the next train? We will make a list of possible questions that might be helpful to remember when traveling aboard like asking about prices and schedules.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		advance, in preparation for the class.	
11	Unit 25. I usually wear.. We will identify ways to describe general behavior and clothes.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
12	Unit 26. What do you think? The class will ask for ideas and other people's opinions.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
13	Unit 27. Can you do me a favor? The students will recognize expressions in making and agreeing to requests.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
14	Unit 28. What is it used for? We will learn how to describe the use of new products.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
15	Unit 29. I think it's fun! The class will learn different ways to ask for and give opinions.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCE203
授業形態： 演習
科目名： 英語表現法Ⅰ
担当教員： ブルスビーン　アマド　タボアダ

【授業の紹介】
In this course, the students will be building as foundation of basic phrases and vocabulary to help them discuss various issues. The course aims to help students develop confidence through self expression and discussion while building their knowledge of basic English grammar and vocabulary. They will take part in reading and writing tasks,

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
Students should feel more confident when using English to express their thoughts and feelings. Though they will still make many mistakes, they will not worry so much that it stops them from taking part in discussion. They should also have developed a stronger understanding of basic grammar and a larger bank of vocabulary.

【成績の評価】
in class effort: 30%
midterm exam: 20%
Homework: 20%
Final exam: 30%

Students will receive feedback and advice on their progress during class-time.

【使用テキスト】
Topic Talk: issues, Second Edition
EFL Press
￥2,805
Order from: http://www.eflpress.com/JP/orders.html

【参考文献】
https://breakingnewsenglish.com/

A very useful website for self study. The articles are taken from real news articles and edited to match many different English Levels.

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	course explanation and self introductions. Students will learn about what they need for the course as well as what is expected of them to succeed.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
2	Health. We will discuss health and healthy living.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
3	Health. We will talk about moral and social issues with regards to health.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
4	Animals. We will discuss pets and our relationship in society with animals.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
5	We will continue with the topic of animals, but also introduce the "conditional tense" to imagine how things could be different.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
6	Fashion and self expression	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
7	midterm exam	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
8	Fashion and self expression continued. Adjectives and comparisons.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
9	Families and relationships.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
10	Families and relationships continued. We will also practiced should/shouldn't/ have to/ mustn't	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
11	Culture and culture shock.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
12	Culture and culture shock continued. Comparisons and differences.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
13	Love and marriage.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
14	Personal expectations. Should / shouldn't.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
15	Work and office life.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：
授業形態： 演習
科目名： プラクティカル・イングリッシュIII
担当教員： ブルスビーン　アマド　タボアダ

【授業の紹介】
In this course, the students will be building as foundation of basic phrases and vocabulary to help them discuss various issues. The course aims to help students develop confidence through self expression and discussion while building their knowledge of basic English grammar and vocabulary. They will take part in reading and writing tasks,

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
Students should feel more confident when using English to express their thoughts and feelings. Though they will still make many mistakes, they will not worry so much that it stops them from taking part in discussion. They should also have developed a stronger understanding of basic grammar and a larger bank of vocabulary.

【成績の評価】
in class effort: 30%
midterm exam: 20%
Homework: 20%
Final exam: 30%

Students will receive feedback and advice on their progress during class-time.

【使用テキスト】
Topic Talk: issues, Second Edition
EFL Press
￥2,805
Order from: http://www.eflpress.com/JP/orders.html

【参考文献】
https://breakingnewsenglish.com/

A very useful website for self study. The articles are taken from real news articles and edited to match many different English Levels.

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	course explanation and self introductions. Students will learn about what they need for the course as well as what is expected of them to succeed.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
2	Health. We will discuss health and healthy living.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
3	Health. We will talk about moral and social issues with regards to health.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
4	Animals. We will discuss pets and our relationship in society with animals.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
5	We will continue with the topic of animals, but also introduce the "conditional tense" to imagine how things could be different.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
6	Fashion and self expression	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
7	midterm exam	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
8	Fashion and self expression continued. Adjectives and comparisons.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
9	Families and relationships.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
10	Families and relationships continued. We will also practiced should/shouldn't/ have to/ mustn't	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
11	Culture and culture shock.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
12	Culture and culture shock continued. Comparisons and differences.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
13	Love and marriage.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
14	Personal expectations. Should / shouldn't.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
15	Work and office life.	Students will be expected to complete 60 minutes of assignments outside of class each week, as well as check their notes and practice the English they have learned.	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCE204
授業形態： 演習
科目名： 英語表現法II
担当教員： ブルスビーン　アマド　タボアダ

【授業の紹介】
Building from the previous course, students will continue to participate in different conversation activities ranging from personal to societal matters. Through combination of writing speaking and listening tasks the students will have opportunity to use English to express their own experiences and opinions.

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
By the end of the course come on the students will have fair understanding of grammatical rules and expressions used in day-to-day life and should have built up a word bank that can help them converse with English speakers.

【成績の評価】
In-class effort (individual and collaborative work): 30%
Homework: 10%
Midterm Exam: 25%
Final Exam: 35%

Students will receive feedback and advice on their progress during class time.

【使用テキスト】
Speak Now 3
Communicate with Confidence
by Jack C. Richards and David Bohlke,
Oxford University Press
(ISBN 978-0-19-403017-5)

【参考文献】
https:// breakingnewsenglish.com/
A very useful website for self study.

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	Course explanation and self-introductions. Random questions. Lesson/Unit 17 – You didn’t know? We will learn how to respond to questions to express surprise or interest.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
2	Unit 18. A good friend is loyal. We will learn to emphasize important details.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
3	Unit 19. I could do that. We will study expressions to comment positively or negatively to suggestions.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
4	Unit 20. I wish I’d remember. The class will talk about regrets and how to offer solutions to problems.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
5	Unit 21. I’d rather not. The students will describe their qualifications.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
6	Unit 22. It could be an ad for… The class will discuss probabilities and possibilities with their peers.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
7	Unit 23. The main reason is… We will learn how to describe trends and its possible reasons.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
8	Unit 24. It needs a good location. We will talk about opening a business and its necessity.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
9	Review of Units 17-24 and then Midterm Exam	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
10	Unit 25. You’re expected to… The class will learn expressions to describe expectations.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
11	Unit 26. What does it mean? We will explore ways to ask about and say what something means.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
12	Unit 27. What will happen if…? The class will talk about consequences and how to describe them.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
13	Unit 28. It must have been… We will learn how to speculate about things.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
14	Unit 29. Cars will most likely fly. We	Students will be expected to complete 60	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	will practice expressions about making predictions.	minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
15	Unit 30. That’s a really good idea! We will learn new words to add emphasis.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：
授業形態： 演習
科目名： プラクティカル・イングリッシュⅣ
担当教員： ブルスビーン　アマド　タボアダ

【授業の紹介】
Building from the previous course, students will continue to participate in different conversation activities ranging from personal to societal matters. Through combination of writing speaking and listening tasks the students will have opportunity to use English to express their own experiences and opinions.

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
By the end of the course come on the students will have fair understanding of grammatical rules and expressions used in day-to-day life and should have built up a word bank that can help them converse with English speakers.

【成績の評価】
In-class effort (individual and collaborative work): 30%
Homework: 10%
Midterm Exam: 25%
Final Exam: 35%

Students will receive feedback and advice on their progress during class time.

【使用テキスト】
Speak Now 3
Communicate with Confidence
by Jack C. Richards and David Bohlke,
Oxford University Press
(ISBN 978-0-19-403017-5)

【参考文献】
https:// breakingnewsenglish.com/
A very useful website for self study.

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	Course explanation and self-introductions. Random questions. Lesson/Unit 17 – You didn’t know? We will learn how to respond to questions to express surprise or interest.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
2	Unit 18. A good friend is loyal. We will learn to emphasize important details.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
3	Unit 19. I could do that. We will study expressions to comment positively or negatively to suggestions.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
4	Unit 20. I wish I’d remember. The class will talk about regrets and how to offer solutions to problems.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
5	Unit 21. I’d rather not. The students will describe their qualifications.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
6	Unit 22. It could be an ad for… The class will discuss probabilities and possibilities with their peers.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
7	Unit 23. The main reason is… We will learn how to describe trends and its possible reasons.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
8	Unit 24. It needs a good location. We will talk about opening a business and its necessity.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
9	Review of Units 17-24 and then Midterm Exam	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
10	Unit 25. You’re expected to… The class will learn expressions to describe expectations.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		advance, in preparation for the class.	
11	Unit 26. What does it mean? We will explore ways to ask about and say what something means.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
12	Unit 27. What will happen if…? The class will talk about consequences and how to describe them.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
13	Unit 28. It must have been… We will learn how to speculate about things.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
14	Unit 29. Cars will most likely fly. We will practice expressions about making predictions.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
15	Unit 30. That’s a really good idea! We will learn new words to add emphasis.	Students will be expected to complete 60 minutes of homework each week, as well as check their notes and practice the English they have learned. They are expected to read the next unit in advance, in preparation for the class.	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCF101
授業形態： 演習
科目名： フランス語Ⅰ
担当教員： エラリー　ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】
「フランス語が難しければ、フランス人でも話せません！」という出発点から始まります。赤ちゃんは周りの音から少しずつ意味が取れるようになり、自分から表現できるようになります。このフランス語Ⅰに参加される皆さんは赤ちゃんではありませんが、同じやり方で少しずつフランス語を自分のものにしていきます。ポイントは実際に話される内容を生かせることです。つまり、テキストの登場人物がやっていることを学んでいくのではなく、自分について、自分がやっていることについて、自分がやりたいことについて、そしてそれぞれについて仲間に尋ねる、という覚え方です。

１５回の授業を２つのプロジェクトに分けます。それをさらに３つのテーマに分けて、各テーマに対して２つの授業をします。1つ目の授業は先生の話しているモデルに従った簡単な会話が中心になり（話す力）、そして、その会話について簡単な文書を読みます（読む力）。２つ目の授業は身についた内容について簡単な作文をし（書く力）、それを発表して、会話に戻します（一つの「聞く、話す、読む、書く」循環が完成できました）。テーマを通じて、語彙や使える表現が少しずつ増やしていきます。
プロジェクトごとにまとめ（復習）の授業があります。最後の授業は次のステップにつなげる内容を導入します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．実際の状況に応じて、コミュニケーションを図ることができる。
２．総合的なフランス語能力を身につけるため、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開できる。

【成績の評価】
授業中の積極的な参加の評価　　８０％
テーマの復習　　２０％　　総合合格点は６０点以上です。
授業時間内に随時コメントを行うことでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
必要な場合はプリント

【参考文献】
https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	（初級）自分について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
2	（初級）自分について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
3	（初級）家族、親戚について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
4	（初級）家族、親戚について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
5	（初級）友達、先生、バイト先の仲間について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
6	（初級）友達、先生、バイト先の仲間について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
7	（初級）テーマの復習	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
8	（中級）自分について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
9	（中級）自分について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
10	（中級）家族、親戚について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
11	（中級）家族、親戚について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
12	（中級）友達、先生、バイト先の仲間について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
13	（中級）友達、先生、バイト先の仲間について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
14	（中級）テーマの復習	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
15	（初級）日常生活について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UCF102
授業形態： 演習
科目名： フランス語II
担当教員： エラリー　ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】
フランス語Ｉを参照。
フランス語IIは、同じ方法で、別のプロジェクトを通じてフランス語能力を高めていきます。フランス語検定５級を受けたい生徒に対して独学で受けられるようにヒントを提示します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．実際の状況に応じて、コミュニケーションを図ることができる。
２．総合的なフランス語能力を身につけるため、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開できる。
３．独学でフランス語検定５級を受けられる力を身につけることができる。

【成績の評価】
授業中の積極的な参加の評価　　８０％
テーマの復習　　２０％　　総合合格点は６０点以上です。
授業時間内に随時コメントを行うことでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
必要な場合はプリント

【参考文献】
https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	（初級）日常生活について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
2	（初級）日常生活について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
3	（中級１）日常生活について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
4	（中級１）日常生活について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
5	（中級２）日常生活について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
6	（中級２）日常生活について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
7	テーマの復習（第１回～第６回）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
8	（初級）最近あったことについて、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
9	（初級）最近あったことについて、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
10	（初級）これからあることについて、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
11	（初級）これからあることについて、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
12	（中級）最近あったこと、これからあることについて、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
13	（中級）最近あったこと、これからあることについて、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
14	テーマの復習（第８回～第１３回）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
15	（初級）自分の好みとその理由について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UCF201
授業形態： 演習
科目名： フランス語III
担当教員： エラリー　ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】
フランス語Ⅰを参照。
フランス語Ⅲは、同じ方法で、別のプロジェクトを通じてフランス語能力を高めていきます。フランス語検定４級を受けたい生徒に対して独学で受けられるようにヒントを提示します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．実際の状況に応じて、コミュニケーションを図ることができる。
２．総合的なフランス語能力を身につけるため、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開できる。

【成績の評価】
授業中の積極的な参加の評価　　８０％
テーマの復習　　２０％　　総合合格点は６０点以上です。
授業時間内に随時コメントを行うことでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
必要な場合はプリント

【参考文献】
https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	（初級）自分の好みとその理由について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
2	（初級）自分の好みとその理由について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
3	（中級１）自分の好みとその理由について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
4	（中級１）自分の好みとその理由について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
5	（中級２）自分の好みとその理由について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
6	（中級２）自分の好みとその理由について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
7	テーマの復習（第１回～第６回）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
8	（初級）自分の小さい頃について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
9	（初級）自分の小さい頃について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
10	（中級１）自分の小さい頃について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
11	（中級１）自分の小さい頃について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
12	（中級２）自分の小さい頃について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
13	（中級２）自分の小さい頃について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
14	テーマの復習（第８回～第１３回）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
15	（初級）人や場所の描写、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UCF202
授業形態： 演習
科目名： フランス語IV
担当教員： エラリー　ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】
フランス語Ｉを参照。
フランス語IVは、同じ方法で、別のプロジェクトを通じてフランス語能力を高めていきます。フランス語検定４級を受けたい生徒に対して独学で受けられるようにヒントを提示します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．実際の状況に応じて、コミュニケーションを図ることができる。
２．総合的なフランス語能力を身につけるため、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開できる。
３．独学でフランス語検定４級を受けられる力を身につけることができる。

【成績の評価】
授業中の積極的な参加の評価　　８０％
テーマの復習　　２０％　　総合合格点は６０点以上です。
授業時間内に随時コメントを行うことでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
必要な場合はプリント

【参考文献】
https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	（初級）日常生活について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
2	（初級）人や場所の描写、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
3	（中級１）人や場所の描写、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
4	（中級１）人や場所の描写、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
5	（中級２）人や場所の描写、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
6	（中級２）人や場所の描写、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
7	テーマの復習（第１回～第６回）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
8	（初級）自分のしたいこと、夢、計画について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
9	（初級）自分のしたいこと、夢、計画について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
10	（中級１）自分のしたいこと、夢、計画について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
11	（中級１）自分のしたいこと、夢、計画について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
12	（中級２）自分のしたいこと、夢、計画について、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
13	（中級２）自分のしたいこと、夢、計画について、書く（発表）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
14	テーマの復習（第８回～第１３回）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
15	（初級）自信のあること、不難なことについて、話す（読む）	授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は１日１５分程度）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UCC101
授業形態： 演習
科目名： 中国語Ⅰ
担当教員： 李　佳坤(Li　JiaKun)

【授業の紹介】
この授業では、中国語を話し読むための発音記号（ピンイン）や中国語の基本文型を学習し、そのうえ、漢字を読み、単語を覚え、簡単な会話や挨拶を練習していきます。発音の練習は通信媒体の機能を利用して楽しく学習していきます。また、中国社会や中国文化についても紹介し、グローバルな思考を養います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．中国語の発音記号（ピンイン）を学習することによって中国語の漢字をすべて読むことができる。
２．中国語での挨拶や簡単な会話ができるようになる。
３．中国語基本文型の構造が理解できる。

【成績の評価】
授業中の各活動（10%）、授業時間外の学習ための問題（10%）、中間テスト（30%）、期末テスト（５０%）
作文や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】
陳淑梅・劉光赤　著　　「実学実用　初級中国語」　朝日出版社

【参考文献】
日中・中日辞書
自編教材『ピンインをマスターできる』

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーションと単母音	予習：教科書の８ページの単母音 復習：学習内容をノートにまとめ。	
2	子音と単母音	予習：教科書の１４ページの子音 復習：配ったプリントで復習する。	
3	子音と複合母音	予習：教科書の複合母音 復習：配ったプリントで復習する。	
4	子音と鼻音	予習：教科書の鼻音 復習：配ったプリントで復習する。	
5	ピンインの復習と簡単な挨拶	予習：教科書２０ページまで 復習：配ったプリントで復習する。	
6	ピンインテスト	予習：教科書２０ページまで 復習：配ったプリントで復習する。	
7	名前の言い方	予習：自分の名前を中国語で読めるようにピンインを付ける。 復習：自己紹介の練習	
8	「是」の使い方	予習：教科書の２４－２７ページ 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。	
9	動詞述語	予習：教科書の７課の内容 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。	
10	動詞「喜欢」の使い方	予習：教科書の８課の内容 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。	
11	動詞「有」の使い方	予習：教科書の９課の内容 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。	
12	時間名詞と使い方	予習：教科書の内容 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。	
13	「在」	予習：教科書の内容 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。	
14	形容詞述語	予習：教科書の内容 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。	
15	復習	予習：教科書の内容	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCC102
授業形態： 演習
科目名： 中国語II
担当教員： 李　佳坤(Li　JiaKun)

【授業の紹介】
　この授業では、中国語Ｉを学習した学生を対象にさらに語彙を増やし、基本文型を学習し、それを使って会話をしたり、中国語の文章を読んだり、書いたりします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．簡単な会話ができる。
２．簡単な中国語を読んだり、書くことができる。

【成績の評価】
小テスト（プリント）（２５％）、中間テスト（２５％）、期末テスト（５０％）
作文や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】
陳　淑梅・劉光赤著　「実学実用　初級中国語」(朝日出版社)

【参考文献】
『中日・日中辞典』

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	前置詞「从·往·离」	予習：教科書の１１課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
2	動詞「在」と文末の「了」	予習：教科書の１２課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
3	時刻、時量詞	予習：教科書の１３課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
4	比較の言い方	予習：教科書の１４課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
5	助動詞「可以」、方向補語	予習：教科書の１５課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
6	復習	予習：教科書の１１課～１５課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
7	中間テスト	予習：教科書の１１課～１５課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
8	結果補語、助動詞「会」	予習：教科書の１６課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
9	二重目的語、様態補語と助動詞「能」	予習：教科書の１７課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
10	可能補語	予習：教科書の１８課の前半 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
11	程度補語	予習：教科書の１８課の後半 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
12	「是…的」の使い方	予習：教科書の１９課の前半 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
13	進行と持続の表現	予習：教科書の１９課の後半 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
14	存現文	予習：教科書の２０課	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
15	復習	予習：教科書の１６課～２０課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCC201
授業形態： 演習
科目名： 中国語III
担当教員： 李　佳坤(Li　JiaKun)

【授業の紹介】
　この授業は、中国語Ⅰ・Ⅱを学習した学生を対象に、さらに語彙や文型を学習し、1つの場面を決め、それにめぐる内容で話す・書く練習をします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．いくつかの日常生活場面の会話ができる。
２．生活場面の会話内容を中国語で書くことができる。

【成績の評価】
中文の読解と作文（20%）、小テスト（30%）、期末テスト（５０%）
中文の読解と作文、小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】
「中国語実用会話　初級から中級へ』　李佳坤著

【参考文献】
『中日・日中辞典』

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション		
2	自己紹介	予習：第1課 復習：自己紹介文を作る。	
3	自分についての短文の読解と会話の練習	予習：短文を読解する。 復習：原稿なしで自己紹介できる練習	
4	家族	予習：第２課 復習：家族を紹介する文を作る。	
5	家族についての短文の読解と会話の練習	予習：短文を読解する。 復習：家族を紹介する内容を会話文にする。	
6	一日	予習：第３課 復習：自分の一日の行動を紹介する文を作る。	
7	一日についての短文の読解と会話の練習	予習：短文を読解する。 復習：自分の一日の行動を紹介する内容を会話文にする。	
8	中間テスト	予習：１－３課の内容	
9	趣味	予習：第４課 復習：自分の趣味を紹介する文を作る。	
10	趣味についての短文の読解と会話の練習	予習：短文を読解する。 復習：自分の趣味を紹介する内容を会話文にする。	
11	夏休み	予習：第５課 復習：自分の夏休みを紹介する文を作る。	
12	夏休みについての短文の読解と会話の練習	予習：短文を読解する。 復習：自分の夏休みを紹介する内容を会話文にする。	
13	旅行	予習：第６課 復習：自分の旅行を紹介する文を作る。	
14	旅行について作文と会話	予習：短文を読解する。 復習：自分の旅行を紹介する内容を会話文にする。	
15	これまで学習した内容の復習	予習：１～６課の内容 教科書の１～６課の練習問題で復習する。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCC202
授業形態： 演習
科目名： 中国語IV
担当教員： 李　佳坤(Li　JiaKun)

【授業の紹介】
この授業は、中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを習得した学生を対象にします。中国へ一人旅するときに遭遇する場面を想定し、その会話の練習をします。また、その会話文を文章にする練習もします。さらに、中国文化や最近の出来事などをも紹介します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．簡単な中国語の文章を読解できる。
２．中国へ一人旅できる程度の会話ができる。

【成績の評価】
中文の読解と作文・レポート（２５％）、中間テスト（２５％）、期末テスト（５０％）
中文の読解と作文・レポートや小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】
『中国語実用会話　初級から中級へ』　李佳坤著

【参考文献】
『中日・日中辞典』

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	第１回　オリエンテーション		
2	買い物	予習：買い物に使う単語をノートにまとめる。 復習：買い物するときの会話文を作る。	
3	買い物についての短文の読解と会話の練習	予習：買い物についての日本語文を中国語に訳す。 復習：教科書と異なるシチュエーションを作文する。	
4	レストランにて	予習：レストランで使う単語をノートにまとめる。 復習：レストランにての会話文を作る。	
5	レストランについての短文の読解と会話の練習	予習：レストランにての日本語文を中国語に訳す。 復習：教科書と異なるシチュエーションを作文する。	
6	道を尋ねる	予習：道を尋ねる際に使う単語をノートにまとめる。 復習：道を尋ねる際の会話文を作る。	
7	道を聞くことについての短文の読解と会話の練習	予習：道を尋ねる際の日本語文を中国語に訳す。 復習：教科書と異なるシチュエーションを作文する。	
8	中間テスト	予習：これまで学習した単語と文型をまとめる。	
9	病気	予習：体の不調に関する単語をノートにまとめる。 復習：体の不調を述べる会話文を作る。	
10	病気についての短文の読解と会話の練習	予習：病気に関する日本語文を中国語に訳す。 復習：教科書と異なるシチュエーションを作文する。	
11	電話でチケットを注文	予習：電話をかける時に使う単語をノートにまとめる。 復習：電話をかける時の会話文を作る。	
12	電話をかける短文の読解と会話の練習	予習：電話でチケットを買う日本語文を中国語に訳す。 復習：教科書と異なるシチュエーションを作文する。	
13	友達を作る	予習：友達を訪問する時に使う単語をノートにまとめる。 復習：友達を訪問する時の会話文を作る。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
14	友達について短文の読解と会話	予習：友達を訪問する際の日本語文を中国語に訳す。 復習：教科書と異なるシチュエーションを作文する。	
15	これまで学習した内容の復習	これまで学習した内容や教科書にある練習問題を復習する。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCK101
授業形態： 演習
科目名： 韓国語Ⅰ【A】
担当教員： 崔　榮晋(CHOI Youngjin)

【授業の紹介】
　この授業は、実務経験のある教員が担当しています。授業では、韓国語を読む・書くための文字であるハングルの基本文字（24字）と基本文法を学習します。日本語の文法と似ているので、単語を覚えていくと会話がより豊になります。多くの学習者が苦手とする、発音は日本語の単語から分かりやすく説明し練習して綺麗な発音が習得できます。また、韓国の文化・社会などについても紹介し理解を深め、グローバルな思考力も養います。楽しく学んで韓国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．　韓国語の固有文字であるハングルの読み書きを正確な発音として習得できる。
２．　韓国語での基本的な挨拶や簡単な会話が出来きることでコミュニケーションの楽しさを経験できる。
３．　韓国語の語順や文型は、日本語と同様な部分が多く日本語ベースで構造を理解することができる。
４．　韓国語だけではなく、社会・文化・経済・政治・歴史などにも理解を深めることができる。

【成績の評価】
授業への取り組みや各活動（20%）、小テスト・課題・レポート（50%）、期末試験（30%）
小テスト。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評します。定期試験については、教務課窓口で模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】
「WE CAN　韓国語Ⅰ」（入門から初級へ）　金世徳・張京花　著　（博英社）　ISBN　978-4-910132-15-0

【参考文献】

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーションと基本母音（10個）		
2	基礎子音（14個）合成母音		
3	韓国語の仕組み		
4	終声(パッチム)と発音のルール		
5	まとめ（母音・子音の発音と成り立ちの習得を確認）		
6	～です/ですか／～は（自己紹介）		
7	～ではありません。		
8	あります/います／～に		
9	ありません/いません		
10	まとめ（母音・子音を用いて自由に書き取りができる。自己紹介などの基本挨拶の表現ができる）		
11	「この、その、あの」+N		
12	助詞「～と、～も」		
13	～です・～ます「名詞文の합니다体」		
14	助詞「～を、～で」		
15	漢数字の言い方		
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCK101
授業形態： 演習
科目名： 韓国語Ⅰ【B】
担当教員： 朴　英信

【授業の紹介】
　この授業は、実務経験のある教員が担当しています。授業では、韓国語を読む・書くための文字であるハングルの基本文字（24字）と基本文法を学習します。日本語の文法と似ているので、単語を覚えていくと会話がより豊になります。多くの学習者が苦手とする、発音は日本語の単語から分かりやすく説明し練習して綺麗な発音が習得できます。また、韓国の文化・社会などについても紹介し理解を深め、グローバルな思考力も養います。楽しく学んで韓国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．　韓国語の固有文字であるハングルの読み書きを正確な発音として習得できる。
２．　韓国語での基本的な挨拶や簡単な会話が出来きることでコミュニケーションの楽しさを経験できる。
３．　韓国語の語順や文型は、日本語と同様な部分が多く日本語ベースで構造を理解することができる。
４．　韓国語だけではなく、社会・文化・経済・政治・歴史などにも理解を深めることができる。

【成績の評価】
授業への取り組みや各活動（20%）、小テスト・課題・レポート（50%）、期末試験（30%）
小テスト。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評します。定期試験については、教務課窓口で模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】
「WE CAN　韓国語Ⅰ」（入門から初級へ）　金世徳・張京花　著　（博英社）　ISBN　978-4-910132-15-0

【参考文献】

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーションと基本母音（10個）		
2	基礎子音（14個）合成母音		
3	韓国語の仕組み		
4	終声(パッチム)と発音のルール		
5	まとめ（母音・子音の発音と成り立ちの習得を確認）		
6	～です/ですか／～は（自己紹介）		
7	～ではありません。		
8	あります/います／～に		
9	ありません/いません		
10	まとめ（母音・子音を用いて自由に書き取りができる。自己紹介などの基本挨拶の表現ができる）		
11	「この、その、あの」+N		
12	助詞「～と、～も」		
13	～です・～ます「名詞文の합니다体」		
14	助詞「～を、～で」		
15	漢数字の言い方		
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCK102
授業形態： 演習
科目名： 韓国語Ⅱ【A】
担当教員： 崔　榮晋(CHOI Youngjin)

【授業の紹介】
　この授業は、実務経験のある教員が担当しています。「韓国語Ⅱ」を履修した学生を対象とします。「韓国語Ⅱ」で学んだ内容を確実に復習した上、より多彩な表現と文法を学習し、多様な場面でコミュニケーションができるように練習します。また、韓国の文化・社会などについても紹介し理解を深め、グローバルな思考力も養います。楽しく学んで韓国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．　「韓国語Ⅱ」で学んだ内容を理解し、韓国の日常生活や文化を深める。
２．　より複雑な表現と文法を理解することができる。
３．　学習した内容を実際に利用し、多様な場面でコミュニケーションすることができる。
４．　簡単な文の内容と書き手の意図を理解し、自分の意見を表現することができる。
５．　韓国語だけではなく、社会・文化・経済・政治・歴史などにも理解を深めることができる。
６．　ハングル能力検定４級以上の合格を目標とする。

【成績の評価】
授業への取り組みや各活動（20%）、小テスト・課題・レポート（50%）、期末試験（30%）
小テスト。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評します。定期試験については、教務課窓口で模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】
「WE CAN　韓国語Ⅰ」（入門から初級へ）　金世徳・張京花　著　（博英社）　ISBN　978-4-910132-15-0

【参考文献】

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーションと韓国語Ⅱのまとめ		
2	過去形（でした、ました、でしたか、ましたか）		
3	～기 전에 （～する前に）		
4	～을 까요（～ましょうか）		
5	～고 싶어요（～したいです）		
6	～읍시다「勧誘や希望の言い方（ーましょう。ーしたい）」		
7	～은 후에 （～した後に）		
8	～만 （～ただ、ひたすら、だけ、のみ）		
9	～するつもりです・～予定です「予定、意思」		
10	～는 중（～しているところ）		
11	～しようとする。（予定や計画、～려고 해요）		
12	～에서～까지（～から～まで）		
13	～기로 하다。（～することにする）		
14	～아/어 있어요。（状態の継続）		
15	状態の継続のまとめ（～ている）		
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCK102
授業形態： 演習
科目名： 韓国語Ⅱ【B】
担当教員： 朴　英信

【授業の紹介】
　この授業は、実務経験のある教員が担当しています。「韓国語Ⅱ」を履修した学生を対象とします。「韓国語Ⅱ」で学んだ内容を確実に復習した上、より多彩な表現と文法を学習し、多様な場面でコミュニケーションができるように練習します。また、韓国の文化・社会などについても紹介し理解を深め、グローバルな思考力も養います。楽しく学んで韓国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．　「韓国語Ⅱ」で学んだ内容を理解し、韓国の日常生活や文化を深める。
２．　より複雑な表現と文法を理解することができる。
３．　学習した内容を実際に利用し、多様な場面でコミュニケーションすることができる。
４．　簡単な文の内容と書き手の意図を理解し、自分の意見を表現することができる。
５．　韓国語だけではなく、社会・文化・経済・政治・歴史などにも理解を深めることができる。
６．　ハングル能力検定４級以上の合格を目標とする。

【成績の評価】
授業への取り組みや各活動（20%）、小テスト・課題・レポート（50%）、期末試験（30%）
小テスト。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評します。定期試験については、教務課窓口で模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】
「WE CAN　韓国語Ⅰ」（入門から初級へ）　金世徳・張京花　著　（博英社）　ISBN　978-4-910132-15-0

【参考文献】

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーションと韓国語Ⅱのまとめ		
2	過去形（でした、ました、でしたか、ましたか）		
3	～기 전에 （～する前に）		
4	～을 까요（～ましょうか）		
5	～고 싶어요（～したいです）		
6	～읍시다「勧誘や希望の言い方（ーましょう。ーしたい）」		
7	～은 후에 （～した後に）		
8	～만 （～ただ、ひたすら、だけ、のみ）		
9	～するつもりです・～予定です「予定、意思」		
10	～는 중（～しているところ）		
11	～しようとする。（予定や計画、～려고 해요）		
12	～에서～까지（～から～まで）		
13	～기로 하다。（～することにする）		
14	～아/어 있어요。（状態の継続）		
15	状態の継続のまとめ（～ている）		
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCK103
授業形態： 演習
科目名： 韓国語III【A】
担当教員： 崔　榮晋(CHOI Youngjin)

【授業の紹介】
　この授業は、実務経験のある教員が担当しています。「韓国語Ⅱ」を履修した学生を対象とします。「韓国語Ⅱ」で学んだ内容を確実に復習した上、より多彩な表現と文法を学習し、多様な場面でコミュニケーションができるように練習します。また、韓国の文化・社会などについても紹介し理解を深め、グローバルな思考力も養います。楽しく学んで韓国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．　「韓国語Ⅱ」で学んだ内容を理解し、韓国の日常生活や文化を深める。
２．　より複雑な表現と文法を理解することができる。
３．　学習した内容を実際に利用し、多様な場面でコミュニケーションすることができる。
４．　簡単な文の内容と書き手の意図を理解し、自分の意見を表現することができる。
５．　韓国語だけではなく、社会・文化・経済・政治・歴史などにも理解を深めることができる。
６．　ハングル能力検定４級以上の合格を目標とする。

【成績の評価】
授業への取り組みや各活動（20%）、小テスト・課題・レポート（50%）、期末試験（30%）
小テスト。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評します。定期試験については、教務課窓口で模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】
「WE CAN　韓国語Ⅱ」（初級から中級へ）　金世徳・張京花　著　（博英社）　ISDN　978-4-910132-32-7

【参考文献】

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーションと韓国語Ⅱのまとめ		
2	過去形（でした、ました、でしたか、ましたか）		
3	～기 전에 （～する前に）		
4	～을 까요（～ましょうか）		
5	～고 싶어요（～したいです）		
6	～읍시다「勧誘や希望の言い方（ーましょう。ーしたい）」		
7	～은 후에 （～した後に）		
8	～만 （～ただ、ひたすら、だけ、のみ）		
9	～するつもりです・～予定です「予定、意思」		
10	～는 중（～しているところ）		
11	～しようとする。（予定や計画、～려고 해요）		
12	～에서～까지（～から～まで）		
13	～기로 하다。（～することにする）		
14	～아/어 있어요。（状態の継続）		
15	状態の継続のまとめ（～ている）		
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCK103
授業形態： 演習
科目名： 韓国語III【B】
担当教員： 朴　英信

【授業の紹介】
　この授業は、実務経験のある教員が担当しています。「韓国語Ⅱ」を履修した学生を対象とします。「韓国語Ⅱ」で学んだ内容を確実に復習した上、より多彩な表現と文法を学習し、多様な場面でコミュニケーションができるように練習します。また、韓国の文化・社会などについても紹介し理解を深め、グローバルな思考力も養います。楽しく学んで韓国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．　「韓国語Ⅱ」で学んだ内容を理解し、韓国の日常生活や文化を深める。
２．　より複雑な表現と文法を理解することができる。
３．　学習した内容を実際に利用し、多様な場面でコミュニケーションすることができる。
４．　簡単な文の内容と書き手の意図を理解し、自分の意見を表現することができる。
５．　韓国語だけではなく、社会・文化・経済・政治・歴史などにも理解を深めることができる。
６．　ハングル能力検定４級以上の合格を目標とする。

【成績の評価】
授業への取り組みや各活動（20%）、小テスト・課題・レポート（50%）、期末試験（30%）
小テスト。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評します。定期試験については、教務課窓口で模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】
「WE CAN　韓国語Ⅱ」（初級から中級へ）　金世徳・張京花　著　（博英社）　ISDN　978-4-910132-32-7

【参考文献】

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーションと韓国語Ⅱのまとめ		
2	過去形（でした、ました、でしたか、ましたか）		
3	～기 전에 （～する前に）		
4	～을 까요（～ましょうか）		
5	～고 싶어요（～したいです）		
6	～읍시다「勧誘や希望の言い方（ーましょう。ーしたい）」		
7	～은 후에 （～した後に）		
8	～만 （～ただ、ひたすら、だけ、のみ）		
9	～するつもりです・～予定です「予定、意思」		
10	～는 중（～しているところ）		
11	～しようとする。（予定や計画、～려고 해요）		
12	～에서～까지（～から～まで）		
13	～기로 하다。（～することにする）		
14	～아/어 있어요。（状態の継続）		
15	状態の継続のまとめ（～ている）		
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： uCK104
授業形態： 演習
科目名： 韓国語IV【A】
担当教員： 崔　榮晋(CHOI Youngjin)

【授業の紹介】
　この授業は、実務経験のある教員が担当しています。「韓国語Ⅲ」を履修した学生を対象とします。「韓国語Ⅲ」で学んだ内容を確実に復習した上、より多彩な表現と文法を学習し、多様な場面でコミュニケーションができるように練習します。また、韓国の文化・社会などについても紹介し理解を深め、グローバルな思考力も養います。楽しく学んで韓国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．　「韓国語Ⅲ」で学んだ内容を理解し、韓国語や文化を深める。
２．　より複雑な表現と文法を理解することができる。
３．　学習した内容を実際に利用し、多様な場面でコミュニケーションすることができる。
４．　簡単な文の内容と書き手の意図を理解し、自分の意見を表現することができる。
５．　韓国語だけではなく、社会・文化・経済・政治・歴史などにも理解を深めることができる。
６．　ハングル能力検定４級以上の合格を目標とする。

【成績の評価】
授業への取り組みや各活動（20%）、小テスト・課題・レポート（50%）、期末試験（30%）
小テスト。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評します。定期試験については、教務課窓口で模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】
「WE CAN　韓国語Ⅱ」（初級から中級へ）　金世徳・張京花　著　（博英社）　ISDN　978-4-910132-32-7

【参考文献】

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーションと韓国語IIIのおさらい		
2	第7課　～なければならない		
3	～て、くて、ので		
4	第8課　～しに行く（移動の目的）		
5	～したり		
6	文化の紹介		
7	第9課　~でも良い「許可」		
8	～ではいけない「禁止」		
9	第10課　～します「意志」		
10	～에게(한테) に（人・動物を表す語に付く）		
11	第11課　~することが出来る「可能」		
12	～기 때문에 （～ので、から）		
13	第12課　～してから「経過」		
14	～을 께요（～します）「未来」		
15	まとめ		
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： uCK104
授業形態： 演習
科目名： 韓国語IV【B】
担当教員： 朴　英信

【授業の紹介】
　この授業は、実務経験のある教員が担当しています。「韓国語Ⅲ」を履修した学生を対象とします。「韓国語Ⅲ」で学んだ内容を確実に復習した上、より多彩な表現と文法を学習し、多様な場面でコミュニケーションができるように練習します。また、韓国の文化・社会などについても紹介し理解を深め、グローバルな思考力も養います。楽しく学んで韓国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．　「韓国語Ⅲ」で学んだ内容を理解し、韓国語や文化を深める。
２．　より複雑な表現と文法を理解することができる。
３．　学習した内容を実際に利用し、多様な場面でコミュニケーションすることができる。
４．　簡単な文の内容と書き手の意図を理解し、自分の意見を表現することができる。
５．　韓国語だけではなく、社会・文化・経済・政治・歴史などにも理解を深めることができる。
６．　ハングル能力検定４級以上の合格を目標とする。

【成績の評価】
授業への取り組みや各活動（20%）、小テスト・課題・レポート（50%）、期末試験（30%）
小テスト。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評します。定期試験については、教務課窓口で模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】
「WE CAN　韓国語Ⅱ」（初級から中級へ）　金世徳・張京花　著　（博英社）　ISDN　978-4-910132-32-7

【参考文献】

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーションと韓国語IIIのおさらい		
2	第7課　～なければならない		
3	～て、くて、ので		
4	第8課　～しに行く（移動の目的）		
5	～したり		
6	文化の紹介		
7	第9課　~でも良い「許可」		
8	～ではいけない「禁止」		
9	第10課　～します「意志」		
10	～에게(한테) に（人・動物を表す語に付く）		
11	第11課　~することが出来る「可能」		
12	～기 때문에 （～ので、から）		
13	第12課　～してから「経過」		
14	～을 께요（～します）「未来」		
15	まとめ		
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCJ101
授業形態： 演習
科目名： 日本語Ⅰ
担当教員： 稲井　富赴代(INAI　Tokiyo)

【授業の紹介】
本講義は、外国人留学生が大学で学ぶために必要な日本語能力を中上級レベルに引き上げることを目的としています。日本人学生は受講することができません。
「日本語Ⅰ」では読解能力の養成に重点を置き、学習者が興味を持っている日本文化や社会に関する読み物を読みます。まず、読みのストラテジーで読解スキルを学習した後、N２、N１の文法・語彙を中心に、文型・表現を学習しながら、読解力を身につけます。また、別冊ワークブックの問題練習を通じて、読み物の内容理解度を確認し、文法力、語彙力、漢字力も伸ばしていきます。
授業全般をアクティブラーニングで構成し、問題練習においても、受講生間で自由に意見を出し合って正解を導き出します。また、読み物のテーマに関連して、受講生全員でディスカッションを行います。学習者が「読める」達成感を感じながら学習を進めていきます。
なお、「読む・聞く・書く・話す」四技能をバランスよく統合的に学習するために、関連科目の「日本語表現基礎Ⅰ」を履修してください。また、「日本語Ⅱ」を続けて履修してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
①中上級レベルの文章を正確に理解できる。
②中上級レベルの漢字・語彙・文法を使うことができる。

【成績の評価】
レポート・授業中の発表（２５％）、小テスト（ ２５％ ）、定期試験（５０％ ）
レポート・小テストについては、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。
遅刻３回で欠席１回とみなす。

【使用テキスト】
『４技能でひろがる　中級日本語カルテットⅡ』坂本正監修、安井朱美・井手友里子・土居美有紀・浜田英紀著、the japan times、2020年、3,000円+税

【参考文献】
『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子・宮本淳・和栗雅子著、アルク、2010年、2,500円+税

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
2	第７課 読む「異文化での気づき」 読みのストラテジー：省略された言葉 読み物１：「日本人学生の留学体験記」① 文型・表現：～つつある／～際（に）／～てしょうがない	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
3	第７課 読む「異文化での気づき」 読み物１：「日本人学生の留学体験記」② 文型・表現：～こそ／むしろ／～にもかかわらず／～ばかり	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
4	第７課 読む「異文化での気づき」 読み物１：「日本人学生の留学体験記」③ ワークブック練習問題	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
5	第７課 読む「異文化での気づき」 読み物２：「外国人留学生の思い」① 文型・表現：～と同時に／～ことに／Nにおける／まさに	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
6	第７課 読む「異文化での気づき」 読み物２：「外国人留学生の思い」② ワークブック練習問題	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
7	第８課 読む「インタビューに見るプロ意識」 読みのストラテジー：インタビューの質問に対する答え、何を説明している例か 読み物１：「『日本一の旅館』加賀屋の女将に聞く」① 文型・表現：～どころか（～も、さえ）／～ない限り／Nならでは	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
8	第８課 読む「インタビューに見るプロ意識」 読み物１：「『日本一の旅館』加賀屋の女将に聞く」② 文型・表現：～ないまでも／～とともに／～たものだ／かえって	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
9	第８課 読む「インタビューに見るプロ意識」 読み物１：「『日本一の旅館』加賀屋の女将に聞く」③ ワークブック練習問題	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
10	第８課 読む「インタビューに見るプロ意識」 読み物２：「Bentoで日本をもっと近く」① 文型・表現：～うちに／Nなりに／Nにこだわる	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	第８課 読む「インタビューに見るプロ意識」 読み物２：「Bentoで日本をもっと近く」② ワークブック練習問題	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
12	第９課 読む「小説・エッセイを通じて考える愛」 読みのストラテジー：「たとえ」を使った表現、タイトルから読み取れるメッセージ 読み物１：「夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について」① 文型・表現：～くらい／～に違いない／～たとしても ／Nなんか ／いったい～（か）／～VかVないか	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
13	第９課 読む「小説・エッセイを通じて考える愛」 読み物１：「夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について」② ワークブック練習問題	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
14	第９課 読む「小説・エッセイを通じて考える愛」 読み物２：「愛と恐怖」① 文型・表現：～ということは／～はずがない／～わけがない ／～得る・得ない ／～もしない	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
15	第９課 読む「小説・エッセイを通じて考える愛」 読み物２：「愛と恐怖」② ワークブック練習問題	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCJ102
授業形態： 演習
科目名： 日本語Ⅱ
担当教員： 稲井　富赴代(INAI　Tokiyo)

【授業の紹介】
本講義は、外国人留学生が大学で学ぶために必要な日本語能力を中上級レベルに引き上げることを目的としています。日本人学生は受講することができません。
「日本語Ⅱ」では引き続き読解能力の養成に重点を置き、学習者が興味を持っている日本文化や社会に関する読み物を読みます。まず、読みのストラテジーで読解スキルを学習した後、N２、N１の文法・語彙を中心に、文型・表現を学習しながら、読解力を身につけます。また、別冊ワークブックの問題練習を通じて、読み物の内容理解度を確認し、文法力、語彙力、漢字力も伸ばしていきます。
授業全般をアクティブラーニングで構成し、問題練習においても、受講生間で自由に意見を出し合って正解を導き出します。また、読み物のテーマに関連して、受講生全員でディスカッションを行います。学習者が「読める」達成感を感じながら学習を進めていきます。
なお、関連科目として「日本語Ⅰ」が既習であることを前提とします。また、「読む・聞く・書く・話す」四技能をバランスよく統合的に学習するために、関連科目の「日本語表現基礎Ⅱ」を履修してください。さらに上級レベルの日本語力を身につけるために、「日本語Ⅲ」を続けて履修してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
①中上級レベルの文章を正確に理解できる。
②中上級レベルの漢字・語彙・文法を使うことができる。

【成績の評価】
レポート・授業中の発表（２５％）、小テスト（ ２５％ ）、定期試験（５０％ ）
レポート・小テストについては、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。
遅刻３回で欠席１回とみなす。

【使用テキスト】
『４技能でひろがる　中級日本語カルテットⅡ』坂本正監修、安井朱美・井手友里子・土居美有紀・浜田英紀著、the japan times、2020年、3,000円+税

【参考文献】
『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子・宮本淳・和栗雅子著、アルク、2010年、2,500円+税

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	第10課 読む「データから考える社会」 読みのストラテジー：データの説明、調査結果のグラフ 読み物１：「結婚・子育て、夢描きにくく――朝日新聞社世論調査」① 文型・表現：Nにとどまる／一方（で）／Nに達する／Nを超える	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
2	第10課 読む「データから考える社会」 読み物１：「結婚・子育て、夢描きにくく――朝日新聞社世論調査」② 文型・表現：Nを占める／～ながら／Nほど／Nにのぼる	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
3	第10課 読む「データから考える社会」 読み物１：「結婚・子育て、夢描きにくく――朝日新聞社世論調査」③ ワークブック問題練習	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
4	第10課 読む「データから考える社会」 読み物２：「日本人が政府に期待するもの――ISSP国際比較調査『政府の役割』から」① 文型・表現：～つつ／～たところ／～ものの	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
5	第10課 読む「データから考える社会」 読み物２：「日本人が政府に期待するもの――ISSP国際比較調査『政府の役割』から」② ワークブック問題練習	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
6	第11課 読む「言葉の裏にあるもの」 読みのストラテジー：キーワード 読み物１：「よろしく――日本語表と裏」① 文型・表現：～なり～なり／～まい／～すえ（に）	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
7	第11課 読む「言葉の裏にあるもの」 読み物１：「よろしく――日本語表と裏」② 文型・表現：Nまで／Nであれ／～かねない	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
8	第11課 読む「言葉の裏にあるもの」 読み物１：「よろしく――日本語表と裏」③ ワークブック問題練習	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
9	第11課 読む「言葉の裏にあるもの」 読み物２：「二重人格者の会話――日本語の復権」① 文型・表現：Nはさておくとして／いずれにしても／～とばかりは言えない／Nとする／Nでも	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
10	第11課 読む「言葉の裏にあるもの」	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	読み物２：「二重人格者の会話――日本語の復権」② ワークブック問題練習	の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
11	第12課 読む「発想の転換」 読みのストラテジー：小見出し、隠喩 読み物１：「奇跡の職場　新幹線清掃チームの“働く誇り”」① 文型・表現：～といっても／～がち／Nに応じて	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
12	第12課 読む「発想の転換」 読み物１：「奇跡の職場　新幹線清掃チームの“働く誇り”」② 文型・表現：～分（だけ）／～にすぎない／～以上（は）／～うえで	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
13	第12課 読む「発想の転換」 読み物１：「奇跡の職場　新幹線清掃チームの“働く誇り”」③ ワークブック問題練習	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
14	第12課 読む「発想の転換」 読み物２：「あらしのよるに」① 文型・表現：～そうになる／～なかれ／～ようがない／～なり	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
15	第12課 読む「発想の転換」 読み物２：「あらしのよるに」② ワークブック問題練習	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCJ201
授業形態： 演習
科目名： 日本語III
担当教員： 稲井　富赴代(INAI　Tokiyo)

【授業の紹介】
本講義は、外国人留学生の日本語能力を上級レベルに引き上げることを目的としています。日本人学生は受講することができません。
上級レベルに到達するには、語彙力のアップ、文型の正確な使用や状況に応じた運用が求められます。そのため、ワークブックを併用し、豊富な問題練習によって、重要表現や語彙・漢字の理解、定着を図ります。さらに、学んだ語彙や重要表現を用いて、テキストの内容に即した話題で、自分の考えを自由に発信するタスク練習を行います。「読む」「聞く」「書く」「話す」を統合させたクラス活動を通して、運用能力を高めていきます。
授業全般をアクティブラーニングで構成し、問題練習においても、受講生間で自由に意見を出し合って正解を導き出します。また、各課のテーマに沿ってディスカッションやプレゼンテーション練習も行います。
なお、関連科目として「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」が既習であることを前提とします。また「日本語Ⅳ」を続けて受講してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
①上級レベルの文章の読解ができる。
②上級レベルの語彙・文法を使うことができる。
③テーマに沿ってレポートを作成することができる。
④社会問題に関するプレゼンテーションやディスカッションができる。

【成績の評価】
レポート・授業中の発表（２５％）、小テスト（ ２５％ ）、定期試験（５０％ ）
レポート・小テストについては、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。
遅刻３回で欠席１回とみなす。

【使用テキスト】
『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語』鎌田修・ボイクマン総子・冨山佳子・山本真知子著、the japan times、2012年、3,200円+税

【参考文献】
『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子・宮本淳・和栗雅子著、アルク、2010年、2,500円+税

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
2	第１課「自己紹介と本当の自分」 本文：「自分とは何だろう」① 重要表現：～（の）でしょうか／～ことを「……」と言う／～ばかりで／このように見てみると（考えると）、～ということになる	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
3	第１課「自己紹介と本当の自分」 本文：「自分とは何だろう」② 重要表現：～ば～ほど／例えば～とする／～場合もある／～と、なおさら……	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
4	第１課「自己紹介と本当の自分」 本文：「自分とは何だろう」③ 内容確認の問題練習 ワークブック（語彙練習）	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
5	第１課「自己紹介と本当の自分」 文法・語彙練習問題	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
6	第１課「自己紹介と本当の自分」 読んだあとで：自分を印象づける自己紹介を考える タスク：エントリーシートを書く	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
7	第２課「若者の自己評価」 本文：「日米の大学生のコミュニケーション・スタイル」① 重要表現：～に関するＮ（～関して）／～なりに（～なりのＮ）／～ごとに／～まで	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。（１時間）	
8	第２課「若者の自己評価」 本文：「日米の大学生のコミュニケーション・スタイル」② 重要表現： めったに～ない／いったい～の（だろう）か／～にすぎない／～はずがない／～わけではない	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
9	第２課「若者の自己評価」 本文：「日米の大学生のコミュニケーション・スタイル」③ 内容確認の問題練習 ワークブック（語彙練習）	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
10	第２課「若者の自己評価」 文法・語彙練習問題	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
11	第２課「若者の自己評価」 読んだあとで：中高生の意識調査の結果を基	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	に話し合う タスク：ロールプレイ「人物を紹介する」	の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
12	第３課「ジェンダーを考える」 本文：「男の料理　市民権」① 重要表現：～限り／～うえ（に）／～といったふうに（～というふうに）／～（の）代わりに	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
13	ユニット３「ジェンダーを考える」 本文：「男の料理　市民権」② 重要表現：～うえで／どちらかといえば（どちらかというと）／～ってことは、……ってこと（～ということは、……ということ）／～も～もない	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
14	第３課「ジェンダーを考える」 本文：「男の料理　市民権」③ 内容確認の問題練習 ワークブック（語彙練習）	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
15	第３課「ジェンダーを考える」 文法・語彙練習問題	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UCJ202
授業形態： 演習
科目名： 日本語IV
担当教員： 稲井　富赴代(INAI　Tokiyo)

【授業の紹介】
本講義は、「日本語Ⅲ」に引き続き、外国人留学生の日本語能力を上級レベルに引き上げることを目的としています。日本人学生は受講することができません。
上級レベルに到達するには、語彙力のアップ、文型の正確な使用や状況に応じた運用が求められます。そのため、ワークブックを併用し、豊富な問題練習によって、重要表現や語彙・漢字の理解、定着を図ります。さらに、学んだ語彙や重要表現を用いて、テキストの内容に即した話題で、自分の考えを自由に発信するタスク練習を行います。「読む」「聞く」「書く」「話す」を統合させたクラス活動を通して、運用能力を高めていきます。
授業全般をアクティブラーニングで構成し、問題練習においても、受講生間で自由に意見を出し合って正解を導き出します。また、各課のテーマに沿ってディスカッションやプレゼンテーション練習も行います。
なお、関連科目として「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本語Ⅲ」が既習であることを前提とします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		２．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		②　課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
①上級レベルの文章の読解ができる。
②上級レベルの語彙・文法を使うことができる。
③テーマに沿ってレポートを作成することができる。
④社会問題に関するプレゼンテーションやディスカッションができる。

【成績の評価】
レポート・授業中の発表（２５%）、小テスト（ ２５% ）、定期試験（５０% ）
レポート・小テストについては、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。
遅刻３回で欠席１回とみなす。

【使用テキスト】
『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語』鎌田修・ボイクマン総子・冨山佳子・山本真知子著、the japan times、2012年、3,200円+税

【参考文献】
『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子・宮本淳・和栗雅子著、アルク、2010年、2,500円+税

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	第３課「ジェンダーを考える」 タスク：グラフを説明する	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
2	第４課「ことばと文化」 本文：「日本人は『ノー』と言わない？」① 重要表現：～ようなものだ／～（よ）うものなら／～かねない／～ものの／なんといっても	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
3	第４課「ことばと文化」 本文：「日本人は『ノー』と言わない？」② 重要表現：とても～ない（ぬ）／～をめぐり（めぐって）／～に反して／～からといって／～にとって（～にとってのN）	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
4	第４課「ことばと文化」 本文：「日本人は『ノー』と言わない？」③ 内容確認の問題練習 ワークブック（語彙練習）	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
5	第４課「ことばと文化」 文法・語彙練習問題	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
6	第４課「ことばと文化」 読んだあとで：感謝の表現に反映したモンゴル・日本の異文化 タスク：先生にお願いのメールを書く	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
7	第５課「心と体のバランス」 本文：「健康病が心身をむしばむ」① 重要表現：～と（いうの）は……ことを言う（ことだ）／と言っても／～度に／そもそも／～ふしがある／～べきだ（～べきではない）	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
8	第５課「心と体のバランス」 本文：「健康病が心身をむしばむ」② 重要表現：いかにも～そうだ／～という／～つつ／～かける（～かけのN）／～に…を感じさせられる（考えさせられる）／さらには	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
9	第５課「心と体のバランス」 本文：「健康病が心身をむしばむ」③ 内容確認の問題練習 ワークブック（語彙練習）	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
10	第５課「心と体のバランス」 文法・語彙練習問題	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
11	第５課「心と体のバランス」 読んだあとで：「病は気から」の心理 タスク：日本事情についてアンケート調査をする	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
12	第６課「働くということ」 本文：「『驚き』や『喜び』を食べて育つ」① 重要表現：つまり／結果として／～につれ（て）／～末に／～からこそ（てこそ）	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
13	第６課「働くということ」 本文：「『驚き』や『喜び』を食べて育つ」② 重要表現：～として／ここ＋［期間］／～なんか／いかに～か／なぜなら（ば）～からだ	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
14	第６課「働くということ」 本文：「『驚き』や『喜び』を食べて育つ」③ 内容確認の問題練習 ワークブック（語彙練習）	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
15	第６課「働くということ」 文法・語彙練習問題 読んだあとで：日本で活躍する外国人社員の経験談	次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UHH001
授業形態： 講義
科目名： 健康とスポーツ【発】
担当教員： 宮本　賢作(MIYAMOTO　Kensaku)

【授業の紹介】
成長期から成人期に移行するこの時期に，正しいヘルスリテラシーを身につけるとともに，今後起こりうる健康問題について理解することで，その予防としての運動，食事，休養の重要性と，それをサポートする社会的なシステムについて理解する。またこれらを主体的かつ科学的に捉え，行動変容を意識した実践力と，その基盤となるエビデンスに基づいた健康づくりについて考察する。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	

【到達目標】
健康な生活を営む上で必要な基礎知識の理解を深めることができる。
ヒトの生涯のさまざまな場面で生じる疾病の予防および健康の維持と生体機能の関係について理解を深めることができる。

【成績の評価】
成績の評価は学期末試験（６０％）、レポート・ミニテスト（３０％）、学習態度（１０％）によって行い、総計６０％以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
シンプル衛生公衆衛生学2022（南江堂）
これからの健康とスポーツの科学 第5版（講談社）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・健康（及び疾病）の概念とヘルスプロモーション	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
2	健康を取り巻く環境についての理解	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
3	健康情報とヘルスリテラシー	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
4	幼少期～成長期の健康問題	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
5	成人期の健康問題	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
6	高齢期の健康問題	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
7	死生観と生命倫理	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
8	健康と運動・労働	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着す	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		るよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
9	健康と食事・栄養	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
10	健康と休養・睡眠	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
11	喫煙，飲酒，薬物乱用，メディアリテラシーと健康	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
12	運動の科学と健康	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
13	体力の評価と分析	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
14	エビデンスに基づいた医療と健康づくり&持続可能な健康づくり	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
15	まとめ（生涯にわたる健康増進とスポーツライフの継続を目指して）	毎回，授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： UHH002
授業形態： 実習
科目名： 健康とスポーツ実習【発Ａ】
担当教員： 奥田　直希(OKUDA Naoki)

【授業の紹介】
　この授業の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、授業のはじめには、文化としてスポーツを捉えることの必要性を説明あるいは表現するとともに、新スポーツの創造活動におけるグループワークやプレゼンテーションを通して、スポーツの文化性についての理解を深めます。次に、ゴール型スポーツ（主にアルティメット、フラッグフットボール）、ネット型スポーツ（主にバドミントン、インディアカ）、ターゲット型スポーツ（主にユニカール、グラウンドゴルフ）といった様々なスポーツを題材として、スポーツの楽しさを理解し、より深くその楽しさを味わう技能を学びます。そして、これらスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。
　なお、この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：nnu3ezl）を活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．文化としてのスポーツの捉え方を理解できる
２．新スポーツを企画・実行できる
３．スポーツの楽しさを理解し表現できる
４．他者と協力しスポーツを楽しむことができる

【成績の評価】
・プレゼンテーションに関する課題　30%
・グループワークに関する課題　40%
・小レポート　30%
《フィードバックの方法》
　プレゼンテーションに関する課題およびグループワークに関する課題については、授業時間中に講評を行うことでフィードバックを実施します。小レポートについては、第15回終了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施します。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス，1982年）※図書館に配架

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	【予習】GoogleClassroomに参加し、事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分）	
2	新スポーツ創造の意義	【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分）	
3	新スポーツの創造：発案	【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分	
4	新スポーツの創造：計画	【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの実行可能性を検討する。（30分）	
5	新スポーツの創造：修正	【復習】新スポーツの創造に関するプレゼンテーション資料を作成する。（1時間）	
6	新スポーツの創造：発表	【復習】新スポーツの実践に伴う準備事項を検討する。（1時間）	
7	新スポーツの創造：実践	【復習】新スポーツの創造に関する活動を振り返り、レポートにまとめて提出する。（1時間）	
8	アルティメット（１）：ルールを理解する	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
9	アルティメット（２）：競技を楽しむ	【復習】GoogleClassroomを通じて配布される事後アンケートに回答する。（1時間）	
10	フラッグフットボール（１）：ルールを理解する	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
11	フラッグフットボール（２）：競技を楽しむ	【復習】GoogleClassroomを通じて配布される事後アンケートに回答する。（1時間）	
12	ネット型競技（１）：バドミントンの実践	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
13	ネット型競技（２）：インディアカの実践	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
14	ターゲット型競技（１）：グラウンドゴルフの実践	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
15	ターゲット型競技（２）：ユニカールの実践	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： UHH002
授業形態： 実習
科目名： 健康とスポーツ実習【発Ｂ】
担当教員： 奥田　直希(OKUDA Naoki)

【授業の紹介】
　この授業の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、授業のはじめには、文化としてスポーツを捉えることの必要性を説明あるいは表現するとともに、新スポーツの創造活動におけるグループワークやプレゼンテーションを通して、スポーツの文化性についての理解を深めます。次に、ゴール型スポーツ（主にアルティメット、フラッグフットボール）、ネット型スポーツ（主にバドミントン、インディアカ）、ターゲット型スポーツ（主にユニカール、グラウンドゴルフ）といった様々なスポーツを題材として、スポーツの楽しさを理解し、より深くその楽しさを味わう技能を学びます。そして、これらスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。
　なお、この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：6hu244f）を活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	大学	１．豊かな人間性や主体的に生きる力
		３．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	大学	①　豊かな人間性や主体的に生きる力	
		③　学部が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】
１．文化としてのスポーツの捉え方を理解できる
２．新スポーツを企画・実行できる
３．スポーツの楽しさを理解し表現できる
４．他者と協力しスポーツを楽しむことができる

【成績の評価】
・プレゼンテーションに関する課題　30%
・グループワークに関する課題　40%
・小レポート　30%
《フィードバックの方法》
　プレゼンテーションに関する課題およびグループワークに関する課題については、授業時間中に講評を行うことでフィードバックを実施します。小レポートについては、第15回終了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施します。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス，1982年）※図書館に配架

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	【予習】GoogleClassroomに参加し、事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分）	
2	新スポーツ創造の意義	【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分）	
3	新スポーツの創造：発案	【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分）	
4	新スポーツの創造：計画	【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの実行可能性を検討する。（30分）	
5	新スポーツの創造：修正	【復習】新スポーツの創造に関するプレゼンテーション資料を作成する。（1時間）	
6	新スポーツの創造：発表	【復習】新スポーツの実践に伴う準備事項を検討する。（1時間）	
7	新スポーツの創造：実践	【復習】新スポーツの創造に関する活動を振り返り、レポートにまとめて提出する。（1時間）	
8	アルティメット（１）：ルールを理解する	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
9	アルティメット（２）：競技を楽しむ	【復習】GoogleClassroomを通じて配布される事後アンケートに回答する。（1時間）	
10	フラッグフットボール（１）：ルールを理解する	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
11	フラッグフットボール（２）：競技を楽しむ	【復習】GoogleClassroomを通じて配布される事後アンケートに回答する。（1時間）	
12	ネット型競技（１）：バドミントンの実践	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
13	ネット型競技（２）：インディアカの実践	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
14	ターゲット型競技（１）：グラウンドゴルフの実践	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
15	ターゲット型競技（２）：ユニカールの実践	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KIS01
授業形態： 演習
科目名： 児童学研究法
担当教員： 松原　勝敏(MATSUBARA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
Google　Classroom クラスコード：qua6tch

教育者・保育者になること。それは、あなた方にとって目標かもしれませんがゴールではありません。現場に出れば、日々の子どもたちとのふれあいの中で様々な発見をするとともに、つまずき、思い悩むことの連続でしょう。そして、それらを乗り越えながら、教育者・保育者は子どもとともに成長するのです。教育者・保育者になった後の研究態度は、その意味で重要です。
この授業では、レポート作成の基礎や演習、そして、まとめたレポートの発表や評価のプロセスを通して、皆さんの学ぶ力を育てたいと考えています。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・自主的な学習態度を形成し、問題発見能力を開発するとともに問題をとらえる視点の多様性を理解することができる。
・実際に教育・保育に関する各種のレポートを作成したり、調査研究の演習・発表・討議を通じて、文献資料の収集方法（図書館の利用方法を含む）の習得、読解力と文章構成力を高め、保育者にとって必要な発表や討論の方法を習得することができる。
・演習を通して、学生と教員、あるいは学生同士の自由な語り合いの下地を作り、本学の特色であるゼミ活動における教育研究をより一層効果的に実現することができる。
・将来、教育者・保育者に求められる自己研修能力の基盤を形成することができる。

【成績の評価】
毎回の授業時におけるミニレポートへのコメント(約30%)、レポート及び研究室単位の研究結果(約50%)、発表及び質疑での答弁等(約20%)を総合的に評価し、単位を認定します。
毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、最後の授業時に以後の学びへの継続についてフィードバックします。

【使用テキスト】
基礎演習で使用する発達科学部オリジナルテキスト「しるべ」を使用します。

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習：シラバスや授業テキストを参照して学習内容全体を把握する。（40分） 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
2	レポートの作成：レポートを作成の意義と基本的フォーマット	予習：授業課題に取り組む。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
3	レポートの作成；レポート作成時の留意事項	予習：授業課題に取り組む。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
4	研究進め方	予習：授業課題に取り組む。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
5	マスコミ情報の批判的検討	予習：授業課題に取り組む。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
6	研究の方向性の決定	予習：授業課題に取り組む。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
7	研究の方向性の確定	予習：授業課題に取り組む。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
8	研究の進展	予習：授業課題に取り組む。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
9	中間発表レジュメの検討	予習：授業課題に取り組む。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
10	中間発表レジュメの完成	予習：授業課題に取り組む。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
11	研究中間発表	予習：中間発表の準備をする。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
12	発表レジュメの再検討	予習：授業課題に取り組む。(40分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
13	研究成果発表会レジュメの完成	予習：授業課題に取り組む。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
14	研究成果発表会	予習：研究成果発表会の準備をする。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
15	研究の振り返りと全体のまとめ	予習：授業課題に取り組む。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。また、授業レポートを作成する。(20分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KIS02
授業形態： 講義
科目名： 教育学原論
担当教員： 松原　勝敏(MATSUBARA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
Google　Classroom　クラスコード：ku26zyk

教育学原論では、教育課程編成・実施の方針に基づき、教育に関係する領域を広範囲に、かつ、多角的に追求することをとおして、この領域の基礎的な知識を獲得するための科目として位置づけられます。
今日、人々の教育に関する意見や要望、そして批判には、いろんな立場から多様な意見が噴出して、答えを出すのが非常に難しい状況にあります。教育学原論では、教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識を獲得します。そして、自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力を形成します。
なお、「教育」と言うと幼児の段階からの教育を意識するかもしれませんが、保育においては養護と教育を一体的に実現するところに特色があります。そこで、０歳児からの教育の可能性や目的および目標についても検討します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識を獲得することができる。
２．教育の基本的概念や教育の理念の基礎を理解することができる。
３．教育の歴史や思想の学習をとおして、今日の教育の基本理念の形成過程を理解することができる。
４．自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力の獲得することができる。
５．上の４つの到達目標を達成することで、卒業認定・学位授与の方針に示す、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解することができる。

【成績の評価】
毎回の授業終了時に課するミニレポート（約３０％）、レポート（約２０％）、定期試験（約５０％）の３つを以て、総合的に評価します。
・ミニレポートについては、次の授業の冒頭の部分で内容についてコメントします。
・主たるレポート課題については、１５回目の授業でフィードバックします。
・定期試験の内容については、学内ネットを通じてフィードバックします。

【使用テキスト】
新初等教育原理（平成２６年　佐々木正治編著、福村出版）

【参考文献】
授業時に、適宜、紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・教育の意味と本質	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
2	教育の目的と目標	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
3	人間社会における教育の役割	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
4	家族や社会における教育の思想と教育の役割	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
5	主要な教育思想	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
6	近代学校制度の成立と展開	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
7	日本の学校教育の歴史	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
8	義務教育の概要	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
9	今日の我が国における学校制度と主要国の学校制度	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		提出。(1時間)	
10	教育課程の基礎	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
11	学習指導の基礎	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
12	家庭教育	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
13	生涯学習	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
14	教員養成	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
15	今日の教育課題	予習：1～14回のワークシートの点検。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　KIS03
授業形態：　講義
科目名：　教育制度論
担当教員：　松原　勝敏(MATSUBARA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
Google　Classroom　クラスコード：kcvykpl

「教育制度」という言葉は、やや「お堅い」言葉に聞こえるかもしれません。また、制度や法規に関連することがらは難しいのでできれば避けて通りたい･･･と思う人も少なくないと思います。
しかし、学校は、今日、私たちの暮らしを支える制度の１つとして機能しています。それ故に、学校には、その目的や制度のあり方、保育内容について様々な規定が設けられるとともに、多くの税金やその他の財貨が投入され、そこに教員をはじめとしてたくさんの人々が関わって、子どもたちの生活を支えているのです。それゆえに、教員に対する社会的使命や期待には大きなものがあると同時に厳しいものがあります。
本講義は、そのような点を考慮して、責任を果たせる教員としての意識づくりを図りたいと思います。また、採用試験も考慮して、法制面からのアプローチによって教育制度の理解を目指します。できるだけ、丁寧にわかりやすく講義することに努めますので、肩肘張らず受講して下さい。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・教育現場での１つ１つの行為が、社会的な制度の枠の中で運営されていることを理解し、自らの教育実践に取り組む姿勢を形成することができる。
・この授業では、教育制度の基本的な枠組みを理解すると共に、制度構築の理念を理解して、教育制度に関する問題に自分なりの意見表明ができる。

【成績の評価】
毎回の授業時におけるミニレポートへのコメント(約30%)、レポート(約20%)及び定期試験(約50%)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。
毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

【使用テキスト】
河野和清編著『現代教育の制度と行政　改訂版』福村出版　2017

【参考文献】
文部科学省「幼稚園教育要領」2017
文部科学省「小学校学習指導要領」2017

その他、授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション＆教育制度を学ぶ意義	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
2	教育法規の全体像	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
3	学校制度とその課題	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
4	教育行政制度とその課題	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
5	教育財政制度とその課題	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
6	教育課程行政	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
7	学校経営の理論と実際	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
8	学校経営における地域や保護者との連携	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
9	幼児・児童の管理	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
10	学校における安全管理	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		提出。(1時間)	
11	教員養成制度	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
12	特別支援教育制度	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
13	学校を巡る社会状況の変化と学校の課題	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
14	生涯学習社会に向けた教育制度の在り方	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
15	我が国及び諸外国における教育事情と教育改革	予習：1～14回のワークシートの点検。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KIS04
授業形態： 講義
科目名： 教師論
担当教員： 藤本　駿(FUJIMOTO　Syun)

【授業の紹介】
教職や保育職は、皆さんにとって最も身近な職業の一つです。幼稚園や小学校でお世話になった先生に憧れて、この大学に入学した人も多いのではないでしょうか。では、先生の仕事はどのようなものなのか知っていますか。先生の仕事の実際は、保育や教育を受ける立場からは見えづらいものです。教職や保育職を目指すならば、教師や保育者としての視点を持つことが必要です。
　そこで本授業では、教職や保育職にかかわる歴史、制度、理論など様々な視点から検討し、その理解を深めていきます。また、現代社会における教職や保育職の重要性や課題を通して、教職への意欲を高め、各自の教職の在り方を考えることを目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑤　多様な人材との協力・協働	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．公教育の担い手である教職・保育職の社会的意義やその役割について理解できる。
２．教師観や保育者観の変遷を通して、今日に求められる資質能力を理解できる。
３．教師・保育者の職務内容や、服務上・身分上の義務を理解できる。
４．教職・保育職が学校内外の専門家等と連携・分担し、チームとして諸課題に対応する重要性を理解できる。
５．教職・保育職についての自分の考えを深め、自分の適性や意欲を確かめることができる。

【成績の評価】
毎回授業後に配布する振り返りシートの提出（30%）、4回行う小レポートの作成（20%）、定期試験の結果（50%）から総合的に評価する。
　定期試験のフィードバックは、試験終了後に解答例を配付する。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
・佐々木司・三山緑編著『これからの学校教育と教師－「失敗」から学ぶ教師論入門－』ミネルヴァ書房、2014年。
・大豆生田啓友他編著『アクティベート保育学②　保育者論』ミネルヴァ書房、2019年。
・佐久間亜紀・佐伯胖編著『アクティベート教育学②　現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、教師・保育者とは何か	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。	
2	教師観・保育者観の歴史（１）江戸時代の教師・保育者	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。	
3	教師観・保育者観の歴史（２）戦前の教師・保育者	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。	
4	教師観・保育者観の歴史（３）戦後の教師・保育者	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、教師観・保育者観の歴史に関する全体の内容を振り返り、整理した内容や自分の考えを小レポートにまとめること（2時間）。	
5	教師・保育者の役割（１）保育者の仕事とその魅力	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。	
6	教師・保育者の役割（２）教師の仕事とその魅力	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。	
7	教師・保育者の役割（３）教師・保育者の職業的特徴	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、教師・保育者の役割に関する全体の内容を振り返り、整理した内容や自分の考えを小レポートにまとめること（2時間）。	
8	教師・保育者の専門性（１）授業づくり	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。	
9	教師・保育者の専門性（２）子ども理解	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。	
10	教師・保育者の専門性（３）学級経営	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、教師・保育者の専門性に関する全体の内容を振り返り、整理した内容や自分の考えを小レポートにまと	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		めること（2時間）。	
11	教師・保育者の職務内容（１）服務上・身分上の義務	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。	
12	教師・保育者の職務内容（２）教員研修	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。	
13	教師・保育者の職務内容（３）勤務条件	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。	
14	教師・保育者の職務内容（４）チーム学校運営への対応	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、教師・保育者の職務内容に関する全体の内容を振り返り、整理した内容や自分の考えを小レポートにまとめること（2時間）。	
15	全体のまとめ、これからの教師・保育者を取り巻く課題	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KIS05
授業形態： 講義
科目名： カリキュラム論
担当教員： 山田　純子(YAMADA　Junko)

【授業の紹介】
保育者は日々子どもと遊びを共にしながら、子どもが幼稚園や保育所、認定こども園に入園（所）してから修了するまでの生活の全貌を見通した保育の計画を立て実践しています。本授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき各園で編成・作成される教育課程・全体的な計画の意義や方法を学び、保育の計画、実践、評価、改善の過程についての全体構造を理解していきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義を理解し論理的に思考・創造することができる。
（１）幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格及び位置付け並びに編成・作成の目的が理解できる。
（２）幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景が理解できる。
（３）教育課程・全体的な計画が社会において果たしている役割や機能を理解し、使命感をもつことができる。
（４）教育課程の基礎理論の習得により保育の営みの本質を探究しようとする態度を育むことができる。
２．教育課程・全体的な計画の基本原理及び教育実践に即した編成・作成の方法を理解し、実践力の向上に努めることができる。
（１）教育課程編成、全体的な計画作成の基本原理が理解できる。
（２）幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力を例示し、多面的に課題に取り組むことができる。
（３）長期的な視野からまた、乳幼児や園、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性が理解できる。
３．園全体のカリキュラムを把握し、教育課程、全体の計画をマネジメントすることの意義を理解することができる。
（１）カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、柔軟な思考力を用いて課題に取り組むことができる。
（２）カリキュラム評価の基礎的な考え方が理解できる。

【成績の評価】
課題およびワークシートの取組みと内容（20%）、保育指導案作成（30%）定期試験(50%)
ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出すること。
課題、保育指導案作成については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
幼稚園教育要領解説(平成30年3月　文部科学省)
保育所保育指針解説(平成30年3月　厚生労働省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月　内閣府、文部科学省、厚生労働省)

【参考文献】
適宜、資料を配布します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	カリキュラムについて 幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷とその背景	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
2	保育の基本と計画	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
3	幼稚園における教育課程の役割	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
4	保育所における全体的な計画	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
5	幼保連携型認定こども園における教育及び保育並びに子育て支援等における全体的な計画	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
6	幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集した	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		りすること。	
7	長期の指導計画と短期の指導計画の実際	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
8	保育の評価	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
9	カリキュラム・マネジメントの意義と実際	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
10	小学校へつなぐ保育と計画	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
11	指導計画の実際（１）指導計画の作成方法	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
12	指導計画の実際（２）短期指導計画の作成	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		間） 　その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
13	指導計画の実際（３）部分指導案の作成	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） 　その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
14	指導計画の実際（４）全日指導案の作成	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） 　その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
15	指導計画立案の発表と評価	予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） 　その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KIS06
授業形態： 講義
科目名： 教育課程論
担当教員： 山岸　知幸(YAMAGISHI Tomoyuki)

【授業の紹介】
　教育課程とは、学校教育を行っていく上での根幹をなすものです。子どもの「資質・能力」を確実に育成するために、様々なレベルでの計画が示されているものと言ってもよいでしょう。
　この授業では、教育課程・カリキュラムに関する歴史、意義や編成原理、現在の学習指導要領の重要なポイントについて学んでいきます。教育課程についての具体的な事例にも基づいて考察していきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．教育課程・カリキュラムに関わる歴史や理論を理解することができる。
２．学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程の意義や編成方法を体系的に理解することができる。
３．各学校の実情にあわせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することができる。

【成績の評価】
　レポート試験（６０％）、毎回の授業後に提出する小レポート（４０％）
　レポートについては、採点基準を説明する。
　毎回の授業後に提出する小レポートについては、次の授業時間にコメントを添えて返却する。

【使用テキスト】
　小学校学習指導要領解説　総則編（平成２９年７月　文部科学省）

【参考文献】
　授業中に適宜資料を配付する。

【実務経験】
　無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
　有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション－教育課程とは－	シラバスを読み、また教科書に目を通し、考えたことや疑問点についてノートにまとめておくこと（２時間）。 本授業のねらいについて、Ａ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	
2	我が国の戦後の教育課程の変遷	事前に配布された資料及びテキストを精読し、考えたこと、疑問点をノートにまとめておくこと（２時間）。 レポート作成に向けて、本時の授業内容のポイントをＡ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	
3	カリキュラム改革の歴史（１）－児童中心主義思想を中心に－	事前に配布された資料及びテキストを精読し、考えたこと、疑問点をノートにまとめておくこと（２時間）。 レポート作成に向けて、本時の授業内容のポイントをＡ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	
4	カリキュラム改革の歴史（２）－教育内容の現代化を中心に－	事前に配布された資料及びテキストを精読し、考えたこと、疑問点をノートにまとめておくこと（２時間）。 レポート作成に向けて、本時の授業内容のポイントをＡ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	
5	教育課程の編成原理と類型	事前に配布された資料及びテキストを精読し、考えたこと、疑問点をノートにまとめておくこと（２時間）。 レポート作成に向けて、本時の授業内容のポイントをＡ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	
6	教育課程の編成・実施・評価・改善	事前に配布された資料及びテキストを精読し、考えたこと、疑問点をノートにまとめておくこと（２時間）。 レポート作成に向けて、本時の授業内容のポイントをＡ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	
7	学習指導要領を学ぶ（１）－総則を中心に－	事前に配布された資料及びテキストを精読し、考えたこと、疑問点をノートにまとめておくこと（２時間）。 レポート作成に向けて、本時の授業内容のポイントをＡ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	
8	学習指導要領を学ぶ（２）－カリキュラム・マネジメントの視点から－	事前に配布された資料及びテキストを精読し、考えたこと、疑問点をノートにまとめておくこと（２時間）。 レポート作成に向けて、本時の授業内容のポイントをＡ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	
9	学習指導要領を学ぶ（３）－学校間連携の視点から－	事前に配布された資料及びテキストを精読し、考えたこと、疑問点をノートにまとめておくこと（２時間）。 レポート作成に向けて、本時の授業内容のポイントをＡ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	
10	教育課程の実際（１）－年間行事計画－	事前に配布された資料及びテキストを精読し、考えたこと、疑問点をノートにまとめておくこと（２時間）。 レポート作成に向けて、本時の授業内容のポイントをＡ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	教育課程の実際（２）－時間割の作成－	事前に配布された資料及びテキストを精読し、考えたこと、疑問点をノートにまとめておくこと（２時間）。 レポート作成に向けて、本時の授業内容のポイントをＡ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	
12	教育課程の実際（３）－日課・週時程の編成－	事前に配布された資料及びテキストを精読し、考えたこと、疑問点をノートにまとめておくこと（２時間）。 レポート作成に向けて、本時の授業内容のポイントをＡ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	
13	教育課程の実際（４）－教科年間指導計画－	事前に配布された資料及びテキストを精読し、考えたこと、疑問点をノートにまとめておくこと（２時間）。 レポート作成に向けて、本時の授業内容のポイントをＡ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	
14	教育課程の実際（５）－特色ある学校づくりと学校評価－	事前に配布された資料及びテキストを精読し、考えたこと、疑問点をノートにまとめておくこと（２時間）。 レポート作成に向けて、本時の授業内容のポイントをＡ５一枚程度にまとめておくこと（２時間）。	
15	まとめ－これからの教育課程・カリキュラムの課題－	これまでに配布された資料及びテキストを復習し、質問項目をノートにまとめておくこと（２時間）。 これまで学んだことを整理し、Ａ４一枚程度にまとめること（２時間）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KIS07
授業形態：　講義
科目名：　保育原理Ⅰ
担当教員：　松原　勝敏(MATSUBARA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
　保育原理Ⅰは、日々の保育実践のベースとなる子どもの見方、保育の考え方、保育の歴史や制度に関する基礎知識を身につけるための授業です。
　保育原理Ⅰは、学位授与の方針における「２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている」に関する知識、技法の修得をめざします。なお、学修成果『⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。』に関連しています。
　そのために、保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と課題など保育の専門知識を幅広く学修します。
　なお、本授業科目の単位を取得していないと、２年次の「保育実習Ⅰ」の履修ができなくなることがありますので、誠実に学びを重ねて、確実に単位を取得してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．保育所保育指針の内容を保育実践に関連付けて理解できる。
２．保育の現状と課題について自分の意見を論述することができる。
３．子ども理解と保育の過程について省察することができる。

【成績の評価】
保育の内容の理解度を確認するための小テスト（30%）、保育の現状と課題（保育所保育指針第4章「子育支援」）に関するレポート（40%）、毎回の課題（30%）及び授業への参加状況等を踏まえて総合的に評価する。小テスト・レポートは採点やコメントを付けてフィードバックします。

【使用テキスト】
・公益財団法人児童育成協会（監修),天野珠路・北野 幸子（編集)『保育原理』（新・基本保育シリーズ1）中央法規　2019年
・厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館　2018年

【参考文献】
・適宜、資料を配布します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 保育の理念と概念	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
2	保育の社会的役割と責任	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
3	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
4	保育の実施体系	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
5	保育所保育指針に基づく保育	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
6	保育の目標と方法	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
7	乳児の保育	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
8	１歳以上３歳未満児の保育	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
9	３歳以上児の保育	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
10	子ども理解に基づく保育の過程①理論編	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		提出。(1時間)	
11	子ども理解に基づく保育の過程②実践編	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
12	諸外国の保育の思想と歴史	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
13	日本の保育の思想と歴史	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
14	諸外国の保育の現状と課題	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
15	日本の保育の現状と課題	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KIS08
授業形態： 講義
科目名： 子ども家庭支援論
担当教員： 伊達　ルミ(DATE　Rumi)

【授業の紹介】
この授業は保育士資格習得に必須の授業科目です。実務経験のある教員が長年保育所などの現場で培ってきた家庭支援の経験を活かし具体的な事例を示しながら授業を行います。家庭支援とは、私的領域であった家庭内の子育てを社会全体で支えるようになった背景について理解し、職業使命感と倫理観を高めます。そのうえで保育所・こども園・幼稚園などの保育施設を利用する親子のみならず、地域の親子までを視野に入れた支援のあり方に関する専門的知識を身に付け、保育実践向上へと導いていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
この授業を受けることにより教育及び保育や福祉に携わる支援者としての倫理観の基本を養うことができる。
また現代社会における様々な子育て情報を知り、実際に現場で働く保育者や教育者に求められているものを理解することができ、今後そのことをもとに実践していくことができる基礎作りとすることができる。
仲間と語り合う中で様々な価値観や考え方があることなども理解することができる。

【成績の評価】
毎回の学習シートの記入・提出（30%）、第14回　家庭支援のまとめ１・・まとめテスト（60%）、第15回　家庭支援まとめ２　・・レポート作成（10%）の合計点で評価し、単位認定をいたします。第1回目に詳しく説明いたしますので、履修意思のある人は必ず出席して下さい。
提出物は、コメントを付して返却することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
・子ども家庭支援論　保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす　守巧（編著）「佐藤恵・齊藤崇・齊藤勇紀・松井剛太」（著書）萌文書林2021
・保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）
・幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）
・幼保認定型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
・保育と子ども家庭支援論　編集石動瑞代　中西遍彦　隣谷正範　株式会社みらい

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のある教員による授業科目です。保育施設などでの日々の子育て支援の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	子ども家庭支援の必要性	予習として子ども家庭支援について調べておく。（２時間） 復習として授業の内容などを合わせなぜ子ども家庭支援が必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
2	子ども家庭支援の目的	予習として子ども家庭支援について調べておく。（２時間） 復習として授業の内容などを合わせなぜ子ども家庭支援が必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
3	保育の専門性と家庭支援	予習として保育者と子ども家庭支援について調べておく。（２時間） 復習として授業の内容などを合わせ保育者として何が必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
4	子どもの育ちの喜びの共有	予習として子どもの育ちや発達について調べておく。（２時間） 復習として授業の内容などを合わせ保育者として大切なことを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
5	子育ての向上に資する支援	予習として家庭における子育てについて調べておく。（２時間） 復習として授業の内容などを合わせなぜ子ども家庭支援が必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
6	保育士に求められる基本的態度	予習として保育者の資質とは何なのかについて調べておく。（２時間） 復習として授業の内容などを合わせなぜ子ども家庭支援と保育者との関係性が必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
7	家庭の状況に応じた支援	予習として子どもにとっての様々な家庭について調べておく。（２時間） 復習として授業の内容などを合わせなぜ子どもを取り巻く家庭の姿を自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
8	地域の資源活用	予習として子どもに関する地域とはについて調べておく。（２時間） 復習として授業の内容などを合わせなぜ子どもと地域との関係を自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
9	社会資源について	予習として社会資源について調べておく。（２時間） 復習として授業の内容などを合わせどのような社会資源が子どもの育ちに必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
10	子育て支援施策	予習として子育て施策について調べておく。（２時間） 復習として授業の内容などを合わせどのような施策が出されたのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（２時間）	
11	子ども家庭支援の内容と対象	予習として実際の子ども家庭支援について調べておく。（２時間） 復習として授業の内容などを合わせ子ども家庭支援の内容を自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
12	保育所などを利用する家庭への支援	予習として保育所などでの子ども家庭支援について調べておく。（２時間） 復習として授業の内容などを合わせ施設ではどのような子ども家庭支援が必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
13	地域の子育て支援及び要保護児童への支援	予習として要保護児童について調べておく。（２時間） 復習として授業の内容などを合わせ要保護児童への対応の必要性を自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
14	家庭支援のまとめのテスト	予習として今まで授業などで学んだ子ども家庭支援について学びなおしをしておく。（３時間） 復習として子ども家庭支援の大切さを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
15	家庭支援の現状と課題についてのレポート作成	予習として子ども家庭支援の大切さについてまとめておく。（２時間） 復習として子ども家庭支援が必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（２時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KOKO1
授業形態： 講義
科目名： 発達心理学
担当教員： 中塚　勝俊(NAKATSUKA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
　人間のこころとからだは、生まれてから死ぬまで一生涯を通じて発達（＝変化）しつづけます。特に、乳幼児期の発達は一生涯のなかで最も著しく、量的にも質的にも大きな変化を示します。将来、保育者を目指す学生にとって、乳幼児の心身の発達について正しい知識を持っているかどうかは大変重要です。そこで本講義では、乳幼児の心身の発達（運動、認知、言語、知能、情動、気質、人間関係、社会性など）についての授業を通して、発達に応じた子どもへの働きかけや調和のとれた子どもの育ちを支える教育・保育の実践力を身につけることをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
　・発達心理学の基礎知識を身に付け、保育者に必要な「子供を見る目」「親とかかわる態度」などを習得できる。
　・教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解できる。

【成績の評価】
・授業への参加度（10%）、提出物（授業へのコメント・レポート）（20%）、　定期試験（70%）から総合的に評価します。
・提出物に関しては、授業時にコメントを返却します。試験については、個人的に研究室でフィードバックします。

【使用テキスト】
　本郷一夫（編著）『シードブック 発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』（建帛社、2007年）1995円

【参考文献】
　幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（発達と保育の営み）	保育実習で経験した内容の中で発達心理学の知識に関係すると思われる事項を整理しておくこと。（2時間）授業中に提供されたエピソードについてキーワードを添えて自分の考えを記述し次回の授業の前に提出すること。（2時間）	
2	運動の発達（乳幼児）	次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語を調べノートにまとめておくこと。（2時間） 授業を通して疑問に思ったことをまとめて記述したレポートを次回の授業の前に提出すること。（2時間）	
3	認知の発達①各発達段階と年齢の特徴	次回の授業内容を読み理解困難な専門用語を調べ、ノートに整理し授業の前に発表すること。（2時間）専門用語の理解がどれくらい進んだかをノートにまとめて提出すること。（2時間）	
4	認知の発達②発達の仕組み	指定する範囲の教科書を読み自分にとって興味・関心のある事項について調べ、その理由について考えノートに整理しておくこと。（2時間） 授業の最後に課す課題をレポートにまとめること。（2時間）	
5	言語の発達（前言語的コミュニケーション）	次回の授業内容の教科書を読み保育実習で体験した事柄についてノートにまとめておくこと。（2時間）授業で提供された前言語的コミュニケーションについて整理し記載して提出すること。（2時間）	
6	言語的コミュニケーションの発達	「発話行為理論」について調べ、日常生活場面でみられる事象をまとめておくこと。（2時間）一語文、二語文、多語文についてまとめ文章化したものを提出すること。（2時間）	
7	知能の発達	知能観について調べ自分の知能に関する考えとその根拠について文章化しておくこと。（2時間） I.Q.とE.Q.を比較しE.Q.が発揮される具体的場面について述べ文章化したものを提出すること。（2時間）	
8	情動の発達	他者の情動理解の発達について、ノートにまとめておくこと。（2時間）表情学習と社会的参照とのかかわりについて自分なりに整理しノートに整理し提出すること。（2時間）	
9	気質の発達	性格、人格、気質の違いについて予習し文章としてまとめておくこと。（2時間）授業で提供されるブラゼルトンの気質測定法について再確認し文章としてまとめ提出すること。（2時間）	
10	遊びの発達	保育実習で観察した子ども達の遊びについてのエピソードを文章化しておくこと。（2時間） 子どもの遊びの意味についてまとめ文章化したものを提出すること。（2時間）	
11	親子関係・兄弟関係・仲間関係の発達	エリクソンの発達理論に関して乳幼児期、学童期、児童期の対人関係を事前に読みそれぞれの発達課題を調べておくこと。（2時間） 子どもが親に及ぼす影響を自分の体験に基づ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		いてまとめノートに整理し提出すること。（2時間）	
12	道徳性・向社会的行動の発達	道徳的判断で用いられる課題について読み自分の考えをノートにまとめておくこと。（2時間） 授業後子ども用（5歳児）の道徳性判断の課題を自作し提出すること。（2時間）	
13	自己の発達（自我から自己へ）	保育実習で実体験した「いやいや期」の具体的状況について文章化しておくこと。（2時間） 人生における四つの反抗期を挙げそれぞれの意味について自分の考えをノートにまとめておくこと。（2時間）	
14	乳幼児期の発達的連関①歩行開始前	新生児の反射の種類をリストアップし支座位までの順序を文章化・図式化しておくこと。（2時間） 歩行開始までの反射様式と言語との関連について経年的に図式化したものを提出すること。（2時間）	
15	乳幼児期の発達的連関②歩行開始以後	歩行開始期における言語、トイレ訓練、離乳の特徴について時系列的に整理したものを文章化すること。（2時間）授業中に資料として例示する領域が別の領域の発達に影響する事例を考え文章化して提出すること。（2時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KOKO10
授業形態： 講義
科目名： 子ども家庭支援の心理学
担当教員： 横川　和章(YOKOGAWA　Kazuaki),磯部　健一(ISOBE　Kenichi)

【授業の紹介】
　この授業は、（1）生涯発達と初期経験の重要性、（2）家族家庭の意義と機能、（3）子育て家庭に関する現状と課題、（4）子どもの精神保健とその課題の４つの内容に大きく分かれており、子どもの発達とその家庭支援および精神保健に必要な基本的な知識を幅広く修得することを目的としています。横川が（1）から（3）を、磯部が（4）を担当します。
　この授業では、Google Classroom(クラスコード：ub5u6to)を使用して参考資料などを配布することがあります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解することができる。
２．家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得することができる。
３．子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解することができる。
４．子どもの精神保健とその課題について理解することができる。

【成績の評価】
・定期試験（80%）、授業時に出される課題（20%）。
・定期試験及び課題については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】
原信夫・井上美鈴（2022）　『子ども家庭支援の心理学　改訂版』（北樹出版）

【参考文献】
授業中に適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	生涯発達とライフサイクル	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：横川）
2	乳幼児期から学童期	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：横川）
3	学童期後期から青年期	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：横川）
4	成人期から老年期	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：横川）
5	家族・家庭の意義と機能	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：横川）
6	親子関係の定義・特徴	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：横川）
7	子育ての経験と親としての育ち	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：横川）
8	子どもと家庭の状況	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：横川）
9	ライフコースと仕事・子育て	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：横川）
10	多様な家庭とその理解	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：横川）
11	特別な配慮を要する子どもと家庭	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：磯部）
12	子どもの精神保健を学ぶ意義	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておく	（担当：磯部）

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		こと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
13	子どもの生活・生育環境とその影響	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：磯部）
14	子どもの心の健康にかかわる問題（１）アタッチメント障害、知的障害	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：磯部）
15	子どもの心の健康にかかわる問題（２）発達障害、心身症	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	（担当：磯部）
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　KOKO2
授業形態：　演習
科目名：　教育心理学
担当教員：　横川　和章(YOKOGAWA　Kazuaki)

【授業の紹介】
　教師は、幼児・児童・生徒の発達や学習状態を適切にとらえ、それに応じて指導することが求められています。本講義では、幼児・児童・生徒の発達、性格、知的能力（記憶、思考、学習）、やる気、学習指導と評価、学級集団などについての基本的知識を扱います。心理学に基づく教育の充実を目標として、学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育に関わる際に有用となる理論を紹介し、受講した学生が理論と教育実践を結びつけられることを目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．学生が子どもの教育・保育にあたるための幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、理論を含めた基礎的な知識を身に付けることができる。
２．学生が各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。
３．学生がそのような知識をどのようにして子どもの教育・保育の実践に生かせるのか考える態度を身に付けることができる。

【成績の評価】
・定期試験（80%）、授業時に出される課題（20%）。
・定期試験及び課題については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】
富永大介・平田幹夫・竹村明子・金武育子（2016）『教職をめざすひとのための発達と教育の心理学』（ナカニシヤ出版）

【参考文献】
鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2019）『やさしい教育心理学』（有斐閣）
武田明典（2020）『教師と学生が知っておくべき教育心理学』（北樹出版）
藤原和政・谷口弘一（2021）『学校現場で役立つ教育心理学』（北大路書房）
髙櫻綾子（2021）『子どもの育ちを考える教育心理学』（朝倉書店）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	教育心理学の内容・方法	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
2	学習と記憶	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
3	動機づけ	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
4	知能・創造性と学力	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
5	自己理解とパーソナリティ	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
6	心理検査	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
7	測定と評価	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
8	幼児児童生徒の理解	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
9	発達の原理	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
10	発達段階の特徴	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
11	社会化と個性化	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
12	学校不適応行動の理解	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておく	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		こと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
13	学級経営	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
14	学級集団	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
15	発達障害と支援	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（２時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（２時間）。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KOKO3
授業形態： 講義
科目名： 教育相談
担当教員： 織田　幸美(ODA　Yukimi)

【授業の紹介】
　教育相談は、幼児・児童の心理的発達を支援するための日常的な教育活動であり、教育の専門家としての教師にとって、教育相談に関する基礎の習得は不可欠です。幼児・児童・生徒の発達上直面する問題について柔軟に対応し、援助するためのスキルについて、体験的な活動も取り入れながら心理的成長を支える予防的援助について学習します。
この授業ではGoogle Classroom(クラスコード：gl7ixql)を使用し，ICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	

【到達目標】
１.学校における教育相談の意義と理論を理解することができる。
２.教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解することができる。
３.教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解することができる。
４.学校での予防的心理教育の方法について理解し、実践力を高めることができる。

【成績の評価】
定期試験（60%）と小レポート（40%）
小レポートについては，その都度、授業時に講評する。定期試験については教員研究室において模範解答を閲覧できるようにする。
30分以上の遅刻，離席は欠席特別な場合を除いて欠席とみなす。

【使用テキスト】
教師のための教育相談（2018年　西本絹子　萌文書林）

【参考文献】
絶対役立つ教育相談（2017年　藤田哲也監修　ミネルヴァ書房）
生徒指導提要（改訂版）デジタルバージョン（2022年　文部科学省）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中学校の現場での教育相談担当教員やスクールカウンセラーの経験を活かし、具体的な事例を示しながら受講者が実感を持って授業内容を理解っできるように工夫して授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	現代の子どもと子育てをめぐる状況と教師に求められる役割	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
2	教育相談とは何か―教師のおこなう教育相談の役割・特徴	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
3	相談援助の理論―カウンセリングとカウンセリングマインドの考え方を理解する	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
4	相談援助の技術１―カウンセリングマインドを活かす聴き方	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
5	相談援助の技術２―カウンセリングマインドを活かす保護者との関係づくり	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
6	子ども理解１―発達の視点から子ども理解する	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
7	子ども理解２―問題のアセスメント	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
8	子ども理解３―問題行動のとらえ方	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
9	いじめ問題への対応	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
10	不登校への対応	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまと	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		めて提出すること。（2時間）	
11	特別な要する要する子どもへの対応１―理解と支援の考え方	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
12	特別な支援を要する子どもへの対応２ ―支援の実際の基礎	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
13	障害のある子ども・気になる子どもの保護者への対応	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
14	「困った保護者」・不適切な養育環境への対応	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
15	子ども支援と学級経営	予習として，授業で指定する範囲の教科書を事前に読み，そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KOKO4
授業形態： 演習
科目名： 保育内容－人間関係Ⅰ
担当教員： 横川　和章(YOKOGAWA　Kazuaki)

【授業の紹介】
　子どもたちを取り巻く「人間関係」の希薄さ、子ども自身の「人間関係」づくりの弱さなどの問題に対し、保育者として、また、親としてどのように対応すればいいのだろうか。領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指す領域です。幼稚園教育要領および保育所保育指針における基本理念をふまえながら、乳幼児の様々な生活場面での「人との関わり」の育ちについて、心理学的な知識を仲立ちとした保育理念と保育実践の統合という観点から検討します。子どもの育ちについて理論と実践力を兼ね備えた、子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けることを目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．学生が、幼稚園教育等において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
２．学生が、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して理論と結びついた実践的な保育を構想する方法を身に付けることができる。

【成績の評価】
・授業時に出される課題（60%）、レポート（40%）の総合評価。
・未提出の課題、レポートがある場合は、単位を認定しない。
・課題及びレポートに関しては、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】
岩立京子・西坂小百合（2021）『保育内容　人間関係　第２版』（光生館）

【参考文献】
文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
無籐隆・古賀松香（2016）『社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」』（北大路書房）
小田豊・奥野正義（2009）『保育内容 人間関係』（北大路書房）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 領域「人間関係」の保育内容	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
2	現代社会と人と関わる力	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
3	０歳児の育ちと人との関わり（１）発達の特徴	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
4	０歳児の育ちと人との関わり（２）園生活における人との関わり	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
5	１～２歳児の育ちと人との関わり（１）発達の特徴	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
6	１～２歳児の育ちと人との関わり（２）園生活における人との関わり	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
7	３歳児の育ちと人との関わり（１）安心・安定を基盤として過ごす	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
8	３歳児の育ちと人との関わり（２）人間関係の広がり	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
9	４歳児の育ちと人との関わり（１）人と関わる力の発達の特徴	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
10	４歳児の育ちと人との関わり（２）仲間との出会いと関わり	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
11	５歳児の育ちと人との関わり（１）遊びや生活の中で育つ人と関わる力	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
12	５歳児の育ちと人との関わり（２）園行事	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
13	５歳児の育ちと人との関わり（３）小学校への接続	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
14	乳幼児期の遊びの発達と人との関わり（１）遊びの種類とその発達	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
15	乳幼児期の遊びの発達と人との関わり（２）遊びを通した指導	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KOKO5
授業形態： 演習
科目名： 保育内容－人間関係II
担当教員： 横川　和章(YOKOGAWA　Kazuaki)

【授業の紹介】
　領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。本授業では、保育内容－人間関係Ⅰに引き続き、幼稚園教育要領、および、保育所保育指針の基本理念をふまえた上で、子どもの人間関係をどのようにとらえるのか、また指導はどのようにあるべきかについて、人間関係に関するさまざまな心理学的知見をもとに検討します。特に、日々の保育の中で起こりうる子どもの「人との関わり」に関する具体的な問題を多くとりあげ、そのような問題に対処する理論に基づいた基本的な考え方と対処方法について学びます。保育や教育で必要となる理論と実践を備え、子育て支援社会を支えるための実践力の向上を目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．学生が、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
２．学生が、乳幼児の「人との関わり」に関するさまざまな事項を検討・考察することで、人間関係全般に関する基礎的指導力のさらなる育成を目標とする。
３．学生が、子どもにとっての人とのかかわりの意味の重要性をあらためて理解し、主観に陥らない子どもと問題のとらえ方を身に付け、子育て支援社会を支えるための実践力の向上をめざす。

【成績の評価】
・定期試験（60%）、授業時に出される課題（40%）。
・定期試験及び課題については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】
岩立京子・西坂小百合（2021）『保育内容　人間関係　第２版』（光生館）

【参考文献】
文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
岩立京子・西坂小百合（2018）『保育内容　人間関係』（光生館）
無籐隆・古賀松香（2016）『社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」』（北大路書房）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	保育の構想と展開（１）３歳未満児	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
2	保育の構想と展開（２）３歳以上児	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
3	保育の評価（１）３歳未満児	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
4	保育の評価（２）３歳以上児	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
5	遊びや生活のなかで育む人と関わる力（１）理論的基盤	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
6	遊びや生活のなかで育む人と関わる力（２）保育における指導	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
7	トラブルと発達（１）理論的基盤	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
8	トラブルと発達（２）保育における指導	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
9	道徳性・規範意識の芽生え（１）理論的基盤	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
10	道徳性・規範意識の芽生え（２）保育における指導	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
11	協同性（１）理論的基盤	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
12	協同性（２）保育における指導	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
13	気になる子ども（１）理論的基盤	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
14	気になる子ども（２）保育における指導	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
15	まとめ（領域「人間関係」とその指導）	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KOKO6
授業形態： 演習
科目名： 保育内容－環境Ⅰ
担当教員： 川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】
　子どもは、周囲の様々な環境（人、もの、自然、社会、文化、ICTなど）に好奇心や探究心をもって関わります。子どもにとってよりよい環境や保育者が果たす役割などについて、具体的指導場面での事例や体験的な実践を通して考えながら、保育実践力を培っていきます。その中でも、主に自然との関わりに焦点をあて、大学内のフィールドワークを通して指導法や指導上の留意点等について考えていきます。
　また、小学校教育との連携など保育の現代的課題について考え、保育をする上での工夫や配慮等についても考えていきます。
　この授業では Google Classroom（クラスコード：e5taaci）を使用し、課題指示や提出、連絡事項を伝えます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
1.領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解できる。
2.保育内容「環境」のねらいや内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、自分なりに考えることができる。
3.幼児理解と評価についての考え方を理解できる。
4.保育の現代的課題や、領域「環境」と小学校以降の教科等とのつながりを理解できる。

【成績の評価】
　授業への関心・態度（１０％）、授業時のワークシート及びオリジナル植物図鑑（６０％）、定期試験（３０％）
　ワークシートや課題については、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりします。期末試験については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】
・文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
・厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館

【参考文献】
・内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館
　その他、適宜授業で紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例や実際の映像等を活用しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、オリジナル植物図鑑について	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
2	保育内容「環境」の意義、「環境」のねらいと内容	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
3	保育内容「環境」と幼児理解（好奇心・探究心）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
4	身近な自然との関わりと具体的活動①（「自然」について領域から考える）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
5	身近な自然との関わりと具体的活動②（自然に触れる：フィールドワーク）	【予習】季節の自然に触れ、気になった自然物などを写真に撮り、植物の名前や特徴をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
6	身近な自然との関わりと具体的活動③（グループワーク：フィールドビンゴカードの作成）	【予習】季節の自然に触れ、気になった自然物などを写真に撮り、植物の名前や特徴をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】グループで、フィールドビンゴカードを完成させ、提出すること。	
7	身近な自然との関わりと具体的活動④（指導法：安全性に配慮した保育者の援助）	【予習】季節の自然に触れ、気になった自然物などを写真に撮り、植物の名前や特徴をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
8	身近な自然との関わりと具体的活動⑤（フィールドビンゴの実践・振り返り・評価）	【予習】季節の自然に触れ、気になった自然物などを写真に撮り、植物の名前や特徴をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
9	数量・図形との関わりと具体的な活動①（子どもの育ち・発達を捉える）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
10	数量・図形との関わりと具体的な活動②（保	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示した	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	育者の援助や関わり）	ページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
11	ICT機器との関わりと具体的な活動①（保育におけるICT環境の実際）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
12	ICT機器との関わりと具体的な活動②（ICT機器を活用した保育の実際）	【予習】事前に課す課題をワークシートにまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
13	幼小接続期の育ちと環境とのかかわり	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
14	身近な自然との関わりと具体的活動⑥「オリジナル植物図鑑」の作品鑑賞会	【予習】オリジナル植物図鑑の発表内容についてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
15	保育の現代的課題、まとめ（これまでの学びの振り返り）	【予習】今までの授業の内容を整理し、疑問点についてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KOK07
授業形態： 演習
科目名： 保育内容－環境Ⅱ
担当教員： 川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】
　環境Ⅱでは、環境Ⅰの内容を発展させ、子どもが主体的に環境に関わる力を育む保育について、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付けていきます。そのため、指導案や指導計画の作成、模擬保育を行います。
　また、園の室内環境や安全な環境について知識や技術を深めたり、現代的課題や保育実践の動向について学んだりすることを通して、保育構想の向上を目指します。
　この授業では、Google Classroom（クラスコード：g4zf2oy)を使用し、課題の指示や連絡事項等を伝えていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
1.幼児の発達や学びの過程を理解し、環境を再構成することができる専門的知識や実践力を身に付けることができる。
2.領域「環境」の特性及び情報機器や教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
3.具体的な保育を構想した指導案や指導計画を作成することができる。
4.模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。
5.現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【成績の評価】
　関心・態度（10％）、グループ活動・ワークシート及び事前課題・指導案等の提出（６０％）、定期試験（３０％）
　※授業の振り返りやレポートは、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりします。期末試験については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】
・文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
・厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館

【参考文献】
・内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館
　その他必要があれば適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例や実際の映像等を活用しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業の概要について）、保育内容「環境」について	【予習】幼稚園教育要領の領域「環境」に関するページについて目を通し、大切だと思う視点についてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
2	園の環境をデザインする①（保育環境のデザインと物的環境）	【予習】事前に課す課題について、自分なりに調べ、ワークシートにまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
3	園の環境をデザインする②（子どもの生活や遊びを豊かにする環境）	【予習】事前に配布した資料に目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
4	園の環境をデザインする③（室内環境を実際に作成する）	【予習】事前に配布した資料に目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
5	物や人との関わりを深める環境の構成と保育の展開（映像資料等の活用）	【予習】事前に配布した資料に目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
6	社会生活とのかかわり（文化や伝統、行事に親しむ保育の実際）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
7	指導形態とカリキュラム（指導計画・指導案作成：グループワーク）	【予習】担当する行事について調べ、活動内容を検討し、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】グループで指導計画を立案し、指導案等を作成すること。（1時間）	
8	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（教材準備：グループワーク）	【予習】担当する行事について調べ、指導方法を検討し、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】グループで保育教材等を準備し、指導案等を完成させて、提出すること。（1時間）	
9	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際① 行事：七夕）	【予習】配布された指導案をもとに、子どもへの援助方法を自分なりに考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】模擬保育から学んだことや課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
10	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際② 行事：クリスマス）	【予習】配布された指導案をもとに、子どもへの援助方法を自分なりに考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】模擬保育から学んだことや課題を	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
11	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際③ 行事：節分）	【予習】配布された指導案をもとに、子どもへの援助方法を自分なりに考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】模擬保育から学んだことや課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
12	子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際④ 行事：桃の節句）	【予習】配布された指導案をもとに、子どもへの援助方法を自分なりに考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】模擬保育から学んだことや課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
13	指導の実際の振り返り、幼児理解と評価（記録と映像資料等の活用）	【予習】模擬保育を振り返り、行事に関する指導について、自分なりの考えをノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
14	乳幼児の安全な環境について①（事故の予防と対策）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
15	乳幼児の安全な環境について②（安全能力形成について） まとめ（これまでの学びの振り返り）	【予習】今までの授業の内容を整理し、疑問点についてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシート等にまとめて、提出すること。（1時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KOKO8
授業形態： 講義
科目名： 道徳教育論
担当教員： 藤本　駿(FUJIMOTO　Syun)

【授業の紹介】
皆さんはどのような道徳教育を受けてきましたか。そもそも道徳教育とはどのようなものでしょうか。2018年4月から、これまでの「道徳の時間」は「特別の教科 道徳」（道徳科）として位置付けられています。道徳科では、「考え、議論する道徳」を実現することが目指されています。小学校教諭は、道徳科の授業も担当することになるため、その意義や内容をしっかりと理解し、実践できる力を身に付けておく必要があります。
この授業では、道徳科の学習指導要領の基づき、道徳科の目標や内容、指導計画等について概観します。また、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業を通して、道徳科の実践的な指導力を身に付けることを目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１　道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解できる。
２　道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解できる。

【成績の評価】
この授業では、毎回の授業後に配布する振り返りシート（20%）、3回行う小レポート（20%）、指導案や模擬授業への取り組み状況（20%）、定期試験（40%）から総合的に評価する。指導案、小レポートはコメントを付けた上で授業内に返却する。定期試験は、試験終了後に解答例を配布する。

【使用テキスト】
小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編（平成29年6月　文部科学省）。

【参考文献】
毎回、授業の内容にそった資料を配布し、それを用いて講義する。他の参考書等については授業中に適宜紹介する。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、道徳教育とは何か	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
2	道徳教育の基本（１）道徳性の発達	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
3	道徳教育の基本（２）道徳教育の歴史	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
4	道徳教育の基本（３）道徳教育の現状	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
5	道徳科の目標、内容構成、指導方針	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
6	道徳科の学習指導案の形式	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
7	道徳科の内容項目（１）自分自身に関すること	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
8	道徳科の内容項目（２）人との関わり	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
9	道徳科の内容項目（３）集団や社会との関わり	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
10	道徳科の内容項目（４）生命や自然、崇高なものとの関わり	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（２時間）。	
11	道徳科の指導方法	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
12	模擬授業の実施（１）導入段階の模擬授業	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
13	模擬授業の実施（２）展開段階の模擬授業	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
14	模擬授業の実施（３）まとめ段階の模擬授業	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
15	まとめ、今後の道徳教育の動向	予習として、教員から指示された資料に関する疑問点や気づいた点などをノートに整理しておくこと（２時間）。復習として、講義資料を読み返し、感想や意見などをノート等に整理し、授業クラスルームに投稿すること（２時間）。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KOK09
授業形態： 講義
科目名： 生徒・進路指導論
担当教員： 平畑　博人(HIRAHATA　Hiroto)

【授業の紹介】
　生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育のあり方についての様々な問題やトピックを取り上げ、児童が抱える課題などを見つけ解決する手法を身に付けます。
　経営学部の学生も受講します。
　また、アクティブ・ラーニング（ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、３分間スピーチ）を通して授業の理解を深め自分の意見を表明し他人の考え方を知ることにより、学校現場で教壇に立った際の思考・行動の可能性も検討します。
　この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：2rnsi66）を使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
①生徒指導、進路指導・キャリア教育の理論と方法について理解することができる。
②生徒指導、進路指導・キャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につけることができる。

【成績の評価】
提出物及び小レポート（５０％）、学年末の最終レポート（５０％）。
小レポートは後日返却し、最終レポートはオフィスアワーでコメントする。

【使用テキスト】
文部科学省『生徒指導提要（改訂版）』（令和４年）。… 文部科学省のＨＰからダウンロードしたものでもかまわない

【参考文献】
随時資料を配布する

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校や教育委員会での教育や指導、管理の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を進めます。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	生徒指導の基礎	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
2	生徒指導の方法原理	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
3	生徒指導の組織的な取組みと学校内外の連携	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
4	こども基本法	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
5	進路指導の進め方 - ほめ方と叱り方	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
6	生徒指導の諸問題（１）- インターネットと携帯電話	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
7	生徒指導の諸問題（２）- 校則	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
8	生徒指導の諸問題（３）- いじめ	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
9	生徒指導の諸問題（４）- 不登校	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
10	生徒指導の諸問題（５）- 懲戒と体罰	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
11	生徒指導の諸問題（６）- 暴力行為と少年非行	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
12	進路指導・キャリア教育の意義と教育課程における位置づけ	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
13	進路指導・キャリア教育の組織的な推進体制と連携	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
14	職業に関する体験活動とキャリア教育	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
15	生涯を通じたキャリア形成とキャリア・カウンセリング	予習として、予定されている授業内容を確認し、当該範囲の使用テキストや参考文献を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KOK011
授業形態： 演習
科目名： 子どもと人間関係
担当教員： 横川　和章(YOKOGAWA　Kazuaki)

【授業の紹介】
　本授業では、幼稚園や保育所等で直接に子どもの保育・教育に必要となる子どもたちの人間関係に関する諸理論およびその基礎となる社会性に関する諸理論を学ぶことを通じて、子どもと様々な人との関係性の質が子どもの発達にどのような影響を与えるのか検討します。また、保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における人間関係のねらいや内容についての考え方の根拠について学びます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．領域「人間関係」の指導の基盤となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付けることができる。
２．乳幼児の人間関係に関する理論やその背景にある研究を検討・考察することで、乳幼児における人との関わりがどのような意味を持つかについて、理論と実践を結びつけながら理解することができる。

【成績の評価】
・定期試験（70%）、授業時に出される課題（30%）。
・定期試験及び課題については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】
文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』（フレーベル館）

【参考文献】
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
岩立京子・西坂小百合（2018）『保育内容　人間関係』（光生館）
無籐隆・古賀松香（2016）『社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」』（北大路書房）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
2	現代社会と人と関わる力	予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
3	子どもの生活と人間関係	予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
4	幼児期の教育・保育と人間関係	予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
5	保育内容としての人間関係（１）幼稚園教育要領に基づいて	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
6	保育内容としての人間関係（２）幼稚園教育要領の変遷から	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
7	保育内容としての人間関係（３）保育所保育指針に基づいて	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
8	幼児教育における遊び	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）	
9	子どもの発達と遊び	予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）	
10	遊びの実際（１）象徴遊び	予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
11	遊びの実際（２）伝承遊び	予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
12	遊びの実際（３）ルールのある遊び	予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（40分）。	
13	遊びの実際（４）ゲーム	予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
14	遊びにみる人と関わる力の育ち	予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
15	まとめ（人と関わる力の育ちを支援する）	予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KOK012
授業形態： 演習
科目名： 子どもと環境
担当教員： 川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】
　この授業では、領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する基本的な知識や技能を身に付けていきます。特に、領域「環境」の基盤である子どもを取り巻く環境の諸側面から、幼児の活動と発達等との関連について学びます。具体的には、保育内容の環境についての理解をもとに、子どもの環境との関わりについて実際の活動を体験します。その後、幼児の発達に適した環境についてグループワークなどを通して考えを深めていきます。また、この授業を通して、日常の生活においても身近な環境に意識を向け、継続的に学ぶ力を養うことをめざします。
　この授業では Google Classroom（クラスコード：tre3tgp ）を活用し、課題提出や連絡事項を伝えます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めることができる。
２．子どもを取り巻く環境の意義を理解し、説明できる。
３．子どもを取り巻く環境の諸側面から、乳幼児の活動と発達等を関連づけて考えることができる。
４．領域「環境」に関連する基本的な知識や技術を身に付け、教育・保育の実践的な活動を自分なりに構想することができる。

【成績の評価】
　授業時のワークシート（５０％）、レポート（２５％）、授業時に実施する確認テスト（２５％）により、評価する。
　※ワークシート、レポート、小テストについては、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】
・文部科学省（2018）幼稚園教育要領解説　フレーベル館
・厚生労働省（2018）保育所保育指針解説　フレーベル館

【参考文献】
・内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　フレーベル館
・田宮縁（2018）体験する・調べる・考える 領域「環境」　萌文書林
・小櫃智子（2021）実践例から学びを深める 環境指導法　わかば社
　その他、授業で適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・保育と「環境」	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
2	領域「環境」とは	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
3	子どもの育ちと領域「環境」	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
4	子どもを取り巻く自然環境①（身近な自然）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
5	子どもを取り巻く自然環境②（動植物や生き物）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
6	子どもを取り巻く自然環境③（季節や生活の変化）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
7	子どもを取り巻く物的環境①（物の性質と仕組み）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
8	子どもを取り巻く物的環境②（数量・図形） 小テストとその解説	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	小テスト①
9	子どもを取り巻く物的環境③（文字・標識）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		に関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
10	子どもを取り巻く社会的環境①（文化・伝統）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
11	子どもを取り巻く社会的環境②（生活に関する情報・地域施設）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
12	子どもを取り巻く社会的環境③（多文化共生保育）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
13	子どもを取り巻く人的環境	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
14	保育におけるESD（SDGs）	【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
15	まとめ：要点の整理・質疑応答 小テストとその解説	【予習】今までの授業を振り返り、気付いたことや疑問点についてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	小テスト②
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KARA31
授業形態： 講義
科目名： 乳児保育Ⅰ
担当教員： 野町　真知子(NOMACHI　Machiko)

【授業の紹介】
　この授業は、保育士資格を取得するための必修科目です。
　乳児期は子どもはもちろん保護者も初めての連続の中で過ごしています。子どもたちは著しい成長を遂げる時期であり、保護者は色々な初めてと直面し、喜んだり悩んだりしながら徐々に親として子どもと一緒に成長していきます。
　共働き世帯や核家族世帯の増加など、社会状況の変化に伴い多様なニーズがある乳児保育の意義、目的を理解し、歴史的背景を知った上で、3歳未満児の発達、保育内容、保護者や地域との連携の仕方についてなど乳児保育の基礎的な内容について学びます。
　この授業では、グループワークや事例の検討を通して保育現場での実践の基礎を学びます。Google classroom（クラスコード：zzcdylx　）を使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．乳児保育の意義・目的・歴史・役割等について理解することができる。
２．多様な保育の場での乳児保育の現状と課題について理解することができる。
３．子どもの発達過程を理解し、それに適した保育のねらいや内容について理解することができる。
４．子どもの発達に応じた生活・遊びを行うための環境構成について理解することができる。
５．乳児保育の現状と課題について理解することができる。

【成績の評価】
授業中の態度、授業シートの記入内容（40%）、ワークシート(課題)やレポートの記入内容（40%）、小テスト（20%）により評価する。
小テスト、ワークシートは、次の授業時に返却しフィードバックを行う。

【使用テキスト】
よくわかる！保育士エクササイズ⑤　乳児保育演習ブック〔第２版〕（ミネルヴァ書房　2019年）

【参考文献】
保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園　教育・保育要領　解説とポイント　汐見稔幸／無藤隆監修　（ミネルヴァ書房　2018年）
改訂　乳児保育の基本　阿部和子編　（萌文書林）
はじめて学ぶ乳児保育　第二版　志村聡子編　（同文書院）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のある教員による授業科目です。保育所、こども園で保育士、主任保育士をしてきた中で乳児保育に携わってきた経験をもとに乳児保育の実践に必要な知識、技術について授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 乳児保育とはなにか	予習として、授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
2	乳児保育の理念	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
3	乳児保育の歴史	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
4	保育所、認定こども園における乳児保育	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
5	乳児院などのおける乳児保育	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
6	乳児保育の基礎知識　発達	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
7	乳児保育の基礎知識　乳児保育のねらいと内容	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
8	乳児保育の基礎知識　保育に関わる配慮事項	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
9	6ヶ月未満の子どもの育ちと保育内容	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
10	6ヶ月から1歳未満の子どもの育ちと保育内容	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
11	1歳から2歳未満の子どもの育ちと保育内容	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
12	2歳から3歳の子どもの育ちと保育内容	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
13	保護者との連携	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
14	職員間の連携 地域の関係機関との連携	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
15	乳児保育の現状と課題	予習として、次回授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(2時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(2時間)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KARA32
授業形態： 演習
科目名： 乳児保育Ⅱ
担当教員： 野町　真知子(NOMACHI　Machiko)

【授業の紹介】
　この授業は保育士資格を取得するための必修科目です。
乳児保育Ⅰで得た知識をもとに、3歳未満の子どもの育ちを支えるために必要な知識と実践力を培います。
　保育の現場で求められる保育士としての役割を理解し、実習などで実際に子どもと関わった経験や事例などで得た、子どもと関わる際の子ども理解や保育に対する保育者としての考え方をもとに、より実践に近い経験をたくさん積むことができるような学習をします。
　グループワークを通して、実際に保育の現場で起こりうる子どもたちとのかかわりの際、どのように子どもの思いを理解するか、どのような対応をしていくか、意見交換をしながら学んでいきます。
　Google classroomを(クラスコード：eiexe7f)を使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．３歳未満児の発達の過程や特性を踏まえた関わりの基本的な考え方を理解することができる。
２．３歳未満児の子どもの生活や遊び、環境について具体的に理解することができる。
３．乳児保育で必要な配慮について具体的に理解することができる。
４．上記のことをふまえて、乳児保育の指導計画の立案、観察、記録、自己評価について理解することができる。
５．保護者、地域との連携を理解し、情報の共有手段としての連絡帳やおたよりの作成ができる。
６．乳児期の発達に応じたおもちゃ、絵本を提案することができる。おもちゃ作成を通して、子どもたちへの発達援助やおもちゃを作成する上で配慮することを理解できる。

【成績の評価】
授業中の態度、授業シートの記入内容（30%）、ワークシート(課題)の記入内容（30%）、手づくりおもちゃの作成・発表、レポート（40%）、により評価します。
ワークシートなどは添削して次の授業時に返却、解説します。
おもちゃなどは発表時に解説します。

【使用テキスト】
よくわかる！保育士エクササイズ⑤　乳児保育演習ブック〔第２版〕（ミネルヴァ書房　2019年）

【参考文献】
保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園　教育・保育要領　解説とポイント　汐見稔幸／無藤隆監修　（ミネルヴァ書房　2018年）
改訂　乳児保育の基本　阿部和子編　（萌文書林）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のある教員による授業科目です。保育所、こども園で保育士、主任保育士をしてきた中で乳児保育に携わってきた経験をもとに乳児保育の実践に必要な知識、技術について授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 乳児保育Ⅰの振り返り	予習として、授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間)	
2	乳児保育の基本	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間)	
3	子どもの生活の流れ(0歳児)	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間)	
4	子どもの保育環境(0歳児)	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間)	
5	子どもの援助の実際(0歳児)	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間)	
6	おもちゃについて	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間) 14回目の手づくりおもちゃの発表に向けて、おもちゃを作成するための準備のワークシートを書き提出する。(1時間)	
7	離乳食について	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間) 14回目の手づくりおもちゃの発表に向けて、おもちゃを作成するための準備のワークシートを書き提出する。(1時間)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
8	子どもの生活の流れ(1歳児)	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間) 14回目の手づくりおもちゃの発表に向けて、作成したワークシートをもとに子どもの発達を見据え、安全面に配慮したおもちゃ作りを行う。(30分)	
9	子どもの保育環境(1歳児)	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間) 14回目の手づくりおもちゃの発表に向けて、おもちゃを作成するための準備のワークシートを書き提出する。(30分)	
10	子どもの援助の実際(1歳児)	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間) 14回目の手づくりおもちゃの発表に向けて、おもちゃを作成するための準備のワークシートを書き提出する。(30分)	
11	子どもの生活の流れ(2歳児)	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(30分) 14回目の手づくりおもちゃの発表に向けて、おもちゃを作成するための準備のワークシートを書き提出する。(1時間)	
12	子どもの保育環境(2歳児)、子どもの援助の実際(2歳児)	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間) 14回目の手づくりおもちゃの発表に向けて、おもちゃを作成するための準備のワークシートを書き提出する。(30分)	
13	集団での生活における配慮	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間) 14回目の手づくりおもちゃの発表に向けて、	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		おもちゃを作成するための準備のワークシートを書き提出する。(30分)	
14	手づくりおもちゃ、発表と相互評価	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間)	
15	保護者との連携　乳児保育についてのふりかえり	予習として、次回の授業内容について、テキストで指定されている範囲を読み、分からない用語などは事前に調べ、ノートなどにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内で新たに知った専門用語などをノートなどにまとめておく。また、授業で出された課題を行い、次回の授業開始前に提出すること。(1時間)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KARA3
授業形態： 演習
科目名： 子どもの食と栄養Ⅰ
担当教員： 川染　節江(KAWASOME　Setsue)

【授業の紹介】
「子どもの食と栄養Ⅰ」は、最初に子どもの心身の発育に必要な栄養学について学びます。次に小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所等で、直接的に子どもの教育、保育にあたるための「食と栄養、食生活」の領域における理論と実践力の向上をめざした授業内容とします。
また、実際に食事づくりを体験し、食品に含まれる栄養素と身体の発育・発達との関係が理解できるように授業を進めます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．乳幼児期から思春期に至る子どもの心身の発達に必要な栄養素とその働きを知ることができる。
２．心身の発達に必要な栄養素と食品について知ることができる。
３．子どもの身体の発達を評価する手法を知ることができる。（ＢＭＩ、肥満度など）
４．調理実習の体験から、栄養素、消化、吸収、味覚の仕組み等を理解し保育者としての資質を向上することができる。

【成績の評価】
授業態度（10%）、実習レポート（10%）、定期試験（80%）を総合的に評価します。
講義内容のミニレポート、実習などのレポートを提出して、理解度を深め、後日、返却することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】
飯塚美和子編『最新子どもの食と栄養 - 食生活の基礎を築くために』（学建書院）2023年

【参考文献】
到達目標に関連した新聞記事やデータなどの資料を配布し保育者としての資質向上をめざします。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（子どもの心身の発育に必要な食と栄養とは何か、また、本授業を学ぶ目的は何かを確認する。）	あらかじめ、シラバス内容を見て、講義内容を予想して、疑問点をチェックしておくこと。また、毎回の授業内容をノートに整理すること。（１時間）	
2	子どもの心身の健康と食生活の意義（発育・発達の評価方法）、食事の目的	子どもの心身の発達の特徴を指示したテキスト内容から把握し、整理しておくこと。（１時間）	
3	子どもの食生活環境の現状把握と課題（世界の子どもの栄養状態を知る）	子どもの食生活環境について、あらかじめ問題点を調べておくこと。（１時間）	
4	子どもの食と栄養の特徴、子どもの生涯発達と食生活の関係	子どもの食生活が生涯の健康な心身の礎となることを自分なりに考察しておくこと。（１時間）	
5	栄養の基本的概念、栄養素の種類と機能Ⅰ（３大栄養素）	栄養学の基本として５大栄養素について調べておくこと。（１時間）	
6	栄養素の種類と機能Ⅱ（５大栄養素）、栄養素の消化・吸収の機能	体の仕組みとして、食物の消化・吸収について調べておくこと。（１時間）	
7	日本人の食事摂取基準（2020年度版）、PFCのエネルギーバランスと必要な栄養素を知る	「食事摂取基準」について調べておくこと。（１時間）	
8	食品の基礎知識、食品の分類、市販食品の現状、食品の選び方を知る	食品成分表とは何かを調べておくこと。（１時間）	
9	献立作成と調理の基本	「献立作成」について指示したテキスト内容から調べておくこと。（１時間）	
10	調理実習　思春期の望ましい食事づくりを体験する	思春期の１回分の食事作りを体験するために各自の平均的な１日の食事内容を記録しておくこと。（１時間） 調理実習の予定	
11	調理実習　子どものおやつづくりを体験する	調理実習の予定、調理方法を見ておくこと。（１時間）	
12	子どもの発育・発達と栄養生理　食欲・味覚の仕組みなどを学ぶ	子どもの食欲・味覚の発達について調べておくこと。（１時間）	
13	子どもの発育・発達と食生活の関係Ⅰ（乳児期・離乳期・幼児期）	母乳栄養・離乳食について調べておくこと。（１時間）	
14	子どもの発育・発達と食生活の関係Ⅱ（学童期・思春期）	学童期、思春期の食生活の特徴について調べておくこと。（１時間）	
15	まとめ、到達目標の確認及びテストについて	まとめ、到達目標の各項目について自己評価しテストを受験すること。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KARA4
授業形態： 演習
科目名： 子どもの食と栄養Ⅱ
担当教員： 川染　節江(KAWASOME　Setsue)

【授業の紹介】
「子どもの食と栄養Ⅱ」は、「子どもの食と栄養Ⅰ」で得た子どもの健全な成長・発達に必要な食生活と栄養が深くかかわっていることを基本とし、食育の推進・子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身につけることができるような内容とします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．離乳期から幼児期、児童期、思春期に至る各発育段階の食生活のあり方を知ることができる。
２．それぞれ発達段階に応じた栄養および食生活の問題点と対応策を知り、子育て支援にいかせることができる。
３．幼稚園、保育所、小学校における食育推進の基本と実践力を身に付けることができる。
４．子どもの食生活におけるアレルギー対策・障害のある子どもへの食事の支援などの知識を得ることができる。

【成績の評価】
授業態度（10%）、実習レポート（10%）、定期試験（80%）を総合的に評価します。
講義内容のミニレポート、実習などのレポートを提出して、理解度を深め、後日、返却することでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
飯塚美和子編『最新子どもの食と栄養 - 食生活の基礎を築くために』（学建書院）2023年

【参考文献】
到達目標に関連した新聞記事やデータなどの資料を配布し保育者としての資質向上をめざします。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業内容を周知し、学生の学ぶ意欲の向上を図ります）	シラバス内容にあらかじめ目を通しておくこと。（１時間）	
2	離乳期の意義と食生活の関係を学ぶ	離乳期の栄養について復習しておくこと（１時間）	
3	離乳期の食生活（離乳期の必要性と離乳の進め方）	離乳期の進め方、幼児期の特徴について調べておくこと（１時間）	
4	幼児期の食生活	幼児期の食生活の特徴を調べておくこと（１時間）	
5	幼児期の食生活の問題点	幼児期の食生活の問題点を調べ、対応策を考えておくこと（１時間）	
6	離乳期から思春期に至る発育・発達と食生活の自立に向けて	食生活の自立とは何かを考察しておくこと（１時間）	
7	調理実習、おやつづくりの体験	幼児期のおやつづくりを体験、調理法を調べておくこと、調理実習の予定（１時間）	材料費徴収
8	調理実習、幼児食、学童食づくりの体験	幼児食または学校食づくりの体験、調理法を調べておくこと、調理実習の予定（１時間）	材料費徴収
9	食育の基本と内容Ⅰ　食育基本法、保育園での食育活動	食育基本法の内容をテキストの指示ページで把握しておくこと（１時間）	
10	食育の基本と内容Ⅱ　学童期・思春期における食育活動（食生活上の問題点、特に朝食の必要性など）	学童期から思春期を対象にした食育推進計画および評価方法について考察すること（１時間）	
11	家庭における食育の必要性（食文化の継承：生活習慣病・肥満対策）	家庭における食育の内容を具体的に計画し、併せて食育推進について復習すること（１時間）	
12	学校給食の変遷及び現状・栄養教諭の役割と学校での食育活動	学校給食の歴史や目標について調べ、食育活動との関連性を考察しておくこと（１時間）	
13	児童福祉施設における食事と栄養Ⅰ	児童福祉法に規定されている、児童福祉施設の種類を調べ、食事の提供と食育の関係を考察しておくこと（１時間）	
14	児童福祉施設における食事と栄養Ⅱ（食物アレルギー・障害がある子どもの食と栄養）	アレルギーや障害がある特別な配慮が必要な子どもに対する食事の提供や食育推進について、あらかじめ調べておくこと（１時間）	
15	各自で到達目標に対する達成度の確認、及びテストについて	まとめ、各自で本授業の到達目標と学修成果を確認してテストに臨むこと（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KARA5
授業形態： 講義
科目名： 子どもの保健
担当教員： 磯部　健一(ISOBE　Kenichi)

【授業の紹介】
　本授業では胎生期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児期全体を対象としますが、特に胎生期から乳幼児までを重点的に扱います。成長発達の途上において各臓器にはさまざまな臨界期が存在しており、一度それが障害されると一生を決定づける非可逆的な変化が引き起されます。子どもの健全な成長発達とその病的な面だけでなく、生理的な面の知識を習得することが重要です。これらの知識を基本として、三つの健康（身体の健康、心の健康、社会性の健康）を重視する視点を学習し、子どもの教育・保育にあたるための理論と実践力を修得します。
　この授業では、Google Classroom(クラスコード：ueajhpv)を使用して参考資料などを配布することがあります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。
２．子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。
３．子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。
４．子どもの疾病とその予防法と適切な対応について理解できる。

【成績の評価】
　授業参加状況・ミニレポート（10%）、小テスト（20%）、定期試験（70%）の成績により総合的に判断する。ミニレポートと小テストは授業時に返却し解説する。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】
小林美由紀 編著『子どもの保健テキスト』(診断と治療社、2023年)

【参考文献】
小林美由紀 編著『子どもの健康と安全演習ノート』(診断と治療社、2022年)
平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（内閣府 文部科学省 厚生労働省、チャイルド本社、2017年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	子どもの健康と保健の意義	授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。	
2	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。	
3	地域における保健活動と子ども虐待防止	次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。	
4	身体発育及び運動機能	次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。	
5	生理機能の発達－1（呼吸・循環・体温・免疫・消化器・排泄）	次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。	
6	生理機能の発達－2（水分代謝・内分泌・睡眠・感覚・神経）	次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。	
7	健康状態の観察	次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。	
8	発育・発達の把握と健康診断	次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。	
9	主な疾病の特徴-1（新生児、先天性疾患）	次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。	
10	主な疾病の特徴-2（呼吸器、循環器、血液、消化器疾患）	次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。	
11	主な疾病の特徴-3（アレルギー、免疫、内分泌、代謝疾患）	次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。	
12	主な疾病の特徴-4（神経、腎・泌尿器、その他の疾患）	次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。	
13	主な疾病の特徴-5（感染症）	次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。	
14	子どもの疾病の予防と適切な対応	次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。授業内容についてのレポート作成を課題とする（２時間）。	
15	これまでの講義の重要ポイントのまとめと質疑応答	講義内容の重要なポイントを資料として配布する。質疑応答を行うのでまとめたノートを持参すること。（予習と復習で各々2時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KARA7
授業形態： 演習
科目名： 子どもの健康と安全
担当教員： 磯部　健一(ISOBE　Kenichi),谷本　公重(TANIMOTO Kimie)

【授業の紹介】
　本授業科目では、保育所保育指針・幼稚園教育要領及び関連する各種ガイドライン等を踏まえ、子どもの健康や安全に係る実施体制や保健活動の計画及び評価、保育における子どもの健康安全管理の実際、子どもの感染性疾患と予防対策、個別的な対応が必要な子どもへの対応などについて学ぶとともに、乳児の抱き方や体温測定、身体計測などの健康状態の観察方法、包帯法などの応急処置と事故防止、安全管理について演習により具体的に学び、理論と実践力を修得します。
　関連科目として「子どもの保健」が既習であることを前提とします。
　この授業では、Google Classroom(クラスコード：scynspa)を使用して参考資料などを配布することがあります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．保健的観点に基づいた保育環境や援助を他者に説明できる。
２．発育状況・健康状況の把握について他者に説明できる。
３．保育における衛生管理、事故防止、災害対策等について他者に説明できる。
４．乳幼児の養護について具体的に理解できる。
５．体調不良時の対応や感染症対策について具体的に理解できる。
６．子どもの状態に即して個別的に適切な対応が理解できる。

【成績の評価】
学習態度（１０％）、演習記録などの提出物（２０％）、定期試験（７０％）によって総合的に評価する。なお、提出物は、評価して後日返却する。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】
・小林美由紀（編著），榊原洋一，森脇浩一（編集協力）：授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全　演習ノート　改訂第2版，診断と治療社，2022.

【参考文献】
・小林美由紀（編著），森脇浩一（編集協力）：授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト　改訂第2版，診断と治療社，2021.
・田島美穂（編集）：平成29年告示　幼稚園教育要項　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉，チャイルド本社，2017.

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
谷本は、看護師として病院での臨床経験を、磯部は、小児科医として臨床経験を有しており、豊富な経験を踏まえ、具体的例を示しながら講義・演習を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	保育における保健活動の計画（防災も含む）及び評価、発育状況の把握	「保育所保育指針」を確認し，必要に応じて専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所（p131-144）を確認し、自分なりにまとめて再構成し、他者への説明ができるように、ノート等に記載しておくこと。（予習と復習で１時間以上）	担当：谷本　公重、磯部　健一
2	乳幼児の身体計測と評価の実際）	テキスト該当箇所（p6-15）を確認し、p18の課題４　カウプ指数の計算と評価を求めて授業に臨むこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で１時間以上）	担当：谷本　公重、磯部　健一
3	子どもの保健と保育の環境	「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」を確認し、必要に応じて専門用語の意味等を調べてノート等にまとめておくこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で１時間以上）	担当：谷本　公重、磯部　健一
4	乳幼児の養護(3歳未満児の抱き方・寝かせ方・おむつ交換)	乳幼児の成長発達（発達の原則、粗大運動、微細運動、排泄の発達）について確認し、必要に応じてノート等にまとめておくこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で１時間以上）	担当：谷本　公重、磯部　健一
5	乳幼児の養護(3歳未満児を対象とした授乳・調乳・離乳食・幼児食)	テキスト該当箇所（p88、94-98）を確認し、必要に応じてノート等にまとめておくこと。授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を確認し、ノート等にまとめること。（予習と復習で１時間以上）	担当：谷本　公重、磯部　健一
6	乳幼児の養護(特に3歳未満児の乳幼児の清潔)	テキスト該当箇所（p89、98-102）を確認し、必要に応じてノート等にまとめておくこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で１時間以上）	沐浴演習を行います。各自、バスタオルを持参のこと。 担当：谷本　公重、磯部　健一
7	体調不良や傷害発生時の対応(一般看護、包帯法など)	テキスト該当箇所（p50-98）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認し、自分なりにまとめて再構成し、他者への説明ができるように、ノート等に記載しておくこと。（予習と復習で１時間以上）	担当：谷本　公重、磯部　健一
8	感染症対策	テキスト該当箇所（p73-57）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業時間内で資料を配布するので、授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認しノート等に記載しておくこと。（予習と復習で１時間以上）	担当：磯部　健一
9	健康・安全管理の実際（衛生管理、事故防止及び安全対策）	テキスト該当箇所（p23-33）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業時間内で資料を配布するので、授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認しノート等に記載しておくこと。（予習と復習で１時間以上）	担当：磯部　健一
10	災害への備えと危機管理	テキスト該当箇所（p34-39、138-142）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業時間内で資料を配布するので、授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認しノート等に記載しておくこと。	担当：磯部　健一

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（予習と復習で１時間以上）	
11	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（食物アレルギー等）	テキスト該当箇所（p107-116）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業時間内で資料を配布するので、授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認しノート等に記載しておくこと。（予習と復習で１時間以上）	担当：磯部　健一
12	子どもの応急処置	テキスト該当箇所（p50-55）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業時間内で資料を配布するので、授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認しノート等に記載しておくこと。（予習と復習で１時間以上）	担当：磯部　健一
13	子どもの救急処置及び救急蘇生法	テキスト該当箇所（p60-70）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業時間内で資料を配布するので、授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認しノート等に記載しておくこと。（予習と復習で１時間以上）	担当：磯部　健一
14	健康安全管理の実施体制（母子保健・地域保健と保育及び地域との連携）	演習内容については事前に資料を配布するので、予習をして授業に臨むこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で各回１時間以上）	担当：磯部　健一
15	これまでの講義の要点の整理と質疑応答	講義内容の重要なポイントを資料として配布する。質疑応答を行うのでまとめたノートを持参すること。（予習と復習で各回１時間以上）	担当：磯部　健一
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KARA8
授業形態： 演習
科目名： 保育内容－健康Ⅰ
担当教員： 田中　美季(TANAKA　Miki)

【授業の紹介】
　最近では，子どもの運動能力の低下や身辺の自立ができていないことなどが話題となっています。本来，子どもにとって『健康』とは何でしょうか？”
　健康Ⅰおよび健康Ⅱでは，幼稚園・保育園の保育の基本と領域「健康」の関係を明らかにし，そのねらい，内容，方法に関して理解を深めるとともに，本来の子どもの健康を考えます。健康Ⅰでは，「子どもの健康」の考え方をふまえ，健康にかかわる子どもの生活実態を中心に学びます。
　また，少人数のディスカッションをとおして，自身の生活や子ども時代を振り返り，これから出会う子どもたちへのアプローチを考察します。

＜Google Classroom クラスコード＞ 5vcejsn

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．『健康な心と体を育て，自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う』という目標を達成するために，どのように子どもにかかわればよいのかを探求できる。
２．子どもがたくましく生きるための健康や体力について修得できる。
３．子どもの心と体の「理論」と子どもが健康で安全な生活を送ることができるための「実践力」を身につけることができる。

【成績の評価】
期末試験レポート：65%（この授業は，期末試験レポートを提出しなければ単位を修得することはできません）
授業中に作成する小レポート：20%
授業態度：15%
※ 全体の60%以上の得点で合格とします。
※ 期末試験の成績および小レポートの評価については，オフィスアワーにてフィードバックします。
※ 原則として，対面授業で行います。また，単位認定には，授業の2/3以上の出席が必要です。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
文部科学省　『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）
菊地秀範 石井美晴『子どもと健康』（萌文書林、1990年）
森下はるみ　池田裕恵　『健康－乳幼児のこころとからだ－』（不昧堂出版、1992年）
生田清衛門　秋山俊夫　『内容研究 領域 健康』（北大路書房、1993年）
原田碩三　『幼児健康学』（黎明書房、1997年）
無藤隆　倉持清美　『事例で学ぶ保育内容　領域 健康』（萌文書林、2007年）
河邉貴子編『演習 保育内容　健康』（建帛社、2008年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	「健康」の考え方	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめておいてください。（30分）	
2	子どもの健康の考え方	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめておいてください。（30分）	
3	領域「健康」において育むもの	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめておいてください。（30分）	
4	領域「健康」と他の領域との関係	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめておいてください。（30分）	
5	小学校教育と領域「健康」の関連性	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめておいてください。（30分）	
6	健康にかかわる子どもの生活実態（睡眠について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめておいてください。（30分）	
7	健康にかかわる子どもの生活実態（食生活について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめておいてください。（30分）	
8	健康にかかわる子どもの生活実態（日中の活動について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめておいてください。（30分）	
9	子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動の発達について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめておいてください。（30分）	
10	子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動能力について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめてお	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		いてください。（30分）	
11	子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動能力低下の背景について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめておいてください。（30分）	
12	子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動発達の特徴について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめておいてください。（30分）	
13	子どもの身体の発達と運動能力（子どもと運動遊びについて）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめておいてください。（30分）	
14	総括（指導案の作成を含む）＜子どもと生活について＞	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して，ノート等にまとめておいてください。（30分）	
15	総括（指導案の作成を含む）＜子どもと運動について＞	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また，提示する5つのテーマについて，指定のレポート用紙にまとめて期日までに提出してください。（30分）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KARA9
授業形態： 演習
科目名： 保育内容－健康Ⅱ
担当教員： 田中　美季(TANAKA　Miki)

【授業の紹介】
　健康Ⅰの内容をふまえ，さらに「子どもの体や健康」について学習していきます。健康Ⅱでは，子どもの身体の発達や運動の発達を中心に学び，それらの基礎理論をもとに，実際の園生活を考えます。乳幼児は，100%大人が保護し，守る義務があります。したがって，保育者として，どのような安全の管理と指導および援助の方法があるのかを実際の事例をもとに修得します。

＜Google Classroom クラスコード＞ qzzr7gq

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．子どもの身体および運動の発育発達の原則を理解することができる。
２．子どもを取り巻くすべてに対して，生命を守るための安全をどのように捉え，子どもたちにどのように指導していくかについて実践的な立場から具体的に考察できる。
３．健康Ⅰに引き続き，子どもの基本的生活習慣の「理論」，その基本的生活習慣を形成するための「実践力」を身につけることができる。

【成績の評価】
最終レポート：70%（この授業は，最終レポートを提出しなければ単位を修得することはできません）
授業態度：20%
授業中に作成する小レポート：10%
※ 全体の60%以上の得点で合格とします。
※ 期末試験の成績および小レポートの評価については，オフィスアワーにてフィードバックします。
※ 原則として，対面授業で行います。また，単位認定には，授業の2/3以上の出席が必要です。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
文部科学省 『幼稚園教育要領開設』（平成30年3月）
菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』（萌文書林 1990年）
森下はるみ　池田裕恵 『健康－乳幼児のこころとからだ－』（不昧堂出版 1992年）
生田清衛門　秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』（北大路書房 1993年）
原田碩三 『幼児健康学』（黎明書房 1997年）
無藤隆　倉持清美 『事例で学ぶ保育内容　領域 健康』（萌文書林 2007年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のある教員の授業科目です。中学校・高等学校の保健体育科における学校現場指導の経験を生かし，子どもの身体や運動の発達について具体的な事例を提示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	子どもの身体の発達の原則（身長と体重について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
2	子どもの身体の発達の原則（骨の形成について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
3	子どもの身体の発達の原則（脊柱の湾曲について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
4	子どもの身体の発達の原則（生理的機能の発達について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
5	子どもの身体と発達の原則（さまざまな発育曲線から発達の原則をよむ）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
6	子どもの身体と運動の発達のまとめ	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
7	基本的生活習慣の形成（食事について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
8	基本的生活習慣の形成（睡眠について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
9	基本的生活習慣の形成（衣服の着脱，排泄について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
10	基本的生活習慣の形成（生活リズムについて）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		分）。	
11	安全の指導（けが・事故の実態について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
12	安全の指導（事故のメカニズムについて）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
13	安全の指導（子どもの安全の指導）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
14	安全の指導（子どものルール・きまりの理解）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
15	総括（子どもの成長・発達の原則を踏まえた子どもの健康について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，提示されたテーマについてまとめ，提出してください（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KARA10
授業形態： 演習
科目名： 体育Ｉ－Ｉ
担当教員： 花城　清紀(HANASHIRO　Kiyonori)

【授業の紹介】
幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。従って授業では，各運動の特性を理解すると共に，運動の実践能力，さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ，「各運動のコツ」について体験を通じて学習し、以下の内容について学びを深める。
・子どもの育ちを支えるための教育的実践力を学ぶ。
・体ほぐし運動や基礎・基本的な運動学習を通して、他者とのコミュニケーション能力を育む。
・わかって、できる論理的な思考力や創造力を生かした実践的指導力を養う。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点を理解できる。
２．体つくり運動（特に体ほぐし）の基礎・基本を習得することができる。
３．様々な基礎・基本的な運動（歩・走・跳・投・打・蹴）を習得することができる。

【成績の評価】
授業態度（４０％）、小レポート（２０％）、定期試験（４０％）
出席率７０％以上を原則として、評価点が全体の６０％以上を合格とする。
定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。小テスト、レポートは添削して授業時に返却する。
模範解答を示し、採点基準を説明する。

【使用テキスト】
使用せず、毎回資料を配布する。

【参考文献】
小学校学習指導要領解説　体育編（平成２９年６月　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として子どもの身体や運動について日頃より興味のある用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（30分） 復習としてガイダンスの内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
2	子どもの心とからだの発育発達特性（小学校低学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
3	子どもの心とからだの発育発達特性（小学校中学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
4	子どもの心とからだの発育発達特性（小学校高学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
5	体つくり運動（小学校低学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
6	体つくり運動（小学校中学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
7	体つくり運動（小学校高学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
8	基礎・基本的動作（立つ・歩く）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと	担当：花城　清紀

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（30分）	
9	基礎・基本的動作（走る）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
10	基礎・基本的動作（跳ぶ）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
11	基礎・基本的動作（打つ・蹴る・泳ぐ）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
12	子どもの運動実践と心理的意義	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
13	子どもの運動実践と身体的意義	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
14	子どもの運動実践と社会的意義	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
15	まとめ（これまでの講義の復習及び質疑応答）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
	定期試験(実施する)		担当：花城　清紀

科目ナンバリング： KARA11
授業形態： 演習
科目名： 体育Ⅰ－Ⅱ
担当教員： 花城　清紀(HANASHIRO　Kiyonori)

【授業の紹介】
幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。従って授業では，各運動の特性を理解すると共に，運動の実践能力，さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ，「各運動のコツ」について体験を通じて学習し、以下の内容について学びを深める。
・教師としての使命感、倫理観をもって児童と向かう。
・体の動きを高める運動を知識と実践を関連づけて学ばせる。
・自ら考えると共に仲間と意見交換しながら、課題解決していく協同性を養う。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点を説明できる。
２．体つくり運動（特に体の動きを高める運動）の基礎・基本を習得することができる。
３．基礎・基本的な運動を活用した組み合わせ運動を習得することができる。

【成績の評価】
授業態度（４０％）、小レポート（２０％）、定期試験（４０％）
出席率７０％以上を原則として、評価点が全体の６０％以上を合格とする。
定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。小テスト、レポートは添削して授業時に返却する。
模範解答を示し、採点基準を説明する。

【使用テキスト】
使用せず、毎回資料を配布する。

【参考文献】
小学校学習指導要領解説　体育編（平成２９年６月　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として子どもの身体や運動について日頃より興味のある用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（30分） 復習としてガイダンスの内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
2	子どもの心とからだの体力的特性（小学校低学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
3	子どもの心とからだの体力的特性（小学校中学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
4	子どもの心とからだの体力的特性（小学校高学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
5	子どもの運動能力的特性（小学校低学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
6	子どもの運動能力的特性（小学校中学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
7	子どもの運動能力的特性（小学校高学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
8	体の動きを高める段階的運動指導法（小学校低学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
9	体の動きを高める段階的運動指導法（小学校中学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、	担当：花城　清紀

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	
10	体の動きを高める段階的運動指導法（小学校高学年）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
11	子どもの体力的特性を踏まえた運動指導法	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
12	子どもの心理的特性を配慮した運動指導法	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
13	子どもの社会性を踏まえた運動指導法	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
14	運動会を楽しむ指導法	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
15	まとめ（これまでの講義の復習及び質疑応答）	予習として配布資料やノートなどに目を通し、専門用語を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること。（30分） 復習として授業内容を自分なりにまとめて再構築し、他者へ説明できるようにしておき、自分なりの意見をノートに記載しておくこと（30分）	担当：花城　清紀
	定期試験(実施する)		担当：花城　清紀

科目ナンバリング： KARA12
授業形態： 演習
科目名： 体育Ⅱ－Ⅰ
担当教員： 田中　美季(TANAKA　Miki)

【授業の紹介】
体育Ⅰ-Ⅰ・Ⅱにおける学習内容に基づき，幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。したがって，授業では，各運動の特性を理解するとともに，運動の実践能力，さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ，「各運動のコツ」について体験を通じて学習する。

＜Google Classroom クラスコード＞ ut75kkj

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．ボール運動（ネット型・ゴール型・ベースボール型）の特性について説明できる。
２．各運動を楽しんで行い，その楽しさについて説明できる。
３．各運動の実践能力を向上させるコツについて説明できる。

【成績の評価】
運動の実践能力：50%
授業内に作成する小レポート：30%
授業態度：20%
※ 全体の60%以上の得点で合格とします。
※ 期末試験の成績および小レポートの評価については，オフィスアワーにてフィードバックします。
※ 原則として，対面授業で行います。また，単位認定には，授業の2/3以上の出席が必要です。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
体育科教育学入門（髙橋健夫ほか編著、大修館書店）2010年
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部文部科学省）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のある教員の授業科目です。中学校・高等学校の保健体育科における学校現場指導の経験を生かし，子どもの身体や運動の発達について具体的な事例を提示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
2	ボール運動（ネット型の特徴）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
3	ネット型（バドミントン基礎）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
4	ネット型（バドミントン応用）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
5	ネット型（バドミントン発展）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
6	ボール運動（ゴール型の特徴）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
7	ゴール型（サッカー基礎）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
8	ゴール型（サッカー応用）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
9	ゴール型（サッカー発展）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
10	ボール運動（ベースボール型の特徴）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
11	ベースボール型（キックベースボール基礎）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
12	ベースボール型（キックベースボール応用）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
13	ベースボール型（キックベースボール発展）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
14	ボール運動（各型選択）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
15	ボール運動（各型選択）および全体の振り返り	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KARA13
授業形態： 演習
科目名： 体育Ⅱ－Ⅱ
担当教員： 田中　美季(TANAKA　Miki)

【授業の紹介】
　体育Ⅰ-Ⅰ・Ⅱにおける学習内容に基づき，幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。したがって，授業では，各運動の特性を理解するとともに，運動の実践能力，さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ，「各運動のコツ」について体験を通じて学習する。

＜Google Classroom クラスコード＞ nc5mwi2

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．マット運動，ボール運動，表現運動ほか各運動の特性について説明できる。
２．各運動を楽しんで行い，その楽しさについて説明できる。
３．各運動の実践能力を向上させるコツについて説明できる。

【成績の評価】
運動の実践能力：50%
授業内に作成する小レポート：30%
授業態度：20%
※ 全体の60%以上の得点で合格とします。
※ 期末試験の成績および小レポートの評価については，オフィスアワーにてフィードバックします。
※ 原則として，対面授業で行います。また，単位認定には，授業の2/3以上の出席が必要です。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
体育科教育学入門（髙橋健夫ほか編著、大修館書店、2010年）
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
2	マット運動（前転・後転）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
3	マット運動（開脚前転・開脚後転）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
4	跳び箱運動（開脚跳び）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
5	跳び箱運動（台上前転）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
6	縄跳び（一回旋一・二跳躍）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
7	縄跳び（創作縄跳び）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
8	表現運動（各種ステップ）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
9	表現運動（リズムダンス）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
10	ボール運動（ネット型）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
11	ボール運動（ネット型：簡易ルール）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
12	ボール運動（ゴール型）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
13	ボール運動（ゴール型：簡易ルール）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
14	ボール運動（ベースボール型）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
15	ボール運動（ベースボール型：簡易ルール） および全体の振り返り	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。授業は実技形式で行いますので，普段から運動に親しみ，授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいてください。できれば週3回，ジョギング程度の運動強度で，自身が好きな運動を1時間程度以上行ってください。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KARA14
授業形態： 実習
科目名： 野外活動実習Ⅰ
担当教員： 峯　寛文(MINE　Hirofumi),藤本　駿(FUJIMOTO　Syun),佐々木　啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】
　昨今、子どもの体力低下や体験不足が指摘されています。かつては、子どもが自然と触れ合う機会や仲間と遊ぶ場が豊富にありましたが、今日では、ゆっくりと自然と触れ合う、自然の中で友だちといっしょに工夫して遊ぶなどの生活体験は少なくなっています。
　この授業は、将来小学校教員をめざす者を対象に実施します。体験活動における様々な知識の獲得や活動フィールドの整備を行う上での知識や技能を身につけるとともに、野外炊飯等を通して、子どもたちの様々な体験活動をサポートするための専門的知識・技能を学び、小学校の教員としての実践力を身につけます。（具体的な日程、内容等については未定）
この授業ではGoogle classroom(クラスコード：42ohnzb）を使用し、必要な連絡等を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	②　向上心	
		③　コミュニケーション能力	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．体験活動の基礎的知識や安全に関する知識を習得することができる。
２．キャンプの基礎知識やフィールド整備に関する基礎知識等を習得することができる。
３．仲間との集団生活を通して社会性を身につけることができる。

【成績の評価】
体験活動における活動状況（70%）および体験報告（30%）による。
体験報告のまとめを後日配付し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】
関連資料を配布する。

【参考文献】
その都度提示する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のある教員による授業科目です。専門スタッフとともに、小学校現場での宿泊学習等の経験を活かし指導・助言を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	・事前オリエンテーション：（実施時期未定） ・野外活動体験会及び学生ボランティアリーダー養成講座：（実施期日未定） ・まとめ・報告会	野外活動実習に関する冊子を事前に配布するので、野外活動実習に参加する前に熟読すること。また、青少年の体験活動に関する現状等についても予習しておくこと。 活動前後の予習・復習としてトータル5時間程度の学習が必要となります。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KARA15
授業形態： 実習
科目名： 野外活動実習Ⅱ
担当教員： 峯　寛文(MINE　Hirofumi),藤本　駿(FUJIMOTO　Syun),佐々木　啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】
　昨今、子どもの体力低下や体験不足が指摘されています。かつては、子どもが自然と触れ合う機会や仲間と遊ぶ場が豊富にありましたが、今日では、ゆっくりと自然と触れ合う、自然の中で友だちといっしょに工夫して遊ぶなどの生活体験は少なくなっています。
　この授業は、将来小学校教員をめざす者を対象に実施します。体験活動における様々な知識の獲得や活動フィールドの整備を行う上での知識や技能を身につけるとともに、そのスキルを生かして、体験活動を運営・サポートすることで小学校の教員としての実践力を身につけます。（実施期日、活動内容等は未定）
この授業ではGoogle classroom(クラスコード：42ohnzb）を使用し、必要な連絡等を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	②　向上心	
		③　コミュニケーション能力	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．子どもたちと活動フィールドの整備や野外炊飯など寝食を共にすることができる。
２．子どもたちの様々な体験活動をサポートすることができる。
３．親子の体験活動に関する技能と知識を身につけることができる。

【成績の評価】
体験活動における活動状況（70%）および体験報告（30%）による。
体験報告のまとめを後日配付し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】
関連資料を配布する。

【参考文献】
その都度提示する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のある教員による授業科目です。専門スタッフとともに、小学校現場での宿泊学習等の経験を活かし指導・助言を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	・事前オリエンテーション：開催期日未定 ・「子どもチャレンジキャンプ（仮称）」：(2泊3日)実施期日未定 ・親子自然体験(仮称)：(日帰り2日間)実施期日未定	野外活動実習に関する冊子を事前に配布するので、野外活動実習に参加する前に熟読すること。また、青少年の体験活動に関する現状等についても予習しておくこと。 活動前後の予習・復習としてトータル5時間程度の学習が必要となります。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KARA16
授業形態： 演習
科目名： 保育内容－表現III
担当教員： 田中　美季(TANAKA　Miki)

【授業の紹介】
　幼稚園・保育園の保育の基本理念をふまえ，「子どもにとって表現とは何か」「保育における表現とは何か」さらには「人間にとって表現とは何か」を考察した上で“動きのスケッチ”による表現の方法を身につけます。
　この授業では，今までにみなさんが行ってきた“創作ダンス”とは一味違う身体運動を行います。踊ることが“キライ”という人，からだが“カタイ”という人，人前でパフォーマンスをするのは“ニガテ”いう人…も安心して授業を受けてください。
授業では，グループワークをとおして，様々なテーマに沿って動きづくりを行い，”子どもにとって表現とは何か”を探求します。

＜Google Classroom クラスコード＞ vem6baa

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．自分が見たこと，感じたこと，考えたこと，想像したことなどを自分の身体を媒体にして自由に伸び伸びと動きで表現することができる。
２．子どもの身体表現の基礎的知識を理解し，実践できる。
３．子どもの発育発達に即して，主体的・対話的な学びが実現できる家庭をふまえ，実際の指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることができる。
４．表現活動をとおして，豊かな心と創造力を身につけることができる。
上記の到達目標を達成することで，本学の卒業認定・学位授与の方針に示す，教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに，子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を身につけることができる。

【成績の評価】
授業時間内での作品評価：70%
授業態度：20%
授業中に作成する小レポート：10%
※ 全体の60%以上の得点で合格とします。
※ 授業内で発表する作品の評価は，ビデオ等により振り返り，フィードバックします。
※ 小レポートの評価は，オフィスアワーにてフィードバックします。
※ 原則として，対面授業で行います。また，単位認定には，授業の2/3以上の出席が必要です。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
文部科学省　『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）
杉浦 とく他　『子どもの表現力を高める舞踊』（明治図書 1988年）
黒川 建一他編　『保育内容 表現』（ミネルヴァ書房 1990年）
高橋 和子他編　『表現 －風の卵がころがったとき－』（不昧堂出版 1995年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	人間と表現の関係について　《講義》	次回の授業内容を把握し，予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ，ノート等にまとめておいてください（30分）。また，実施された授業の内容要約をA４１枚程度，行ってください（30分）。	
2	子どもと表現の関係について　《講義》	次回の授業内容を把握し，予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ，ノート等にまとめておいてください（30分）。また，実施された授業の内容要約をA４１枚程度，行ってください（30分）。	
3	保育の基本と表現（子どもにとって表現とは何か）　《講義》	次回の授業内容を把握し，予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ，ノート等にまとめておいてください（30分）。また，実施された授業の内容要約をA４１枚程度，行ってください（30分）。	
4	保育の基本と表現（子どもの表現活動の実際）　《講義》	次回の授業内容を把握し，予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ，ノート等にまとめておいてください（30分）。また，実施された授業の内容要約をA４１枚程度，行ってください（30分）。	
5	身体の部分を使ってのいろいろな動き　《実技》	授業の終わりに，次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので，グループで予習しておいてください（30分）。また，各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。	
6	身体の全体を使ってのいろいろな動き（2人組での動き）　《実技》	授業の終わりに，次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので，グループで予習しておいてください（30分）。また，各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。	
7	身体の全体を使ってのいろいろな動き（音楽に合わせての動き）　《実技》	授業の終わりに，次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので，グループで予習しておいてください（30分）。また，各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。	
8	主題に対する表現（指導案の作成を含む）＜小さな動物＞　《実技》	授業の終わりに，次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので，グループで予習しておいてください（30分）。また，各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。	
9	主題に対する表現（指導案の作成を含む）＜大きな動物＞　《実技》	授業の終わりに，次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので，グループで予習しておいてください（30分）。また，各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。	
10	主題に対する表現（指導案の作成を含む）＜小さな乗り物＞《実技》	授業の終わりに，次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので，グループで予習しておいてください（30分）。また，各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。	
11	主題に対する表現（指導案の作成を含む）＜大きな乗り物＞《実技》	授業の終わりに，次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので，グループで予習しておいてください（30分）。また，各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。	
12	子どもの生活における表現活動を考える（模擬保育）《実技》	授業の終わりに，次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので，グループで	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		予習しておいてください（30分）。また，各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。	
13	子どもの表現活動へのアプローチの実際（模擬保育）《実技》	授業の終わりに，次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので，グループで予習しておいてください（30分）。また，各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。	
14	総括（子どもの表現活動をの本質を考える）《講義》	次回の授業内容を把握し，予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ，ノート等にまとめておいてください（30分）。また，実施された授業の内容要約をA４１枚程度，行ってください（30分）。	
15	総括（子どもと表現活動のまとめ）《レポート作成》	”子どもにとって表現とは何か”について，予習として，ノート等にまとめておいてください（30分）。また，実施された授業の内容要約をA４１枚程度，行ってください（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KARA6
授業形態： 演習
科目名： 子どもと健康
担当教員： 田中　美季(TANAKA　Miki)

【授業の紹介】
この授業では，乳幼児の発育発達の原則を解説したうえで、運動発達、基本的生活習慣の形成、安全な生活などの専門事項を修得します。保育の基本理念をふまえ、子どもにとっての健康の意義を探求することを何よりも大切にしたいと思います。

＜Google Classroom クラスコード＞ gcex3d6

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．健康の定義をふまえて、乳幼児期の健康の意義を理解することができる。
２．乳幼児の体の発達的特徴を修得することができる。
３．乳幼児の基本的生活習慣の形成とその意義を説明することができる。
４．幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解することができる。

【成績の評価】
授業態度：50%
授業内に作成する小レポート：30%
最終レポート：20%
※ 全体の60%以上の得点で合格とします。
※ 期末試験の成績および小レポートの評価については，オフィスアワーにてフィードバックします。
※ 原則として，対面授業で行います。また，単位認定には，授業の2/3以上の出席が必要です。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
原田碩三　『幼児健康学』（黎明書房、1997年）
河邉貴子編『演習 保育内容　健康』（建帛社、2008年）
井狩芳子『演習 保育内容 健康 －大人から子どもへつなぐ健康の視点－』（萌文書林、2014年）
内閣府 文部科学省 厚生労働省『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（チャイルド本社、2017年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のある教員の授業科目です。中学校・高等学校の保健体育科における学校現場指導の経験を生かし，子どもの身体や運動の発達について具体的な事例を提示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	保育の基本理念と領域「健康」	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
2	領域「健康」の特徴	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
3	子どもの健康（乳幼児期の健康とは）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
4	子どもの健康（乳幼児期の心の健康と体の健康について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
5	子どもの発達と健康（乳幼児の発達の考え方について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
6	子どもの発達と健康（乳幼児の身体の発達について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
7	子どもの発達と健康（乳幼児の運動の発達について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
8	子どもの発達と健康（乳幼児の精神機能の発達について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
9	子どもの基本的生活習慣の発達（乳幼児における基本的生活習慣とは）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
10	子どもの基本的生活習慣の発達（乳幼児における基本的生活習慣の各論）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（30分）。	
11	子どもの基本的生活習慣の発達（乳幼児の基本的生活習慣形成の方法について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
12	子どもの安全教育と健康教育（乳幼児の安全能力と事故防止について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
13	子どもの安全教育と健康教育（園における安全管理の実際について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
14	子どもの安全教育と健康教育（幼稚園・保育所における健康教育の具体的な取り組み）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
15	総括（子どもの健康とは何か）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，この期を振り返り，「子どもと健康」についてレポートを作成し，提出してください（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TISE1
授業形態： 講義
科目名： 教育の方法及び技術
担当教員： 佃　昌道(TSUKUDA　Masamichi),河田　祥司

【授業の紹介】
　現代は高度情報通信社会と言われるように、スマホやタブレット等に代表される各種の情報メディアが開発され、よりに大量の情報生成、蓄積、流通等が可能になりました。このような社会で求められる能力とは、インターネットや新しいICTを活用でき、必要とする情報の選択、加工、創造、伝達等に関わる新しいコミュニケーション能力です。なおこの授業過程では、「学習者の新たな学びという、主体的で対話的な深い学び」を目標にアクティブラーニング(以下、ALと称する)の手法を取り入れた新しい教育改革の一端を経験するができます。
　この科目では、学習者の豊かな発想や興味・関心に対応できる学習形態の中で、経験、観察や調査、情報検索、映像やCGなどが活用できる自由度の高いメディアの選択と活用を可能にする教育の方法と技術の修得を目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．教育実践に必要な教育の方法に関する基礎的・基本的な知識の理解、技術の習得ができる。
２．新しい学力観に対応した教授学習システムを設計することができる。
３．情報ネットワークや情報メディアなど、ICTを活用した教育技術の習得ができる。
４．ALを体験することで、新しい教育方法・技術の活用方法が習得でき、教育者としての資質・力量の向上が養われる。

【成績の評価】
予習レポート（15%）、復習レポート（15%）、研究レポート（70%）、なお、予習レポートとは、主として授業前に予習した内容を、復習レポートとは、授業後に行った復習の結果をまとめて提出するもので、後日採点したものは返却する。研究レポートとは、最終試験に代わるものとして、当該科目に関するいくつかの課題から、幾つかを選択して報告書としてまとめて提出するものを指す。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
　授業の中で適宜印刷物（資料）を配布します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	良い授業の調査から見る教育（保育）方法・技術の分析	予習（１時間）：良い授業の調査から見る教育（保育）方法・技術の分析の予習 復習（３時間）復習1時間 ：良い授業の調査から見る教育（保育）方法・技術の分析の復習	
2	子供の成長・発達段階における教育の役割の考察	予習（1時間）子供の成長・発達段階における教育の役割の予習 復習（３時間）子供の成長・発達段階における教育の役割の考察のまとめ	
3	学習指導要領における「確かな学力」の分析	予習（1時間）学習指導要領における「確かな学力」の分析の予習 復習（３時間）学習指導要領における「確かな学力」の分析の復習	
4	学習意欲の向上を図る動機付け理論の考察	予習（1時間）学習意欲の向上を図る動機付け理論の予習 復習（３時間）学習意欲の向上を図る動機付け理論の復習	
5	指導技術の向上を目指す方策の検討	予習（1時間）指導技術の向上を目指す方策の予習 復習（３時間）指導技術の向上を目指す方策の復習	
6	学習と成長を支える教育目標の分類体系の検討	予習（1時間）指導技術の向上を目指す方策の予習 復習（３時間）指導技術の向上を目指す方策の復習	
7	AL先進校の教育記録からみる有効性と限界の分析	予習（1時間）AL先進校の教育記録からみる有効性と限界の分析の予習 復習（３時間）AL先進校の教育記録からみる有効性と限界の分析の復習	
8	ICTの特徴と教育（保育）利用の有効性と限界の検討	予習（1時間）ICTの特徴と教育（保育）利用の有効性と限界の検討の予習 復習（３時間）ICTの特徴と教育（保育）利用の有効性と限界の検討の復習	
9	ICTを活用した学習指導案（教育・保育案）の作成	予習（1時間）ICTを活用した学習指導案（保育案）の作成の予習 予習（３時間）ICTを活用した学習指導案（保育案）の作成の復習	
10	情報社会の光と影（1)情報モラルと教育	予習（1時間）情報社会の光と影（1)情報モラルと教育の予習 復習（３時間）情報社会の光と影（1)情報モラルと教育の復習	
11	情報社会の光と影（2）未来への展望	予習（1時間）情報社会の光と影（2）未来への展望の予習 復習（３時間）情報社会の光と影（2）未来への展望の復習	
12	AL「主体的・対話的で深い学び」の授業過程の設計	予習（1時間）AL「主体的・対話的で深い学び」の授業過程の設計の予習 復習（1時間）AL「主体的・対話的で深い学び」の授業過程の設計の復習	
13	ALによる教育の円滑な実施（１）指導内容・方法の検討	予習（1時間）ALによる教育の円滑な実施（１）指導内容・方法の検討の予習 復習（1時間）ALによる教育の円滑な実施（１）指導内容・方法の検討の復習	
14	ALによる教育の円滑な実施（２）人的環境等	予習（1時間）ALによる教育の円滑な実施	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	の検討	（２）人的環境等の予習 復習（1時間）ALによる教育の円滑な実施 （２）人的環境等の検討復習	
15	教育の方法及び技術のまとめと展望	予習（１時間）教育の方法及び技術全体の振り返り 復習（３時間）教育の方法及び技術のまとめ	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TISE23
授業形態： 演習
科目名： 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
担当教員： 松田　圭司

【授業の紹介】
この授業では、現代のICTの現状を知り、教育現場や校務でのICT（情報通信技術）活用状況等を学ぶ。講義および視聴覚資料による解説・事例紹介と、学生自身が各種ICT機器、環境を活用し、体験的に学修する機会を設けながら、授業における児童生徒および教員によるICT活用の他、授業の準備、学習評価に関する活用、校務における活用や教育データの活用を学ぶ。

【ディプロマポリシーとの関連】

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
授業のテーマ及び到達目標
１．情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。
２．情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。
３．児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身につける。

【成績の評価】
学生に対する評価
授業への取組みとレポート課題（50%）、定期試験（50%）
提出されたレポートを返却することにより、フィードバックを行います。
オフィスアワーを設定しているので、利用すること。

【使用テキスト】
テキスト
教室へのICT活用入門（藤本　かおる　著、国書刊行会）ISBN-13 ： 978-4336063397

【参考文献】
参考書・参考資料等
無理なくできる 学校のICT活用―タブレット・電子黒板・デジタル教科書などを使ったアクティブ・ラーニング（長谷川　元洋　著、学事出版）ISBN-13: 978-4761921903
小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	現代のICTの現状（ICTを支えるさまざまな技術要素を学ぶ）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
2	ICTの教育現場および校務での活用状況（現在学校で導入されているICT技術の具体例を学ぶ）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
3	教育現場でのICTの重要性および生かし方（教育現場で必要とされているICTの要素を学ぶ）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
4	特別の支援を必要とする児童、生徒のためのICTの活用（特別支援の各種ケースとICT適用の可能性の判断方法を学ぶ）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
5	ICT支援員など外部人材や大学などの外部機関やサポート機関との連携のありかた（ベンダのサポートIPAなど公的機関にはどのようなものがあるか？その活用方法について学ぶ）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
6	学習場面に応じたICTを効果的に活用した指導事例【教材の作成方法】（実際に教材を作る際に有効なツールについて学ぶ。講義スライドや動画作成ツールなどを学ぶ）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
7	学習場面に応じたICTを効果的に活用した指導事例【教材の活用、セキュリティ】（効果的な教材の活用方法およびネットワークセキュリティを確保するためのツールについて学ぶ）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
8	教育データの採取、保管による指導、評価の実践（教務パッケージシステムやLMSの現状について学ぶ。クラウドストレージの有効活用について学ぶ）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
9	遠隔、オンライン教育の意義およびシステムの利用方法（教務パッケージシステムやLMSそれらの操作方法などを学ぶ）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
10	遠隔、オンライン教育の事例および問題点を確認（各種オンラインシステムの効果的な活用方法および問題点と改善策（将来像）などの方法を学ぶ）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		間）	
11	統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進の方法（重要な校務の抽出、分析とそれらの概略業務フローについて学ぶ）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
12	総合的な学習の時間において、横断的に育成する情報活用能力の内容について（科目の特性に関わらず、スムーズにICTを導入するための手法について学ぶ。）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
13	情報活用能力について各科目の指導事例を理解し、その指導方法の習得１（具体的な指導案の作成および対象科目の選定とその科目の特徴の明確化する。）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
14	情報活用能力について各科目の指導事例を理解し、その指導方法の習得２（指導案策定訓練、レポートの作成及び提出）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
15	将来の理想ICT教育のありかたについて、グループディスカッションおよびレポート作成（機器訓練も含む）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）毎回の授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をまとめておく。提出を求めることもある（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　TISE3
授業形態：　演習
科目名：　保育内容－言葉Ⅰ
担当教員：　中塚　勝俊(NAKATSUKA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
　保育計画、保育実践、保育評価、保育の改善・修正を、具体的保育場面において試みることができるように授業を進めます。その中で教室での学びを教育・保育の実践と関連付けて理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができるよう継続的な学ぶ能力の習得を図ります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・保育場面におけるPDCAサイクルを理解することができる。
・言語習得過程を理解することができる。
・表出言語が発達する以前の理解言語の重要性を認識することができる。

【成績の評価】
レポート（１０％）、定期試験（８０％）、授業への参加度（１０％）
・課題（試験やレポート等）に対して、研究室で個人的にフィードバックします。

【使用テキスト】
柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容　言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）

【参考文献】
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成２９年３月告示　文部科学省）
保育所保育方針（平成２９年３月告示　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	保育内容としての言葉と乳幼児の発達	幼稚園教育要領を読み保育内容言葉のねらいをまとめノートに記述しておくこと。（2時間） 4か月～9か月前後の乳児の有能性の特徴についてまとめ月齢順にまとめること。（2時間）	
2	保育内容としての言葉のねらいと内容	幼稚園教育要領を読み保育内容言葉の内容、方向性について調べ、ノートなどに文章化すること。（2時間）乳幼児期における言葉の3つの方向性について自分の考えをまとめノートに記述したものを提出すること。（2時間）	
3	言葉の育ちと環境①文脈としての経験の意味	りかいげんご、ひょうしつげんご 理解言語、表出言語の発達的特徴について調べ理解言語の発現の具体的場面についてノートにまとめておくこと。（2時間）	
4	言葉の育ちと環境②三項関係と経験の共有化	言葉の獲得における二項関係から三項関係への変化の過程を調べ、三項関係の成立の意義をまとめておくこと。（2時間）三項関係の成立のための要件についてまとめ図式化したものをノートに記述しておくこと。（2時間）	
5	言葉の育ちと環境③メタ言語能力、メタコミュニケ―ション	4歳前後のメタ言語能力の概要をノートにまとめ提出すること。（2時間）なぞなぞ、早口言葉、さかさ言葉など日常場面で見られる具体例をまとめ事例をノートに列挙すること。（2時間）	
6	身体言語の意味	1歳前後の身体言語の種類をリストアップし、言語獲得に特に関係が深いと思われる事項をまとめておくこと。（2時間）指差し行動の種類とそれらの役割について考えたことをノートに記述しておくこと。(2時間)	
7	好奇心・疑問と言葉（内言語）	4～5歳期の言葉の爆発期における質問内容の特徴について調べ、ノートにまとめること。（2時間）4～5歳ころの外言語から内言語の移行期について行動的特徴をまとめておくこと。（2時間）	
8	見立て遊びと言葉	幼児のごっこ遊び場面における見立ての具体例を挙げノートに整理しておくこと。（2時間） 何を、何に見立てるのかその特徴について考えをノートに文章化すること。（2時間）	
9	絵本の中の言葉	0,1,2,3歳児用の絵本を読みその発達的特徴を述べノートに文章化しておくこと。（2時	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		間） 絵本の中に見られるオノマトペについて、自分の考えをノートに文章化しておくこと。（2時間）	
10	保育の専門性と言葉	保育において問われる専門性にの中で、子ども理解の方法について調べノートにまとめておくこと。（2時間）子どもの活動を援助する際自己効力感を育てるための言語的援助について考えノートにまとめておくこと。（2時間）	
11	言葉と保育指導計画（保育指導案の作成）	保育指導案に必要な項目を考えフォーマットを事前に作成しておくこと。（2時間）指導案のどの項目の内容が難しかったかを述べその理由をノートにまとめておくこと。（2時間）	
12	言葉と環境構成	保育実習や観察・参加で経験したであろう子ども達の遊びや活動の盛り上がりを想起しその場面を具体的に文章としてノートにまとめておくこと。（2時間）環境に誘われ思わず遊びたくなるような環境がなぜ言葉と関連するのかについて文章化したものをノートにまとめておくこと。（2時間）	
13	言葉と保育実践（模擬保育）	自分が保育者として保育を実践するということを想定し、指導案を作成しておくこと。（2時間） 模擬保育を実施した後の自己評価の結果をノートにまとめておくこと。（2時間）	
14	言葉と保育の評価	保育における評価の種類を調べ、それぞれの特徴についてノートにまとめておくこと。（2時間） 保育におけるPDCAサイクルと援助行動の修正についてまとめノートに整理すること。（2時間）	
15	綜合的指導と言葉（生活科との関連）	事前に文献などで総合的指導について調べ、5領域との関連をノートにまとめておくこと。（2時間）総合的指導と生活科の関連について自分の考えをノートにまとめておくこと。（2時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TISE4
授業形態： 演習
科目名： 保育内容－言葉II
担当教員： 中塚　勝俊(NAKATSUKA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
教育・保育に必要な言語発達の知識を幅広く体系的に理解し、文化的刺激と言葉の重要性について理解を深める。お遊戯会や生活発表会において台本の制作や演劇指導の基本的スキルなどを習得し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができることをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・領域「言葉」のねらいや内容を児童文化財に見出し、保育計画の中に取り入れたらいいかかを考えることができる。
・絵本や劇活動などについて理解し、構想し、創作することができる。

【成績の評価】
レポート（１０％）、定期試験（７０％）、作品（２０％）
・課題（試験やレポート等）は、個人的に研究室でフィードバックします。パネルシアターや絵本は授業時にコメントを付けて返却します。

【使用テキスト】
柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容　言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）2200円

【参考文献】
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成２９年３月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成２９年３月告示　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	幼稚園教育要領の歴史的変遷について調べその特徴についてノートにまとめておくこと。（2時間）6領域から5領域へ移行した背景について自分の考えをまとめノートに記述すること。（2時間）	
2	保育の場とエピソードの意味	保育の場における観察・記録とエピソードの違いについて調べノートにまとめておくこと。（2時間）保育の場におけるエピソードの利点について自分の考えをノートにまとめておくこと。（2時間）	
3	領域「言葉」についてに意義	領域「言葉」のねらいの方向性（3項目）について調べノートにまとめておくこと。（2時間）子ども達が出会う言語的文化が発達にもたらす影響についてノートにまとめ提出すること。（2時間）	
4	領域「言葉」のねらい	幼稚園教育要領を読み領域「言葉」のねらい、内容について調べノートにまとめておくこと。（2時間）領域「言葉」のねらいの内自分にとって最も重要と思われるものついて自分の考えをまとめノートに文章化すること。（2時間）	
5	環境構成と保育の意図性	保育における環境構成の意義について自分の体験から割り出した考えをノートにまとめておくこと。（2時間）保育実践において環境構成に潜む保育者に意図について自分の考えをノートにまとめておくこと。（2時間）	
6	観察法と記録の実際	2年次に行った観察・記録の自分の初期、中期，終期を振る返り見えてくるものをノートにまとめておくこと。（2時間）保育者の様子、子どもの様子の記録に関して重要と思われる事柄をノートにまとめておくこと（2時間）	
7	指導計画のなぜ（保育指導案の作成）	日案で用いられる指導案のフォーマットを用意しねらい、保育教材などを可能な限り準備しておくこと。（2時間）授業中にグループ内で話し合った内容の内保育教材の適切性についてまとめておくこと。（2時間）	
8	保育の評価の意義と指導計画	ある保育実践を評価する際どのような観点にポイントを置けばよいかについて事前に調べノートにまとめておくこと。（2時間）指導計画の適切性とはどのようなことを意味するのか自分の考えをまとめ記述すること。（2時間）	
9	童話の中の言葉	0,3,5歳児用の絵本や童話に見られる語彙や表現を事前に調べその傾向についてまとめノートに記述しておくこと。（2時間）絵本や童話に見られる言葉の「繰り返し」を列記しその特徴についてまとめノートに記述しておくこと。（2時間）	
10	紙芝居と言葉	幼少時代に体験した紙芝居などで印象に残っている場面を思い出し文章化すること。（2時間）紙芝居などで話されたセリフなどの喜怒哀楽表現の音声による（パラ言語情報）の演出場面を文章化すること。（2時間）	
11	パネルシアターと言葉	パネルシアターについて調べ谷川俊太郎の	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		「もこ、もこもこ」の絵本を読みストーリーに沿ってパネルを制作しておくこと。（2時間）「もこ、もこもこ」のストーリー伴う演じ方（セリフ）の工夫点をまとめノートに文章化しておくこと。（2時間）	
12	ペープサートの制作	高畠　純の「だれのじてんしゃ」フレーベル館、1932を読み、ストーリーに沿って基本人形、活動人形を考えておくこと。（2時間） 喜怒哀楽を表すために表と裏にどのような絵を描くことに工夫したかをまとめノートに記述しておくこと。（2時間）	
13	絵本の読み聞かせ	「絵本の読み聞かせ」について文献などで調べ重要な点をノートにまとめておくこと。（2時間） 「絵本の読み聞かせ」が子ども達に及ぼす影響についてノートにまとめておくこと。（2時間）	
14	四季の行事と言葉	日本における四季にまつわる代表的行事の【いわ（謂れ）についてノートに記述しておくこと。（2時間）	
15	綜合的指導とは	文献などで「総合的指導」について調べ総合的指導が幼児の育ちにどのような意味を持つのかノートに記述しておくこと。（2時間） 遊びの中で「総合的指導」に関係すると思われる具体的場面について自分の考えをノートに文章化しておくこと。（2時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　TISE5
授業形態：　講義
科目名：　国語（書写を含む）
担当教員：　澤田　文男(SAWADA　Fumio)

【授業の紹介】
　○小学校や幼稚園などで国語教育に従事するための理論や表現力を身に付けることをねらいとした授業です。
　○ディスカッションやプレゼンテーションなどの手法を取り入れた授業活動の中で、テキストの詳細な読解を
通じて「国語」の指導力を高めます。
　○また、書写については、毎授業冒頭で平仮名・片仮名の実践的な練習をします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	④　思考力・判断力・表現力	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
　この授業の到達目標は、発達科学部の教育課程編成・実施の方針の「教育に関する研究能力を涵養」するとともに「主体的な学びの姿勢を形成」し、「論理的に判断し、それを適切な方法で表現する能力の獲得を図るため、以下のように設定しています。
　①学生が、幼稚園・小学校教育に携わる教員として必要な国語を適切に表現し、理解する力をつけることができます。
　②学生が、授業を通じて思考力や想像力、言語感覚を養い、国語を尊重する態度を育てる力をつけることができます。
　③学生が、主体的に取り組むアクティブラーニングを通じ、自らの意見を表現する力を身につけることができます。

【成績の評価】
　①ノートの評価…ノートができていない場合はテストを受ける資格がありません。
　②授業に取り組む姿勢(30%)
　③定期試験の成績(70%)
　※①、②、③の合計点で総合的に評価します。
　※フィードバック
　　定期試験の結果については、試験終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】
　○ひらがな練習帳(子どものひらがな練習帳　桂聖　実務教育出版　2012年)
　○自作資料集
　○『やまなし』・『よだかの星』・『注文の多い料理店』・『なめとこ山の熊』（筑摩書房　宮沢賢治全集
1980年）

【参考文献】
　○保育所保育指針（平成２９年３月告示　厚生労働省）
　○幼稚園教育要領（平成２９年３月告示　文部科学省）
　○小学校学習指導要領（平成２９年３月告示　文部科学省）
　○関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】

　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育現場での授業経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	○授業のオリエンテーション ○書写練習①く～つ ○読み合わせ『やまなし』 ○『やまなし』の読解① ・第一章の内容について	予習 ○『やまなし』全篇を読む。(30分) ○第一章を、語句などに注意して調べる。(30分) ○その疑問・感想・意見を書く。(60分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
2	○書写練習②し～の ○『やまなし』の読解② ・第二章の内容について ・第一章と第二章の関連	予習 ○第二章を、語句などに注意して調べる。(60分) ○その疑問・感想・意見を書く。(60分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
3	○書写練習③こ～に ○『やまなし』の読解③ ・『やまなし』の全体像 ・作者のメッセージについて	予習 ○全編について疑問・感想・意見を書く。(60分) ○作者のメッセージについて考える。(60分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
4	○書写練習④け～ひ ○文章表現の様々な技法について① ・リフレイン ・直喩・隠喩 ・体言止め	予習 ○「リフレイン」の例文を収集する。(60分) ○「直喩・隠喩」の例文を収集する。(60分) ○「体言止め」の例文を収集する。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
5	○書写練習⑤さ～ち ○文章表現の様々な技法について② ・誇張 ・押韻①頭韻・中間韻 ・押韻②脚韻	予習 ○「誇張」の例文を収集する。(60分) ○「押韻」①「頭韻」・「中間韻」の例文を収集 する。(60分) ○「押韻」②「脚韻」の例文を収集する。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
6	○書写練習⑥ら～め ○文章表現の様々な技法について③ ・擬音語 ・擬声語 ・擬態語	予習 ○擬音語の例文を収集する。(60分) ○擬声語の例文を収集する。(60分) ○擬態語の例文を収集する。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
7	○書写練習⑦す～ね ○文章表現の様々な技法について④ ・擬人法 ・擬物法 ・対句法	予習 ○擬人法の例文を収集する。(60分) ○偽物法の例文を収集する。(60分) ○対句法の例文を収集する。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
8	○書写練習⑧ぬ～な ○文章表現の様々な技法について⑤ ・倒置法 ・リズム①五七調 ・リズム②七五調	予習 ○倒置法の例文を収集する。(60分) ○リズム①五七調の例文を収集する。(60分) ○リズム②七五調の例文を収集する。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
9	○書写練習⑨え～を ○表現技法に関する練習 ・これまでの整理 ・問題演習	予習 ○様々な技法を用いて短文を作る。(180分) 復習 ○書写練習(60分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	・技法を使用して表現する		
10	○書写練習⑩フ～マ ○『注文の多い料理店』読み合わせ ○『注文の多い料理店』読解① ・登場人物について ・構成について	予習 ○『注文の多い料理店』全篇を読む。(40分) ○登場人物の像について考える。(40分) ○構成について考える(40分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
11	○書写練習⑪ヌ～ナ ○『注文の多い料理店』読解② ・印象的な表現 ・虚構の役割について ・作者のメッセージ	予習 ○印象的な表現について考える。(40分) ○虚構の役割について考える。(40分) ○作者のメッセージについて考える。(40分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
12	○書写練習⑫チ～カ ○『よだかの星』読み合わせ ○『よだかの星』読解① ・よだかについて ・構成について	予習 ○『よだかの星』全篇を読む。(40分) ○「よだか」について考える。(40分) ○構成について考える。(40分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
13	○書写練習⑬テ～リ ○『よだかの星』読解② ・印象的な表現 ・風景と感情表現の関係 ・作者のメッセージ	予習 ○印象的な表現について考える。(40分) ○風景と感情表現の関係につい考える。(40分) ○作者のメッセージについて考える。(40分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
14	○書写練習⑭サ～ツ ○『なめとこ山の熊』読み合わせ ○『なめとこ山の熊』読解 ・登場人物の像 ・作者のメッセージ	予習 ○『なめとこ山の熊』全篇を読む。(40分) ○登場人物について考える。(40分) ○作者のメッセージについて考える。(40分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
15	○書写練習⑮ン～コ ○これまでの書写・技法の整理 ○宮沢賢治の考えたことについて ○定期試験予告	予習 ○これまでの書写・技法を整理する。(60分) ○宮沢賢治の考えたことをまとめる。(60分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分)	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　TISE6
授業形態：　講義
科目名：　社会
担当教員：　野村　一夫(NOMURA　Kazuo)

【授業の紹介】
　学習指導要領の分析を通して社会の変化と社会科の果たす役割や小学校社会科の内容構成や目標、内容、教材、評価などの基本的な考え方、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた社会科授業の在り方を追究していきます。
　またディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどを通して、社会的な事象に対する興味・関心を高めるとともに社会的な見方と社会的な意味について考え、社会科教育の在り方を追究します。
　この授業ではClassroom(クラスコード：yld7vux）を使用し、資料配付や課題「授業リフレクション」の提示などを行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．社会の変化と学校教育における社会科の役割を考え、自分の言葉で社会科の本質を述べることができる。
２．社会科、地理歴史科、公民科の関連を理解し、小学校社会科の内容構成の特色を述べることができる。

【成績の評価】
学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。
「今日の？」の作成及び発表（40%）、「授業リフレクション」の提出（20%）、定期試験（40%）とします。
「授業リフレクション」は、Clssroomを用いて提出し、返却時にコメントを記述します。
定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　社会編　平成30年　文部科学省
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総則編　平成30年　文部科学省
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総合的な学習の時間編　平成30年　文部科学省
小学校教科書「新しい社会」３年、４年、５年上・下、６年上・下　令和2年　東京書籍
小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」　令和2年　帝国書院

【参考文献】
日本社会科教育学会編　新版　社会科教育事典　2012年　ぎょうせい
全国社会科教育学会　新　社会科授業づくりハンドブック　小学校編　2015年　明治図書
その他、随時紹介する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を活かし、社会科教育の実務的な課題や具体的な指導の在り方などを解説します。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・社会科の歴史	予習として、小学校での社会科学習を振り返り、最も印象に残っている学習内容と学習活動をノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、小学校社会科教育の歴史を整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
2	社会の変化と社会科教育	予習として、小学校入学時の社会と現在を比較し、変化したことを具体的にノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、社会の変化と社会科教育の役割を整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
3	社会科の本質・目標	予習として、社会科教育の学校教育において果たす役割を考え、ノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、小学校社会科教育の目標を分析し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
4	小学校社会科と中学校社会科、地理歴史科、公民科との関連	予習として、小学校の教育課程を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、社会科教育のスコープとシーケンスを整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
5	小学校社会科と総合的な学習の時間、特別の教科道徳等との関連	予習として、小学校での総合的な学習の時間と特別活動の目標を整理し、ノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、小学校社会科と総合的な学習の時間及び特別活動との異同関係を整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
6	小学校社会科における地域学習・郷土学習	予習として、身近な地域における社会的事象を複数見つけ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、小学校社会科教育における地域学省・郷土学習の必要性を整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
7	小学校社会科における社会的事象の地理的な見方・考え方	予習として、地理的な見方について自分なりの考え方をノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、社会的事象の見方・考え方を整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
8	小学校社会科における歴史的学習	予習として、印象に残っている歴史的学習を振り返り、ノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、小学校社会科教育の歴史的学習の特徴を整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
9	小学校社会科における公民的学習	予習として、小学校での社会科学習を振り返り、最も印象に残っている学習内容と学習活動をノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、小学校社会科教育の歴史を整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
10	小学校社会科指導計画の作成と配慮事項	予習として、指導計画の必要性について自分なりの考えを整理し、ノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、指導計画を作成することの必要性と留意事項等を整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
11	小学校社会科の学習過程と学習形態	予習として、小学校での社会科学習を振り返り、最も印象に残っている学習活動をノート等にまとめておくこと。（１時間）復習とし	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		て、多様な学習形態を整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
12	小学校社会科の評価	予習として、学習評価の必要性と留意点などについて考えていることをノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、小学校社会科における学習評価の在り方を整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
13	小学校社会科における教材・教具の開発と活用	予習として、小学校での社会科学習を振り返り、最も印象に残っている教材・教具をノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、学習指導における教材・教具を開発することの必要性を整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
14	小学校社会科における学習の個別・最適化とICT活用	予習として、ICTを用いた社会科学習を振り返り、最も印象に残っている学習内容と学習活動をノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、指導の個別化と学習の個性化に果たすICTの役割を整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
15	「社会に開かれた教育課程」における小学校社会科の在り方	予習として、小学校での社会科学習を振り返り、ゲストティーチャーによる学習経験をノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、「社会に開かれた教育課程」の理念を整理し、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TISE7
授業形態： 講義
科目名： 算数
担当教員： 土井　理裕(DOI Masahiro)

【授業の紹介】
この授業は、算数・数学に関する問題に対し、あなたが考え、あなたが解決する時間です。四則演算などの原理・原則や指導方法を学ぶことを通して、数学的な見方・考え方を認識し、算数・数学を学ぶ意義を考え、それを子どもたちに伝えていこうとする力を育てていきます。また、プログラミングを体験しながら，プログラミング的思考を育むための指導方法についても実践します。
この授業ではGoogle Classroom(クラスコード：ykkvpiw)を使用し、ICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・数学的な見方・考え方を認識し、算数・数学を学ぶ意義を理解することができる。
・数と計算（四則演算）及び図形（正多角形）の指導方法を身に付けることができる。
・プログラミング的思考を理解することができる。
・プログラミング教育の指導方法（計画・実施）を身に付けることができる。

【成績の評価】
受講態度（10%）　課題レポート（80%）　最終課題レポート（10%）
・毎回の授業の最後に、課題レポートを提出する（コメント等を記入して返却します）
・最終課題（①算数・数学を学ぶ意義　②プログラミング的思考について　のレポート）を作成し、第15回の最終授業時に提出する。

【使用テキスト】
・小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　算数編（文部科学省、日本文教出版、2018年）
・必要に応じて授業プリント及び資料を配付します。

【参考文献】
・数学の学び方・教え方（遠山啓、岩波新書、1972年）
・水道方式とはなにか　遠山啓著作集　数学教育論シリーズ3（遠山啓、太郎次郎社、1980年）
・Ｓｃｒａｔｃｈの絵本（株式会社アンク、株式会社アンク、2020年）
・小学校を中心としたプログラミング教育ポータル
（未来の学びコンソーシアム、https://miraino-manabi.mext.go.jp/）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校・特別支援学校での学校現場指導を活かし、具体的な算数・数学に関する事例を示しながら授業していきます。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	ガイダンス、これまでの算数・数学教育の振り返り	小学校第１学年における「数の数え方や計算の仕方」について、小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
2	加法・減法（１）：タイルを使った位取り指導（位取りの原理と補数）	授業内容を確認し、それに関連したことについて、小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
3	加法、減法（２）：筆算の指導	授業内容を確認し、それに関連したことについて、小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
4	乗法	授業内容を確認し、それに関連したことについて、小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
5	除法（１）：等分除と包含除	授業内容を確認し、それに関連したことについて、小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
6	除法（２）：除法のアルゴリズムと筆算	授業内容を確認し、それに関連したことについて、小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
7	平面図形（正多角形）の性質	授業内容を確認し、それに関連したことについて、小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
8	プログラミング的思考	授業内容を確認し、それに関連したことについて、小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
9	Scratchを用いたプログラミング実習（１）：基本的な操作、フローチャート作成	授業内容を確認し、それに関連したことについて調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
10	Scratchを用いたプログラミング実習（２）：正多角形の作図	授業内容を確認し、それに関連したことについて調べ、具体的なプログラムを考察し、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
11	Scratchを用いたプログラミング実習（３）：正多角形の作図についての考察、条件分岐	授業内容を確認し、それに関連したことについて調べ、具体的なプログラムを考察し、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
12	Scratchを用いたプログラミング教育実習	授業内容を確認し、それに関連したことについて「小学校を中心としたプログラミング教育ポータル」サイト等で調べ、指導案等を考察し、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
13	加法、減法の筆算におけるアルゴリズム（１）：フローチャート作成	授業内容を確認し、それに関連したことについて調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
14	加法、減法の筆算におけるアルゴリズム（２）：授業での指導	授業内容を確認し、それに関連したことについて調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
15	楽しい算数・数学授業の在り方	これまでの授業内容を振り返り、楽しい算数・数学授業の在り方について考察し、ノート等にまとめておく。（２時間） 授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。（２時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　TISE8
授業形態：　講義
科目名：　小学校英語
担当教員：　竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro)

【授業の紹介】
　小学校英語教育についての基礎的な知識・理解を深め、子どもの第二言語習得についての知識とその活用法を学び、授業実践に必要な基礎的な指導技術を修得する。知識・理解を深めるために、調べてきたことや準備してきたことを発表する授業形態をとり、知識の活用法や指導技術を身に付けるために、ペアワークやグループワークによる言語活動を学生が自ら体験しながら学ぶ。
　また、講義、演習、実習を組み合わせ、主体的・対話的で深い学びになるよう、講義中心ではなくワークショップ中心の授業を行う。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・小学校における外国語活動（英語）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることができる。
・英語を使ってコミュニケーションを図るための素地を児童に効果的に習得させることができる。
・英語の発音やアクセントなど、音声指導が確実にできる。
・小学校英語教育に求められる英語力を身に付けることができる。

【成績の評価】
　「授業への関心・意欲・態度」１０％、「レポート等、授業以外に課す課題」１０％、「小テスト」２０％、「絵本の読み聞かせ及びShow & Tell」２０％、「定期試験」４０％の５項目を総合的に評価します。レポート、小テスト、絵本の読み聞かせ及びShow & Tellについては、その都度フィードバックを行います。
　なお、３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻３回で欠席１回とみなします。

【使用テキスト】
小学校英語　はじめる教科書　改訂版
外国語科・外国語活動指導者養成のために― コア・カリキュラムに沿って ―
（小川隆夫、東仁美著、mpi松香フォニックス、2021）

【参考文献】
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説　外国語編及び外国語活動編
（平成２９年３月　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 「第二部　外国語に関する専門的事項」について	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
2	Unit 1　小学校英語教育の変遷 Unit 2　英語の音声	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
3	Unit 3　発音と綴りの関係 Unit 4　英語の文構造・文法	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
4	Unit 5　英語の語彙 Unit 6　第二言語習得に関する基本的な知識	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
5	Unit 5　英語の語彙 Unit 6　第二言語習得に関する基本的な知識	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
6	「絵本の読み聞かせ」テスト	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
7	Unit 9　異文化理解 Unit 10　英語の書き方	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
8	Unit 11　英語コミュニケーション（聞くこと）	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
9	Unit 12　英語コミュニケーション（読むこと）	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
10	Unit 13　英語コミュニケーション（話すこと）	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
11	Unit 14　英語コミュニケーション（書くこと）	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
12	Unit 15　英語コミュニケーション(領域統合型の言語活動)	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
13	"Show & Tell" テスト	予習として、スピーチの原稿を読んで覚え、発表できるようにしてくる。（２時間）また、復習として、思うようにできなかった箇所を見直し、今後の改善につなげる。（２時間）	
14	教室英語の小テスト① 小学校教員採用試験問題（英語）にTry!	予習として、小テスト勉強をするとともに、過去１０年分の香川県教員採用試験問題（英語）に実力で取り組んでくる。（２時間）また、復習として、解説を聞いて間違った問題の復習をする。（２時間）	
15	教室英語の小テスト② 小学校教員採用試験問題（英語）の復習	予習として、小テスト勉強をするとともに、過去１０年分の香川県教員採用試験問題（英語）に実力で取り組んでくる。（２時間）また、復習として、解説を聞いて間違った問題の復習をする。（２時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TISE9
授業形態： 講義
科目名： 生活
担当教員： 髙橋　佳生(TAKAHASHI Yoshio)

【授業の紹介】
　生活科教育の目標や内容，創設の背景，現状や課題などを把握し，その在り方を考える学習を通して，現在の学校教育についての認識を深めます。また，フィールドワーク（自然探索）やものづくり，討論，思考ツールの活用など体験的な学習を通じて，生活科の特徴や他教科との関連，幼児教育との接続などに気付き，関心・意欲や技能など実践力を高めていくようにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．生活科の目標や内容，創設の背景を理解するとともに，フィールドワークやものづくり，討論などを通して体験的に学び，教育実践のあり方について考えを深めることができる。
２．学習指導要領や生活科にかかわる学習論の学びを通して，児童主体の教育方法の理解を深め，教育・保育について学ぶための資質・能力を身に付けることができる。

【成績の評価】
授業ワークシート(80%)，小テスト２回(10%)，授業への参加態度・日常活動(10%)。
授業ワークシート，小テストについては，その都度，結果を授業時に説明，講評する。

【使用テキスト】
小学校学習指導要領解説生活編(平成29年3月告示　文部科学省)
教科書「あたらしいせいかつ(上)，新しい生活(下)」　東京書籍

【参考文献】
授業において適宜紹介，資料配布する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は，実務経験のある教員による授業です。小学校現場での授業実践と教員指導の経験を活かし，具体的な活動や視覚的提示を行いながら授業を展開します。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション，「私にとっての生活科」	小学校低学年の生活科で学んだことや印象をまとめておく。（１時間）	
2	生活科の目標・内容とその意味（グループワーク）	小学校学習指導要領解説生活編から，生活科の目標と内容を調べておく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
3	生活科の課題と学習指導要領の改訂（ディスカッション）	小学校学習指導要領解説生活編P5「生活科改訂の趣旨」から，生活科の成果と課題を調べておく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
4	生活科の内容と体験活動①「自然探索フィールドワーク」	野外での自然探索に必要なものや図鑑を調べ，準備する。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
5	生活科の特色と教育的意義（ディスカッション）	小学校学習指導要領解説生活編P10～「教科目標の趣旨」から，生活科の特徴を調べておく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
6	生活科の内容と体験活動②「思考ツールの活用」（グループワーク）	「思考ツール」とはどのようなものかを調べ，活用法を考えておく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
7	生活科の内容と体験活動③「自然のものづくり」（制作）	教科書（上）P80・81をみて，制作物を考え，ドングリなどの材料や，はさみ・ボンドなどの用具を準備する。（４時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
8	生活科の創設と時代的背景　（グループワーク）	生活科が創設された時代や背景について調べておく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
9	生活科の教育理念（グループワーク） ・小テスト「生活科の目標」	生活科の目標について，要点となるキーワードを覚える。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
10	生活科の内容と体験活動④「動くおもちゃ作り」（制作）	教科書（下）P56～58をみて，つくるおもちゃを考え，紙コップ・輪ゴムなどの材料や，穴あけ・ソロテープなどの用具を準備する。（３時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
11	生活科と他教科とのかかわり　（グループワーク） ・小テスト「生活科の内容」	生活科の内容について，要点となるキーワードを覚える。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
12	生活科と見方・考え方，資質・能力（ディスカッション）	「見方・考え方」「資質・能力」とはどのようなものか調べておく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
13	生活科と幼児期・中学年以降とのつながり（グループワーク）	小学校学習指導要領解説生活編P82を読み，幼児期・中学年以降とのつながりを調べておく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
14	生活科と総合的な学習（ディスカッション）	生活科と総合的な学習の共通点や相違点を考えておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
15	まとめ，生活科と学力	これまで用いた資料・ワークシートを見直し整理しておく。（30分）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TISE10
授業形態： 講義
科目名： 理科
担当教員： 糸目　真也(ITOME　Shinya)

【授業の紹介】
この授業科目は、小学校や特別支援学校の教員として必要な理科の資質・能力を身に付けるため、次のア～ウの学習活動に取り組む。
ア小学校での理科教育や環境教育等に関する内容を、小学校学習指導要領解説理科編及び教科書をもとに把握する。
イ小学校理科の学習の内容区分である「生命・地球」に関する観察、実験、野外実習などの活動を通して、観察、実験などについての基本的な技能を身に付け、自然を愛する心情を養う。
ウ小学校理科の学習の内容区分である「物質・エネルギー」関する実験などの活動を通して、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱う技能を身に付け、主体的に問題解決しようとする態度を養う。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・将来、小学校や特別支援学校の教員として必要な素養と幅広い人間性、理科に関する専門的な知識と観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができる。
・実物を見る、実物に触れる、実際につくる、実際にやってみることを大切にして、手と目と足と頭を使って、問題解決の力を伸長することができる。
・レポート作成や学生実験などを通して、文章を組み立てる力、情報を活用する力、プレゼンテーションする力、コミュニケーションする力を伸長することができる。

【成績の評価】
・レポート（課題提出）及び学生実験など授業の成果を７０％、小テストの成績を３０％として評価する。
・レポートや小テストは評価と解説を行い、授業で返却する。

【使用テキスト】
授業で適宜連絡します。以下の内容に関する資料を配布あるいは提示の予定。
文部科学省「小学校学習指導解説　理科編」（平成２９年告示）
小学校理科の教科書　等

【参考文献】
授業で適宜連絡します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員が高等学校で理科の授業をした経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
2	小学校理科の目標と内容の取り扱い	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
3	春の自然観察会（学内や春日川の動植物）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をパワーポイントで作成して提出すること（２時間）	担当：糸目真也
4	地学野外観察会（屋島）事前学習	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
5	地学野外観察Ⅰ：屋島の地形（メサ）と高松平野の特徴	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として野外観察Ⅰの最後に課す地学巡検に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
6	地学野外観察Ⅱ：瀬戸内火山活動に伴う流紋岩質凝灰岩（雪の庭）と讃岐岩質安山岩（畳石）の露頭観察	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として野外観察Ⅱの最後に課す地学巡検に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
7	環境教育の考え方	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
8	小学校理科「物質・エネルギー」の学習内容	予習として、その前の授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
9	小学校理科「物質・エネルギー」の教師実験	予習として、その前の授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
10	小学校理科「物質・エネルギー」の実験についての探究活動	予習として、その前の授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、ノート等にまと	担当：糸目真也

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		めておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	
11	小学校理科「物質・エネルギー」の実験教材の作成	予習として、その前の授業で指定する教科書の実験内容を事前に読み、予備実験をし、留意事項等をノート等にまとめておくこと（３時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
12	小学校理科「物質・エネルギー」の学生実験-Part1-（3年生の教科書の実験より）	予習として、その前の授業で指定する教科書の実験内容を事前に読み、予備実験をし、留意事項等をノート等にまとめておくこと（３時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
13	小学校理科「物質・エネルギー」の学生実験-Part2-（4年生の教科書の実験より）	予習として、その前の授業で指定する教科書の実験内容を事前に読み、予備実験をし、留意事項等をノート等にまとめておくこと（３時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
14	小学校理科「物質・エネルギー」の学生実験-Part3-（5年生の教科書の実験より）	予習として、その前の授業で指定する教科書の実験内容を事前に読み、予備実験をし、留意事項等をノート等にまとめておくこと（３時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
15	小学校理科「物質・エネルギー」の学生実験-Part4-（6年生の教科書の実験より）	復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　TISE12
授業形態：　演習
科目名：　幼児理解
担当教員：　山田　純子(YAMADA　Junko)

【授業の紹介】
　幼児期にふさわしい保育を行う際に必要なことは、幼児一人一人の特性を的確に把握し、理解することです。そのため、本授業では、幼児理解の意義と重要性を理解し、それらを保育実践と結びつけて考察する力を身に付けることをめざします。また、事例研究や映像視聴、ロールプレイなど様々な演習方法を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について学ぶとともに、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付けていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
　１．幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解することができる。
　（１）幼児の生活及び遊びの実態に即した幼児理解の意義が理解できる。
　（２）幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解することができる。
　（３）幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解することができる。
　２．幼児理解の方法を具体的に理解することができる。
　（１）観察や記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
　（２）個と集団の関係を捉える意義や方法が理解できる。
　（３）幼児の発達や学びの過程で生じるつまずきやその要因を周りの幼児との関係やその他の背景から捉える原理及び方法を示すことができる。
　（４）保護者の心情や基礎的な対応の方法が理解できる。

【成績の評価】
　課題およびワークシートの取組みとその内容（４０％）、定期試験（６０％）により評価します。
　ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出すること。
　課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
　随時、資料を配布します。

【参考文献】
　幼稚園教育要領解説(平成30年　文部科学省)
　保育所保育指針解説（平成30年　厚生労働省）
　幼保連携型こども園教育・保育要領（平成30年　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】
　有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、子どもたちの具体的な姿や保育活動の事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	幼児理解の必要性	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
2	保育における「幼児理解」―子どもを見る目	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
3	幼児の発達や学びの理解	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
4	幼児の遊びと幼児理解	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
5	幼児理解を深める保育者の姿勢	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
6	幼児理解に向けて～個と集団	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
7	保育における「理解」と「援助」	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまと	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		めておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
8	幼児理解と保育者の意図	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
9	幼児理解の様々な方法	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
10	幼児理解を深める「観察と記録」	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
11	幼児のつまずきの理解とその対応	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
12	気になる行動への保育者の対応	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
13	子育て支援における幼児理解	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
14	保護者への対応のロールプレイ	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
15	幼児の学びのつながり―園内の協力体制と関係機関との連携	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　TISE13
授業形態：　演習
科目名：　保育内容－表現Ⅰ【発Ａ】
担当教員：　佐々木　啓祐(SASAKI　Keisuke)

【授業の紹介】
　この科目は、図画工作科で児童の造形表現力を育てるために必要な指導力を身に付けるための科目です。
そのため、学校現場で指導することができるよう、小学校低学年から中学年の図画工作科で取り扱われている実施頻度の高い造形遊びを中心とした教材を体験します。同時に、そのことで、造形活動に必要となる基礎的な知識や技能を身に付けるとともに、造形的なセンスを高めることができるよう、造形性の高い作品づくりを行います。
　また、現在、教室など校内に掲示されている多くの子どもたちの作品を画像で知るとともに、子どもたちのつまずきへの対応など、現場の実態に応じた具体的な指導方法を学ぶことで、授業者としての指導力を身に付けることができると考えています。
　なお、この科目は、小学校教諭一級免許状取得のための必修科目です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・保育の現場で実践されている様々な技法遊び（絵の具遊び）を習得するとともに、偶然できる形や色の面白さや美しさに気付くとともに、造形表現の楽しみながら、その良さや可能性を感じ取ることができる。
・自他の作品の良さや美しさを感じ取ることができる。

【成績の評価】
課題作品（技能、創意工夫）50%、授業態度（制作態度、準備物、発表など）50%
課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する。
20分以上の遅刻は欠席とする。また欠席３回で欠席１回とする。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
「幼児造形の基礎」（樋口一成 編著、萌文書林、2022年）
「保育者をめざす 楽しい造形表現」（齋藤正人 監修・編著、圭文社、2018年）
「保育所保育指針 解説」（厚生労働省　平成30年2月）
「幼稚園教育要領 解説」（文部科学省　平成30年2月）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　本授業を担当する教員は、小学校で８年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、香川県教育委員会の図画工作科担当指導主事として、長きに渡って現場の先生方に図画教育科の指導を行ってきました。
　また、香川県教育委員会から幼児の造形活動の指導員として委嘱され、４年間、県内の幼稚園や保育所等で、２歳児から５歳児までの子どもたちと造形活動を行ってきました。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、幼児の作品鑑賞 　授業計画や活動内容、評価の観点について知り、授業に臨む心構えを自覚する。 　保育園・幼稚園等での技法遊びを中心とした子どもたちの造形活動（造形遊び）の様子を見たり、作品を鑑賞したりして、幼児の造形表現の意義や目的について考える。	授業で配布された「鑑賞シート」「アンケート」を仕上げておくこと（１時間） 　予習として、「ビー玉転がし」の技法や作品について、ネットで調べ、材料を持参する（１時間）	
2	【共通課題】 技法遊び①「ビー玉転がし」 　箱やトレイの中に画用紙を入れ、絵の具を付けたビー玉を転がすと、転がり跡が画用紙に模様となって残る。ビー玉を転がし模様ができていく過程を楽しむ。	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
3	技法遊び②-1「バブルアート」制作 　シャボン液に絵の具で色を付けて、画用紙にシャボン液の泡を落とし込み、シャボン玉が割れると、丸く弾けた形で色がつく。色の着いた泡がどんどんと盛り重なっていくことを楽しむことができる。	予習として、「バブルアート」の技法や作品についてネットで調べ、材料を持参する（１時間）	
4	技法遊び②-2「バブルアート」　トリミング・額装	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
5	技法遊び③-1「ローラーペインティング、スタンピング」　制作 　マスキングやスパッタリングの技法も併用しながら、様々なローラーで模様を描いたり、身の回りにある様々な素材を使ってスタンプをしたりして、自由に模様をつくる。ローラーを転がした跡や、スタンピングで生まれる形の面白さや美しさに気付く。	予習として、「ローラーペインティング、スタンピング」の技法や作品について、ネットで調べ、「スタンピング」の材料を持参する（１時間）	
6	技法遊び③-2「ローラーペインティング、スタンピング」制作・仕上げ	授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、持ち帰って作業を進めておく。（１時間以上）	
7	技法遊び③-3「ローラーペインティング、スタンピング」　トリミング・額装	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
8	技法遊び①②③の台紙への貼付や額装をする。	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
9	【選択課題】 ３つの選択課題（技法）の試作をする。 「デカルコマニー」　吸水性の低い紙に絵の具を置き、紙を押し当てて転写する技法。絵の具の濃さや剥がし方によって様々な効果を楽しむことができる。 「スパッタリング」　画用紙の上に型紙を置き、金網にのせた絵の具をブラシで擦り、その網目から絵の具の粒子を飛び散らせ、そこから現れる模様を楽しむ。」 「ドリッピング」　絵の具を垂らしたり、振りかけたりしてできた偶然の形や色の面白さや美しさに気付く。	予習として、「デカルコマニー、スパッタリング、ドリッピング」の技法や作品について、ネットで調べ、必要な材料を持参する（１時間）	
10	技法遊び④-1　制作	授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、持ち帰って作業を進めておく。（１時間以上）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	技法遊び④-2　制作・仕上げ	授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
12	技法遊び④-3　トリミング・額装	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上　）	
13	技法遊び⑤-1　制作 次の3つの技法から1つを選んで制作をする。 「フロッタージュ」　凹凸がある物に紙をあて、その上からクレパスなどで擦り、紙に模様を写し取ることを楽しむ。 「にじみ絵」　湿らせた紙に色を置いていったり、水性ペンで描いた部分に水を垂らしたりするなどして、色がにじみ合う美しさを楽しむ。技法遊び 「スクラッチ」　ボール紙に明るい色のクレパスを塗り重ね、最後にアクリル絵の具の黒を塗り、先の尖った物で表面を削り取って絵や模様を描く。	予習として、「フロッタージュ、にじみ絵、スク　ラッチ」の技法や作品について、ネットで調べ、必要な材料を持参する（１時間）	
14	技法遊び⑤-2　構成・額装	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
15	作品の自己評価、相互評価　自他の作品を並べて、作品鑑賞会を開催する。	授業で配布された「作品鑑賞会　評価シート」を仕上げておくこと（１時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TISE13
授業形態： 演習
科目名： 保育内容－表現Ⅰ【発Ｂ】
担当教員： 佐々木　啓祐(SASAKI　Keisuke)

【授業の紹介】
　この科目は、保育内容５領域の表現領域に係り、子どもたちの造形表現力を育てるために必要な指導力を身に付けるための科目です。
そのため、子どもたちが夢中になって取り組むことができる造形活動（造形遊び）を自ら体験するとともに、子どもたちの造形教材を基に、造形的センスを身に付けるため、より造形性の高い作品づくりを行います。
　また、保育や教育の現場で、どのような造形活動（造形遊び）が行われているかを画像等で知るとともに、子どもたちのつまずきへの対応など、現場の実態に応じた具体的な指導方法を学ぶことで、保育者としての指導力を身に付けることができると考えています。
　なお、この科目は、保育士資格、幼稚園教諭一級免許状取得のための必修科目です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・保育の現場で実践されている様々な技法遊び（絵の具遊び）を習得するとともに、偶然できる形や色の面白さや美しさに気付くとともに、造形表現の楽しみながら、その良さや可能性を感じ取ることができる。
・自他の作品の良さや美しさを感じ取ることができる。

【成績の評価】
課題作品（技能、創意工夫）50%、授業態度（制作態度、準備物、発表など）50%
課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する。
20分以上の遅刻は欠席とする。また欠席３回で欠席１回とする。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
「幼児造形の基礎」（樋口一成 編著、萌文書林、2022年）
「保育者をめざす 楽しい造形表現」（齋藤正人 監修・編著、圭文社、2018年）
「保育所保育指針 解説」（厚生労働省　平成30年2月）
「幼稚園教育要領 解説」（文部科学省　平成30年2月）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　本授業を担当する教員は、小学校で８年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、香川県教育委員会の図画工作科担当指導主事として、長きに渡って現場の先生方に図画教育科の指導を行ってきました。
　また、香川県教育委員会から幼児の造形活動の指導員として委嘱され、４年間、県内の幼稚園や保育所等で、２歳児から５歳児までの子どもたちと造形活動を行ってきました。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、幼児の作品鑑賞 　授業計画や活動内容、評価の観点について知り、授業に臨む心構えを自覚する。 　保育園・幼稚園等での技法遊びを中心とした子どもたちの造形活動（造形遊び）の様子を見たり、作品を鑑賞したりして、幼児の造形表現の意義や目的について考える。	授業で配布された「鑑賞シート」「アンケート」を仕上げておくこと（１時間）	
2	【共通課題】 技法遊び①「ビー玉転がし」 箱やトレイの中に画用紙を入れ、絵の具を付けたビー玉を転がすと、転がり跡が画用紙に模様となって残る。ビー玉を転がし模様ができていく過程を楽しむ。	予習として、「ビー玉転がし」の技法や作品について、ネットで調べ、材料を持参する（１時間） 　授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
3	技法遊び②-1「バブルアート」　制作 　シャボン液に絵の具で色を付けて、画用紙にシャボン液の泡を落とし込み、シャボン玉が割れると、丸く弾けた形で色がつく。色の着いた泡がどんどんと盛り重なっていくことを楽しむことができる。	予習として、「バブルアート」の技法や作品についてネットで調べ、材料を持参する（１時間）	
4	技法遊び②-2「バブルアート」　トリミング・額装	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
5	技法遊び③-1「ローラーペインティング、スタンピング」　制作 　マスキングやスパッタリングの技法も併用しながら、様々なローラーで模様を描いたり、身の回りにある様々な素材を使ってスタンプをしたりして、自由に模様をつくる。ローラーを転がした跡や、スタンピングで生まれる形の面白さや美しさに気付く。	予習として、「ローラーペインティング、スタンピング」の技法や作品について、ネットで調べ、「スタンピング」の材料を持参する（１時間）	
6	技法遊び③-2「ローラーペインティング、スタンピング」制作・仕上げ	授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、持ち帰って作業を進めておく。（１時間以上）	
7	技法遊び③-3「ローラーペインティング、スタンピング」　トリミング・額装	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
8	技法遊び①②③の台紙への貼付や額装をする。	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
9	【選択課題】 ３つの選択課題（技法）の試作をする。 「デカルコマニー」　吸水性の低い紙に絵の具を置き、紙を押し当てて転写する技法。絵の具の濃さや剥がし方によって様々な効果を楽しむことができる。 「スパッタリング」　画用紙の上に型紙を置き、金網にのせた絵の具をブラシで擦り、その網目から絵の具の粒子を飛び散らせ、そこから現れる模様を楽しむ。」 「ドリッピング」　絵の具を垂らしたり、振りかけたりしてできた偶然の形や色の面白さや美しさに気付く。	予習として、「デカルコマニー、スパッタリング、ドリッピング」の技法や作品について、ネットで調べ、必要な材料を持参する（１時間）	
10	技法遊び④-1　制作	授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、持ち帰って作業をすすめておく。（１時	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		間以上）	
11	技法遊び④-2　制作・仕上げ	授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
12	技法遊び④-3　トリミング・額装	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
13	技法遊び⑤-1　制作 次の3つの技法から1つを選んで制作をする。 「フロッタージュ」　凹凸がある物に紙をあて、その上からクレパスなどで擦り、紙に模様を写し取ることを楽しむ。 「にじみ絵」　湿らせた紙に色を置いていったり、水性ペンで描いた部分に水を垂らしたりするなどして、色がにじみ合う美しさを楽しむ。技法遊び 「スクラッチ」　ボール紙に明るい色のクレパスを塗り重ね、最後にアクリル絵の具の黒を塗り、先の尖った物で表面を削り取って絵や模様を描く。	予習として、「フロッタージュ、にじみ絵、スクラッチ」の技法や作品について、ネットで調べ、必要な材料を持参する（１時間）	
14	技法遊び⑤-2　構成・額装	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上） 授	
15	作品の自己評価、相互評価 自他の作品を並べて、作品鑑賞会を開催する。	授業で配布された「作品鑑賞会　評価シート」を仕上げておくこと（１時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TISE14
授業形態： 演習
科目名： 図画工作Ｉ－Ｉ
担当教員： 佐々木　啓祐(SASAKI　Keisuke)

【授業の紹介】
　この科目は、図画工作科で児童の造形表現力を育てるために必要な指導力を身に付けるための科目です。
そのため、学校現場で指導することができるよう、小学校低学年から中学年の図画工作科で取り扱われている実施頻度の高い造形遊びを中心とした教材を体験します。同時に、そのことで、造形活動に必要となる基礎的な知識や技能を身に付けるとともに、造形的なセンスを高めることができるよう、造形性の高い作品づくりを行います。
　また、現在、教室など校内に掲示されている多くの子どもたちの作品を画像で知るとともに、子どもたちのつまずきへの対応など、現場の実態に応じた具体的な指導方法を学ぶことで、授業者としての指導力を身に付けることができると考えています。
　なお、この科目は、小学校教諭一級免許状取得のための必修科目です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・小学校図画工作科で、よく取り扱われている造形遊びを中心とした教材について理解し、教材の制作を通して造形活動に必要となる基礎的な知識や技能を身に付けることができる。
・作品制作や鑑賞の活動を通して、造形表現活動を楽しむことができる。

【成績の評価】
課題作品（技能、創意工夫）60%、授業態度（制作態度、準備物、発表など）40%
課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する。
20分以上の遅刻は欠席とする。また欠席３回で欠席１回とする。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
令和２年～５年使用 小学校図画工作科 教科用図書
「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　本授業を担当する教員は、小学校で８年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、香川県教育委員会の図画工作科担当指導主事として、長きに渡って現場の先生方に図画教育科の指導を行ってきました。
　また、香川県教育委員会から幼児の造形活動の指導員として委嘱され、４年間、県内の幼稚園や保育所等で、２歳児から５歳児までの子どもたちと造形活動を行ってきました。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、幼児の作品鑑賞 　授業計画や活動内容、評価の観点について知り、授業に臨む心構えを自覚する。 　ここ数年間における香川県内の小学校で制作された作品（壁面掲示作品や展覧会の作品）を鑑賞し、小学校図画工作科の意義や目的、図工教育の現状と課題について考える。	授業で配布された「鑑賞シート」「アンケート」を仕上げておくこと（１時間）	
2	「自画像づくり」①　構想 ホームルーム教室に掲示する自画像を、色画用紙を切って貼ってつくる。自画像を描くことに抵抗感があったり、絵を描くことが苦手であったりする子どもたちも一生懸命取り組むことができる。	予習として、どのような「自画像」をつくるか構想を練っておくこと（１時間）	
3	「自画像づくり」②　制作・仕上げ	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
4	「ふしぎな たまご」①（日文１・２下）から 　構想	予習として、どのような「ふしぎなたまご」をつくるか構想を練っておくこと（１時間）	
5	「ふしぎな たまご」②（日文１・２下）から 　制作・仕上げ 　画用紙にいろんな模様の卵を描き、それを２つに切って（割って）、中から、生まれて飛び出してくるものを想像して描いて、それらを画用紙に貼って構成し、作品にする。	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
6	「バブルアート」①　制作 　シャボン液に絵の具で色を付けて、画用紙にシャボン液の泡を落とし込み、シャボン玉が割れると、丸く弾けた形で色がつく。色の着いた泡がどんどんと盛り重なっていくことを楽しむことができる。	予習として、「バブルアート」の技法や作品についてネットで調べ、材料を持参する（１時間）	
7	「バブルアート」②　トリミング・額装	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
8	「ローラーペインティング・スタンピング」①　制作 「ぺったんコロコロ」（日文１・２上）、「スタンプ、スタンプ！」（開隆１・２上）から 「ぺったん」は身近な材料を使ったスタンピング、「コロコロ」はローラーペインティングであり、これらの技法を使った模様づくりを楽しむ。	予習として、「ローラーペインティング・スタンピング」の技法や作品についてネットで調べ、材料を持参する（１時間）	
9	「ローラーペインティング・スタンピング」②　制作・仕上げ	授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、持ち帰って作業を進めておく。（１時間以上）	
10	ローラーペインティング・スタンピング③ トリミング・額装	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
11	絵の具を使った複合技法①　制作 「絵の具を使ったいろんな表し方」（日文３・４下）から 「絵の具を使ったいろんな表し方をくふうしよう」（開隆３・４下）から 　「ドリッピング、デカルコマニー、スパッタリング、ローラー・スポンジ・刷毛で描く」など、様々な技法を使って、またそれらの複数の技法を組み合わせるなどして偶然できる形や色の面白さ、美しさを体験する。	予習として、「ドリッピング、デカルコマニー、スパッタリング、ローラー・スポンジ・刷毛で描くなど」の技法や作品についてネットで調べ、材料を持参する（１時間）	
12	絵の具を使った複合技法②　制作・仕上げ	授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、作業を進めておく。（１時間以上）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
13	絵の具を使った複合技法③　トリミング・額装	授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、作業を進めておく。（１時間以上）	
14	これまで制作した作品の台紙への貼付や額装をする。	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
15	作品の自己評価、相互評価　自他の作品を並べて、作品鑑賞会を開催する。	授業で配布された「作品鑑賞会　評価シート」を仕上げておくこと（１時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TISE15
授業形態： 演習
科目名： 図画工作Ⅰ－Ⅱ
担当教員： 佐々木　啓祐(SASAKI　Keisuke)

【授業の紹介】
　この科目は、図画工作科で児童の造形表現力を育てるために必要な指導力を身に付けるための科目です。
そのため、小学校現場で指導することができるよう、小学校中学年から高学年の図画工作科で取り扱われている実施頻度の高い造形遊びを中心とした教材を体験します。同時に、そのことで、造形活動に必要となる基礎的な知識や技能を身に付けるとともに、造形的なセンスを高めることができるよう、造形性の高い作品づくりを行います。
　また、現在、教室など校内に掲示されている多くの子どもたちの作品を画像で知るとともに、子どもたちのつまずきへの対応など、現場の実態に応じた具体的な指導方法を学ぶことで、授業者としての指導力を身に付けることができると考えています。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・小学校図画工作科で、よく取り扱われている実施頻度が高く指導力が求められる木版画等の教材について理解し、教材の制作を通して造形活動に必要となる基礎的な知識や技能を身に付けることができる。
・作品制作や鑑賞の活動を通して、造形表現活動を楽しむことができる。

【成績の評価】
課題作品（技能、創意工夫）60%、授業態度（制作態度、発表、準備物など）40%
課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する
20分以上の遅刻は欠席とする。また欠席３回で欠席１回とする。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
令和２年～５年使用 小学校図画工作科 教科用図書
「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　本授業を担当する教員は、小学校で８年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、香川県教育委員会の図画工作科担当指導主事として、長きに渡って現場の先生方に図画教育科の指導を行ってきました。
　また、香川県教育委員会から幼児の造形活動の指導員として委嘱され、４年間、県内の幼稚園や保育所等で、２歳児から５歳児までの子どもたちと造形活動を行ってきました。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	「創造性テスト」や「発想トレーニング」をとおして、創造性を高めるための造形教育の役割や意義について考える。	復習として、創造性や発想等の造形用語の意味をプリント資料で整理しておく。（１時間）	
2	【共通課題】 コラージュによる作品づくり①　素材集め 「これでえがくと」（開隆３・４下）から いろんな布（麻布、化繊など）や紙、ダンボール紙、毛糸や紐、綿など、手触りの異なるいろんな素材を組み合わせて台紙に貼り付け、テクスチュア（画肌の感じ）の感じを楽しむとともに、絵の具で加筆するなどして作品づくりをする。	予習として、作品制作の構想を練り、必要な材料を持参する。（１時間以上）	
3	コラージュによる作品づくり②　構成	授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、作業を進めておく。（１時間以上	
4	コラージュによる作品づくり③　貼り付け	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
5	白黒木版画①　作品鑑賞 「ほって すって 見つけて」（日文３・４下） 「木はん画に表そう」（開隆３・４下）から ・木版画の制作手順について知り、線描きの下絵をつくる。 ・白黒のバランスを考えて彫りの計画を立て、彫刻刀で版木を彫っていく。	予習として、白黒木版画の主題を決め、必要な写真資料等を持参する。（１時間）	
6	白黒木版画②　テーマの決定・下絵づくり	作業の進度が遅れている場合は、持ち帰って作業を進めておく（１時間以上）	
7	白黒木版画③　彫り	作業の進度が遅れている場合は、持ち帰って作業を進めておく（１時間以上）	
8	白黒木版画④　彫り	作業の進度が遅れている場合は、持ち帰って作業を進めておく（１時間以上）	
9	白黒木版画⑤　摺り	授業時間内に完成しない場合は、授業時間外の時間を使って、作品を完成させておく。（１時間以上）	
10	「牛乳パックで手すきハガキをつくる」 牛乳パックから取り出したパルプを細かくちぎってミキサーでドロドロにし、ハガキ大の網付きの枠にまんべんなく流し込んで枠を引き上げてパルプを乾燥させてつくる。	自宅で牛乳パックを２日以上水に浸し、両面のポリエチレンを剥がし、持参する。（１時間以上）	
11	絵手紙を描こう」 絵を描く様々な材料や技法体験をし、その中から自分が好む描き方で、手づくりハガキに絵を描く。	絵手紙の構想を練り、描く対象物や描画道具を持参する。（１時間以上） 授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
12	選択課題①　発想・構想 次の2つの教材のうち1つを選び制作する。 「でこぼこの絵」（日文５・６上）から 板を思いのまま自由に切って、並べたり、重ねたりして、抽象半立体作品をつくる。教科書では糸鋸で板を切ってつくるが、本授業ではカッターナイフでスチレンボードを切ってボンドで貼り付けてつくる。 「だんボールで、試して、つくって」（開隆５・６上）から ダンボールを切ったり、曲げたり、剥がしたり、いろいろ試して、そこから思いついたものをつくる。	予習として、作品制作の構想を練り、必要な材料を持参する。（１時間以上）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
13	選択課題②　制作	作業の進度が遅れている場合は、持ち帰って作業を進めておく（１時間以上）	
14	第14回　選択課題③　制作・仕上げ	授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（１時間以上）	
15	作品鑑賞会　出来上がった作品の相互鑑賞	授業で配布された「作品鑑賞会　評価シート」を仕上げておくこと（１時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TISE16
授業形態： 演習
科目名： 図画工作Ⅱ－Ⅰ【Ａ】
担当教員： 津田　浩二(TSUDA　Koji)

【授業の紹介】
　教育・保育における造形活動は、子ども一人一人の資質や能力を活かしながら、可能性を伸ばすことを目指しています。子どもたちは、描いたりつくったり、いろいろな作品を見たりする行為を通して、造形的な感覚や造形活動に必要な知識や技能を獲得していきます。
　この授業は、「造形表現Ⅰ・Ⅱ」や「図画工作Ⅰ-Ⅰ・Ⅰ-Ⅱ」の学習内容に基づきますが、平面や立体の作品を制作し、造形に必要な基礎的知識や技能及び美的感覚を養います。子どもが本来もっているよさや個性を引き出し、必要な手立てを講じていける教育・保育の実践力を身に付けることを目的としています。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１.平面や立体作品の制作によって、造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
２.形や色の表現を考えることによって、美的体験を豊かにすることができる。
３.造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
４.観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【成績の評価】
課題作品の提出状況と提出内容（８０％）、授業態度・意欲・準備物（２０％）
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
『幼児造形の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2018年）
『小学校図画工作の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2020年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、表現力について	予習として、『水彩画』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、授業内容について自分なりのまとめをしておくこと(30分)	
2	植物を表現する(1)構図のとり方、スケッチ、着色	予習として、『植物を表現する』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
3	植物を表現する(2)着色、仕上げ	予習として、『植物を表現する』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
4	ペーパークラフト(1)アイディアスケッチ、レイアウト	予習として、『ペーパークラフト』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
5	ペーパークラフト(2)カッティング	予習として、『ペーパークラフト』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
6	ペーパークラフト(3)カッティング、仕上げ	予習として、『ペーパークラフト』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
7	イメージ表現(1)アイディアスケッチ	予習として、『イメージ表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
8	イメージ表現(2)レイアウト、下絵	予習として、『イメージ表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
9	イメージ表現(3)配色	予習として、『イメージ表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
10	イメージ表現(4)配色、仕上げ	予習として、『イメージ表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
11	切り絵(1)ラフスケッチ、試作、下絵	予習として、『切り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
12	切り絵(2)細部のカッティング	予習として、『切り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
13	切り絵(3)細部と大きい部分のカッティング	予習として、『切り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
14	切り絵(4)カッティング、修正、仕上げ	予習として、『切り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
15	講評、これまでの制作についてのまとめ	予習として、これまで収集した課題の資料を整理して、今後の造形表現活動や教育現場などの参考資料とする(30分) 復習として、これまでの課題作品についての反省点をまとめておくこと(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TISE16
授業形態： 演習
科目名： 図画工作Ⅱ－Ⅰ【B】
担当教員： 津田　浩二(TSUDA　Koji)

【授業の紹介】

　教育・保育における造形活動は、子ども一人一人の資質や能力を活かしながら、可能性を伸ばすことを目指しています。子どもたちは、描いたりつくったり、いろいろな作品を見たりする行為を通して、造形的な感覚や造形活動に必要な知識や技能を獲得していきます。
　この授業は、「造形表現Ⅰ・Ⅱ」や「図画工作Ⅰ-Ⅰ・Ⅰ-Ⅱ」の学習内容に基づきますが、平面や立体の作品を制作し、造形に必要な基礎的知識や技能及び美的感覚を養います。子どもが本来もっているよさや個性を引き出し、必要な手立てを講じていける教育・保育の実践力を身に付けることを目的としています。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】

１.平面や立体作品の制作によって、造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
２.形や色の表現を考えることによって、美的体験を豊かにすることができる。
３.造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
４.観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（８０％）、授業態度・意欲・準備物（２０％）
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

『幼児造形の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2018年）
『小学校図画工作の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2020年）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、表現力について	予習として、『水彩画』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、授業内容について自分なりのまとめをしておくこと(30分)	
2	植物を表現する(1)構図のとり方、スケッチ、着色	予習として、『植物を表現する』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
3	植物を表現する(2)着色、仕上げ	予習として、『植物を表現する』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
4	ペーパークラフト(1)アイディアスケッチ、レイアウト	予習として、『ペーパークラフト』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
5	ペーパークラフト(2)カッティング	予習として、『ペーパークラフト』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
6	ペーパークラフト(3)カッティング、仕上げ	予習として、『ペーパークラフト』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
7	イメージ表現(1)アイディアスケッチ	予習として、『イメージ表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
8	イメージ表現(2)レイアウト、下絵	予習として、『イメージ表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
9	イメージ表現(3)配色	予習として、『イメージ表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
10	イメージ表現(4)配色、仕上げ	予習として、『イメージ表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
11	切り絵(1)ラフスケッチ、試作、下絵	予習として、『切り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
12	切り絵(2)細部のカッティング	予習として、『切り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
13	切り絵(3)細部と大きい部分のカッティング	予習として、『切り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
14	切り絵(4)カッティング、修正、仕上げ	予習として、『切り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
15	講評、これまでの制作についてのまとめ	予習として、これまで収集した課題の資料を整理して、今後の造形表現活動や教育現場などの参考資料とする(30分) 復習として、これまでの課題作品についての反省点をまとめておくこと(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TISE17
授業形態： 演習
科目名： 図画工作Ⅱ－Ⅱ【Ａ】
担当教員： 津田　浩二(TSUDA　Koji)

【授業の紹介】

　教育・保育における造形活動は、子ども一人一人の資質や能力を活かしながら、可能性を伸ばすことを目指しています。子どもたちは、描いたりつくったり、いろいろな作品を見たりする行為を通して、造形的な感覚や造形活動に必要な知識や技能を獲得していきます。
　この授業は「図画工作Ⅱ-Ⅰ」の学習内容に引き続き、平面や立体の作品を制作し、造形に必要な基礎的知識や技能及び美的感覚を養います。子どもが本来もっているよさや個性を引き出し、必要な手立てを講じていける教育・保育の実践力を身に付けることを目的としています。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】

１.平面や立体作品の制作によって、造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
２.形や色の表現を考えることによって、美的体験を豊かにすることができる。
３.造形表現や作品鑑賞によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
４.観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（８０％）、授業態度・意欲・準備物（２０％）
課題は中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

『幼児造形の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2018年）
『小学校図画工作の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2020年）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	平面・立体の作品鑑賞、ポップアップカードの制作について	予習として、『ポップアップカード』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
2	ポップアップカード(A)作り(1)アイディアスケッチ、下絵	予習として、『ポップアップカード』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
3	ポップアップカード(A)作り(2)着色、仕上げ	予習として、『ポップアップカード』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
4	ポップアップカード(B)作り(1)アイディアスケッチ、下絵	予習として、『ポップアップカード』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
5	ポップアップカード(B)作り(2)着色、仕上げ	予習として、『ポップアップカード』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
6	貼り絵(1)アイディアスケッチ、レイアウト	予習として、『貼り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
7	貼り絵(2)配色の構想、色の集合体の作成	予習として、『貼り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
8	貼り絵(3)色の集合体の作成	予習として、『貼り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
9	貼り絵(4)色の集合体の作成・調整	予習として、『貼り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
10	貼り絵(5)色の集合体の調整、仕上げ	予習として、『貼り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
11	『ドリーム』を描く(1)アイディアスケッチ	予習として、『デザイン』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
12	『ドリーム』を描く(2)下絵、彩色	予習として、『デザイン』について資料収集をしておくこと(30分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
13	『ドリーム』を描く(3)彩色	予習として、『デザイン』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
14	『ドリーム』を描く(4)彩色、仕上げ	予習として、『デザイン』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
15	講評、これまでの制作についてのまとめ	予習として、これまで収集した課題の資料を整理して、今後の造形表現活動や教育現場などの参考資料とする（30分） 復習として、これまでの課題作品についての反省点をまとめておくこと(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TISE17
授業形態： 演習
科目名： 図画工作Ⅱ－Ⅱ【B】
担当教員： 津田　浩二(TSUDA　Koji)

【授業の紹介】

教育・保育における造形活動は、子ども一人一人の資質や能力を活かしながら、可能性を伸ばすことを目指しています。子どもたちは、描いたりつくったり、いろいろな作品を見たりする行為を通して、造形的な感覚や造形活動に必要な知識や技能を獲得していきます。

この授業は「図画工作Ⅱ-Ⅰ」の学習内容に引き続き、平面や立体の作品を制作し、造形に必要な基礎的知識や技能及び美的感覚を養います。子どもが本来もっているよさや個性を引き出し、必要な手立てを講じていける教育・保育の実践力を身に付けることを目的としています。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】

１．平面や立体作品の制作によって、造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
２．形や色の表現を考えることによって、美的体験を豊かにすることができる。
３．造形表現や作品鑑賞によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
４．観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（８０％）、授業態度・意欲・準備物（２０％）
課題は中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

『幼児造形の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2018年）
『小学校図画工作の基礎』（樋口一成編著、萌文書林、2020年）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	平面・立体の作品鑑賞、ポップアップカードの制作について	予習として、『ポップアップカード』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
2	ポップアップカード(A)作り(1)アイディアスケッチ、下絵	予習として、『ポップアップカード』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
3	ポップアップカード(A)作り(2)着色、仕上げ	予習として、『ポップアップカード』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
4	ポップアップカード(B)作り(1)アイディアスケッチ、下絵	予習として、『ポップアップカード』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
5	ポップアップカード(B)作り(2)着色、仕上げ	予習として、『ポップアップカード』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
6	貼り絵(1)アイディアスケッチ、レイアウト	予習として、『貼り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
7	貼り絵(2)配色の構想、色の集合体の作成	予習として、『貼り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
8	貼り絵(3)色の集合体の作成	予習として、『貼り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
9	貼り絵(4)色の集合体の作成・調整	予習として、『貼り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
10	貼り絵(5)色の集合体の調整、仕上げ	予習として、『貼り絵』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
11	『ドリーム』を描く(1)アイディアスケッチ	予習として、『デザイン』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
12	『ドリーム』を描く(2)下絵、彩色	予習として、『デザイン』について資料収集をしておくこと(30分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
13	『ドリーム』を描く(3)彩色	予習として、『デザイン』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
14	『ドリーム』を描く(4)彩色、仕上げ	予習として、『デザイン』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
15	講評、これまでの制作についてのまとめ	予習として、これまで収集した課題の資料を整理して、今後の造形表現活動や教育現場などの参考資料とする(30分) 復習として、これまでの課題作品についての反省点をまとめておくこと(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TISE18
授業形態： 講義
科目名： 特別活動論
担当教員： 平畑　博人(HIRAHATA　Hiroto)

【授業の紹介】
　学校における多様な集団活動による課題の発見や解決を通してよりよい集団の形成や学校での生活を目指す特別活動の意義を理解するとともに、取り上げた問題やトピックを様々な視点から考察することで、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けます。
経営学部の学生も受講します。
　また、アクティブ・ラーニング（ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、３分間スピーチ）を通して授業の理解を深め自分の意見を表明し他人の考え方を知ることにより、学校現場で教壇に立った際の思考・行動の可能性も検討します。
　この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：ulx55hf）を使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑤　多様な人材との協力・協働	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
①学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解することができる。
②教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解することができる。
③学級活動、児童会活動、学校行事の特質を理解することができる。
④教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解することができる。
⑤特別活動における取り組みの評価・改善活動の重要性を理解することができる。
⑥合意形成に向けた話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。
⑦特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解することができる。

【成績の評価】
授業への取り組み（３０％）提出物（４０％）、模擬授業体験（３０％）。
提出物は後日返却し、模擬授業体験はその都度コメントするとともに評価のコメントはオフィスアワーで行う。

【使用テキスト】
文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成29年）東洋館出版社…文部科学省のＨＰからダウンロードしたものでもかまわない

【参考文献】
その都度指示する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校や教育委員会での教育や指導、管理の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を進めます。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	特別活動の意義・目標・内容と教育課程における位置づけ	予習として、予定されている授業内容を確認し、使用テキストの当該範囲を事前に読みノート等にまとめておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
2	特別活動の歴史的変遷	予習として、予定されている授業内容を確認し、使用テキストの当該範囲を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
3	特別活動と生徒指導	予習として、予定されている授業内容を確認し、使用テキストの当該範囲を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
4	特別活動と学級経営	予習として、予定されている授業内容を確認し、使用テキストの当該範囲を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
5	学級活動	予習として、予定されている授業内容を確認し、使用テキストの当該範囲を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
6	児童会活動	予習として、予定されている授業内容を確認し、使用テキストの当該範囲を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
7	クラブ活動	予習として、予定されている授業内容を確認し、使用テキストの当該範囲を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
8	学校行事	予習として、予定されている授業内容を確認し、使用テキストの当該範囲を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
9	特別活動の今	予習として、予定されている授業内容を確認し、使用テキストの当該範囲を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
10	特別活動の指導の在り方Ⅰ（模擬体験授業の解説）	予習として、どのような模擬体験授業を行うのかを想定し授業の構成を考え、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
11	特別活動の指導の在り方Ⅱ（模擬体験授業の内容検討）	予習として、どのような模擬体験授業を行うのかを想定し授業の構成を考え、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
12	特別活動の指導の在り方Ⅲ（模擬体験授業の構成検討）	予習として、どのような模擬体験授業を行うのかを想定し授業の構成を考え、ノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
13	模擬体験Ⅰ（グループ発表）と振返り	予習として、これまでの授業を振返るために使用テキストを読み直し、特別活動の目標や意義を、ノート等にまとめておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
14	模擬体験Ⅱ（グループ発表）と振返り	予習として、これまでの授業を振返るために使用テキストを読み直し、特別活動の目標や意義を、ノート等にまとめておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
15	これからの特別活動	予習として、予定されている授業内容を確認し、使用テキストの当該範囲を事前に読みノート等にまとめておくこと。また、３分間スピーチの担当者は、テーマを決めスピーチできるよう自分の意見をまとめた発表原稿を作成しておくこと。（２時間） 復習として、配付する「REVIEW」の各項目を記入し完成させ提出すること。（２時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TISE19
授業形態： 講義
科目名： 保育原理II
担当教員： 松原　勝敏(MATSUBARA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
Google　Classroom　クラスコード：6s3uttu

保育原理Ⅱは、保育原理Ⅰで学んだことをさらに発展させ、保育の意義及び目的、保育の理論と実践を関連付け、自らの実習体験を振り返りながら、真の保育とは何かを追及します。
この授業では、公立保育所や幼稚園、認定こども園の採用試験の面接試験の際に、自らの意見を保育の理論をベースにして答えることができる力の育成を目指します。

この授業科目は、「保育原理Ⅰ」の単位が認定されている学生を受講対象とします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．保育所保育指針の内容を保育実践に関連付けて理解できる。
２．自らの子ども観・保育観を表現することができる。
３．子ども理解と保育の過程について省察することができる。

【成績の評価】
授業の参加に当たっては、毎回、課題レポートの作成を求めます(75%)。　また、授業後のレポートの提出も必須となります(25%)。

【使用テキスト】
・『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館、2018年）

【参考文献】
・適宜、資料を配布します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	保育の理念と概念	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
2	保育の社会的役割と責任	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
3	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
4	保育の実施体系	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
5	保育所保育指針に基づく保育	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
6	保育の目標と方法	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
7	乳児の保育	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
8	１歳以上３歳未満児の保育	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
9	３歳以上児の保育	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
10	子ども理解に基づく保育の過程①理論編	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		提出。(1時間)	
11	子ども理解に基づく保育の過程②実践編	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
12	諸外国の保育の思想と歴史	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
13	日本の保育の思想と歴史	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
14	諸外国の保育の現状と課題	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
15	日本の保育の現状と課題	予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　TISE20
授業形態：　演習
科目名：　家庭
担当教員：　大西　えい子(OONISHI Eiko)

【授業の紹介】
家庭科は家庭生活を中心にした生活を学習対象として、体験的・実践的に学習し、ひとりひとりがよりよく生きることを目標としている教科です。指導する教員は生活者としての視点と生活実践力を持つことが必要とされます。
この授業では、小学校家庭科の学習内容に関する演習や実習などの実践的・体験的な活動を中心として、小学校で家庭科の授業を行うために必要な知識と基礎的な技能を習得し、生活実践力の獲得にも繋げます。また、そのような活動を通じて生活者としての視点を養い、小学校家庭科の教材についての認識を深め、教材研究をする力を培います。被服製作実習では裁縫道具及び布地などの資材，調理実習では白衣またはエプロン，三角巾、マスク、布巾などの準備が必要です。また，共通で使用するものの材料費として受講生全員から実習費を徴収します。なお、設備の都合で受講人数を制限することもあります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
1.生活者としての視点をもち生活実践力を養うために、継続的に学ぼうとする態度を身に付けることができる。
2.小学校家庭科の授業を行うために必要な知識や基礎的な技能を習得することができる。
3.小学校家庭科の学習内容を把握した上で教材研究ができる。

【成績の評価】
授業態度及び意欲（10%）、予習復習の課題（20%）、提出物の提出状況や提出内容（50%）、教材研究のプレゼンテーション（20%）。提出物の未提出、本人からの事前連絡なしの遅刻、欠席は減点とする。30分以上の遅刻、または遅刻３回で欠席１回とみなす。被服製作及び調理実習については準備なしでの授業への参加は認めない。被服製作実習での製作物の提出及び調理実習の授業への参加は必須である。
レポート等の課題及び評価については授業時間内に解説する。

【使用テキスト】
「小学校学習指導要領解説　家庭編」文部科学省,東洋館出版社，2017年
「わたしたちの家庭科５・６」開隆堂，2024年

【参考文献】
「人生の答えは家庭科に聞け！」堀内かおる,南野忠晴共著,岩波書店,2016
「シアワセなお金の使い方」南野忠晴著,岩波書店,2015
「僕が家庭科教師になったわけ：詰まるところの「生きる力」」小平陽一著,太郎次郎社エディタス,2016
「人生で大切なことはすべて家庭科で学べる：ふくしまの男性教員による授業」末松孝治著,文芸社,2014
「正しいパンツのたたみ方：新しい家庭科勉強法」南野忠治著,岩波書店,2011
その他関連する参考文献については講義の中で適宜説明する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校での家庭科指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	・オリエンテーション（授業のねらいと進め方について） ・「A家族・家庭生活」自立とは	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
2	・「A家族・家庭生活」家族・生活時間について ・「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」エコ掃除について　指編みのエコたわしの製作	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
3	・「B衣食住の生活」衣生活分野　　被服製作の基礎知識 ・「B衣食住の生活」衣生活分野　　手縫いの基礎とボタンつけ	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
4	・「B衣食住の生活」衣生活分野　　手縫い教材　あずま袋の製作　　①半返し縫い、本返し縫い ・「B衣食住の生活」衣生活分野　　手縫い教材　あずま袋の製作　　②仕上げ、ワッペン作り	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
5	・「B衣食住の生活」衣生活分野　　ミシンの仕組み、ミシン縫いの基礎 ・「B衣食住の生活」衣生活分野　　ミシン縫い教材　エコバッグの製作　　①脇縫い	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
6	・「B衣食住の生活」衣生活分野　　ミシン縫い教材　エコバッグの製作　②ひもつけ、仕上げ ・「B衣食住の生活」衣生活分野　「生活を豊かにするための布を用いた製作」型紙作成と裁断・しるしつけ	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
7	・「B衣食住の生活」衣生活分野　「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い①脇縫い、あき口の始末 ・「B衣食住の生活」衣生活分野　「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い②入れ口の始末	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
8	・「B衣食住の生活」衣生活分野　「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い③まち作り ・「B衣食住の生活」衣生活分野　「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い④ひも通し、仕上げ	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
9	・「B衣食住の生活」食生活分野 毎日何を食べていますか？自分の食生活を把握しよう ・「B衣食住の生活」食生活分野　　何をどう食べるのか	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
10	・「B衣食住の生活」食生活分野	予習として次回の授業内容を確認し、その範	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	調理の基礎 ・「B衣食住の生活」食生活分野　　鍋でご飯を炊いてみよう	囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
11	・「B衣食住の生活」食生活分野　　茹でる料理について ・「B衣食住の生活」食生活分野　　茹でる料理の調理と評価	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
12	・「B衣食住の生活」食生活分野　　味噌汁について ・「B衣食住の生活」食生活分野　　味噌汁の調理と評価	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
13	・「B衣食住の生活」食生活分野　　炒める料理について ・「B衣食住の生活」食生活分野　　炒める料理の調理と評価	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
14	・教材研究のプレゼンテーション　　①衣・食分野 ・プレゼンテーションについての質疑応答	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
15	・教材研究のプレゼンテーション ②住・環境分野 ・プレゼンテーションについての質疑応答	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　TISE21
授業形態：　演習
科目名：　保育内容－総合【発Ａ】
担当教員：　常田　美穂(TSUNEDA　Miho)

【授業の紹介】
　「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される教育・保育のねらいと内容（5領域）について理解し、幼児期における教育の基本的な考え方について学ぶ。
　実際に幼稚園や保育園でおこなわれている遊びを自分たちで実体験することによって、その遊びを通して幼児が何を学んでいるのか知り、必要とされる保育者のかかわりや環境構成等について具体的に理解するとともに、総合的に指導する視点を養う。
　また、子どもと保育・子育てに関連する今日的な課題についての調査・発表を通して、保育者の専門性について考察し、子どもを取り巻く社会環境全体を視野に入れて保育内容を展開していく力を身につける。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．幼稚園教育要領等に示された乳幼児教育・保育の指導の考え方を理解することができる。
２．乳幼児の発達や学びの過程を見通した指導計画を作成し、子ども理解に根ざした保育を構想する力を身に付けることができる。
３．保育の現状と課題についての情報交換と考察を通して、保育者の資質向上に向けて継続的に学ぶ意欲を高めることができる。

【成績の評価】
定期試験は実施しない。
ミニレポートの提出（15%）指導案の提出（40%）「保育の現状と課題」調査発表（45%）
毎回の授業でミニレポートの提出を求める。
遊び体験のまとめとして指導案の提出を求める。
授業内で「保育の現状と課題」に関するテーマでPPT資料を用いて研究発表をする。

【使用テキスト】
テキストを使用しない。

【参考文献】

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 保育内容総論を学ぶ目的 乳幼児期の教育・保育の特徴	講義前にシラバスを読み、授業のねらい・概要について予習しておく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
2	教育および保育内容の変遷と考え方	講義前に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される教育・保育のねらいと内容（5領域）を読んでおく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
3	子ども理解に基づく保育の展開 事例を通して考える	講義前に、自分自身の幼児期の先生とのやりとりにまつわるエピソードを思い出し、レポートにまとめる。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
4	遊びを通した総合的な指導について考える：子どもになりきって遊んでみよう①小麦粉ねんど遊び	講義前に、幼児期の子どもの遊びについて調べ学習をしておく。講義後は、講義中の体験を思い出し、子どもが面白いと思うポイントや必要とされる保育者の関わり、改善すべき点などを書き出しておく。 予習と復習は各３０分ずつ	
5	保育計画の考え方①指導案・指導計画作成の実際（4歳児を例に）	講義前に、4歳児の発達について調べ学習をしておく。講義後は、講義内容をもとにモデル指導案を作成する。 予習と復習は各３０分ずつ	
6	物や人との関わりを深める環境の構成と教材研究：子どもになりきって遊んでみよう②スライムづくり	講義前に、幼児期の子どもの遊びについて調べ学習をしておく。講義後は、講義中の体験を思い出し、子どもが面白いと思うポイントや必要とされる保育者の関わり、改善すべき点などを書き出しておく。 予習と復習は各３０分ずつ	
7	保育計画の考え方②指導案・指導計画作成の実際（5歳児を例に）	講義前に、5歳児の発達について調べ学習をしておく。講義後は、講義内容をもとにモデル指導案を作成する。 予習と復習は各３０分ずつ	
8	環境を通して行う保育	講義前に、これまでの実習での経験や自分が育ってきた園環境を思い出し、どのような物的環境があったか、またその意図についてレポートにまとめる。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
9	保育の多様な展開	講義前に、特別な配慮を要する子どもの例について調べ学習をしておく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
10	家庭や地域との連携を踏まえた保育	講義前に、自分が住む地域の子育て支援施設について調べ学習をしておく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
11	幼児教育と小学校教育との接続①アプローチカリキュラム	講義前に、5歳児の保育内容について調べ学習をしておく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
12	幼児教育と小学校教育との接続②スタートカリキュラム）	講義前に、小学1年生・生活科の授業内容について調べ学習をしておく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
13	保育内容の現状と課題（現代の子どもの生活と発達）	講義前に、乳幼児の生活について述べた新聞記事等を検索して、どのような問題があるか調べ学習をしておく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
14	保育内容の現状と課題：研究発表①	授業前に、研究発表資料（PPT資料）を作成する。授業後は、自分以外の発表の内容をレポートにまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
15	保育内容の現状と課題：研究発表②	授業前に、研究発表資料（PPT資料）を作成する。授業後は、自分以外の発表の内容をレポートにまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　TISE21
授業形態：　演習
科目名：　保育内容－総合【発Ｂ】
担当教員：　常田　美穂(TSUNEDA　Miho)

【授業の紹介】
　「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される教育・保育のねらいと内容（5領域）について理解し、幼児期における教育の基本的な考え方について学ぶ。
　実際に幼稚園や保育園でおこなわれている遊びを自分たちで実体験することによって、その遊びを通して幼児が何を学んでいるのか知り、必要とされる保育者のかかわりや環境構成等について具体的に理解するとともに、総合的に指導する視点を養う。
　また、子どもと保育・子育てに関連する今日的な課題についての調査・発表を通して、保育者の専門性について考察し、子どもを取り巻く社会環境全体を視野に入れて保育内容を展開していく力を身につける。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．幼稚園教育要領等に示された乳幼児教育・保育の指導の考え方を理解することができる。
２．乳幼児の発達や学びの過程を見通した指導計画を作成し、子ども理解に根ざした保育を構想する力を身に付けることができる。
３．保育の現状と課題についての情報交換と考察を通して、保育者の資質向上に向けて継続的に学ぶ意欲を高めることができる。

【成績の評価】
定期試験は実施しない。
ミニレポートの提出（15%）指導案の提出（40%）「保育の現状と課題」調査発表（45%）
毎回の授業でミニレポートの提出を求める。
遊び体験のまとめとして指導案の提出を求める。
授業内で「保育の現状と課題」に関するテーマでPPT資料を用いて研究発表をする。

【使用テキスト】
テキストを使用しない。

【参考文献】

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 保育内容総論を学ぶ目的 乳幼児期の教育・保育の特徴	講義前にシラバスを読み、授業のねらい・概要について予習しておく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
2	教育および保育内容の変遷と考え方	講義前に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される教育・保育のねらいと内容（5領域）を読んでおく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
3	子ども理解に基づく保育の展開 事例を通して考える	講義前に、自分自身の幼児期の先生とのやりとりにまつわるエピソードを思い出し、レポートにまとめる。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
4	遊びを通した総合的な指導について考える：子どもになりきって遊んでみよう①小麦粉ねんど遊び	講義前に、幼児期の子どもの遊びについて調べ学習をしておく。講義後は、講義中の体験を思い出し、子どもが面白いと思うポイントや必要とされる保育者の関わり、改善すべき点などを書き出しておく。 予習と復習は各３０分ずつ	
5	保育計画の考え方①指導案・指導計画作成の実際（4歳児を例に）	講義前に、4歳児の発達について調べ学習をしておく。講義後は、講義内容をもとにモデル指導案を作成する。 予習と復習は各３０分ずつ	
6	物や人との関わりを深める環境の構成と教材研究：子どもになりきって遊んでみよう②スライムづくり	講義前に、幼児期の子どもの遊びについて調べ学習をしておく。講義後は、講義中の体験を思い出し、子どもが面白いと思うポイントや必要とされる保育者の関わり、改善すべき点などを書き出しておく。 予習と復習は各３０分ずつ	
7	保育計画の考え方②指導案・指導計画作成の実際（5歳児を例に）	講義前に、5歳児の発達について調べ学習をしておく。講義後は、講義内容をもとにモデル指導案を作成する。 予習と復習は各３０分ずつ	
8	環境を通して行う保育	講義前に、これまでの実習での経験や自分が育ってきた園環境を思い出し、どのような物的環境があったか、またその意図についてレポートにまとめる。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
9	保育の多様な展開	講義前に、特別な配慮を要する子どもの例について調べ学習をしておく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
10	家庭や地域との連携を踏まえた保育	講義前に、自分が住む地域の子育て支援施設について調べ学習をしておく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
11	幼児教育と小学校教育との接続①アプローチカリキュラム	講義前に、5歳児の保育内容について調べ学習をしておく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
12	幼児教育と小学校教育との接続②スタートカリキュラム）	講義前に、小学1年生・生活科の授業内容について調べ学習をしておく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
13	保育内容の現状と課題（現代の子どもの生活と発達）	講義前に、乳幼児の生活について述べた新聞記事等を検索して、どのような問題があるか調べ学習をしておく。講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
14	保育内容の現状と課題：研究発表①	授業前に、研究発表資料（PPT資料）を作成する。授業後は、自分以外の発表の内容をレポートにまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
15	保育内容の現状と課題：研究発表②	授業前に、研究発表資料（PPT資料）を作成する。授業後は、自分以外の発表の内容をレポートにまとめるなどして復習する。 予習と復習は各３０分ずつ	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TISE22
授業形態： 講義
科目名： 総合的な学習の時間の指導法
担当教員： 野村　一夫(NOMURA　Kazuo)

【授業の紹介】
総合的な学習の時間の趣旨やねらい、カリキュラム上の位置付けなどについて、小学校学習指導要領に示された目標、内容及び内容の取扱い等を分析し、考えることを通じて理解を図ります。
　また、地域や学校の実情に応じた全体計画や年間指導計画、単元計画等の作成方法をグループワークを通して学びます。さらに、グループでテーマ設定型の探究活動を行い、プレゼンテーションすることを通し、総合的な学習の時間の意義を考えます。
　これらの学修から授業設計や指導法、評価等についての基礎的な理解と実践力の育成を図り、小学校教員としての資質・能力の基礎を培うことを目指します。
　この授業ではClassroom(クラスコード：w612kce）を使用し、資料配付や課題「授業リフレクション」の提示などを行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．総合的な学習の時間創設の経緯を知り、カリキュラム論に基づく位置付けを説明することができる。
２．総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校や地域の実情に応じた指導計画を作成できるようになる。

【成績の評価】
学修内容の理解はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。
現代的な諸課題に係る「私たちの考える探究課題〇〇について」の作成及び提出(30%)、「授業リフレクション」の提出(20%)、定期試験(50%)とします。
「授業リフレクション」は、Classroomで提出し、返却時にコメントします。
期末定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総合的な学習の時間編　平成30年　文部科学省
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校総合的な学習の時間）　令和2年　国立教育政策研究所教育課程センター

【参考文献】
随時紹介する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を活かし、総合的な学習の時間の実務的な課題や具体的な指導法の在り方などを解説します。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（総合的な学習の時間のイメージ）	予習として、小学校から高等学校における総合的な学習の時間の学習経験（テーマ、特に記憶に残っている学習活動、学習を通じていたことなど）を振り返り、ノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、総合的な学習の時間の現状と課題を整理し、授業リフレクションに記述すること 。（１時間）	
2	総合的な学習の時間創設の経緯と背景	予習として、総合的な学習の時間を学習することの必要性について考え、ノート等に整理しておくこと。（１時間）復習として、総合的な学習の時間創設の経緯を踏まえて、その意義授業リフレクションに記述すること 。（１時間）	
3	総合的な学習の時間の教育課程上の位置付けとカリキュラム論	予習として、小学校における現行の教育課程（カリキュラム構成）を調べ、ノート等にまとめておくこと。（１時間）復習として、総合的な学習の時間を教育課程に位置付けられていることに関する自らの考え授業リフレクションに記述すること 。（１時間）	
4	学習指導要領における総合的な学習の時間の目標、内容及び内容の取扱い	予習として、総合的な学習の時間と各教科との目標、内容及び内容の取扱いの異同について調べ、ノート等に整理しておくこと。（１時間）復習として、各教科と総合的な学習の時間の違いから考えたことを授業リフレクションに記述すること 。（１時間）	
5	総合的な学習の時間で育成することを目指す資質・能力	予習として、総合的な学習の時間で身に付けたい力を具体的に考えノート等に整理しておくこと。（１時間）復習として、総合的な学習の時間で育成する資質・能力をどのように活かすのかを授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
6	総合的な学習の時間における三つの課題	予習として、総合的な学習の時間における三つの課題を調べノート等に整理しておくこと。（１時間）復習として、三つの課題に関する自らの考えを授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
7	各学校において目標及び内容等を定める際の留意事項	予習として、実習校等における総合的な学習の時間の全体計画を収集しておくこと。（１時間）復習として、各学校において目標と内容等を定めることの意義を考え、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
8	総合的な学習の時間の全体計画の作成（グループワーク）	予習として、実習校等における総合的な学習の時間の全体計画を収集しておくこと。（１時間）復習として、全体計画を作成することの意義を授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
9	総合的な学習の時間の年間指導計画の作成（グループワーク）	予習として、実習校等における総合的な学習の時間の年間指導計画を収集しておくこと。（１時間）復習として、総合的な学習の時間において年間指導計画を作成することの意義を考え、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
10	総合的な学習の時間の単元計画の作成（グループワーク）	予習として、実習校等における総合的な学習の時間の学習指導案等を収集しておくこと（１時間）復習として、総合的な学習の時間	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		の学習活動の在り方を考え、授業リフレクションに記述すること 。（１時間）	
11	探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」の視点（グループワーク：テーマ設定型探究活動）	予習として、探究的な学習を中核とする単元計画を考えノート等に整理しておくこと。（１時間）復習として、最適な学習活動の在り方を考え、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
12	探究的な学習の指導のポイント（グループワーク：テーマ設定型探究活動）	予習として、探究的な学習を指導する際の留意事項を考えノート等に整理しておくこと。（１時間）復習として、探究的な学習における指導上留意したいことを考え、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
13	総合的な学習の時間の評価（グループワーク：テーマ設定型探究活動）	予習として、各教科における評価上の留意点を整理しノート等に整理しておくこと。（１時間）復習として、総合的な学習の時間における評価方法を振り返り、授業リフレクションに記述すること 。（１時間）	
14	総合的な学習の時間の指導体制と時間の弾力的運用（グループワーク：テーマ設定型探究活動）	予習として、各教科等における学習形態と指導体制等の工夫を調べノート等に整理しておくこと。（１時間）復習として、時間の弾力的運用の工夫を考え、授業リフレクションに記述すること。（１時間）	
15	総合的な学習の時間の環境整備と地域との連携・協働（グループワーク：テーマ設定型探究活動）	予習として、学校と地域との連携・協働の在り方について調べ、ノート等に整理しておくこと。（１時間）復習として、これからの学習活動の在り方を考え、授業リフレクションに記述すること 。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　TISE23
授業形態：　演習
科目名：　造形表現Ⅰ【発Ａ】
担当教員：　辻野　栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】
造形表現は、「もの」との関わりによって感性・表現力・創造力を豊かにします。そして、集団の場での造形表現体験を通して、思考力やコミュニケーション力を育み、造形表現の基礎的知識や技能を修得することで、情操豊かな人として子育て支援社会に貢献します。
また、保育士資格取得、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等は、Google Classroomを通じて行います。クラスコードは、fnp73nkです。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．造形表現に関する基礎的な知識や各種の技法を身に付けることができる。
２．造形素材を用いることによって、造形表現の幅を広げることができる。
３．ものの色や形、感触やイメージ等に親しむことによって思考力を育むことができる。
４．子どもの遊びや経験を造形表現に結びつけることができる。

【成績の評価】
課題作品の提出状況と提出内容（８０％）、授業態度・意欲・準備物（２０％）
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明します。

【使用テキスト】
授業時にプリントを配布します。

【参考文献】
『幼児の造形表現』（渡辺一洋著、ななみ書房、2015年）
『保育をひらく造形表現』（槇英子著、萌文書林、2008年）
『幼稚園教育要領』（平成30年　文部科学省）
『保育所保育指針』（平成30年　厚生労働省）
『幼保連携認定こども園教育・保育要領』（平成30年　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	授業の内容と進め方の説明、　絵の具等の材料・用具についての説明 ※Google classroomへの参加	予習として、本授業のシラバス内容について確認しておくこと。（30分） 復習として、モダンテクニックと呼ばれる技法はどのようなものがあるか調べておくこと。（30分）	
2	抽象表現　クレヨンを使った平面構成	予習として、抽象・具象とは何かをインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、抽象と具象の違いについて説明できるようにしておくこと。（30分）	
3	技法のいろいろ①「デカルコマニー」「マーブリング」「ブロウイング」	予習として、モダンテクニックの「デカルコマニー」「マーブリング」「ブロウイング」とはどういうものかをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や特徴について記述しておくこと。（30分）	
4	技法のいろいろ②「スパッタリング」「フロッタージュ」「スクラッチ」	予習として、モダンテクニックの「スパッタリング」「フロッタージュ」「スクラッチ」とはどういうものかをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や特徴について記述しておくこと。（30分）	
5	技法のいろいろ③「コラージュ」仕上げ作業	予習として、モダンテクニックの「コラージュ」とはどういうものかをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や特徴について記述しておくこと。（30分）	
6	染紙　和紙・インクを使った染紙	予習として、染紙についてインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や特徴について記述しておくこと。（30分）	
7	ドリームキャッチャー①　土台製作	予習として、ドリームキャッチャーとは何かをインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、ドリームキャッチャーの土台の修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分）	
8	ドリームキャッチャー②　たこ糸の編み込み作業	予習として、ドリームキャッチャーの意図の編み込み方をインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、糸の編み込みで修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分）	
9	ドリームキャッチャー③　仕上げ装飾	予習として、どのような装飾仕上げにするか考えて材料を用意すること。（30分） 復習として、ドリームキャッチャーの作業工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分）（30分）	
10	紙粘土工作①テーマ「食品」紙粘土を使った成型	予習として、紙粘土で作るテーマ「食品」の何を作るかを決めて、その資料を用意すること。（30分） 復習として、紙粘土で成形した作品の修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分）	
11	紙版画①　下絵製作	予習として、紙版画のモチーフを何にするか	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		を考え資料を用意しておくこと。また、1枚の画面としてどのような構成にするかアイデア展開しておくこと。（1時間） 復習内容：なし	
12	紙版画②　版の製作	予習として、版となるモチーフのデザインを再度確認し、バック画面とのバランスを考えておくこと。（1時間） 復習内容：なし	
13	紙版画③　刷り・仕上げ作業	予習として、メインとなる版の部分とバックの画面構成を再度確認し修正しておくこと。（30分） 復習として、紙版画の製作工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分）	
14	紙粘土工作②　彩色	予習として、紙粘土の着彩計画を立て、アクリル絵の具を準備しておくこと。（30分） 復習として、塗り残しがないか、テカリが必要な部分がないかを確認し、修正しておくこと。（30分）	
15	紙粘土工作③　仕上げ	予習として、見本画像と見比べて彩色仕上げのより細かな個所を確認し修正すること。アクリル絵の具を準備しておくこと。（30分） 復習として、紙粘土工作の作業工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　TISE23
授業形態：　演習
科目名：　造形表現Ⅰ【発Ｂ】
担当教員：　辻野　栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】
造形表現は、「もの」との関わりによって感性・表現力・創造力を豊かにします。そして、集団の場での造形表現体験を通して、思考力やコミュニケーション力を育み、造形表現の基礎的知識や技能を修得することで、情操豊かな人として子育て支援社会に貢献します。
また、保育士資格取得、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等は、Google Classroomを通じて行います。クラスコードは、fnp73nkです。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．造形表現に関する基礎的な知識や各種の技法を身に付けることができる。
２．造形素材を用いることによって、造形表現の幅を広げることができる。
３．ものの色や形、感触やイメージ等に親しむことによって思考力を育むことができる。
４．子どもの遊びや経験を造形表現に結びつけることができる。

【成績の評価】
課題作品の提出状況と提出内容（８０％）、授業態度・意欲・準備物（２０％）
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明します。

【使用テキスト】
授業時にプリントを配布します。

【参考文献】
『幼児の造形表現』（渡辺一洋著、ななみ書房、2015年）
『保育をひらく造形表現』（槇英子著、萌文書林、2008年）
『幼稚園教育要領』（平成30年　文部科学省）
『保育所保育指針』（平成30年　厚生労働省）
『幼保連携認定こども園教育・保育要領』（平成30年　内閣府、文部科学省、厚生労働省

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	授業の内容と進め方の説明、　絵の具等の材料・用具についての説明 ※Google classroomへの参加	予習として、本授業のシラバス内容について確認しておくこと。（30分） 復習として、モダンテクニックと呼ばれる技法はどのようなものがあるか調べておくこと。（30分）	
2	抽象表現　クレヨンを使った平面構成	予習として、抽象・具象とは何かをインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、抽象と具象の違いについて説明できるようにしておくこと。（30分）	
3	技法のいろいろ①「デカルコマニー」「マーブリング」「ブロウイング」	予習として、モダンテクニックの「デカルコマニー」「マーブリング」「ブロウイング」とはどういうものかをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や特徴について記述しておくこと。（30分）	
4	技法のいろいろ②「スパッタリング」「フロッタージュ」「スクラッチ」	予習として、モダンテクニックの「スパッタリング」「フロッタージュ」「スクラッチ」とはどういうものかをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や特徴について記述しておくこと。（30分）	
5	技法のいろいろ③「コラージュ」仕上げ作業	予習として、モダンテクニックの「コラージュ」とはどういうものかをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、その技法や特徴について記述しておくこと。（30分）	
6	染紙　和紙・インクを使った染紙	予習として、染紙についてインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、その技法や特徴について記述しておくこと。（30分）	
7	ドリームキャッチャー①　土台製作	予習として、ドリームキャッチャーとは何かをインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、ドリームキャッチャーの土台の修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分）	
8	ドリームキャッチャー②　たこ糸の編み込み作業	予習として、ドリームキャッチャーの意図の編み込み方をインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、糸の編み込みで修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分）	
9	ドリームキャッチャー③　仕上げ装飾	予習として、どのような装飾仕上げにするか考えて材料を用意すること。（30分） 復習として、ドリームキャッチャーの作業工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分）（30分）	
10	紙粘土工作①テーマ「食品」紙粘土を使った成型	予習として、紙粘土で作るテーマ「食品」の何を作るかを決めて、その資料を用意すること。（30分） 復習として、紙粘土で成形した作品の修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分）	
11	紙版画①　下絵製作	予習として、紙版画のモチーフを何にするか	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		を考え資料を用意しておくこと。また、1枚の画面としてどのような構成にするかアイデア展開しておくこと。（1時間） 復習内容：なし	
12	紙版画②　版の製作	予習として、版となるモチーフのデザインを再度確認し、バック画面とのバランスを考えておくこと。（1時間） 復習内容：なし	
13	紙版画③　刷り・仕上げ作業	予習として、メインとなる版の部分とバックの画面構成を再度確認し修正しておくこと。（30分） 復習として、紙版画の製作工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分）	
14	紙粘土工作②　彩色	予習として、紙粘土の着彩計画を立て、アクリル絵の具を準備しておくこと。（30分） 復習として、塗り残しがないか、テカリが必要な部分がないかを確認し、修正しておくこと。（30分）	
15	紙粘土工作③　仕上げ	予習として、見本画像と見比べて彩色仕上げのより細かな個所を確認し修正すること。アクリル絵の具を準備しておくこと。（30分） 復習として、紙粘土工作の作業工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　TISE24
授業形態：　演習
科目名：　造形表現Ⅱ【発Ａ】
担当教員：　津田　浩二(TSUDA　Koji)

【授業の紹介】
　本授業では、造形表現に関する基本的な描法や造形と材料や各種の道具の使い方などによって、創造活動の大切さを味わい、子どもの造形力を育てるための基礎的な知識と技能を修得します。また、子どもの成長や発達段階に応じた教材や用具、場所などを提供できる力を身につけ、子どもならではの表現を理解し支援する力を養います。
　本授業科目は、発達科学部子ども発達学科の選択科目であり、また幼稚園教諭一種免許状取得するための必修科目です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
1.さまざまな素材、用具、教材等の特性を理解し活用することができる。
2.造形表現の基礎的な知識と技能を身につけ、発展させる造形力を身につけることができる。
3.子どもたちの成長や実態に応じて、題材設定やねらいを明確にもちながら場や材料を提供するなど、創造活動の動機付けを図ることができる。

【成績の評価】
課題作品の提出状況と提出内容(８０％)、授業態度・意欲・準備物(２０％)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
『保育所保育指針』(平成29年3月告示　厚生労働省)
『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示　文部科学省)
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示　内閣府　文部科学省　厚生労働省)

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	造形表現について、ペーパーカッティングの基本的な制作について	予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
2	ペーパーカッティング(1)試作、スケッチ	予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
3	ペーパーカッティング(2)レイアウト、配色	予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
4	ペーパーカッティング(3)配色、仕上げ	予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
5	『生活』を描く(1)レイアウト、スケッチ	予習として、『保育の場面』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
6	『生活』を描く(2)スケッチ、着色	予習として、『保育の場面』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
7	『生活』を描く(3)着色、仕上げ	予習として、『保育の場面』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
8	紙による立体表現(1)アイディアスケッチ、レイアウト	予習として、『紙による立体表現』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
9	紙による立体表現(2)下絵、カッティング	予習として、『紙による立体表現』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
10	紙による立体表現(3)カッティング、仕上げ	予習として、『紙による立体表現』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
11	壁面の装飾(1)アイディアスケッチ	予習として、『壁面の構成』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
12	壁面の装飾(2)レイアウト、配色	予習として、『壁面の構成』についての資料収集をしておくこと(30分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
13	壁面の装飾(3)配色	予習として、『壁面の構成』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
14	壁面の装飾(4)配色、仕上げ	予習として、『壁面の構成』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
15	講評、これまでの制作についてのまとめ	予習として、これまで収集した課題の資料を整理して、今後の造形表現活動や教育現場などの参考資料とする(30分) 復習として、これまでの課題作品についての反省点をまとめておくこと(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　TISE24
授業形態：　演習
科目名：　造形表現Ⅱ【発Ｂ】
担当教員：　津田　浩二(TSUDA　Koji)

【授業の紹介】
　本授業科目では、造形表現に関する基本的な描法や造形と材料や各種の道具の使い方などによって、創造活動の大切さを味わい、子どもの造形力を育てるための基礎的な知識と技能を修得します。また、子どもの成長や発達段階に応じた教材や用具、場所などを提供できる力を身につけ、子どもならではの表現を理解し支援する力を養います。
　本授業科目は、発達科学部子ども発達学科の選択科目であり、また幼稚園教諭一種免許状取得するための必修科目です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
1.さまざまな素材、用具、教材等の特性を理解し活用することができる。
2.造形表現の基礎的な知識と技能を身につけ、発展させる造形力を身につけることができる。
3.子どもたちの成長や実態に応じて、題材設定やねらいを明確にもちながら場や材料を提供するなど、創造活動の動機付けを図ることができる。

【成績の評価】
課題作品の提出状況と提出内容（８０%)、授業態度・意欲・準備物(２０%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
『保育所保育指針』(平成29年3月告示　厚生労働省)
『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示　文部科学省)
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示　内閣府　文部科学省　厚生労働省)

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	造形表現について、ペーパーカッティングの基本的な制作について	予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
2	ペーパーカッティング(1)試作、スケッチ	予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
3	ペーパーカッティング(2)レイアウト、配色	予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
4	ペーパーカッティング(3)配色、仕上げ	予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
5	『生活』を描く(1)レイアウト、スケッチ	予習として、『保育の場面』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
6	『生活』を描く(2)スケッチ、着色	予習として、『保育の場面』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
7	『生活』を描く(3)着色、仕上げ	予習として、『保育の場面』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
8	紙による立体表現(1)アイディアスケッチ、レイアウト	予習として、『紙による立体表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
9	紙による立体表現(2)下絵、カッティング	予習として、『紙による立体表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
10	紙による立体表現(3)カッティング、仕上げ	予習として、『紙による立体表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
11	壁面の装飾(1)アイディアスケッチ	予習として、『壁面の構成』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
12	壁面の装飾(2)レイアウト、配色	予習として、『壁面の構成』について資料収集をしておくこと(30分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
13	壁面の装飾(3)配色	予習として、『壁面の構成』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
14	壁面の装飾(4)配色、仕上げ	予習として、『壁面の構成』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分)	
15	講評、これまでの制作についてのまとめ	予習として、これまで収集した課題の資料を整理して、今後の造形表現活動や教育現場などの参考資料とする(30分) 復習として、これまでの課題についての反省点をまとめておくこと(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　TISE2
授業形態：　演習
科目名：　子どもと言葉
担当教員：　中塚　勝俊(NAKATSUKA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
言葉の獲得は乳幼児期の発達課題として重要なものである。子どもの言葉の育ちを支えるための必要な言語環境の重要性について学び、教育・保育の実践と関連づけて理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．乳幼児の言葉の獲得過程を理解し、言語発達に沿った保育・教育の在り方を模索することができる。
２．言葉に関して理論的背景に裏打ちされた保育指導場面を構想することができる。

【成績の評価】
レポート（１０％）、定期試験（８０％）、授業への参加度（１０％）
課題（試験やレポートなど）に対して、研究室で個人的にフィードバックする。

【使用テキスト】
徳安　敦、堀　科編『生活事例からはじめるー保育内容－言葉』（青鞜社　2016　1900円）

【参考文献】
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成２９年３月告示　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	保育内容としての言葉の独自性と5領域	保育内容が5領域に制定された歴史的経緯について調べ、なぜ5領域に変遷したのか自分の考えをノートに整理しておくこと。（2時間） 保育内容の領域の中で言葉の独日性に関して自分の考えをノートに整理しておくこと。（2時間）	
2	保育内容としての言葉のねらい（保育指針に照らして）	保育指針を読み、ねらいについてノートに整理しておくこと。（2時間）保育内容の言葉のねらいの方向性（3項目）を考えノートに記述し提出すること。（2時間）	
3	言語獲得以前の母子のコミュニケーション①エントレイメント	言語獲得以前の母子コミュニケーションを授乳場面に限定して調べ、ノートに整理しておくこと。（2時間）エントトレインメント、バンギング、呼気についてまとめノートに記述しておくこと。（2時間）	
4	言語獲得以前の母子のコミュニケーション②マザーリース	授乳場面における母子のコミュニケーションの特徴について教科書を読みノートに記述しておくこと。（2時間）授業で説明されるマザーリースを想起し自分で演じてみた感想をノートに記述しておくこと。（2時間）	
5	言葉の先駆的行動（共同注意、ポインテング、三項関係）	共同注意、共同注視、三項関係を事前に読んで確認しそれぞれの特徴についてまとめておくこと。（2時間）三項関係が言葉の成立に果たす役割をノートに記述しておくこと。（2時間）	
6	言葉と環境①人的環境	親子関係、同年齢集団の中で育つ言葉の特徴について整理しノートに記述しておくこと。（2時間）言葉の社会化についてまとめておくこと。（2時間）	
7	言葉と環境②子どもの生活と言葉	保育所実習で経験した子ども達の言葉の特徴について想起しまとめておくこと。（2時間） 授業中に強調された四つの育つための力についてまとめノートに記述しておくこと。（2時間）	
8	言葉と環境③言葉と発達的連関	歩行開始期における言語、トイレ訓練、離乳の特徴について時系列的に整理したものを文章化すること。（2時間）授業中に例示する領域が別の領域の発達に影響する事例を考え文章化して提出すること。（2時間）	
9	言葉と幼児理解	自分が今まで体験してきた保育実習や観察・参加における子ども理解の方法について整理し文章化して提出すること。（2時間）	
10	言葉と思考①ヴィゴツキーの理論	ヴィゴツキーの理論について調べ「思考は言葉によって行われる」について自分の考えをノートにまとめておくこと。（2時間）内言語、外言語の関係、それらと発達的意義についてノートにまとめておくこと。（2時間）	
11	言葉と思考②言語調整機能	日常場面において言葉によって集中が高まる事例を想起し、文章としてノートにまとめておくこと。（2時間）ルリアの理論の代表的実験例についてまとめノートに記述しておくこと。（2時間）	
12	保育者の役割と援助	保育内容としての「言葉」の領域において保育者の役割を自分なりに考えノートに列挙し	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ておくこと。（2時間）言葉数の少ない子どもに対してどのような援助が考えられるか授業中に提案された内容を参考にしてまとめノートに記述しておくこと。（2時間）	
13	障がい児とのかかわり①学習困難	学習困難についてしかるべき方法で調べ、その概要をノートにまとめておくこと。（2時間） 書字困難児に自分ができる援助についてノートにまとめておくこと。（2時間）	
14	障がい児とのかかわり②自閉症	自閉症について文献などで調べ、その特徴についてノートに文章化しておくこと。（2時間） 授業中に提案されるかかわり方をヒントにして自分で可能と思われる対応を文章にまとめること。（2時間）	
15	障がい児とのかかわり③ADHD	ADHDの症状の特徴を事前に調べ、主なものについてまとめノートに記述しておくこと。（2時間） ADHD児への教育的配慮を授業中に提供される内容をヒントにまとめること。（2時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TOKU1
授業形態： 講義
科目名： 社会的養護Ⅰ
担当教員： 久利　文代(KURI Fumiyo)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。社会福祉の現場での児童福祉司、精神保健福祉士の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

近年、多様かつ複雑な家庭環境の増加及び社会全体における家庭の子育ての潜在力が小さくなり、社会的養護を必要とする子どもが増加しています。この授業では、社会福祉に関する基礎知識を学習すると同時に社会的養護を必要とする子どもが増加している現状と課題及び施設養護について学び、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基礎について理解します。

本授業科目は保育士資格取得のための必修科目でもあります。

児童福祉施設の援助者としての基礎知識、技術、倫理観、特に「思考力・判断力」や「保育実践力」の専門的知識の習得をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】

1.現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
2.子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
3.社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
4.社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
5.虐待を受けた子どもの言動の特徴を学び、援助の方法や関係機関との連携の在り方を理解し、保育士として多角的に考えることができるようになる。
6.社会的養護の現状と課題について理解する。

【成績の評価】

レポート３０％（期間中１回実施し、定期試験時に添削して返却します）、
定期試験７０％（模範解答はクラスルームで表示します）によって評価します。

【使用テキスト】

児童の福祉を支える社会的養護＜第３版＞（吉田眞里編著、萌文書林、2160円　2020年）

【参考文献】

なし

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。社会福祉の現場での児童福祉司、精神保健福祉士の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
2	社会的養護の歴史的変遷	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
3	児童の権利擁護と社会的養護	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
4	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
5	施設養護における養育	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
6	児童相談所の役割と連携	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
7	家庭からの保護	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
8	虐待された子どもの理解と対応Ⅰ（児童虐待について）	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
9	虐待された子どもの理解と対応Ⅱ（虐待された子どもの理解と対応）	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
10	社会的養護の制度と実施体系	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
11	児童福祉施設援助者の資質	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
12	施設養護の現状（乳児院、児童養護施設、障害児入所施設）	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
13	施設養護の現状（児童心理治療施設、児童自立支援施設、自立援助ホーム等）	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
14	家庭養護の実際	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
15	社会的養護の現状と課題	次回の授業内容を確認し、専門用語等の2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TOKU2
授業形態： 演習
科目名： 社会的養護II
担当教員： 瀧本　逸誠(TAKIMOTO　Issei)

【授業の紹介】

現代では、子どもの健全な生存・成長を担うには、家庭だけでは十分にその機能が果たせないために、多くの子どもに社会的養護が必要になってきています。施設養護や家庭養護において、どのような支援がおこなわれているかを学び、子どもの虐待防止や家庭支援、相談援助等に必要な方法・技術の習得を目指します。さらに、支援計画・記録・評価の実際について、事例検討を通して理解します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	④　思考力・判断力・表現力	
		⑤　多様な人材との協力・協働	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】

１．子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。
２．施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。
３．社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できる。
４．社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。
５．社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。

【成績の評価】

期末テスト（５０％）、ショートレポート（５０％）
ショートレポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ったレジュメやスライド資料を用意する。

【参考文献】

『保育士を目指す人の社会的養護内容』(辰巳隆・岡本眞幸編株、みらい 2011年)
『社会的養護内容』(福永博文編著、北大路書房、 2013年)
『社会的養護Ⅱ』(吉田眞理編著、萌文書林 2023年)
『子どもの発達・アセスメントと養育・支援プラン』(犬塚峰子編、明石書店 2013年)
『社会的養護Ⅱ』(相沢仁・村井美紀・大竹智編、中央法規、 2019年)
『社会的養護Ⅱ』(杉山宗尚・原田田旬編著、萌文書林、2021年)

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験(障害児者支援施設、児童自立支援施設、児童相談所、発達障碍者支援センター、心身障害児就学指導委員など)のある教員による授業科目です。相談や施設経験を活かし、具体例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション （児童福祉施設の体系と概要）	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
2	子どもの最善の利益と権利擁護	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
3	社会的養護における保育士の専門性	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
4	家庭で生活できない子ども① ～入所施設各論「乳児院」～	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
5	家庭で生活できない子ども② ～入所施設各論「児童養護施設」～	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
6	家庭で生活できない子ども③ ～入所施設各論「障害児入所施設」～	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
7	家庭で生活できない子ども④ ～児童自立支援施設 ・児童心理治療施設～	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
8	里親制度の特徴とその実際	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
9	虐待された子どもへの支援	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
10	養護の具体的内容・方法① ～入所中の支援「親子関係の調整」～	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
11	養護の具体的内容・方法② ～入所中の支援 「地域・学校との関係づくり」～	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
12	養護の具体的内容・方法③ ～入所中の支援 「自立への支援」～	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
13	入所後から退所後に至る支援	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
14	社会的養護にかかわる 相談援助の技術と活用	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
15	社会的養護の課題と展望～地域連携	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(30分) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(30分)。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TOKU3
授業形態： 講義
科目名： 特別支援教育総論
担当教員： 山口　明乙香(YAMAGUCHI　Asuka)

【授業の紹介】

特別支援教育の理念と教育制度の変遷及びその実際について理解し、特別支援教育の対象となる幼児、児童及び生徒の特性や配慮の視点、求められる環境構成について学校及び学級経営の基礎的な知識を獲得する。また、幼児、児童及び生徒が主体的に学習活動に参加し、達成感とともに生きる力を高めることを目指し、個別の教育的ニーズに応じた工夫の仕方、他の教員や関係機関と効果的に連携して組織的対応をするための方法を理解する。本授業によって、インクルーシブ教育システム構築に求められている教育者としての基礎的な力の形成を目指します。本授業では，ICTを活用して，グループワークの結果をプレゼンテーションし，ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑤　多様な人材との協力・協働	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１【特別支援教育の理念と特別支援学校に関する制度との相互の関係を理解する。】
（１）特別支援教育制度の成立と障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念を踏まえた特別支援教育への展開を理解している。
（２）特別支援教育制度における特別支援学校が有する機能・役割を理解している。
２【障害のある幼児、児童又は生徒の教育に関する歴史、特殊教育の果たしてきた役割や障害者施策を巡る動向の変化を踏まえつつ、現代に至るまでの特別支援教育の基本的な考え方及び特別支援学校の変遷を理解する。】
（１）障害のある幼児、児童又は生徒の教育に関する歴史、特殊教育の果たしてきた役割や障害者施策を巡る動向の変化を踏まえつつ、特別支援教育制度の成立と展開を理解している。
（２）現代社会における特別支援学校における教育課題を歴史や障害者施策の視点から理解している。
（３）特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画、個別の移行支援計画の位置づけを理解し、作成する計画の活用方法を理解することができる。
（４）特別支援教育コーディネーターや補助員、関係機関や家庭等と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解し、求められる多機関・多職種連携の課題と特徴を例示することができる。
３【特別支援教育の思想と特別支援教育の理念や実際の特別支援学校の教育との関わりを理解する。】
（１）障害のある幼児、児童又は生徒に関わる教育の思想を理解している。
（２）特別支援学校や学習に関わる教育の思想を理解している。
４【社会の状況を理解し、その変化が特別支援学校の教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。】
（１）特別支援学校を巡る近年の様々な状況の変化及び子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。
（２）近年の特別支援教育政策の動向を理解している。
５特別支援学校の公教育制度を構成している教育関係法規を理解するとともに、そこに関連する特別支援学校教育要領・学習指導要領が有する役割・機能・意義を理解する。
（１）特別支援学校の目的及び教育目標と国が定めた教育課程の基準との相互関係を理解している。
（２）特別支援学校教育要領・学習指導要領の性格及びそこに規定する自立活動や知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科、重複障害者等に関する教育課程の取扱いの基礎的な考え方を理解している。
６【特別支援学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。】
（１）特別支援学校の目的や教育目標を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。
（２）幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた学級経営の基本的な考え方を理解している。
（３）教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解している。

【成績の評価】
試験成績(６０％)、レポート及び小テスト(３０％)、授業中の質問や意見等の活動状況(１０％)、レポートや小テストについては毎回の授業毎に教員の講評を行うことによってフィードバックします。定期試験結果のフィードバックは教務係を通して行います。具体的な方法については講義中に案内します。

【使用テキスト】
新・教職課程演習　第６巻　特別支援教育,米田宏樹，川合紀宗著,協同出版

【参考文献】
適宜，授業で紹介する。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	特別支援教育の理念と歴史、その思想に基づく仕組みの理解と幼稚園等・小学校・中学校・高等学校(中等教育学校)・特別支援学校における特別支援教育の社会的、制度的又は学級等の経営的事項に関する理解	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時間)。	
2	知的障害・肢体不自由のある幼児児童生徒に対する教育の理念及び歴史、支援の実際における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時間)。	
3	視覚障害・聴覚障害・言語障害のある幼児児童生徒に対する教育の理念及び歴史、支援の実際における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時間)。	
4	自閉症スペクトラム障害のある幼児児童生徒に対する教育の理念及び歴史、支援の実際における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時間)。	
5	ＡＤＨＤ・ＬＤ等の障害のある幼児児童生徒に対する教育の理念及び歴史、支援の実際における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時間)。	
6	病弱・情緒障害・その他の障害障害のある幼児児童生徒に対する教育教育の理念及び歴史、支援の実際における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時間)。	
7	特別支援教育コーディネーターと校内支援体制の構築に関する歴史・理念及び思想の理解と実践における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時間)。	
8	自立活動に関する歴史・理念及び思想の理解と実践における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		間）。	
9	通級による指導に関する歴史・理念及び思想の理解と実践における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時間）。	
10	個別の指導計画・個別の教育支援計画と個別の移行支援計画に関する歴史・理念及び思想の理解と実践における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(1時間）。	
11	特別なニーズのある子への対応に関する関する歴史・理念及び思想の理解と実践における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時間）。	
12	保護者支援と家庭との連携に関する歴史・理念及び思想の理解と実践における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時間）。	
13	特別支援教育における関係機関との効果的な多職種連携に関する歴史・理念及び思想の理解と実践における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時間）。	
14	特別支援教育における学級運営と障害理解教育に関する歴史・理念及び思想の理解と実践における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時間）。	
15	特別支援教育におけるICT活用とインクルーシブ教育に関する歴史・理念及び思想の理解と実践における社会的・制度的・経営的課題と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(1.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(2.5時間）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TOKU4
授業形態： 演習
科目名： 特別支援教育演習
担当教員： 山口　明乙香(YAMAGUCHI　Asuka)

【授業の紹介】
　特別支援教育演習は、特別支援教育を必要とする幼児・児童・生徒の特徴やその支援の概要について総括的に学び、特別支援学校の授業形態や指導方法の実際を学ぶとともに、特別支援教育の指導形態に応じた学習指導の工夫について演習を通じて学びます。特別支援教育を必要としている教育現場において求められる知識及び実践力の基礎を培います。
　本授業では、ICTを活用して、フィールドワーク、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
　特別支援教育の実践者として求められる基礎的知識の基盤形成し，実践的技能の基礎獲得することを目指します。そのために，以下の到達目標を設定します。
１．多様な障害のある子どもの基礎知識について説明できる
２．特別支援学校教育の実際に触れ，個々の教育的ニーズに応じた指導について説明できる
３．児童生徒の個々のニーズに応じた基本的な対応及び配慮事項を提案できる

【成績の評価】
　受講態度（30%），課題の提出状況（70%）などを総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】
新・教職課程演習　特別支援教育，川合紀宗他著，協同出版，2021.
その他必要に応じて，資料を配布します。

【参考文献】
必要に応じて，講義内で紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
2	特別支援教育とＩＣＦ	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
3	特別支援教育の現状と動向	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
4	知的障害児の教育の概要と特性と教育支援	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
5	肢体不自由児の教育の概要と特性と教育支援	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
6	視覚障害児の教育の概要と特性と教育支援	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
7	聴覚障害児の教育の概要と特性と教育支援	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
8	重度・重複障害児の教育の特性と教育支援	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		間）。	
9	発達障害児の教育の概要と特性と教育支援(１：ASD)	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
10	発達障害児の教育の概要と特性と教育支援(２：ADHD)	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
11	発達障害児の教育の概要と特性と教育支援（３：SLD)	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
12	その他の障害児の教育の概要と特性と教育支援	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
13	特別支援教育と自立の支援と工夫	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
14	特別支援教育と合理的配慮と環境調整	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
15	重要ポイントの確認と整理	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TOKU5
授業形態： 講義
科目名： 知的障害児の心理
担当教員： 中塚　勝俊(NAKATSUKA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
知的障害のある子どもへの適切な教育的支援を実践するためには、子ども理解はもちろん保護者や子育てにかかわる人々と十分なコミュニケーションをとることができることが必要です。そのための基礎的知識を習得しその知識を基盤として教育・保育の実践を行う上で、多様な専門性を持った人材と協力・協働できることをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・保育所や幼稚園、特別支援学校などにおける知的障害のある子どもの心理学的知識を理解することができる。
・その子にあった教育的支援・援助を実践するための方策を具体的に計画することができる。

【成績の評価】
・成績の評価は、授業への参加度（15%）、ショート・レポート（15%）、定期試験（70%）の結果をもとに総合的に行います。
・ショート・レポートは授業時にコメントを付けて返却します。期末試験に関しては、個人的に研修室でフィードバックします。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
新保育士養成講座編纂委員会（編）『子どもの保健』（全国社会福祉協議会、2012年）
湯浅恭正（編）『よくわかる　特別支援教育』（ミネルヴァ書房、2008年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（障がいと問題行動）	知的障がい、発達障がいについて事前に調べそれぞれの特徴についての概要をノートにまとめておくこと。（2時間）授業中に示される資料を基に知的障がい、発達障がいの特性についてまとめノートに整理しておくこと。（2時間）	
2	知的障がいの定義（知能とI.Q.）	知能指数,E.Q.の基本的考え方の違いについて文献などに目を通し概要をノートにまとめること。（2時間）知的障がい、発達障がいが認められるとされている著名な文化人をリストアップし、彼らに共通する能力についてノートにまとめておくこと。（2時間）	
3	知的障がいの分類（ボーダー児の問題）	知的障がいのボーダーについての定義をまとめておくこと。（2時間）ボーダー児特有の困り感、福祉の問題をノートにまとめ提出すること。（2時間）	
4	知的障がい児のアセスメント	田中B式、WISCの知能検査を事前に調べその特徴をノートにまとめておくこと。（2時間） WISCの検査項目の言語性、動作性の知能の意味するものをまとめノートに整理すること。（2時間）	
5	言語のアセスメント（言語と思考）	知的障がい児の言語性知能の特徴についてまとめノートにまとめておくこと。（2時間） 知的障がい児の言語性知能の項目分析を行い、ノートにまとめておくこと。（2時間）	
6	社会生活のアセスメント（社会性の意味）	知的障がい児の社会生活における困り感の具体的場面をノートにまとめておくこと。（2時間） 知的障がい児の困り感と合理的配慮について考えるところをノートにまとめておくこと。（2時間）	
7	学習支援	知的障がい児の学習支援の方法について調べノートにまとめておくこと。（2時間）授業中に提供される個別指導計画を参考にして自分の「計画」を試案しノートに文章化しておくこと。（2時間）	
8	言語獲得と社会的相互作用	言語障害の種類を調べ、それぞれの特徴についてまとめておくこと。（2時間）言語障害の支援・援助についてまとめノートに整理しておくこと。（2時間）	
9	言語調整機能	理解言語、表出言語の発達的特徴について調べ、ノートに記載しておくこと。（2時間） 理解言語、表出言語を伴う重複障がいについて整理しノートに記載しておくこと。（2時間）	
10	記憶の特徴	記憶の種類を事前に調べノートに整理しておくこと。（2時間）ワーキングメモリが知的障がい児において有効に作動するための方法についてまとめノートに記述しておくこと。（2時間）	
11	動機づけ	動機づけ理論目をを通し述べてある専門用語について調べ、ノートに整理しておくこと。（2時間）授業中に述べる外発的動機づけ、内発的動機づけの効用と限界についてまとめておくこと。（2時間）	
12	自閉症（高機能自閉症）	自閉症の行動特性を文献などで調べまとめて	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		おくこと。（2時間）高機能自閉症の特性と社会的資源の関係についてまとめて文章化したものを提出すること。（2時間）	
13	ダウン症	ダウン症について文献などで調べ、その特徴についてノートに整理しておくこと。（2時間） 授業中に提起されるかかわり方をヒントに自分で可能と思われる対応を文章にまとめること。（2時間）	
14	学習障害（LD）	学習障害についてしかるべき方法で調べ、その概要についてノートに記載しておくこと。（2時間）書字困難	
15	注意欠陥多動性障がい	ADHDの症状の特徴について調べ、その主なものについてまとめ文章化しておくこと。（2時間） ADHDへの教育的配慮を授業中の内容をヒントにまとめること。（2時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TOKU6
授業形態： 講義
科目名： 知的障害児の生理・病理
担当教員： 宮崎　雅仁(MIYAZAKI　Masahito)

【授業の紹介】
　特別支援教育は身体や知的に障害を持つ子どもたちへの特別な教育支援プログラムである。その中で最近は単純な知的レベルに問題のある知的障害群に加えて知的障害の有・無に拘わらず行動や情緒に障害のある発達障害の子どもたちに対する社会的認知度の高まりにより、それを専門とする教員への期待度・必要性が増している。それに伴い、その教育に関与する教職員は子どもたちが持つ障害特性やその背後に存在する病態生理を十分に理解し、科学的根拠に基づき仁愛の念を持って対応する事が必要不可欠となる。本講義では特別支援教育に必要な定型的な子どもの成長・発達の知識から各障害の具体的な診断、治療、対処法までの内容を出来るだけわかり易く授業を実施する。その結果、知的障害や発達障害を持つ子どもたちの生理・病理を体系的に理解し、教育・保育の実践と関連付けて理解出来る能力を修得し、卒業認定・学位授与へと導く方針である。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
1. 子どもの定型発達を正しく理解出来る。
2. 特別支援教育を必要とする子どもたちの障害特性を充分理解出来る。
3. その知識を生かして子どもたちの持つ表面的な症状だけでなく、その背後に潜む病態生理を理解して科学的・医学的根拠に基づいた適切な対応が出来る。

【成績の評価】
　毎回の講義の最後に実施する小テストの成績（15%）、中間習熟度チェック（5%）、定期試験（80%）の総合評価により判定する。
小テストの正答は当日解説する。その結果より学生自身が各授業の理解度を確認し、復習に役立てる。

【使用テキスト】
宮崎雅仁・編：脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために（医学書院、2012年）本体3500円（税別）

【参考文献】
なし

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目であり、教員自身が小児科医としての小児医療や児童発達支援施設での経験や学校・園医として教育・保育機関で得た知見を活かして具体的な事例も含めた授業を実施する。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	子どもの成長・発達	使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」の関連ページを事前に予習（2時間）する。	特になし
2	知的・発達障害概論（総論的内容）	第1回の授業最後に実施した小テストや授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」を用いた復習（2時間）や予習（2時間）を実施する。	特になし
3	発達障害各論（自閉症スペクトラム障害の病態生理）	第2回の授業最後に実施した小テストや授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」を用いた復習（2時間）や予習（2時間）を実施する。	特になし
4	発達障害各論（自閉症スペクトラム障害の診断・治療）	第3回の授業最後に実施した小テストや授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」を用いた復習（2時間）や予習（2時間）を実施する。	特になし
5	発達障害各論（注意欠陥/多動性障害の病態生理）	第4回の授業最後に実施した小テストや授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」を用いた復習（2時間）や予習（2時間）を実施する。	特になし
6	発達障害各論（注意欠陥/多動性障害の診断・治療）	第5回の授業最後に実施した小テストや授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」を用いた復習（2時間）や予習（2時間）を実施する。	特になし
7	発達障害各論（限局性学習障害の病態生理・診断・治療）	第6回の授業最後に実施した小テストや授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」を用いた復習（2時間）や予習（2時間）を実施する。	特になし
8	発達障害各論（発達性協調運動障害、トゥレット障害の病態生理・診断・治療）	第7回の授業最後に実施した小テストや授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」を用いた復習（2時間）や予習（2時間）を実施する。	特になし
9	知的障害各論（知的能力障害（脳性麻痺合併を含む）の病態生理・診断・治療）	第8回の授業最後に実施した小テストや授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」を用いた復習（2時間）や予習（2時間）を実施する。	特になし
10	知的障害各論（染色体異常の病態生理・診断・治療）	第9回の授業最後に実施した小テストや授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」を用いた復習（2時間）や予習（2時間）を実施する。	特になし
11	知的障害各論（てんかんの病態生理）	第10回の授業最後に実施した小テストや授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」を用いた復習（2時間）や予習（2時間）を実施する。	特になし
12	知的障害各論（てんかんの診断・治療）	第11回の授業最後に実施した小テストや授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携	特になし

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		わる人のために」を用いた復習（2時間）や予習（2時間）を実施する。	
13	知的障害各論（遺伝性疾患の病態生理・診断・治療）	第12回の授業最後に実施した小テストや授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」を用いた復習（2時間）や予習（2時間）を実施する。	特になし
14	知的障害各論（代謝性疾患の病態生理・診断・治療）	第13回の授業最後に実施した小テストや授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」を用いた復習（2時間）や予習（2時間）を実施する。	特になし
15	第15回　期末習熟度チェック（授業のまとめと質疑応答・意見交換）、定期試験	第1回～14回までの授業全般の使用テキスト「脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために」を用いた復習（4時間）を実施する。	特になし
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TOKU7
授業形態： 講義
科目名： 病弱児の心理・生理・病理
担当教員： 磯部　健一(ISOBE　Kenichi)

【授業の紹介】
　本授業は、病弱児の種々の病気とこれらの子どもの心理状態を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育の実践と関連づけて理解し子どもの支援を目指す授業です。特に、病弱児に対しては個々の疾患を理解することが重要です。医療的な対応や支援が必要とされるので、多様な専門家の仕事を理解し、協力・協働できることも目指します。医学・医療、心理の立場から多面的に映像的な実症例などの資料としてスライドを使用して講義を行います。また、病弱児の主要な疾患について6～8回のグループワークとプレゼンテーションを行うことにより、知識を幅広く理解し実践力を修得します。
　この授業では、Google Classroom(クラスコード：34y2ivg)を使用して参考資料などを配布することがあります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
1.　病弱児・虚弱児について理解し説明できる。
2. 多様化、重度化しつつある病弱児の主要な疾患について具体的に理解できる。
3. 病弱児への対応や支援に関する他職種との協力・協働について理解できる。

【成績の評価】
　学習態度（10%）、グループレポート（20%）、各自の提出レポート（70%）の結果により総合的に判断します。グループ発表時に各疾患についての解説を行います。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説します。

【使用テキスト】
使用しません。
授業者が作成した資料を講義テキストとします。

【参考文献】
宮本慎也、土橋圭子 編著『病弱・虚弱児の医療・療育・教育』（金芳堂、2015年）
及川郁子監 伊藤龍子、及川郁子編『小児慢性特定疾患療養育成指導マニュアル』（診断と治療社、2006年）
独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著 『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』（ジアース教育新社、2015年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	総論（病弱・虚弱児の定義、病弱児教育の歴史）	予習として、授業計画で指定する範囲を図書館等で調べ、ノート等にまとめておくこと。（２時間）復習として、毎回の講義資料から提示されるキーワード５個について調べ、次回の授業の前に提出する。（２時間）	
2	病弱児教育の意義（病弱児教育と対象疾患）	予習として、授業計画で指定する範囲を図書館等で調べ、ノート等にまとめておくこと。（２時間）復習として、毎回の講義資料から提示されるキーワード５個について調べ、次回の授業の前に提出する。（２時間）	
3	病弱児教育（病弱児教育の仕組）	予習として、授業計画で指定する範囲を図書館等で調べ、ノート等にまとめておくこと。（２時間）復習として、毎回の講義資料から提示されるキーワード５個について調べ、次回の授業の前に提出する。（２時間）	
4	グループ発表（神経疾患、循環器疾患）	授業時に病弱・虚弱児に関係する事柄や疾患等（前もって提示）について質問するので、図書館等で調べノートにまとめること。また、病弱・虚弱児の主要な疾患をグループ毎に割り当てるので、グループ発表とレポートの提出を義務付けます。（予習と復習は、各々2時間行うこと）	
5	グループ発表（心身症－１：摂食障害、起立性調節障害、夜尿症）	授業時に病弱・虚弱児に関係する事柄や疾患等（前もって提示）について質問するので、図書館等で調べノートにまとめること。また、病弱・虚弱児の主要な疾患をグループ毎に割り当てるので、グループ発表とレポートの提出を義務付けます。（予習と復習は、各々2時間行うこと）	
6	グループ発表（心身症－2 ：チック症群、過敏性腸症候群、過換気症候群）	授業時に病弱・虚弱児に関係する事柄や疾患等（前もって提示）について質問するので、図書館等で調べノートにまとめること。また、病弱・虚弱児の主要な疾患をグループ毎に割り当てるので、グループ発表とレポートの提出を義務付けます。（予習と復習は、各々2時間行うこと）	
7	グループ発表（精神疾患）	授業時に病弱・虚弱児に関係する事柄や疾患等（前もって提示）について質問するので、図書館等で調べノートにまとめること。また、病弱・虚弱児の主要な疾患をグループ毎に割り当てるので、グループ発表とレポートの提出を義務付けます。（予習と復習は、各々2時間行うこと）	
8	グループ発表（慢性疾患）	授業時に病弱・虚弱児に関係する事柄や疾患等（前もって提示）について質問するので、図書館等で調べノートにまとめること。また、病弱・虚弱児の主要な疾患をグループ毎に割り当てるので、グループ発表とレポートの提出を義務付けます。（予習と復習は、各々2時間行うこと）	
9	グループ発表（内分泌疾患）	授業時に病弱・虚弱児に関係する事柄や疾患等（前もって提示）について質問するので、図書館等で調べノートにまとめること。また、病弱・虚弱児の主要な疾患をグループ毎に割り当てるので、グループ発表とレポートの提出を義務付けます。（予習と復習は、各々2時間行うこと）	
10	グループ発表（血液疾患、膠原病）	授業時に病弱・虚弱児に関係する事柄や疾患等（前もって提示）について質問するので、	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		図書館等で調べノートにまとめること。また、病弱・虚弱児の主要な疾患をグループ毎に割り当てるので、グループ発表とレポートの提出を義務付けます。（予習と復習は、各々2時間行うこと）	
11	グループ発表（先天異常など）	授業時に病弱・虚弱児に関係する事柄や疾患等（前もって提示）について質問するので、図書館等で調べノートにまとめること。また、病弱・虚弱児の主要な疾患をグループ毎に割り当てるので、グループ発表とレポートの提出を義務付けます。（予習と復習は、各々2時間行うこと）	
12	小児の感染症、感染予防とスタンダードプレコーション	予習として、授業計画で指定する範囲を図書館等で調べ、ノート等にまとめておくこと。（２時間）復習として、毎回の講義資料から提示されるキーワード５個について調べ、次回の授業の前に提出する。（２時間）	
13	愛着形成	予習として、授業計画で指定する範囲を図書館等で調べ、ノート等にまとめておくこと。（２時間）復習として、毎回の講義資料から提示されるキーワード５個について調べ、次回の授業の前に提出する。（２時間）	
14	病弱・虚弱児の医療的ケア	予習として、授業計画で指定する範囲を図書館等で調べ、ノート等にまとめておくこと。（２時間）復習として、毎回の講義資料から提示されるキーワード５個について調べ、次回の授業の前に提出する。（２時間）	
15	まとめ：要点の整理・質疑応答	講義内容の要点を資料として配布する。質疑応答を行うのでまとめたノートを持参すること。（予習と復習で各々2時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TOKU8
授業形態： 講義
科目名： 肢体不自由児の心理・生理・病理
担当教員： 磯部　健一(ISOBE　Kenichi),川田　人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】
　本授業科目では、（１）肢体不自由の概念を明らかにしたうえで、医学的な観点からは、人間行動の成り立ちと肢体不自由、身体のしくみとその生理と病理を理解し、肢体不自由の原因と主な起因疾患については3回のグループ発表を行います、（２）心理学的な観点からは、肢体不自由と発達の関係、肢体不自由児の感覚・知覚、運動・動作、コミュニケーション、肢体不自由児への心理的支援について考えます。これらを通じて、医療、療育、心理などの多様な専門家との協力・協働を理解し、特別な支援を必要とする子育てを支えるための理論と実践力を身につけることを学びます。なお、授業は、生理・病理の領域を磯部が担当し、心理の領域を川田が担当して行います。
　この授業では、Google Classroom(クラスコード：ib7vs4t)を使用して参考資料などを配布することがあります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	④　思考力・判断力・表現力	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．肢体不自由児の主要な疾患や肢体不自由児の心理・生理・病理を理解することができる。
２．理論と実践力を身につけ肢体不自由児に適切な支援ができる教員としての資質を培うことができる。

【成績の評価】
　学習態度（10%）、レポート（20%）、定期試験（70%）の結果により総合的に判断します。グループ発表時に各疾患についての解説を行います。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説します。

【使用テキスト】
安藤隆男・藤田継道編著『よくわかる肢体不自由教育』（ミネルバ書房、2015年）（川田）
授業者が作成した資料を講義テキストとします（磯部）。

【参考文献】
篠田達明監修、沖　高司、岡川敏郎、土橋圭子編集『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版』（金芳堂、2015年）
独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著 『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』（ジアース教育新社、2015年）
その他、授業のなかで、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・肢体不自由の概念	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をノート等に記載しておくこと(２時間)。	担当：磯部　健一
2	人間行動の成り立ちと肢体不自由（子どもの正常運動発達）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をノート等に記載しておくこと(２時間)。	担当：磯部　健一
3	身体のしくみとその生理・病理-1（運動器）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をノート等に記載しておくこと(２時間)。	担当：磯部　健一
4	身体のしくみとその生理・病理-2（中枢神経系）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をノート等に記載しておくこと(２時間)。	担当：磯部　健一
5	肢体不自由の原因と主な起因疾患-1（脳・脊髄性疾患）、グループ発表	肢体不自由児の起因疾患である、「脳性麻痺」、「二分脊椎」について、各グループが指定された形式でレポートにまとめ発表する（予習２時間）。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をノート等に記載しておくこと(復習２時間)。	担当：磯部　健一
6	肢体不自由の原因と主な起因疾患-2（筋原性疾患）、グループ発表	「進行性筋ジストロフィー」、「重症筋無力症」について、各グループが指定された形式でレポートにまとめ発表する（予習２時間）。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をノート等に記載しておくこと(復習２時間)。	担当：磯部　健一
7	肢体不自由の原因と主な起因疾患-3（骨関節疾患）、グループ発表	「先天性股関節脱臼」、「ペルテス病」について、各グループが指定された形式でレポートにまとめ発表する（予習２時間）。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をノート等に記載しておくこと(復習２時間)。	担当：磯部　健一
8	肢体不自由と発達の関係（川田）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をノート等に記載しておくこと(２時間)。	担当：川田　人包、 磯部　健一
9	肢体不自由児の感覚・知覚（川田）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をノート等に記載しておくこと(２時間)。	担当：川田　人包
10	肢体不自由児の運動・動作	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関	担当：川田　人包

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		する課題をノート等に記載しておくこと(２時間)。	
11	肢体不自由児のコミュニケーション-1（基礎的能力、言語の受容と表出など）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をノート等に記載しておくこと(２時間)。	担当：川田　人包
12	肢体不自由児のコミュニケーション-2（言語の形成と活用、手段の選択と活用など）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をノート等に記載しておくこと(２時間)。	担当：川田　人包
13	肢体不自由児への心理的支援	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をノート等に記載しておくこと(２時間)。	担当：川田　人包
14	肢体不自由に係わる社会的・制度的課題	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと(２時間)。配布資料を参考にして授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をノート等に記載しておくこと(２時間)。	担当：磯部　健一
15	まとめ：要点の整理・質疑応答	講義内容の要点を資料として配布する。質疑応答を行うのでまとめたノートを持参すること。（予習と復習で各々2時間）	担当：磯部　健一
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TOKU9
授業形態： 演習
科目名： 障害児保育Ⅰ
担当教員： 山口　明乙香(YAMAGUCHI　Asuka)

【授業の紹介】
　障害のある子どもに関する環境は，特別支援教育の実施に伴い，早期発見・早期療養が求められており，保育現場でも特別なニーズを伴う幼児への支援が求められています。本講義では，「特別支援教育」の特徴と実際を学び，障害のある幼児の育ちに関わる諸問題に気づき，保育現場で求められている具体的な支援の在り方や保育の仕方について理解を深め，専門性を高めます。この授業を通じて，様々な問題に自ら気づき，子どもの育ちを確実にそして豊かにするための課題解決を自ら行う主体性と意欲を育みます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
　特別支援教育を必要とする子どもの特性と効果的な実践を理解し，望ましい教育的支援の在り方，効果的な支援方法の理解，ニーズに応じた環境設定の仕方，効果的な教材開発の仕方を学習し，多様なニーズを有する幼児への保育士としての知識，技能を高め，多様なニーズに応じた基本的な対応及び環境調整を提案することができる。そのために以下の項目を到達目標とする。
１．特別支援教育の理念と幼児期の位置づけとその特徴について説明できる
２．特別支援教育を必要とする子どもの特性について説明できる
３．ニーズを有する子どもに必要な環境設定，教材の工夫について説明できる

【成績の評価】
　受講態度（20%），提出物（30%），レポート（50%）を総合して成績を評価します。
　課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。
　また，必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】
保育者ができる 気になる行動を示す幼児への支援:応用行動分析学に基づく実践ガイドブック，高橋雅江（監修）永冨大舗（著），原口英之（著），野呂文行（監修），　学苑社,978-4761408213

【参考文献】
必要に応じて適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・障害児保育の変遷と特別支援教育の概説	予習として、シラバスを確認し、指定教科書の該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成してください(0.5時間）。	
2	知的障害のある幼児の理解と支援の工夫と環境	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
3	肢体不自由のある幼児の理解と支援の工夫と環境	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
4	視覚障害のある幼児の理解と支援の工夫と環境	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
5	聴覚障害のある幼児の理解と支援の工夫と環境	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
6	重複障害のある幼児の理解と支援の工夫と環境	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
7	言語障害のある幼児の理解と支援の工夫と環境	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
8	ADHDのある幼児の理解と支援の工夫と環境	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
9	SLD障害のある幼児の理解と支援の工夫と環境	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
10	ASDのある幼児の理解と支援の工夫と環境	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成してください(0.5時間)。	
11	その他の障害のある幼児の理解と支援の工夫と環境	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成してください(0.5時間)。	
12	障害のある幼児の保護者理解と保護者支援	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
13	障害のある幼児のアセスメントと発達過程の理解	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
14	障害のある幼児の支援機関との多機関多職種連携のポイントと工夫	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
15	障害のある幼児の幼小連携と就学支援の実際と工夫	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TOKU10
授業形態： 演習
科目名： 障害児保育II
担当教員： 山口　明乙香(YAMAGUCHI　Asuka)

【授業の紹介】
障害のある子どもに関する環境は，特別支援教育の実施に伴い，早期発見・早期療養が求められており，保育現場でも特別なニーズを伴う幼児への支援が求められています。本講義では，「特別支援教育」の基本的概念と理念，その体系を学び，保育現場で求められている特別なニーズのある幼児への支援の在り方や保育に求められている「特別支援教育」について事例検討を通じて理解し、障害児保育に求められる実践力を深めます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
特別支援教育の基本的概念や理念を理解し，障害児保育の望ましい支援の在り方，効果的な支援方法の理解，ニーズに応じた環境設定の仕方を学び，多様なニーズを有する幼児への「特別支援教育」を担う保育士としての知識，技能を高め，ニーズに応じた基本的な対応及び配慮の工夫を提案することができる。
１．「障害」についてICFを基に理解することができる
２．特別支援教育の共通性と障害種による個別性について説明できる
３．子どもの発達段階や障害特性に応じた個別の対応の基本について説明できる
４．子どものニーズに応じた環境設定の仕方について，複数の案を提案することができる
５．多様なニーズを有する子どもの支援のポイントについて説明できる
６．多様なニーズを有する子どもの保護者との連携のポイントと関係機関とのチーム支援について説明できる

【成績の評価】
受講態度（20%），レポート課題の提出状況（60%），発表（20%）等を総合して成績を評価します。
課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。
また，必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】
障害児保育Ｉで使用した教科書を継続して使用します。

【参考文献】
必要に応じて適宜紹介します

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・障害のある幼児を取り巻く現状の概説	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
2	障害のある幼児のニーズの理解と行動の理解	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
3	障害のある幼児の支援の工夫の組み立て方の理解と実践	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
4	障害のある幼児の事例検討＜登園時の事例＞①グループ討議と発表資料作成	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、グループ発表資料を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
5	障害のある幼児の事例検討＜登園時の事例＞②グループ発表とフィードバック	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
6	障害のある幼児の事例検討＜あそびの場面の事例＞①グループ討議と発表資料作成	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、グループ発表資料を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
7	障害のある幼児の事例検討＜あそびの場面の事例＞②グループ発表とフィードバック	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
8	障害のある幼児の事例検討＜友だちとのかかわりの場面の事例＞①グループ討議と発表資料作成	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、グループ発表資料を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
9	障害のある幼児の事例検討＜友だちとのかかわりの場面の事例＞②グループ発表とフィードバック	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
10	障害のある幼児の事例検討＜危険な行動をする場面の事例＞①グループ討議と発表資料作成	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、グループ発表資料を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
11	障害のある幼児の事例検討＜危険な行動をする場面の事例＞②グループ発表とフィードバック	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
12	障害のある幼児の事例検討＜試し行動場面の事例＞①グループ討議と発表資料作成	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、グループ発表資料を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
13	障害のある幼児の事例検討＜試し行動場面の事例＞②グループ発表とフィードバック	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
14	障害のある幼児の事例検討＜気持ちの切り替えの場面の事例＞①グループ討議と発表資料作成	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、グループ発表資料を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
15	障害のある幼児の事例検討＜気持ちの切り替えの場面の事例＞②グループ発表とフィードバック	予習として、シラバスを確認し、事前にクラスルームに配布される資料を確認し、教科書の該当ページに目を通しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TOKU11
授業形態： 講義
科目名： 障害児の教育課程と指導法
担当教員： 堺　るり子(SAKAI　Ruriko)

【授業の紹介】
　教育課程は、各学校の教育活動の中核として最も重要な役割を担うものです。授業では、特別支援学校・特別支援学級の教育課程や具体的な指導内容について学ぶとともに、特別な支援を必要とする子どもの個に応じた教育課程や指導の在り方について考察します。なお、毎回使用する「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説」を読み解きやすくするために、用語や基本的内容について、特別支援教育や特別支援教育総論、知的障害児教育、肢体不自由児教育等の内容を復習しながら授業を進めます。本授業科目は「特別支援学校教諭一種免許状」取得に必要な科目です。
　この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：erwgryj）を使用し、課題の提示や資料配付等を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．教育課程の編成に関わる法令等を理解することができる。
２．学習指導要領の内容を理解し、教育課程の編成や教育実践について基礎的な知識を修得することができる。
３．障害に応じた教育課程や指導法等を理解し、説明することができる。
４．個別の指導計画を作成することができる。

【成績の評価】
予習・復習課題の内容（40%）、小テスト（10%）、定期試験（50%）の成績を総合して評価します。
予習・復習課題や小テストは、模範解答を示して授業で講評し、改善のためにフィードバックします。

【使用テキスト】
文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）』
（開隆堂出版、2018年）

【参考文献】
文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版、2018年）
文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』（開隆堂出版、2018年）
一木薫著『特別支援教育のカリキュラム・マネジメント』（慶應義塾大学出版会、2022年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業です。特別支援教育に取り組んできた経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	教育課程の基準・編成	予習として、シラバスに記載している授業概要や 達成目標を理解する。授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読み、専門用語の意味を調べてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
2	学習指導要領と基本方針	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
3	知的障害児教育における教育課程の編成と指導	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
4	視覚障害児教育における教育課程の編成と指導	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
5	聴覚障害児教育における教育課程の編成と指導	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
6	肢体不自由児教育における教育課程の編成と指導	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
7	病弱児教育における教育課程の編成と指導	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
8	特別支援学級の教育課程	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
9	重複障害者等を対象とした教育課程	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
10	自立活動の指導	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
11	特別の教科道徳と特別活動	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
12	社会に開かれた教育課程	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
13	一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程編成の工夫	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
14	就労に向けた教育課程の編成の工夫	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
15	個別の指導計画の作成	予習として、香川県教育委員会特別支援教育課のホームページで、個別の指導計画の記入内容を調べておくこと（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること、提示された期末試験のポイントを確認すること（2時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　TOKU27
授業形態：　演習
科目名：　特別支援教育指導法研究
担当教員：　山口　明乙香(YAMAGUCHI　Asuka),堺　るり子(SAKAI　Ruriko)

【授業の紹介】
　特別支援学校における教育実習に向けて、特別支援学校の授業形態や指導方法の実際を学ぶとともに、大学において習得した障害特性や環境調整に関する知識や技能を基盤として、特別支援教育の指導形態に応じた学習指導の工夫について演習を通じて学びます。特別支援教育実習において求められる実践力の基礎を培います。
　本授業では、ICTを活用してフィールドワークやグループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
　特別支援教育の実践者として求められる基礎的知識や技能の基盤形成及び実践的技能の習得を目指し、特別支援学校における教育の実際に触れ、学習指導案の作成に求められる基礎的な技能を習得できる。

１．特別支援教育で用いる学習指導案の特徴について説明することができる。
２．特別支援教育で用いる学習指導案の様式に従って、指導計画を立案することができる。

【成績の評価】
受講態度(30%)、レポート課題(70%)などを総合して評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価は、その都度授業時に講評します。また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】
知的障害教育の「教科別の指導」と「合わせた指導」新学習指導要領を踏まえた19の学習指導要領,三浦光哉監修編著,ジアース教育新社,978-4-86371-607-0

【参考文献】
　必要に応じて、講義内で紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	この授業では、後半の学習指導案の学習では、4年生の模擬授業へ参加して実践的理解を図ります。
2	特別支援教育における教育実習のねらい	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
3	特別支援学校（知的障害)の概要と特徴	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
4	特別支援学校(肢体不自由)の概要と特徴	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
5	特別支援学校(病弱)の概要と特徴	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
6	特別支援学校教育の実際（１）(特別支援学校の訪問)	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
7	特別支援学校教育の実際（２）(特別支援学校の訪問)	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
8	特別支援学校教育の実際（３）(特別支援学校の訪問)	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
9	特別支援学校教育の実際（４）(特別支援学校の訪問)	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
10	特別支援教育指導法研究（教育課程と学習指導案）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
11	特別支援教育指導法研究（幼稚部の学習指導案）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
12	特別支援教育指導法研究（小学部の学習指導案）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
13	特別支援教育指導法研究（中学部の学習指導案）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
14	特別支援教育指導法研究（高等部の学習指導案）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
15	重要ポイントの確認と整理	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TOKU13
授業形態： 講義
科目名： 知的障害児教育
担当教員： 堺　るり子(SAKAI　Ruriko)

【授業の紹介】
　知的障害児教育では、知的障害の特性、知的障害児教育の教育課程、指導や支援の内容・方法、知的障害児教育の今日的課題等について学びます。知的障害児教育には、一人一人の主体的な力の発揮を願う優れた実践方法と教育内容があります。授業の実践記録や事例研究に基づいて指導の実際を学び、知的障害児の実態とニーズに応じた配慮事項について理解を深めましょう。本授業を通じて、特別な支援を必要とする子育てを支えるための理論と実践力を身に付け、豊かな心をもった教師をめざします。本授業科目は「特別支援学校教諭一種免許状」取得に必要な科目です。
　この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：4ayqix2）を使用し、課題の提示や資料配付等を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．知的障害の障害特性を理解することができる。
２．知的障害児教育における教育課程及び指導法の特徴を理解し、説明することができる。
３．知的障害児教育における指導・支援に必要な知識・技能を身に付けることができる。
４．知的障害児教育の今日的な課題や特別支援教育の動向について、理解することができる。

【成績の評価】
予習・復習課題の内容（40%）、小テスト（10%）、定期試験（50%）の成績を総合して評価します。
予習・復習課題や小テストは、模範解答を示して授業で講評し、改善のためにフィードバックします。

【使用テキスト】
杉野学、上田正三　編著『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』（大学図書出版、2020年）

【参考文献】
文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（開隆堂出版、2018年）
太田俊巳・佐藤慎二『改訂新版　知的障害教育総論』（放送大学教育振興会、2020年）
玉村公二彦・清水貞夫他編著『新版キーワードブック　特別支援教育』（クリエイツかもがわ、2019年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。特別支援教育に取り組んできた経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	知的障害児教育と特別支援教育	予習として、授業計画の中から関心のあるテーマを一つ選び、ノートに調べた内容を記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
2	知的障害児の障害特性と配慮	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
3	知的障害を伴う自閉症児に対する教育	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
4	知的障害児教育における教育課程の編成と指導の特徴	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
5	知的障害児教育における教科別の指導	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
6	知的障害児教育の指導法①日常生活の指導	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
7	知的障害児教育の指導法②生活単元学習	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
8	知的障害児教育の指導法③遊びの指導	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
9	知的障害児教育の指導法④作業学習	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
10	知的障害児教育の指導法⑤自立活動	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	個別の指導計画と個別の教育支援計画	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
12	進路指導とキャリア教育	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
13	個のニーズに応じた授業づくり	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
14	重度・重複障害の理解と指導	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配付資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
15	インクルーシブ教育	予習として、全ての授業を通じて関心が高かったテーマについて発表できるように、ノート等にまとめること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること、提示された期末試験のポイントを確認すること（2時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TOKU14
授業形態： 演習
科目名： 知的障害児教育演習
担当教員： 堺　るり子(SAKAI　Ruriko)

【授業の紹介】
　知的障害児教育演習は「知的障害児教育」の基礎的な理論の修得に基づき、ディスカッションやグループワークにより履修者同士の実践的な学び合いを重視します。主な内容は、事例検討や教材教具作成、学習指導案の作成、模擬授業です。教師になった自分をイメージしながら演習を行い、指導方法の基礎知識と実践力を身に付けましょう。本授業科目は「特別支援学校教諭一種免許状」取得に必要な科目です。
　この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：m4logwx）を使用し、課題の提示や資料配付等を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．知的障害児に対する教育上の配慮事項について理解し、説明することができる。
２．アセスメントの基礎的な内容を理解することができる。
３．教科別及び教科等を合わせた指導の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。
４．指導内容に応じた教材教具を考え、作製することができる。
５．より良い実践を行うために必要な着眼点とスキルを身に付けることができる。

【成績の評価】
授業における発言・質疑応答の内容（30%）、ワークシート・教材教具の完成度（30%）、模擬授業（40%）の成績を総合して評価します。
採点したワークシートは次回の授業で返却し、教材教具や模擬授業に関する講評は授業時に行い、改善のためにフィードバックします。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
上野一彦、室橋春光、花熊暁　監修『特別支援教育の理論と実践Ⅰ　概論・アセスメント』（金剛出版、2018年）
杉野学、上田征三　編著『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』（大学図書出版、2020年）
立松英子　著『発達支援と教材教具Ⅲ』（ジアース教育新社、2017年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。特別支援教育に取り組んできた経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	知的障害児教育と特別支援教育	予習として、「知的障害児教育」で学んだ特別支援教育の考え方や制度について調べ直し、ノート等にまとめること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
2	知的障害児の発達及びアセスメント	予習として、心理検査やアセスメントについて専門書等で調べ、調べた内容をノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
3	知的障害児の学習の特性と支援	予習として、「知的障害児教育」で学んだ知的障害児の学習の特性について調べ直し、ノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
4	事例検討①：「日常生活の指導」における指導・支援	予習として、「日常生活の指導」の実践例を文献やWeb等で調べ、ノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
5	事例検討②：「生活単元学習」における指導・支援	予習として、「生活単元学習」の実践例を文献やWeb等で調べ、ノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
6	事例検討③:「作業学習」における指導・支援	予習として、「作業学習」の実践例を文献やWeb等で調べ、ノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
7	事例検討④：「国語科」「算数科」における指導・支援	予習として、「国語科」「算数科」の実践例を文献やWeb等で調べ、ノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
8	学習指導案の作成と活用	予習として、事前に配布された資料に目を通し、特別支援学校「算数科」の学習指導案（略案）を 作成すること（1時間） 復習として、学習指導案を完成させ提出すること（2時間）	
9	知的障害児教育における教材教具の作成・評価①：グループA	予習として、教材教具を活用するときのポイントについて、ノートに記載すること（1時間） 復習として、授業時に出た意見等を踏まえ、教材教具を改善すること（1時間）	
10	知的障害児教育における教材教具の作成・評価②：グループB	予習として、教材教具を活用するときのポイントについて、ノートに記載すること（1時間） 復習として、授業時に出た意見等を踏まえ、教材教具を改善すること（1時間）	
11	模擬授業①「日常生活の指導」模：グループA・B	予習として、模擬授業の略案を作成し、導入部分の工夫事項について説明できるようにしておくこと（2時間） 復習として、自分の模擬授業を振り返り、授業時に出た意見を踏まえ、良かった点や改善	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		点、課題等をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
12	模擬授業②「国語科」「算数科」：グループA	予習として、模擬授業の略案を作成し、導入部分の工夫事項について説明できるようにしておくこと（2時間） 復習として、自分の模擬授業を振り返り、授業時に出た意見を踏まえ、良かった点や改善点、課題等をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
13	模擬授業③「国語科」「算数科」：グループB	予習として、模擬授業の略案を作成し、導入部分の工夫事項について説明できるようにしておくこと（2時間） 復習として、自分の模擬授業を振り返り、授業時に出た意見を踏まえ、良かった点や改善点、課題等をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
14	知的障害児教育における自立活動の指導の実際	予習として、「自立活動」の実践例を文献やインターネットで調べ、ノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
15	事例検討⑤：自閉スペクトラム症の児童生徒に対する支援の検討	予習として、事前に示された事例を読み、支援の内容等について、ノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TOKU15
授業形態： 講義
科目名： 病弱児教育
担当教員： 堺　るり子(SAKAI　Ruriko)

【授業の紹介】
　病弱児は、特別支援学校や特別支援学級、通常の学級等に在籍しています。近年、子どもの病気は多様化し、心身症やうつ病等の精神疾患、発達障害の二次障害としての行動障害等、心のケアが必要な子どもが増加しています。また、医療的ケアの必要な子どもの学習保障も課題となっています。授業では、「病弱児の心理・病理・生理」の基礎的な理論の修得に基づき、病弱児教育の教育課程や指導・支援の内容や方法について学ぶとともに、医療及び関係機関、家庭との連携・協働における教員の役割について考えます。本授業科目は「特別支援学校教諭一種免許状」取得に必要な科目です。
　この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：dtwiruf）を使用し、課題の提示や資料配付等を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑤　多様な人材との協力・協働	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．病弱児教育の対象となる疾患について理解し、指導上の配慮事項を説明することができる。
２．病弱児教育の意義と役割について理解することができる。
３．病弱児教育の教育課程や適切な指導・支援について理解することができ、実践に必要な知識・技能を身に付けることができる。
４．医療及び関係機関、家族との連携・協働に関する課題について、意見を述べることができる。

【成績の評価】
予習・復習課題の内容(40%)、小テスト(10%)、定期試験(50%)の成績を総合して評価します。
予習・復習課題や小テストは、模範解答を示して授業で講評し、改善のためにフィードバックします。

【使用テキスト】
深草瑞世監修、全国特別支援学校病弱教育校長会編著『特別支援学校の学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携』(ジアース教育新社、2020年)

【参考文献】
西牧謙吾監修、松浦俊弥編著『チームで育む病気の子ども』(北樹出版、2017年)
山本昌邦、島　治伸、滝川国芳編集、日本育療学会編著『標準　病弱児の教育テキスト』(ジアース教育新社、2019年)
全国病弱教育研究会編著『病気の子どもの教育入門』(クリエイツかもがわ、2015年)

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。特別支援教育に取り組んできた経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	病弱児教育の対象となる病気の症状	予習として、授業計画の中から関心のあるテーマを一つ選び、ノートに調べた内容と疑問点を記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
2	病弱児の学びの場と教育課程	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配布資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
3	教育的ニーズに応じた支援①：復学支援、高校生支援	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配布資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
4	教育的ニーズに応じた支援②：医療的ケア	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配布資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
5	教育的ニーズに応じた支援③：病気の受容と理解	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配布資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
6	通常学級における病弱児への理解と支援	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配布資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
7	学習指導要領を踏まえた指導	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配布資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
8	心身症・精神疾患の子どもの自立活動	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配布資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
9	ＩＣＴ機器の活用の意義と活用事例	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配布資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
10	体験的な活動における指導方法の工夫	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配布資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	教育機会の保障	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配布資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
12	ベッドサイド教育、病院への訪問による指導	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配布資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
13	進路指導とキャリア教育	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配布資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
14	特別支援学校のセンター的役割	予習として、授業内容を確認し、テキストの該当箇所や配布資料を読むとともに、専門用語の意味を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること（2時間）	
15	医療及び関係機関、家族との連携・協働	予習として、全ての授業を通じて関心が高かったテーマについて説明できるように、ノート等にまとめること（2時間） 復習として、授業内容に関する課題をレポートにまとめ、提出すること、提示された期末試験のポイントを確認すること（2時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TOKU12
授業形態： 演習
科目名： 病弱児教育演習
担当教員： 堺　るり子(SAKAI　Ruriko)

【授業の紹介】
　病弱児教育では、疾病や治療の多様性の理解、治療形態に応じた個別の対応が求められています。授業では「病弱児の心理・生理・病理」及び「病弱児教育」の基礎的な理論の修得に基づき、ディスカッションやグループワークにより履修者同士の実践的な学び合いを重視します。主な内容は、病弱児の実態に応じた支援の内容・方法についての考察、ICTを活用した教育活動の体験や学習活動の制限を考慮した教材教具の作成、事例検討です。病弱児は、どの子どもも学びたいという意欲があり、学ぶ力をもっています。子どもたちが笑顔で安心して学ぶことができる病弱児教育について、理解を深めましょう。
　この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：iazdmwz）を使用し、課題の提示や資料配付等を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑤　多様な人材との協力・協働	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．病弱児に対する教育上の配慮事項について理解し、説明することができる。
２．病弱児教育の教育課程を理解し、学習指導案を作成することができる。
３．学習の空白や活動の制限を考慮した教材教具を考え、作製することができる。
４．ICTを活用した教育活動を体験し、ICTの有用性について説明することができる。
５．演習を通して、より良い実践を行うために必要な着眼点とスキルを身に付けることができる。

【成績の評価】
演習における発言・質疑応答の内容（30%）、ワークシートの完成度（30%）、模擬授業や体験学習の成績(40%)、を総合して評価します。
採点したレポートは次回の授業時に返却し、模擬授業等の内容は授業時に教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
丹羽登監修、全国特別支援学校病弱教育校長会編著『病弱教育における各教科等の指導』（ジアース教育新社、2015年）
深草瑞世監修、全国特別支援学校病弱教育校長会編著『特別支援学校の学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携』（ジアース教育新社、2020年）
西牧謙吾監修、松浦俊弥編著『チームで育む病気の子ども』（北樹出版、2017年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。特別支援教育に取り組んできた経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	病弱児教育の現状と課題	予習として、病弱児教育の現状について最新情報を調べ、ノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
2	発達障害のある子どもや不登校の子どもの理解と支援	予習として、不登校の子どもの支援の現状について最新情報を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
3	医療的ケアが必要な子どもの教育	予習として、医療的ケアが必要な子どもの支援の現状について最新情報を調べ、疑問点と合わせてノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
4	病弱児教育における教科指導	予習として、病弱児教育における教科指導の実践例を文献やWeb等で調べ、ノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
5	病弱児教育における自立活動	予習として、病弱児教育における自立活動の実践例を文献やWeb等で調べ、ノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
6	個別の指導計画と個別の教育支援計画	予習として、病弱児教育における個別の指導計画について文献やWeb等で調べ、ノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
7	事例検討①：小児がんの児童生徒の支援の検討	予習として、事前に示された事例を読み、支援の内容等について、自分の意見をノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
8	食べる機能に障害がある子どもの摂食指導の体験	予習として、特別支援学校における摂食指導の実践例について調べ、ノートに記載すること（1時間） 復習として、体験で得た気付きや学んだこと等についてワークシートにまとめ、提出すること（1時間	
9	事例検討②：不登校の児童生徒の支援の検討	予習として、事前に示された事例を読み、支援の内容等について、自分の意見をノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
10	ベッドサイドでの授業で使用する教材教具の作成	予習として、ベッドサイドで使用する教材教具例を文献やWeb等で調べ、作成すること（2時間） 復習として、授業時に出た意見等を踏まえ、教材教具を改善すること（1時間）	
11	模擬授業①：グループA	予習として、模擬授業の略案を作成し、導入部分の工夫事項について説明できるようにしておくこと（2時間） 復習として、自分の模擬授業を振り返り、授業時に出た意見を踏まえ、良かった点や改善	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		点、課題等をワークシートにまとめ、提出すること（2時間）	
12	模擬授業②：グループＢ	予習として、模擬授業の略案を作成し、導入部分の工夫事項について説明できるようにしておくこと（2時間） 復習として、自分の模擬授業を振り返り、授業時に出た意見を踏まえ、良かった点や改善点、課題等をワークシートにまとめ、提出すること（2時間）	
13	ＩＣＴ機器を活用した教育活動の体験	予習として、病弱児教育におけるＩＣＴ機器の活用例について文献やWeb等で調べ、ノートに記載すること（1時間） 復習として、体験で得た気付きや学んだこと等についてワークシートにまとめ、提出すること（1時間	
14	事例検討③：家族支援の検討	予習として、事前に示された事例を読み、支援の内容等について、自分の意見をノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
15	事例検討④：関係機関との連携	予習として、事前に示された事例を読み、連携の仕方等について、自分の意見をノートに記載すること（1時間） 復習として、授業内容に関する課題をワークシートにまとめ、提出すること（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TOKU17
授業形態： 講義
科目名： 肢体不自由児教育
担当教員： 川田　人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】
　肢体不自由児の教育・保育や療育について、基礎・基本を学びます。重度・重複・多様化した肢体不自由児を正しく理解し、必要とされる様々な視点や実践的な指導・支援につながる内容を提供します。
　また、肢体不自由児に係る今日的な課題について、障がいの重度・重複、多様化等との関連から整理し、自立活動や個別の指導計画等の理念と実践に関わる基礎的概念を深めます。
　幼児児童生徒一人ひとりの心と身体に対する理解が深まるように共体験等を通して、バリアフリーやユニバーサルデザインに向けた教育や福祉の推進者としての見識を高めることを目指します。
　なお、本授業科目は、課題の提示やレポート提出にあたり「Google Classroom」を活用します。クラスコードは、「hv7e6mp」です。事前に登録しておいてください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
　肢体不自由児の正しい理解に努め望ましい指導や支援に向けた基礎・基本的な学びを通し、幼児児童生徒一人ひとりに対する効果的な指導法や環境づくり、教材教具の活用等を習得することをめざします。
　多様なニーズに応じた望ましい支援に繋げるために以下の項目を到達目標とします。
①障がいについてICFを基に理解する。
②子どもの発達や障がい特性に応じた個別の対応の基本を理解する。
③合理的な配慮など環境設定のあり方について提案することができる。
④連続した偏りのない支援に向けて「個別の教育支援計画」等の作成と活用を理解する。
⑤親の障害受容や関係機関との連携・協働について説明できる。

【成績の評価】
　主体的な受講態度（30%）、レポート（30%）、小筆記試験（40%）を総合して成績を評価します。
　課題解決を図る小筆記試験並びにレポートについては、適宜授業のなかでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
　「よくわかる肢体不自由児教育（第2版）」安藤隆男・藤田継道編著　ミネルバ書房　2022年

【参考文献】
　必要な文献や論文については授業のなかで適宜紹介します。

【実務経験】
　有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員が特別支援教育に取り組んできた経験を活かして、肢体不自由児教育の実践的な方法や内容を解説します。また、様々なワークを通して学びます（共体験）。

【科目等履修生の受入】
　有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
2	肢体不自由児の教育－歴史と現状－	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
3	脳性まひ児等の肢体不自由疾患による特性	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
4	肢体不自由児の運動発達と課題	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
5	肢体不自由児の心理発達	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
6	特別支援学校や特別支援学級における教育の実際（積極的な行動支援）	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
7	教育課程編成の基本と授業づくり（ＰＤＣＡサイクル）	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
8	身体の動きの指導や支援	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
9	コミュニケーションの指導や支援	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
10	各教科・領域の指導や支援の関係性	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
11	重度・重複障がい児の理解と指導 －重篤な医療的ケア対象児含－	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
12	自立活動と「個別の指導計画」	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
13	教材教具を活用した発達支援 －ＩＣＴ等の福祉支援機器－	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
14	肢体不自由児のキャリア教育	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
15	新たな取組と今後の課題 －権利擁護と社会生活－	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を貼り付けるので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②資料の要約をノートに記載すること（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、他者に授業内容が説明できるように要約して記載すること（１時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TOJU18
授業形態： 演習
科目名： 肢体不自由児教育演習
担当教員： 川田　人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】
「肢体不自由児教育演習」は、「肢体不自由児教育」や「肢体不自由児の心理・生理・病理」で学んだ基礎・基本を基盤にして、肢体不自由児個々の実態把握に基づいて展開される具体的な指導法や評価のあり方等を学ぶために設けられた科目です。特に、本演習では教育心理学的なアプローチ等を通して、障がいのある幼児児童生徒たちが心と身体を整える具体的な方法や望ましい指導・支援のあり方を学びます。また、肢体不自由児が安心して学べる環境づくりや合理的な配慮についても事例を通して検証します。
なお、本授業科目は、課題の提示などで「Google Classroom」を活用します。
クラスコードは、「axnmzt4」です。履修する場合、事前に登録しておいてください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．一人ひとりの肢体不自由児に対する関係機関（医療・福祉・労働等）との連携と協働を理解し、「個別の教育支援計画」を作成して活用することができる。
２．一人ひとりに基づく「実態把握→指導・支援→評価→改善→引継」といった継続性や連続性を備えた偏りのない授業づくりにむけて「個別の指導計画」を作成して実践できる。
３．「自立活動」で活用されている指導法や理論等を学び、肢体不自由児教育に携わる教員として専門的な知識や技術を身につけることをめざす。

【成績の評価】
演習への参加態度（30%）や習熟度（40%）、レポート等（30%）を総合して成績を評価します。
なお、習熟度につきましては、事例検討会や運動・動作を用いた実技指導を通してフィードバックします。

【使用テキスト】
「障害者のための絵でわかる動作法2　自立活動へのはじめの一歩」宮崎昭、村主光子、田丸秋穂、杉林寛仁、長田実著　福村出版　2018年

【参考文献】
必要な文献や論文については、授業のなかで適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員が特別支援教育に取り組んできた臨床経験を活かして、肢体不自由児教育の実践的な方法や内容を解説しますので、共体験を通して学べます。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、学んだことを要約して記載すること（１時間）	１回目のオリエンテーションは308講義室で行います。
2	ＩＥＰの理念と実践－「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」－	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、学んだことを要約して記載すること（１時間）	308講義室
3	肢体不自由児教育における「自立活動」等の計画・実践・評価・改善	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、学んだことを要約して記載すること（１時間）	308講義室
4	自立活動における指導法の紹介（実践で役立つ指導法）	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、学んだことを要約して記載すること（１時間）	308講義室
5	自立活動における指導法（身体の動き１）リラクセイション	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、学んだことを要約して記載すること（１時間）	心理学実験室で授業を実施
6	自立活動における指導法（身体の動き２）座位	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、学んだことを要約して記載すること（１時間）	心理学実験室で授業を実施
7	自立活動における指導法（身体の動き３）膝立ち位	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、学んだことを要約して記載すること（１時間）	心理学実験室で授業を実施
8	自立活動における指導法（身体の動き４）立位・歩行	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用し	心理学実験室で授業を実施

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		て、学んだことを要約して記載すること（１時間）	
9	肢体不自由児教育における指導法（授業づくり１）姿勢保持・姿勢変換・移動	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、学んだことを要約して記載すること（１時間）	心理学実験室で授業を実施
10	肢体不自由児教育における指導法（授業づくり２）身体の動きやコミュニケーションの指導と評価	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、学んだことを要約して記載すること（１時間）	心理学実験室で授業を実施
11	肢体不自由児教育における指導法（授業づくり３）外部専門家の導入と連携	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、学んだことを要約して記載すること（１時間）	心理学実験室で授業を実施
12	事例検討会①～個別事例（脳性まひ児）への指導・支援の検討	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、学んだことを要約して記載すること（１時間）	308講義室
13	事例検討会②～個別事例（重症児）への指導・支援の検討	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、学んだことを要約して記載すること（１時間）	308講義室
14	事例検討会③～発達障害児などへのアプローチや環境設定の工夫	「Google Classroom」を活用して、事前に授業資料を提示しておくので、次のように予習をおこなう。①専門用語の意味を調べノートに記載、②心理リハビリの動画を視聴する（１時間） 復習は、ワークシート（ノート）を活用して、学んだことを要約して記載すること（１時間）	308講義室
15	評価授業	総括を実施する	心理学実験室で評価授業を実施
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TOKU19
授業形態： 講義
科目名： 視覚の発達と障害
担当教員： 恵羅　修吉(ERA　Shukichi)

【授業の紹介】

目が見える人にとって、目が見えない人の経験する世界を想像することはとても難しいことです。目が見えている私たちは、「見える」ということを子どもの時から当たり前のこととして経験してきました。当たり前のように存在している「見え」の世界。しかしながら、私たちは経験としては気づいていませんが、「見え」の世界は子どもから大人になるについて少しずつ変化しているのです。この授業では、「見え」の発達について、いろいろな事例や研究を通して基礎的な知識を提供することをめざします。さらに、目が見えない、あるいは目が見えにくいといった視覚障害について解説します。講義を通して、視機能に困難のある子どもにとって望ましい成長・発達を支援するための専門的知識と技能の獲得と、実践的能力の基礎となる知見の獲得を目指します。

本授業は「特別支援学校教諭免許」に必要な科目です。視覚障害のある子どもの理解と教育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育や支援の実践で活かせるように自ら多様な情報を収集・分析することで、将来にわたり継続的に学ぶ姿勢を身につけていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	④　思考力・判断力・表現力	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】

1.視覚の成立に関わる生物学的構造について理解できる。
2.視覚認知に関わる検査について、その意義を説明することができる。
3.視機能に困難を有する子どもの心理特性について理解し、配慮点について説明できる。
4.視覚障害教育の歴史と現状について理解できる。

【成績の評価】

評価は、授業中の小レポート（40%）、期末レポート（60%）とします。小レポートについては、次回の授業時に全体的に講評を加えます。期末レポートについては、Google Classroomで個別にフィードバックします。

【使用テキスト】

特にありません。参考文献を参照してください。

【参考文献】

香川邦生・千田耕基(編)『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援』(教育出版，2009年)
香川邦生(編)『四訂版　視覚障害教育に携わる方のために』(慶應義塾大学出版会，2010年)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	自分自身の視力や見えの特徴に関して振り返るをしてみましょう。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	
2	視覚の構造１：眼から脳まで	授業で紹介する資料を参照して，眼の基本的なメカニズムについて復習しましょう。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	
3	視覚の構造２：高次脳機能	授業で紹介する資料を参照して，視覚に関わる脳の基本的なメカニズムについて復習しましょう。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	
4	視覚検査１：視力検査	視力検査に関わる情報を調べてみましょう。弱視の定義を確認しておきましょう。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	
5	視覚検査２：眼位検査	斜視に関する情報を調べてみましょう。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	
6	視覚検査３：色覚検査	自分の色の見え方を振り返ってみましょう。色覚障害に関するサイトを確認してみましょう。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	
7	視覚検査３：その他の検査	見えに関わる検査を調べてみましょう。複数の検査について確認してください。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	
8	視覚障害児の心理学的特性１：聴覚で世界を探る	聴覚を使って空間認知をすることを自ら試してみましょう。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	
9	視覚障害児の心理学的特性２：触覚で世界を探る	触覚・触運動感覚を使って空間認知をすることを自ら試してみましょう。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
10	視覚障害児の心理学的特性３：空間認知	より大きな空間（地図など）を認知することは，目が見えていても難しさがあります。どのような困難があるか，調べてみましょう。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	
11	視覚障害児の心理学的特性４：音声言語の発達	ヘレン・ケラーの言語獲得について調べてみましょう。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	
12	視覚障害児の心理学的特性５：視覚言語（点字を含む）の発達	点字の構成について調べてみましょう。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	
13	視覚障害に対応した支援機器の活用	視覚障害に対応した支援機器についてネット検索してみましょう。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	
14	視覚障害児教育の歴史と展開	日本における障害児教育の歴史的展開を調べてみて，視覚障害児教育の位置づけを把握しておきましょう。（2時間） 授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。（2時間）	
15	授業のまとめ：視覚障害教育の過去と未来	授業期間中に報道される新聞，雑誌，Web上での視覚障害に関連したニュースを閲覧し，その話題に関連する情報を検索するようにしましょう。調べた結果をまとめて，レポートを作成してください。（4時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TOKU20
授業形態： 講義
科目名： 聴覚障害教育総論
担当教員： 川合　紀宗(KAWAI　Norimune)

【授業の紹介】
　聴覚障害のある幼児児童生徒に対する教育的支援に必要となる制度や実践的側面、心理・生理・病理的側面に関する基本的な事項の知識を体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解するなど、聴覚障害教育の在り方について幅広く学習します。
　なお、現在のところ対面での実施を予定していますが、オンラインで実施することになった場合、ネットにつながるマイクカメラ付きのパソコンが各自必要となります。
　自分で用意できる人は自宅で受講してください。用意が出来ない人は、大学にて演習室を開放するよう依頼いたします。オンライン受講の際、授業中カメラはＯＮにしておいてください。

＜卒業認定・学位授与の方針における関連項目＞
２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

＜学修成果における関連項目＞
⑥教育・保育に関する知識を幅広く体系的に理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができる。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・聴覚障害教育について考える際に基盤となる事項について、基礎的な知識を身につけることができる。
・聴覚障害教育の実際について、幼児児童生徒の発達段階を追い、具体的に教育の内容と方法を理解することができる。
・聴覚障害の心理・生理・病理的側面に関する基本的な事項を理解することができる。
・聴覚障害教育の望ましいあり方について主体的に考え、話し合うことができる。

【成績の評価】
　①授業中の積極的な参加（質疑応答、グループワーク等：４０％）と②課題レポートの内容（６０％）によって評価します。①については、受講者の発言・応答内容やグループ発表に対して口頭や記述による質的評価を行います。②については、授業内容の理解度をレポートの記述内容から分析し、量的評価を行います。評価後、採点結果やコメントを返します。

【使用テキスト】
ありません。必要に応じて講義資料を配付します。

【参考文献】
四日市章・鄭 仁豪・澤 隆史・ハリー・クノールス・マーク・マーシャーク編「学習と指導―発達と心理学的基礎―」（明石書店、2018年）
我妻敏博「改訂版　聴覚障害児の言語指導―実践のための基礎知識―」（田研出版、2011年）
脇中起余子「聴覚障害教育 これまでとこれから:コミュニケーション論争・9歳の壁・障害認識を中心に」（北大路書房、2009年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
米国の公立学校や子ども病院、大学に勤務し、言語障害臨床や言語臨床スーパーバイズを行った経験のある者が実務経験にもとづく具体例を紹介し、実践的な学びになるように指導しています。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	聴覚障害教育の歴史的展開		
2	聴覚障害の心理・生理・病理		
3	特別支援教育における聴覚障害		
4	聴覚障害教育の教育課程		
5	聴覚障害教育とコミュニケーション方法		
6	聴覚障害児に対する自立活動		
7	聴覚障害児の教科学習と読み書き能力		
8	通常の学級で学ぶ聴覚障害児		
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： TOKU21
授業形態： 講義
科目名： 重複障害教育総論
担当教員： 落合　俊郎(OCHIAI　Toshiro)

【授業の紹介】

特別支援学校教育の中でも重度でかつ複数の障害をあわせもった子どもたちの教育を知り,教育者に求められる知識に加え,使命感と倫理観も培います。まず,重複障害児教育の歴史をさかのぼり,ヘレン・ケラーに始まる盲ろう二重障害の教育方法を学び,点字,手話,発話へと,どのように教育したのか学習します。1979年の養護学校義務制実施以降,感覚障害だけでなく,知的障害,肢体不自由,病弱をあわせもつ重複障害の子どもが多くなりました。このような児童生徒に対する授業の展開,さらには学習指導要領の新旧の違いについて説明します。また,たんの吸引,経管栄養,胃ろう等の医療的ケアが必要な子どもたちへの対応と実践についても学びます。国連障害者の権利条約批准後,重複障害のある子どもたちの合理的配慮についても説明します。重複障害のある児童生徒に寄り添った豊かな人間性をはぐくみ,授業の内容に対して積極的かつ主体的に意見の発表を行う授業を行います。さらに重複障害のある児童生徒の教育の課題を明らかにし,その課題を解決する力を身に着け,特別支援学校の教員になる前にボランティア等で社会に貢献する気づきを養います。授業で修学した専門的知識や技能を生かし,特別支援学校での実践的能力を培います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	②　向上心	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】

令和4年11月現在，特別支援学校の小学部に在籍する複数の障害を合わせ有する児童の割合は33.2%，中学部内では29.6%，高等部では17.6%在籍している。これら重複障害児の教育について，盲ろう二重障害児教育に始まる歴史をさかのぼり,知的障害，肢体不自由，病弱をあわせもつ重複障害児の心理,生理及び病理の特徴と授業の展開及び学習指導要領の内容を理解する。さらに,医療的ケアが必要な子どもたちへの対処方法と実践方法を身につける。重複障害児の教育における課題を明らかにし，解決するための合理的配慮の具体的例とカリキュラム・マネジメントによる教育ならびに保護者支援の方法についても理解する。そして，教育者に必要な知識,使命感と倫理観を培う。授業の内容に対して積極的かつ主体的に意見の発表を行って授業に参加する。そして，教員になる前にボランティア等で社会に貢献することの重要さに気付く。

【成績の評価】

授業の参加状況(20%)と試験(80%)の結果により総合的に評価します。授業の参加状況については,出席だけではなく,学生と教員との意見のやり取り,質疑応答等の内容も評価対象とします。試験については,授業中の直前の振り返りをした後，模範解答についてはGoogle Classroomに掲載し,学生からの質疑に対して丁寧な回答・指導を行います。Google Classroomで毎時間,感想と質問を記載するようにします。Google Formによる教員とのやり取りも評価の対象にします。

【使用テキスト】

文部科学省(2018)特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)開隆堂 本体159円＋税

【参考文献】
　授業の中で必要な資料を配布します。広島県立福山特別支援学校発行の自立活動のガイドラインを紹介します。授業開始前に授業内容を知りたい方はGoogle Classroomにログインしてください。クラスコードは2oio5gです。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　国立特別支援教育総合研究所では重複障害教育研究部に所属し，盲ろう二重障害児と重度・重複障害児の教育相談を行った。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	重複障害の定義とその心理,生理及び病理について	授業開始前にGoogle Classroomにログインして予習してください。クラスコードは2oio5gです。授業で紹介した動画等がGoogle Classroomに入っているので，これをもとに復習してください。	
2	重複障害のある児童生徒の行動特性と合理的配慮について	授業開始前にGoogle Classroomにログインして予習してください。特に重複障害児の発達と定型発達の違いに注目してください。Google Classroomに授業で紹介した動画等が入っているので，これをもとに復習してください。	
3	重複障害のある児童生徒の指導法と教育課程：カリキュラム・マネジメントに則った実践と教育	授業開始前にGoogle Classroomにログインして予習してください。Google Classroomに授業で紹介した文献等が入っているので，これをもとに復習し教育実習時にどうするかイメージしてください。	
4	重複障害のある児童生徒の指導方法と教育課程：肢体不自由と重度知的障害と病弱の重複事例の紹介①	授業開始前にGoogle Classroomにログインして予習してください。Google Classroomに授業で紹介した文献等が入っているので，これをもとに復習し教育実習時にどうするかイメージしてください。	
5	重複障害のある児童生徒の指導方法と教育課程：肢体不自由と重度知的障害と病弱の重複事例の紹介②	授業開始前にGoogle Classroomにログインして予習してください。Google Classroomに授業で紹介した文献等が入っているので，これをもとに復習し教育実習時にどうするかイメージしてください。	
6	重複障害のある児童生徒の指導方法と教育課程：盲とろうが重複した事例の紹介	授業開始前にGoogle Classroomにログインして予習してください。Google Classroomに授業で紹介した動画等が入っているので，これをもとに復習してください。	
7	重複障害のある児童生徒の指導方法：医療的ケアと保護者支援について	授業開始前にGoogle Classroomにログインして予習してください。特に肢体不自由や病弱特別支援学校での実習で医療的ケアの実際を見ることがあります。Google Classroomに授業で紹介した動画等が入っているので，これをもとに復習してください。	
8	重複障害教育の将来について：他領域に及ぼす可能性について	授業に関連する資料・動画等をGoogle Classroomに入れてあります。これをもとに重複障害児だけでなく，介護，特に要介護４や５の高齢者への介護支援に参考となる可能性等について考えてみよう。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　TOKU22
授業形態：　講義
科目名：　ＬＤ等教育総論
担当教員：　井上　とも子(INOUE　Tomoko　)

【授業の紹介】
発達障害、主にLD・ADHD・高機能自閉症スペクトラム障害の様態を説明し、その様態に応じた支援のあり方、特に教育的支援について例や動画によって学校で起こっている実態と合わせて述べる。内容は、発達障害の定義とともに教育的支援の方向性を示し、支援方法をPDCAサイクルに法って、アセスメントについてその必要性から解説する。この中では標準化された発達検査についても触れ、発達障害児の学校内の様態についての理解が進むようにまた、支援の必要性についても語る。発達障害を代表する３つについて学習上の特性に応じた指導･支援方法を論じた後、問題行動に関してどのような行動かを動画によって対応方法と共に説明する。後半は、就学先の選択や通級による指導のあり方、通常の学級における発達障害児の合理的配慮についても話を広げ、グループ協議の形で、発達障害児に関わる学校内で起こりやすい課題の理解や、その解決について話し合いや発表を通じて、学びを深化させる。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．幼児期と小学校期の発達障害の様態を理解することができる。
２．児が起こす行動の意味を知り、特性と行動の意味にあった支援･指導の方法を知ることができる。
３．教育課程上の発達障害の取り扱いと就学措置に関する事項を理解し、通常の学級における特別支援教育のあり方全般の知識を修得することができる。

【成績の評価】
定期試験（70%）レポート（30%）
レポートについては、読んだ後、コメントをつけて返す。成績評価の不明な点についての質問には、十分な説明を行う。授業中の発表についてはその内容と態度を評価に加味する。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
小島道生・宇野宏幸・井澤信三編著『発達障害の子がいるクラスの授業･学級経営の工夫』明時図書（2008）
小野次郎･上野一彦・藤田継道編『よく分かる発達障害』第2版ミネルヴァ書房（2010）
日本LD学会編『発達障害事典』（2016）
文部科学省ホームページ内、「発達障害」を検索し、各自資料とすること

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・教育分野の3つの発達障害とは	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
2	ICFと将来を見据えた支援のあり方	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
3	発達障害の教育（1）LDの様態と支援のありかた	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
4	学校におけるADHD児の実態と理解	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
5	発達障害の教育（2）ADHDの様態と支援のあり方	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
6	発達障害の教育（3）ASDの様態と支援のあり方	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
7	実態把握－学校教育と発達障害児に関するアセスメントのあり方－	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
8	インクルーシブ教育と合理的配慮	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
9	通常の学級内における特別支援教育の在り方	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
10	問題行動の意味と対策	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
11	特別支援養育コーディネーターの役割と校内支援体制の構築―教師間連携―	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
12	実践的支援方法（1）支援についての実践的方法	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
13	実践的支援方法（2）通常の学級内における配慮はどうあるべきか	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
14	保護者支援の在り方・通級による指導とは	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
15	まとめ（これまでの講義にかかる質問･応答、課題に応じたレポート作成と発表）	１　第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、疑問点をまとめておく＜計15時間＞ ２　授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計10時間） ３　第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「ICFと自身が考える支援」のレポートを提出する（計10時間） ４　15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TOKU24
授業形態： 演習
科目名： 子育て支援
担当教員： 佐々木　利子(SASAKI　Toshiko)

【授業の紹介】
2017年告示の「保育所保育指針」第4章子育て支援などに示されている通り、保育士は子どもの保育に加えて保護者からの相談に応じたり助言をしたりする職務が義務化されています。子育て支援の授業では「保育所保育指針」第4章子育て支援を踏まえて、保育士の行う保育の専門性に基づいた保護者に対する相談、助言、情報提供の特性等を理解していきます。また、養成段階で経験することが難しい具体的な場面の事例を通して学び、子どもはもちろん保護者や子育てに関わる人と協力、協働しながら子どもたちの育ちを支えるために必要な保育の実践力を養うことを目的としています。
なお、本授業科目は保育士資格取得のための必修科目です。課題の指示や提出にあたり、Google Classroomも使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．子育て支援の必要性を理解した上で実践できる。
２．保育士の専門性を活かした保護者に対する相談、助言、情報提供などの支援についてその特性と展開を具体的に理解することができる。
３．保育士が行う子育て支援について、その時の状況に合わせた支援の方法やその支援をする意義を、事例を通して理解することができる。
４．子どもの育ちにつながる支援のあり方とその意義について理解することができる。

【成績の評価】
授業中の態度（20%）、毎回の提出物（30%）、定期試験（50%）。ワークショップ・発表などの協力姿勢や発言の仕方などは、授業態度に含む。
提出物や発表などへの個別及び全体講評によりフィードバックを行う。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園　教育・保育要領　解説とポイント　汐見稔幸／無藤隆監修　（ミネルヴァ書房　2018年）
子育て支援　１５のストーリーで学ぶワークブック　二宮　祐子　（萌文書林　2018年）
演習・保育と子育て支援　（株式会社みらい　2019年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育者として、こども園等で保護者から受けてきた相談経験を生かし、子育て支援の具体的取組について事例を示しながら授業を進めます。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 子育て支援とは	復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
2	子育て支援の意義	予習として授業内容に関係する資料等を探し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
3	子育て支援の基本姿勢①　子どもの最善の利益の尊重	予習として授業内容に関係する資料等を探し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
4	子育て支援の基本姿勢②　保育の専門性と子育て支援	予習として授業内容に関係する資料等を探し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
5	子育て支援の基本姿勢③　保護者との相互理解・信頼関係	予習として授業内容に関係する資料等を探し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
6	保育所・認定こども園などの特性をいかした支援	予習として授業内容に関係する資料等を探し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
7	子育て支援の計画と環境構成	予習として授業内容に関係する資料等を探し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
8	支援の実践、記録、評価	予習として授業内容に関係する資料等を探し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
9	地域の関係機関との連携・協力	予習として授業内容に関係する資料等を探し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
10	障がいのある子どもおよびその家庭に対する支援	予習として授業内容に関係する資料等を探し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
11	特別な配慮が必要な子どもおよびその家庭に	予習として授業内容に関係する資料等を探	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	対する支援	し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
12	虐待予防と要保護児童などの家庭に対する支援	予習として授業内容に関係する資料等を探し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
13	保護者の理解とかかわり方	予習として授業内容に関係する資料等を探し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
14	文書や行事を活用した子育て支援　連絡帳、おたより、行事のもち方	予習として授業内容に関係する資料等を探し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分） 子育て支援行事の案内文案を作成する(30分)	
15	保育士に求められる子育て支援　振り返りと今後の課題	予習として授業内容に関係する資料等を探し、関連する箇所を確認してノートにまとめておく(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、classroomで提出すること（30分）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TOKU25
授業形態： 講義
科目名： 社会福祉
担当教員： 瀧本　逸誠(TAKIMOTO　Issei)

【授業の紹介】
社会福祉の基本「福祉とは何か」を共に考えていきます。社会福祉は子どもから高齢者まで、すべての人の生活に大きく関係していることを理解し、自分自身の生活と結び付けて学びを深めていきます。
　社会福祉の考え方や、社会福祉を取り巻く現状・課題を学習したうえで、子ども家庭福祉の視点について理解していきます。社会福祉の制度や実施体系、共生社会の実現と障害者施策、また、相談援助等の社会福祉全般に関する理解を深めます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	②　向上心	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑤　多様な人材との協力・協働	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
1．現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭福祉の視点について理解できる。
2．社会福祉の制度や実施体制について理解できる。
3．社会福祉における相談援助について理解できる。
4．社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて理解できる。
5．社会福祉の動向と課題について理解できる。

【成績の評価】
定期試験（７０％）レポート（３０％）
レポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】
テキストは使用しない。テーマに沿ってレジュメ又はスライド資料を用意する。

【参考文献】
『新版社会福祉』（吉田眞理著、青鞜社、 2023年）
『社会福祉とわたしたち』（一瀬早百合著、萌文書林、 2022年）
『社会福祉』(直島正樹・原田旬哉編著、萌文書林 2015年)
『社会福祉』(松原康雄・圷洋一・金子充編、中央法規 2023年)
『社会福祉』(新川康弘・宮野安治編、青鞜社 2020年)
『民生委員・児童委員必携第６4集』(全国社会福祉協議会発行、2020年)
『民生委員・児童委員必携第６7集』(全国社会福祉協議会発行、2023年)

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験(児童相談所、障害者支援施設、発達障害者支援センター、民生児童委員、引きこもり対策検討委員、短期大学学生相談室など)のある教員による授業科目です。福祉現場の経験を活かし、具体例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	社会福祉の理念と概念	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
2	社会福祉の歴史的変遷①－イギリス、アメリカ、スウェーデン	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
3	社会福祉の歴史的変遷②－日本	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
4	子ども家庭福祉と社会福祉	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
5	社会福祉の制度と法体系	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
6	社会福祉行財政と実施機関	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
7	社会福祉施設と福祉専門職	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
8	社会保障及び関連制度の概要	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
9	相談援助の意義	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
10	相談援助の理論と方法	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		間)。	
11	相談援助の対象と技術	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
12	利用者の保護～権利擁護と苦情解決等	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
13	現代の福祉問題－少子化社会における子育て支援	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
14	現代の福祉問題－共生社会の実現と障害者施策	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
15	社会福祉の動向と課題－在宅福祉・地域福祉の推進	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TOKU26
授業形態： 講義
科目名： 子ども家庭福祉
担当教員： 瀧本　逸誠(TAKIMOTO　Issei)

【授業の紹介】
　子ども家庭福祉は、子どもの福祉の増進とともに、「子どものより良き適応を援助する」だけでなく、子どもの家庭を含めて支援する体制や仕組みが必要となっています。また、現代社会における子ども・家庭問題は、少子化の中で、児童虐待をはじめ、危機的状況に立たされています。このような現状と課題に加えて、子ども家庭福祉の専門職として,子どもの最善の利益、保護者対応、子どもの人権擁護や貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応等について学習します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	④　思考力・判断力・表現力	
		⑤　多様な人材との協力・協働	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
1．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解できる。
2．子どもの人権擁護について理解できる。
3．子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解できる。
4．子ども家庭福祉の現状と課題について理解できる。
5．子ども家庭福祉の動向と展望について理解できる。

【成績の評価】
定期試験（７０％）、レポート（３０％）
レポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】
　テキストは使用しない。テーマに沿ってレジュメ又はスライド資料を用意する。

【参考文献】
『子ども家庭福祉』（吉田眞理著、萌文書林、 2023年）
『子ども家庭福祉』(児童育成協会監修、新保幸男・小林理編集、中央法規 2023年)
『保育者のための児童家庭福祉データブック2022』(西郷泰之・宮島清編集、中央法規 2021年)
『民生委員・児童委員必携　第64集』(全国社会福祉協議会発行、2020年)
『民生委員・児童委員必携　第67集』(全国社会福祉協議会発行、2023年)

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は実務経験(児童相談所、児童自立支援施設、障害児支援施設、発達障害者支援センター、不登校等各種委員、民生児童委員など)のある教員による授業科目です。担当教員の現場経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	子ども家庭福祉の理念と概念	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
2	子ども家庭福祉の歴史①－イギリス、アメリカ	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
3	子ども家庭福祉の歴史②－日本	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
4	現代社会と子ども家庭福祉	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
5	子どもの人権擁護－歴史的変遷	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
6	子どもの人権擁護－子どもの権利条約	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
7	子ども家庭福祉の制度と法体系	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
8	児童福祉施設と専門職	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
9	少子化と地域子育て支援	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
10	多様な保育ニーズへの対応	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理を	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		し、記録しておくこと(2時間)。	
11	子ども虐待・ＤＶとその防止	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
12	障害のある子どもへの対応	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
13	少年非行等への対応	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
14	貧困家庭、外国籍の子どもとその家族への対応	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
15	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進	予習として配布資料の中で、気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 復習として配布されたプリント（レジュメ又はスライド資料）を使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(2時間)。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： TOKU26
授業形態： 講義
科目名： 特別支援教育
担当教員： 湯浅　恭正(YUASA　Takamasa)

【授業の紹介】
特別な支援を必要とする子ども理解を進めるための基本を講義し、学校における教育内容・教育方法について学ぶ。そのために特別な支援を必要とする子どもの心理特性・発達特性、学級づくり・授業づくりの指導方法と教育課程の概要を講義する。これらを通して教師の資質・能力として必要な知識・技術・教育観について学ぶ。さらにインクルーシブ教育の理念・国際的動向・制度の基本を押さえ、「通級による指導」や「自立活動」の意義に触れるとともに、特別支援学校・学級で求められる個別の指導計画・個別の教育支援計画の意義、関係機関との連携等、インクルーシブ教育時代の特別支援教育の現代的課題を学ぶ。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑤　多様な人材との協力・協働	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
1.特別な支援を必要とする子どもの生活・発達・学習における困難さとニーズを把握するための基本を理解することができ、それを表現して他者に伝えることができる。
2.特別な支援を必要とする子どもが授業や学級活動に参加するための支援に必要な知識・支援方法・関係機関との連携の在り方の基本を理解することができ、それを表現して他者に伝えることがてきる。
3.特別な支援を必要とする子どもとともに生きるインクルーシブな共生社会の在り方の基本を理解することができ、それを表現して他者に伝えることができる。

【成績の評価】
①授業の各回をいくつかにまとめたテーマごとに特別支援教育の基本的な知識と指導技術の理解、さらに教育観について各自が総括した報告を評価する(８０%)-総括の視点は授業において適宜説明し、学生からの質問等を受けて質の高い総括報告を求める。
②授業の毎回において小報告を提出し、それをトータルに評価する(20%)-毎回の小報告について特に重要だと思われる学生からの指摘や質問を取り上げて、次回の授業でフィードバックする。

【使用テキスト】
『よくわかる特別支援教育 第2版』(湯浅恭正編、ミネルヴァ書房、2018)

【参考文献】
授業において適宜資料を配布する。また参考文献として、渡部昭男『障害のある子の就学・進学ガイドブック　改訂版』日本標準、2022。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	特別支援教育を学ぶために-授業のガイダンス	予習内容:指定したテキストの目次を含めて特別支援教育の内容を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、特別支援教育の概要を要約し、講義で紹介した関連する文献等を図書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。	
2	インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の理念と制度	予習内容:指定したテキストの内容のうち、インクルシ-ブ教育と特別支援教育制度の関連を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、特別支援教育の理念とインクルーシブ゛教育の関連のポイントを整理し、図書館やネット等で関連する内容を調べて総括報告に備える(2時間)。	
3	特別なニーズのある子どもの発達特性	予習内容:指定したテキストの内容のうち、特別なニーズのある子どもの発達特性を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、発達障害などの子どもの発達特性の理解についてポイントを整理し、図書館やネット等で関連する内容を調べて、総括報告に備える(2時間)。	
4	特別なニーズのある子どもの心理特性	予習内容:指定したテキストの内容のうち、特別なニーズのある子どもの心理特性を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、発達障害などの子どもの心理特性の理解についてポイントを整理し、図書館やネット等で調べて総括報告に備える(2時間)。	
5	特別支援学校・学級に在籍する子どもの学習・発達における困難さ	予習内容:指定したテキストの内容のうち、特別支援学校・学級に在籍する子どもの学習・発達における困難さを概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、特別支援学校・学級に在籍する子どもの学習と発達の困難さを理解するためのポイントを整理し、図書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。	
6	特別な支援を必要とする幼児の支援方法	予習内容:指定したテキストの内容のうち、特別な支援を必要とする幼児の支援方法について概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、特別な支援を必要とする幼児の支援方法のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。	
7	特別な支援を必要とする児童・生徒の支援方法	予習内容:指定したテキストの内容のうち、通常学級での指導事例を読み、口頭発表に備える(3時間)。復習内容:口頭発表を踏まえて、通常学級での特別な支援を必要とする児童・生徒の支援方法のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。	
8	教育課程における「通級による指導」「自立活動」の位置づけ	予習内容:指定したテキストの内容のうち、「通級による指導」「自立活動」の内容を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、「通級による指導」自立活動」の内容と教育課程における位置づけのポイントを整理し、図書館やネット等で調べて総括報告に備える(2時間)。	
9	「通級による指導」の内容と指導方法	予習内容:指定したテキストの内容のうち、「通級による指導」の内容と指導事方法を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、「通級による指導」の内容と指導方法ののポイントを整理し、図	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。	
10	「自立活動」の内容と指導方法	予習内容:指定したテキストの内容のうち、自立活動」の内容と指導方法を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、「自立活動」の内容と指導方法のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて総括報告に備える(2時間)。	
11	個別の指導計画・個別の教育支援計画の意義と教育課程	予習内容:指定したテキストの内容のうち、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、「個別の指導計画「個別の教育支援計画」の意義と教育課程の関連のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて総括報告に備える(2時間)。	
12	個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成する方法	予習内容:指定したテキストの内容のうち、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を作成する方法をメモし、講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」作成する方法のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて総括報告に備える(2時間)。	
13	関係機関と連携して特別支援教育の体制を整備する意義	予習内容:指定したテキストの内容のうち、関連機関と連携して特別支援教育の体制を整備する意義を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、関連機関と連携して特別支援教育の体制を整備する意義のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。	
14	外国につながりのある子ども・貧困等により困難な課題のある子どもへの支援	予習内容:指定したテキストの内容のうち、外国につながりのある子どもを含めた特別なニーズのある子どもの支援について概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、外国につながりのある子どもを含めた特別なニーズのある子どもの支援のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。	
15	インクルーシブ教育時代の特別支援教育の方向	予習内容:講義全体を振り返り、総括報告に備える(3時間)。復習内容:講義を踏まえて、図書館等を活用して、インクルーシブ教育時代の特別支援教育の方向を整理し、最終の総括報告のための準備をするとともに、講義全体を振り返り、教職における特別支援教育の意義を確かめる(4時間)。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： ONGA2
授業形態： 演習
科目名： 器楽【電子オルガン】
担当教員： 西村　京子(NISHIMURA　Kyoko)

【授業の紹介】
　電子オルガンの授業です。教育・保育現場における音楽活動に必要な知識や演奏技術を楽曲を通して学び、自主的に音楽表現を行えるように、個人レッスン形式で演奏指導を行います。こども音楽療育士の資格取得に関する科目です。電子オルガンの経験は問いません。初心者・経験者それぞれに合わせて選曲し進めていきますので心配ありません。電子オルガン用の３段楽譜とコードネーム付き１段譜の両方を学習することにより、教育・保育の現場での、より実践的な力が身に付きます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．両手・両足を使って、いろいろなリズムの曲の演奏ができる。
２．コードネームを見て、その曲に適切な伴奏をつけることができる。
３．日常的な子どもの活動に合わせて、その場にふさわしい音楽をつけることができる。

【成績の評価】
　定期試験（70%）による評価とともに、授業に取り組む姿勢（３０%）なども加味して評価します。
　定期試験は、「両手・両足を使って弾ける」、「ゆっくりでもリズムに合わせて弾ける」、「指示されたテンポでプログラムに合わせて弾ける」、「強弱もつけて音楽的に仕上げられている」の４段階を基準に採点します。
　授業においては、楽曲の演奏について、指摘した問題点を次の授業に、また定期試験においては、試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

【使用テキスト】
こどものうた　稲葉夕佳他著（２００３年ヤマハミュージックメディア）
スタジオジブリ作品集１　上野みゆき他著（２００５年ヤマハミュージックメディア）
デイズニー映画ベストソングセレクション　岩崎孝昭他著（２００５年ヤマハミュージックメディア）等

【参考文献】
STAGEAレジストレーションメニューで弾くベストメロディーズ１６５
STAGEAレジストレーションメニューで弾くベストメロディーズ１６５Vol.2
尾野カオル他著（２００４年ヤマハミュージックメディア）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力、電子オルガン演奏能力の調査、楽曲の選定、電子オルガンの基本的操作の練習）	今までに練習したことのあるピアノ曲または電子オルガン曲を思い出して各自の演奏能力が判定できるよう練習しておくこと。（１時間）	
2	ジャズ①クラリネットスイング（茶色の小びん） マイレパートリー①（右手を主に）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	ジャズ②デキシーランドジャズ（わらの中の七面鳥） マイレパートリー①（左手と足を主に）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	ジャズ③チャールストン（森のくまさん） マイレパートリー①（両手足）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	８ビート①シンプル８ビート１（キラキラ星） マイレパートリー①（リズムに合わせて仕上げ）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	８ビート②シンプル８ビート２（オーラリー） マイレパートリー②（右手を主に）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	マーチ①キッズマーチ１（１年生になったら） マイレパートリー②（左手と足を主に）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	マーチ②キッズマーチ２（さんぽ） マイレパートリー②（両手足）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	ワルツ①ピュアワルツ（エーデルワイス） マイレパートリー②（リズムに合わせて仕上げ）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	クリスマス曲①スノーワルツ１（きよしこの夜） マイレパートリー③（右手を主に）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	クリスマス曲②スノーワルツ２（おめでとうクリスマス） マイレパートリー③（左手と足を主に）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	クリスマス曲③ウインタースイング（ジングルベル） マイレパートリー③（両手足）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
13	ラテン①コミカルルンバ（南の島のハメハメ大王） マイレパートリー③（リズムに合わせて仕上げ）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	ラテン②コミカルサンバ（アイアイ） 実技テストに弾く曲の復習①	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	ラテン③ポップチャチャ（おもちゃのチャチャチャ） 実技テストに弾く曲の復習②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　ONGA2
授業形態：　演習
科目名：　器楽【ピアノ】
担当教員：　酒井　信(SAKAI　Makoto)

【授業の紹介】
　ピアノの授業です。教育・保育の現場における音楽活動に必要な知識や演奏技術を楽曲を通して習得し、自主的な音楽表現ができるように、また子どもに音楽指導が行えるようになるための学習をします。ソナチネ程度以上の任意の楽曲を選び、個人レッスンで指導をします。こども音楽療育士の資格取得に関する科目です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
1.ピアノの基本的な技術を身に付け、演奏することができる。
2.楽譜の中から表現したいことを見つけ、自分の言葉で伝えることができる。
3.伝えたいことをピアノの音で表現することができる。

【成績の評価】
定期試験（90%）による評価とともに、授業に取り組む姿勢（10%）なども加味して評価します。

定期試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】
ソナチネアルバム第一巻（今井顕　校訂・注解　全音楽譜出版社）他

【参考文献】
なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーションおよび課題曲の選曲	ソナチネアルバム第一巻等、ソナチネ程度以上の楽譜を用意すること。その中から任意の一曲を練習すること。(30分以上)	
2	音符、休符、リズムの確認	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
3	拍子について	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
4	デュナーミクについて	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
5	演奏姿勢、手のフォームついて	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
6	指の動かし方について	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
7	タッチについて	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
8	アーティキュレーションについて	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
9	フレージングについて	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
10	ペダリングについて	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。表現したいことを考えながら練習すること。	
11	音色について	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。表現したいことを考えながら練習すること。	
12	楽曲の背景、作曲者について	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。表現したいことを考えながら練習すること。	
13	各フレーズにおける表現についての各自の考察	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。自分の演奏を録音して聴き、改善点を見つけ練習すること。	
14	総合的な演奏表現についての各自の考察	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。自分の演奏を録音して聴	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		き、改善点を見つけ練習すること。	
15	合同リハーサルと演奏に対する意見交換	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。自分の演奏を客観的に聴きながら、練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA2
授業形態： 演習
科目名： 器楽【弦楽器】
担当教員： 福﨑　至佐子(FUKUZAKI Hisako)

【授業の紹介】
この授業は実務経験のある教員による授業科目です。プロオーケストラの現場での演奏経験を活かし、具体的な事例を示しながら資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を養う授業を行います。
ヴァイオリンの基礎奏法を学びます。
ヴァイオリンについての概略（楽器の構造・歴史・取り扱い方法・弦の張り方・調弦方法・楽器の構え方）
弓についても同上とする。簡易な作品からスタートします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・やさしい童謡からスタートし、レベルに合わせて高度な楽曲も演奏することができる。
・美しい音色、正しい音程を聞き分ける耳を養い、絶対音感を身に付けることができる。
・大学のオータムコンサートに出演することができる。

【成績の評価】
①授業態度（20%）、②定期試験（80%）により総合的に判断します。
また、発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】
鈴木慎一ヴァイオリン指導曲集第１巻
ヴァイオリン練習曲カイザー第１巻～第３巻

【参考文献】
ホーマンヴァイオリン教則本第１巻～第４巻

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
2	楽器の構造・名称	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
3	楽器の持ち方、弓の持ち方、姿勢	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
4	ボーイング（運弓）の練習（右手）	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
5	運指の練習（左手）	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
6	リズムの練習	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
7	全弓の練習（全音符、付点２分音符、等）	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
8	キラキラ星変奏曲１（１６分音符のリズムをはぎれ良く弾けるようにする）	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
9	キラキラ星変奏曲２（三連音符のリズムを正しく弾けるようにする）	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
10	蝶々、ロングロングアゴー（右手のボーイングをなめらかに使えるようにする）	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
11	かすみか雲か、むすんでひらいて（付点４分音符の弓のスピードを保つようにする）	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
12	バッハ作曲　メヌエット１番（スラ―とポルタートのちがいを勉強する）	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
13	バッハ作曲　メヌエット２番（移弦は手首を使ってなめらかに弾く練習をする）	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
14	バッハ作曲　メヌエット３番（複雑なスラーをきちんと理解出来るようにする）	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
15	ゴセック作曲　ガボット	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA3
授業形態： 演習
科目名： 声楽
担当教員： 藤原　フサヱ(FUJIWARA　Fusae)

【授業の紹介】
　教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解する中で「音楽」は重要な要素の一分野である。「声」という最も身近で個性的かつ魅力的な楽器の使用法(発声法)を中心に学び、教育・保育の現場で子どもに対して魅力的な範唱ができるよう、専門的な技能を体得する。また子どもとの豊かな音楽活動を実現できるよう歌唱レパートリーを充実させる。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・息の流れを習得することができる。
・音域を広げることができる。
・声を明瞭にすることができる。
・童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる。（１曲ずつ）

【成績の評価】
　指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。
　当日発表演奏９０％　課題への取り組み方１０％
　実技の発表、課題への取り組み方ともに授業内でその都度講評を行う他、オフィス・アワー等授業時間外にも個別の質問や相談に応じる。
　最終回は全員でクラス発表を行い、感想を述べあう。問題点がある場合は再度練習をしてより高い完成度を目指す。

【使用テキスト】
『コンコーネ50番』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）
『こどものうた大集合210』（坂田おさむ 編）（ソットーミュージック出版　2012年）
『日本の名歌集1・2』（音楽之友社 編）（音楽之友社　2010年）
『イタリア古典歌曲集』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）

【参考文献】
『美しい発声法』（D.P.マクロスキー著、高山教子 訳）（音楽之友社　2002年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
2	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番1~3、春の童謡	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
3	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番4~6、春の唱歌	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
4	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番7~9、夏の童謡	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
5	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番10~12、夏の唱歌	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
6	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番13~15、秋の童謡	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
7	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番16~18、秋の唱歌	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
8	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番19~21、冬の童謡	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
9	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番22~24、冬の唱歌	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
10	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番25~27、日本の抒情歌	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		め、授業時に指導を受けること。	
11	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番28~30、日本の抒情歌	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
12	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番31~33、イタリア古典歌曲	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
13	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番34~36、イタリア古典歌曲	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
14	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番世界の名曲	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
15	呼吸法と発声練習、各クラスにて発表演奏	呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： ONGA4
授業形態： 演習
科目名： 合唱
担当教員： 水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu)

【授業の紹介】
教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解する中で「音楽」は重要な要素の一分野である。「声」は最も身近で個性的かつ魅力的な楽器である。受講者全員がそれぞれの声を響かせ、心を一つにして歌い上げる合唱は、子どもの豊かな心や創造力を導き出すための高い使命感・倫理観を醸成し、教育・保育に必要な実践力を体現することができる。授業では、それぞれの受講者の声に合ったパート分けをし、二部、三部、四部合唱等を楽しむことができるようにする。女声合唱、男声合唱、混声合唱等各種の合唱の魅力を味わい、人の声の素晴らしさを体験する。曲目については、日本の名曲、世界の名曲、童謡等から選び、外国の曲は原語で演奏する。バロックから現代までの幅広い選曲を行う。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・美しい響きの声を理解し、各自のパートをしっかりと歌うことができる。
・合唱になっても他のパートにつられない様に歌うことができる。
・アンサンブルの中で各々の役割を果たしながら、共演者と響きや表現を合わせることができる。
・作品の魅力を理解し、豊かな表現とその喜びを味わうことができる。

【成績の評価】
各自の個性を大切にしつつ全体のハーモニーの事を考え、楽曲の理解や演奏内容を考慮して評価し、単位を認定する。
公開演奏５０％　課題への取り組み方５０％
最終授業時に、広い会場で演奏して音楽の美しさ・楽しさを感じ取ること。
個人へのフィードバックは、毎回の授業にて随時行う。
全体へ向けては、収録した演奏とともにクラスルーム等に批評を掲載する。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
『声とことばのトレーニング』（加藤友康）桐書房出版（1998年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、パート分け、自由曲の2曲選び、楽曲解説	予習（３０分）：各自で歌いたい合唱曲を調べておく。 復習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、主に「歌詞の音読を行い、内容の解釈に努める」ワークシートにその成果を記載する。	
2	発声練習（発声のための身体づくり、主に姿勢について、ボディマッピングとは）、課題曲のパート練習	予習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、主に「歌詞の音読を行い、内容の解釈に努める」 復習（３０分）：「各自のパートの譜読みを行い、固定ド唱、または移動ド唱が出来るように練習する」ワークシートにその成果を記載する。	
3	発声練習（発声のための身体づくり、主に呼吸について、腹部の意識の方法）、課題曲のパート練習と全体練習	予習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、主に「歌詞の音読を行い、内容の解釈に努める」 復習（３０分）：「各自のパートの譜読みを行い、固定ド唱、または移動ド唱が出来るように練習する」ワークシートにその成果を記載する。	
4	発声練習（発声のための身体づくり、主に筋緊張のリリースについて）、自由曲１のパート練習	予習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、主に「歌詞の音読を行い、内容の解釈に努める」 復習（３０分）：「各自のパートの譜読みを行い、固定ド唱、または移動ド唱が出来るように練習する」ワークシートにその成果を記載する。	
5	発声練習（発声のための身体づくり、 主に横隔膜について）自由曲１のパート練習と全体練習	予習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、主に「歌詞の音読を行い、内容の解釈に努める」 復習（３０分）：「各自のパートの譜読みを行い、固定ド唱、または移動ド唱が出来るように練習する」ワークシートにその成果を記載する。	
6	発声練習（発声のための身体づくり、主に口腔内の意識の仕方）自由曲２のパート練習	予習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、主に「歌詞の音読を行い、内容の解釈に努める」 復習（３０分）：「各自のパートの譜読みを行い、固定ド唱、または移動ド唱が出来るように練習する」ワークシートにその成果を記載する。	
7	発声練習（発声のための身体づくり、 主に表情筋の使い方）自由曲２のパート練習と全体練習	復習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、主に「歌詞の無声音読を行う」 予習（３０分）：「各自のパートの譜読みを行い、固定ド唱、または移動ド唱が出来るように練習する」ワークシートにその成果を記載する。	
8	発声練習（発声のための身体づくり、主に鼻腔の意識の仕方）パート練習（弱点教科練習）	復習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、主に「歌詞の無声音読を行う」 予習（３０分）：「固定ド唱、または移動ド唱法で練習する」ワークシートにその成果を記載する。	
9	発声練習（美しい母音づくり「あ」）、課題曲の全体練習	復習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、主に「歌詞の無声音読を行う」 予習（３０分）：「固定ド唱、または移動ド唱法で練習する」ワークシートにその成果を記載する。	
10	発声練習（美しい母音づくり「い」）、自由曲１の全体練習	復習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、主に「歌詞の無声音読を行う」	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		予習（３０分）：「固定ド唱、または移動ド唱法で練習する」ワークシートにその成果を記載する。	
11	発声練習（美しい母音づくり「う」と「お」）自由曲２の全体練習、本番の演出についての議論	復習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、本番の演出についてのアイデアを纏める。 予習（３０分）：本番の演出について決まったことに従って、本番での自分の役割や行動等をワークシートに纏める。	
12	発声練習（美しい母音づくり「え」）、全曲の全体練習（和声感の強化）	復習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、主に「歌詞の無声音読を行う」 予習（３０分）：「伴奏音源に合わせて練習する」	
13	発声練習（主に高音について）、全曲の全体練習（フレージングの強化）	復習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、主に「歌詞の無声音読を行う」 予習（３０分）：「伴奏音源に合わせて練習する」ワークシートにその成果を記載する。	
14	発声練習（主に明確な子音づくり）、全曲の全体練習（明確な発音による表現の強化）	復習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、主に「歌詞の無声音読を行う」 予習（３０分）「伴奏音源に合わせて練習する」ワークシートにその成果を記載する。	
15	公開演奏のリハーサル	予習（３０分）：教員の用意したワークシートに従って、「各自発表の準備」 復習（３０分）：ワーク使途に従って「リハーサルの振り返り」などについて記録する。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： ONGA5
授業形態： 演習
科目名： 合奏
担当教員： 金川　公久(KANAGAWA　Hirohisa)

【授業の紹介】
　中学・高校の吹奏楽部などで器楽演奏を経験した者及び個人的に習ったことのある管打楽器を使用して合奏を行う授業です。
　指導者による合奏を通し、演奏上の様々な問題点についての支援方法を体験することにより、演奏法に関する諸情報を収集し、理解し、それを基盤として演奏にかかる諸問題を自ら発見し解決することができる能力を培い、将来、子供たちをより良い環境に導くための実践的能力を養うことで教育に係る資質を身に付け、学部のめざす教育者像をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．演奏技術及び合奏技術の向上を図ることができる。
２．集団での演奏活動を通して、積極性、協調性、社会性、集中力や感性を養うことができる。
３．将来、子供たちを指導するためのポイントのつかみ方を学ぶことができる。

【成績の評価】
平常の授業への取り組む姿勢50%、個人的指導に対する応える能力50%。
演奏内容について、合奏する合間で、常に講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】
全体的な演奏の技量に応じて、楽譜などを配布します。

【参考文献】
JBCバンドスタディ（ヤマハ楽譜出版）
3Dハンドブック（ヤマハ楽譜出版）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	下記の授業計画は目安であり、内容や進行は状況に応じて変わることがあります。 オリエンテーション	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
2	基礎合奏及び楽曲Ⅰ「嵐メドレー」の初見合奏及び部分合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
3	基礎合奏及び楽曲Ⅰ「嵐メドレー」の部分合奏によるピッチ合わせ及びバランス調整	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
4	基礎合奏及び楽曲Ⅰ「嵐メドレー」の部分合奏によるピッチ合わせ及びバランス調整	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
5	第５回　基礎合奏及び楽曲Ⅰ「嵐メドレー」の部分合奏によるピッチ合わせ及びバランス調整	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
6	第６回　基礎合奏及び楽曲Ⅰ「嵐メドレー」のまとめ合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
7	基礎合奏及び楽曲Ⅱ「ウィーアー」の初見演奏及び部分合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
8	基礎合奏及び楽曲Ⅱ「ウィーアー」の部分合奏によるピッチ合わせ及びバランス調整	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
9	基礎合奏及び楽曲Ⅱ「ウィーアー」の部分合奏によるピッチ合わせ及びバランス調整	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
10	基礎合奏及び楽曲Ⅱ「ウィーアー」の部分合奏によるピッチ合わせ及びバランス調整	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
11	第11回　基礎合奏及び楽曲Ⅱ「ウィーアー」のまとめ合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
12	基礎合奏及び楽曲Ⅰの復習練習	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
13	基礎合奏及び楽曲Ⅱの復習練習	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
14	基礎合奏及び楽曲Ⅰ及びⅡのまとめ合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
15	基礎合奏及び楽曲Ⅰ及びⅡのまとめ合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽Ｉ－Ｉ
担当教員： 水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu),藤原　フサヱ(FUJIWARA　Fusae)

【授業の紹介】
小学校音楽科の授業、また音楽に関連した特別活動の指導上必要な専門的知識と実践的能力を身に付けられるよう以下の項目を中心に学びます。
・ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技能。
・授業展開に必要な音楽理論。
・小学校音楽科で扱われる種々の楽器の取り扱いと演奏技術。
・歌唱共通教材を中心に、ハ、二、へ、ト、変ロ長調の階名唱。
・簡単な合奏と、４分の２、４分の３，４分の４、８分の６拍子の指揮法。
また自ら継続的に学ぶ能力を養うために、毎週系統的な課題に臨み、安定した学びの習慣を確立します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１　児童教育現場で、授業を円滑に行うために必要な歌唱および器楽の演奏技術と音楽理論を修得できる。
２　曲想と音楽の構造との関わりについて理解して演奏することができる。
３　音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことができる。
４　小学校教諭にとって音楽に関する必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育の実践と関連づけて理解することができる。

【成績の評価】
定期試験-筆記（３５％）、定期試験-実技（３５％）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（３０％）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】
小学校教員養成課程用　最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
(平成３０年２月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社)

【参考文献】
小学校学習指導要領解説　音楽編（平成２９年６月　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（唱歌のあゆみと　ナポリ民謡　”O sole mio”　についての講話）、楽譜の説明	予習（１５分）：O sole mio　の音源を見つけて聴いておく。 復習（９０分）：理論に関する復習プリントおよび指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
2	ピアノ奏法（1）、ハ長調、イ短調音階、ハ長調の階名唱、I度の三和音	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：理論に関する復習プリントおよび指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
3	ピアノ奏法（2）、ト長調、ホ短調音階、ト長調の階名唱、V度の三和音	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：理論に関する復習プリントおよび指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
4	ピアノ奏法（3）、ニ長調、ロ短調音階、ニ長調階名唱、IV度の三和音	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：理論に関する復習プリントおよび指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
5	ピアノ奏法（4）、ヘ長調、ニ短調音階、ヘ長調の階名唱、V7の和音	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：理論に関する復習プリントおよび指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
6	ピアノ奏法（5）、変ロ長調、ト短調音階、変ロ長調の階名唱、和音の転回	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：理論に関する復習プリントおよび指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
7	ピアノ奏法（6）、基本的な伴奏法	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：理論に関する復習プリントおよび指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
8	ピアノ奏法（7）、簡単なコード（C,F,G,G7）による伴奏法	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：理論に関する復習プリントおよび指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
9	歌唱共通教材を使用した歌唱法	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：歌唱に関する復習プリントおよび指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
10	歌唱共通教材のピアノ弾き歌い	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：弾き歌いに関する復習プリントおよび指定された実技練習。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
11	リコーダー奏法	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：リコーダー指導に関する復習プリントおよび指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
12	鍵盤ハーモニカ奏法	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
13	さまざまな打楽器の奏法、ボディ・パーカッションと音楽遊び	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
14	４分の２，あるいは４分の４拍子の合奏曲と指揮法	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
15	４分の３および８分の６拍子の合奏曲と指揮法	予習（３０分）：指定された実技練習。 復習（９０分）：指定された実技練習。 実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　ONGA7
授業形態：　演習
科目名：　音楽Ｉ－II
担当教員：　水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu),藤原　フサヱ(FUJIWARA　Fusae)

【授業の紹介】
小学校音楽科の授業、また音楽に関連した特別活動の指導上必要な専門的知識と実践的能力を身に付けられるよう、音楽I-Iに引き続き、以下の項目を中心に学びます。
・ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技能。
・授業展開に必要な音楽理論。
・小学校音楽科で扱われる種々の楽器の取り扱いと演奏技術。
・階名唱の反復練習、簡単な弾き歌い、および２部合唱。
・出来るだけ多くの楽器の体験。
・（既存の合奏譜に加える形で）打楽器パートのリズム譜の作成とその演奏。
また自ら継続的に学ぶ能力を養うために、毎週系統的な課題に臨み、安定した学びの習慣を確立します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１　児童教育現場で、授業を円滑に行うために必要な歌唱および器楽の演奏技術と音楽理論を修得できる。
２　曲想と音楽の構造との関わりについて理解して演奏することができる。
３　音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことができる。
４　小学校教諭にとって音楽に関する必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育の実践と関連づけて理解することができる。

【成績の評価】
定期試験-筆記（３５％）、定期試験-実技（３５％）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（３０％）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】
小学校教員養成課程用　最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
(平成３０年２月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社)

【参考文献】
小学校学習指導要領解説　音楽編（平成２９年６月　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、前期の復習	予習（３０分）：ワークシートに前期の復習を行い、疑問点を纏めておく。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。	
2	ピアノ奏法（１）拍子の確認	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。	
3	ピアノ奏法（２）音価の確認	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。	
4	ピアノ奏法（３）I/IV/V/V7の和音の確認	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。	
5	ピアノ奏法（４）和音の転回の確認	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。	
6	ピアノ奏法（５）コード表記（C,F,G,G7）の確認	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。	
7	弾き歌い（１）低学年の曲から	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。	
8	弾き歌い（２）中学年の曲から	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。	
9	合唱（１）さまざまな練習法、パート練習	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。	
10	合唱（２）全体練習、留意点の確認	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。	
11	合唱（３）発表、ふり返り	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。	
12	合奏（１）リズム譜の作成	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。	
13	合奏（２）さまざまな練習法、パート練習	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答す	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		る。	
14	合奏（３）全体練習、留意点の確認	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。	
15	合奏（４）発表、ふり返り	予習（６０分）：指定の実技練習、音楽理論課題をワークシートに従って行う。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上に示されたチェック項目に回答する。 復習（３０分）：ワークシートに従い、振り返りを行う。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　ONGA8
授業形態：　演習
科目名：　音楽Ⅱ－Ⅰ【発Ａ】
担当教員：　西村　京子(NISHIMURA　Kyoko)

【授業の紹介】
　子どもの音楽教育に関する科目です。
　幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
　この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル８０番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
　また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１.音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２.教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３.ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４.他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５.保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
　前期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
　当日の実技発表演奏９０％、課題への取り組み方１０％で評価する。
　発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】
　全音楽譜出版社『バイエル教則本』
　『ツェルニー１００番・３０番教則本』
　『ブルグミュラー２５番練習曲集』
　『ソナチネアルバム第１巻』
　『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
　なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力の調査、教則本・楽曲の選定。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜持参）	前期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①　バイエル　８番～１７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②　バイエル１８番～２７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③　バイエル２８番～３７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④　バイエル３８番～４７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤　バイエル４８番～５７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥　バイエル５８番～６９番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦　バイエル７０番～８０番、前期末実技試験の課題曲発表	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導⑤	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　ONGA8
授業形態：　演習
科目名：　音楽Ⅱ－Ⅰ【発Ａ】
担当教員：　酒井　信(SAKAI　Makoto)

【授業の紹介】
　子どもの音楽教育に関する科目です。
　幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
　この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル８０番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
　また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１.音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２.教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３.ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４.他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５.保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
　前期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
　当日の実技発表演奏９０％、課題への取り組み方１０％で評価する。
　発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】
　全音楽譜出版社『バイエル教則本』
　『ツェルニー１００番・３０番教則本』
　『ブルグミュラー２５番練習曲集』
　『ソナチネアルバム第１巻』
　『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
　なし

【実務経験】
　無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
　有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力の調査、教則本・楽曲の選定。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜持参）	前期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①　バイエル　８番～１７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②　バイエル１８番～２７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③　バイエル２８番～３７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④　バイエル３８番～４７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤　バイエル４８番～５７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥　バイエル５８番～６９番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦　バイエル７０番～８０番、前期末実技試験の課題曲発表	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導⑤	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　ONGA8
授業形態：　演習
科目名：　音楽Ⅱ－Ⅰ【発Ａ】
担当教員：　日野　朝代(HINO　Tomoyo)

【授業の紹介】
　子どもの音楽教育に関する科目です。
　幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
　この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル８０番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
　また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１.音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２.教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３.ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４.他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５.保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
　前期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
　当日の実技発表演奏９０％、課題への取り組み方１０％で評価する。
　発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】
　全音楽譜出版社『バイエル教則本』
　『ツェルニー１００番・３０番教則本』
　『ブルグミュラー２５番練習曲集』
　『ソナチネアルバム第１巻』
　『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
　なし

【実務経験】
　無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
　有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力の調査、教則本・楽曲の選定。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜持参）	前期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①　バイエル　８番～１７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②　バイエル１８番～２７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③　バイエル２８番～３７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④　バイエル３８番～４７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤　バイエル４８番～５７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥　バイエル５８番～６９番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦　バイエル７０番～８０番、前期末実技試験の課題曲発表	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導⑤	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA8
授業形態： 演習
科目名： 音楽Ⅱ－Ⅰ【発Ａ】
担当教員： 渡辺　磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】
子どもの音楽教育に関する科目です。
幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル８０番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１.音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２.教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３.ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４.他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５.保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
前期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
当日の実技発表演奏９０％、課題への取り組み方１０％で評価する。
発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】
全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー１００番・３０番教則本』
『ブルグミュラー２５番練習曲集』
『ソナチネアルバム第１巻』
『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力の調査、教則本・楽曲の選定。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜持参）	前期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①　バイエル　８番～１７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②　バイエル１８番～２７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③　バイエル２８番～３７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④　バイエル３８番～４７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤　バイエル４８番～５７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥　バイエル５８番～６９番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦　バイエル７０番～８０番、前期末実技試験の課題曲発表	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導⑤	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　ONGA8
授業形態：　演習
科目名：　音楽Ⅱ－Ⅰ【発Ｂ】
担当教員：　西村　京子(NISHIMURA　Kyoko)

【授業の紹介】
　子どもの音楽教育に関する科目です。
　幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
　この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル８０番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
　また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１.音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２.教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３.ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４.他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５.保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
　前期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
　当日の実技発表演奏９０％、課題への取り組み方１０％で評価する。
　発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】
　全音楽譜出版社『バイエル教則本』
　『ツェルニー１００番・３０番教則本』
　『ブルグミュラー２５番練習曲集』
　『ソナチネアルバム第１巻』
　『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
　なし

【実務経験】
　無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
　有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力の調査、教則本・楽曲の選定。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜持参）	前期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①　バイエル　８番～１７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②　バイエル１８番～２７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③　バイエル２８番～３７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④　バイエル３８番～４７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤　バイエル４８番～５７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥　バイエル５８番～６９番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦　バイエル７０番～８０番、前期末実技試験の課題曲発表	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導⑤	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　ONGA8
授業形態：　演習
科目名：　音楽Ⅱ－Ⅰ【発Ｂ】
担当教員：　日野　朝代(HINO　Tomoyo)

【授業の紹介】
　子どもの音楽教育に関する科目です。
　幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
　この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル８０番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
　また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１.音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２.教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３.ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４.他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５.保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
　前期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
　当日の実技発表演奏９０％、課題への取り組み方１０％で評価する。
　発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】
　全音楽譜出版社『バイエル教則本』
　『ツェルニー１００番・３０番教則本』
　『ブルグミュラー２５番練習曲集』
　『ソナチネアルバム第１巻』
　『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
　なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力の調査、教則本・楽曲の選定。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜持参）	前期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①　バイエル　８番～１７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②　バイエル１８番～２７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③　バイエル２８番～３７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④　バイエル３８番～４７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤　バイエル４８番～５７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥　バイエル５８番～６９番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦　バイエル７０番～８０番、前期末実技試験の課題曲発表	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導⑤	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　ONGA8
授業形態：　演習
科目名：　音楽Ⅱ－Ⅰ【発Ｂ】
担当教員：　渡辺　磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】
　子どもの音楽教育に関する科目です。
　幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
　この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル８０番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
　また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１.音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２.教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３.ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４.他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５.保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
　前期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
　当日の実技発表演奏９０％、課題への取り組み方１０％で評価する。
　発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】
　全音楽譜出版社『バイエル教則本』
　『ツェルニー１００番・３０番教則本』
　『ブルグミュラー２５番練習曲集』
　『ソナチネアルバム第１巻』
　『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
　なし

【実務経験】
　無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
　有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力の調査、教則本・楽曲の選定。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜持参）	前期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①　バイエル　８番～１７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②　バイエル１８番～２７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③　バイエル２８番～３７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④　バイエル３８番～４７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤　バイエル４８番～５７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥　バイエル５８番～６９番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦　バイエル７０番～８０番、前期末実技試験の課題曲発表	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導⑤	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA8
授業形態： 演習
科目名： 音楽Ⅱ－Ⅰ【発Ｂ】
担当教員： 出木浦　さゆり(DEKIURA　Sayuri)

【授業の紹介】
子どもの音楽教育に関する科目です。
幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル８０番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１.音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２.教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３.ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４.他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５.保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
前期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
当日の実技発表演奏９０％、課題への取り組み方１０％で評価する。
発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】
全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー１００番・３０番教則本』
『ブルグミュラー２５番練習曲集』
『ソナチネアルバム第１巻』
『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力の調査、教則本・楽曲の選定。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜持参）	前期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①　バイエル　８番～１７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②　バイエル１８番～２７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③　バイエル２８番～３７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④　バイエル３８番～４７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤　バイエル４８番～５７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥　バイエル５８番～６９番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦　バイエル７０番～８０番、前期末実技試験の課題曲発表	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	課題曲を中心に実技指導①（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導⑤	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑥（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑦（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA9
授業形態： 演習
科目名： 音楽Ⅱ－Ⅱ【発Ａ】
担当教員： 西村　京子(NISHIMURA　Kyoko)

【授業の紹介】
　子どもの音楽教育に関する科目です。
　幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
　この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー１００番・３０番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
　また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２．教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３．ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４．他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５．保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
　後期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
　当日の実技発表演奏９０％、課題曲への取り組み方１０％で評価する。
　発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】
　全音楽譜出版社『バイエル教則本』
　『ツェルニー１００番・３０番　教則本』
　『ブルグミュラー２５番練習曲集』
　『ソナチネアルバム第１巻』
　『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
　なし

【実務経験】
　無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
　有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力の再調査、教則本・楽曲の選定）	後期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①バイエル８１番～８３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②バイエル８４番～８６番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③バイエル８７番～９１番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④バイエル９２番～９４番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤バイエル９５番～９７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥バイエル９８番～１００番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦バイエル１０１番～１０３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	実技指導⑧バイエル１０４番～１０６番（後期末実技試験の課題曲発表） （この回以降は、後期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導①	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング：　ONGA9
授業形態：　演習
科目名：　音楽Ⅱ－Ⅱ【発Ａ】
担当教員：　酒井　信(SAKAI　Makoto)

【授業の紹介】
　子どもの音楽教育に関する科目です。
　幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
　この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー１００番・３０番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
　また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２．教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３．ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４．他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５．保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
　後期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
　当日の実技発表演奏９０％、課題曲への取り組み方１０％で評価する。
　発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】
　全音楽譜出版社『バイエル教則本』
　『ツェルニー１００番・３０番　教則本』
　『ブルグミュラー２５番練習曲集』
　『ソナチネアルバム第１巻』
　『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
　なし

【実務経験】
　無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
　有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力の再調査、教則本・楽曲の選定）	後期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①バイエル８１番～８３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②バイエル８４番～８６番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③バイエル８７番～９１番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④バイエル９２番～９４番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤バイエル９５番～９７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥バイエル９８番～１００番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦バイエル１０１番～１０３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	実技指導⑧バイエル１０４番～１０６番（後期末実技試験の課題曲発表） （この回以降は、後期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導①	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA9
授業形態： 演習
科目名： 音楽Ⅱ－Ⅱ【発Ａ】
担当教員： 日野　朝代(HINO　Tomoyo)

【授業の紹介】
子どもの音楽教育に関する科目です。
幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー１００番・３０番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２．教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３．ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４．他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５．保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
後期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
当日の実技発表演奏９０％、課題曲への取り組み方１０％で評価する。
発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】
全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー１００番・３０番　教則本』
『ブルグミュラー２５番練習曲集』
『ソナチネアルバム第１巻』
『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力の再調査、教則本・楽曲の選定）	後期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①バイエル８１番～８３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②バイエル８４番～８６番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③バイエル８７番～９１番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④バイエル９２番～９４番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤バイエル９５番～９７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥バイエル９８番～１００番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦バイエル１０１番～１０３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	実技指導⑧バイエル１０４番～１０６番（後期末実技試験の課題曲発表） （この回以降は、後期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導①	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA9
授業形態： 演習
科目名： 音楽Ⅱ－Ⅱ【発Ａ】
担当教員： 渡辺　磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】
子どもの音楽教育に関する科目です。
幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー１００番・３０番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２．教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３．ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４．他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５．保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
後期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
当日の実技発表演奏９０％、課題曲への取り組み方１０％で評価する。
発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】
全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー１００番・３０番　教則本』
『ブルグミュラー２５番練習曲集』
『ソナチネアルバム第１巻』
『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力の再調査、教則本・楽曲の選定）	後期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①バイエル８１番～８３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②バイエル８４番～８６番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③バイエル８７番～９１番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④バイエル９２番～９４番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤バイエル９５番～９７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥バイエル９８番～１００番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦バイエル１０１番～１０３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	実技指導⑧バイエル１０４番～１０６番（後期末実技試験の課題曲発表） （この回以降は、後期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導①	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA9
授業形態： 演習
科目名： 音楽Ⅱ－Ⅱ【発Ｂ】
担当教員： 西村　京子(NISHIMURA　Kyoko)

【授業の紹介】
子どもの音楽教育に関する科目です。
幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー１００番・３０番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２．教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３．ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４．他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５．保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
後期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
当日の実技発表演奏９０％、課題曲への取り組み方１０％で評価する。
発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】
全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー１００番・３０番　教則本』
『ブルグミュラー２５番練習曲集』
『ソナチネアルバム第１巻』
『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力の再調査、教則本・楽曲の選定）	後期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①バイエル８１番～８３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②バイエル８４番～８６番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③バイエル８７番～９１番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④バイエル９２番～９４番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤バイエル９５番～９７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥バイエル９８番～１００番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦バイエル１０１番～１０３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	実技指導⑧バイエル１０４番～１０６番（後期末実技試験の課題曲発表） （この回以降は、後期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導①	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA9
授業形態： 演習
科目名： 音楽Ⅱ－Ⅱ【発Ｂ】
担当教員： 日野　朝代(HINO　Tomoyo)

【授業の紹介】
子どもの音楽教育に関する科目です。
幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー１００番・３０番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２．教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３．ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４．他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５．保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
後期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
当日の実技発表演奏９０％、課題曲への取り組み方１０％で評価する。
発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】
全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー１００番・３０番　教則本』
『ブルグミュラー２５番練習曲集』
『ソナチネアルバム第１巻』
『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力の再調査、教則本・楽曲の選定）	後期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①バイエル８１番～８３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②バイエル８４番～８６番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③バイエル８７番～９１番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④バイエル９２番～９４番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤バイエル９５番～９７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥バイエル９８番～１００番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦バイエル１０１番～１０３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	実技指導⑧バイエル１０４番～１０６番（後期末実技試験の課題曲発表） （この回以降は、後期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導①	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA9
授業形態： 演習
科目名： 音楽Ⅱ－Ⅱ【発Ｂ】
担当教員： 渡辺　磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】
子どもの音楽教育に関する科目です。
幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー１００番・３０番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２．教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３．ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４．他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５．保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
後期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
当日の実技発表演奏９０％、課題曲への取り組み方１０％で評価する。
発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】
全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー１００番・３０番　教則本』
『ブルグミュラー２５番練習曲集』
『ソナチネアルバム第１巻』
『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力の再調査、教則本・楽曲の選定）	後期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①バイエル８１番～８３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②バイエル８４番～８６番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③バイエル８７番～９１番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④バイエル９２番～９４番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤バイエル９５番～９７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥バイエル９８番～１００番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦バイエル１０１番～１０３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	実技指導⑧バイエル１０４番～１０６番（後期末実技試験の課題曲発表） （この回以降は、後期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導①	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA9
授業形態： 演習
科目名： 音楽Ⅱ－Ⅱ【発Ｂ】
担当教員： 出木浦　さゆり(DEKIURA　Sayuri)

【授業の紹介】
　子どもの音楽教育に関する科目です。
　幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
　この授業では、音楽Ⅱ－Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー１００番・３０番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
　また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
２．教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
３．ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
４．他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
５．保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【成績の評価】
　後期終了時に、定期試験（実技演奏発表）を行い、担当教員６名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
　当日の実技発表演奏９０％、課題曲への取り組み方１０％で評価する。
　発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】
　全音楽譜出版社『バイエル教則本』
　『ツェルニー１００番・３０番　教則本』
　『ブルグミュラー２５番練習曲集』
　『ソナチネアルバム第１巻』
　『ソナタアルバム』　その他

【参考文献】
　なし

【実務経験】
　無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
　有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力の再調査、教則本・楽曲の選定）	後期シラバスに目を通し、各自の演奏能力に合った曲をあらかじめ弾いてみておくこと（１時間）	
2	実技指導①バイエル８１番～８３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	実技指導②バイエル８４番～８６番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	実技指導③バイエル８７番～９１番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	実技指導④バイエル９２番～９４番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	実技指導⑤バイエル９５番～９７番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	実技指導⑥バイエル９８番～１００番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	実技指導⑦バイエル１０１番～１０３番	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	実技指導⑧バイエル１０４番～１０６番（後期末実技試験の課題曲発表） （この回以降は、後期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	課題曲を中心に実技指導①	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	課題曲を中心に実技指導②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	課題曲を中心に実技指導③	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日３０分以上練習すること。	
13	課題曲を中心に実技指導④	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	課題曲を中心に実技指導⑤（各クラスにおいて課題の発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	課題曲を中心に実技指導⑥（クラス間合同発表演奏）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA10
授業形態： 演習
科目名： 音楽III－Ⅰ【弦楽器】
担当教員： 福﨑　至佐子(FUKUZAKI Hisako)

【授業の紹介】
この授業は実務経験のある教員による授業科目です。プロオーケストラの現場での演奏経験を活かし、具体的な事例を示しながら資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を養う授業を行います。
この授業は３年生後期に行います。
打楽器(小太鼓・大太鼓・カスタネット・スネア・タンバリン・すず・トライアングル)・音板楽器(木琴・鉄琴)・ピアノ・管楽器(リコーダー)等を用いて、簡単な重奏や合奏にした楽曲・クラシックの名曲を演奏し、基本的な指揮（アインザッツ・表現方法）を学びます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
◯学生が幅広く数多くの楽器の基礎演奏法を身に付けることができる。
◯将来保育士・幼稚園・小学校等の教諭となるための音楽の基礎知識(楽典)を理解し、自らも豊かな感性を磨き、後世に音楽の素晴らしさを伝えることができる。

【成績の評価】
平常の授業への取り組みを重視し、定期試験も含め総合的に評価します。
定期試験　80%
平常点　　20%
また、発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】
こどもの器楽合奏大全集　クラシック１
クラシック２
株式会社デプロ(2007年発行)

【参考文献】
音楽科の基礎練習
パウル・ヒンデミット著　坂本良隆/千蔵八郎 英訳
音楽之友(昭和63年発行)

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション(合奏について)	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
2	楽器の扱い方(手入れの仕方)	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
3	エルガー作曲 行進曲「威風堂々」第１番を演奏、強弱記号、速度記号について理解を深める	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
4	モーツァルト作曲 アイネクライネナハトムジークを演奏、総譜(スコアー)の読み方に慣れる	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
5	ブラームス作曲 ハンガリアン舞曲５番を演奏、強弱記号、反復記号をマスターする	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
6	バッハ作曲 G線上のアリアを演奏、緩やかなリズムの取り方、美しい音の出し方を学ぶ	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
7	メンデルスゾーン作曲 歌の翼にを演奏、細かい音符をはっきり出す奏法を学ぶ	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
8	ヴィヴァルディ作曲 四季より「春」を演奏、はぎれ良い音の出し方を研究	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
9	ヨハン・シュトラウス２世作曲「青く美しきドナウ」を演奏、ワルツのリズム感(３拍子)を会得する	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
10	ヨハン・シュトラウス１世 デラッキー行進曲を演奏、打楽器の基礎奏法と明確な音の出し方を研究する	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
11	強弱の変化をマスターする	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
12	モーツァルト独特の明るく、かるいリズム感の会得	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
13	ブラームスの深く暗い音色を探究する	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
14	バッハの古典的な歌いまわしと宗教的な音色を探究する	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
15	作曲家によって奏法のちがい、音色・リズム感の違いを体験初見がきくようにする	復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。１日１時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA10
授業形態： 演習
科目名： 音楽III－Ⅰ【管楽器】
担当教員： 金川　公久(KANAGAWA　Hirohisa)

【授業の紹介】
　中学・高校の吹奏楽部などで器楽演奏を経験した者及び個人的に習ったことのある管打楽器を使用して合奏を行う授業です。
　指導者による合奏を通し、演奏上の様々な問題点についての支援方法を体験することにより、演奏法に関する諸情報を収集し、理解し、それを基盤として演奏にかかる諸問題を自ら発見し解決することができる能力を培い、将来、子供たちをより良い環境に導くための実践的能力を養うことで教育に係る資質を身に着け、学部のめざす教育者像をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．演奏技術及び合奏技術の向上を図ることができる。
２．集団での演奏活動を通して、積極性、協調性、社会性、集中力や感性を養うことができる。
３．将来、子供たちを指導するためのポイントのつかみ方を学ぶことができる。

【成績の評価】
平常の授業への取り組む姿勢50%、個人的指導に対する応える能力50%。
演奏内容について、合奏する合間で、常に講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】
全体的な演奏の技量に応じて、楽譜などを配布します。

【参考文献】
JBCバンドスタディ（ヤマハ楽譜出版）
3Dハンドブック（ヤマハ楽譜出版）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	下記の授業計画は目安であり、内容や進行は状況に応じて変わることがあります。 オリエンテーション	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
2	基礎合奏及び楽曲Ⅰ「ブライト・ライツ」、Ⅱ「ライオン・キング」、Ⅲ「銀河鉄道999」の初見合奏及び部分合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
3	基礎合奏及び楽曲Ⅰ「ブライト・ライツ」の部分合奏によるピッチ合わせ及びバランス調整	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
4	基礎合奏及び楽曲Ⅰ「ブライト・ライツ」の部分合奏によるピッチ合わせ及びバランス調整	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
5	基礎合奏及び楽曲Ⅰ「ブライト・ライツ」のまとめの合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
6	基礎合奏及び楽曲Ⅱ「ライオン・キング」の部分合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
7	基礎合奏及び楽曲Ⅱ「ライオン・キング」の部分合奏によるピッチ合わせ及びバランス調整	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
8	基礎合奏及び楽曲Ⅱ「ライオン・キング」の部分合奏によるピッチ合わせ及びバランス調整	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
9	基礎合奏及び楽曲Ⅱ「ライオン・キング」のまとめの合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
10	礎合奏及び楽曲Ⅲ「銀河鉄道999」の部分合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
11	基礎合奏及び楽曲Ⅲ「銀河鉄道999」の部分合奏によるピッチ合わせ及びバランス調整	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
12	基礎合奏及び楽曲Ⅲ「銀河鉄道999」の部分合奏によるピッチ合わせ及びバランス調整	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
13	基礎合奏及び楽曲Ⅲ「銀河鉄道999」のまとめの合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
14	基礎合奏及び楽曲Ⅰ、Ⅱ及びⅢの部分合奏とまとめの合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
15	基礎合奏及び楽曲Ⅰ、Ⅱ及びⅢの通し合奏	楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日３０分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： ONGA10
授業形態： 演習
科目名： 音楽III－Ⅰ【電子オルガン】
担当教員： 西村　京子(NISHIMURA　Kyoko)

【授業の紹介】
　電子オルガンの授業です。教育・保育現場における音楽活動に必要な知識や演奏技術を楽曲を通して学び、自主的に音楽表現を行えるように、個人レッスン形式で演奏指導を行います。電子オルガンの経験は問いません。初心者・経験者それぞれに合わせて選曲し進めていきますので心配ありません。電子オルガン用の３段譜とコードネーム付き１段譜の両方を学習することにより、教育・保育の場での、より実践的な力が身に付きます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．両手・両足を使って、いろいろなリズムの曲の演奏ができる。
２．コードネームを見て、その曲に適切な伴奏をつけることができる。
３．日常的な子どもの活動に合わせて、その場にふさわしい音楽をつけることができる。
器楽[鍵盤]から引き続いて履修する学生は、より高度な楽曲が弾けるようになることを目指すとともに、自分でレジストを選択したり、現場に対応した簡単な編曲ができる。

【成績の評価】
　定期試験（７０％）による評価とともに、授業に取り組む姿勢（３０％）なども加味して評価します。定期試験は、「両手・両足を使って弾ける」「ゆっくりでもリズムに合わせて弾ける」「指示されたテンポでプログラムに合わせて弾ける」「強弱もつけて音楽的に仕上げられている」の４段階を基準に採点します。
　授業においては、楽曲の演奏について、指摘した問題点を次の授業に、また、定期試験においては、試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

【使用テキスト】
こどものうた　　稲葉夕佳他著（２００３年ヤマハミュージックメディア）
スタジオジブリ作品集１　上野みゆき他著（２００５年ヤマハミュージックメディア）
ディズニー映画ベストソングセレクション　岩崎孝昭他著（２００５年ヤマハミュージックメディア）他

【参考文献】
STAGEAレジストレーションメニューで弾くベストメロディーズ１６５
STAGEAレジストレーションメニューで弾くベストメロディーズ１６５　Vol.2
尾野カオル他著（２００４年ヤマハミュージックメディア）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力、電子オルガン演奏能力の調査、楽曲の選定、電子オルガンの基本的操作の練習）	今までに練習したことのあるピアノ曲または電子オルガン曲を思い出して各自の演奏能力が判定できるよう練習しておくこと。（１時間）	
2	ジャズ①ゴスペル（アメイジング・グレイス） マイレパートリー①（右手を主に）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
3	ジャズ②デキシーランドジャズ（聖者の行進） マイレパートリー①（左手と足を主に）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
4	ジャズ③チャールストン（５匹のこぶたとチャールストン） マイレパートリー①（両手足）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
5	８ビート①ライトステップ（サザエさん） マイレパートリー①（リズムに合わせて仕上げ）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
6	８ビート②サニーポップ（となりのトトロ） マイレパートリー②（右手を主に）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
7	マーチ①キッズマーチ１（小さな世界） マイレパートリー②（左手と足を主に）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
8	マーチ②キッズマーチ２（ビビデイ・バビデイ・ブー） マイレパートリー②（両手足）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
9	ワルツ①ベーシックワルツ（うみ） マイレパートリー②（リズムに合わせて仕上げ）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
10	ワルツ②スノーワルツ１（ふるさと） マイレパートリー③（右手を主に）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
11	クリスマス曲①スノーワルツ２（牧人ひつじを） マイレパートリー③（左手と足を主に）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
12	クリスマス曲②ウインタースイング（サンタが街にやってくる） マイレパートリー③（両手足）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
13	ラテン①コミカルルンバ（とんでったバナナ） マイレパートリー③（リズムに合わせて仕上げ）	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
14	ラテン②シーカーニバル（ハクナ・マタタ） 実技テストに弾く曲の復習①	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
15	ラテン③ポップチャチャ（さらばジャマイカ） 実技テストに弾く曲の復習②	予習として今回の課題になっている曲を譜読みし、練習しておくこと。 復習として今回指摘を受けたことを修正して曲を仕上げること。 毎日３０分以上練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA10
授業形態： 演習
科目名： 音楽III－Ⅰ【ピアノ】
担当教員： 酒井　信(SAKAI　Makoto)

【授業の紹介】
　ピアノの授業です。教育・保育の現場における音楽活動に必要な知識や演奏技術を楽曲を通して習得し、自主的な音楽表現ができるように、また子どもに音楽指導が行えるようになるための学習をします。ソナチネ程度以上の任意の楽曲を選び、個人レッスンで指導をします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
1.高度な楽曲に取り組むことでより高い演奏技術を習得することができる。
2.楽譜の中から表現したいことを見つけ、自分の言葉で伝えることができる。
3.伝えたいことをピアノの音で表現することができる。

【成績の評価】
定期試験（90%）による評価とともに、授業に取り組む姿勢（10%）なども加味して評価します。

定期試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】
ソナチネアルバム第一巻（今井顕　校訂・注解　全音楽譜出版社）他

【参考文献】
　なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーションおよび課題曲の選曲	ソナチネアルバム第一巻等、ソナチネ程度以上の楽譜を用意すること。その中から任意の一曲を練習すること。(30分以上)	
2	音符、休符、リズムの確認	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
3	拍子について	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
4	デュナーミクについて	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
5	アーティキュレーションについて	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
6	フレージングについて	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
7	タッチについて	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
8	脱力について	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
9	ペダリングについて	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。楽譜に書いてあることを注意深く読み取りながら、練習すること。	
10	音色について	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。表現したいことを考えながら練習すること。	
11	アゴーギクについて	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。表現したいことを考えながら練習すること。	
12	楽曲の背景、作曲者について	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。表現したいことを考えながら練習すること。	
13	各フレーズにおける表現についての各自の考察	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。自分の演奏を録音して聴き、改善点を見つけ練習すること。	
14	総合的な演奏表現についての各自の考察	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。自分の演奏を録音して聴	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		き、改善点を見つけ練習すること。	
15	合同リハーサルと演奏に対する意見交換	毎日30分以上は練習すること。授業で指摘した問題点を楽譜などに記入し、次の授業までに改善すること。自分の演奏を客観的に聴きながら、練習すること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA11
授業形態： 演習
科目名： 音楽III－II【声楽】
担当教員： 水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu)

【授業の紹介】
声楽経験者も初心者も受講できる少人数制で個別指導を含む授業です。基本的な無理のない発声練習を行いながら、情感豊かな表現力に富んだ声で童謡や唱歌、日本の抒情歌を中心に演奏を行います。又声楽の基本であるイタリア古典歌曲や世界の名曲にも取り組みます。「声」という最も身近な楽器の使用法を学び、教育・保育の現場で子どもに対して魅力的な範唱ができるよう、専門的な技能を体得する。また子どもとの豊かな音楽活動を実現できるよう歌唱レパートリーを充実させていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・息の流れを習得することができる。
・音域を広げることができる。
・声を明瞭にすることができる。
・童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる。

【成績の評価】
指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。
当日発表演奏９０％　課題への取り組み方１０％
クラス発表後全員で感想を述べあう。
実技の発表、課題への取り組み方ともに授業内でその都度講評を行う。

【使用テキスト】
『コンコーネ50番』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）
『こどものうた大集合210』（坂田おさむ 編）（ソットーミュージック出版　2012年）
『日本の名歌集1・2』（音楽之友社 編）（音楽之友社　2010年）
『イタリア古典歌曲集』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）

【参考文献】
『美しい発声法』（D.P.マクロスキー著、高山教子 訳）（音楽之友社　2002年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（発声法の基礎、主要ヴォカリーゼの提示とその意図、 注意事項の説明）	予習（３０分）：任意の春の童謡１曲を選んで、譜読みしておく。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。	
2	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番1~3、春の童謡	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。	
3	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番4~6、春の唱歌	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。	
4	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番7~9、夏の童謡	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。	
5	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番10~12、夏の唱歌	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。	
6	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番13~15、秋の童謡	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。	
7	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番16~18、秋の唱歌	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。	
8	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番19~21、冬の童謡	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。	
9	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番22~24、冬の唱歌	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。	
10	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番25~27、日本の抒情歌	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書に	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		て記録する。	
11	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番28~30、世界の名曲（フランス）	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。	
12	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番31~33、世界の名曲（イギリス、アメリカ）	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。	
13	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番34~36、世界の名曲（ドイツ）	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。	
14	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番、イタリア古典歌曲	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。	
15	呼吸法と発声練習、発表演奏	予習（３０分）：指定された曲の実技練習を行う。問題点、疑問点を音声、または文書にて記録する。 復習（３０分）：ワークシートに従って、振り返りを行う。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： ONGA11
授業形態： 演習
科目名： 音楽III－II【声楽】
担当教員： 藤原　フサヱ(FUJIWARA　Fusae)

【授業の紹介】
声楽経験者も初心者も受講できる少人数制で個別指導を含む授業です。基本的な無理のない発声練習を行いながら、情感豊かな表現力に富んだ声で童謡や唱歌、日本の抒情歌を中心に演奏を行います。又声楽の基本であるイタリア古典歌曲や世界の名曲にも取り組みます。「声」という最も身近な楽器の使用法を学び、教育・保育の現場で子どもに対して魅力的な範唱ができるよう、専門的な技能を体得する。また子どもとの豊かな音楽活動を実現できるよう歌唱レパートリーを充実させていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・息の流れを習得することができる。
・音域を広げることができる。
・声を明瞭にすることができる。
・童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる。（１曲ずつ）

【成績の評価】
指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。
当日発表演奏９０％　課題への取り組み方１０％
クラス発表後全員で感想を述べあう。
実技の発表、課題への取り組み方ともに授業内でその都度講評を行う他、オフィス・アワー等授業時間外にも個別の質問や相談に応じる。

【使用テキスト】
『コンコーネ50番』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）
『こどものうた大集合210』（坂田おさむ 編）（ソットーミュージック出版　2012年）
『日本の名歌集1・2』（音楽之友社 編）（音楽之友社　2010年）
『イタリア古典歌曲集』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）

【参考文献】
『美しい発声法』（D.P.マクロスキー著、高山教子 訳）（音楽之友社　2002年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
2	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番1~3、春の童謡	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
3	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番4~6、春の唱歌	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
4	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番7~9、夏の童謡	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
5	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番10~12、夏の唱歌	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
6	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番13~15、秋の童謡	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
7	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番16~18、秋の唱歌	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
8	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番19~21、冬の童謡	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
9	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番22~24、冬の唱歌	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
10	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番25~27、日本の抒情歌	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
11	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番28~30、日本の抒情歌	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
12	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番31~33、イタリア古典歌曲	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
13	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番34~36、イタリア古典歌曲	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
14	呼吸法と発声練習、コンコーネ50番世界の名曲	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
15	呼吸法と発声練習、各クラスにて発表演奏	呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。 指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。 練習時間は2日に1度20分を目安とする。休まずに継続的に実行すること。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： ONGA12
授業形態： 演習
科目名： 保育内容－表現II【発Ａ】
担当教員： 水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu)

【授業の紹介】
子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の一環として音楽的表現活動を指導するために必要な専門的知識、技能および実践力を修得する。幼稚園教育要領の示す領域「表現」のうち音楽に関わる内容を理解し、種々の音楽的表現と指導法を学ぶ。グループワークによる課題を通して各々の自由な発想を呼び起こし、豊かに創造する力と園児に伝える力を育成する。またほぼ毎回行う発表や模擬授業を通して保育者としての実践力を高めると同時に、観察および評価の力を養う。保育現場において専門性を持つ人材と協働し子どもとの音楽活動に十分に対応できる幅広い音楽知識を修得する。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．領域「表現」のねらいと内容を理解できる。
２．保育者に問われる基礎的な音楽能力と身体表現力（楽しんで発表できる力）を身に付ける。
３．子どもの発達に合わせた保育内容の計画と実践、および適切な評価ができる。
４．レパートリーの習得(１５曲)に加え、自由な発想による振付が短時間でできる。
５．子どもに寄り添う音楽を理解し、堅実な実践力により彼らの豊かな音楽経験をサポートできる。
６．音楽に関わる指導場面を具体的に想定し保育を構想することができる。

【成績の評価】
レポート、ワークシート等提出物（３５％）、授業における発表（３５％）、課題に取り組む姿勢（３０％）
授業における発表に対してはその都度コメントを与える。
提出物は添削し、返却する。

【使用テキスト】
本廣明実・加藤照恵著　「幼稚園・保育園のうた/ピアノ伴奏曲集」ドレミ楽譜出版社

【参考文献】
幼稚園教育要領（２０１７年　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業の進め方）、幼稚園教育要領の領域「表現」、音楽表現の芽生えと発達、他領域との関連	予習（３０分）：各季節の歌を４曲ずつリストアップする。 復習（４５分）：ワークシートに従って、授業の振り返りを纏める。	
2	手遊び歌・体遊び歌（１）「季節の歌」	予習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。	
3	手遊び歌・体遊び歌（２）「園生活の歌」	予習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。	
4	手遊び歌・体遊び歌（３）「人気のダンス	予習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。	
5	わらべ歌、遊びと表現、音楽を伴ったさまざまな遊び、遊びの創作	予習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。	
6	リズム遊び「ボディー・パーカッション」「簡単なクラッピング・ミュージック」	予習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。	
7	リトミック「さまざまなリズムを聴きとり、反応する」「さまざまな音の表情を聴き取り、反応する」「リズムカード」ICT機器の活用	予習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。	
8	音楽表現における教材選び、指導案の作成	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（３０分）：ワークシートに従い、復習を行う。	
9	トーンチャイムを使ったさまざまな音楽活動	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（３０分）：ワークシートに従い、トーンチャイム活動の振り返りを纏める。	
10	簡単な楽器を使った合奏（鍵盤楽器、打楽器、トーンチャイム等）	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（３０分）：ワークシートに従い、合奏の振り返りを纏める。	
11	指導案に沿った模擬保育とその振り返り	予習（３０分）：ワークシートに従い、音楽遊びのアイデアを纏める。 復習（３０分）：ワークシートに従い、音楽遊びの振り返りを行う。	
12	簡単な音楽劇の制作についてのオリエンテー	予習（４５分）：ワークシートに従い、音楽	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	ション（素材や手法の説明、計画の立て方、表現指導上の留意点、援助のあり方）ICT機器の活用	劇に関するアイデア、意見を纏める。 復習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行ったうえで、チェック項目に回答する。	
13	音楽劇の準備・練習（１）（小道具の製作、楽器伴奏、振り付け）	予習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行う、必要であれば製作物の準備を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行ったうえで、チェック項目に回答する。	
14	音楽劇の準備・練習（２）（総合的な練習）	予習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行う、必要であれば製作物の準備を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行ったうえで、チェック項目に回答する。	
15	音楽劇の発表会、振り返り、評価の考え方	予習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行う、必要であれば製作物の準備を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇の振り返りを纏める。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： ONGA12
授業形態： 演習
科目名： 保育内容－表現II【発Ｂ】
担当教員： 水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu)

【授業の紹介】
子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の一環として音楽的表現活動を指導するために必要な専門的知識、技能および実践力を修得する。幼稚園教育要領の示す領域「表現」のうち音楽に関わる内容を理解し、種々の音楽的表現と指導法を学ぶ。グループワークによる課題を通して各々の自由な発想を呼び起こし、豊かに創造する力と園児に伝える力を育成する。またほぼ毎回行う発表や模擬授業を通して保育者としての実践力を高めると同時に、観察および評価の力を養う。保育現場において専門性を持つ人材と協働し子どもとの音楽活動に十分に対応できる幅広い音楽知識を修得する。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．領域「表現」のねらいと内容を理解できる。
２．保育者に問われる基礎的な音楽能力と身体表現力（楽しんで発表できる力）を身に付ける。
３．子どもの発達に合わせた保育内容の計画と実践、および適切な評価ができる。
４．レパートリーの習得(１５曲)に加え、自由な発想による振付が短時間でできる。
５．子どもに寄り添う音楽を理解し、堅実な実践力により彼らの豊かな音楽経験をサポートできる。
６．音楽に関わる指導場面を具体的に想定し保育を構想することができる。

【成績の評価】
レポート、ワークシート等提出物（３５％）、授業における発表（３５％）、課題に取り組む姿勢（３０％）
授業における発表に対してはその都度コメントを与える。
提出物は添削し、返却する。

【使用テキスト】
本廣明実・加藤照恵著　「幼稚園・保育園のうた/ピアノ伴奏曲集」ドレミ楽譜出版社

【参考文献】
幼稚園教育要領（２０１７年　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業の進め方）、幼稚園教育要領の領域「表現」、音楽表現の芽生えと発達、他領域との関連	予習（３０分）：各季節の歌を４曲ずつリストアップする。 復習（４５分）：ワークシートに従って、授業の振り返りを纏める。	
2	手遊び歌・体遊び歌（１）「季節の歌」	予習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。	
3	手遊び歌・体遊び歌（２）「園生活の歌」	予習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。	
4	手遊び歌・体遊び歌（３）「人気のダンス	予習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。	
5	わらべ歌、遊びと表現、音楽を伴ったさまざまな遊び、遊びの創作	予習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。	
6	リズム遊び「ボディー・パーカッション」「簡単なクラッピング・ミュージック」	予習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。	
7	リトミック「さまざまなリズムを聴きとり、反応する」「さまざまな音の表情を聴き取り、反応する」「リズムカード」ICT機器の活用	予習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（４５分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。	
8	音楽表現における教材選び、指導案の作成	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（３０分）：ワークシートに従い、復習を行う。	
9	トーンチャイムを使ったさまざまな音楽活動	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（３０分）：ワークシートに従い、トーンチャイム活動の振り返りを纏める。	
10	簡単な楽器を使った合奏（鍵盤楽器、打楽器、トーンチャイム等）	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（３０分）：ワークシートに従い、合奏の振り返りを纏める。	
11	指導案に沿った模擬保育とその振り返り	予習（３０分）：ワークシートに従い、音楽遊びのアイデアを纏める。 復習（３０分）：ワークシートに従い、音楽遊びの振り返りを行う。	
12	簡単な音楽劇の制作についてのオリエンテー	予習（４５分）：ワークシートに従い、音楽	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	ション（素材や手法の説明、計画の立て方、表現指導上の留意点、援助のあり方）ICT機器の活用	劇に関するアイデア、意見を纏める。 復習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行ったうえで、チェック項目に回答する。	
13	音楽劇の準備・練習（１）（小道具の製作、楽器伴奏、振り付け）	予習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行う、必要であれば製作物の準備を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行ったうえで、チェック項目に回答する。	
14	音楽劇の準備・練習（２）（総合的な練習）	予習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行う、必要であれば製作物の準備を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行ったうえで、チェック項目に回答する。	
15	音楽劇の発表会、振り返り、評価の考え方	予習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行う、必要であれば製作物の準備を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇の振り返りを纏める。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： ONGA13
授業形態： 講義
科目名： 子ども音楽療育概論
担当教員： 梶谷　祐子

【授業の紹介】
この授業は、子ども音楽療育士の資格取得に必要な授業です。音楽を使って、生きにくい子ども達をサポートする方法の基礎を学習します。コミュニケーションの苦手な子ども達や障がいをもった子ども達に限らず、通常発達児とのコミュニケーションも円滑にする基礎を学習します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・障害のある子ども達に音楽を使う時に必要な基礎や専門知識を習得することができる。
・音楽の持つ特性を熟知し、心身の発達過程と音楽の関わりを学習し、将来関わっていくであろう様々な子どもたちと関わる場面において音楽をコミュニケーションツールとして、より豊かな知識を習得することができる。

【成績の評価】
定期試験（50%）
授業態度（30%）
提出物　（20%）

採点基準を説明することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】
シェリル・L・ケリー　著「シンプルソングで楽しい療育―すべての子に心地よさを届ける歌・ミュージックセラピー」（AmazonKDP　2023年）
必要な資料はその都度配布する

【参考文献】
クライブ・ロビンズ 著『音楽する人間』（春秋社、2007年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション(授業目標及び授業の概要の確認)	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
2	コミュニケーションの育ちと音楽	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
3	発達障がい児への音楽療育の検証	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
4	療育の現場の検証（先人のDVDを見ることで音楽を使っての関わり方を検証する）	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
5	アセスメントの取り方	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
6	感覚統合と音楽療育との関係	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
7	コミュニケーションを育てる療法のプログラムについて	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
8	コミュニケーションを育てるプログラムの検証１（感覚統合の観点から）	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
9	コミュニケーションを育てるプログラムの検証２（行動分析の観点から）	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
10	音楽療育における目標設定の方法１	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		間）	
11	音楽療育における目標設定の方法２(目標の構造化)	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
12	先人の文献及び映像から療育の実際を観る	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
13	観察及び観察点のポイントを学習	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
14	記録書の書き方	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
15	まとめ(音楽療育の意義を確認する)	予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと（毎週２時間） 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと（毎週２時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA14
授業形態： 演習
科目名： 子ども音楽療育演習
担当教員： 梶谷　祐子

【授業の紹介】
この授業は、子ども音楽療育士の資格取得に必要な授業です。子ども音楽療育概論で学習した理論を踏まえ、音楽の効果を実践に使えるように実際に療育をする場合の目標設定・プランの立て方・技術を体得していきます。概論で学習した目標設定の構造化など、実践に結び付く授業を行います。ピアノ演奏が苦手でも、即興演奏を楽しんで学習することができます。子ども達と関わるツールとしての音楽の有り方を探求します。また、視覚刺激の重要性から音楽に繋がった視覚刺激の有り方も探求します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・障害のある子ども及び通常発達児を対象とした音楽療育の方法を、具体的に楽器や音楽の使い方を学習することで、自在に音楽を使うことができる。
・目標設定やプランを立てることで実践に向かって、より効果的な音楽の使い方が習得できる。

【成績の評価】
提出物（50%）
授業程度（30%）
パフォーマンス（20%）
提出物およびパフォーマンスに対してその都度アドバイスをする。

【使用テキスト】
二俣 泉 著 『音楽で育てよう』（春秋社、2011年）

【参考文献】
生野 里花 著 『静かな森の大きな木』（春秋社、2001年）
根岸　由香　著　『つながる音楽』　（あおぞら音楽社　2022年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション(授業目標および本授業の到達目標を示唆する)	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
2	音楽療育に使う楽器紹介および楽器の効果的使い方	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
3	コードネームの理解	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
4	コード進行および簡単な旋法の学習	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
5	視覚刺激の効果及び作成	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
6	活動目標のたてかた(アセスメントの方法および目標設定)	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
7	視覚刺激の発表（各自が作成した視覚刺激作品の活用例の発表）	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
8	絵本に音楽をつける（音楽の効果的な使い方を習得）	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
9	活動の展開方法の検証	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
10	プラン作成方法（目標・セッションの流れ・準備物など）	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
11	プラン作成	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
12	模擬セッション(各自が立てたプランの実施)	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
13	模擬セッション(各自が立てたプランの実施)	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
14	記録書の書き方及び模擬セッションの記録書作成	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
15	まとめ(授業で習得した技術の確認)	予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと（各課題３時間） 復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する（各課題２時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： ONGA15
授業形態： 実習
科目名： 子ども音楽療育実習
担当教員： 梶谷　祐子

【授業の紹介】
この授業は、子ども音楽療育士の資格取得に必要な授業です。また、実務経験のある教員による授業科目です。音楽療法の現場での経験を活かし、具体的に実習の指導をします。療育の目標設定から実際のセッションにおける効果的な音楽の使い方、プログラムの立案、実践、現場でのフィードバックという流れでの実習となります。実習回数が限られますが、学内でロールプレイ、シュミレーションを踏まえたDVDの作成をして、現地（現場）での実習をします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・障害を持つ子どもたちの心理、及び行動を理解できる素地を作り、観察眼が培われる。
・子どもたちの支援となる方法を模索、検証することができる。
・子どもたちの前でのパフォーマンスのクオリティを高めることができる。

【成績の評価】
プランの作成(40%)
パフォーマンス(30%)
記録書等の提出物(30%)
プラン・記録書等、提出物については添削し返却する。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
シェリル・L・ケリー　著「シンプルソングで楽しい療育―すべての子に心地よさを届ける歌・ミュージックセラピー」（AmazonKDP　2023年）
生野里花著　「静かな森の大きな木」(春秋社2001年)
加藤博之著　「音楽療法(特別支援教育の発達的視点を踏まえて）」(明治図書)

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業の概要説明）	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
2	対象児のアセスメントビデオの確認をし、対象児のアセスメント及び治療目標を設定する	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
3	治療計画表の作成	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
4	治療構造及び目標設定	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
5	セッションプラン作成及びセッション内容の確認	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
6	DVD作成１及びセッション準備	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
7	DVD作成２及びセッション準備	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
8	撮影（第1作目）	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
9	撮影・編集（第1作目）	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
10	DVD（第1作目のフィードバック・・子ども達の反応を観察・記録）	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループの	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		メンバーとの打ち合わせ（20時間）	
11	目標設定の見直し・プラン作成	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
12	セッション準備	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
13	ロールプレイ　シュミレーションセッション準備	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
14	実習（フィードバックを含む）	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
15	まとめ(授業で獲得したプレゼンテーションの確認・報告書の書き方等の確認)	実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。（20時間） 記録の作成・報告書の作成・プレゼンテーションの準備（20時間） 実習はグループワークのため同じグループのメンバーとの打ち合わせ（20時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅰ【発Ａ】
担当教員： 水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu)

【授業の紹介】
童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
２．表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
３．協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
４．表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
５．音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
６．保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）、毎週の授業課題への取り組み(２０％)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成２２年　本廣明美・加藤照恵共著　ドレミ出版）

【参考文献】
童謡は心のふるさと（平成１３年　川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。	シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　各母音の３度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　各母音の５度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
9	呼吸法・発声練習　各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
10	呼吸法・発声練習　Ｐ子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	呼吸法・発声練習　Ｂ子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　Ｍ子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　Ｔ子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　Ｎ子音を中心に(うみ　きらきらぼし)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　全母音・子音（バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅰ【発Ａ】
担当教員： 西村　京子(NISHIMURA　Kyoko)

【授業の紹介】
童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
２．表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
３．協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
４．表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
５．音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
６．保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）、毎週の授業課題への取り組み(２０％)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成２２年　本廣明美・加藤照恵共著　ドレミ出版）

【参考文献】
童謡は心のふるさと（平成１３年　川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。	シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　各母音の３度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　各母音の５度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
9	呼吸法・発声練習　各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
10	呼吸法・発声練習　Ｐ子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	呼吸法・発声練習　Ｂ子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　Ｍ子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　Ｔ子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　Ｎ子音を中心に(うみ　きらきらぼし)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　全母音・子音（バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅰ【発Ａ】
担当教員： 酒井　信(SAKAI　Makoto)

【授業の紹介】
童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
２．表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
３．協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
４．表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
５．音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
６．保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）、毎週の授業課題への取り組み(２０％)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成２２年　本廣明美・加藤照恵共著　ドレミ出版）

【参考文献】
童謡は心のふるさと（平成１３年　川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。	シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　各母音の３度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　各母音の５度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
9	呼吸法・発声練習　各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
10	呼吸法・発声練習　Ｐ子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	呼吸法・発声練習　Ｂ子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　Ｍ子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　Ｔ子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　Ｎ子音を中心に(うみ　きらきらぼし)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　全母音・子音（バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅰ【発Ａ】
担当教員： 日野　朝代(HINO　Tomoyo)

【授業の紹介】
童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
２．表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
３．協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
４．表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
５．音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
６．保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）、毎週の授業課題への取り組み(２０％)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成２２年　本廣明美・加藤照恵共著　ドレミ出版)

【参考文献】
童謡は心のふるさと（平成１３年　川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省)

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。	シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある
3	呼吸法・発声練習　エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある
4	呼吸法・発声練習　イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある
5	呼吸法・発声練習　オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある
6	呼吸法・発声練習　ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある
7	呼吸法・発声練習　各母音の３度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある
8	呼吸法・発声練習　各母音の５度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
9	呼吸法・発声練習　各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある
10	呼吸法・発声練習　Ｐ子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある
11	呼吸法・発声練習　Ｂ子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある
12	呼吸法・発声練習　Ｍ子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある
13	呼吸法・発声練習　Ｔ子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある
14	呼吸法・発声練習　Ｎ子音を中心に(うみ　きらきらぼし)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある
15	呼吸法・発声練習　全母音・子音（バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅰ【発Ｂ】
担当教員： 渡辺　磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】
童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
２．表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
３．協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
４．表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
５．音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
６．保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）、毎週の授業課題への取り組み(２０％)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成２２年　本廣明美・加藤照恵共著　ドレミ出版）

【参考文献】
童謡は心のふるさと（平成１３年　川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。	シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　各母音の３度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　各母音の５度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
9	呼吸法・発声練習　各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
10	呼吸法・発声練習　Ｐ子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	呼吸法・発声練習　Ｂ子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　Ｍ子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　Ｔ子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　Ｎ子音を中心に(うみ　きらきらぼし)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　全母音・子音（バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅰ【発Ｂ】
担当教員： 西村　京子(NISHIMURA　Kyoko)

【授業の紹介】
童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
２．表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
３．協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
４．表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
５．音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
６．保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）、毎週の授業課題への取り組み(２０％)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成２２年　本廣明美・加藤照恵共著　ドレミ出版）

【参考文献】
童謡は心のふるさと（平成１３年　川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。	シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　各母音の３度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　各母音の５度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
9	呼吸法・発声練習　各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
10	呼吸法・発声練習　Ｐ子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	呼吸法・発声練習　Ｂ子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　Ｍ子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　Ｔ子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　Ｎ子音を中心に(うみ　きらきらぼし)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　全母音・子音（バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅰ【発Ｂ】
担当教員： 日野　朝代(HINO　Tomoyo)

【授業の紹介】
童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
２．表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
３．協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
４．表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
５．音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
６．保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）、毎週の授業課題への取り組み(２０％)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成２２年　本廣明美・加藤照恵共著　ドレミ出版）

【参考文献】
童謡は心のふるさと（平成１３年　川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。	シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　各母音の３度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　各母音の５度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
9	呼吸法・発声練習　各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
10	呼吸法・発声練習　Ｐ子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	呼吸法・発声練習　Ｂ子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　Ｍ子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　Ｔ子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　Ｎ子音を中心に(うみ　きらきらぼし)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　全母音・子音（バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅰ【発Ｂ】
担当教員： 出木浦　さゆり(DEKIURA　Sayuri)

【授業の紹介】
童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
２．表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
３．協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
４．表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
５．音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
６．保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）、毎週の授業課題への取り組み(２０％)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成２２年　本廣明美・加藤照恵共著　ドレミ出版）

【参考文献】
童謡は心のふるさと（平成１３年　川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。	シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　各母音の３度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　各母音の５度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
9	呼吸法・発声練習　各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
10	呼吸法・発声練習　Ｐ子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	呼吸法・発声練習　Ｂ子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　Ｍ子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　Ｔ子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　Ｎ子音を中心に(うみ　きらきらぼし)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　全母音・子音（バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA7
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現II【発Ａ】
担当教員： 水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu)

【授業の紹介】
前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の３０分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く６０分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい３０曲の暗譜演奏が出来る。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）毎週の授業課題への取り組み（２０％）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成２２年

【参考文献】
「童謡は心のふるさと」川田正子著　東京新聞出版局　2001年

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、前期「音楽表現Ｉ」の復習	前期終了時に教員より、個々に言い渡された実技の練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがね、夕焼け小焼け）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　レガートとスタッカートの歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　付点のリズム１（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　付点のリズム２（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
9	呼吸法・発声練習　弱起の曲１（あわてんぼうのサンタクロース、 ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	い	い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	
10	A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中の子どもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ１（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ２（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ３（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ４（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA7
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅱ【発Ａ】
担当教員： 西村　京子(NISHIMURA　Kyoko)

【授業の紹介】
前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の３０分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く６０分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい３０曲の暗譜演奏が出来る。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）毎週の授業課題への取り組み（２０％）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成２２年

【参考文献】
「童謡は心のふるさと」川田正子著　東京新聞出版局　2001年

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、前期「音楽表現Ｉ」の復習	シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日３０分以上）を行う。	。
2	呼吸法・発声練習　母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがね、夕焼け小焼け）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　レガートとスタッカートの歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　付点のリズム１（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　付点のリズム２（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
9	呼吸法・発声練習　弱起の曲１（あわてんぼうのサンタクロース、	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピ	曲目は受講者の進度に合わせ、変更する

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い	アノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	ことがある。
10	A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中の子どもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ１（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ２（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ３（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ４（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA7
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅱ【発Ａ】
担当教員： 酒井　信(SAKAI　Makoto)

【授業の紹介】
前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の３０分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く６０分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい３０曲の暗譜演奏が出来る。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）毎週の授業課題への取り組み（２０％）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成２２年

【参考文献】
「童謡は心のふるさと」川田正子著　東京新聞出版局　2001年

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、前期「音楽表現Ｉ」の復習	前期終了時に教員より、個々に言い渡された実技の練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがね、夕焼け小焼け）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　レガートとスタッカートの歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　付点のリズム１（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　付点のリズム２（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
9	呼吸法・発声練習　弱起の曲１（あわてんぼうのサンタクロース、 ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	い	い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	
10	A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中の子どもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ１（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ２（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ３（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ４（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA7
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅱ【発Ａ】
担当教員： 日野　朝代(HINO　Tomoyo)

【授業の紹介】
前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の３０分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く６０分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい３０曲の暗譜演奏が出来る。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）毎週の授業課題への取り組み（２０％）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成２２年

【参考文献】
「童謡は心のふるさと」川田正子著　東京新聞出版局　2001年

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、前期「音楽表現Ｉ」の復習	前期終了時に教員より、個々に言い渡された実技の練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがね、夕焼け小焼け）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　レガートとスタッカートの歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　付点のリズム１（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　付点のリズム２（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
9	呼吸法・発声練習　弱起の曲１（あわてんぼうのサンタクロース、	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピ	曲目は受講者の進度に合わせ、変更する

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い	アノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	ことがある。
10	A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中の子どもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ１（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ２（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ３（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ４（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA7
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅱ【発Ｂ】
担当教員： 渡辺　磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】
前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の３０分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く６０分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい３０曲の暗譜演奏が出来る。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）毎週の授業課題への取り組み（２０％）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成２２年

【参考文献】
「童謡は心のふるさと」川田正子著　東京新聞出版局　2001年

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、前期「音楽表現Ｉ」の復習	前期終了時に教員より、個々に言い渡された実技の練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがね、夕焼け小焼け）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　レガートとスタッカートの歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　付点のリズム１（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　付点のリズム２（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
9	呼吸法・発声練習　弱起の曲１（あわてんぼうのサンタクロース、 ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	い	い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	
10	A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中の子どもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ１（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ２（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ３（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ４（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA7
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅱ【発Ｂ】
担当教員： 西村　京子(NISHIMURA　Kyoko)

【授業の紹介】
前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の３０分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く６０分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい３０曲の暗譜演奏が出来る。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）毎週の授業課題への取り組み（２０％）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成２２年

【参考文献】
「童謡は心のふるさと」川田正子著　東京新聞出版局　2001年

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、前期「音楽表現Ｉ」の復習	シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがね、夕焼け小焼け）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　レガートとスタッカートの歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　付点のリズム１（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　付点のリズム２（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
9	呼吸法・発声練習　弱起の曲１（あわてんぼうのサンタクロース、	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピ	曲目は受講者の進度に合わせ、変更する

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い	アノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	ことがある。
10	A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中の子どもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ１（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ２（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ３（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ４（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA7
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅱ【発Ｂ】
担当教員： 日野　朝代(HINO　Tomoyo)

【授業の紹介】
前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の３０分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く６０分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい３０曲の暗譜演奏が出来る。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）毎週の授業課題への取り組み（２０％）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成２２年

【参考文献】
童謡は心のふるさと」川田正子著　東京新聞出版局　2001年

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、前期「音楽表現Ｉ」の復習	前期終了時に教員より、個々に言い渡された実技の練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがね、夕焼け小焼け）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　レガートとスタッカートの歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　付点のリズム１（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　付点のリズム２（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
9	呼吸法・発声練習　弱起の曲１（あわてんぼうのサンタクロース、 ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	い	い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	
10	A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中の子どもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ１（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ２（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ３（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ４（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ONGA7
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現Ⅱ【発Ｂ】
担当教員： 出木浦　さゆり(DEKIURA　Sayuri)

【授業の紹介】
前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指します。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていきます。
まず授業開始の３０分で声楽担当教員の下、発声練習に加え、毎週の課題となる歌唱教材を使ってその歌唱法を学びます。続く６０分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いの技法を学びます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい３０曲の暗譜演奏が出来る。

【成績の評価】
定期試験の演奏（８０％）毎週の授業課題への取り組み（２０％）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成２２年

【参考文献】
「童謡は心のふるさと」川田正子著　東京新聞出版局　2001年

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、前期「音楽表現Ｉ」の復習	前期終了時に教員より、個々に言い渡された実技の練習課題（毎日３０分以上）を行う。	
2	呼吸法・発声練習　母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
3	呼吸法・発声練習　ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがね、夕焼け小焼け）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
4	呼吸法・発声練習　レガートとスタッカートの歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
5	呼吸法・発声練習　子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
6	呼吸法・発声練習　上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
7	呼吸法・発声練習　付点のリズム１（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
8	呼吸法・発声練習　付点のリズム２（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
9	呼吸法・発声練習　弱起の曲１（あわてんぼうのサンタクロース、 ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	い	い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	
10	A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
11	B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中の子どもたちが）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
12	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ１（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
13	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ２（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
14	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ３（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
15	呼吸法・発声練習　歌唱法まとめ４（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い	次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。	曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KYOU1
授業形態： 演習
科目名： 国語指導法Ⅰ
担当教員： 秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya)

【授業の紹介】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。
　「国語指導法Ⅰ･Ⅱ」は、小学校の国語科「思考力・判断力・表現力」の全領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を、その目的、内容評価について、原理原論的立場からと、実践的立場からの両面について考えます。
　＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。
　クラス名：2024国語指導法Ⅰ・Ⅱ　　クラス コード：4rw24s4

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
　国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、国語科の全領域を指導するために必要な指導力を明らかにします。様々な学習指導理論を検討し、確かな理論に基づく指導を展開できる実践的実践力の向上をめざします。「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの基礎として、次の３点を到達目標とします。
①学習指導要領における国語科の目標・主な内容・全体構造を理解できる。
②PISA調査で明らかになった「読解力」の課題と、新学習指導要領改訂への繋がりを理解できる。
③具体的な指導場面を通して、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業のあり方を考えることができる。

【成績の評価】
・期末試験を基本とし(80%)、実践記録感想文等の提出物(10%)、授業への取り組み・授業態度(10%)等を併せ総合的に評価します。定期試験は後期授業に返却、解説し内容の定着を図ります。

【使用テキスト】
・『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』（東洋館出版　2018年）
・『新編　あたらしいこくご』　（一上～六上）（東京書籍、令和２年版）

【参考文献】
・教師修行９　国語の授業が楽しくなる（向山洋一著、明治図書、1986年）
・読解力を高める国語科授業の改革 PISA型読解力を中心に（鶴田清司著、明治図書、2008年）
・国語科授業批判（宇佐見寛著、明治図書、1986年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の現場での授業実践の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	ガイダンス（授業のすすめ方、実践記録を読むことの必要性、「百人一首」札取りの分担）	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
2	PISA調査と「読解力」（１）PISA調査の概要と日本の児童生徒の課題	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
3	PISA調査と「読解力」（２）PISA2003年調査以降の「読解力」向上の施策	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
4	国語科の全体構造と新旧学習指導要領の比較	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
5	「話すこと･聞くこと」の理論（「思考力･判断力･表現力」と「知識及び技能」）	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
6	「話すこと･聞くこと」の実際（１）「思考力･判断力･表現力」を身につける「言語活動例」	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
7	「話すこと･聞くこと」の実際（２）「言語活動例」を通した「知識及び技能」の指導	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
8	「書くこと」の理論（「思考力･判断力･表現力」と「知識及び技能」）	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
9	「書くこと」の実際（１）「思考力･判断力･表現力」を身につける「言語活動例」	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
10	「書くこと」の実際（２）「言語活動例」を通した「知識及び技能」の指導	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	「読むこと」の理論（「思考力･判断力･表現力」と「知識及び技能」）	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
12	「読むこと」の実際（１）「思考力･判断力･表現力」を身につける「言語活動例」	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
13	「読むこと」の実際（２）「言語活動例」を通した「知識及び技能」の指導	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
14	国語科における「主体的･対話的で深い学びの実現を図る」デジタル教科書の活用	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
15	これからの読書指導（大村はま実践とアニマシオン等）	・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる(毎月：A41枚1400字程度) ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します．読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KYOU2
授業形態： 演習
科目名： 国語指導法II
担当教員： 秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya)

【授業の紹介】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。
　国語科の全領域を、実際に教壇に立った際に指導できるために必要な実践的指導力のトレーニングを行います。その活動を通して、「思考力･判断力･表現力」の育成を検討します。

＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。
　クラス名：2024国語指導法Ⅰ・Ⅱ　　クラス コード：4rw24s4

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
　模擬授業等の活動を通し、「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することとして、次の実践的指導力を身に付けることができる。
１．目標を明確にした授業略案と板書計画案をそれぞれＡ４用紙１枚程度に表すことができる。
２．発問・指示・説明(指導言)を吟味し、揺れのない明確な指導言を発することができる。
３．必要な教材教具の準備ができ、授業において効果的に活用できる。

【成績の評価】
「話すこと・聞くこと」「音読」「漢字」「百人一首」の各指導(10%)、「模擬授業」(50%)の評価を基本とし、授業への取り組み・授業態度(10%)等を併せ総合的に評価します。各指導・模擬授業は授業において随時、評価・解説し、改善点等を示します。

【使用テキスト】
・『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）　国語編』（東洋館出版、2018年）
・『新編　あたらしいこくご　（一上～六上）』（東京書籍、令和２年版）

【参考文献】
・教育新書１　授業の腕を上げる法則（向山洋一著、明治図書、1985年）
・教員採用試験αシリーズ「模擬授業・場面指導」（野口芳宏著、一ツ橋書店、2016年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の現場での授業実践の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	学習計画説明（「範読」「音読指導」「話すこと・聞くことの指導」「漢字指導」「模擬授業」の分担）	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
2	教科書教材の「範読」（１）音読･朗読における「知識及び技能」　学生による「範読」活動①	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
3	教科書教材の「範読」（２）　音読･朗読と「思考力･判断力･表現力」　学生による「範読」活動②	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
4	「話すこと・聞くこと」の指導における「知識及び技能」　学生による模擬授業①	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
5	「話すこと・聞くこと」の指導における「思考力･判断力･表現力」　学生による模擬授業②	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
6	「話すこと・聞くこと」の振り返り　指導技術と評価のあり方　デジタル教科書の活用	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
7	「音読指導」における「知識及び技能」　学生による模擬授業①	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
8	「音読指導」における「思考力･判断力･表現力」　学生による模擬授業②	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
9	「音読指導」の振り返り　指導技術と評価のあり方　デジタル教科書の活用	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
10	「漢字指導」における「知識及び技能」　学生による模擬授業①	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
11	「漢字指導」における「思考力･判断力･表現力」　学生による模擬授業②	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
12	「漢字指導」の振り返り　指導技術と評価のあり方　デジタル教科書の活用	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
13	教科書教材を用いた模擬授業（１）「知識及び技能」に関わる指導	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
14	教科書教材を用いた模擬授業（２）「思考力･判断力･表現力」の指導	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
15	教科書教材を用いた模擬授業の振り返り　指導技術と評価のあり方　デジタル教科書の活用	①模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。 ②空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。 ③学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください. 　毎日、最低でも30分以上の時間を①②の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KYOU3
授業形態： 演習
科目名： 社会科指導法Ⅰ
担当教員： 野村　一夫(NOMURA　Kazuo)

【授業の紹介】
　学校学習指導要領に示された社会科の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえた授業設計や教材の開発、指導法、評価等についての基礎的な理解を深め、学習指導案が作成できるようになることを目指します。
　また、ディスカッション、グループワーク及びプレゼンテーションを通して、小学校教員としての資質・能力の基礎を培い実践力の育成を図ります。
　この授業ではClassroom(クラスコード：k6kx3gh）を使用し、資料配付や課題「授業リフレクション」の提示などを行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．小学校社会科の目標や各学年の目標、内容、内容の取扱い、評価などについて理解し、児童の発達段階を踏まえその特色を述べることができる。
２．指導案作成の意義と基本を理解し、単元構想を具現化する学習指導案を作成することができる。

【成績の評価】
学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。
「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」の提出(40%)、「授業リフレクション」の提出(20%)、定期試験(40%)とします。
「授業リフレクション」の提出はClassroomで行い、返却の際にコメントします。
「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を紹介し、相互評価します。
定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　社会編　平成30年　文部科学省
小学校教科書「新しい社会」３年、４年、５年上・下、６年上・下　令和2年　東京書籍
小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」　令和2年　帝国書院

【参考文献】
香川県小学校社会科教育研究会　社会に開かれた教育課程による2タイプの社会科学習　2019年　東洋館出版社

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を活かし、社会科指導のポイント及び留意事項等について解説します。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（小学校社会科学習のイメージ）	予習として、社会科指導を通じて留意したい点を考え、ノート等に整理しておくこと。（１時間）復習として、小学校社会科指導における留意点を整理し、授業リフレクションを記入すること。（１時間）	
2	小学校社会科の目標と内容及び内容の取扱い：解説の構成と読み方	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、学習指導要領解説の活用法を整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
3	単元構想と問題解決的な学習の進め方	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、問題解決的な学習活動を取り入れた単元計画の在り方を整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
4	情報機器及び映像資料等の特色と活用:指導計画作成上の配慮事項	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、情報機器等の活用法を整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
5	地域教材の開発と観察や見学・調査など体験的な学習の進め方:指導計画作成上の配慮事項	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、地域教材開発の在り方を整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
6	教科書や副読本、資料、地図、地球儀の役割と活用:指導計画作成上の配慮事項	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、学習材の必要性を整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
7	国土と産業に関する学習の進め方:指導計画作成上の配慮事項	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、地理的な見方・考え方のポイントを整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
8	政治・国際、歴史に関する学習の進め方:指導計画作成上の配慮事項	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、指導計画作成上のポイントを整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
9	教科書及び実践記録等の分析①（第3学年）	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、第３学年の内容構成と指導のポイントを整理し、授業リフレク	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ションに記入すること。（１時間）	
10	教科書及び実践記録等の分析②（第4学年）	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、第４学年の内容構成と指導のポイントを整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
11	教科書及び実践記録等の分析③（第5学年）	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、第５学年の内容構成と指導のポイントを整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
12	教科書及び実践記録等の分析④（第6学年）	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、第６学年の内容構成と指導のポイントを整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
13	単元構想と学習指導案の作成方法	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、学習指導案の作成方法を整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
14	単元構想と学習指導案の作成と相互評価	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、学習指導案の在り方を整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
15	「教材開発素材集」の発表と相互評価	予習として新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。（１時間）復習として、教材開発のポイントを整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KYOU4
授業形態： 演習
科目名： 社会科指導法Ⅱ
担当教員： 野村　一夫(NOMURA　Kazuo)

【授業の紹介】
　小学校学習指導要領に示された社会科の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえた授業設計や教材の開発、指導法、評価等についての基礎的な理解を深め、小学校教員としての資質・能力の基礎を培い実践力を育成することを目指します。
　また、指導案、板書計画案及び配付資料等を作成して模擬授業を行い、ディスカッションやグループワークを通して個別最適な学習指導の在り方を考え、追究します。
　この授業ではClassroom(クラスコード：2wx5vy3)を使用し、模擬授業に係る資料配付や課題「授業リフレクション」の提示などを行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．小学校社会科の目標、各学年の内容、方法及び評価について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計ができる。
２．模擬授業を通して、授業改善の在り方を具体的に述べることができる。

【成績の評価】
学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。
修正学習指導案(40%)、「授業リフレクション」の提出（20%）、定期試験（40%）とします。
「授業リフレクション」の提出は、Classroomをで行い、課題返却の際にコメントします。
<<各回の資料配布・課題提出>>Google Classroom
定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　社会編　平成30年　文部科学省
小学校教科書「新しい社会」３年、４年、５年上・下、６年上・下　令和2年　東京書籍
小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」　令和2年　帝国書院

【参考文献】
随時紹介する

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を活かし、社会科指導の在り方と指導上の留意事項などを解説します。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（印象に残っている小学校社会科授業）	予習として、印象に残っている社会科学習を分析し、その理由をノート等に整理しておくこと。（１時間）復習として、模擬授業の指導案を作成する際のポイントを整理し、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
2	各学年の目標、内容及び内容の取扱い	予習として模擬授業の実施に向けて教材研究を行い、学習指導案と板書計画及び資料等を作成すること。（１時間）復習として模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、「樹豪リフレクション」を記入すること。（１時間）	
3	模擬授業と授業改善 ： 第3学年　地域社会の社会的事象①	予習として模擬授業の実施に向けて教材研究を行い、学習指導案と板書計画及び資料等を作成すること。（１時間）復習として模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、「樹豪リフレクション」を記入すること。（１時間）	
4	模擬授業と授業改善 ： 第3学年　地域社会の社会的事象②	予習として模擬授業の実施に向けて教材研究を行い、学習指導案と板書計画及び資料等を作成すること。（１時間）復習として模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、「樹豪リフレクション」を記入すること。（１時間）	
5	模擬授業と授業改善 ： 第4学年　地域社会の社会的事象①	予習として模擬授業の実施に向けて教材研究を行い、学習指導案と板書計画及び資料等を作成すること。（１時間）復習として模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、「樹豪リフレクション」を記入すること。（１時間）	
6	模擬授業と授業改善 ： 第4学年　地域社会の社会的事象②	予習として模擬授業の実施に向けて教材研究を行い、学習指導案と板書計画及び資料等を作成すること。（１時間）復習として模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、「樹豪リフレクション」を記入すること。（１時間）	
7	模擬授業と授業改善 ： 第4学年　地域社会の社会的事象③	予習として模擬授業の実施に向けて教材研究を行い、学習指導案と板書計画及び資料等を作成すること。（１時間）復習として模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、「樹豪リフレクション」を記入すること。（１時間）	
8	模擬授業と授業改善 ： 第5学年　我が国の国土や産業①	予習として模擬授業の実施に向けて教材研究を行い、学習指導案と板書計画及び資料等を作成すること。（１時間）復習として模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、「樹豪リフレクション」を記入すること。（１時間）	
9	模擬授業と授業改善 ： 第5学年　我が国の国土や産業②	予習として模擬授業の実施に向けて教材研究を行い、学習指導案と板書計画及び資料等を作成すること。（１時間）復習として模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、「樹豪リフレクション」を記入すること。（１時間）	
10	模擬授業と授業改善 ： 第5学年　我が国の国土や産業③	予習として模擬授業の実施に向けて教材研究を行い、学習指導案と板書計画及び資料等を作成すること。（１時間）復習として模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、「樹豪リフレクション」を記入すること。（１時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	模擬授業と授業改善 ： 第6学年　我が国の政治の働き	予習として模擬授業の実施に向けて教材研究を行い、学習指導案と板書計画及び資料等を作成すること。（１時間）復習として模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、「樹豪リフレクション」を記入すること。（１時間）	
12	模擬授業と授業改善 ： 第6学年　我が国の歴史上の主な事象①	予習として模擬授業の実施に向けて教材研究を行い、学習指導案と板書計画及び資料等を作成すること。（１時間）復習として模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、「樹豪リフレクション」を記入すること。（１時間）	
13	模擬授業と授業改善 ： 第6学年　我が国の歴史上の主な事象②	予習として模擬授業の実施に向けて教材研究を行い、学習指導案と板書計画及び資料等を作成すること。（１時間）復習として模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、「樹豪リフレクション」を記入すること。（１時間）	
14	模擬授業と授業改善 ： 第6学年　グローバル化する世界と日本の役割	予習として模擬授業の実施に向けて教材研究を行い、学習指導案と板書計画及び資料等を作成すること。（１時間）復習として模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、「樹豪リフレクション」を記入すること。（１時間）	
15	社会科指導の在り方 ： まとめ	予習として、社会科指導案作成のポイントをノート等に整理しておくこと。（１時間）復習として、社会科指導において最も留意したいことをまとめ、授業リフレクションに記入すること。（１時間）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KYOU5
授業形態： 演習
科目名： 算数指導法Ⅰ
担当教員： 土井　理裕(DOI Masahiro)

【授業の紹介】
この授業では、算数・数学の見方・考え方に触れ、算数の授業に必要な知識や技能を幅広く学ぶことで、算数の指導に必要な力を育てていきます。さらに、領域ごとの指導内容について、系統性や発展性を踏まえて研究・報告し、それを共有することで、小学校算数での指導内容についての理解を深め、児童の発達段階に応じた指導方法について考察していきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・楽しい・分かる算数の授業のあり方について理解することができる。
・算数で指導される領域ごとの内容や指導体系について理解することができる。
・算数教育に必要な知識を体系的に整理し、実践と関係づけて理解することができる。

【成績の評価】
受講態度（２０％）振り返りレポート（４０％）最終課題レポート（４０％）
・毎回の授業振り返りレポートを提出し、コメントを記入して返却する。
・最終課題は、１つの領域の中の単元を決め、その単元の指導内容や指導体系についてまとめ、そのレポートを15回目の最終授業時に提出する。

【使用テキスト】
・小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　算数編（文部科学省、日本文教出版、2018）
・わくわく算数（１～６年）（寺垣内政一他著、新興出版社啓林館、令和５年検定済）

【参考文献】
・さぬきの授業基礎・基本[改訂版]（矢木澤崇他著、香川県教育委員会、2018）
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/14668/kisokihon-all.pdf）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校・特別支援学校での学校現場指導を活かし、具体的な算数・数学の授業実践事例等を示しながら授業していきます。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	ガイダンス、算数科の目標及び内容	授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
2	内容領域の構成、数学的活動	授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
3	学習内容の系統性と発展性、楽しく・分かる授業	授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
4	「数と計算」領域の内容（１・２年）	・授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。報告者は、配布資料等を作成しておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
5	「数と計算」領域の内容（３・４年）	・授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。報告者は、配布資料等を作成しておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
6	「数と計算」領域の内容（５年）	・授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。報告者は、配布資料等を作成しておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
7	「数と計算」領域の内容（６年）	・授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。報告者は、配布資料等を作成しておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
8	「図形」領域の内容（１・２年）	・授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。報告者は、配布資料等を作成しておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
9	「図形」領域の内容（３・４年）	・授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。報告者は、配布資料等を作成しておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
10	「図形」領域の内容（５・６年）	・授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。報告者は、配布資料等を作成しておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
11	「測定」領域の内容（１～３年）	・授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。報告者は、配布資料等を作成しておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
12	「変化と関係」領域の内容（４～６年）	・授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。報告者は、配布資料等を作成しておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
13	「データの活用」領域の内容（１～６年）	・授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。報告者は、配布資料等を作成しておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
14	楽しい・分かる授業をするためのポイント	・授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
15	学習指導案作成のポイント	・授業内容を確認し、それに関連したことについて、教科書や小学校学習指導要領解説算数編などで調べ、ノート等にまとめておく。（２時間） ・授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU6
授業形態： 演習
科目名： 算数指導法Ⅱ
担当教員： 土井　理裕(DOI Masahiro)

【授業の紹介】
授業では、前期に算数指導法Ⅰで学習したことをもとに、それぞれが学習指導案を作成します。それをもとにして全員が、授業者と児童として模擬授業に参加し、全体で授業討議を行います。具体的な授業を通して、教材研究の在り方を学び、指導技術の向上を図っていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・学習指導要領における算数科の目標、内容及び全体構造を理解することができる。
・算数科の教材をもとに、学習指導案を作成することができる。
・学習指導案をもとに、授業の基本的な技能を生かし、授業を展開することができる。
・算数科の学習評価の考え方を理解し、それを授業に生かすことができる。

【成績の評価】
受講態度（１０％）模擬授業（３０％）指導案・授業記録・討議記録（３０％）最終課題レポート（３０％）
・指導案、授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出し、コメントを記入して返却する。
・最終課題は、①「楽しい算数の授業づくりについて」、②「楽しい算数の授業の指導案」のレポートを作成し、15回目の最終授業時に提出する。

【使用テキスト】
・小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　算数編（文部科学省、日本文教出版、2018）
・わくわく算数（１～６年）（寺垣内政一他著、新興出版社啓林館、令和５年検定済）

【参考文献】
・さぬきの授業基礎・基本[改訂版]（矢木澤崇他著、香川県教育委員会、2018）
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/14668/kisokihon-all.pdf）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高等学校・特別支援学校での学校現場指導を活かし、具体的な算数・数学の授業実践事例等を示しながら授業していきます。

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	ガイダンス、授業をイメージした学習指導案の作り方	・学習指導案作りについて、教科書や学習指導要領解説算数編、さぬきの授業基礎・基本[改訂版]などをもとに研究し、ノート等にまとめておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
2	模擬授業のための学習指導案づくり	・学習指導案作りについて、教科書や学習指導要領解説算数編、さぬきの授業基礎・基本[改訂版]などをもとに研究し、ノート等にまとめておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
3	模擬授業と授業討議①（１年：たしざん（２）、ものとひとのかず）	・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説算数編などをもとに行い、指導方法を考えておく。授業者は、配布用の指導案・資料等を作成しておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
4	模擬授業と授業討議②（２年上：図をつかって考えよう、２年下：かけ算（２））	・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説算数編などをもとに行い、指導方法を考えておく。授業者は、配布用の指導案・資料等を作成しておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
5	模擬授業と授業討議③（３年上：わり算、時こくと時間）	・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説算数編などをもとに行い、指導方法を考えておく。授業者は、配布用の指導案・資料等を作成しておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
6	模擬授業と授業討議④（３年上：あまりのあるわり算、３年下：計算のじゅんじょ）	・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説算数編などをもとに行い、指導方法を考えておく。授業者は、配布用の指導案・資料等を作成しておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
7	模擬授業と授業討議⑤（３年下：分数、４年上：割合）	・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説算数編などをもとに行い、指導方法を考えておく。授業者は、配布用の指導案・資料等を作成しておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
8	模擬授業と授業討議⑥（４年下：２けたでわるわり算の筆算、小数のかけ算やわり算）	・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説算数編などをもとに行い、指導方法を考えておく。授業者は、配布用の指導案・資料等を作成しておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
9	模擬授業と授業討議⑦（４年下：分数、５年：小数のかけ算）	・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説算数編などをもとに行い、指導方法を考えておく。授業者は、配布用の指導案・資料等を作成しておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
10	模擬授業と授業討議⑧（５年：小数のわり算、整数）	・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説算数編などをもとに行い、指導方法を考えておく。授業者は、配布用の指導案・資料等を作成しておく。（２時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
11	模擬授業と授業討議⑨（５年：面積、割合）	・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説算数編などをもとに行い、指導方法を考えておく。授業者は、配布用の指導案・資料等を作成しておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
12	模擬授業と授業討議⑩（５年：分数（２）、速さ）	・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説算数編などをもとに行い、指導方法を考えておく。授業者は、配布用の指導案・資料等を作成しておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
13	模擬授業と授業討議⑪（６年：文字と式、分数÷分数）	・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説算数編などをもとに行い、指導方法を考えておく。授業者は、配布用の指導案・資料等を作成しておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
14	模擬授業と授業討議⑫（６年：比とその応用、場合を順序よく整理して）	・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説算数編などをもとに行い、指導方法を考えておく。授業者は、配布用の指導案・資料等を作成しておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
15	教育実習への心構え	・教育実習について、さぬきの授業基礎・基本[改訂版]や学習指導要領解説算数編などをもとに研究し、ノートにまとめておく。（２時間） ・授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（２時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU7
授業形態： 演習
科目名： 理科指導法Ⅰ
担当教員： 糸目　真也(ITOME　Shinya)

【授業の紹介】
小学校教諭１種免許状を取得することを目的に、小学校理科の授業を実施するための基本的な内容を身につけるとともに、授業に役立つ理科的な実習ならびに教材研究の実習とその報告を作成する。
授業に役立つ理科的な実習を一通り行ったのち、理科教材としての実験・観察について、教員と学生が相談して扱う対象を決め、全学生が実演し、その原理と教育的意味を報告し、そのあと検討の議論を行う。
理科的実習の成果はレポートに、教材研究の実験は実験カードにまとめる。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・理科の観察・実験・実習の方法を理解し、その方法にもとづいて観察・実験・実習を行うことができる。
・取り上げられた物理・化学・生物・地学の各トピックの基礎的な概念を身に着け、実習・実験の考察に使用できる。
・簡単な探究的な課題に取り組み、そのレポートを書くことができる。
・実験を行う上での安全への適切な配慮を示すことができる。
・理科室の管理・運営に関する基本的な理解をもって行動することができる。
・理科授業において効果的な実験教材を限られた期間内に準備して予備実験を済ませ、実際に演示しわかりやすく説明し、ワークシートを作成することができる。

【成績の評価】
発表及び実験態度（３０％）課題レポート、レポートやワークシートなどの提出物（７０％）を総合評価し単位を認定する。演示した実験の教育的意義、難易度、実施できた水準、原理の考察の度合い、演示におけるコミュニケーション力などを総合判断して評価する。レポートは次時間での解説、演示した実験に関しては終了時に教員から講評を受けることでフィードバックを行う。無断欠席またはレポート未提出があれば単位を認定しないことがある。

【使用テキスト】
テキストは次のものを使用する。また、教材実験は、図書館の教材、インターネットに掲載されている実験なども参考とする。
・小学校教科書　新編　新しい理科　３－６年　東京書籍
・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編　文部科学省
なお、必要に応じて中学校の教科書の学習内容も参考とする。

【参考文献】
授業で適宜連絡します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員が高等学校で理科の授業をした経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	授業内容の説明。 小学校理科の目標と内容構成	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
2	理科室の基本的な運営管理。 観察・実験の指導方法と安全管理	予習として次回の実験テーマに関する調べ学習をして、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
3	「A物質・エネルギー」（３年）の学習内容と実験	予習として次回の実験テーマに関する調べ学習をして、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
4	「B生命・地球」（３年）の学習内容と観察・実験	予習として次回の実験テーマに関する調べ学習をして、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
5	「A物質・エネルギー」（４年）の学習内容と実験	予習として次回の実験テーマに関する調べ学習をして、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
6	「B生命・地球」（４年）の学習内容と観察・実験	予習として次回の実験テーマに関する調べ学習をして、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
7	「A物質・エネルギー」（５年）の学習内容と実験	予習として次回の実験テーマに関する調べ学習をして、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
8	「B生命・地球」（５年）の学習内容と観察・実験	予習として次回の実験テーマに関する調べ学習をして、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
9	「A物質・エネルギー」（６年）の学習内容と実験	予習として次回の実験テーマに関する調べ学習をして、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
10	「B生命・地球」（６年）の学習内容と観察・実験	予習として次回の授業内容を確認し、実験内容に関する調べ学習をして、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること	担当：糸目真也

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（２時間）	
11	学生演示実験についての検討・下調べ・予備実験	予習として次回の実験テーマに関する調べ学習と予備実験をして、ワークシートにまとめておくこと（４時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
12	「A物質・エネルギー」のエネルギー領域の学生演示実験	予習として次回の実験テーマに関する調べ学習と予備実験をして、ワークシートにまとめておくこと（４時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
13	「A物質・エネルギー」の粒子領域の学生演示実験	予習として次回の実験テーマに関する調べ学習と予備実験をして、ワークシートにまとめておくこと（４時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
14	「B生命・地球」の生命領域の学生演示観察・実験	予習として次回の実験テーマに関する調べ学習と予備実験をして、ワークシートにまとめておくこと（４時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
15	「B生命・地球」の地球領域の学生演示観察・実験	復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU8
授業形態： 演習
科目名： 理科指導法II
担当教員： 糸目　真也(ITOME　Shinya)

【授業の紹介】
　教育実習の前に身につけておくべきことの習得を目指して、理科の単元案及び学習指導案を作成し、模擬授業を行うまでの実践力を育む。
　分野ごとにどの単元案をつくるか決める。学生がそれぞれの単元の実践例などで参考になるものを探し、それと教科書の流れを比較し、その違いについてまとめて報告する。単元案を作成して報告する。また、模擬授業を行うところを選び、その学習指導案を作成し、模擬授業を行って、その内容について議論し、より良い学習指導案に改善することによって授業を行うにあたって教師が考えるべきことについて学ぶ。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・理科の単元案を、グループで相談しながら構想し、学習指導要領、教科書の内容の分析・検討を的確に行い、簡潔にまとめることができる。
・学習指導案及びその改善案を自身で作成する方法を学び、その学びを生かした模擬授業を行うことができる。

【成績の評価】
レポートの成績（３０％）、模擬授業の態度、発表・模擬授業における生徒との応答の実際、討議における発言内容（３０％）作成した「学習指導案」（４０％）を総合的に判断して評価する。レポートは次時間による解説、模擬授業は、教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】
テキストは次のものを使用する。また、模擬授業では、図書館の教材、インターネットに掲載されている実験なども参考とする。
・小学校教科書　新編　新しい理科　３－６年　東京書籍
・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編　文部科学省
なお、必要に応じて中学校の教科書の学習内容も参考とする。

【参考文献】
授業で適宜連絡します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です担当教員が高等学校で理科の授業をした経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	これからの理科教育①概論	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
2	これからの理科教育②ＩＣＴ機器の活用等	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
3	板書の工夫と単元計画について	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
4	単元計画の作成	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
5	学習指導案の書き方①：作成に関するガイドラインの説明	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
6	学習指導案の書き方②：各自で学習指導案を作成する	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
7	各自が行う模擬授業の分野の決定と下調べ	予習として次回の実験内容に関する調べ学習と予備実験、学習指導案を作成しておくこと（４時間） 復習として授業の学習指導案を修正し、実験の改善等について振り返り、ノート等にまとめておくこと（２時間）	担当：糸目真也
8	模擬授業の実施及びその授業検討：「Ａ物質・エネルギー」（３年）の領域	予習として次回の実験内容に関する調べ学習と予備実験、学習指導案を作成しておくこと（４時間） 復習として授業の学習指導案を修正し、実験の改善等について振り返り、ノート等にまとめておくこと（２時間）	担当：糸目真也
9	模擬授業の実施及びその授業検討：「Ｂ生命・地球」（３年）の領域	予習として次回の実験内容に関する調べ学習と予備実験、学習指導案を作成しておくこと（４時間） 復習として授業の学習指導案を修正し、実験の改善等について振り返り、ノート等にまとめておくこと（２時間）	担当：糸目真也
10	模擬授業の実施及びその授業検討：「Ａ物質・エネルギー」（４年）の領域	予習として次回の実験内容に関する調べ学習と予備実験、学習指導案を作成しておくこと（４時間） 復習として授業の学習指導案を修正し、実験の改善等について振り返り、ノート等にまと	担当：糸目真也

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		めておくこと（２時間）	
11	模擬授業の実施及びその授業検討：「Ｂ生命・地球」（４年）の領域	予習として次回の実験内容に関する調べ学習と予備実験、学習指導案を作成しておくこと（４時間） 復習として授業の学習指導案を修正し、実験の改善等について振り返り、ノート等にまとめておくこと（２時間）	担当：糸目真也
12	模擬授業の実施及びその授業検討：「Ａ物質・エネルギー」（５年）の領域	予習として次回の実験内容に関する調べ学習と予備実験、学習指導案を作成しておくこと（４時間） 復習として授業の学習指導案を修正し、実験の改善等について振り返り、ノート等にまとめておくこと（２時間）	担当：糸目真也
13	模擬授業の実施及びその授業検討：「Ｂ生命・地球」（５年）の領域	予習として次回の実験内容に関する調べ学習と予備実験、学習指導案を作成しておくこと（４時間） 復習として授業の学習指導案を修正し、実験の改善等について振り返り、ノート等にまとめておくこと（２時間）	担当：糸目真也
14	模擬授業の実施及びその授業検討：「Ａ物質・エネルギー」（６年）の領域	予習として次回の実験内容に関する調べ学習と予備実験、学習指導案を作成しておくこと（４時間） 復習として授業の学習指導案を修正し、実験の改善等について振り返り、ノート等にまとめておくこと（２時間）	担当：糸目真也
15	模擬授業の実施及びその授業検討：「Ｂ生命・地球」（６年）の領域	復習として授業の学習指導案を修正し、実験の改善等について振り返り、ノート等にまとめておくこと（２時間）	担当：糸目真也
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU9
授業形態： 演習
科目名： 生活科指導法Ⅰ
担当教員： 髙橋　佳生(TAKAHASHI Yoshio)

【授業の紹介】
　生活科の学習指導を行う上で基本となる学習指導要領の目標や内容について理解を深め，栽培活動やフィールドワークなどを通して生活科の指導法と理念を体験的に学びます。また，生活科の授業の内容や在り方についてレクチャーする演習や協議を通して，教育者となるための資質・能力の向上を図ります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．学習指導要領に示される生活科の目標や内容，指導上の留意点などについて，実習や討論を通して体験的に理解するとともに，児童主体の教育についての考えを深めることができる。
２．生活科学習の在り方を考え実践する学修を通して，知識体系と実際の教育活動を関連付け，教員としての実践に向けた資質・能力を身に付けることができる。

【成績の評価】
授業ワークシート(80%)，小テスト(10%)，授業への参加態度・日常活動(10%)。
授業ワークシート，小テストについては，その都度，結果を授業時に説明・講評する。

【使用テキスト】
小学校学習指導要領解説生活編(平成29年3月告示　文部科学省)
教科書「あたらしいせいかつ(上)，新しい生活(下)」　東京書籍

【参考文献】
授業において適宜紹介，資料配布する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は，実務経験のある教員による授業です。小学校現場での授業実践と教員指導の経験を活かし，具体的な活動や視覚的提示，事例紹介しながら授業を展開します。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション， 生活科学習のよさと課題	２年次の「生活」での学びをもとに，生活科のよさや課題についてまとめておく。（30分）	
2	生活科のねらいと内容（ディスカッション）	小学校学習指導要領解説生活編をもとに，生活科の目標と内容を復習しておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
3	生活科の教科書とその概要	教科書（上・下）を概観し，その特徴や課題を調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
4	年間指導計画の作成と単元計画の基本（グループワーク）	教科書（上・下）を調べ，単元の順序や特徴を調べておく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
5	各学年の目標及び内容のポイントと解説 ・レクチャーの計画	小学校学習指導要領解説生活編P87～「単元計画の作成)を読み，要点をまとめておく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
6	生活科の内容の実際（自然のフィールドワーク）	野外での自然探索に必要なものや図鑑を調べ，準備する。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
7	レクチャーと協議①「学校と生活」【演習】（※タイトルは見込み）	＜レクチャー実施グループ＞：該当レクチャーの内容を計画し，実施の準備をする。（４時間）＜他のグループ＞：該当レクチャーの要点を学習指導要領・教科書で調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	※レクチャーのタイトルや実施グループは，話し合いによって決めます。（以降同様）
8	レクチャーと協議②「公共物の利用」【演習】（※タイトルは見込み）	＜レクチャー実施グループ＞：該当レクチャーの内容を計画し，実施の準備をする。（４時間）＜他のグループ＞：該当レクチャーの要点を学習指導要領・教科書で調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
9	生活科の内容の実際（栽培活動の準備と実際）	教科書（下）P9～P17を参考に，栽培活動の要点を調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）／※日常活動として毎日の水やり・記録を行う。（日々20分）	
10	レクチャーと協議③「季節の変化と生活」【演習】（※タイトルは見込み）	＜レクチャー実施グループ＞：該当レクチャーの内容を計画し，実施の準備をする。（４時間）＜他のグループ＞：該当レクチャーの要点を学習指導要領・教科書で調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
11	レクチャーと協議④「地域と生活」【演習】（※タイトルは見込み）	＜レクチャー実施グループ＞：該当レクチャーの内容を計画し，実施の準備をする。（４時間）＜他のグループ＞：該当レクチャーの要点を学習指導要領・教科書で調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
12	レクチャーと協議⑤「自然や物を使った遊び」【演習】（※タイトルは見込み）	＜レクチャー実施グループ＞：該当レクチャーの内容を計画し，実施の準備をする。（４時間）＜他のグループ＞：該当レクチャーの要点を学習指導要領・教科書で調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
13	レクチャーと協議⑥「自分の成長」【演習】（※タイトルは見込み）	＜レクチャー実施グループ＞：該当レクチャーの内容を計画し，実施の準備をする。（４時間）＜他のグループ＞：該当レクチャーの要点を学習指導要領・教科書で調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
14	生活科授業の基本と実際（栽培活動の収穫と片付け）	小学校学習指導要領解説生活編P94～「学習指導の進め方」を読み，要点をまとめておく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
15	まとめと評価　生活科授業の在り方	これまで用いた資料・ワークシートを見直し整理しておく。（30分）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU10
授業形態： 演習
科目名： 生活科指導法II
担当教員： 髙橋　佳生(TAKAHASHI Yoshio)

【授業の紹介】
　生活科の学習において求められる児童主体の学習展開や体験的な学習過程について，単元の構想や学習指導案づくりを通して学びます。また，模擬授業の実施・協議を通して，教員として教育を担い，社会に貢献できるための資質・能力の向上を図ります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．生活科の学習指導案づくり，模擬授業の実践を通して，授業づくりの基本を理解するとともに，児童主体の学習とするための学習展開や教材，指導技術の考えを深めることができる。
２．生活科学習の在り方を考え実践する学修を通して，知識体系と実際の教育活動を関連付け，教員としての実践に向けた資質・能力を身に付けることができる。

【成績の評価】
授業ワークシート(80%)，小テスト(10%)，授業への参加態度・日常活動(10%)。
授業ワークシート，模擬授業評価については，その都度，授業時に説明・講評する。

【使用テキスト】
小学校学習指導要領解説生活編(平成29年3月告示　文部科学省)
教科書「あたらしいせいかつ(上)，新しい生活(下)」　東京書籍

【参考文献】
授業において適宜紹介，資料配布する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は，実務経験のある教員による授業です。小学校現場での授業実践と教員指導の経験を活かし，具体的な活動や視覚的提示，事例紹介しながら授業を展開します。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション， 生活科学習指導の進め方	小学校学習指導要領解説生活編「学習指導の進め方」について，自分の考えをまとめておく。（30分）	
2	模擬授業に向けた検討・計画づくり（ビデオ視聴）	教育実習などをもとに，授業の在り方について自分の考えをまとめておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
3	単元構想案づくりとグループ検討（グループワーク）	小学校学習指導要領解説生活編P87～「単元計画の作成」を読み，要点を調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
4	学習展開・体験的学習の基本（ディスカッション）	教科書や配布資料を参考に，自分が実施したい学習単元の内容を考えておく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
5	学習指導案づくり(1)，教材研究（教材・教具）	配布資料等を参考に，模擬授業の在り方をイメージし，準備・計画をまとめておく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
6	学習指導案づくり(2)，グループ別検討（グループワーク）	グループで協議して，模擬授業の内容を深める。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
7	模擬授業に向けた教材の準備（グループワーク）	グループで協議して，模擬授業の準備を分担し，進めていく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
8	模擬授業及び研究討議(1)　（授業実践）	＜模擬授業実施グループ＞：該当模擬授業を計画し，指導案を含め実施の準備をする。（４時間）＜他のグループ＞：該当授業の要点を学習指導要領・教科書で調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	※模擬授業の単元や実施グループは，話し合いにより決めます。（以降同様）
9	模擬授業及び研究討議(2)　（授業実践）	＜模擬授業実施グループ＞：該当模擬授業を計画し，指導案を含め実施の準備をする。（４時間）＜他のグループ＞：該当授業の要点を学習指導要領・教科書で調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
10	模擬授業及び研究討議(3)　（授業実践）	＜模擬授業実施グループ＞：該当模擬授業を計画し，指導案を含め実施の準備をする。（４時間）＜他のグループ＞：該当授業の要点を学習指導要領・教科書で調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
11	模擬授業及び研究協議(4)　（授業実践）	＜模擬授業実施グループ＞：該当模擬授業を計画し，指導案を含め実施の準備をする。（４時間）＜他のグループ＞：該当授業の要点を学習指導要領・教科書で調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
12	模擬授業及び研究協議(5)　（授業実践）	＜模擬授業実施グループ＞：該当模擬授業を計画し，指導案を含め実施の準備をする。（４時間）＜他のグループ＞：該当授業の要点を学習指導要領・教科書で調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
13	模擬授業及び研究協議(6)（授業実践）	＜模擬授業実施グループ＞：該当模擬授業を計画し，指導案を含め実施の準備をする。（４時間）＜他のグループ＞：該当授業の要点を学習指導要領・教科書で調べておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
14	模擬授業の振り返りと生活科学習の要件（グループワーク）	これまでの模擬授業の実践について振り返り，よさや課題などをまとめておく。（１時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分）	
15	まとめ　生活科が小学校教育に果たす役割	これまで用いた資料・ワークシートを見直し整理しておく。（30分）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU11
授業形態： 講義
科目名： 家庭科指導法
担当教員： 大西　えい子(OONISHI Eiko)

【授業の紹介】
家庭科は、家庭生活を中心にした生活を学習対象として、体験的・実践的に学習し、ひとりひとりがよりよく生きることを目標としている教科です。この授業では、家庭科の教科としての歴史的変遷や独自性を理解し、学習指導要領に示された目標、内容、指導上の留意点などを踏まえた上で、学習指導案を作成し、グループごとに模擬授業を行います。また、家庭科の授業において必要不可欠な被服製作実習の指導に必要な基礎的・基本的な知識や技能を、実習を交えて修得します。授業を通して、家庭科の指導に必要な資質である生活者としての視点と生活実践力を養おうと継続的に学ぶ能力や実践的指導力を身に付けるようにします。実習の授業の際には裁縫道具や布地など資材の準備が必要です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．小学校学習指導要領における家庭科の目標及び内容、指導上の留意点を理解できる。
２．家庭科教育における体験的・実践的学習の意義が理解できる。
３．児童の意欲や認識、生活等の実態を視野に入れた授業計画を構想することができる。
４．具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。
５．児童の実践的・体験的な学習を展開するために必要な基礎的・基本的な知識や技能を修得することができる。

【成績の評価】
授業態度及び意欲（10%）、予習復習の課題（10%）、提出物の提出状況及びその内容（50%）、模擬授業への取り組み方等（30%）。提出物の未提出、本人からの事前連絡なしの遅刻、欠席は減点とする。30分以上の遅刻、または遅刻３回で欠席１回とみなす。被服製作実習については準備なしでの授業への出席は認めない。被服製作実習での製作物の提出は必須である。
レポート等の課題及び評価については授業時間内に解説する。

【使用テキスト】
「小学校学習指導要領解説　家庭編」文部科学省,東洋館出版社,2017年
「わたしたちの家庭科５・６」開隆堂,2020年

【参考文献】
「初等家庭科の研究ー指導力につなげる専門性の育成」,大竹美登利 倉持清美著,萌文書林,2018年
「小学校家庭科教育法」大竹美登利編纂,建帛社,2018年
その他関連する参考文献については講義の中で適宜説明する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校現場での家庭科指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業のねらいと進め方について）	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（２時間）。	
2	小学校家庭科教育の変遷 家庭科教育の意義とねらい及び内容	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
3	家庭科の授業づくり ①題材と年間指導計画	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
4	家庭科の授業づくり ②学習指導と評価	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
5	「生活を豊かにするための布を用いた製作」フエルトの小物製作 ①計画表作成と製作	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
6	「生活を豊かにするための布を用いた製作」フエルトの小物製作 ②製作の仕上げ	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
7	家庭科の指導方法、家庭科教員に求められる資質	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
8	板書計画、ワークシート作成	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
9	模擬授業の計画（教材研究・指導案作成の仕方）	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
10	模擬授業の役割分担、教材研究	予習として次回の授業内容を確認し、その範	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
11	模擬授業の教材研究、教具作成	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
12	模擬授業及び授業観察（衣生活領域）	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
13	模擬授業及び授業観察（食生活領域）	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
14	模擬授業及び授業観察 （住生活・環境領域）	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
15	まとめ・家庭科教育の展望	予習として次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気付いたこと等をノートにまとめておくこと（２時間）。 復習として授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU112
授業形態： 演習
科目名： 体育指導法Ⅰ
担当教員： 上野　耕平(UENO Kouhei)

【授業の紹介】
　小学校学習指導要領「体育科」では、体育科の目標を「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」としています。つまり、小学校体育では児童のスポーツ愛好度を高めることを重視した授業を求めています。本授業では児童が「夢中になって取り組める授業づくり」ができる知識や技能を修得し、創造的な教材開発力と授業実践力を身に付けることをめざします。
なおこの授業では，グーグルクラスルーム（クラスコード【uejzquv】）を使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
授業の到達目標及びテーマ
１．小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点について説明できる。
２．児童の意欲や思考力、判断力などの実態に応じた授業づくり・教材づくりができる。
３．教育に係る資質向上に向けて、自らの体育授業を客観的に評価・反省し、継続的に学習することができる。
４．「良い体育授業」の基礎的・内容的条件を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

【成績の評価】
中間テスト（３０％）、模擬授業の発表内容（３０％）、模擬授業実施後のレポート（４０％）で評価する。レポートは模擬授業を実施した次の週に全員で振り返りますので，それまでに必ず提出して下さい。

【使用テキスト】
テキストは特に使用せず、授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】
体育科教育学入門（髙橋健夫ほか編著、大修館書店）２０１０年
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成２９年３月公示　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構成し，他者に説明ができるようにしておいてください。（1時間）	
2	スポーツ・運動の価値	復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構成し，他者に説明ができるようにしておいてください。（1時間）	
3	体育の目的	復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構成し，他者に説明ができるようにしておいてください。（1時間）	
4	体育の目標の変遷	復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構成し，他者に説明ができるようにしておいてください。（1時間）	
5	体育の学習指導要領	復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構成し，他者に説明ができるようにしておいてください。（1時間）	
6	良い体育授業の条件	復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構成し，他者に説明ができるようにしておいてください。（1時間）	
7	体育における指導・学習スタイル	復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構成し，他者に説明ができるようにしておいてください。（1時間）	
8	体育における教材と教具	復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構成し，他者に説明ができるようにしておいてください。（1時間）	
9	体育の学習評価	復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構成し，他者に説明ができるようにしておいてください。（1時間）	
10	体育授業の観察・評価の方法	復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構成し，他者に説明ができるようにしておいてください。（1時間）	
11	学習指導案つくり	復習として授業の内容を自分なりにまとめて再構成し，他者に説明ができるようにしておいてください。（1時間）	
12	体育の模擬授業（体つくり：体ほぐしの運動）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
13	体育の模擬授業（体つくり：体の動きを高める運動）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
14	体育の模擬授業（器械運動：マット運動　接点技群）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
15	授業のまとめ（要点整理）と今後の課題の提示	復習としてこれまでの授業の反省をもとに，自分が教員となって体育を指導する際の課題をまとめてください（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU112
授業形態： 演習
科目名： 体育指導法II
担当教員： 上野　耕平(UENO Kouhei)

【授業の紹介】
　小学校学習指導要領「体育科」では、体育科の目標を「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」としています。つまり、小学校体育では児童のスポーツ愛好度を高めることを重視した授業を求めています。本授業では児童が「夢中になって取り組める授業づくり」ができる知識や技能を修得し、創造的な教材開発力と授業実践力を身に付けることをめざします。

なおこの授業では，グーグルクラスルーム（クラスコード【uejzquv】）を使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
授業の到達目標及びテーマ
１．小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点について説明できる。
２．児童の意欲や思考力、判断力などの実態に応じた授業づくり・教材づくりができる。
３．教育に係る資質向上に向けて、自らの体育授業を客観的に評価・反省し、継続的に学習することができる。
４．「良い体育授業」の基礎的・内容的条件を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

【成績の評価】
中間テスト（３０％）、模擬授業の発表内容（３０％）、模擬授業実施後のレポート（４０％）で評価する。レポートは模擬授業を実施した次の週に全員で振り返りますので，それまでに必ず提出して下さい。

【使用テキスト】
テキストは特に使用せず、授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】
体育科教育学入門（髙橋健夫ほか編著、大修館書店）２０１０年
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成２９年３月公示　文部科学省）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	体育の模擬授業（器械運動：マット運動　翻転技群）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
2	体育の模擬授業（器械運動：跳び箱運動　切り返し系）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
3	体育の模擬授業（器械運動：跳び箱運動　回転系）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
4	体育の模擬授業（陸上運動：短距離走）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
5	体育の模擬授業（陸上運動：リレー）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
6	体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型　宝取り鬼）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
7	体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型　コロコロボール）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
8	体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型　ハンドボール）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
9	体育の模擬授業（ボール運動：ネット型　キャッチバレーボール）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
10	体育の模擬授業（ボール運動：ネット型　ソフトバレーボール）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
11	体育の模擬授業（ボール運動：ベースボール型　キックベースボール）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
12	体育の模擬授業（表現運動：表現・フォークダンス）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
13	体育の模擬授業（保健：心の発達）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
14	体育の模擬授業（保健：心と体の相互の影響）	復習として模擬授業の反省をもとに，自分が指導者であった場合を想定して，自分なりの改善案をまとめておいてください（1時間）	
15	授業のまとめ（要点整理）と今後の課題の提示	復習としてこれまでの授業の反省をもとに，自分が教員となって体育を指導する際の課題をまとめてください（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU13
授業形態： 演習
科目名： 音楽指導法Ⅰ
担当教員： 水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu)

【授業の紹介】
・子どもの育ちを支えるために必要な教育の一環として音楽科の授業、および音楽表現関連の特別活動を指導する上で求められる専門的知識、技能と実践力を修得する。
・将来教育現場において自ら継続的に学ぶことができるよう、個々に適応した準備や練習の工程を作成する。
・児童が生活の中で音楽に親しみ味わえるようサポートするための授業を行なえる力を磨く。
・共通教材を用いたピアノの弾き歌いやリコーダー、指揮等の技能と共に必要な理論を修得する。
また教材を研究し自ら指導案を作成、模擬授業や相互評価を行い実践的な流れを体験する。
・定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックする。次回授業の課題の予習は必須とする。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．小学校学習指導要領に示された音楽科の教科の目標と第１から第３学年までの内容を理解できる。
２．授業を円滑に行うために必要な演奏技術と音楽理論を修得し、教材となる曲を堅実に演奏することができる。
３．指導上の留意点を理解し、学習指導要領に忠実な指導案を作成できる。
４．児童を導き評価を行うための聴く力（共通教材演奏時、音程やリズムの違いを判断できる力、ここちよい響きを判定できる力）を身に付け、また適切な表現でコメントすることができる。
５．教材と学習のねらいを的確に判断し、自ら継続的に学ぶ能力を獲得することができる。
６．音楽教科の幅広く体系的な理解を礎に、具体的な授業の計画を行うことができる。

【成績の評価】
定期試験-筆記（３５％）、定期試験-実技（３５％）、作成した学習指導案（１０％）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（２０％）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】
小学校教員養成課程用　最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
(平成３０年２月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社)

【参考文献】
文部科学省「小学校学習指導要領解説　音楽編」平成２９年７月

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、学習指導要領に示された教科の目標と指導内容	予習（３０分）：第１～第３学年歌唱共通教材のうち、任意の１曲について調べ、ノートに纏めておく。 復習（３０分）：指定のワークシートを仕上げる。	
2	第１～第３学年歌唱共通教材の概要	予習（３０分）：第１～第３学年歌唱共通教材のうち、任意の１曲について調べ、ノートに纏めておく。 復習（３０分）：指定のワークシートを仕上げる。	
3	弾き歌いの指導（１）「うみ」ト長調と階名、拍子	予習（６０分）：授業で取り上げる歌唱共通教材の譜読みをし、ピアノ伴奏の練習を行う。楽典上の疑問点をリストアップ、あるいは自分なりの曲の解釈をノートに纏めておく。 復習（６０分）：指定された実技練習。練習状況を配付されたワークシートへ記載する。	
4	弾き歌いの指導（２）「日のまる」ヘ長調と階名、コードネームによる伴奏	予習（６０分）：授業で取り上げる歌唱共通教材の譜読みをし、ピアノ伴奏の練習を行う。楽典上の疑問点をリストアップ、あるいは自分なりの曲の解釈をノートに纏めておく。 復習（６０分）：指定された実技練習。練習状況を配付されたワークシートへ記載する。	
5	弾き歌いの指導（３）「春がきた」美しい発声法	予習（６０分）：授業で取り上げる歌唱共通教材の譜読みをし、ピアノ伴奏の練習を行う。楽典上の疑問点をリストアップ、あるいは自分なりの曲の解釈をノートに纏めておく。 復習（６０分）：指定された実技練習。練習状況を配付されたワークシートへ記載する。	
6	弾き歌いの指導（４）「虫のこえ」擬声語と打楽器による表現	予習（６０分）：授業で取り上げる歌唱共通教材の譜読みをし、ピアノ伴奏の練習を行う。楽典上の疑問点をリストアップ、あるいは自分なりの曲の解釈をノートに纏めておく。 復習（６０分）：指定された実技練習。練習状況を配付されたワークシートへ記載する。	
7	弾き歌いの指導（５）「うさぎ」日本古謡と陰音階	予習（６０分）：授業で取り上げる歌唱共通教材の譜読みをし、ピアノ伴奏の練習を行う。楽典上の疑問点をリストアップ、あるいは自分なりの曲の解釈をノートに纏めておく。 復習（６０分）：指定された実技練習。練習状況を配付されたワークシートへ記載する。	
8	弾き歌いの指導（６）「茶つみ」ヨナ抜き音階、手遊び、リズム打ち	予習（６０分）：授業で取り上げる歌唱共通教材の譜読みをし、ピアノ伴奏の練習を行う。楽典上の疑問点をリストアップ、あるいは自分なりの曲の解釈をノートに纏めておく。 復習（６０分）：指定された実技練習。練習状況を配付されたワークシートへ記載する。	
9	リコーダー奏法	予習（６０分）：リコーダーの運指表を見て、１点ハ音から２点ヘ音までの指使いを思い出しておく。配付されたワークシートへの記入。 復習（６０分）：指定された実技練習、練習状況を配付されたワークシートへ記載する。	
10	指揮法と器楽および声楽アンサンブル	予習（３０分）：配付されたワークシートに	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		従い、学習する。 復習（３０分）：配付されたワークシートに従い、学習する。	
11	「音楽づくり」の意義と指導法	予習（３０分）：配付されたワークシートに従い、学習する。 復習（３０分）：配付されたワークシートに従い、学習する。	
12	鑑賞」の教材研究と指導法、ＩＣＴ機器の使用	予習（３０分）：配付されたワークシートに従い、学習する。 復習（３０分）：配付されたワークシートに従い、学習する。	
13	学習指導案の作成	予習（３０分）：配付されたワークシートに従い、学習する。 復習（３０分）：配付されたワークシートに従い、学習する。	
14	第１回模擬授業と振り返り、音楽科における学習評価の考え方について	予習（３０分）：配付されたワークシートに従い、学習する。 復習（３０分）：配付されたワークシートに従い、学習する。	
15	第２回模擬授業と振り返り、第１～第３学年の指導法についての総括	予習（３０分）：配付されたワークシートに従い、学習する。 復習（３０分）：配付されたワークシートに従い、学習する。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KYOU14
授業形態： 演習
科目名： 音楽指導法II
担当教員： 水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu)

【授業の紹介】
・子どもの育ちを支えるために必要な教育の一環として音楽科の授業、および音楽表現関連の特別活動を指導する上で必要な専門的知識、技能と実践力を修得する。
・音楽指導法Ｉで得た基礎能力にさらに磨きをかけ、また反復によって指導者としての資質を高める。
・児童が生活の中で音楽に親しみ味わえるようサポートするための授業を行なえる力を磨く。
・共通教材を用いたピアノの弾き歌いやその他の楽器、指揮等の技能と共に必要な理論を習得する。
また教材を研究し自ら指導案を作成、模擬授業や相互評価を行い実践的な流れを体験する。
・将来、教育現場において自ら継続的に学ぶことができるよう、個々に適応した準備や練習の工程を作成する。また邦楽と洋楽の比較、他教科や特別活動との関連付けを通して視野の拡大と内容の理解を深め、幅広く音楽に係わるシーンを知っていく。
・定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックする。次回授業の課題の予習は必須とする。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．小学校学習指導要領に示された音楽科の教科の目標と第４から第６学年までの内容を理解できる。
２．授業を円滑に行うために必要な演奏技術と音楽理論を修得し、教材となる曲を楽しむ（実技試験で滑らかに演奏する）ことができる。
３．教材を多様な側面から研究し、自らのアイデアで学習指導案を作成できる。
４．児童を導き評価を行うための聴く力（共通教材演奏時、音程やリズムの違いを判断する力、ここちよい響きを判定できる力）を身に付け、また適切な表現でコメントすることができる。
５．教材と学習のねらいを的確に判断し、自ら継続的に学ぶ能力を獲得することができる。
６．音楽教科の幅広く体系的な理解を礎に、具体的な授業の計画を行うことができる。
７．学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深め、より豊かな指導へと結びつけることができる。

【成績の評価】
定期試験-筆記（３５％）、定期試験-実技（３５％）、作成した学習指導案（１０％）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（２０％）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。クラスで共有できると判断したフィードバックについてはクラスルーム上に掲載する。

【使用テキスト】
小学校教員養成課程用　最新　初等科音楽教育法　２０１７年告示「小学校学習指導要領」準拠
（平成３０年２月発行、初等科音楽教育研究会編、音楽之友社）

【参考文献】
文部科学省「小学校学習指導要領解説　音楽編-平成２９年７月」

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	学習指導要領に示された教科の目標と指導内容	予習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。	週に最低１時間以上次回授業で取り上げる歌唱共通教材の譜読みをし、ピアノ伴奏の練習を行う。楽典上の疑問点をリストアップ、あるいは自分なりの曲の解釈をノートに纏めておく。学習指導案の草稿を作成し、授業後には念入りに修正を行い、より洗練されたものへと仕上げる。必要であれば教具を作成する。
2	弾き歌いの指導（１）「とんび」美しい発声法	予習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。	
3	弾き歌いの指導（２）「もみじ」ヘ長調と階名、（２部合唱への試み）	予習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。	
4	弾き歌いの指導（３）「子もり歌」日本古謡、五音音階、（リコーダーとの重奏）	予習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。	
5	弾き歌いの指導（４）「冬げしき」二部合唱、３拍子と抑揚の体得	予習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。	
6	弾き歌いの指導（５）「おぼろ月夜」弱起、歌詞の理解と情景の味わい	予習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。	
7	弾き歌いの指導（６）「われは海の子」ニ長調と階名、明瞭な発音、滑舌や発声のまとめ	予習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、実技練習を含めた歌唱共通教材の研究を行う。	
8	打楽器の奏法と指導法	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（３０分）：ワークシートに従い、復習を行う。	
9	指揮法と器楽・声楽アンサンブル	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（３０分）：ワークシートに従い、復習を行う。	
10	日本の伝統音楽と外国の民族音楽　ＩＣＴ機器の使用	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（３０分）：ワークシートに従い、復習を行う。	
11	音楽科と他教科、特別活動との関連	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（３０分）：ワークシートに従い、復習を行う。	
12	「鑑賞」の教材研究と指導法、ＩＣＴ機器の	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	使用	を行う。 復習（３０分）：ワークシートに従い、復習を行う。	
13	学習指導案の作成	予習（２０分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（１００分）：各自指導案の修正を行い、仕上げる。	
14	第１回模擬授業と振り返り、音楽科における学習評価の考え方ついて	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（３０分）：ワークシートに従い、模擬授業の振り返りを行う。	
15	第２回模擬授業と振り返り、第４～６学年の指導法についての総括	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（３０分）：ワークシートに従い、模擬授業の振り返りを行う。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KYOU15
授業形態： 講義
科目名： 図画工作指導法
担当教員： 速水　史朗(HAYAMI　Shiro),速水　規里(HAYAMI　Misato)

【授業の紹介】
この授業は、造形作家であり、中学と高校の美術教員の経験を活かした、実務経験のある教員による授業科目です。
平面や立体（紙、粘土、木等の素材）の造形表現実習及び,美術館の鑑賞などの活動を通して、作り出す喜び、美術にふれる楽しさを自身で体験します。「造形的な見方・考え方」を働かせるにはどうしてゆくかを、授業の体験から考察し図画工作の学習指導法の構築に活かしていきます。
　「理論と実践の接点」を開拓すべく、その活動から、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身につけ、教育（図画工作指導）の知識・能力や態度・指向性を修得してゆきます。
　指導案を作成するにあたり、2回のうち1回はグループワークとし、グループディスカッションを通して実践の場での問題点や成果をあげる方法を考察します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することをめざす」授業を行えるために、図画工作のいろいろな教育内容を適切に具体的に体験ができる。
・体験した中での問題点や課題に気づいて解決する力を身につけることをめざす。
・それをいろいろな場面にあてはめながら、「児童生徒一人一人が表現の楽しさを覚え、感性を働かせながらつくりだす喜びを味わい、造形的な能力を培い、豊かな情操を養う」という目標を持った指導方法を考察し、構築してゆく力を身につけることをめざす。
（図画工作指導法研究における教育目的、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作指導法研究の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることをめざす。）

【成績の評価】
受講態度、課題提出状況、発表、授業に対する理解度等を総合的に判断します。
各課題・レポート（７０％）、学習指導案（３０％）
各課題については数回に分けて授業の冒頭もしくは授業中に講評を行います。

【使用テキスト】
小学校学習指導要領解説図画工作編（平成29年告示）

【参考文献】
なし

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 講師自己紹介、学生自己紹介 授業の方針と進め方の説明 学生からの要望の聴き取り	次回授業の準備 作成するテーマを考える 使えそうな色紙などを探しそろえる	授業中に、指導をするにあたって思いついたことや困ったことなどのメモをとり 、 それに基づいて指導についてのレポートを作成
2	色彩構成（平面）色紙による色彩構成（１） 考えてきた構図を作成 配色を考える	時間内に出来なかった構図を完成させる 考えた配色で足りない材料をそろえる	
3	色彩構成（平面）色紙による色彩構成（２） 配色を考えながら、貼りこみ制作	時間内に出来なかった貼りこみを完成させる 次回の立体構成のアイデアを考え、材料の調達をする	
4	色彩構成（平面）（３）,立体構成（１） 色彩構成の仕上がりチェックを教師に受ける 画用紙での立体造形に取り掛かる	細部の構成を考え、必要な材料をそろえる 平面構成の指導について、400字程度のレポート作成（次回提出）	
5	立体構成（２） 組み立て、および配色	授業中に足りなかった構成の補充	
6	立体構成（３） 構成を再度検討、仕上がりチェックを教師に受ける 次回授業の説明	立体構成の指導について、400字程度のレポート作成（次回提出）	
7	絵を描く（人物、彩色）（１） 友人を描く、デッサン	色々な人物画の鑑賞（ネット検索など）で、制作中の人物画を、どのようなイメージに仕上げるかを考える	
8	絵を描く（人物、彩色）（２） 友人を描く、彩色 次回授業の説明	人物画の指導について、400字程度のレポート作成（次回提出） 次回授業に必要な素材集め	
9	美術の鑑賞（香川県立ミュージアム、高松市立美術館等）2時間(1-1) 学芸員の説明を受けての美術の鑑賞他、	美術の鑑賞、美術館博物館との取り組みを考えて、レポートの作成（次回提出）	
10	美術の鑑賞（香川県立ミュージアム、高松市立美術館等）2時間(1-2) 学芸員の説明を受けての美術の鑑賞、学校などとの美術館の取り組みの説明他	美術の鑑賞、美術館博物館との取り組みを考えて、レポートの作成（次回提出）	
11	提出課題の講評及び各課題のレポートについての講評 粘土による造形（１） 粘土の扱い方、立体のとらえ方等	美術作品（人物の塑像）の鑑賞（ネット検索など）で、制作中の作品を、どのようなイメージに仕上げるかを考える	
12	粘土による造形（２） 細かい部分の仕上げ等 （乾燥後焼成して返却）	粘土などの造形の指導について、400字程度のレポート作成（次回提出）	
13	学習指導要案作成（１） 粘土を使った授業の指導案作成（グループワーク）	指導案作成についての資料集め	
14	学習指導要案作成（２） 粘土を使った授業の指導案作成及び発表（グループワーク）	指導案作成についてのレポート作成	
15	提出課題の講評 絵手紙制作（１） 出す相手を決めて、構図を考える	絵手紙の研究（ネットなどで調べる）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
16	絵手紙制作（２） 絵手紙作成、消しゴムはんこで落款を押して完成	絵手紙の指導について、400字程度のレポート作成（次回提出）	
17	美術の鑑賞（香川県立ミュージアム、高松市立美術館等）2時間(1-1) 学芸員の説明を受けての美術の鑑賞他、	美術の鑑賞、美術館博物館との取り組みを考えて、レポートの作成（次回提出）	
18	美術の鑑賞（香川県立ミュージアム、高松市立美術館等）2時間(1-2) 学芸員の説明を受けての美術の鑑賞、学校などとの美術館の取り組みの説明他	美術の鑑賞、美術館博物館との取り組みを考えて、レポートの作成（次回提出） 次回のレリーフの構図を考える	
19	木のレリーフの制作（１） デザインを考える	デザインを完成させる	
20	木のレリーフの制作（２） 木に図案をうつし、彫り始める	彫りに時間がかかるため、彫の作業をする	
21	木のレリーフの制作（３） 木を彫り進める	彫りに時間がかかるため、彫の作業をする	
22	木のレリーフの制作（４） 木を彫り進める	彫った作品の色付けを考えておく 木のレリーフ、版画など授業の内容の検討	
23	木のレリーフの制作（５） 彫り上げた作品に色を付ける	木のレリーフ、版画など授業の内容の検討 指導について、400字程度のレポート作成	
24	木のレリーフの制作（６） 作品の色付け及び仕上げ 次回授業の説明	木のレリーフ、版画など授業の内容の検討 指導について、400字程度のレポート作成（次回提出） 次回授業に必要な素材集め	
25	コラージュ制作　（１） 印刷物を切り取りイメージの再構築	制作したいイメージに合わせて、足りない素材を集める	
26	コラージュ制作　（２） 切り取った素材の貼りこみ 仕上がり状態のチェックをうける 低学年でのコラージュの活用法	コラージュの指導について、400字程度のレポート作成（次回提出）	
27	提出課題の講評及び各課題のレポートについての講評 具象と抽象表現（１） 花、動物など具体的な事象をどのように表すかの考察 香川県で活動した作家（藤川雄三、猪熊弦一郎、イサムノグチなど）たちの話	香川県で活動した作家について、調べる	
28	具象と抽象表現（２） 前回の、」香川県で活動した作家たちの話から、自由な表現を考える 時間があれば、制作してみる	指導案作成についての資料集め	
29	学習指導要案作成（１） 前回の指導案の注意点を踏まえて、指導案作成	指導案作成についての資料集め	今までのレポートを踏まえて、個々に話しながら進める
30	学習指導要案作成及び発表（２） 指導案作成及び発表		
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU16
授業形態： 演習
科目名： 外国語指導法Ⅰ
担当教員： 竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro)

【授業の紹介】
　小学校外国語教育についての基礎的な知識・理解を深め、子どもの第二言語習得についての知識とその活用法を学び、授業実践に必要な基礎的な指導技術を修得する。知識・理解を深めるために、調べてきたことや準備してきたことを発表する授業形態をとり、知識の活用法や指導技術を身に付けるために、ペアワークやグループワークによる言語活動を学生が自ら体験しながら学ぶ。
　また、講義、演習、実習を組み合わせ、主体的・対話的で深い学びになるよう、講義中心ではなくワークショップ中心の授業を行うとともに、実際の授業づくりにも取り組む。Google Classroom Code: Iir77i7

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・小学校における外国語活動（英語）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることができる。
・英語を使ってコミュニケーションを図るための素地を児童に効果的に習得させることができる。
・英語の発音やアクセントなど、音声指導が確実にできる。
・小学校英語教育に求められる英語力を身に付けることができる。

【成績の評価】
　「授業への関心・意欲・態度」２０％、「授業時間以外に課すレポート等提出課題」２０％、「小テスト」２０％、「インタビューテスト及び模擬授業」４０％の４項目を総合的に評価します。レポート、小テスト、インタビューテスト及び模擬授業については、その都度フィードバックを行います。
　なお、３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻３回で欠席１回とみなします。

【使用テキスト】
小学校英語　はじめる教科書　改訂版
外国語科・外国語活動指導者養成のために― コア・カリキュラムに沿って ―
（小川隆夫、東仁美著、mpi松香フォニックス、2021）

【参考文献】
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説　外国語編及び外国語活動編
（平成２９年３月　文部科学省）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高校現場での英語指導の経験を活かして授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 「第一部　外国語の指導法」について	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
2	Unit 1　外国語活動と外国語科の目標 Unit 2　小・中の連携と小学校の役割	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
3	Unit 3　児童や学校の多様性への対応 Unit 4　言語使用を通した言語習得・音声によるインプット	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
4	Unit 5　コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした言語活動 Unit 6　音声から文字へ	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
5	Unit 7　国語教育との連携 Unit 8　Classroom English, Small Talk, Teacher Talk	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
6	Unit 9 「読むこと」と「書くこと」への導き方 Unit 10　題材の選定と教材	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
7	Unit 11　学習到達目標、指導計画（カリキュラム・マネジメント） Unit 12　学習指導案の作り方	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
8	Unit 13　ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方 Unit 14　ICT等の活用の仕方	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
9	Unit 15　外国語科の学習評価	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
10	学習指導案作成	予習として、学習指導案の作成をしてください。（２時間） 復習として、模擬授業の練習をしてください。（２時間）	
11	模擬授業（１）	予習として、模擬授業の準備及び練習をしてください。（２時間） 復習として、模擬授業の反省点をまとめてください。（２時間）	
12	模擬授業（２）	予習として、模擬授業の準備及び練習をしてください。（２時間） 復習として、模擬授業の反省点をまとめてください。（２時間）	
13	模擬授業（３）	予習として、模擬授業の準備及び練習をしてください。（２時間） 復習として、模擬授業の反省点をまとめてください。（２時間）	
14	インタビューテストの準備	予習として、インタビューテストの準備及び練習をしてください。（２時間） 復習として、インタビューテストの練習をしてください。（２時間）	
15	インタビューテスト	予習として、インタビューテストの練習をしてください。（２時間） 復習として、うまく答えられなかった項目について、復習してください。（２時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU16
授業形態： 演習
科目名： 外国語指導法II
担当教員： 竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro)

【授業の紹介】
　小学校外国語教育についての基礎的な知識・理解を深め、子どもの第二言語習得についての知識とその活用法を学び、授業実践に必要な基礎的な指導技術を修得する。知識・理解を深めるために、調べてきたことや準備してきたことを発表する授業形態をとり、知識の活用法や指導技術を身に付けるために、ペアワークやグループワークによる言語活動を学生が自ら体験しながら学ぶ。
　また、講義、演習、実習を組み合わせ、主体的・対話的で深い学びになるよう、講義中心ではなくワークショップ中心の授業を行うとともに、実際の授業づくりにも取り組む。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・小学校における外国語活動（英語）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることができる。
・英語を使ってコミュニケーションを図るための素地を児童に効果的に習得させることができる。
・英語の発音やアクセントなど、音声指導が確実にできる。
・小学校英語教育に求められる英語力を身に付けることができる。

【成績の評価】
　「授業への関心・意欲・態度」２０％、「レポート等、授業以外に課す課題」２０％、「小テスト」２０％、「"Speech"テスト及び模擬授業」４０％の４項目を総合的に評価します。レポート、小テスト、"Speech"テスト及び模擬授業については、その都度フィードバックを行います。
　なお、３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻３回で欠席１回とみなします。

【使用テキスト】
小学校英語　はじめる教科書　改訂版
外国語科・外国語活動指導者養成のために― コア・カリキュラムに沿って ―
（小川隆夫、東仁美著、mpi松香フォニックス、2021）

【参考文献】
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説　外国語編及び外国語活動編
（平成２９年３月　文部科学省）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高校現場での英語指導の経験を活かして授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 「第三部　外国語活動の指導法」について	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
2	Unit 1　小学校教育の理念と現状理解 Unit 2　中学年外国語活動から高学年外国語科への接続	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
3	Unit 3　発達心理学の基礎 Unit 4　外国語（英語）活動のねらいと活動の在り方	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
4	Unit 5　児童の認知・情緒発達に即した指導法 Unit 6　学級担任とJTEとのティーム・ティーチング	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
5	Unit 7　ことばへの気づきをもたらす指導 Unit 8　外国語活動の学習評価	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
6	Unit 9　中学年に適したさまざまな活動 Unit 10　中学年に適した教材	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
7	Unit 11　英語によるやり取りの仕方 Unit 12　児童の発話の引き出し方・児童とのやり取りの進め方	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
8	Unit 13　語彙や表現に慣れ親しませる方法 Unit 14　読み聞かせ指導	予習として、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
9	Unit 15　発表活動の指導	予習として、テキストの各回に実施する範囲	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（２時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（２時間）	
10	学習指導案作成	予習として、模擬授業を実施するUnitの指導案を作成して持参してください。（２時間）また、復習として、授業中に学んだことを活かして指導案を訂正するとととともに、模擬授業の練習を行ってください。（２時間）	
11	模擬授業（１）	予習として、模擬授業を実施するUnitの指導案を作成して持参してください。（２時間）また、復習として、授業中に学んだことを活かして指導案を訂正するとととともに、模擬授業の練習を行ってください。（２時間）	
12	模擬授業（２）	予習として、模擬授業を実施するUnitの指導案を作成して持参してください。（２時間）また、復習として、授業中に学んだことを活かして指導案を訂正するとととともに、模擬授業の練習を行ってください。（２時間）	
13	模擬授業（３）	予習として、模擬授業を実施するUnitの指導案を作成して持参してください。（２時間）また、復習として、授業中に学んだことを活かして指導案を訂正するとととともに、模擬授業の練習を行ってください。（２時間）	
14	模擬授業（４）	予習として、模擬授業を実施するUnitの指導案を作成して持参してください。（２時間）また、復習として、授業中に学んだことを活かして指導案を訂正するとととともに、模擬授業の練習を行ってください。（２時間）	
15	"Speech"テスト	予習として、準備したスピーチの原稿を何度も読んで覚え、練習してテストに臨んでください。（２時間）また、復習として、スピーチの結果を反省し、改善のために何が必要かについて考えてください。（２時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KYOU17
授業形態：　演習
科目名：　保育・教職実践演習（保・幼）
担当教員：　山田　純子(YAMADA　Junko),田中　美季(TANAKA　Miki),松原　勝敏(MATSUBARA　Katsutoshi),中塚　勝俊(NAKATSUKA　Katsutoshi),横川　和章(YOKOGAWA　Kazuaki),水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu),川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi),野町　真知子(NOMACHI　Machiko)

【授業の紹介】

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の理論的、実践的活動を通して、学生が身につけた豊かな心や創造力等の資質・能力が保育者に最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものです。そのため、１年次より記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレーイング、演習などを通して定着を図ります。

なお、後期開講ですが、必要に応じて、前期にも時間を調整して実施することがあります。

授業は、2コマ連続で実施します。また、外部講師の都合により、授業計画を変更することがあります。

授業は、Google Classroom（クラスコード：qwubdtx)を使用し、課題指示・提出や連絡事項等を伝えます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑤　多様な人材との協力・協働	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】

(1) 幼稚園教員や保育士としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付けることができる。
(2) 幼稚園教員や保育士としての社会性や対人関係能力を身に付けることができる。
(3) 乳幼児についての理解や学級経営等に関する知識を身に付け、考え方や基礎的事項を例示することができる。
(4) 教育課程・全体の指導計画等についての知識や保育内容の指導力を身に付けることができる。

【成績の評価】

グループワークなどの受講状況（20%）、毎回のワークシート・課題についてのまとめ（80%）によって、総合的に評価します。

提出されたワークシートや課題は次回以降の授業時に返却します。教員からの講評を受けることでフィードバックを行います。

また、毎回の授業時のワークシートや課題等の提出が必要です。出席、欠席にかかわらず未提出の場合は単位が出ません。なお、授業の意義と役割に鑑み、本学の欠席届の対象とならない欠席は認められません。

【使用テキスト】

必要に応じて資料を配付、または紹介します。

【参考文献】
幼稚園教育要領解説(平成30年　文部科学省)
保育所保育指針解説(平成30年　厚生労働省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年　内閣府、文部科学省、厚生労働省)

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目です。保育所、幼稚園等の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	※授業は全15回実施し、1回の授業で2コマ実施する。 社会性や対人関係能力に関する事項(1) ①保育者に求められるマナーや社会性 ②模擬面接	【予習】「面接対策」のテキストを読み、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	全教員 担当：川口
2	保育職を取り巻く現代的課題 ①講話と演習（グループワーク）	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：松原
3	社会性や対人関係能力に関する事項(2) 「保育者に求められる対人関係の築き方」 ①講話と演習（グループワーク）	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：野町
4	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(1) 「保育者の倫理」 ①講話と演習（グループワーク）	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：松原
5	乳幼児理解や保育経営等に関する事項(1) 「乳幼児の発達や保育についての理解」 ①講話と演習（グループワーク）	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：野町
6	保育内容の指導力に関する事項(1) 「表現に関する保育方法や技術の検討」 ①「リトミック」に関する実技と講話	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：水嶋
7	社会性や対人関係能力に関する事項(3) 「ストレスとの付き合い方」 ①講話と演習（グループワーク）	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：横川
8	乳幼児理解や保育経営等に関する事項(2) 「特別な支援を必要とする乳幼児、児童の理解」 ①講話と演習（グループワーク）	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：横川
9	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(2) 「就学前保育施設と小学校の連携」 ①講話と演習（グループワーク）	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：田中
10	保育内容の指導力に関する事項（2） 「健康に関する保育方法や技術の検討」 ①講話と演習（グループワーク）	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：田中
11	乳幼児理解や保育経営等に関する事項（3） ①乳幼児の保護者との懇談 ②保護者支援に関する演習（グループワーク）	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：山田
12	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(3) ①卒業生による講話と演習（グループワーク）	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：川口

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
13	保育内容の指導力に関する事項（3） 「表現に関する保育方法や技術の検討」 ①「造形」に関する実技と講話	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：水嶋
14	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(4) 「遊びを豊かにする保育者の援助」 ①講話と演習（グループワーク）	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：山田
15	保育職に求められる資質・能力 ①保育職に求められる資質・能力の検等 ②まとめ（保育者としての学びの総括）	【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間）	担当：川口
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU18
授業形態： 演習
科目名： 教職実践演習（小）
担当教員： 峯　寛文(MINE　Hirofumi),秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya),山口　明乙香(YAMAGUCHI　Asuka),堺　るり子(SAKAI　Ruriko),藤本　駿(FUJIMOTO　Syun),佐々木　啓祐(SASAKI　Keisuke),糸目　真也(ITOME　Shinya)

【授業の紹介】

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の学修活動を通して身に付けた資質・能力が、教員として最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものです。１年次から記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレーイング、演習などを通して「理論」と「実践力」の定着を図ります。

この授業ではGoogle classroom(クラスコード：5nkvtaw）を使用し、必要に応じてICTを活用した双方向型授業を実施します。

なお、後期開講ですが、一部を前期に実施することがあります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑤　多様な人材との協力・協働	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】

１．小学校の教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付けることができる。
２．小学校の教員としての社会性や対人関係能力を身に付けることができる。
３．児童についての理解や学級経営等に関する知識を身に付けることができる。
４．小学校の教育課程や指導についての知識や技能、指導力等を高めることができる。

【成績の評価】
　討議や発表における参加度(50%)や毎回のまとめ(30%)、ワークシート(20%)によって評価。まとめやワークシートは、その都度添削して授業時間に返却する。

【使用テキスト】
小学校学習指導要領解説　総則編（平成29年3月告示　文部科学省）

【参考文献】
適宜紹介、資料として配付する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目で、小学校、特別支援学校等の現場での経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	1～15回の各回とも２コマ実施する。 社会性や対人関係能力に関する事項(1) ①　教員に求められるマナーや社会性 ②　模擬面接	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。(60分)	
2	教育内容の指導力に関する事項(1) （高松第一学園訪問） ①・②小中一貫教育の取り組みに学ぶ	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。(60分)	
3	教育内容の指導力に関する事項(2) ①　本演習の目的と進め方 ②　幼小接続　講話	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。(60分)	
4	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(1) ①　講話 ②　現職若年教員と学校現場の課題について討議	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。(60分)	
5	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(2) 教育内容の指導力に関する事項(3) ①　講話 ②　作品鑑賞等	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。(60分)	
6	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(3) ①　教育行政関係職員との討議　②　教育改革の動向	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。(60分)	
7	社会性や対人関係能力に関する事項(2) （高松市適応指導教室訪問） ①・②不登校対策	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。(60分)	
8	社会性や対人関係能力に関する事項(3) ①　ストレスとの付き合い方(講話) ②　ストレスとの付き合い方(演習)	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。(60分)	
9	児童理解や学級経営等に関する事項(1) ①　特別な支援を必要とする児童の理解（講話） ②　特別な支援を必要とする児童の理解（演習）	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。(60分)	
10	児童理解や学級経営等に関する事項(2) (小学校訪問) ①　授業参観及び討議 ②　学校、学級経営の理解（講話）	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。(60分)	
11	教育内容の指導力に関する事項(4) ①　小学校管理職との討議 ②　小学校理科　講話	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。(60分)	
12	教育内容の指導力に関する事項(5) ①　新しい教育方法 ②　模擬授業	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。(60分)	
13	児童理解や学級経営等に関する事項(3) ①　学級経営計画について(講話)　②　学級経営計画の作成、発表、討議	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。(60分)	
14	教育内容の指導力に関する事項(6) （高松市総合教育センター訪問）	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	①・②　電子黒板・タブレットの活用	(60分)	
15	教員に求められる資質・能力のまとめ ①　求められる教師像 ②　総括	復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。 (60分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU19
授業形態： 演習
科目名： 教職教養演習Ⅰ
担当教員： 藤本　駿(FUJIMOTO　Syun)

【授業の紹介】
　教育原理、教育史、保育原理などの教職教養の基礎知識は備わっただろうか。本授業はそれらの確認や復習のために実施します。それは発達科学部の専門科目である教育学原論や教育制度論、保育原理、あるいは教師論で既に学んだ内容であり、受験に向けて基礎知識の定着を図るものでもあります。主として問題演習を行うが、解説を通して内容を実践に結びつけて理解することも目的とします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・教育・保育や学校（園）に関する専門的な知識を習得し、用語や内容について説明することができる。
・教育・保育の思想や仕組みについて理解し、説明することができる。
・習得した知識を教育・保育の実践と関連づけて、自分なりの意見や考えを述べることができる。

【成績の評価】
受講態度や授業への積極的な参加状況（30%）、小テスト（70%）を総合して評価する。
毎回、小テストの解答を示し、解説する。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
佐々木司・熊井将太編著『やさしく学ぶ教育原理』ミネルヴァ書房、2018年など

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、教職教養とは	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
2	教育の基礎（1）保育・教育にかかわる教育基本法	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
3	教育の基礎（2）保育・教育の目的・目標	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
4	西洋教育史（1）古代・中世の教育思想	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
5	西洋教育史（2）近世・近代の教育思想	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
6	西洋教育史（3）現代の教育思想	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
7	日本教育史（1）寺子屋、藩校、明治期の教育	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
8	日本教育史（2）大正・昭和期の教育	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
9	日本教育史（3）戦後の教育	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
10	教育原理（1）教員・保育士	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（1時間）。	
11	教育原理（２）教育課程	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
12	教育原理（３）生徒指導	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
13	教育時事（１）現代の保育課題	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
14	教育時事（２）現代の教育課題	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
15	まとめと振り返り問題	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU20
授業形態： 演習
科目名： 教職教養演習II
担当教員： 藤本　駿(FUJIMOTO　Syun)

【授業の紹介】
　子どもや子育てに関する問題が目まぐるしく起こっており、これまで見られなかった複雑な判断が求められることが増えています。そのため、教育や保育の現場において法規についての基礎的理解が欠かせません。
　本授業では、小学校、幼稚園・保育所などの採用試験対策としての問題練習及び解説を行います。教育法規の意義は何か、学校教育に関するどのような法律があるか、子育て支援などの法規はどのように定められているのかなどの説明及び意見交換をしながら、法規について基本的な理解を深めていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．教育・保育の法規の意義、教育・保育に関する基本的な法規の内容、教育・保育の諸問題についての法的な関わりなどを理解し、説明できる。
２．教育・保育の法規そのものに対する知識や理論を獲得するとともに、具体的な事例や判例を学ぶことによって、教員・保育士に求められる実践的な判断ができる。
３．小学校や幼稚園・保育所等の採用試験に出る法規の問題を解くことができる。
４．法規の見方・読み方を身につけることができる。

【成績の評価】
受講態度や授業への積極的な参加状況（30%）、小テスト（70%）を総合して評価する。
毎回、小テストの解答を示し、解説する。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
・古賀一博編著『教師教育講座第5巻 教育行財政・学校経営改訂版』（協同出版、2018年）
・高見茂監修『必携 教職六法 2024年度版』（協同出版、2023年）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、教育法規の体系	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
2	保育・教育にかかわる教育基本法	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
3	保育・教育にかかわる学校教育法	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
4	公教育の原理	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
5	教員・保育士の職務と身分	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
6	教員・保育士の服務、分限と懲戒	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
7	教員・保育士の研修	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
8	教員・保育士の勤務条件	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
9	学校評価、地域との連携	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
10	教育課程の編成	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（1時間）。	
11	学校保健・安全・食育	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
12	保育・教育にかかわる課題（１）令和の日本型学校教育	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
13	保育・教育にかかわる課題（２）子ども・子育て政策	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
14	保育・教育にかかわる課題（３）児童虐待や体罰の問題	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
15	まとめ、振り返り問題の実施	予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（1時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（1時間）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU21
授業形態： 演習
科目名： 教職教養演習III
担当教員： 秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya)

【授業の紹介】
　本気で教員を目指しませんか。この授業は、小学校教諭を強く志望し、４年次に小学校教員採用試験を受験する学生が対象です。教員採用試験の「教職教養」「小学校全科」に出題される学習指導要領に関する問題を多数扱います。「教職専門演習」「特別演習Ⅲ」も必ず受講してください。
　また、本授業は実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。
　クラス名：2024教職教養演習Ⅲ　　クラス コード：3tzh5vk

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
　教員採用試験対策の一環として位置づけています。教員としての「専門的知識」を試される一次試験突破を目指します。学習指導要領及び解説編や解説書等を用いて自主的に学習を進めていくことが前提です。
①学習指導要領の「前文」「総則」「特別の教科道徳」の全文暗記、各教科の全体目標の全文暗記ができる。
②各回の範囲の学習指導要領を・解説編を熟読しノートにまとめることができる。
③毎回、教員採用試験における学習指導要領に関連する問題（「（　）に適語を入れよ」）での合格点（正答率80%）をとることができる。

【成績の評価】
　毎回実施する小テスト「教員採用試験における学習指導要領に関連する問題（「（　）に適語を入れよ」）」を合わせた試験問題の点数による評価（20%）、定期試験（80%）を基本としますが、学習指導要領を分析、まとめたノートづくりや毎回の小テストへの取り組み状況などを併せて総合的に評価します。
　学習指導要領に関わる学習内容は、教員採用試験対策講座等の集団討論・個人面接において活かします。

【使用テキスト】
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）
・文部科学省『学習指導要領解説（各教科等）』（東洋館、日本教文、開隆堂、廣済堂、2018年）価格は各教科ごとによる。

【参考文献】
・日本教材システム編集部『一目でわかる２色刷り　小学校学習指導要領新旧対照表』(日本教材システム、2018年)
・資格試験研究会編『小学校学習指導要領らくらくマスター［2022年度版］』（実用教育出版、2021年）
・現代教育情報研究会　『すいすい身につく小学校学習指導要領 2022年度版』（一ツ橋書店、2021年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の現場での教科指導、現職教育主任の経験を活
かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	小学校学習指導要領とは(教育課程に関する法令との関連、改訂の歴史的背景) ガイダンス（学習方法・授業時間外の学習について）	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
2	新学習指導要領「総則」について①（改訂の経緯、「生きる力」の理念等））	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
3	新学習指導要領「総則」について②（学力観の具現化、言語活動の充実）	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
4	新学習指導要領「道徳」について①（道徳の時間の教科化など改訂の経緯について）	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
5	新学習指導要領「道徳」について②（特別の時間道徳の目標と内容）	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
6	新学習指導要領「国語」について（言語活動の充実を図る方策の明確化）	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要と	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		される知識・教養・技能を積み重ねること。	
7	新学習指導要領「社会」について	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
8	新学習指導要領「算数」について①（算数科の全体目標）	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
9	新学習指導要領「算数」について②（算数科、各学年の目標）	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
10	新学習指導要領「理科」について①（理科の全体目標）	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
11	新学習指導要領「理科」について②（理科：各学年の目標）	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
12	新学習指導要領「外国語活動」について	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		傾向を把握し対策を立てておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
13	新学習指導要領「総合的な学習の時間」について	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
14	新学習指導要領「特別活動」について	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
15	学習のまとめ（現学習指導要領の特徴を捉え、レポートにまとめる）	・毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと. ・学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。 ・また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記３点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KYOU22
授業形態： 演習
科目名： 教職専門演習
担当教員： 秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya)

【授業の紹介】
　本気で教員を目指しましょう。この授業は、小学校教諭・特別支援学校教諭を強く志望し、本年度の教員採用試験を受験する学生が対象です。「特別演習Ⅰ・Ⅱ」で扱った模擬授業と、そこでは扱えなかった小学校における教科外の専門的知識と実践的指導力の習得を図ります。また、教員採用試験の面接対策にもなる「エントリーシート」「自己ピーアール」等の記述の指導を通して、教職に就く心構え、教育観、学校観、学力観を明確にしていきます。
　また、本授業は実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。
クラス名：2024教職専門演習　　クラス コード：3bv6n74

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」に関わる目標として、
①　自らの教育観･教職観･学校観を明確にし、原稿用紙１枚程度にまとめることができる。
「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」に関わる目標として、
②「教職専門演習ノート」を作成し、大学での学習や生活、ボランティア活動や教育実習などの経験を具体例とし、自己アピール文やスピーチに的確にまとめることができる。
③　教員採用試験において過去に出題された問題をもとに集団・個人面接や集団討論・集団活動を想定し、①や②でまとめた内容を効果的に表現できる。

【成績の評価】
　到達目標①～③について各４段階評価したものを点数化し評価の基礎データとします。
　到達目標①（25%）、到達目標②「教職専門演習ノート」（50%）、到達目標③「模擬面接・討論・授業」（25%）
しかし、本来、点数化になじまない授業内容ですので、授業態度（教職に向けての意欲が現れているか）を大事にして総合的に評価します。
　評価したものは、授業時間外に実施する教員採用試験対策講座の面接指導等に反映します。

【使用テキスト】
・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示)』（東洋館出版、2018年）
・文部科学省　『小学校学習指導要領解説　総則編･特別活動編』(東洋館出版社、2018年）
　他、小学校学習指導要領解説　各教科
その他、授業において、文献資料等を配布します。

【参考文献】
・協同教育研究会編『香川県教員試験「過去問」シリーズ　香川県の論作文･面接　2022年度版』（共同出版、2021年）
・野口芳宏『教員採用試験αシリーズ2022度版「模擬授業・場面指導」』（一ツ橋書店、2021年）
・沖山吉和編者『教員採用αシリーズ2022年度版「教育論作文」』（一ツ橋書店、2021年）
・現代教職研究会編者『教員採用試験αシリーズ2022年度版「30秒アピール面接」』（一ツ橋書店、2021年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の現場での学級担任や若年教員指導担当等の経験を活
かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	ガイダンス（授業構成の説明、次回以降の授業準備等について）　模擬授業①	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
2	エントリーシートの基本と書き方①　「項目と条件」　模擬授業②	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
3	エントリーシートの基本と書き方②　「自己アピールと具体例」　模擬授業③	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
4	明確な教育観･教職観･学校観のアピール①「キーワード」のとらえ方　模擬授業④	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
5	明確な教育観･教職観･学校観のアピール②「自分の意見と具体例、具体策」　模擬授業⑤	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
6	明確な教育観･教職観･学校観のアピール③「模範解答と自分の主張」　模擬授業⑥	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
7	場面指導について①「基本と展開」　模擬授業⑦	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
8	場面指導について②「場面の分類」　模擬授業⑧	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
9	場面指導について③「各場面における指導のあり方」　模擬授業⑨	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
10	場面指導について④「学習習慣を確立させる場」の具体的指導　模擬授業⑩	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	場面指導について⑤「知識・技能を習得させる場や活用させる場」の具体的指導 模擬授業⑪	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
12	面接における「明確な教育観･教職観･学校観のアピール」の実際① 模擬授業⑫	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
13	面接における「場面指導」の実際①　模擬授業⑬	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
14	面接における「明確な教育観･教職観･学校観のアピール」の実際②　模擬授業⑭	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
15	面接における「場面指導」の実際②　模擬授業⑮	①　教育観･教職観･学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。 ②　場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ③　模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。 ④　①～③で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。 毎日、最低でも30分以上の時間を上記４点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： KYOU23
授業形態： 演習
科目名： 特別演習Ⅰ
担当教員： 秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya)

【授業の紹介】
　本気で教員を目指しませんか。この授業は、４年次に小学校の教員採用試験を受験する学生を対象とした授業です。教員採用試験の２次試験対策の一環として位置づけ、小学校教諭に必要とされる教科の実践的指導力を身につけることをねらいとしています。模擬授業の相互評価を通して、教科の授業を指導する際に必要なスキルを身につけることに徹します。また、後期開講の「特別演習Ⅱ」、４年次の「特別演習Ⅲ」「教職専門演習」の授業も必ず受講してください。
　本授業は、「実践」力を向上させることをねらいとし、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な指導言（発問・指示・説明）を示しながら授業を行います。
　＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。
　クラス名：2024特別演習Ⅰ・Ⅱ　　クラス コード：qmsz5ai

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の３つを設定します。
・小学校算数科・国語科の模擬授業を通して修得する技能として、
　１　授業場面において適切な発問・指示・説明ができる。
　２　授業場面において児童との適切な対応(応答)と評価ができる。
　３　国語科・算数科の本来の意味を押さえた教材研究と授業をすることができる。

【成績の評価】
　模擬授業においては、「教員としての声」「子どもへの目線」「子どもへの対応・応答」（20%）、「発問・指示の明確さ」（20%）、「導入からの指導の流れ・リズム」（20%）、「指導の組み立て」「学習指導案の記述」（20%）、「板書」（20%）について４段階評価したものを基礎データとします．また、模擬授業への取り組み、授業検討での質疑応答などを併せて総合的に評価します。
　毎回実施する模擬授業ごとに、上記の評価観点で評価コメントし、次時以降の模擬授業や「特別演習Ⅱ・Ⅲ」の授業における活動に反映させます。

【使用テキスト】
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）
・文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』（東洋館出版、2018年）
・文部科学省『小学校学習指導要領解説　算数編』（日本文教出版、2018年）
・文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】
・野口芳宏『教員採用試験αシリーズ2020年度版「模擬授業・場面指導」』（一ツ橋書店、2018年）1188円
・向山洋一『教育新書1 授業の腕を上げる法則』（明治図書、1985年）860円

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の現場での学級担任としての学習指導、研究授業などの校内研修を担当する現職教育主任としての経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	ガイダンス　小学校算数科(3～6年生)の教材確認と模擬授業担当等の確認	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
2	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価①　「百玉そろばん」実演	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
3	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価②　「百玉そろばん」実施（３名程度）	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
4	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価③　「百玉そろばん」実施（３名程度）	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
5	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価④　「百玉そろばん」実施（３名程度）	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
6	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価⑤　「百玉そろばん」実施（３名程度）	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
7	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価⑥	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
8	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価⑦	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
9	小学校国語科の教材を用いた模擬授業と相互評価①（「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導）	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
10	小学校国語科の説明文教材を用いた模擬授業と相互評価②	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	小学校国語科の説明文教材を用いた模擬授業と相互評価③	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
12	小学校国語科の文学作品教材を用いた模擬授業と相互評価④	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
13	小学校国語科の文学作品教材を用いた模擬授業と相互評価⑤	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
14	小学校国語科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑥　百人一首の指導	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
15	小学校国語科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑦　百人一首の指導	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU24
授業形態： 演習
科目名： 特別演習Ⅱ
担当教員： 秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya)

【授業の紹介】
「特別演習Ⅰ」と同様、4年次に小学校教員採用試験を受験する学生を対象とした授業です。小学校教諭に必要とされる教科（主に社会科・理科）の実践的指導力を身につけます。
実際に教壇に立つ場面を想定して模擬授業を行い、相互評価を通して、教科の授業を指導する際に必要なスキルを身につけることに徹し、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な指導言（発問・指示・説明）を示しながら授業を行います。
この授業は、小学校教員採用試験の２次試験対策の一環として位置づけています。教員採用試験を受験する学生には必須の授業です。また、後期の「教職教養演習Ⅲ」、４年次の「特別演習Ⅲ」「教職専門演習」の授業とも関連が深いので、これらの授業も必ず受講してください。

＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。
クラス名：2024特別演習Ⅰ・Ⅱ　　クラス コード：qmsz5ai

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の３つを設定します。
・小学校社会科・理科の模擬授業を通して修得する技能として、
　１　授業場面において適切な発問・指示・説明ができる。
　２　児童との対応(応答)場面において適切な声かけや評価ができる。
　３　社会科・理科の本来の意味を押さえた教材研究と学習指導案を作成することができる.

【成績の評価】
模擬授業においては、「教員としての声」「子どもへの目線」「子どもへの対応・応答」（20%）、「発問・指示の明確さ」（20%）、「導入からの指導の流れ・リズム」（20%）、「指導の組み立て」「学習指導案の記述」（20%）、「板書」（20%）について４段階評価したものを基礎データとします．また、模擬授業への取り組み、授業検討での質疑応答などを併せて総合的に評価します。毎回実施する模擬授業ごとに、上記の評価観点で評価コメントし、次時以降の模擬授業や「特別演習Ⅱ・Ⅲ」の授業における活動に反映させます。

【使用テキスト】
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）
・文部科学省『小学校学習指導要領解説　社会編』（日本文教出版、2018年）
・文部科学省『小学校学習指導要領解説　理科編』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】
・常磐会学園大学教職教育研究会編『論作文と面接・模擬授業　教員採用試験のために』(大阪教育図書、2018年)2484円
その他、授業で適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の現場での学級担任としての学習指導、研究授業などの校内研修を担当する現職教育主任としての経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	小学校社会科(３～６年生)の教材と模擬授業について	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
2	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価①　教科書の資料（画像・絵図）の扱い	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
3	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価②　資料（グラフ・表）の読ませ方	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
4	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価③　知識として身につけさせる内容	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
5	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価④　思考力を育成させる場面	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
6	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑤　「ねらい」を明確にする	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
7	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑥　学習課題（めあて）の取り扱い	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
8	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑦　10分間で授業を完結させる	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
9	ガイダンス　小学校理科(３～６年生)の教材と模擬授業について	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
10	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価①　実験器具の準備と取り扱い	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価②　「予想」させる際の留意点	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
12	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価③　「実験」させる際の留意点	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
13	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価④　「結果の検証」をさせる際の留意点	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
14	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑤　「ねらい」を明確にする	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
15	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価⑥　20分間で授業を完結させる	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③社会･理科の模擬授業担前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。 　毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KYOU25
授業形態： 演習
科目名： 特別演習III
担当教員： 秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya),土井　理裕(DOI Masahiro)

【授業の紹介】
　本授業は実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な指導言（発問・指示・説明）を示しながら授業を行います。
　小学校教員採用試験の2次試験で実施される模擬授業に対応した授業です。受験する自治体の教員採用試験に対応します。「特別演習Ⅰ・Ⅱ」で培ったスキルをもとに、確かな学力を子どもたちに身につけさせられる実践的指導力を目指します。
　＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。
クラス名：2024特別演習Ⅲ　　クラス コード：zb7ba6w

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の５つを設定します。
１　受験する教員採用試験の模擬授業についての情報を収集し熟知する。
２　授業場面において適切な発問・指示・説明ができる。
３　児童との対応(応答)場面において適切な声かけや評価ができる。
４　授業を構成する際に必要とされる基本的な教材研究ができる。
５　模擬授業を実施するにあたっての学習指導案、単元計画案を作成することができる。

【成績の評価】
　点数評価になじまない科目ですので、模擬授業への取り組み、授業検討での質疑応答・意見など総合的に評価します。
　模擬授業に関しては、「教員としての声」「子どもへの目線」「子どもへの対応・応答」（20%）、「発問・指示の明確さ」（20%）、「導入からの指導の流れ・リズム」（20%）、「指導の組み立て」「学習指導案の記述」（20%）、「板書」（20%）について４段階評価したものを基礎データとします。
　毎回実施する模擬授業ごとに、上記の評価観点で評価コメントし、次時以降の模擬授業や「教職専門演習」の授業における活動に反映させます。

【使用テキスト】
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）
・協同教育研究会編『香川県教員試験「過去問」シリーズ　香川県の論作文･面接　2022年度版』（共同出版、2018年）1620円等、受験する教員採用試験の地域の過去問題集などを各自準備すること。

【参考文献】
適宜紹介します。
・野口芳宏『教員採用試験αシリーズ2022年度版「模擬授業・場面指導」』（一ツ橋書店、2021年）
・常磐会学園大学教職教育研究会編『論作文と面接・模擬授業　教員採用試験のために』(大阪教育図書、2018年)

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の現場での学級担任としての学習指導、研究授業などの校内研修を担当する現職教育主任としての経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	ガイダンス　教員採用試験受験地の模擬授業情報の収集と分析	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
2	教員採用試験受験地の模擬授業に関する情報の収集と分析①	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
3	教員採用試験受験地の模擬授業に関する情報の収集と分析②	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
4	過去問題による模擬授業の実践と相互評価①（毎時間各1回以上）学習指導者としての声と言葉遣い	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
5	過去問題による模擬授業の実践と相互評価②（毎時間各1回以上）指導する際の立ち位置	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
6	過去問題による模擬授業の実践と相互評価③（毎時間各1回以上）机間指導の必要性	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
7	過去問題による模擬授業の実践と相互評価④（毎時間各1回以上）「修得」の際の指導	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
8	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑤（毎時間各1回以上）「活用」の際の指導	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
9	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑥（毎時間各1回以上）「板書」の構成（1）	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
10	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑦（毎時間各1回以上）「板書」の構成（2）	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
11	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑧（毎時間各1回以上）「めあて」の示し方（1）	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
12	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑨（毎時間各1回以上）「めあて」の示し方（2）	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
13	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑩（毎時間各1回以上）「まとめ」の示し方	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
14	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑪（毎時間各1回以上）10分間で授業を完結させる(1)	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
15	過去問題による模擬授業の実践と相互評価⑫（毎時間各1回以上）10分間で授業を完結させる(2)	ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の３点は必ず準備しておくこと。 ①担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。 ②学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。 ③模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。 毎日、最低でも30分以上の時間を②③の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS1
授業形態： 実習
科目名： 観察参加Ⅰ
担当教員： 中塚　勝俊(NAKATSUKA　Katsutoshi),山田　純子(YAMADA　Junko)

【授業の紹介】
　子どもに話しかけたり一緒に遊んだりすることを通して、座学で学んだ子どもの発達を生で体験することにより、子どもについての理解が深め理論と実践の接点を見出すことが可能になるだろう。この授業を通して、より確かな子ども観や実践力の基礎を学び教育・保育に関わる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・幼稚園での観察・参加を通して、子供理解を深め保育の流れや保育活動に必要な知識技能を習得することができる。
・子ども達とどのようにかかわり、そのかかわりのどこをどのように観て記録するかについて理解することができる。

【成績の評価】
・観察記録（20%）、観察参加の態度（20%）、観察後の話し合いへの参加態度と意欲等（60%）を総合評価
・観察記録はクラス担任の先生のコメントが毎週返却されます。

【使用テキスト】
　なし

【参考文献】
幼稚園実習　保育所・施設実習［第２版］（2014年、ミネルヴァ書房、大豆生田啓友他（編））

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（観察・参加の意義）	観察・参加を通してどのような知識技能を習得するかについて文献などを読みノートにまとめておくこと。（1時間）保育活動に必要とされる子ども理解のなぜについてノートにまとめておくこと。（1時間）	
2	参加実習の意義（①目的・形態）	観察参加における「参加」の意味について文献などで調べノートにまとめておくこと。（1時間）	
3	参加実習の意義（②）模擬体験を通して）	子どもの役割、実習生の役割を想定し砂場遊び場面での「かかわりの展開」をイメージしたものをノートに書き留めておくこと。（1時間）授業中に例示された資料を基に参加実習の特質についてまとめノートに記述しておくこと。（1時間）	
4	観察参加実習園について	自分が配属される予定の幼稚園についてHPで調べノートにまとめておくこと。（１時間）幼稚園、認定こども園の制度上の違いについてまとめノートに文章化しておくこと。（1時間）	
5	観察・参加の心得・態度①幼児とのかかわり	観察・参加の実際において幼児とのかかわりの中で心得ておくべき注意事項を考えノートに列挙しておくこと。（1時間）幼稚園で知り得た守秘事項についてまとめノートにまとめておくこと。（1時間）	
6	観察・参加の心得・態度②保育者とのかかわり	観察・参加の実際において保育者とのかかわりの中で心得ておくべき注意事項を考えノートに列挙しておくこと。（1時間）観察園で知り得た保育者に関する守秘事項についてまとめノートに記載しておくこと。（1時間）	
7	教育実習中の先輩の姿から学ぶ	教育実習中の先輩の指導案を事前に読み見る観点をあらかじめ決めてノートに記述しておくこと。（1時間）保育を行った先輩との話し合いの中で考えたことを記録にまとめ提出すること。（1時間）	
8	クラスの子ども達の名前を覚える	クラスの子ども達に対して印象に残る自己紹介を準備しておくこと。（1時間）なぜその子の名前を覚えたのかについて理由を記録して提出すること。（1時間）	
9	クラスの子ども達の発達の特性を知る	大学の授業で学んだそれぞれの年齢の発達の特性を再度思い起こしノートに記述しておくこと。（1時間）座学で学んだ発達特性と体験した具体像の違いについて記録して提出すること。（1時間）	
10	エピソード収集①子供の遊びの様子	観察・参加の期間中に見た遊びの種類を思い起こしノートに列挙しておくこと。（1時間）自分にとって興味ある遊びの様子とその理由を記録し提出すること。（1時間）	
11	エピソード収集②子どもの言葉	大学で学んだ3,4,5歳児の言葉の特徴を確認しノートに記述しておくこと。（1時間）最も印象的だった「言語と思考」について具体的場面を添えて記録し提出すること。（1時間）	
12	エピソード収集③お誕生日会	お誕生日を迎える月の子ども達を事前に確認しておくこと。（1時間）日々のクラス内での行動とお誕生日会という場での行動の違いの意味するものを記録し提出すること。（1	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		時間）	
13	私の感じた子供の成長	この演習の初期の子ども達の姿を思い起こし印象に残ってる場面を記録しておくこと。（1時間）初期に見られた行動特徴がどのように変化してきたか個人、集団について記録し提出すること。（1時間）	
14	まとめ・観察・参加Iで学んだこと	この演習で学んだことを、子ども理解、保育活動について整理し記録として提出のこと。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS2
授業形態： 実習
科目名： 観察参加II
担当教員： 中塚　勝俊(NAKATSUKA　Katsutoshi),山田　純子(YAMADA　Junko)

【授業の紹介】
　この授業は観察参加Ｉに続いての授業となるので、傍観者的観察者としてではなく、主体的なかかわり方を求めます。そこから、保育者としてのかかわり方やいろいろな遊び場面における環境構成の方法や、援助の在り方、さらに随時環境の再構成について学んでいきます。また、子どもの発達についても理解を深め、その期の保育のねらいと子どもの動き、配慮の仕方など実践的観察参加の中から学び教育・保育に関わる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
・子どもの特性や発達への理解を深め、保育活動に必要な知識技能を修めることができる。
・教育実習に向けて継続的に学ぶ態度を身に付け、保育指導の計画立案能力を試みることができる。

【成績の評価】
・観察記録（20%）、観察参加の態度（20%）、観察後の話し合いへの参加態度と意欲等（60%）を総合評価
・観察記録はクラス担任の先生のコメントが毎週返却されます。

【使用テキスト】
　なし

【参考文献】
　幼稚園実習　保育所・施設実習［第２版］（2014年、ミネルヴァ書房、大豆生田啓友他（編））

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	観察の種類と方法について調べノートにまとめておくこと。（1時間）自分が配属される予定の幼稚園の特徴についてHPで調べノートにまとめておくこと。（1時間）	
2	観察の視点・教師の役割について	観察の心構え、子ども理解のための観察の視点について調べノートにまとめておくこと。（1時間）観察記録の主観性、客観性について自分の考えをノートにまとめ提出すること。（1時間）	
3	参加的観察法	観察における「参加」の意味について文献などで調べノートにまとめておくこと。（1時間）子どもとのかかわりの中で「見守る」ことについて2項目にまとめノートに記述すること。（1時間）	
4	観察記録の方法	子どもや保育者の行動のどこをどのように見るかについて事前に予想しノートにまとめておくこと。（1時間） 子どもの行動を見て出来事、分析、省察、考察について考えノートにまとめておくこと。（1時間）	
5	観察・参加の実際	配属先の幼稚園での観察・参加のための準備を周到に行う（ネームプレート上履き子ども達への挨拶など）。（1時間）翌週の提出のための観察記録を整理しておくこと。（1時間）	
6	子どもの名前を覚えよう	先週の「観察・参加」の記録を整理して提出する。（1時間）「私の見た教師の役割」について整理し記録を提出すること。（1時間）	
7	その子らしさを感じよう	先週の「観察・参加」の記録を整理して提出すること。（1時間）「印象に残った子どもの姿」について整理し記録を提出すること。（1時間）	
8	子どもの遊びに参加する	先週の記録を整理し提出すること。（1時間）子どもと私（エピソード）について記録の柱を考え整理し提出すること。（1時間）	
9	3歳児と話したり遊んだりする	先週の記録を整理し提出すること。（1時間）「友だちとのかかわり」に焦点を当て記録の柱立てをしておくこと。（1時間）	
10	4歳児と話したり遊んだりする	先週の記録を整理し提出すること。（1時間）「環境構成の工夫」について記録することを整理し提出すること。（1時間）	
11	5歳児と話したり遊んだりする	先週の観察の視点「環境構成の工夫」について整理し記録を提出すること。（1時間）「私が感じた子どもの成長」について記録するためのポイントを焦点化しておくこと。（1時間）	
12	環境構成の実際について	先週の記録を整理し提出すること。（1時間）保育における「環境構成の実際」を季節感に関してまとめておくこと。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　JISS3
授業形態：　実習
科目名：　学校支援ボランティアⅠ
担当教員：　峯　寛文(MINE　Hirofumi),織田　幸美(ODA　Yukimi)

【授業の紹介】
　３年生で教育実習を実施する前段階として、学校現場で教育活動への理解を深め、児童への接し方、指導・支援のあり方を体験し、学ぶことを目的としています。
　香川県内の要請のあった小学校等に出向き、児童と共に活動したり、教師の仕事を手伝ったりして、学校教育活動の補助を行います。そうした中で、得られる様々な実感や体感を通して、本学部カリキュラム・ポリシーに掲げる「教育者・保育者に求められる使命感・倫理観の涵養」等をめざすものです。
　この授業ではGoogle classroom(クラスコード：sc2fzna）を使用し、必要に応じてICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．学校現場での実践を通して、使命感や倫理観に基づく判断・行動等、教員に求められる資質や能力を身に付けることができる。
２．子どもの特性や発達への理解を深め、教育活動に必要な知識技能を習得できる。

【成績の評価】
　活動開始前のオリエンテーションや反省会での参加態度と成果及び指導・支援記録(40%)、ボランティアへの参加状況及び参加態度等(60%)で評価する。学校支援ボランティア参加報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】
学校支援ボランティアQ&A　(平成29年　高松大学)

【参考文献】
随時紹介、資料として配布する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は実務経験のある教員による授業科目です。担当教員が小学校で勤務した経験を活かし、授業や巡回指導等において指導・助言を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション①（年間を通した授業計画等）	テキスト「学校支援ボランティアＱ＆Ａ」を読み疑問点等についてメモする。(30分)	
2	オリエンテーション②（学校支援ボランティアファイルの作成等）	テキスト「学校支援ボランティアＱ＆Ａ」を読み疑問点等についてメモする。(30分)	
3	学校支援ボランティアの意義と目的	学校支援ボランティアを行う予定の小学校について、HP等で事前の情報取集を行いレジュメを作成する。(30分)	
4	学校支援ボランティアの形態・内容・方法	学校支援ボランティアを行う予定の小学校について、HP等で事前の情報取集を行いレジュメを作成する。(30分)	
5	学生ボランティアについての説明会(香川県教育委員会)	説明会において教育委員会から配布された資料等に再度目を通し、内容や留意点等について理解する。登録に必要な書類を作成し提出する。(30分)	
6	作成しているレジュメをもとに、学校支援ボランティア実施予定校の概要等について発表する。	説明会において教育委員会から配布された資料等に再度目を通し、内容や留意点等について理解する。登録に必要な書類を作成し提出する。(30分)	
7	支援者としての心得	学校支援ボランティアを行う小学校に電話連絡をし、事前打ち合わせを行う日時の日程調整を行った後に小学校に出向き、事前打ち合わせをする。(30分)	
8	支援者としての留意点	学校支援ボランティアを行う小学校に電話連絡をし、事前打ち合わせを行う日時の日程調整を行った後に小学校に出向き、事前打ち合わせをする。(30分)	
9	指導・支援記録について	支援者の心得や指導記録をとる際の留意点をレジュメにまとめ提出する。(30分)	
10	指導・支援記録のとり方の実際	支援者の心得や指導記録をとる際の留意点をレジュメにまとめ提出する。(30分)	
11	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
12	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
13	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
14	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
15	学校の要請に応じたボランティア活動	指導・支援結果について、提示された視点か	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	ら記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
16	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
17	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
18	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
19	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
20	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
21	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
22	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
23	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
24	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
25	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
26	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	・生徒指導の視点	での具体的対応策を考える。 (30分)	
27	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
28	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	指導・支援結果について、提示された視点から記録用紙に記録し考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。 (30分)	
29	前期活動を振り返っての発表(前半)	小学校で行ったボランティアの成果と課題をレジュメにまとめ提出する。(30分)	
30	前期活動を振り返っての発表(後半)	小学校で行ったボランティアの成果と課題をレジュメにまとめ提出する。(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　JISS4
授業形態：　実習
科目名：　学校支援ボランティアII
担当教員：　峯　寛文(MINE　Hirofumi),織田　幸美(ODA　Yukimi)

【授業の紹介】
　３年生で教育実習を実施する前段階として、学校現場で教育活動への理解を深め、児童への接し方、指導・支援のあり方を体験し、学ぶことを目的としています。
　香川県内の要請のあった小学校等に出向き、児童と共に活動したり、教師の仕事を手伝ったりして、学校教育活動の補助を行います。そうした中で、得られる様々な実感や体感を通して、本学部カリキュラム・ポリシーに掲げる「教育者・保育者に求められる使命感・倫理観の涵養」等をめざすものです。
　この授業ではGoogle classroom(クラスコード：sc2fzna）を使用し、必要に応じてICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】
１．学校現場での実践を通して、使命感や倫理観に基づく判断・行動等、教員に求められる資質や能力を身に付けることができる。
２．子どもの特性や発達への理解を深め、教育活動に必要な知識技能を習得できる。

【成績の評価】
　活動への参加状況及び意欲と態度(60%)、支援・援助記録(20%)、報告会の資料作成、参加態度(20%)で評価。支援・援助記録、報告資料の添削、報告会を講評して、フィードバックを行う。

【使用テキスト】
学校支援ボランティアQ&A　(平成29年　高松大学)

【参考文献】
随時紹介、資料として配布する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は実務経験のある教員による授業科目です。担当教員が小学校で勤務した経験を活かし、授業や巡回指導等において指導・助言を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	前期のボランティア活動の振り返り（具体策の作成・検討）	前期活動の成果と課題から、後期の目標及び課題解決に迫る具体策を考えレジュメにまとめ提出する。(30分)	
2	前期のボランティア活動の振り返り（後期の目標と具体策の発表）	前期活動の成果と課題から、後期の目標及び課題解決に迫る具体策を考えレジュメにまとめ提出する。(30分)	
3	学校等との打ち合わせ（後期の活動計画、活動学年・学級、日程調整等）	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
4	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
5	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
6	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
7	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
8	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
9	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		る習慣を付け、児童理解に努める。	
10	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
11	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
12	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
13	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
14	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
15	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
16	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
17	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		みに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取る習慣を付け、児童理解に努める。	
18	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
19	要学校の請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
20	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
21	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
22	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
23	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
24	学校の要請に応じたボランティア活動 ・環境整備の視点 ・学習指導の視点 ・生徒指導の視点	次の点に留意し記録用紙に記録する。(30分) ・自らのテーマに照らし目標達成のための手立て等を考え、今後の支援や援助に生かす。 ・支援や援助を行った結果について、記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析・考察する習慣を身に付ける。 ・日常的に子どもの言動に注意し、メモを取	
25	管理職との面談（活動報告）	校長、教頭等からの指導助言を記録用紙にま	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		とめる。(30分)	
26	管理職との面談（指導助言）	校長、教頭等からの指導助言を記録用紙にまとめる。(30分)	
27	後期の活動を振り返って ・活動記録の整理と成果と呼び課題の考察	報告会の原稿及びプレゼン資料の作成(1時間)	
28	後期の活動を振り返って(発表)	報告会の原稿及びプレゼン資料の作成(1時間)	
29	まとめ　報告会（前半）	報告会での質問を想定したＱ＆Ａ作り(30分)	
30	まとめ　報告会（後半）	報告会での質問を想定したＱ＆Ａ作り(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　JISS5
授業形態：　実習
科目名：　教育実習事前事後指導Ⅰ【幼】
担当教員：　山田　純子(YAMADA　Junko)

【授業の紹介】
　本授業は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うものであり、実習の前後に講義・演習を行います。幼稚園教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるように学びを深めていきましょう。また、保育に必要な知識・技能を取得しようとする意欲を高め、保育技術を身に付けることをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高めることができる。
２．事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解できる。
３．これらのことを通して教育実習の意義を理解することができる。
　①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
　②教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解することができる。

【成績の評価】
　課題・学習シートのまとめ（50%）、実習の振り返りのまとめ（50%）
なお、教育実習事前事後指導は、教育実習Ⅰ及び教育実習Ⅱと連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。
　ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出すること。
　課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
　幼稚園教育要領解説(平成30年　文部科学省)

【参考文献】
　適宜、資料を配布します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	教育実習の意義と目的	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
2	教育実習の概要	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
3	保育実践の要件	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
4	保育を計画する　部分実習	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
5	保育の計画と実践、実習日誌の書き方	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
6	実習日誌の実際	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理して	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		おくこと。（各1時間） 　部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) 　また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
7	実習直前の準備と心得	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 　部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) 　また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
8	部分保育指導案の作成	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 　部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) 　また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
9	教育実習Ｉの振り返り	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 　部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) 　また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
10	幼児同士のトラブルの対応（事例研究〉	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 　部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) 　また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
11	ロールプレイングを通して自己課題を克服する（日常保育）	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 　部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) 　また、様々な保育技能を保育現場で活用で	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		きるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
12	ロールプレイングを通して自己課題を克服する（社会人のマナー）	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
13	保育学生としての言葉（SST）	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
14	教育実習Ⅱに向けて①日誌の作成	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
15	教育実習Ⅱに向けて②指導案の作成	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
16	教育実習Ⅱに向けて③自己点検	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
17	教育実習Ⅱの振り返り①	予習として、授業計画によるテーマに基づ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		き、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
18	教育実習Ⅱの振り返り②（グループ協議）	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
19	教育実習報告会に向けて①発表原稿作成	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
20	教育実習報告会に向けて②発表原稿仕上げ	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
21	教育実習報告会に向けて③最終確認と協議	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
22	教育実習報告会	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
23	まとめと今後の課題	予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS6
授業形態： 講義
科目名： 教育実習事前事後指導Ⅱ【小】
担当教員： 峯　寛文(MINE　Hirofumi),藤本　駿(FUJIMOTO　Syun),佐々木　啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】
　教育実習事前事後指導での学修を通して、教育実習が円滑且つ効果的に行われるよう、実習の前後に講義・演習を行うものです。教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等について理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにするとともに、教育活動に必要な知識・技能の修得をめざします。２年次に履修した「学校支援ボランティアⅠ、Ⅱ」の体験を生かし、質の高い実践力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができるようにします。
　この授業ではGoogle classroom(クラスコード：dp6cgjz）を使用し、必要に応じてICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．小学校教諭の業務や職業倫理について理解し、教師としての使命感や倫理観を培うことができる。
２．学校教育活動に必要な知識や判断力を修得することができる。
３．学習指導計画の作成・実践・記録・評価等を体験する中で、教師として必要な技能、実践力を修得するこ
　　とができる。
４．自己評価及び自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育むことができる。

【成績の評価】
授業への参加態度(40%)、教材研究のあり方(30%)、実習のまとめ(30%)等から評価します。報告会において、各自の成果と課題について、説明、講評する。

【使用テキスト】
小学校教育実習の手引き(2021年 高松大学)。

【参考文献】
なし。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は実務経験のある教員が担当する授業科目で、学校現場での経験を活かし具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	教育実習の意義と目的	授業で配布された「実習生個人票」「誓約書」「出勤簿」等の清書や下書きを行う。(1時間)	
2	教育実習の概要・心得・態度等	実習生個人票に記載する自らの学習課題の下書きについて推敲し清書する。(1時間)	
3	教育実習の内容と方法、実習日誌の書き方	授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間)	
4	学習指導案の書き方と教材準備の仕方	授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間)	
5	各種トラブル等の具体的解決策	授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間)	
6	実習直前の準備と心得	授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間)	
7	指導案作り(略案：本時の学習指導)	研究授業の教科を決めて、指導略案を作成する。(1時間)	
8	指導案作り(細案：単元の目標、単元について)	研究授業の教科を決めて、指導細案(単元の目標、単元について)を作成する。(1.5時間)	
9	指導案作り(細案：評価規準、単元計画、本時の学習指導)	研究授業の教科を決めて、指導細案(評価規準、単元計画、本時の学習指導)を作成する。(1.5時間)	
10	電子黒板、タブレットの活用について	授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間)	
11	特別の教科道徳について(学習指導要領から)	授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間)	
12	道徳科の授業づくり(ロールプレイの実際)	授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間)	
13	教育実習の成果・課題等についての振り返り	学校長、指導教員、子どもたちへの礼状を書く。(1.5時間)	
14	教育実習報告会に向けて（報告資料の作成）	報告資料原稿を完成させる。(1.5時間)	
15	教育実習報告会に向けて（役割分担、印刷、製本等）	報告会でのプレゼン資料及び質疑応答を見据えたＱ＆Ａを作成する。(1.5時間)	
16	教育実習報告会(前半発表者)	報告会会場の設営と片付け(30分)	
17	教育実習報告会(後半発表者)	報告会会場の設営と片付け(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　JISS7
授業形態：　実習
科目名：　教育実習Ⅰ【幼】
担当教員：　山田　純子(YAMADA　Junko)

【授業の紹介】
　教育実習Ⅰは、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会です。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼児教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
(1)幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解することができる。
　①幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
　②指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。
　③教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。
　④学級担任の補助的な役割を担うことができる。
(2)大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。
　①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
　②保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
　③学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解できる。
　④様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。

【成績の評価】
　実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）
　なお、教育実習Ⅰは、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】
　幼稚園教育要領解説(平成30年　文部科学省)

【参考文献】
　適宜、紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	〈第１週〉 １　実習園の概要を知る ２　実習園の1日の流れを把握する ３　幼児の遊びの状況を理解し、参加する ４　発達の特性により、遊び、生活、課題への取組みの違いを知る ５　幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ ６　実習記録の取り方、反省、評価について学ぶ ７　安全に対する配慮、清掃、環境整備の仕方を知る 〈第２週〉 １　年間指導計画の中での現在の保育を理解する ２　配属クラスの個々の子どもの特徴を知る ３　いろいろな子どもとの関係を深める ４　保育における指導と援助のあり方を探る ５　部分実習をする ６　保育実践の反省、評価を受ける ７　園行事に参加し、行事のあり方について考える ※上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。	事前：部分保育・研究保育指導案を作成しておくこと。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。（15時間） 事後：毎日、実習日誌を記録し一日を振り返る。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載すること。 また、実習園の教員からご指導いただいたことを記録しておくこと。（15時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS8
授業形態： 実習
科目名： 教育実習Ⅱ【幼】
担当教員： 山田　純子(YAMADA　Junko)

【授業の紹介】
　教育実習Ⅱは、教育実習Ⅰの学習を踏まえたうえで、幼児教育の特質を知り、幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うことをねらいとします。実習園では、指導教員の指導を受けながら、観察・部分保育・全日保育・研究保育などの実習を行います。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、実習生の主体的、意欲的な学習への取組が不可欠となります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
(1)幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解することができる。
①幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
②指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。
③教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。
④学級担任の補助的な役割を担うことができる。
(2)大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。
①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
②保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
③学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解できる。
④様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。

【成績の評価】
実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）
なお、教育実習Ⅱは、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。
日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】
幼稚園教育要領解説(平成30年　文部科学省)

【参考文献】
適宜、紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	〈第１週〉 １　子どもの成長発達を理解する ２　集団生活における子どもの学びを知る ３　学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む） ４　特別な配慮を必要とする子どもへのかかわり方を知る ５　季節の行事に関しての保育を知る ６　研究保育をする（保育計画を立案し、実践する） ７　保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する ８　幼稚園と家庭との連携についてその意義と方法を知る 〈第２週〉 １　保育室の環境整備・経営について知り、実践する ２　幼稚園教諭についての職務内容を理解する ３　地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する ４　幼稚園の特色ある保育についての理解を深める ５　子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等） ６　全日保育の計画、実践を行う ７　総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する ８　実習反省会・お別れ会 ９　これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける ※上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがある。	事前：必ず全日及び研究保育指導案を作成しておくこと。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。（15時間） 事後：毎日、実習日誌を記録し、一日を振り返る。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載すること。 実習園の教員からご指導いただいたことを具体的に記録しておくこと。（15時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　JISS9
授業形態：　実習
科目名：　教育実習III【幼】
担当教員：　山田　純子(YAMADA　Junko)

【授業の紹介】
　教育実習Ⅲは、教育実習Ⅰ・Ⅱの実習経験を生かして、さらに子どもの特性や発達への理解を深め、教職の専門性の理論を学ぶとともに実践力を身に付けていくことをねらいとしています。
　実習園では、指導教員の指導を受けながら、指導技術の向上を図るとともに、広い視野に立った幼稚園教育のあり方について学習し、将来、幼稚園の教員としての使命を認識し、保育の楽しさと責務を体感することをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
(1)事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。
①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
②教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解できる。
(2)幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解する。
①幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
②指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。
③教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。
④学級担任の補助的な役割を担うことができる。
(3)大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。
①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
②保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
③学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解できる。
④様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。

【成績の評価】
実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）により評価をします。
日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】
幼稚園教育要領解説(平成30年　文部科学省)

【参考文献】
適宜、紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】

　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	〈事前事後指導〉 １　実習Ⅰ・Ⅱの課題の抽出と目標の設定 ２　保育の記録 ３　指導計画の作成 ４　保育の展開と教師の援助 ５　指導計画の評価・改善 ６　実習後の振り返りと自己課題の明確化 〈第１週〉 １　幼稚園の教育方針や特色ある保育について理解する ２　幼稚園教諭の職務内容について理解する ３　教育課程と指導計画について理解する ４　全日保育の計画を立案し、実践する ５　研究保育の計画を立案し、実践する ６　学級経営について理解する ７　保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する ８　その他教員として必要な事項について理解する 〈第２週〉 １　保育室の環境整備について理解する ２　全日保育、研究保育の計画を立案し、実践する ３　地域との連携、幼稚園の社会的意義を理解する ４　小学校との連携について理解する ５　子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等） ６　人権・同和教育、特別支援教育について理解する ７　総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する ８　実習反省会・お別れ会 ９　これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける ※上記内容と順序は、実習園の都合、指導方	実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）により評価をします。 日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS10
授業形態： 実習
科目名： 教育実習Ⅳ【小】
担当教員： 峯　寛文(MINE　Hirofumi),佐々木　啓祐(SASAKI　Keisuke)

【授業の紹介】
　教育実習生として、教科等の指導をはじめ、生徒指導、教育相談、学校事務などの実践を通して、学級経営、学校経営及び教育活動の特色や小学校教育全般についての理解を深めていきます。また、カリキュラム・ポリシーに掲げる「教育者に求められる使命感・倫理観の涵養」等をめざすとともに、大学で学ぶ教育理論と教育実践を関連づけて理解することをめざします。さらに、教育実習を通して、改めて教師としての自らの適性や進路を見つめ直す機会とします。
　この授業ではGoogle classroom(クラスコード：dp6cgjz）を使用し、必要に応じてICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．経験豊かな担当教員の指導を受けながら、学校教育の実際を体験的、総合的に理解して、教育実践並びに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることができる。
２．学校現場での教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を高めるとともに、その資質・能力や適性を身に付けることができる。

【成績の評価】
　教育実習校からの評価(40%)、担当教員による研究授業評価(30%)、実習日誌や提出物(30%)等により評価。教育実習事前事後指導の報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】
/ 小学校教育実習の手引き(2021年　高松大学)

【参考文献】
小学校学習指導要領　全解説編(平成29年3月告示　文部科学省)

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のある教員が担当する授業科目で、学校現場での経験を活かし巡回指導等を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	この授業計画に示す回数（日数）と内容を各学校の計画に従って実施する。 学校の教育方針や特色ある教育（校長）、配属学級での活動	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
2	指導講話Ⅰ　実習全般（教頭）、授業参観と授業記録の取り方	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
3	学級の実態と学級経営	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
4	指導講話Ⅱ　学習指導（現職教育主任）、授業参観（学習過程、板書、発問等）	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
5	指導講話Ⅲ　生徒指導（生徒指導主事）、授業参観（児童の反応、つぶやき等）	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
6	指導講話Ⅳ　保健指導（養護教諭、保健主事）、師範授業の参観と研究	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
7	学習指導案の立案、考え方、学級事務についての考え方と実習	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
8	指導講話Ⅴ　褒め方、叱り方（主幹教諭等）、朝の会、帰りの会の運営	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
9	児童の人間関係の把握、給食・清掃指導、授業研究Ⅰ（各教科等）	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
10	教室環境の整備、学級事務の処理、授業研究Ⅱ（道徳、特別活動）	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
11	日常活動、特別活動への参加、指導、授業研究Ⅲ（総合的な学習の時間、外国語活動）	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
12	授業研究Ⅳ（選択した教科の学習指導案の作	その日の実習内容を実習日誌に記録すること	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	成）	によって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
13	授業研究Ⅴ（選択した教科外の学習指導案の作成）	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
14	問題のある児童の実態把握の仕方	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
15	授業研究Ⅳで作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
16	授業研究Ⅴで作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
17	研究授業Ⅰ選択した教科の授業実践と指導、評価	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
18	研究授業Ⅱ選択した教科外の授業実践と指導、評価	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
19	教育実習のまとめと反省、関係者懇談、指導	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
20	学級での諸活動、実習記録の整理	その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS11
授業形態： 実習
科目名： 特別支援教育実習（事前事後指導を含む）
担当教員： 山口　明乙香(YAMAGUCHI　Asuka),堺　るり子(SAKAI　Ruriko)

【授業の紹介】
本授業は、「特別支援教育指導法研究」を受講しており、特別支援学校教諭免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）を取得する学生を対象としています。一定期間特別支援学校において、指導教員の指導を受けながら特別支援学校の実際について体験し学びます。
併せて、教育実習を円滑に、より効果的にその目的を達成させるために、実習の前後に講義・演習を行います。事前指導では，学習指導案の作成及び模擬授業の実施を行い，実践力の基盤を固めます。また特別支援教育実習の概要や実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにしていきます。この特別支援教育実習及び事前事後指導を通じて，ティームティーチングが求められる特別支援教育現場で求められる周囲との協調や協働する態度や姿勢を身に付け，教員として求められる使命感や倫理観を育みます。
　本授業では，ICTを活用して，フィールドワーク，グループワークの結果をプレゼンテーションし，ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１.特別支援教育の実践者として求められる専門性を理解し、必要な知識を習得することができる。
２.子どもの実態把握、指導計画の作成・実践・記録・評価を通して、基本的な指導技術を習得することができる。

【成績の評価】
事前・事後学習の活動状況（40%）、実習（40%）、報告会での発表（20%）を総合的に評価して、単位を認定します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】
本学作成『特別支援教育実習の手引き』

【参考文献】
必要に応じて適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	事前・事後指導における資料作成、教育実習中の学習指導案の作成、実習日誌の記入など，かなりの自主学習の時間が必要となります（３時間）。また、事前に特別支援学校の授業参観やボランティア活動に積極的に参加して（計４時間以上）、障害理解に努めてください。
2	教育実習の流れと意義理解	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜教育実習の準備と実習生の姿勢＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
3	教育実習の意義・目的・内容等	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜実習における学習目標の作成＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
4	特別支援学校の実態	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜実習校の概要シート＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
5	特別支援学校の幼児児童生徒の理解①＜障害特性と支援の工夫とポイント＞	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜障害特性と支援の工夫とポイント＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
6	特別支援学校の幼児児童生徒の理解②＜障害特性と学習環境設定とアプローチ＞	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜障害特性と学習環境設定とアプローチ＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
7	教育実習の意義、目的、内容等について	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜実習計画＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
8	特別支援学校の実態、幼児児童生徒の理解	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜配属先の児童の実態＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
9	特別支援学校の教育課程、指導の実際	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜配属先の教育課程と指導の工夫＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
10	学習指導案の作成＜下書きチェック＞	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜模擬授業指導案の下書き＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
11	学習指導案の作成＜修正チェック＞	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜模擬授業指導案の作成と教材作成＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
12	学習指導案の作成＜最終調整＞	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜模擬授業指導案の修正と教材作成＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
13	模擬授業の実施と反省	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜模擬授業の実施と反省点と改善点＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
14	模擬授業の実施と反省	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜模擬授業の実施と反省点と改善点＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
15	模擬授業の実施と反省	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜模擬授業の実施と反省点と改善点＞について、クラスルームの課題提出機能を使用し	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		て提出してください(0.5時間）。	
16	実習の事前準備と心得及び直前指導(日誌等の書き方、挨拶、自己紹介等)	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜実習の留意事項のまとめ、自己紹介の原稿作成＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
17	特別支援教育実習(２週間)における事前訪問指導	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜実習先オリエンテーション報告書の作成＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
18	実習校の概要と教育課程の理解	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜研究授業案シートの作成＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
19	幼児児童生徒の理解と実習生の関わり	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜実習計画と準備物の整理シート＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
20	授業参観と授業参加	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜授業参観記録のまとめ＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
21	実地授業の準備と実施	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜実地授業記録のまとめ＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
22	研究授業の準備と実施	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜研究授業指導案の作成＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
23	研究授業の反省会	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜研究授業の反省点と改善点＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
24	事後指導のオリエンテーション	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜事後指導の計画シート＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
25	実習内容のまとめと反省	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜報告書作成用学習指導案の加筆＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
26	実習成果の報告書作成	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜実習成果報告書の作成＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
27	実習成果の報告書作成	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜実習成果報告書の修正＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
28	実習成果の報告書作成	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜実習成果報告会の発表資料作成＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
29	特別支援教育実習報告会	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜実習報告会の感想シート＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
30	実習評価のフィードバック	予習として、シラバスを確認し、実習の手引きの該当する頁を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜実習評価と今後の抱負＞について、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS12
授業形態： 実習
科目名： 保育実習Ⅰ
担当教員： 野町　真知子(NOMACHI　Machiko),川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】
　保育実習Ⅰは、保育所実習と施設実習からなり、保育所実習は保育所、認定こども園、施設実習は、乳児院、児童養護施設、障害者支援施設等において、保育士の仕事に助手的な形で携わります。実習体験に基づいて、実習日誌に計画・記録し、計画・観察・記録・自己評価等の方法を具体的に学びます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
①　保育士の業務内容や職業倫理について知り、記述できる。
②　乳幼児（児童・利用者）とのかかわりを通して、感じたこと・考えたことを記述できる。
③　施設の概要を把握するとともに、施設運営の実際を理解し、具体的に記述できる。
④　保育士の職務や役割等の専門性について理解し、必要な知識や技術を習得することができる。
⑤　子どもの実態を把握し、保育の計画・観察・記録・評価について理解し、指導案を記入できる。
⑥　保育士を志すものとしての自己課題を明確にし、記述できる。

【成績の評価】
　実習施設の実習評価６０％、実習日誌４０％により、評価します。実習日誌は、担当の教職員から返却され、指導を受けます。また、保育実習指導Ⅰ-Ⅰ、Ⅰ－Ⅱの授業時にまとめて返却します。
　なお、「保育実習Ⅰ」、「保育実習指導Ⅰ－Ⅰ」、「保育実習指導Ⅰ－Ⅱ」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら3つの科目は、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、3つの科目の内、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】
・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）
・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（2018年）

【参考文献】
・山本淳子編著『改訂新版　実習の記録と指導案』（ひかりのくに　2018年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場や福祉施設での保育士経験を活かし、観察や記録、指導案の作成や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるために必要な知識・技術について指導します。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	実習は、おおむね10日間（90時間以上）で、実習先の実習スケジュールに従い、以下の内容を実施する。 ①[観察実習] この期間に実習施設の概要を理解し、一日の（保育の）流れや子どもたち（利用者）の発達の特性などを把握する。 ②[参加・助手的実習] 担当者にならって助手的な役割を果たしながら、保育(養護)の実践について学ぶ。 ③[部分実習] 生活や遊び（レクリエーション）の場面において、保育者の指導の下に、指導案を作成し、実際に責任をもって保育・指導を行い、保育者としての態度と技術を身に付ける。 なお、実習全体の事前・事後指導は「保育実習指導Ｉ－Ⅰ」及び「保育実習指導Ｉ－Ⅱ」で実施します。	【事前・事後学習】 ・毎日、「本日の実習目標」を踏まえ、実習での学びや自身の態度等について自己省察し、日誌に整理すること。（1時間） ・毎日、翌日の実習に向けて、自己課題を明確にし、日誌に整理すること。また、部分実習に向けて、指導案の立案や保育教材等の作成を行うこと。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS13
授業形態： 演習
科目名： 保育実習指導Ｉ－Ｉ
担当教員： 野町　真知子(NOMACHI　Machiko),川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】

保育実習指導Ｉ－Ｉは、保育実習Ｉの前半に実施される施設実習のための事前事後指導と、後半に実施する保育所実習の事前指導を行います。この授業では、保育実習の意義や目的を理解し、施設実習や保育所実習に向けた目的意識を高め、自らの実習課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。また、日誌の書き方や指導案の書き方などについても学びを深め、実習に向けた準備を進めていきます。実習前には、実習生としての心構え、子どもの権利擁護、プライバシーの保護等について改めて考え、現場に入る前に、使命感や倫理観を高めます。実習後は実習の総括、自己評価を行い、今後の課題を明確化することを通して、継続的に学ぶ能力を養います。

この授業は、Google Classroom（クラスコード：h4dbaz5)を使用し、課題指示や実習に関する連絡事項等を伝えます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】

・保育実習の自己課題を明確にし、説明できる。
・実習施設の概要、理念などを知り、記述できる。
・実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について、理解し、説明できる。
・実習日誌の書き方・適切な表現などを理解し、記述することができる。
・実習後の振り返りを通して、自分の評価できる点・改善すべき点に気づき、今後の自己課題を説明できる。

【成績の評価】

提出物（ワークシート、レポート、保育実習日誌等）８０％と授業態度（模擬保育、グループ活動への参加）２０％により、十分な実習の準備・反省ができているか評価します。提出物は添削して授業時に返却します。

正当な理由のない欠席は認めません。また、実習への意欲や誠実な授業態度に欠ける場合には、実習の履修が許可されません。

なお、「保育実習Ｉ」、「保育実習指導Ｉ－Ｉ」、「保育実習指導Ｉ－Ⅱ」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら3つの科目は、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、3つの科目の内、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】
・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）
・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（2018年）
・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
・山本淳子編著『改訂新版　実習の記録と指導案』（ひかりのくに　2018年）

【参考文献】
適宜指示します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場や福祉施設での保育士経験を活かし、観察や記録、指導案の作成や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるために必要な知識・技術について具体的に説明します。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション(授業及び保育実習の概要) 施設実習の目的	【予習】テキストなど事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
2	施設実習の概要	【予習】テキストなど事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
3	実習日誌の書き方①（基本的な用語について）	【予習】テキストなど事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
4	実習日誌の書き方②（実習日誌の意義）	【予習】事前に配布した資料に目を通し、疑問点等をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
5	施設実習の準備（オリエンテーションについて） 実習日誌の書き方③（時系列・評価反省の書き方）	【予習】事前に配布した資料に目を通し、疑問点等をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】オリエンテーションの依頼の電話内容を整理し、電話をした後、決定した日時や内容をメール等で報告すること。（1時間）	担当：川口・野町
6	施設実習の準備（細菌検査について） 実習日誌の書き方④（まとめ）	【予習】事前に配布した資料に目を通し、疑問点等をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
7	確認テスト（日誌の書き方について） 施設実習の準備（オリエンテーション後の課題等について）	【予習】テキストなど事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】オリエンテーション実施後の課題を仕上げ、期日までに提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
8	指導計画の作成①（指導計画作成の意義） 実習直前指導①実習生の心得（子どもの人権・最善の利益の考慮）	【予習】テキストなど事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】実習の手引きを読み返し、実習生としての心得について自分なりにノート等にまとめておくこと。（1時間）	担当：川口・野町
9	施設実習直前指導②実習生の心得（プライバシーの保護と守秘義務） 実習終了後の課題の確認	【予習】テキストなど事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】実習の手引きを読み返し、実習生としての心得について自分なりにノート等にまとめておくこと。（1時間）	担当：川口・野町
10	施設実習の振り返り（自己評価とグループワーク）	【予習】実習日誌のまとめとお礼状を書くこと（1時間）。 【復習】自己評価・グループ討議をもとに、自身の実習を改めて振り返り、ワークシート	担当：川口・野町

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		にまとめること（1時間）。	
11	保育所実習の目的	【予習】テキストなど事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
12	保育所実習の概要	【予習】テキストなど事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
13	個人観察記録の書き方	【予習】テキストなど事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
14	指導計画の作成②（指導案の書き方）	【予習】テキストなど事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
15	保育実習指導Ⅰ－Ⅱに向けて	【予習】テキストなど事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】夏季休暇中の課題について整理し、取り組み計画をノート等にまとめておくこと。（1時間）	担当：川口・野町
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS14
授業形態： 演習
科目名： 保育実習指導Ⅰ－Ⅱ
担当教員： 野町　真知子(NOMACHI　Machiko),川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】

保育実習指導Ⅰ－Ⅱは、保育実習指導Ⅰ－Ⅰに引き続き、保育実習Ⅰの後半に実施される保育所実習のための事前事後指導です。この授業では、保育実習の意義や目的を再確認し、保育所実習に向けた目的意識を高め、自らの実習課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。観察や記録、指導案の立案や教材準備、保育実技、子どもの最善の利益の考慮など実習を円滑に進めるための知識や技術を習得し、実践力を身につけます。また、実習後は、実習の総括、自己評価を行い、今後の学習課題を明確にすることを通して、継続的に学ぶ能力を養います。

この授業は、Google Classroom（クラスコード：h4dbaz5)を使用し、課題指示や実習に関する連絡事項等を伝えます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】

・保育実習の自己課題を明確にし、説明できる。
・実習施設の概要、理念などを知り、記述できる。
・実習日誌、指導案の書き方を理解し、記述することができる。
・指導案に基づいて実践し、計画と実践の相違点、自らの反省点・改善点に気づき、記述できる。
・実習後の振り返りを通して、自分の評価できる点・改善すべき点に気づき、今後の自己課題を説明できる。

【成績の評価】

提出物（ワークシート、レポート、保育実習日誌等）８０％と授業態度（模擬保育、意見交換への参加）２０％により、十分な実習の準備・反省ができているか評価します。提出物は添削して授業時に返却します。

正当な理由のない欠席は認めません。また、実習の意欲や誠実な授業態度に欠ける場合には、実習の履修が許可されません。

なお、「保育実習Ⅰ」、「保育実習指導Ⅰ－Ⅰ」、「保育実習指導Ⅰ－Ⅱ」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら3つの科目は、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、3つの科目の内、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】
・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）
・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（2018年）
・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
・山本淳子編著『改訂新版　実習の記録と指導案』（ひかりのくに、2018年）

【参考文献】
適宜指示します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場や福祉施設での保育士経験を活かし、観察や記録、指導案の作成や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるために必要な知識・技術について具体的に説明します。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業の概要について） 保育所実習の準備①（オリエンテーションについて）	【予習】保育実習Ⅰ－Ⅰで課された課題の成果物を確認し、ワークシートを提出すること。(1時間) 【復習】オリエンテーションの依頼の電話内容を整理し、電話をした後、決定した日時や内容をメール等で報告すること。（1時間）	担当：川口・野町
2	実技演習①（手遊び、手作りおもちゃの相互評価）	【予習】手遊びシートをもとに手遊びの練習をし、課題等についてノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
3	実技演習②（乳児保育実技演習）	【予習】乳児の発達過程について自分なりに調べ、ノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
4	実技演習③（絵本の読み聞かせ）	【予習】実習で配属させる年齢や季節の絵本を調べ、ノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】絵本の読み聞かせの実践から学んだことや課題などをワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
5	部分指導案の検討（指導案の作成・教材研究）	【予習】配属される年齢の発達段階や遊びについて整理し、ノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】実習で実際に実施することを想定し、部分指導案を作成すること。(1時間)	担当：川口・野町
6	保育の実践（保育教材を使用した模擬保育）	【予習】指導案をもとに、子どもへの援助方法を自分なりに考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】模擬保育から学んだことや課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
7	実習日誌の書き方の確認	【予習】テキストなど事前に指示した箇所について目を通し、気付いたことや課題点をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
8	保育所実習直前指導（実習生としての心得、留意事項等）	【予習】実習までの事前課題を完成させ、提出すること。(1時間) 【復習】実習に向けた準備として、実習日誌や指導案を作成すること。(1時間)	担当：川口・野町
9	保育所実習事後指導（自己評価シートをもとにした振り返り）	【予習】実習日誌のまとめとお礼状を書くこと。（1時間） 【復習】自己評価シートをもとに、自身の実習を振り返り、実習での学びや課題をワークシートにまとめること。（1時間）	担当：川口・野町
10	保育実習の学習成果のまとめ①（ワークシートをもとにした自己の振り返り）	【予習】実習を振り返り、自己課題についてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題をレジュメにまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
11	保育実習の学習成果のまとめ②（グループ討議）	【予習】グループ討議ができるようにレジュメを見直し、議論する内容をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】グループでレジュメを作成し、提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
12	保育実習報告会の準備	【予習】レジュメをもとに、読み原稿を作成	担当：川口・野町

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		しておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、質疑応答対策をノート等にまとめておくこと。（1時間）	
13	保育実習報告会	【予習】レジュメを読み返し、発表に必要な資料を整理してノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】発表会で指導して頂いた内容についてノート等にまとめておくこと。（1時間）	担当：川口・野町
14	評価票をもとにした振り返りと自己課題の抽出	【予習】今までの実習に関する成果物を見直し、気付いた点ををノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
15	保育実習Ⅱに向けて（保育実習Ⅱの説明、意思確認等について）	【予習】施設実習及び保育所実習の日誌や評価を見直し、学習成果をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】保育実習Ⅱに向けた学修計画を立て、レポートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS15
授業形態： 実習
科目名： 保育実習Ⅱ
担当教員： 川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi),野町　真知子(NOMACHI　Machiko)

【授業の紹介】

保育実習Ⅱは、3年次に行われ、保育施設において2週間の実習を行います。2年次の保育実習Ⅰの保育所実習で学んだことを発展的に深化させることを目的とします。実習の内容としては、観察・参加・助手実習および部分実習に加え、一日の指導計画を立案し保育を行う全日実習を行います。全日保育を通して乳幼児の実態をとらえ、そこからねらいや内容を導き出すこと、計画の立案、環境設定や必要な準備、計画と実践とのかかわりと相違点の実感、臨機応変な対応の必要性などを体験的に理解することをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】

①　保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる。
②　保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育や保護者支援について総合的に学ぶことができる。
③　保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めることができる。
④　子どもの実態を把握し、保育の計画・観察・記録・評価について実際に取り組み理解を深めることができる。
⑤　保育士としての自己課題を明確化できる。

【成績の評価】

実習施設の実習評価６０％、実習日誌４０％をもとに総合的に評価します。実習日誌は添削し、保育実習指導Ⅱの授業時に返却します。

なお、「保育実習Ⅱ」、「保育実習指導Ⅱ」は、形式上それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
・厚生労働省『保育所保育指針解説』2018年
・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」2018年

【参考文献】
・山本淳子編著『改訂新版　実習の記録と指導案』（ひかりのくに　2018年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での保育士経験を活かし、観察や記録、指導案の作成や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるために必要な知識・技術について指導します。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	実習は、おおむね10日間（90時間以上）で、実習先の実習スケジュールに従い、以下の内容を実施する。 ①[観察実習] 2回目の実習であるので、最短の期間を充てる。 ②[参加・助手的実習] 保育士の助手的な役割を果たしながら、実際に保育にかかわる。 ③[部分実習] 保育実習Ⅰと同様、数回の部分実習を経験し、最終的な全日実習につなげる。 ④[全日実習] 事前に指導案を作成し、実習生自身が保育者となり、一日の保育を行うことを通して、保育の責務を自覚する。 なお、実習全体の事前・事後指導は「保育実習指導Ⅱ」で実施します。	【事前・事後学習】 ・毎日、「本日の実習目標」を踏まえ、実習での学びや自身の態度等について自己省察し、日誌に整理すること。（1時間） ・毎日、翌日の実習に向けて、自己課題を明確にし、日誌に整理すること。また、部分実習及び全日実習に向けて、指導案の立案や保育教材等の作成を行うこと。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS16
授業形態： 演習
科目名： 保育実習指導Ⅱ
担当教員： 川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi),野町　真知子(NOMACHI　Machiko)

【授業の紹介】

保育実習指導Ⅱは、保育実習Ⅱで行われる保育所実習のための事前事後指導です。保育実習Ⅰの保育所実習で学んだことを発展的に深化させることを目的とします。2回目の保育実習としての意義や目的を理解し、目的意識を高め、課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。また、事前、事後の学習や実習体験を振り返り、子どもの発達と遊び、環境構成、そして保育士の役割や職務内容などを具体的・総合的に学んでいきます。

この授業では、Google Classroom（クラスコード：kto3yfx)を使用し、課題の指示や連絡事項等を伝えていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】

・保育実習の自己課題を明確にし、説明できる。
・実習施設の概要、理念などを学び、記載できる。
・実習日誌、部分指導案、全日指導案の書き方を理解し、実習をイメージして記載することができる。
・指導案に基づいて実践し、計画と実践の相違点に気づき、反省点・改善点を記載できる。
・事後指導・自己評価を通して、自分の評価できる点・改善すべき点に気づき、自己課題を説明できる。

【成績の評価】

提出物（ワークシート、レポート、保育実習日誌等）８０％と授業態度（模擬保育、グループ討議への参加）２０％により、十分な実習の準備・反省ができているか評価します。提出物は添削して授業時に返却します。

正当な理由のない欠席は認めません。また、実習の意欲や誠実な授業態度に欠ける場合には、実習の履修が許可されません。

なお、「保育実習Ⅱ」、「保育実習指導Ⅱ」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

・厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館　2018年）
・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館　2018年）
・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
・山本淳子編著『改訂新版　実習の記録と指導案』（ひかりのくに　2018年）

【参考文献】
　必要があれば適宜紹介します

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場や福祉施設での保育士経験を活かし、観察や記録、指導案の作成や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるために必要な知識・技術について具体的に説明します。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業及び保育実習Ⅱの概要について）	【予習】保育実習Ⅱに向けた実践課題についてワークシートにまとめて提出すること。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
2	保育士の専門性と求められる倫理観	【予習】保育実習の手引きや保育所保育指針など事前に指示した箇所について目を通し、気付いたことや課題点をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
3	保育所実習での学習内容と課題	【予習】保育実習の手引きなど事前に指示した箇所について目を通し、気付いたことや課題点をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
4	子どもの保育と子育て支援（事例をもとにした演習）	【予習】保育所保育指針など事前に指示した箇所について目を通し、気付いたことや課題点をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
5	実習日誌・指導案の作成①（未満児の発達と指導方法について）	【予習】未満児の発達段階について整理し、ノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
6	子ども理解と援助（事例をもとにした演習）	【予習】保育所保育指針など事前に指示した箇所について目を通し、気付いたことや課題点をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
7	実習日誌・指導案の作成②（全日実習の指導案の書き方）	【予習】テキストなど事前に指示した箇所について目を通し、気付いたことや課題点をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
8	保育の観察・記録・省察（個人観察記録）	【予習】保育実習Ⅰの日誌を見直し、気付いたことや課題点をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
9	実習日誌・指導案の作成③（部分指導案の作成）	【予習】子どもの発達段階について整理し、ノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】実習で実際に実施することを想定し、部分指導案を作成すること。(1時間)	担当：川口・野町
10	保育の実践①（絵本の読み聞かせ）	【予習】実習で配属させる年齢や季節の絵本を調べ、ノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】絵本の読み聞かせの実践から学んだことや課題などをワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
11	保育の実践②（模擬保育：身体遊び）	【予習】配布された指導案をもとに、子どもへの援助方法を自分なりに考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】模擬保育から学んだことや課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
12	保育の実践③（模擬保育：製作活動）	【予習】配布された指導案をもとに、子どもへの援助方法を自分なりに考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】模擬保育から学んだことや課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
13	事前指導の総括（実習直前の準備と心得について）	【予習】実習までの事前課題を完成させ、提出すること。(1時間) 【復習】実習に向けた準備として、実習日誌や指導案を作成すること。(1時間)	担当：川口・野町
14	保育実習事後指導（自己評価シート及びグループ討議での実習の振り返り）	【予習】実習日誌のまとめとお礼状を書くこと。（1時間） 【復習】自己評価・グループ討議をもとに、自身の実習を改めて振り返り、実習での学びや課題をワークシートにまとめること。（1時間）	担当：川口・野町
15	自己評価と今後の課題について	【予習】自己評価シートをもとに、自己課題をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】施設からの評価をもとに再度振り返りをし、今後の課題について、ワークシートにまとめること。（1時間）	担当：川口・野町
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS17
授業形態： 実習
科目名： 保育実習III
担当教員： 野町　真知子(NOMACHI　Machiko),川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】
　保育実習Ⅲは，保育実習Ⅰにおいて実施した施設実習で学んだことを発展的に深化させることを目的としています。実習内容は，福祉施設において利用者と関わることを通して，利用者に対する理解の深化，保育士の職務内容の理解の深化と実践的技術の獲得を重視します。またこれらを発展させ，福祉施設運営に関する理解を深めていきます。なお，実習施設は，児童養護施設，知的障害児施設，知的障害者更生施設，知的障害者授産施設等で行い，おおむね10日間実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
①　保育士の業務内容や職業倫理について知り，記述できる。
②　利用者とのかかわりを通して，利用者の視点から求められる長期的処遇の在り方について，記述できる。
③　施設の概要を把握するとともに，施設の社会的意義やその特徴など理解を深め，具体的に記述できる。
④　保育士の職務や役割等の専門性について理解し，必要な知識や技術を習得することができる。
⑤　利用者の実態を把握し，保育の計画・観察・記録・評価について理解し，指導案を記入できる。
⑥　保育士を志すものとしての自己課題を明確にし，記述できる。

【成績の評価】
　保育所の実習評価６０％に，実習日誌２０％や実習前後のレポート２０％を加えて総合的に評価します。実習日誌，レポートは添削して，返却します。
　なお、「保育実習Ⅲ」、「保育実習指導Ⅲ」は、形式上それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】
・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
・厚生労働省『保育所保育指針解説』2018年

【参考文献】
・山本淳子編著『改訂新版　実習の記録と指導案』（ひかりのくに　2018年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場や福祉施設での保育士経験を活かし、観察や記録、指導案の作成や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるために必要な知識・技術について指導します。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	実習は、おおむね10日間（90時間以上）で、実習先の実習スケジュールに従い、以下の内容を実施する。 ①[観察実習] 施設の概要を把握し、一日の流れや利用者の特徴、職務内容について理解を深める。 ②[参加・助手的実習] 実習担当者にならい助手的役割を果たすなかで、施設において求められている実践的技術の習得を図る。 ③[部分実習] 生活や遊び（レクリエーション）の場面において、指導案を作成し、実際に責任をもって保育・指導を行い、保育者としての態度と技術を身に付ける。 なお、実習全体の事前・事後指導は「保育実習指導Ⅲ」で実施します。	【事前・事後学習】 ・毎日、「本日の実習目標」を踏まえ、実習での学びや自身の態度等について自己省察し、日誌に整理すること。（1時間） ・毎日、翌日の実習に向けて、自己課題を明確にし、日誌に整理すること。また、部分実習に向けて、指導案の立案や教材等の作成を行うこと。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS18
授業形態： 演習
科目名： 保育実習指導III
担当教員： 野町　真知子(NOMACHI　Machiko),川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】

保育実習指導Ⅲは、4年次に行われ、すでに「保育実習Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを基にし発展的に深化させることを目的にします。社会的養護や障害児支援等に関する児童福祉施設等の事前指導として、実習の意義や目的を理解するとともに、既習の教科目の関連性を踏まえ、養護・養育・支援について総合的に学ぶことを目的とします。また、利用者・児への支援の方法等について実践事例を通して学び、施設における保育者の専門性を理解していきます。事後指導として、実習を総括し、児童福祉施設等の実践に関する自己課題を明確化していきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】

・利用者・児への尊厳や最善の利益を考慮した保育について具体的に理解し、説明することができる。
・施設における社会的養護や利用者・児に対する理解をもとに、具体的な支援方法について説明することができる。
・保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践や多職種との連携と結びつけて理解することができる。
・実習施設をイメージして、実習日誌、部分指導案等を立案することができる。
・指導案に基づいて実践し、計画と実践の相違点に気づき、反省点・改善点を記載できる。
・事後指導・自己評価を通して、自分の評価できる点・改善すべき点に気づき、自己課題を説明できる。

【成績の評価】

提出物（ワークシート、レポート、保育実習日誌等）８０％と授業態度（模擬保育、討議への参加）２０％により、十分な実習の準備・反省ができているか評価します。提出物は添削して授業時に返却します。

正当な理由のない欠席は認めません。

なお、「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなさます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測れる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】
・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）
・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（2018年）
・山本淳子編著『改訂新版　実習の記録と指導案』（ひかりのくに　2018年）

【参考文献】
適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場や福祉施設での保育士経験を活かし、観察や記録、指導案の作成や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるために必要な知識・技術について具体的に説明します。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業及び保育実習Ⅲについての説明）	【予習】保育実習Ⅰ・Ⅱを振り返り、自己課題をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
2	実習の目的・目標・意義	【予習】保育実習の手引きや保育所保育指針など事前に指示した箇所について目を通し、気付いたことや課題点をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
3	施設実習の概要	【予習】テキストなど事前に指示した箇所について目を通し、気付いたことや課題点をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
4	実習施設の内容理解（実習施設の社会的役割・保育士の職務・利用児・者の現況）	【予習】実習施設の概要を調べ、レポートにまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
5	実習に向けた準備①（オリエンテーションについて）	【予習】保育実習の手引きなど事前に指示した箇所について目を通し、気付いたことや課題点をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】オリエンテーションの依頼の電話内容を整理し、電話をした後、決定した日時や内容をメール等で報告すること。（1時間）	担当：川口・野町
6	実習施設の生活日課への支援のあり方	【予習】テキストなど事前に指示した箇所について目を通し、気付いたことや課題点をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
7	実習施設の活動（学習・療育・遊び等）への支援のあり方	【予習】テキストなど事前に指示した箇所について目を通し、気付いたことや課題点をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
8	実習施設の施設の特質（虐待・障害・子育て支援等）への支援のあり方	【予習】テキストなど事前に指示した箇所について目を通し、気付いたことや課題点をノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
9	実習日誌・指導案の書き方の見直し	【予習】保育実習Ⅰ・Ⅱの実習日誌を見直し、自己課題を抽出し、ノート等似まとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題をワークシート等にまとめて提出すること。(1時間)	担当：川口・野町
10	責任実習に向けた準備（指導案の準備、教材研究）	【予習】施設の実情に合わせた指導案を作成すること。（1時間） 【復習】指導案を見直すとともに教材の準備を行い、模擬保育に向けた細案をノート等にまとめておくこと。（1時間）	担当：川口・野町
11	責任実習に向けた実践（模擬保育）	【予習】指導案をもとに、利用者・児への援助方法を自分なりに考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】模擬保育から学んだことや課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	担当：川口・野町

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
12	実習に向けた準備②（実習事前課題、細菌検査等について）	【予習】事前に配布した資料に目を通し、疑問点等をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で提示された事前課題を期日までに提出すること。（1時間）	担当：川口・野町
13	実習直前指導（実習に向けた心得、留意事項等について）	【予習】テキストなど事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】実習の手引きを読み返し、実習生としての心得について自分なりにノート等にまとめておくこと。（1時間）	担当：川口・野町
14	実習事後指導（自己評価シートもとにした実習の振り返り）	【予習】実習日誌のまとめとお礼状を書くこと（1時間）。 【復習】自己評価・グループ討議をもとに、自身の実習を改めて振り返り、ワークシートにまとめること（1時間）。	担当：川口・野町
15	評価票をもとにした振り返りと自己課題の抽出	【予習】自己評価シートをもとに、自己課題をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】施設からの評価をもとに再度振り返りをし、今後の課題について、ワークシートにまとめること。（1時間）	担当：川口・野町
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS19
授業形態： 実習
科目名： 保育実習Ⅳ
担当教員： 野町　真知子(NOMACHI　Machiko),川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】
　保育実習Ⅳは、4年次に行われ、これまでの保育実習Ⅰ・Ⅱの保育所実習で学んだことを発展的に深化させることを目的とします。実習の内容としては、観察・参加・助手実習および部分実習に加え、全日実習を行います。全日実習を通して乳幼児の実態をとらえ、そこからねらいや内容を導き出すこと、計画の立案、環境設定や必要な準備、計画と実践とのかかわりと相違点、臨機応変な対応の必要性などを体験的に理解します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		⑥　専門的知識と実践力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
①　保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて説明できる。
②　保育実習Ⅰ・Ⅱの経験を踏まえ、子どもの保育や保護者支援について考察し、記述できる。
③　保育所の役割や機能について、具体的な実践例に基づいて記述できる。
④　子どもの発達・保育のねらい等を把握し、指導計画の立案、実践、反省ができる。
⑤　実習全体、部分実習、全日実習を振り返り、保育士としての自己課題を明確化し、記述できる。

【成績の評価】
　保育所の実習評価６０％に、実習日誌２０％や実習前後のレポート２０％を加えて総合的に評価します。実習日誌、レポートは添削して、返却します。

【使用テキスト】
・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）

【参考文献】
・山本淳子編著『改訂新版　実習の記録と指導案』（ひかりのくに　2018年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】

　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での保育士経験を活かし、観察や記録、指導案の作成や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるために必要な知識・技術について指導します。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	[事前・事後指導] 　保育実習Ⅳまでの期間に実習課題の明確化、指導案作成等をおこなう。また、実習後に振り返りをおこない、具体的な反省点をもとに保育士としての自己課題を明確にする。 実習は、おおむね10日間（90時間以上）で、実習先の実習スケジュールに従い、以下の内容を実施する。 ①[観察実習] 3回目の実習であるので、最短の期間を充てる。 ②[参加・助手的実習] 保育士の助手的な役割を果たしながら、実際に保育にかかわる。 ③[部分実習] 保育実習Ⅰ・Ⅱと同様、数回の部分実習を経験し、最終的な全日実習につなげる。 ④[全日実習] 　事前に指導案を作成し、実習生自身が保育者となり、一日の保育を行うことを通して、保育の責務を自覚する。	・毎日、「本日の実習目標」を踏まえ、実習での学びや自身の態度等について自己省察し、日誌に整理すること。（1時間） ・毎日、翌日の実習に向けて、自己課題を明確にし、日誌に整理すること。また、部分実習及び全日実習に向けて、指導案の立案や教材等の作成を行うこと。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： JISS20
授業形態： 実習
科目名： 介護体験
担当教員： 山口　明乙香(YAMAGUCHI　Asuka)

【授業の紹介】

介護体験は，介護等体験特例法によって教員免許状取得にあたり義務付けられたものです。高齢者の方や障害のある方などの社会福祉施設等で介護等の体験をすることが求められます。介護等体験は，特別支援学校で２日間，社会福祉施設で５日間の合計７日間行います。本科目では，介護等体験実習及び実習の事前学習，事後学習を行います。事前学習では，介護等体験の心得，特別支援学校や社会福祉施設の概要の理解，実習中の利用者の方と接し方についても学習します。介護等体験実習後は実習記録を整理し，レポートにまとめて報告します。この科目は，小学校教員免許状取得希望者のみ受講できます。また受講には，実習費など約１万円が必要になります。介護体験を通じて，教育者に求められる様々な人々とコミュニケーションを図るための態度や姿勢を身に着け，人間性の向上を目指し自律的に学ぶ意欲を育みます。

本授業では，ICTを活用して，フィールドワーク，グループワークの結果をプレゼンテーションし，ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	①　使命感・倫理観	
		②　向上心	
		③　コミュニケーション能力	
		⑥　専門的知識と実践力	

【到達目標】

特別なニーズのある子どもや利用者の方と交流を持ち，介護等を体験することにより，
１．特別支援学校や社会福祉施設の役割を学び，人との関わり，援助する上で大切にすべき姿勢や視点を体験的に獲得することを目指す。
２．教育を担うものに求められる受容的な態度及び豊かな人間性を高めることができる
３．教育現場で求められる共生社会をめざす姿勢や視点を獲得できる

【成績の評価】

事前・事後学習の受講態度（35%），課題の提出状況（50%），報告会での発表（15%）などを総合して成績を評価します。
課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。
また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

高松大学発達科学部『介護体験の手引き』

【参考文献】

必要に応じて，講義内で紹介します。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	介護等体験に関するガイダンス	予習として、シラバスを確認し、Googleクラスルームに提示された該当する資料を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された資料を再度読み直し、指定した課題を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	"介護体験は，後期に社会福祉施設，特別支援学校へ行きますが，前期から事前指導が行われます。6月頃から開始しますので，掲示板を確認し，事前指導には必ず出席するようにしてください。事前指導へ出席できない学生は，実習を行うことができませんので注意してください。詳細については，履修ガイドを確認してください。"
2	介護等体験の心得について学ぶ	予習として、シラバスを確認し、Googleクラスルームに提示された該当する資料を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された資料を再度読み直し、指定した課題を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
3	事務手続きと申請書類の作成①申請手順の説明と作成	予習として、シラバスを確認し、Googleクラスルームに提示された該当する資料を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された資料を再度読み直し、指定した課題を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
4	事務手続きと申請書類の作成②申請事項の確認と調整	予習として、シラバスを確認し、Googleクラスルームに提示された該当する資料を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された資料を再度読み直し、指定した課題を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
5	特別支援学校の概要の理解や通っている児童・生徒との接し方について学ぶ	予習として、シラバスを確認し、Googleクラスルームに提示された該当する資料を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された資料を再度読み直し、指定した課題を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
6	社会福祉施設の概要と利用者との接し方について学ぶ	予習として、シラバスを確認し、Googleクラスルームに提示された該当する資料を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された資料を再度読み直し、指定した課題を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
7	介護体験実習①＜特別支援学校又は社会福祉施設＞	予習として、実習先の資料を確認し、実習の注意事項確認しておくこと(0.5時間)。復習として日誌の作成及び実習報告をクラスルーム経由で入力し、日誌を実習先担当者へ提出してください(0.5時間）。	学外実習です。

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
8	介護体験実習②＜特別支援学校又は社会福祉施設＞	予習として、実習先の資料を確認し、実習の注意事項確認しておくこと(0.5時間)。復習として日誌の作成及び実習報告をクラスルーム経由で入力し、日誌を実習先担当者へ提出してください(0.5時間）。	学外実習です。
9	介護体験実習③＜特別支援学校又は社会福祉施設＞	予習として、実習先の資料を確認し、実習の注意事項確認しておくこと(0.5時間)。復習として日誌の作成及び実習報告をクラスルーム経由で入力し、日誌を実習先担当者へ提出してください(0.5時間）。	学外実習です。
10	介護体験実習④＜特別支援学校又は社会福祉施設＞	予習として、実習先の資料を確認し、実習の注意事項確認しておくこと(0.5時間)。復習として日誌の作成及び実習報告をクラスルーム経由で入力し、日誌を実習先担当者へ提出してください(0.5時間）。	学外実習です。
11	介護体験実習⑤＜特別支援学校又は社会福祉施設＞	予習として、実習先の資料を確認し、実習の注意事項確認しておくこと(0.5時間)。復習として日誌の作成及び実習報告をクラスルーム経由で入力し、日誌を実習先担当者へ提出してください(0.5時間）。	学外実習です。
12	介護体験実習⑥＜特別支援学校又は社会福祉施設＞	予習として、実習先の資料を確認し、実習の注意事項確認しておくこと(0.5時間)。復習として日誌の作成及び実習報告をクラスルーム経由で入力し、日誌を実習先担当者へ提出してください(0.5時間）。	学外実習です。
13	介護体験実習⑦＜特別支援学校又は社会福祉施設＞	予習として、実習先の資料を確認し、実習の注意事項確認しておくこと(0.5時間)。復習として日誌の作成及び実習報告をクラスルーム経由で入力し、日誌を実習先担当者へ提出してください(0.5時間）。	学外実習です。
14	体験レポートの作成と報告書作成	予習として、シラバスを確認し、Googleクラスルームに提示された該当する資料を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された資料を再度読み直し、指定した課題を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
15	介護体験のまとめ	予習として、シラバスを確認し、Googleクラスルームに提示された該当する資料を確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された資料を再度読み直し、指定した課題を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK1
授業形態： 演習
科目名： 基礎演習Ⅰ【1ゼミ】
担当教員： 峯　寛文(MINE　Hirofumi),澤田　文男(SAWADA　Fumio)

【授業の紹介】
　発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思います。
　大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【成績の評価】
　演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

　個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】
・発達科学部オリジナルのテキスト
・日本漢字能力検定協会監修『漢検　３級 過去問題集 2024年度版』（日本漢字能力検定協会）
・日本語検定委員会編『日本語検定　公式過去問題集３級　2024年度版」（東京書籍）

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	伝わる喜びを感じよう！　友だち紹介 　ゼミ単位で、学生相互にお友だちを紹介し合って、思いや感じを伝えよう！	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する(30分) 復習：授業で作成した友だち紹介のポスターを修正・完成させる(30分)	
2	今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を使ってゼミ内での学生の交流 小テスト実施	予習：ポートフォリオの下書きの作成(20分) 復習：ポートフォリオの修正と清書(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
3	これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目ざす私」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を使ってゼミ内での学生の交流 小テスト実施	予習：ポートフォリオの下書きの作成(20分) 復習：ポートフォリオの修正と清書(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
4	図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する(20分) 復習：課題を完成させる。(40分)	
5	創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返り＆次年度の学外セミナーの成功に向けた討議	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する。(20分) 復習:話し合いの結果をまとめてレポートを作成する。(40分)	
6	文章表現の基礎(1):基礎的ルールの見直し 小テスト実施	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
7	文章表現の基礎(2)：正確な表現の基礎	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(40分)	
8	文章表現の基礎(3)：推敲のポイント 小テスト実施	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
9	レポート作成の基礎を学ぼう！ 　レポート作成の基礎の学習(定義・目的・書式などなど) 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
10	レポートを作ってみよう！(1) 　学生が作成したレポートを題材にして、よりよいレポートとは何かを考える。 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
11	レポートを作ってみよう！(2) 　「ふるさと自慢！」のレポートをゼミ単位で作成 小テスト実施	予習：郷土に関する資料を入手し、目を通す。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
12	レポートを作ってみよう！(3) 　「ふるさと自慢！」のレポートをゼミ単位で作成 小テスト実施	予習：各自、レポートの案を作成する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
13	発表準備 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：授業を振り返り、発表のポイントをまとめる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
14	作ったレポートを発表しよう！ 　全体での発表会「ふるさと自慢！」	予習：発表の準備をする。(30分) 復習：発表を振り返り、改善のポイントをまとめる。(30分)	
15	前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を元にゼミ内で討議 小テスト実施	予習：教職ポートフォリオの下書きを完成させる。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK1
授業形態： 演習
科目名： 基礎演習Ⅰ【2ゼミ】
担当教員： 佐々木　啓祐(SASAKI　Keisuke),秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya)

【授業の紹介】
　発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思います。
　大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【成績の評価】
　演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

　個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】
・発達科学部オリジナルのテキスト
・日本漢字能力検定協会監修『漢検　３級 過去問題集 2024年度版』（日本漢字能力検定協会）
・日本語検定委員会編『日本語検定　公式過去問題集３級　2024年度版」（東京書籍）

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	伝わる喜びを感じよう！　友だち紹介 　ゼミ単位で、学生相互にお友だちを紹介し合って、思いや感じを伝えよう！	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する(30分) 復習：授業で作成した友だち紹介のポスターを修正・完成させる(30分)	
2	今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を使ってゼミ内での学生の交流 小テスト実施	予習：ポートフォリオの下書きの作成(20分) 復習：ポートフォリオの修正と清書(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
3	これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目ざす私」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を使ってゼミ内での学生の交流 小テスト実施	予習：ポートフォリオの下書きの作成(20分) 復習：ポートフォリオの修正と清書(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
4	図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する(20分) 復習：課題を完成させる。(40分)	
5	創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返り＆次年度の学外セミナーの成功に向けた討議	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する。(20分) 復習:話し合いの結果をまとめてレポートを作成する。(40分)	
6	文章表現の基礎(1):基礎的ルールの見直し 小テスト実施	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
7	文章表現の基礎(2)：正確な表現の基礎	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(40分)	
8	文章表現の基礎(3)：推敲のポイント 小テスト実施	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
9	レポート作成の基礎を学ぼう！ 　レポート作成の基礎の学習(定義・目的・書式などなど) 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
10	レポートを作ってみよう！(1) 　学生が作成したレポートを題材にして、よりよいレポートとは何かを考える。 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
11	レポートを作ってみよう！(2) 　「ふるさと自慢！」のレポートをゼミ単位で作成 小テスト実施	予習：郷土に関する資料を入手し、目を通す。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
12	レポートを作ってみよう！(3) 　「ふるさと自慢！」のレポートをゼミ単位で作成 小テスト実施	予習：各自、レポートの案を作成する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
13	発表準備 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：授業を振り返り、発表のポイントをまとめる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
14	作ったレポートを発表しよう！ 　全体での発表会「ふるさと自慢！」	予習：発表の準備をする。(30分) 復習：発表を振り返り、改善のポイントをまとめる。(30分)	
15	前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を元にゼミ内で討議 小テスト実施	予習：教職ポートフォリオの下書きを完成させる。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK1
授業形態： 演習
科目名： 基礎演習Ⅰ【3ゼミ】
担当教員： 織田　幸美(ODA　Yukimi),藤本　駿(FUJIMOTO　Syun)

【授業の紹介】
　発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思います。
　大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【成績の評価】
　演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

　個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】
・発達科学部オリジナルのテキスト
・日本漢字能力検定協会監修『漢検　３級 過去問題集 2024年度版』（日本漢字能力検定協会）
・日本語検定委員会編『日本語検定　公式過去問題集３級　2024年度版」（東京書籍）

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	伝わる喜びを感じよう！　友だち紹介 　ゼミ単位で、学生相互にお友だちを紹介し合って、思いや感じを伝えよう！	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する(30分) 復習：授業で作成した友だち紹介のポスターを修正・完成させる(30分)	
2	今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を使ってゼミ内での学生の交流 小テスト実施	予習：ポートフォリオの下書きの作成(20分) 復習：ポートフォリオの修正と清書(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
3	これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目ざす私」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を使ってゼミ内での学生の交流 小テスト実施	予習：ポートフォリオの下書きの作成(20分) 復習：ポートフォリオの修正と清書(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
4	図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する(20分) 復習：課題を完成させる。(40分)	
5	創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返り＆次年度の学外セミナーの成功に向けた討議	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する。(20分) 復習:話し合いの結果をまとめてレポートを作成する。(40分)	
6	文章表現の基礎(1):基礎的ルールの見直し 小テスト実施	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
7	文章表現の基礎(2)：正確な表現の基礎	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(40分)	
8	文章表現の基礎(3)：推敲のポイント 小テスト実施	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
9	レポート作成の基礎を学ぼう！ 　レポート作成の基礎の学習(定義・目的・書式などなど) 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
10	レポートを作ってみよう！(1) 　学生が作成したレポートを題材にして、よりよいレポートとは何かを考える。 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
11	レポートを作ってみよう！(2) 　「ふるさと自慢！」のレポートをゼミ単位で作成 小テスト実施	予習：郷土に関する資料を入手し、目を通す。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
12	レポートを作ってみよう！(3) 　「ふるさと自慢！」のレポートをゼミ単位で作成 小テスト実施	予習：各自、レポートの案を作成する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
13	発表準備 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：授業を振り返り、発表のポイントをまとめる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
14	作ったレポートを発表しよう！ 　全体での発表会「ふるさと自慢！」	予習：発表の準備をする。(30分) 復習：発表を振り返り、改善のポイントをまとめる。(30分)	
15	前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を元にゼミ内で討議 小テスト実施	予習：教職ポートフォリオの下書きを完成させる。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK1
授業形態： 演習
科目名： 基礎演習Ⅰ【4ゼミ】
担当教員： 横川　和章(YOKOGAWA　Kazuaki),松原　勝敏(MATSUBARA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
　発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思います。
　大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【成績の評価】
　演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

　個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】
・発達科学部オリジナルのテキスト
・日本漢字能力検定協会監修『漢検　３級 過去問題集 2024年度版』（日本漢字能力検定協会）
・日本語検定委員会編『日本語検定　公式過去問題集３級　2024年度版」（東京書籍）

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	伝わる喜びを感じよう！　友だち紹介 　ゼミ単位で、学生相互にお友だちを紹介し合って、思いや感じを伝えよう！	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する(30分) 復習：授業で作成した友だち紹介のポスターを修正・完成させる(30分)	
2	今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を使ってゼミ内での学生の交流 小テスト実施	予習：ポートフォリオの下書きの作成(20分) 復習：ポートフォリオの修正と清書(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
3	これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目ざす私」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を使ってゼミ内での学生の交流 小テスト実施	予習：ポートフォリオの下書きの作成(20分) 復習：ポートフォリオの修正と清書(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
4	図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する(20分) 復習：課題を完成させる。(40分)	
5	創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返り＆次年度の学外セミナーの成功に向けた討議	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する。(20分) 復習:話し合いの結果をまとめてレポートを作成する。(40分)	
6	文章表現の基礎(1):基礎的ルールの見直し 小テスト実施	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
7	文章表現の基礎(2)：正確な表現の基礎	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(40分)	
8	文章表現の基礎(3)：推敲のポイント 小テスト実施	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
9	レポート作成の基礎を学ぼう！ 　レポート作成の基礎の学習(定義・目的・書式などなど) 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
10	レポートを作ってみよう！(1) 　学生が作成したレポートを題材にして、よりよいレポートとは何かを考える。 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
11	レポートを作ってみよう！(2) 　「ふるさと自慢！」のレポートをゼミ単位で作成 小テスト実施	予習：郷土に関する資料を入手し、目を通す。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
12	レポートを作ってみよう！(3) 　「ふるさと自慢！」のレポートをゼミ単位で作成 小テスト実施	予習：各自、レポートの案を作成する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
13	発表準備 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：授業を振り返り、発表のポイントをまとめる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
14	作ったレポートを発表しよう！ 　全体での発表会「ふるさと自慢！」	予習：発表の準備をする。(30分) 復習：発表を振り返り、改善のポイントをまとめる。(30分)	
15	前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を元にゼミ内で討議 小テスト実施	予習：教職ポートフォリオの下書きを完成させる。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK1
授業形態： 演習
科目名： 基礎演習Ⅰ【5ゼミ】
担当教員： 糸目　真也(ITOME　Shinya)

【授業の紹介】
　発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思います。
　大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【成績の評価】
　演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

　個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】
・発達科学部オリジナルのテキスト
・日本漢字能力検定協会監修『漢検　３級 過去問題集 2024年度版』（日本漢字能力検定協会）
・日本語検定委員会編『日本語検定　公式過去問題集３級　2024年度版」（東京書籍）

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	伝わる喜びを感じよう！　友だち紹介 　ゼミ単位で、学生相互にお友だちを紹介し合って、思いや感じを伝えよう！	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する(30分) 復習：授業で作成した友だち紹介のポスターを修正・完成させる(30分)	
2	今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を使ってゼミ内での学生の交流 小テスト実施	予習：ポートフォリオの下書きの作成(20分) 復習：ポートフォリオの修正と清書(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
3	これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目ざす私」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を使ってゼミ内での学生の交流 小テスト実施	予習：ポートフォリオの下書きの作成(20分) 復習：ポートフォリオの修正と清書(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
4	図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する(20分) 復習：課題を完成させる。(40分)	
5	創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返り＆次年度の学外セミナーの成功に向けた討議	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する。(20分) 復習:話し合いの結果をまとめてレポートを作成する。(40分)	
6	文章表現の基礎(1):基礎的ルールの見直し 小テスト実施	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
7	文章表現の基礎(2)：正確な表現の基礎	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(40分)	
8	文章表現の基礎(3)：推敲のポイント 小テスト実施	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
9	レポート作成の基礎を学ぼう！ 　レポート作成の基礎の学習(定義・目的・書式などなど) 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
10	レポートを作ってみよう！(1) 　学生が作成したレポートを題材にして、よりよいレポートとは何かを考える。 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
11	レポートを作ってみよう！(2) 　「ふるさと自慢！」のレポートをゼミ単位で作成 小テスト実施	予習：郷土に関する資料を入手し、目を通す。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
12	レポートを作ってみよう！(3) 　「ふるさと自慢！」のレポートをゼミ単位で作成 小テスト実施	予習：各自、レポートの案を作成する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
13	発表準備 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：授業を振り返り、発表のポイントをまとめる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
14	作ったレポートを発表しよう！ 　全体での発表会「ふるさと自慢！」	予習：発表の準備をする。(30分) 復習：発表を振り返り、改善のポイントをまとめる。(30分)	
15	前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を元にゼミ内で討議 小テスト実施	予習：教職ポートフォリオの下書きを完成させる。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK1
授業形態： 演習
科目名： 基礎演習Ⅰ【6ゼミ】
担当教員： 川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】
　発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思います。
　大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【成績の評価】
　演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

　個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】
・発達科学部オリジナルのテキスト
・日本漢字能力検定協会監修『漢検　３級 過去問題集 2024年度版』（日本漢字能力検定協会）
・日本語検定委員会編『日本語検定　公式過去問題集３級　2024年度版」（東京書籍）

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	伝わる喜びを感じよう！　友だち紹介 　ゼミ単位で、学生相互にお友だちを紹介し合って、思いや感じを伝えよう！	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する(30分) 復習：授業で作成した友だち紹介のポスターを修正・完成させる(30分)	
2	今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を使ってゼミ内での学生の交流 小テスト実施	予習：ポートフォリオの下書きの作成(20分) 復習：ポートフォリオの修正と清書(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
3	これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目ざす私」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を使ってゼミ内での学生の交流 小テスト実施	予習：ポートフォリオの下書きの作成(20分) 復習：ポートフォリオの修正と清書(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
4	図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する(20分) 復習：課題を完成させる。(40分)	
5	創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返り＆次年度の学外セミナーの成功に向けた討議	予習：テキストを参照して、講義内容を理解する。(20分) 復習:話し合いの結果をまとめてレポートを作成する。(40分)	
6	文章表現の基礎(1):基礎的ルールの見直し 小テスト実施	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
7	文章表現の基礎(2)：正確な表現の基礎	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(40分)	
8	文章表現の基礎(3)：推敲のポイント 小テスト実施	予習：テキストを参照して、問題演習を行う。(20分) 復習：学習内容を点検し、課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
9	レポート作成の基礎を学ぼう！ 　レポート作成の基礎の学習(定義・目的・書式などなど) 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
10	レポートを作ってみよう！(1) 　学生が作成したレポートを題材にして、よりよいレポートとは何かを考える。 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
11	レポートを作ってみよう！(2) 　「ふるさと自慢！」のレポートをゼミ単位で作成 小テスト実施	予習：郷土に関する資料を入手し、目を通す。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
12	レポートを作ってみよう！(3) 　「ふるさと自慢！」のレポートをゼミ単位で作成 小テスト実施	予習：各自、レポートの案を作成する。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
13	発表準備 小テスト実施	予習：テキストを参照して、学習内容を把握する。(20分) 復習：授業を振り返り、発表のポイントをまとめる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
14	作ったレポートを発表しよう！ 　全体での発表会「ふるさと自慢！」	予習：発表の準備をする。(30分) 復習：発表を振り返り、改善のポイントをまとめる。(30分)	
15	前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」 　宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を元にゼミ内で討議 小テスト実施	予習：教職ポートフォリオの下書きを完成させる。(20分) 復習：課題を完成させる。(20分) 予習及び復習：小テストの準備と振り返り(20分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK2
授業形態： 演習
科目名： 基礎演習Ⅱ【1ゼミ】
担当教員： 峯　寛文(MINE　Hirofumi),澤田　文男(SAWADA　Fumio)

【授業の紹介】
「先生」を目指しての、前期の学習が終わりました。大学での学びに適応できていますか？
基礎演習Ⅱでは、前期に引き続き、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、　学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【成績の評価】
演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】
・発達科学部オリジナルのテキスト
・日本漢字能力検定協会監修『漢検 2級 過去問題集 2023年度版』（日本漢字能力検定協会）
・日本語検定委員会編『日本語検定　公式過去問題集2級　2023年度版」（東京書籍）

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！	予習:課題作成。(30分) 復習：課題の修正及び清書。(30分)	
2	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その1：文章表現をとりまく今日的状況	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
3	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その2：わかりやすい文章表現のコツ	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
4	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その3：文章表現演習	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
5	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その１） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
6	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その２） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
7	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その３） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
8	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その４） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
9	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その５） 　５回～８回の発表を振り返って、よりよい発表に繋がるヒントを見つけよう！ 小テスト実施	予習：（その1）～(その4)のレジュメの振り返り。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及び自分のレジュメ作成の改善点のまとめ。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
10	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その１）	予習：レジュメの作成。(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
11	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その２） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
12	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その３） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
13	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その４） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
14	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その５） １０回～１４回の発表を振り返って、よりよい発表に繋がるヒントを見つけよう！ 小テスト実施	予習：（その1）～(その4)のレジュメの振り返り。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及び自分のレジュメ作成の改善点のまとめ。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
15	1年間の学びの成果を確認しよう！ 宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を元にゼミ内で討議	予習:ポートフォリオの下書きの作成。(30分) 復習：ポートフォリオの修正及び清書。(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK2
授業形態：　演習
科目名：　基礎演習Ⅱ【2ゼミ】
担当教員：　佐々木　啓祐(SASAKI　Keisuke),秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya)

【授業の紹介】
「先生」を目指しての、前期の学習が終わりました。大学での学びに適応できていますか？
基礎演習Ⅱでは、前期に引き続き、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、　学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【成績の評価】
演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】
・発達科学部オリジナルのテキスト
・日本漢字能力検定協会監修『漢検 2級 過去問題集 2023年度版』（日本漢字能力検定協会）
・日本語検定委員会編『日本語検定　公式過去問題集2級　2023年度版」（東京書籍）

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！	予習:課題作成。(30分) 復習：課題の修正及び清書。(30分)	
2	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その1：文章表現をとりまく今日的状況	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
3	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その2：わかりやすい文章表現のコツ	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
4	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その3：文章表現演習	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
5	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その１） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
6	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その２） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
7	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その３） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
8	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その４） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
9	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その５） 　５回～８回の発表を振り返って、よりよい発表に繋がるヒントを見つけよう！ 小テスト実施	予習：（その1）～(その4)のレジュメの振り返り。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及び自分のレジュメ作成の改善点のまとめ。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
10	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その１）	予習：レジュメの作成。(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
11	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その２） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
12	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その３） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
13	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その４） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
14	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その５） １０回～１４回の発表を振り返って、よりよい発表に繋がるヒントを見つけよう！ 小テスト実施	予習：（その1）～(その4)のレジュメの振り返り。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及び自分のレジュメ作成の改善点のまとめ。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
15	1年間の学びの成果を確認しよう！ 宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を元にゼミ内で討議	予習:ポートフォリオの下書きの作成。(30分) 復習：ポートフォリオの修正及び清書。(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK2
授業形態： 演習
科目名： 基礎演習Ⅱ【3ゼミ】
担当教員： 織田　幸美(ODA　Yukimi),藤本　駿(FUJIMOTO　Syun)

【授業の紹介】
「先生」を目指しての、前期の学習が終わりました。大学での学びに適応できていますか？
基礎演習Ⅱでは、前期に引き続き、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、　学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【成績の評価】
演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】
・発達科学部オリジナルのテキスト
・日本漢字能力検定協会監修『漢検 2級 過去問題集 2023年度版』（日本漢字能力検定協会）
・日本語検定委員会編『日本語検定　公式過去問題集2級　2023年度版」（東京書籍）

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！	予習:課題作成。(30分) 復習：課題の修正及び清書。(30分)	
2	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その1：文章表現をとりまく今日的状況	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
3	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その2：わかりやすい文章表現のコツ	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
4	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その3：文章表現演習	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
5	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その１） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
6	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その２） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
7	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その３） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
8	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その４） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
9	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その５） 　５回～８回の発表を振り返って、よりよい発表に繋がるヒントを見つけよう！ 小テスト実施	予習：（その1）～(その4)のレジュメの振り返り。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及び自分のレジュメ作成の改善点のまとめ。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
10	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その１）	予習：レジュメの作成。(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
11	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その２） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
12	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その３） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
13	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その４） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
14	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その５） １０回～１４回の発表を振り返って、よりよい発表に繋がるヒントを見つけよう！ 小テスト実施	予習：（その1）～(その4)のレジュメの振り返り。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及び自分のレジュメ作成の改善点のまとめ。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
15	1年間の学びの成果を確認しよう！ 宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を元にゼミ内で討議	予習:ポートフォリオの下書きの作成。(30分) 復習：ポートフォリオの修正及び清書。(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK2
授業形態： 演習
科目名： 基礎演習Ⅱ【4ゼミ】
担当教員： 横川　和章(YOKOGAWA　Kazuaki),松原　勝敏(MATSUBARA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
「先生」を目指しての、前期の学習が終わりました。大学での学びに適応できていますか？
基礎演習Ⅱでは、前期に引き続き、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、　学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【成績の評価】
演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】
・発達科学部オリジナルのテキスト
・日本漢字能力検定協会監修『漢検 2級 過去問題集 2023年度版』（日本漢字能力検定協会）
・日本語検定委員会編『日本語検定　公式過去問題集2級　2023年度版」（東京書籍）

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！	予習:課題作成。(30分) 復習：課題の修正及び清書。(30分)	
2	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その1：文章表現をとりまく今日的状況	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
3	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その2：わかりやすい文章表現のコツ	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
4	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その3：文章表現演習	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
5	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その１） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
6	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その２） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
7	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その３） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
8	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その４） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
9	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その５） 　５回～８回の発表を振り返って、よりよい発表に繋がるヒントを見つけよう！ 小テスト実施	予習：（その1）～(その4)のレジュメの振り返り。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及び自分のレジュメ作成の改善点のまとめ。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
10	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その１）	予習：レジュメの作成。(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
11	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その２） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
12	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その３） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
13	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その４） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
14	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その５） １０回～１４回の発表を振り返って、よりよい発表に繋がるヒントを見つけよう！ 小テスト実施	予習：（その1）～(その4)のレジュメの振り返り。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及び自分のレジュメ作成の改善点のまとめ。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
15	1年間の学びの成果を確認しよう！ 宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を元にゼミ内で討議	予習:ポートフォリオの下書きの作成。(30分) 復習：ポートフォリオの修正及び清書。(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK2
授業形態： 演習
科目名： 基礎演習Ⅱ【5ゼミ】
担当教員： 糸目　真也(ITOME　Shinya)

【授業の紹介】
「先生」を目指しての、前期の学習が終わりました。大学での学びに適応できていますか？
基礎演習Ⅱでは、前期に引き続き、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、　学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【成績の評価】
演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】
・発達科学部オリジナルのテキスト
・日本漢字能力検定協会監修『漢検 2級 過去問題集 2023年度版』（日本漢字能力検定協会）
・日本語検定委員会編『日本語検定　公式過去問題集2級　2023年度版」（東京書籍）

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！	予習:課題作成。(30分) 復習：課題の修正及び清書。(30分)	
2	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その1：文章表現をとりまく今日的状況	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
3	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その2：わかりやすい文章表現のコツ	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
4	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その3：文章表現演習	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
5	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その１） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
6	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その２） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
7	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その３） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
8	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その４） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
9	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その５） 　５回～８回の発表を振り返って、よりよい発表に繋がるヒントを見つけよう！ 小テスト実施	予習：（その1）～(その4)のレジュメの振り返り。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及び自分のレジュメ作成の改善点のまとめ。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
10	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その１）	予習：レジュメの作成。(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
11	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その２） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
12	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その３） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
13	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その４） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
14	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その５） １０回～１４回の発表を振り返って、よりよい発表に繋がるヒントを見つけよう！ 小テスト実施	予習：（その1）～(その4)のレジュメの振り返り。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及び自分のレジュメ作成の改善点のまとめ。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
15	1年間の学びの成果を確認しよう！ 宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を元にゼミ内で討議	予習:ポートフォリオの下書きの作成。(30分) 復習：ポートフォリオの修正及び清書。(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK2
授業形態： 演習
科目名： 基礎演習Ⅱ【6ゼミ】
担当教員： 川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】
「先生」を目指しての、前期の学習が終わりました。大学での学びに適応できていますか？
基礎演習Ⅱでは、前期に引き続き、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込むことができる。
・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、　学習した成果を適切にまとめて表現することができる。
・社会人の基礎教養としての日本語・漢字を適切に使いこなすことができる。
・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、メンバーと協力・協働して活動することができる。

【成績の評価】
演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】
・発達科学部オリジナルのテキスト
・日本漢字能力検定協会監修『漢検 2級 過去問題集 2023年度版』（日本漢字能力検定協会）
・日本語検定委員会編『日本語検定　公式過去問題集2級　2023年度版」（東京書籍）

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！	予習:課題作成。(30分) 復習：課題の修正及び清書。(30分)	
2	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その1：文章表現をとりまく今日的状況	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
3	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その2：わかりやすい文章表現のコツ	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
4	文章表現を取り巻く今日的状況および「わかりやすい」説明文作成のための5つのステップ　その3：文章表現演習	予習：テキストを参照して課題を完成させる。(30分) 復習：学習内容の振り返り。(30分)	
5	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その１） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
6	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その２） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
7	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その３） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
8	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その４） 　学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
9	調べて、まとめて、発表しよう！パート１（その５） 　５回～８回の発表を振り返って、よりよい発表に繋がるヒントを見つけよう！ 小テスト実施	予習：（その1）～(その4)のレジュメの振り返り。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及び自分のレジュメ作成の改善点のまとめ。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
10	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その１）	予習：レジュメの作成。(20分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
11	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その２） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
12	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その３） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
13	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その４） 学生個々に、レジュメを切って発表します。大いにディスカッションしましょう！ 小テスト実施	予習：レジュメの作成。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及びレジュメの修正。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
14	調べて、まとめて、発表しよう！パート２（その５） １０回～１４回の発表を振り返って、よりよい発表に繋がるヒントを見つけよう！ 小テスト実施	予習：（その1）～(その4)のレジュメの振り返り。(20分) 復習：ゼミ討議の振り返り及び自分のレジュメ作成の改善点のまとめ。(20分) 予習・復習：小テストの準備と振り返り。(20分)	
15	1年間の学びの成果を確認しよう！ 宿題としてまとめたポートフォリオ(下書き)を元にゼミ内で討議	予習:ポートフォリオの下書きの作成。(30分) 復習：ポートフォリオの修正及び清書。(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK3
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅰ【児童教育ゼミ】
担当教員： 秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya),竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro),織田　幸美(ODA　Yukimi),藤本　駿(FUJIMOTO　Syun),峯　寛文(MINE　Hirofumi),糸目　真也(ITOME　Shinya)

【授業の紹介】
本授業は、実務経験のある教員が担当します。小・中・高等学校の教育現場での教科・生徒指導、教育委員会等のでの経験を生かし、豊富で具体的な事例を示しながら授業を行います。
本演習は、「児童教育コース」に進む学生のゼミ活動となる授業です。小学校教諭を目指す学生の専門的な研究活動の入り口になります。教育現場における朝の会・学級活動などの実際を行い、教科を指導するにあたって必要な漢字力や文章力・小学校全科の学習などの基礎的な学力のトレーニングを行います。それらの活動を通して、「理論」と「実践力」を兼ね備えた指導力の向上を図ることをねらいとし、可能な限り教育現場に足を運んだり、授業のVTRやDVDを視聴して実際の教育活動に触れ、それをもとに教育活動を考えます。

＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。
クラス名：2024演習Ⅰ・Ⅱ（児童教育）　　クラス コード：qm6vuzm

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
実践的指導力の基礎を培い、専門的な知識を身につけ、基礎的な学力向上のために、以下5点を目標とします。
１　小学校教諭に必要な教科指導力の基礎として「漢字検定２級」「日本語検定２級」の取得をめざす。
２　百人一首の札取りゲームの指導ができる。
３　自己紹介・朝の会のお話など、子どもの興味・関心を引く話が２つ以上できる。
４　朝・帰りの会や学級指導の際に子どもを熱中させるゲームが２つ以上できる。
５　新聞記事や文献等の要約やコメント記入を通して、教育観・教師観・学校観を明確に文章にすることができる。

【成績の評価】
「朝の会」における司会進行「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」「教育問題のレジュメ検討」などの活動状況を、７段階評価（C-～A+）で点数化（50%）、「読書感想文」（25%）、「新聞記事論評」（25%）を基礎データとします。それに、ゼミ活動への取り組み意欲、出席状況などを併せて総合的に評価します。授業における活動を毎回評価コメントし、次時以降の活動に活かします。また、オープンキャンパス時、教員採用試験対策講座時において反映させます。

【使用テキスト】
・木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）756円
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示)』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】
・授業で紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校・中学校・高等学校の現場での教科指導や学級経営、管理職としての学校の管理運営に携わった経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（「演習Ⅰ・Ⅱの内容と進め方」）	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
2	①小学校教諭に必要な力　基礎的・基本的な学力（漢字検定・日本語検定）	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
3	②小学校教諭に必要な力　教育観を育む（新聞記事収集とコメント）	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
4	③小学校教諭に必要な力　子どもを惹きつける話	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
5	④小学校教諭に必要な力　子どもを熱中させるゲーム①（百人一首の札取り）	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
6	⑤小学校教諭に必要な力　子どもを熱中させるゲーム②（ＳＧＥ・ＳＳ）	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
7	①～⑤を組み合わせて学級活動を構成する１「歌」「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」（担当者による）	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		検定：6月、11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
8	①～⑤を組み合わせて学級活動を構成する２「歌」「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」（担当者による）	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
9	①～⑤を組み合わせて学級活動を構成する３「歌」「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」（担当者による）	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
10	①～⑤を組み合わせて学級活動を構成する４　先生って魅力的　ＤＶＤ視聴１	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
11	①～⑤を組み合わせて学級活動を構成する５ 先生って魅力的　ＤＶＤ視聴２	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
12	①～⑤を組み合わせて学級活動を構成する６ 先生って魅力的　ＤＶＤ視聴３	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
13	①～⑤を組み合わせて学級活動を構成する７ 教育問題を考える１「学級崩壊」他	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
14	①～⑤を組み合わせて学級活動を構成する８ 教育問題を考える２「保護者との関係」他	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
15	①～⑤を組み合わせて学級活動を構成する９ 教育問題を考える３「いじめ問題」他	・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：8月、2月　日本語検定：6月、11月) 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。 ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK3
授業形態：　演習
科目名：　演習Ⅰ【幼児教育専修ゼミ】
担当教員：　松原　勝敏(MATSUBARA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
　教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。
　演習Ⅰでは、具体的には、まずは専門書をきちんと読みこなせること、保育や教育に関する時事問題に関心を持ち、理解を深めることを狙います。そのために、指定したテキストについて、各回での発表者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。
　また、保育や教育に関する時事問題を毎週1つ選び、内容の報告と自分なりの意見をまとめたレポートの提出を求めます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・教育や保育に関わる現代的な問題についてレジュメを作成し、問題の本質を追究する力量を獲得できる。
・保育や教育に関する専門書を読みこなす技術と態度を身につける。

【成績の評価】
　演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

　個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】
・天野珠路・北野幸子（2019）『保育原理』中央法規

【参考文献】
授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	保育の理念と概念	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
2	保育の社会的役割と責任	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
3	子ども・子育てにかかる制度と関係法令	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
4	保育の実施体系	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
5	保育所保育指針に基づく保育	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
6	保育目標と方法	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
7	乳児の保育	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
8	1歳以上3歳未満児の保育	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
9	レポート作成の基礎を学ぼう！	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		を確認する。(10分)	
10	3歳以上児の保育	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
11	子ども理解に基づく保育の理論	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
12	子ども理解に基づく保育の実践	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
13	諸外国の保育の思想と歴史	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
14	日本の保育の思想と歴史	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
15	日本の保育の現状と課題	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK3
授業形態：　演習
科目名：　演習Ⅰ【健康ゼミ】
担当教員：　田中　美季(TANAKA　Miki)

【授業の紹介】
　演習Ⅰ（健康ゼミナール）では，「保育内容 健康」の領域における文献研究を行うことで，専門的な研究活動への導入である分野を学習します。その際，言葉の意味を丁寧に調べ，理解を深めるとともに，読み取った内容について発表し，意見を交換します。
この授業は，グループワークをとおして，多様な視点やアイディアを共有し，コミュニケーションスキルの向上をしていきます。

＜Google Classroom クラスコード＞ k4iforp

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．「保育内容 健康」の領域について研究を行った先行論文や書籍を通して，情報の収集，意見の発表，討論を行うための必要な知識と技能を養うことができる。
２．修得した知識を活かし，「保育内容 健康」の領域における諸課題やその解決策についてレポートを作成できる。
３．レポートの内容について議論することにより，課題発見力，情報収集力，課題解決力，および表現（発表）力などの能力を高めることができる。
４．ゼミナール活動をとおして，共に支え合い，豊かな心と創造力を身につけることができる。

【成績の評価】
授業中に作成するレポート：50%
プレゼンテーション：30%
授業態度：20%
※ 全体の60%以上の得点で合格とします。
※ 成績（レポートの評価を含む）については，オフィスアワーにてフィードバックします。
※ 原則として，対面授業で行います。単位認定には，授業の2/3以上の出席が必要となります。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
その都度，提示する

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	これから行う予定の課題解決に必要な情報を予め収集します（30分）。 授業後は，それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
2	課題Ⅰの設定	設定した課題解決に必要な情報を分担，協力して予め収集します（30分）。 授業後は，それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
3	課題Ⅰにおける関連参考文献の検索	設定した課題解決に必要な情報を分担，協力して予め収集します（30分）。 授業後は，それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
4	課題Ⅰに関するトピックスを読む・見る	設定した課題解決に必要な情報を分担，協力して予め収集します（30分）。 授業後は，それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
5	課題Ⅰの分析と討議①（課題解決の目的）	設定した課題解決に必要な情報を分担，協力して予め収集します（30分）。 授業後は，それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
6	課題Ⅰの分析と討議②（問題の所在）	設定した課題解決に必要な情報を分担，協力して予め収集します（30分）。 授業後は，それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
7	課題Ⅰの分析と討議③（問題の所在に対する考察）	設定した課題解決に必要な情報を分担，協力して予め収集します（30分）。 授業後は，それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
8	課題Ⅰの研究成果を発表しよう	発表の際に想定される質疑に応答できるよう，ノート等にまとめておいてください。（30分）。 授業後は，他の学生の発表についての記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
9	課題Ⅱの設定	設定した課題解決に必要な情報を分担，協力して予め収集します（30分）。 授業後は，それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
10	課題Ⅱにおける関連参考文献の検索	設定した課題解決に必要な情報を分担，協力して予め収集します（30分）。 授業後は，それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
11	課題Ⅱに関するトピックスを読む・見る	設定した課題解決に必要な情報を分担，協力して予め収集します（30分）。 授業後は，それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
12	課題Ⅱの分析と討議①（課題解決における目	設定した課題解決に必要な情報を分担，協力	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	的，問題の所在）	して予め収集します（30分）。 授業後は，それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
13	課題Ⅱの分析と討議②（課題解決に向けての考察）	設定した課題解決に必要な情報を分担，協力して予め収集します（30分）。 授業後は，それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
14	課題Ⅱの研究成果を発表しよう	発表の際に想定される質疑に応答できるよう，ノート等にまとめておいてください。（30分）。 授業後は，他の学生の発表についての記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
15	総括（研究成果のまとめ）	課題Ⅰおよび課題Ⅱについてノートに記載しておいてください（30分）。 授業後は，それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA４１枚程度に行ってください（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK3
授業形態：　演習
科目名：　演習Ⅰ【人間関係ゼミ】
担当教員：　横川　和章(YOKOGAWA　Kazuaki)

【授業の紹介】
「人間関係」、すなわち、「人との関わり」は人間が人間として生きていく中で必要不可欠なものです。しかしながら、現代社会においては、その人間関係が希薄になりがちだといわれます。このことは人ごとではなく、実は、そのような社会の中で、あなたは育っており、そして、将来、あなたが先生になったときに直接関わる子どもたちもまた、そのような社会で成長してゆくことになるのです。人間関係ゼミでは、心理学的知見をベースにして、「人との関わり」に関する知識、技法の修得をめざします。その際に、自分自身の人間関係に関わる具体的なテーマについて、文献の精読を行い、その内容に関して討論することを通して、知識を自ら学び取ることを重視します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．自分自身の人間関係と幼稚園・保育所での人間関係について考察することができる
２．豊かな心の基盤となる人間関係の重要性を捉え直すことができる。

【成績の評価】
・授業への参加状況（態度、意欲など）（30%）、発表（40%）、討論内容（30%）を総合的に評価します。
・発表や討論の内容に関する教員からの講評を通してフィードバックを行います。

【使用テキスト】
適宜指示します。

【参考文献】
林創・清水由紀（2012）『他者とかかわる心の発達心理学』（金子書房）
田中浩司（2014）『集団遊びの発達心理学』（北大路書房）
池上知子・遠藤由美（2008）『グラフィック社会心理学第２版』（サイエンス社）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
2	現代の人間関係に関する討論	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
3	関心領域に関する討論	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
4	様々な資料の活用（１）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
5	様々な資料の活用（２）資料の検索	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
6	様々な資料の活用（３）資料の選定	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
7	資料の発表と討論（グループ１）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
8	資料の発表と討論（グループ２）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
9	発展的な課題の検討（１）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
10	発展的な課題の検討（２）資料の検索	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
11	発展的な課題の検討（３）資料の選定	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
12	資料の発表と討論（グループ１）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
13	資料の発表と討論（グループ２）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
14	これまでの発表・討論の総括	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
15	前期の振り返りと今後の課題の検討	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK3
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅰ【環境ゼミ】
担当教員： 川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】

「環境ゼミ」は、実践的な活動を通して、乳幼児教育における領域“環境”について考えるゼミです。
演習Ⅰでは、学生の皆さんの興味関心に合わせて、保育現場で実践できる活動を文献などを用いて調べ、提案してもらいます。そして、事前学習を行った後、その活動について、計画を立て、実践し、省察をおこないます。
実践的な活動やレジュメ作成、討議を主な活動とし、研究に向けての基礎的な力を養うことを目標とします。また、これらを通して教育・保育に必要な専門的知識と実践力を養っていくと共に、保育者に必要な創造力を培うことをめざします。
この授業では、Google Classroom（クラスコード：zjnwb7x）を活用して課題提出や連絡事項を伝えます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】

・文献等から知り得た情報をもとに、自らのテーマを決め、計画することができる。
・計画を実践、省察し、今後の課題を見出すことができる。
・協調性を持ちながら、他学生と意見交換をしたり積極的に実践活動に取り組んだりすることができる。
・「様々な環境に、好奇心や探究心をもってかかわる」ということについて自ら実践し、専門的な知識の理解を深めることができる。

【成績の評価】

提出物（レジュメ、レポート等）５０％、討議への参画２０％、実践活動への参画３０％を総合的に評価します。レジュメ、レポートについては、授業時間内に講評を行い、課題改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

・厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
・文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
その他、必要であれば適宜紹介します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育施設での保育士経験を生かし、具体的な実践例を紹介しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業の概要について説明）	【予習】自己紹介文を考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
2	栽培活動①（土作り）	【予習】野菜栽培に適した土壌について調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
3	栽培活動②（苗植え）	【予習】野菜の育て方について調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
4	実践活動のテーマ選定（発表・討論）	【予習】授業の中で取り組みたい実践活動を考え、プレゼンテーション資料を作成すること。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
5	実践活動を提案するための事前学習（グループワーク）	【予習】実践する活動内容について文献等で調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノートにまとめておくこと。（1時間）	
6	実践活動の計画立案（グループワーク）	【予習】実践活動をする上での準備物や活動の流れについて自分なりに調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】グループで話し合い、「教材研究シート」を完成させること。（1時間）	
7	実践活動①（実践・調査）「自然活動」	【予習】「教材研究シート」に目を通し、活動内容を把握した上で、疑問点などをノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】実践活動の内容をについて自己省察し、「振り返りシート」にまとめること。（1時間）	実践活動のテーマは学生が立案するため、変更する場合があります。
8	実践活動①（省察・討議）「自然活動」	【予習】保育所保育指針や配布資料の事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノートにまとめておくこと。（1時間）	
9	実践活動②（実践・調査）「科学遊び」	【予習】「教材研究シート」に目を通し、活動内容を把握した上で、疑問点などをノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】実践活動の内容をについて自己省察し、「振り返りシート」にまとめること。（1時間）	実践活動のテーマは学生が立案するため、変更する場合があります。
10	実践活動②（省察・討議）「科学遊び」	【予習】保育所保育指針や配布資料の事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノートにまとめておくこと。（1時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	保育実習の振り返り・意見交換	【予習】実習での学びを振り返り、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
12	実践活動③（実践・調査）「廃材を使った遊び」	【予習】「教材研究シート」に目を通し、活動内容を把握した上で、疑問点などをノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】実践活動の内容をについて自己省察し、「振り返りシート」にまとめること。（1時間）	実践活動のテーマは学生が立案するため、変更する場合があります。
13	実践活動③（省察・討議）「廃材を使った遊び」	【予習】保育所保育指針や配布資料の事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
14	栽培活動④（収穫・調理）	【予習】収穫した野菜についての調理方法を調べて、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
15	前期の実践活動を通して振り返り、演習Ⅱに向けての計画	【予習】前期の実践活動について振り返り、後期に向けた課題についてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK3
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅰ【言葉ゼミ】
担当教員： 山田　純子(YAMADA　Junko)

【授業の紹介】
　演習Ⅰ（言葉ゼミ）は、幼稚園教育要領の「言葉の獲得に関する領域」の内容を踏まえながら、絵本や紙芝居、童話などをテキストとして、調査・研究や発表・討議などを行います。テキストには日本で出版されているものだけでなく、外国語（英語）のものも含めます。
　また、子どもが「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう」ことができるようにするために求められる、学生自身の表現力・コミュニケーション能力の向上を図るため、「読み聞かせ」や紙芝居の実践演習を行います。さらに、ゼミ活動の一環として読み聞かせボランティア活動を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
(1)子どもの言葉の獲得や言語生活についての理解を深めることができる。
(2)実践的な読み聞かせ活動などにより子どもを対象としたコミュニケーション能力や言葉による表現能力を身に付けることができる。

【成績の評価】
受講態度・状況（60%）、学習シート・課題のまとめ（20%）、「おはなし会」ボランティア活動状況（20%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
　絵本や紙芝居などを幅広く使用しますが、各自購入する必要はありません。

【参考文献】
　演習の中で、随時紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、子どもたちの具体的な姿や保育活動の事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
2	演習の内容と実施計画についての協議	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
3	絵本や紙芝居を読み解く（日本の絵本）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
4	絵本や紙芝居を読み解く（外国の絵本）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
5	絵本や紙芝居を読み解く（紙芝居）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
6	読み聞かせの実践演習（絵本）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
7	読み聞かせの実践演習（紙芝居）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
8	読み聞かせの実践演習（昔話）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
9	言語教材の研究（5歳児対応）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
10	言語教材の研究（4歳児対応）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
11	言語教材の研究（3歳児対応）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
12	言語教材の研究（1，2歳児対応）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
13	言語教材の研究（0歳児対応）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
14	学習成果の検討と分析	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 　事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
15	学習成果のまとめと反省	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（1時間） 　事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK3
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅰ【音楽表現ゼミ】
担当教員： 水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu)

【授業の紹介】
幼児の音楽表現に関して研究を行います。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように演奏活動を中心にまずは自らの表現力を高め、専門的技能と実践能力を養います。また、オープン・キャンパスをはじめとした発表の場を目標に、計画・準備・本番等を通して、各自が課題に気づき、解決していく力を育みます。これら企画運営の経験を含めて総合的に音楽活動に関する知識、技法、態度を修得します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・グループ活動において自分のアイデアや意見を論じることができる。
・積極的に課題を見つけ、創造的に取り組むことができる。
・演奏の場で臆することなく発表することができる。

【成績の評価】
提出物５０％　発表内容５０％
提出物にはコメントを添えて返却、発表に対しては授業内で講評を行う。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
北村智恵著　「風の声を聴く子どもたち」（芸術現代社）1988年

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、自己紹介、活動内容についての討論と題材の決定	予習（３０分）：自己紹介のためのメモを纏める。 復習（３０分）：ワークシートを仕上げる。	
2	活動１（詳細プランの決定と練習）	予習（３０分）：活動１へのアイデアを纏めておく。 復習（３０分）：実技練習を行う。練習の進度については、ワークシートのチェック項目に回答する形で、記録する。	授業時の楽器演奏および指導の状況を録音しておき、それを参考に各自技術向上のために週に最低１時間以上練習を行う。日々の生活の中で感じたことや、それらに関する各種情報を収集し、ゼミ内での討論や発表に活用できるようにノートに纏めておく。
3	活動１（プランの修正と練習）	予習（３０分）：実技練習を行う。練習の進度については、ワークシートのチェック項目に回答する形で、記録する。 復習（３０分）：実技練習を行う。練習の進度については、ワークシートのチェック項目に回答する形で、記録する。	
4	活動１（発表と振り返り、プランの修正）	予習（３０分）：実技練習を行う。練習の進度については、ワークシートのチェック項目に回答する形で、記録する。 復習（３０分）：ワークシートに従い、振り返りを行う。	
5	課題１:紹介文の作成	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習をする。 復習（３０分）：ワークシートに従い、復習をする。	
6	課題１の発表と討論	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習をする。 復習（３０分）：ワークシートに従い、振り返りを行う。	
7	課題２：身近な問題をテーマに賛成反対の意見文を作成	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習をする。 復習（３０分）：ワークシートに従い、復習をする。	
8	課題２の発表と討論	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習をする。 復習（３０分）：ワークシートに従い、振り返りを行う。	
9	さまざまなロールプレイの実践（主に保育現場を想定して）	予習（３０分）：ワークシートに従い、予習をする。 復習（３０分）：ワークシートに従い、復習をする。	
10	さまざまなロールプレイの実践（学生提案によるシーンを想定して）	予習（３０分）：ワークシートに従い、アイデアを纏めておく。 復習（３０分）：ワークシートに従い、振り返りを行う。	
11	オープンキャンパスでの発表準備１（題材の決定）	予習（３０分）：ワークシートに従い、アイデアを纏めておく。 復習（３０分）：実技練習を行う。練習の進度については、ワークシートのチェック項目に回答する形で、記録する。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
12	オープンキャンパスでの発表準備２（計画、レジュメ作成、練習）	予習（３０分）：実技練習を行う。練習の進度については、ワークシートのチェック項目に回答する形で、記録する。 復習（３０分）：実技練習を行う。練習の進度については、ワークシートのチェック項目に回答する形で、記録する。	
13	オープンキャンパスでの発表準備３（練習、その他）	予習（３０分）：実技練習を行う。練習の進度については、ワークシートのチェック項目に回答する形で、記録する。 復習（３０分）：実技練習を行う。練習の進度については、ワークシートのチェック項目に回答する形で、記録する。	
14	オープンキャンパスでの発表準備４（通し稽古と意見交換、修正）	予習（３０分）： 実技練習を行う。練習の進度については、ワークシートのチェック項目に回答する形で、記録する。 復習（３０分）：実技練習を行う。練習の進度については、ワークシートのチェック項目に回答する形で、記録する。	
15	オープンキャンパスでの発表準備５（リハーサルと最後の修正）前期の振り返り	予習（３０分）：実技練習を行う。練習の進度については、ワークシートのチェック項目に回答する形で、記録する。 復習（３０分）：ワークシートに従い、振り返りを行う。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK3
授業形態：　演習
科目名：　演習Ⅰ【特別支援教育ゼミ】
担当教員：　山口　明乙香(YAMAGUCHI　Asuka),堺　るり子(SAKAI　Ruriko)

【授業の紹介】
　特別支援教育及び障害福祉を担う人材としての素地を高めるために、学生の興味・関心をもとに障害のある子ども・成人を取り巻く様々な課題について先行研究や文献、インターネットから情報を収集し、自らの興味・関心の探索と問題意識の形成を図ります。また調べた内容をまとめて文章にし、発表することを通して、基礎力の向上を図ります。また実際に特別支援学校や障害者福祉関連施設への見学やボランティア活動へ参加することで、障害のある方との関わりの実体験を増やし、多角的な視野や観点の獲得を目指します。演習Ⅰを通じて、様々な課題に自ら気づき、子どもの育ちに関わる諸問題、社会の諸問題を自ら解決しようとする主体性と意欲を育みます。
　本授業では、ICTを活用して、フィールドワーク、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
　特別支援教育及び障害福祉を担う人材に求められる問題意識に基づく基礎的知識の獲得及び実体験を通した多角的な視野や観点の獲得，実際的な対人技能の基礎技術を獲得できる。これらの目標を達成するために以下の到達目標を設定します。
１.特別支援教育及び障害福祉を取り巻く課題について概説できる
２.特別支援教育や障害福祉を必要とする人への関わり方の基本姿勢について説明できる
３.特別支援教育及び障害福祉を必要とする人への基礎的な環境調整について説明できる

【成績の評価】
　受講態度（30%），提出物（40%），発表（30%）等を総合して成績を評価します。
　課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。
　また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】
適宜紹介します。

【参考文献】
特別支援教育総論：インクルーシブ時代の理論と実践，（編）川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳，北大路書房，2016

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	"授業時間外にも，適宜，情報収集や集めた情報や資料を整理することが必要です（1時間）。また，ゼミナール活動としてボランティア活動へ定期的に参加しています（月に1回程度）。本授業ではゼミ内の発表会を予定しているため，そのレジュメ作成等の準備が必要です。"
2	特別支援教育と共生社会の課題	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
3	障害のある方を取り巻く法律と合理的配慮	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
4	障害のある人と様々な社会課題（１）触法障害者の支援	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
5	障害のある人と様々な社会課題（２）障害者の職業自立	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
6	障害のある人と様々な社会課題（３）障害者の高等教育	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
7	障害のある人と様々な社会課題（４）生活支援	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
8	研究の進め方と文献検索の方法	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
9	研究設問の設定（テーマ探索）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
10	研究設問の設定（文献検索）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
11	研究構成と内容（探索）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
12	研究構成と内容（決定）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
13	最終発表の準備（レジュメ作成）（１）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
14	最終発表の準備（レジュメ作成）（２）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
15	第15回 最終発表会	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		された授業資料や動画を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK3
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅰ【造形表現ゼミ】
担当教員： 佐々木　啓祐(SASAKI　Keisuke)

【授業の紹介】
　本科目では、本学卒業後、赴任する保育所、幼稚園、こども園や、地域の造形教育（表現活動）の推進役として活躍することのできるよう、造形教育の意義やねらい等について、文献等から様々な考え方を学ぶとともに、幼児の造形活動を指導するにあたって必要となる知識や技能を技法遊びの実習を通して身に付けます。
　演習Ⅰでは、主に絵の具遊び（技法遊び）を中心に、教員による実習指導によって、子どもたちへの基本的な指導方法を学びます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・主として技法遊びの実習を通して、造形表現の基礎となる知識や技能を身に付けることができる。
・保育の現場で掲示物など、よりよい環境づくりに必要とされる造形的な構成力や表現力を、イラスト制作を通して身に付けることができる。

【成績の評価】
　造形教育や造形活動に対する知識・技能よりも、レジュメの内容や模擬授業の準備の程度（60%）、質疑応答への参画の態度（40%）など、これらを身に付けるために真摯に取り組む意欲や態度を評価します。
　作成した作品等に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行います。
　20分以上の遅刻は欠席とします。また欠席３回で欠席１回とします。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
「保育所保育指針 解説」（平成30年2月 厚生労働省）
「幼稚園教育要領 解説」（平成30年2月 文部科学省）
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）
令和２年～５年使用 小学校図画工作科 教科用図書
「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　本授業を担当する教員は、小学校で８年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、香川県教育委員会の図画工作科担当指導主事として、長きに渡って現場の先生方に図画教育科の指導を行ってきました。
　また、香川県教育委員会から幼児の造形活動の指導員として委嘱され、４年間、県内の幼稚園や保育所等で、２歳児から５歳児までの子どもたちと造形活動を行ってきました。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、ゼミに期待することをもとめておく（１時間）	
2	発表及び討議：造形教育の実態（教育現場から）について 小学校以降、受けてきた図工の授業の思い出（楽しかったことや、つまらなかったことなど）	予習として、配布されている個人プロティールを記載しておく（１時間）	
3	発表及び討議：造形教育の意義やねらい、戦後の教育の展開（論争点）について 保育所・幼稚園で造形活動や図工の授業は必要か? 保育所保育指針、幼稚園教育要領から	予習として、配布されている造形教育に関するワークシートを完成させておく（１時間）	
4	作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び（1）　スタンピング、ドリッピング	予習として、スタンピングやドリッピングの技法を調べ、必要な材料を持参する（１時間）	
5	作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び（2）　バチック、デカルコマニー	予習として、バチックやデカルコマニーの技法を調べ、必要な材料を持参する（１時間）	
6	作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び（3）　糸引き絵、スパッタリング	予習として、糸引き絵やスパッタリングの技法を調べ、必要な材料を持参する（１時間）	
7	作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び（4）　ステンシル、フロッタージュ	予習として、ステンシルやフロッタージュの技法を調べ、必要な材料を持参する（１時間）	
8	作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び（5）　スクラッチ、にじみ絵	予習として、スクラッチやにじみ絵の技法を調べ、必要な材料を持参する（１時間）	
9	作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び（6）　マーブリング、ビー玉転がし	予習として、マーブリングやビー玉転がしの技法を調べ、必要な材料を持参する（１時間）	
10	作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び（7）　ローラーペインティング①	予習として、ローラーペインティングの技法を調べ、必要な材料を持参する（１時間）	
11	作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び（8）　ローラーペインティング②	ローラーペインティングの作品が完成しない場合は、授業時間外の時間を使って完成させておく。（１時間）	
12	作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び（9）　コラージュ、複合技法①	予習として、コラージュや複合技法について調べ、必要な材料を持参する（１時間）	
13	作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び(10)　コラージュ、複合技法②	授業時間内で作品の完成が見込まれない場合は、授業時間外の時間で制作を進めておく（１時間）	
14	作品制作：幼児や児童に体験させたい技法遊び(11)　コラージュ、複合技法③	授業時間内で作品が完成しなかった場合は、授業時間外の時間を使って完成させる。（１時間以上）	
15	発表及び討議：研究内容の整理とまとめ、後期の研究の方向性の検討	作品鑑賞カードや作品記録データを整理保存する。（１時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK4
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅱ【児童教育ゼミ】
担当教員： 秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya),竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro),織田　幸美(ODA　Yukimi),藤本　駿(FUJIMOTO　Syun),峯　寛文(MINE　Hirofumi),糸目　真也(ITOME　Shinya)

【授業の紹介】
本授業は、実務経験のある教員が担当します。小・中・高等学校の教育現場での教科・生徒指導、教育委員会等のでの経験を生かし、豊富で具体的な事例を示しながら授業を行います。
「演習Ⅰ」に引き続き、「教育現場における朝の会・学級活動などの実践的指導力のトレーニングを行います。また、「いじめ問題」「学力低下問題」など教育的な問題を取り上げ、資料収集・まとめ・発表の活動を通して専門的な力量を身につけることを目指します。可能な限り教育現場に足を運んだり、授業のVTRやDVDを視聴したりして実際の教育活動に触れ、それをもとに教育活動を考えます。この授業科目では、「理論」と「実践力」を兼ね備えた指導力の向上を図ることをねらいとしています。

＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。
　クラス名：2024演習Ⅰ・Ⅱ（児童教育）　　クラス コード：qm6vuzm

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の４つを設定します。
１　教育的、社会的に問題となっている事象を取り上げ、幅広く資料を収集することができる。
２　収集した資料を整理しファイリングできる.
３　収集した資料を分析し、主張点を明確にできる.
４　引用、参考、自己の主張とを明確に区別したレジュメ（Ａ４用紙２～４枚）を作成できる.

【成績の評価】
「朝の会」における司会進行「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」「教育問題のレジュメ検討」などの活動状況を７段階評価（C-～A+）で点数化（25%）、「読書感想文」「新聞記事論評」（25%）、「教育問題」を取り上げたレジュメ作成と・発表（50%）を基礎データとします。それに加え、コース成果発表会などのゼミ活動への取り組み意欲、出席状況などを併せて総合的に評価します。
毎回の授業において、活動・教育問題についてのレジュメに対しての評価コメントを行い次時に活かします。

【使用テキスト】
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）
・木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）756円（前期に購入済み）

【参考文献】
・文部科学省『学習指導要領解説（各教科等）』（2018年）価格は各教科ごと
・文部科学省教育課程課・幼児教育課編「初等教育資料』（東洋館出版社、月一回発行月刊誌）
その他　授業で適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校・中学校・高等学校の現場での教科指導や学級経営、管理職としての学校の管理運営に携わった経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	「演習Ⅱ」の内容と進め方	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
2	取り上げる教育問題と研究の進め方、レジュメ分担等	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
3	発表および討議　学級活動を構成する１(「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等)	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
4	発表および討議　学級活動を構成する２（「生きる力」①）	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
5	発表および討議　学級活動を構成する３（「生きる力」②）	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
6	発表および討議　学級活動を構成する４（「いじめ」問題①）	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
7	発表および討議　学級活動を構成する５（「いじめ」問題②）	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テ	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
8	発表および討議　学級活動を構成する６（「食育」①）	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
9	発表および討議　学級活動を構成する７（「食育」②）	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
10	発表および討議　学級活動を構成する８（「学力低下」問題①）	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
11	発表および討議　学級活動を構成する９（「学力低下」問題②）	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
12	「ゼミ活動報告会」プレゼンテーション準備1	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
13	「ゼミ活動報告会」プレゼンテーション準備2	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
14	「ゼミ活動報告会」プレゼンテーション準備３	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
15	「演習Ⅰ／Ⅱ　成果発表会」	・分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。 ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。 ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月) 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK4
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅱ【幼児教育専修ゼミ】
担当教員： 松原　勝敏(MATSUBARA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
　教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。
　演習Ⅱでは、保育や教育に関する現代的な問題について、ゼミ生による共同研究と発表・討議、そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。
　また、保育や教育に関する時事問題を毎週1つ選び、内容の報告と自分なりの意見をまとめたレポートの提出を求めます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・言葉の概念や表現を緻密に検討することを重ねて、教育や保育に関する諸事象を正確に把握する力の獲得できる。
・研究した成果をプレゼンテーションするための基礎能力を獲得できる。
・教育や保育に関わる現代的な問題についてレジュメを作成し、問題の本質を追究する力量を獲得できる。

【成績の評価】
　レジュメの内容(50%)やゼミでの質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。
　毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】
　基礎演習テキスト『しるべ』（１年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】
　授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
2	発表及び討議：保育制度の課題	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
3	発表及び討議：保育内容の課題	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
4	発表及び討議：子育て不安	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
5	発表及び討議：共同研究テーマの決定	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
6	発表及び討議：共同研究テーマの分析	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
7	発表及び討議：論証方法の検討	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
8	発表及び討議：論証内容の検討	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
9	発表及び討議：使用データの客観性の検討	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
10	発表及び討議：発表レジュメ試作	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
11	発表及び討議：発表レジュメの修正	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
12	発表及び討議：発表用プレゼンテーションの準備	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
13	発表及び討議：発表練習	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
14	学習成果発表会	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
15	卒業生の卒論発表会への参加	予習：時事問題に関するレポートやその他の課題の作成。(20分) 予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(30分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(10分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK4
授業形態：　演習
科目名：　演習Ⅱ【健康ゼミ】
担当教員：　田中　美季(TANAKA　Miki)

【授業の紹介】
　演習Ⅱ（健康ゼミナール）では，演習Ⅰに引き続き，専門的な研究活動への導入である分野をさらに学習します。「保育内容 健康」の領域における先行論文の要約，論評，討論をくり返し，「文章を読む」「文章を書く」「文章を理解し，考察・分析する」「さらにはそれを人に伝える」という，文章の読み書き，問題や課題の考察・分析，プレゼンテーション能力を養うためのトレーニングを演習Ⅰからさらにステップアップして行います。

＜Google Classroom クラスコード＞ u5y2iye

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．簡単な図やグラフを説明できる。
２．他人に分かりやすくプレゼンテーションするためのツールを使いこなすことができる。
３．演習Ⅰよりもさらに深く考察できるようになったり，演習Ⅰよりも，もう一段階ステップアップしたディスカッションができる。
４，授業におけるさまざまな活動の中で，共に助け合い，豊かな心と創造力を身に付けることができる。

【成績の評価】
授業中に作成するレポート：50%
プレゼンテーション：30%
授業態度：20%
※ 全体の60%以上の得点で合格とします。
※ 成績（レポートの評価を含む）については，オフィスアワーにてフィードバックします。
※ 原則として，対面授業で行います。また，単位認定には，授業の2/3以上の出席が必要です。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
その都度，提示する

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	ある事象を分析する①（テーマの設定）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
2	ある事象を分析する②（問題の所在を探る）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
3	ある事象を分析する③（問題解決を分析する）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
4	プレゼンテーションとは何か	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
5	プレゼンテーションのアウトラインを考える①（順序について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
6	プレゼンテーションのアウトラインを考える②（内容について）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
7	Power Pointの基本①（テキストの入力）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
8	Power Pointの基本②（クリップアートや図の挿入）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
9	Power Pointの基本③（グラフの作成と挿入）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
10	Power Pointを使いこなす①（テンプレートの作成）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（30分）。	
11	Power Pointを使いこなす②（アニメーションの設定）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
12	Power Pointを使ってプレゼンテーションしよう（前半）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
13	Power Pointを使ってプレゼンテーションしよう（後半）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
14	総括①（自作のプレゼンテーションの反省）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また，次回の授業内容を予告するので，授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。	
15	総括②（プレゼンテーションのまとめ）	授業内容を復習し，A４１枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。これまで14回の授業内容をA４１枚程度まとめ，提出してください（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK4
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅱ【人間関係ゼミ】
担当教員： 横川　和章(YOKOGAWA　Kazuaki)

【授業の紹介】
　演習Ⅰに引き続き、心理学の研究によって得られた知見や心理学研究の方法論にもとづいて、「人との関わり」に関する知識、技法の修得をめざします。授業では、子どもたちの人間関係に関わる具体的なテーマについて、文献研究を行い、必要に応じて調査をし、それらの結果に関して討論することを通して、演習Ⅰと同様に、知識を自ら学び取ることを重視します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．演習Ⅰにおける自らの人間関係に関する学び、動機づけ、および、幼児の遊びについての学びを基礎にしながら、現代社会の人間関係について考察することができる。
２．子育て支援社会を支える豊な心の基盤となる人間関係の重要性を改めて理解することができる。

【成績の評価】
・授業の参加状況（態度、意欲など）（30%）、発表（40%）、討論内容（30%）を総合的に評価します。
・発表や討論の内容に関する教員からの講評を通してフィードバックを行います。

【使用テキスト】
適宜指示します。

【参考文献】
山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門』（ミネルヴァ書房）
林創・清水由紀（2012）『他者とかかわる心の発達心理学』（金子書房）
田中浩司（2014）『集団遊びの発達心理学』（北大路書房）
池上知子・遠藤由美（2008）『グラフィック社会心理学第２版』（サイエンス社）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
2	関心領域と課題に関する議論（グループ１）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
3	関心領域と課題に関する議論（グループ２）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
4	文献の発表と討論（グループ１）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
5	文献の発表と討論（グループ２）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
6	文献の研究的視点からの検討	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
7	文献の実践的視点からの検討	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
8	関連する関心領域と課題に関する議論（グループ１）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
9	関連する関心領域と課題に関する議論（グループ２）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
10	関連文献の発表と討論（グループ１）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
11	関連文献の発表と討論（グループ２）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
12	関連文献の研究的視点からの検討	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
13	関連文献の実践的視点からの検討	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
14	発表・討論の総括	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
15	ゼミ活動報告会	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集し、まとめておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK4
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅱ【環境ゼミ】
担当教員： 川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】
「環境ゼミ」は、実践的な活動を通して、乳幼児教育における領域“環境”について考えるゼミです。演習Ⅱでは、演習Ⅰに引き続き、学生の皆さんの興味関心に合わせて、保育現場で実践できる活動を文献などを用いて調べ、提案してもらいます。そして、事前学習を行った後、その活動について、計画を立て、実践し、省察をします。
実践的な活動やレジュメ作成、討議を主な活動とし、研究に向けての基礎的な力を養うことを目標とします。また、これらを通して教育・保育に必要な専門的知識と実践力を養っていくと共に、保育者に必要な創造力を培うことをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・文献等から知り得た情報をもとに、自らのテーマを決め、計画することができる。
・計画を実践、省察し、今後の課題を見出すことができる。
・協調性を持ちながら、他学生と意見交換をしたり積極的に実践活動に取り組んだりすることができる。
・「様々な環境に、好奇心や探求心をもってかかわる」ということについて自ら実践し、理解を深めることができる。

【成績の評価】
提出物（レジュメ、レポート等）５０％、討議への参画２０％、実践活動への参画３０％を総合的に評価します。レジュメ、レポートについては、授業時間内に講評を行い、課題改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
・厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」　フレーベル館
・文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」　フレーベル館
その他、必要であれば適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育施設での保育士経験を生かし、具体的な実践例を紹介しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業の概要について説明）	【予習】前期での実践活動を自分なりに振り返り、疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
2	栽培活動（収穫・調理）	【予習】収穫した野菜についての調理方法を調べて、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
3	実践活動を提案するための事前学習（グループワーク）	【予習】保育所保育指針や配布資料の事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
4	実践活動の計画立案（グループワーク）	【予習】実践活動をする上での準備物や活動の流れについて自分なりに調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】グループで話し合い、「活動計画シート」を完成させること。（1時間）	
5	実践活動①（実践・調査）「自然活動」	【予習】「活動計画シート」に目を通し、活動内容を把握した上で、疑問点などをノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】実践活動の内容をについて自己省察し、「振り返りシート」にまとめること。（1時間）	実践活動のテーマは学生が立案するため、変更する場合があります。
6	実践活動①（省察・討議）「自然活動」	【予習】保育所保育指針や配布資料の事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
7	実践活動②（実践・調査）「科学遊び」	【予習】「活動計画シート」に目を通し、活動内容を把握した上で、疑問点などをノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】実践活動の内容をについて自己省察し、「振り返りシート」にまとめること。（1時間）	実践活動のテーマは学生が立案するため、変更する場合があります。
8	実践活動②（省察・討議）「科学遊び」	【予習】保育所保育指針や配布資料の事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
9	実践活動③（実践・調査）「廃材を使った遊び」	【予習】「活動計画シート」に目を通し、活動内容を把握した上で、疑問点などをノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】実践活動の内容をについて自己省察し、「振り返りシート」にまとめること。（1時間）	実践活動のテーマは学生が立案するため、変更する場合があります。
10	実践活動③（省察・討議）「廃材を使った遊び」	【予習】保育所保育指針や配布資料の事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		まとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の内容を自分なりにまとめ、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
11	学習成果発表会の内容検討（討議）	【予習】実践活動を振り返って総括し、学んだことや課題についてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】討議した内容を踏まえ、レジュメを作成すること。（1時間）	
12	学習成果発表会レジュメ検討（討議）	【予習】作成したレジュメについて見直し、気付いたことについてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】討議した内容を踏まえ、レジュメを完成させること。（1時間）	
13	学習成果発表会プレゼンテーション内容の検討（討議）	【予習】各グループでプレゼンテーション用のスライドを作成すること。（1時間） 【復習】討議した内容を踏まえ、スライドを完成させること。（1時間）	
14	学習成果発表会発表準備（リハーサル）	【予習】発表用の読み原稿を作成すること。（1時間） 【復習】レジュメ、読み原稿、スライドを最終確認して完成させ、提出すること。（1時間）	
15	学習成果発表会	【予習】想定される質疑内容に対する自分の意見をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】発表会を通して気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK4
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅱ【言葉ゼミ】
担当教員： 山田　純子(YAMADA　Junko)

【授業の紹介】
　演習Ⅱ（言葉ゼミ）は、演習Ⅰの学習を踏まえ、それを継続し、一層拡大・深化させる形で、絵本や紙芝居、童話などをテキストとしての調査・研究や発表・討議などを行います。その他、言語教材について研究や実践演習を行います。
　また、子どもが「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう」ことができるようにするために求められる、学生自身の表現力・コミュニケーション能力の向上を図るため、「読み聞かせ」や紙芝居の実践演習を継続・拡充して行います。さらに、ゼミ活動の一環として読み聞かせボランティア活動を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
(1)演習Ⅰの学習成果を踏まえ、子どもの言葉の獲得や言語生活についての理解を深めることができる。
(2)実践的な読み聞かせ活動などにより、子どもを対象としたコミュニケーション能力や言葉による表現能力の一層の向上を図ることができる。

【成績の評価】
　受講態度・状況（60%）、学習シート課題のまとめ（20%）、「おはなし会」ボランティア活動状況等（20%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
　絵本や紙芝居などを幅広く使用しますが、各自購入する必要はありません。

【参考文献】
　演習の中で、随時紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、子どもたちの具体的な姿や保育活動の事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	演習の内容と実施計画についての協議	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
2	言語教材の資料収集	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
3	言語教材の分析	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
4	絵本の表現研究（メディア・リテラシー）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
5	読み聞かせの実践演習（絵本）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
6	読み聞かせの実践演習（紙芝居）	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
7	読み聞かせの実践演習（パネルシアターなど	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
8	言語教材の実演方法の検討	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
9	言語教材の実演発表(1グループ)	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
10	言語教材の実演発表(2グループ)	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
11	言語教材の実演発表の反省と考察	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
12	学習成果の分析	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
13	学習成果の検討	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
14	学習成果のまとめと課題の検討	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
15	学習成果発表会	絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間） 事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK4
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅱ【音楽表現ゼミ】
担当教員： 水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu)

【授業の紹介】
幼児の音楽表現に関して研究を行います。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように演奏活動を中心にまずは自らの表現力を高め、専門的技能と実践能力を養います。また、ふれあいコンサートをはじめとした発表の場を目標に、計画・準備・本番等を通して、各自が課題に気づき、解決していく力を育みます。これら企画運営の経験を含めて総合的に音楽活動に関する知識、技法、態度を修得します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・グループ活動において自分のアイデアや意見を論じることができる。
・積極的に課題を見つけ、創造的に取り組むことができる。
・演奏の場で臆することなく発表することができる。

【成績の評価】
提出物５０％　発表内容５０％
提出物にはコメントを添えて返却、発表内容については授業内で講評を行う。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
北村智恵著　「風の声を聴く子どもたち」（芸術現代社）1988年

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
2	課題Iの提案、準備	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
3	課題Iの練習	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
4	課題Iの遂行、発表	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
5	ドラマ教育の手法と実践	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
6	ふれあいコンサートのための準備１（提案）	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
7	ふれあいコンサートのための準備２（計画、レジュメ作成、練習）	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
8	ふれあいコンサートのための準備３（練習、修正）	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
9	ふれあいコンサートのための準備４（リハーサル）	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
10	ゼミナール発表テーマの提案と検討	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
11	卒論テーマについての意見交換	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
12	プレゼンテーションの方法	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
13	学習成果発表会レジュメの完成	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
14	学習成果発表会スライドの完成	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
15	学習成果発表会リハーサル、今期の振り返り、ポートフォリオの下準備	予習（３０分）：ワークシートに従って予習する。 復習（３０分）：ワークシートに従って復習する。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK4
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅱ【特別支援教育ゼミ】
担当教員： 山口　明乙香(YAMAGUCHI　Asuka),堺　るり子(SAKAI　Ruriko)

【授業の紹介】

本授業は、「特別支援教育指導法研究」を受講しており、特別支援学校教諭免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）を取得する学生を対象としています。一定期間特別支援学校において、指導教員の指導を受けながら特別支援学校の実際について体験し学びます。

併せて、教育実習を円滑に、より効果的にその目的を達成させるために、実習の前後に講義・演習を行います。事前指導では，学習指導案の作成及び模擬授業の実施を行い，実践力の基盤を固めます。また特別支援教育実習の概要や実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにしていきます。この特別支援教育実習及び事前事後指導を通じて，ティームティーチングが求められる特別支援教育現場で求められる周囲との協調や協働する態度や姿勢を身に付け，教員として求められる使命感や倫理観を育みます。

本授業では，ICTを活用して，フィールドワーク，グループワークの結果をプレゼンテーションし，ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】

１.特別支援教育の実践者として求められる専門性を理解し、必要な知識を習得することができる。
２.子どもの実態把握、指導計画の作成・実践・記録・評価を通して、基本的な指導技術を習得することができる。

【成績の評価】

事前・事後学習の活動状況（40%）、実習（40%）、報告会での発表（20%）を総合的に評価して、単位を認定します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

本学作成『特別支援教育実習の手引き』

【参考文献】

授業の中で、必要に応じて紹介します。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定したまとめシートを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	"授業時間外にも，適宜，情報収集や集めた情報や資料を整理することが必要です（1時間）。また，ゼミナール活動としてボランティア活動へ定期的に参加しています（月に1回程度）。本授業ではゼミ内の発表会を予定しているため，そのレジュメ作成等の準備が必要です。"
2	特別支援教育の実践と環境構成	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜気づいた観点＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
3	教材開発の視点と環境構成	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜気づいた観点＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
4	教材開発（アイデア発表）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜アイデア案＞クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
5	教材開発（素材集めと見直し）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜素材の見直し案＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
6	教材開発（作成）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜作成案＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
7	教材紹介	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜発表教材資料＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
8	ボランティア活動の意義と学び（グループ討議）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜気づいた点＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
9	ボランティア活動の意義と学び（個別発表）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜気づいた点＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
10	研究設問の設定（文献検索）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜テーマ案＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
11	研究構成と内容（探索）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜気づいた観点＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
12	研究構成と内容（決定）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜構成案＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
13	最終発表の準備（レジュメ作成）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜レジュメ下書き＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
14	最終発表の準備（発表練習）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜発表原稿修正＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
15	最終発表会	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜発表原稿＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		時間）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK4
授業形態：　演習
科目名：　演習Ⅱ【造形表現ゼミ】
担当教員：　佐々木　啓祐(SASAKI　Keisuke)

【授業の紹介】
　本科目では、本学卒業後、赴任する保育所、幼稚園、こども園や、地域の造形教育（表現活動）の推進役として活躍することのできるよう、造形教育の意義やねらい等について、文献等から様々な考え方を学ぶとともに、幼児の造形活動を指導するにあたって必要となる知識や技能を実習を通して身に付けます。
　演習Ⅱでは、造形活動全般を通して、工作も含め、学生が主体となって「子どもたちが夢中になって取り組む造形教材」の研究開発を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・保育の現場で行われている造形活動の作品づくりを通して、造形表現の基礎となる知識や技能を身に付けることができる。
・保育の現場で掲示物など、よりよい環境づくりに必要とされる造形的な構成力や表現力を、イラスト制作を通して身に付けることができる。

【成績の評価】
　造形教育や造形活動に対する知識・技能よりも、レジュメの内容や模擬授業の準備の程度（60%）、質疑応答への参画の態度（40%）など、これらを身に付けるために真摯に取り組む意欲や態度を評価します。
　作成した作品等に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行います。
　20分以上の遅刻は欠席とします。また欠席３回で欠席１回とします。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
「保育所保育指針 解説」（平成30年2月 厚生労働省）
「幼稚園教育要領 解説」（平成30年2月 文部科学省）
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）
令和２年～５年使用 小学校図画工作科 教科用図書
「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　本授業を担当する教員は、小学校で８年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、香川県教育委員会の図画工作科担当指導主事として、長きに渡って現場の先生方に図画教育科の指導を行ってきました。
　また、香川県教育委員会から幼児の造形活動の指導員として委嘱され、４年間、県内の幼稚園や保育所等で、２歳児から５歳児までの子どもたちと造形活動を行ってきました。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 発表及び討議：個々の夏休み中の実践研究の発表	予習として、夏休み中の課題の持参する（２時間以上）	
2	作品制作：保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題の実施とイラスト練習①	授業時間外の課題として、保育の現場や役立つ「自分なりのイラスト集」を作成する（１時間以上）	
3	作品制作：保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題の実施とイラスト練習②	授業時間外の課題として、保育の現場や役立つ「自分なりのイラスト集」を作成する（１時間以上）	
4	作品制作：保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題の実施とイラスト練習③	授業時間外の課題として、保育の現場や役立つ「自分なりのイラスト集」を作成する（１時間以上）	
5	作品制作：壁面掲示物づくり① 保育現場の教室や玄関ロビーの掲示を鑑賞する	日頃から保育・教育実習等を通して壁面掲示の写真を集める（１時間以上）	
6	作品制作：壁面掲示物づくり② テーマに沿った季節の掲示物づくり	授業時間内で作品の完成が見込まれない場合は、授業時間外の時間で制作を進めておく（１時間以上）	
7	作品制作：壁面掲示物づくり③ テーマに沿った季節の掲示物づくり（完成）	授業時間内で作品の完成しない場合は、授業時間外の時間を使って完成させる。（１時間以上）	
8	作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現 (1)複合技法による作品づくり①	予習として、子どもたちが夢中になって取り組む造形教材を考えておく（１時間以上）	
9	作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現 (2)複合技法による作品づくり②	自ら考えた造形教材のプリント資料を用意しておく（１時間以上）	
10	作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現 (3)複合技法による作品づくり③	自ら考えた造形教材のプリント資料を用意しておく（１時間以上）	
11	作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現 (4)季節や行事の作品づくり①	自ら考えた造形教材のプリント資料を用意しておく（１時間以上）	
12	作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現(5)季節や行事の作品づくり②	自ら考えた造形教材のプリント資料を用意しておく（１時間以上）	
13	作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現 (6)季節や行事の作品づくり③	自ら考えた造形教材のプリント資料を用意しておく（１時間以上）	
14	作品制作：幼児や児童に体験させたい造形表現 (7)季節や行事の作品づくり④	作品鑑賞カードや作品記録データを整理保存する。（１時間）	
15	発表及び討議：研究内容の整理とまとめ	作品鑑賞カードや作品記録データを整理保存する。（１時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK5
授業形態：　演習
科目名：　演習III【幼児教育ゼミ】
担当教員：　山田　純子(YAMADA　Junko)

【授業の紹介】
　演習Ⅲは、２年次の言葉ゼミ演習Ⅰ・Ⅱで行った絵本、紙芝居、物語などの調査、研究、検討協議並びに読み聞かせの実技演習などを踏まえて、学生がそれぞれの興味・関心等により、個別の研究テーマを設定し、それにかかわる絵本、紙芝居等の紹介や研究協議を行うと共に、ゼミ活動の一環として、子育て支援ボランティア活動「おはなし会」公演等を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
(1)絵本、紙芝居等を活用して、子どもと本との関わりについての理解を深めることができる。
(2)表現力、コミュニケーション能力を高め、将来、保育所や幼稚園等における人間教育、情操教育を担当することのできる資質や能力、態度等を身に付けることができる。

【成績の評価】
　受講態度・状況（20%）、学習シート・研究のまとめ（50%）、「おはなし会」ボランティア活動状況（30%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
　学生自身が用意した、市販の絵本、紙芝居や、パネルシアターなどを随時教材として使用します。

【参考文献】
　随時紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、子どもたちの具体的な姿や保育活動の事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
2	演習の全体計画、学生各自のテーマ設定に関する検討協議	各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
3	ブックトーク研修（選書方法）	ブックトークに必要な絵本等を調べ、発表の準備をすること。（0.5時間） 各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
4	ブックトーク研修（事例研修①）	ブックトークに必要な絵本等を調べ、発表の準備をすること。（0.5時間） 各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
5	ブックトーク研修（事例研修②）	ブックトークに必要な絵本等を調べ、発表の準備をすること。（0.5時間） 各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
6	ブックトーク研修（実践と評価①）	ブックトークに必要な絵本等を調べ、発表の準備をすること。（0.5時間） 各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
7	ブックトーク研修（実践と評価②）	ブックトークに必要な絵本等を調べ、発表	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		の準備をすること。（0.5時間） 各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
8	ブックトーク研修（実践と評価③）	ブックトークに必要な絵本等を調べ、発表の準備をすること。（0.5時間） 各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
9	ブックトーク研修（実践と評価④）	ブックトークに必要な絵本等を調べ、発表の準備をすること。（0.5時間） 各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
10	ブックトーク研修（成果と課題）	ブックトークに必要な絵本等を調べ、発表の準備をすること。（0.5時間） 各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
11	卒論構想テーマ設定の検討（テーマとタイトル）	各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
12	研究資料の検討（文献・先行研究の探求）	各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
13	研究資料の検討（資料の探求）	各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理してお	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		くこと。（1時間） 　子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
14	研究資料の検討（調査資料の収集）	各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 　子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
15	演習成果のまとめ	各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 　子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK5
授業形態： 演習
科目名： 演習III【保育ゼミ】
担当教員： 松原　勝敏(MATSUBARA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
　教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、各回でのゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。
　また、発表・討議を重ねることで、卒業論文として研究したいテーマを見つけます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・卒業論文のテーマ決定に向けて、教育や保育に関わる現代的な問題についてレジュメを作成し、問題の本質を追究する力量を獲得できる。

【成績の評価】
　レジュメの内容(50%)や質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。
　毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】
　基礎演習テキスト『しるべ』（１年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】
　授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	発表及び討議：保育の目的と目標	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
2	発表及び討議：保育内容の課題	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
3	発表及び討議：保育方法の課題	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
4	発表及び討議：保育制度の課題	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
5	発表及び討議：子育てニーズの多様性	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
6	発表及び討議：育児不安の現状	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
7	発表及び討議：育児不安の原因	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
8	発表及び討議：子育て支援の現状	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
9	発表及び討議：子育て支援の課題	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
10	発表及び討議：新たな保育ニーズ	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
11	発表及び討議：研究内容の整理と分析	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
12	発表及び討議：個々の研究テーマの報告	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
13	発表及び討議：個々の研究テーマの報告	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
14	発表及び討議：研究内容のまとめ	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
15	発表及び討議：後期の研究の方向性の検討	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK5
授業形態： 演習
科目名： 演習III【保育実践ゼミ】
担当教員： 野町　真知子(NOMACHI　Machiko)

【授業の紹介】
　演習Ⅲでは、研究内容をより明確にするために保育実践に関わる文献や先行研究をもとに学習します。自ら興味あるテーマを見つけ、より深く知っていくための活動をしていく能力の獲得を目指します。他者の発表を通して理解しながら協力・協働する力も培うことを目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．文献、資料などを通して、自らの興味ある情報を得ることができる。
２．研究について計画、実践、振り返りをすることができる。
３．自らの研究テーマについて発表をし、他学生の研究テーマについても自分の意見を伝えることができる。

【成績の評価】
レジュメの作成・発表準備・発表（70%）、意見交換への参加（30%）、により評価します。
レジュメなどは添削して、次の授業時に返却します。

【使用テキスト】
厚生労働省「保育所保育指針解説」

【参考文献】
研究テーマに沿って適宜使用します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のある教員による授業科目です。保育所、こども園で保育士、主任保育士をしてきた中での経験をもとに保育の実践に必要な知識、技術について授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	オリエンテーションをもとに卒業論文に向けて興味のあるテーマについて検討する(1時間)	
2	情報収集	興味のあるテーマについて関連する事柄などを調べる(1時間)	
3	卒業研究、研究方法について	配布された資料をもとに卒業研究についてや研究方法について理解する(1時間)	
4	文献・資料の探し方	配布された資料などをもとに、文献や資料の探し方について知り、探した資料などをまとめる(1時間)	
5	文献・資料の情報整理	文献や資料などから得た情報について、テーマごとに分かりやすくまとめる(1時間)	
6	文献・資料をもとにしたレジュメの作成、発表準備	情報収集した文献、資料をもとに今調べることができている内容について発表するための準備をする(1時間)	
7	作成したレジュメをもとに発表	発表した内容をもとに、改善点や変更点などを検討し、まとめる。	
8	発表をもとに意見交換　改善の検討	意見交換や自身の振り返りをもとに、今後の研究テーマについて検討をし、考えをまとめる。(1時間)	
9	研究テーマの設定	今までの情報収集や発表をもとに、研究するテーマについて検討をする。思考マップを作成するにあたり、キーワードなどをまとめる。(1時間)	
10	思考マップの作成	興味のあるテーマについて、キーワードを集め、その内容について調べてまとめる。(1時間)	
11	研究テーマと研究の方法	研究テーマにあった研究方法について調べまとめる。研究テーマについて発表するための準備を行う。(1時間)	
12	研究テーマについて発表	他の学生の研究テーマについて発表を聞いた内容をまとめ、意見をまとめる。(1時間)	
13	研究テーマについての発表をもとに意見交換	他の学生との意見交換をもとに、自身の研究テーマについて検討すること、改善点などをまとめる。(1時間)	
14	振り返り（発表・意見交換についての総括）	前期の情報収集や他の学生との意見交換をもとに、自身のテーマについてキーワードや研究方法をまとめる。(1時間)	
15	前期のまとめ　研究テーマについての再確認 夏季課題について	夏季課題について文研研究を行う。(1時間)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK5
授業形態： 演習
科目名： 演習III【特別支援教育支援システムゼミ】
担当教員： 山口　明乙香(YAMAGUCHI　Asuka)

【授業の紹介】
　卒業論文の研究課題を設定するために、興味・関心をもとに先行研究や文献から情報を収集し、自らの問題意識を明確にします。また調べた内容をまとめて文章することを通して、卒業論文作成に求められる基礎力の向上を図ります。この演習を通じて、幅広い教養を身に付け、自律的に学ぶ姿勢と様々な課題に気づき、自ら課題解決を図る主体性を高めます。本授業では、ICTを活用して、フィールドワーク、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
　研究の基礎である，情報収集，文章のまとめ方，発表の仕方など，卒業論文作成に求められる基礎的知識と技能を習得できる。
１．研究の種類とその内容について概説できる
２．文献資料を探索し，文献収集ができる
３．研究設問を設定し，それを具現化する方法を選択できる
４．発表原稿を作成することができる

【成績の評価】
　受講態度（30%），提出物（40%），発表（30%）等を総合して成績を評価します。
　課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。
　また，必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】
適宜紹介します。

【参考文献】
適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜私の興味関心のあること＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	"授業時間外にも，適宜，情報収集や集めた情報や資料を整理することが必要です（1時間）。また，本講義では２回ゼミ内の発表会を予定しているため，そのレジュメ作成等の準備が必要です"
2	研究の進め方（研究手法とは）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜手法のまとめ＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
3	研究の進め方（研究手法の選定）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜手法選定のポイント＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
4	研究課題の探索（テーマ探索）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜テーマの案＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
5	研究課題の探索（文献探索）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜文献記録＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
6	研究課題の探索（文献整理）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜文献記録＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
7	中間発表の準備	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜発表シート＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
8	中間発表会	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜発表シート＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
9	研究設問の設定（RQの探索）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜RQの案＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
10	研究設問の設定（RQの決定）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜RQ＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
11	研究構成と内容	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜研究構成シート＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
12	研究構成の確認	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜研究構成シート＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
13	最終発表の準備（レジュメ作成）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜レジュメ下書き＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
14	最終発表の準備（発表練習）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜発表原稿＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
15	最終発表会	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜発表原稿＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK5
授業形態： 演習
科目名： 演習III【授業研究ゼミ】
担当教員： 秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya)

【授業の紹介】
　本授業は、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での教科・生徒指導の経験を生かし、豊富で具体的な実践事例を示しながら授業を行います。その実践をふまえて、学生それぞれの興味･関心からなる個別の研究テーマを設定し、後期実施の「演習Ⅳ」へとつないでいきます．また、実践的指導力の向上を目指した模擬授業や場面指導の在り方など教員採用試験に向けた内容を扱います。
　戦後教育における著名な教育実践家の教育実践を取り上げ検討します。具体的には斎藤喜博、向山洋一、大村はま、遠山啓、大西忠治、無着成恭らの教育実践家です。彼らの教育実践から、現代の教育においても大切にしたい教育観、指導方法等を取り出します。

＊リモートでの授業に備えClassroomへの参加、準備をお願いします。
　クラス：2024演習Ⅲ・Ⅳ（授業研究ゼミ３年）　クラスコード　：pdr7vjc

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１取り上げる教育実践に関わる情報を収集･整理･分析し、A4３～４枚のレジュメにまとめることができる。
２レジュメを検討する際のグループ討議を通して、論点に沿った質問や意見の発表することができる。
３目標、指導言を明確にした10分弱程度の授業計画を立て、オープンキャンパス等の場において模擬授業を実施できる。

【成績の評価】
レジュメの内容（90%）、質疑応答など（10%）を基本にして総合的に評価します。
毎回の教育実践の検討において、実践分析の在り方、レジュメ制作の在り方についての評価コメントを行い、次時へ活かすようにします。
また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】
・木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）756円
・田中耕治編著『時代を拓いた教師たち　戦後教育実践からのメッセージ』（日本標準、2005年）1800円

【参考文献】
・無着成恭『やまびこ学校』（岩波文庫、1995年）
・大村はま『教えるということ』（共文社、1973年）
・斎藤喜博『授業』国土社
・遠山啓『競争原理を超えて』（太郎次郎社、1976年）
・大西忠治『教育的集団の発見・定本「核のいる学級」』（大西忠治教育技術著作集）（明治図書、1991年）
・向山洋一『跳び箱は誰でも跳ばせられる』（明治図書、1999年）
その他、適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の現場での学級担任としての学習指導、研究授業などの校内研修を担当する現職教育主任としての経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	
2	教育実践「斎藤喜博」に関わる発表と討議1	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	
3	教育実践「斎藤喜博」に関わる発表と討議2	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	
4	教育実践「向山洋一」に関わる発表と討議1	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	
5	教育実践「向山洋一」に関わる発表と討議2	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
6	教育実践「大西忠治」に関わる発表と討議1	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	
7	教育実践「大西忠治」に関わる発表と討議2	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	
8	教育実践「大村はま」に関わる発表と討議1	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	
9	教育実践「大村はま」に関わる発表と討議2	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	
10	教育実践「遠山啓・数教協」に関わる発表と討議1	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	教育実践「遠山啓・数教協」に関わる発表と討議2	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	
12	教育実践「無着成恭・やまびこ学校」に関わる発表と討議1	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	
13	教育実践「無着成恭・やまびこ学校」に関わる発表と討議2	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	
14	教育実践「有田和正」に関わる発表と討議1	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	
15	教育実践「有田和正」に関わる発表と討議2	・研究テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。 ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK5
授業形態： 演習
科目名： 演習III【健康スポーツゼミ】
担当教員： 田中　美季(TANAKA　Miki)

【授業の紹介】
演習Ⅲ（健康スポーツゼミナール）は，卒業論文を作成ための準備をする第一段階の授業として位置づけます。卒業論文のテーマの領域を選択するために，先行研究の探し方を学び，実際に先行研究の文献を読みます。さまざまな文献を読みすすめていくうちに，論文とはどのような文章なのか，論文の構成など，実際に学びます。

＜Google Classroom クラスコード＞ rsnsfa6

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．簡単な図やグラフを説明できる。
２．他人に分かりやすくプレゼンテーションするためのツールを使いこなすことができる。
３．演習Ⅰよりもさらに深く考察できるようになったり，演習Ⅰよりも，もう一段階ステップアップしたディスカッションができる。
４，授業におけるさまざまな活動の中で，共に助け合い，豊かな心と創造力を身に付けることができる。

【成績の評価】
授業中に作成するレポート：50%
プレゼンテーション：30%
授業態度：20%
※ 全体の60%以上の得点で合格とします。
※ 成績（レポートの評価を含む）については，オフィスアワーにてフィードバックします。
※ 原則として，対面授業で行います。また，単位認定には授業の2/3の出席が必要です。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
その都度，提示する

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
2	卒業論文を作成するための手順とは①（論文構成を考える）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
3	卒業論文を作成するための手順とは②（論文構成を作成する）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
4	卒業論文を作成するための手順とは③（論文構成を検討してみる）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
5	先行研究の探し方を学ぼう①（図書館にて）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
6	先行研究の探し方を学ぼう②（Webでの探し方）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
7	実際に先行研究の文献を探そう①（図書館にて自分のテーマに関する先行文献を探す）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
8	実際に先行研究の文献を探そう②（Web上にて自分のテーマに関する先行文献を探す）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
9	実際に先行研究の文献を探そう③（文献検索のまとめ）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
10	さまざまな文献を読もう①（収集した文献を読む）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めて	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		おいてください（30分）。	
11	さまざまな文献を読もう②（収集した文献の整理）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
12	さまざまな文献を読もう③（収集した文献をまとめる）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
13	収集した文献のまとめを発表する①（前半）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
14	収集した文献のまとめを発表する②（後半）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
15	総括（今後の卒業論文の進め方）	卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK5
授業形態：　演習
科目名：　演習III【教育心理ゼミ】
担当教員：　横川　和章(YOKOGAWA　Kazuaki)

【授業の紹介】
　この授業では、教育心理学や発達心理学の知見を中心に、発達・思考・言語・学習などについての文献の講読、レポートの作成、発表などを行い、教育心理学や発達心理学の研究分野に関するより一層深い理解を目標とします。その際に、購読した論文の問題点や改善点、その他の文献から新しく得られた知見にもとづいた発展研究の案などを積極的に議論できる態度の育成を目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．様々な文献に記載される子どもの教育・保育に関わる理論を適切に理解できる。
２．様々な文献から発展的な知見に得るための思考方法、またその態度を養うことができる。

【成績の評価】
・授業の参加状況（態度、意欲など）（30%）、発表（40%）、討論内容（30%）を総合的に評価します。
・発表や資料に関する教員からの講評を通してフィードバックを行います。

【使用テキスト】
適宜指示します。

【参考文献】
松井豊（2010）『心理学論文の書き方－卒業論文や修士論文を書くために』（河出書房）
南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（2001）『心理学研究法入門』（東京大学出版会）
大野木裕明・中澤潤（2002）『心理学マニュアル　研究法レッスン』　（北大路書房）
小宮あすか・布井雅人（2018）『Excelで今すぐはじめる心理統計』（講談社）
サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実（2019）『質的研究法マッピング』（新曜社）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
2	関心領域に関する討論	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
3	関心領域に関する課題の検討	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
4	関心領域に関する資料の検索	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
5	関心領域に関する資料の検討	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
6	発表と討論（グループ１）	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
7	発表と討論（グループ２）	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
8	発表と討論（グループ３）	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
9	発表と討論（グループ４）	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
10	発表と討論（グループ５）	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
11	論文の構成	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
12	論文の検索方法と文献の示し方	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
13	論文の要約方法	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
14	文献の検索と報告	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
15	文献の検索と検討	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK5
授業形態：　演習
科目名：　演習III【学校教育ゼミ】
担当教員：　藤本　駿(FUJIMOTO　Syun)

【授業の紹介】
まず、各自の関心に基づいた学校教育に関する研究課題を設定します。次に、研究課題にかかわる文献や資料を収集・調査・分析する活動を進めていきます。受講学生は、定期的にレジュメを作成・発表します。これらの取り組みを通して、文献や資料の収集方法、論文の読み方、要約の仕方について学んでいきます。また、教員も交えて積極的に議論することで、様々な研究課題に関心を持ち、教育に関する見識を高めていきます。研究活動以外では、教育に関する今日的問題に関心を持ってもらうために、新聞記事の切り抜きをもとに議論する時間を設ける予定です。また、希望があれば教員採用試験に向けた対策を取り入れることもあります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・各自の関心に基づく教育・保育に関する研究課題を設定することができる。
・自ら設定した研究課題に関する文献・資料を収集し、調査し、分析することができる。
・各自で分析したことを整理し、ゼミ内で発表し、意見交換することができる。
・日常的に教育問題に関心を持ち、社会人としての素養を身に付けることができる。

【成績の評価】
授業態度や授業への積極的参加状況（30%）、各自の研究課題の進捗状況（50%）、新聞記事の紹介（20%）などにより総合的に評価する。
発表後は、教員から講評を受けることでフィードバックを行う。また、最終回では、全体の講評を行う。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
・桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版』実教出版、2015年。など

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、研究テーマとは	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
2	研究課題の設定とは	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
3	各自の研究課題の設定	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
4	各自の研究課題の再設定	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
5	文献・資料調査とは	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
6	文献・資料収集の方法	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
7	文献・資料の整理	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
8	インタビュー調査の方法	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
9	アンケート調査の方法	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
10	発表レジュメの作成	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
11	発表レジュメの修正	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
12	発表準備	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
13	ゼミ内での発表と意見交換	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
14	今後の研究計画	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習とし	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		て、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
15	全体のまとめ、振り返り	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK5
授業形態： 演習
科目名： 演習III【特別支援教育ゼミ】
担当教員： 堺　るり子(SAKAI　Ruriko)

【授業の紹介】
　演習Ⅲでは、支援を必要とする子どもの生活・学習等における課題を考察します。実地研修やボランティア等の体験活動に参加する機会を設けていますので、支援を必要とする子どもの教育・保育・生活等に関する問題を自ら発見し、問題を解決する方策等について積極的に意見交換をしましょう。また、関心をもった領域について文献や先行研究から情報を収集し、各自の問題意識を明確にして卒業研究のテーマを設定してください。
　この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：zmrzr4x）を使用し、課題の提示や資料配付等を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．支援を必要とする子どもの生活・学習等におけるニーズや課題を、理解することができる。
２．実地研修やボランティア活動等に積極的に参加し、学んだ内容を報告することができる。
３．討議や発表で、気付きや疑問、意見を積極的に述べることができる。
４．卒業論文のテーマ決定に向けて、関心がある領域の問題点や課題をレジュメにまとめることができる。

【成績の評価】
・レジュメの内容（60%）、意見交換など授業への貢献（40%）を踏まえて総合的に評価します。
・レジュメについては毎回授業時に講評し、改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】
高松大学発達科学部オリジナルテキスト

【参考文献】
・白石正久著『発達の扉（上）』（かもがわ出版、1996年）
・白石正久著『発達障害論　研究序説』（かもがわ出版、1995年）
・アナット・バニエル著『限界を超える子どもたち』（太郎次郎社エディタス、2019年）
・神蔵幸子、金允貞編著『やさしい乳児保育』（青踏社、2020年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。特別支援教育に取り組んできた経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 授業の概要	予習として、関心がある内容をノート等にまとめること（1時間） 復習として、意見交換を行い疑問に思ったことや質問を受けて調べた内容を、ノート等にまとめること（1時間）	
2	卒業研究及び卒業論文とは	予習として、卒業論文を書くために必要な知見と考え方をノート等にまとめること（1時間） 復習として、授業時に指摘された問題等について調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
3	支援が必要な子どもを理解する視点	予習として、支援が必要な子どもの理解について文献等で調べ、レジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時に配布された資料の内容について、学んだことをノート等にまとめること（1時間）	
4	子どもの発達	予習として、子どもの発達について文献等で調べ、レジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時に配布された資料の内容について、学んだことをノート等にまとめること（1時間）	
5	支援が必要な子どもの生活に関する課題	予習として、支援が必要な子どもの生活に関する課題の中から、関心がある内容について文献等で調べ、レジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時に指摘された問題等について調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
6	支援が必要な子どもの学びに関する課題	予習として、支援が必要な子どもの学びに関する課題の中から、関心がある内容について文献等で調べ、レジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時に指摘された問題等について調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
7	文献・資料収集の方法	予習として、事前に指示した内容について文献等で調べ、ノート等にまとめること（1時間） 復習として、授業時に配布された資料の内容について、学んだことをノート等にまとめること（1時間）	
8	先行研究の調べ方	予習として、事前に指示した内容について文献等で調べ、ノート等にまとめること（1時間） 復習として、授業時に配布された資料の内容について、学んだことをノート等にまとめること（1時間）	
9	実地研修：特別支援学校又は福祉施設における医療的ケア	予習として、医療的ケアの内容を文献等で調べ、ノート等にまとめること（1時間） 復習として、実地研修で学んだことをレジュメにまとめること（1時間）	
10	アンケート調査の方法	予習として、事前に指示した内容について文献等で調べ、ノート等にまとめること（1時間） 復習として、授業時に配布された資料の内容について、学んだことをノート等にまとめること（1時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	特別支援教育における現代の課題	予習として、特別支援教育における現代の課題について文献等で調べ、レジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時に配布された資料の内容について、学んだことをノート等にまとめること（1時間）	
12	研究テーマの発表及び討議：特別支援教育に関する内容	予習として、事前に指示された項目で発表する内容をまとめること（1時間） 復習として、意見交換を行い疑問に思ったことや質問を受けて調べた内容を、ノート等にまとめること（1時間）	
13	研究テーマの発表及び討議：特別支援教育以外の内容	予習として、事前に指示された項目で発表する内容をまとめること（1時間） 復習として、意見交換を行い疑問に思ったことや質問を受けて調べた内容を、ノート等にまとめること（1時間）	
14	実地研修：特別支援学校におけるICT機器の活用	予習として、特別支援学校におけるICT機器の活用について文献等で調べ、ノート等にまとめること。（1時間）復習として、実地研修で学んだことをレジュメにまとめること（1時間）	
15	研究内容のまとめ及び演習Ⅳの研究内容の計画	予習として、研究テーマについて新たに考察したことをレジュメにまとめ、提出すること（1時間） 復習として、後期に向けた各自の課題について、ノート等にまとめること、夏季休業中における卒業研究の計画をまとめること（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK5
授業形態： 演習
科目名： 演習III【乳幼児保育研究ゼミ】
担当教員： 川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】
　演習Ⅲでは、就学前の子どもや子育て支援、保育分野に関する研究課題を設定するために、文献や先行研究から資料を収集します。また、今日の子育て課題や保育情勢を知ることで、さらに研究課題を追究していきます。各自調べたことをレジュメにまとめ、発表、討論をすることを通して、さらに理解を深め、演習Ⅳにつなげていきます。これらを通して、保育者として、教育・保育に必要な専門的知識と実践力を養っていきます。
　この授業では、Google Classroom（クラスコード： 37fdenq ）を活用し、課題提出や連絡事項を伝えます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・就学前の子どもや子育て支援、保育分野に関することで、関心のあるテーマに関連する文献や先行研究を見つけ、レジュメを作成できる。
・レジュメをもとに発表し、他学生の意見を尊重しながらも自分の考えを述べるなど、積極的に討論に参加することができる。
・今日の子育て課題や保育情勢について知り、理解を深めることができる。

【成績の評価】
　課題及びレジュメの内容（60%）、討議への参画（40%）を総合的に評価します。課題及びレジュメについては、毎回授業時に講評を行い、課題改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】
　なし

【参考文献】
・文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
・厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
・内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館
※その他、必要であれば適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例等を紹介しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業の概要）	【予習】自己紹介文を考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題をレポートにまとめて提出すること。（1時間）	
2	気になるテーマについて①（乳幼児に関するテーマ）	【予習】各自発表ができるように資料を整理し、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された意見や課題点をノート等にまとめておくこと。（1時間）	※学生の発表内容によりテーマに変更あり
3	気になるテーマについて②（保育に関するテーマ）	【予習】発表ができるように資料を整理し、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された意見や課題点をノート等にまとめておくこと。（1時間）	※学生の発表内容によりテーマに変更あり
4	研究とは	【予習】事前に指示した内容について調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】配布された資料を読み返し、授業での学びを自分なりにノート等にまとめておくこと。（1時間）	
5	文献・資料検索方法	【予習】事前に指示した内容について調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】配布された資料を読み返し、授業での学びを自分なりにノート等にまとめておくこと。（1時間）	
6	先行研究の読み方	【予習】事前に指示した内容について調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】配布された資料を読み返し、授業での学びを自分なりにノート等にまとめておくこと。（1時間）	
7	調査方法について	【予習】事前に指示した内容について調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】配布された資料を読み返し、授業での学びを自分なりにノート等にまとめておくこと。（1時間）	
8	文献・資料の整理方法	【予習】事前に指示した内容について調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】配布された資料を読み返し、授業での学びを自分なりにノート等にまとめておくこと。（1時間）	
9	文献・資料をもとにしたレジュメ作成	【予習】興味関心のある内容について文献や先行研究等から情報収集を行い、資料をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された意見や課題点をもとに、レジュメを作成すること。（1時間）	
10	レジュメ発表・討議①（乳幼児に関するテーマ）	【予習】発表ができるように資料をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された意見や課題点をノート等にまとめておくこと。（1時間）	※学生の発表内容によりテーマに変更あり
11	レジュメ発表・討議②（保育に関するテーマ）	【予習】発表ができるように資料をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された意見や課題点をノート等にまとめておくこと。（1時間）	※学生の発表内容によりテーマに変更あり
12	研究テーマの選定	【予習】事前に指示した内容について調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された意見や課題点をもとに、レジュメを作成すること。（1時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
13	研究テーマの発表・討議①（乳幼児に関すること）	【予習】発表ができるように資料をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された意見や課題点をノート等にまとめておくこと。（1時間）	※学生の発表内容によりテーマに変更あり
14	研究テーマの発表・討議②（保育に関すること）	【予習】発表ができるように資料をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された意見や課題点をノート等にまとめておくこと。（1時間）	※学生の発表内容によりテーマに変更あり
15	前期のまとめと後期に向けて	【予習】研究テーマについて振り返り、後期に向けた課題についてノートにまとめておくこと。（1時間） 【復習】研究テーマに関する資料収集をし、夏季休業中の課題遂行計画を、ノート等にまとめておくこと。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK5
授業形態： 演習
科目名： 演習III【教育相談ゼミ】
担当教員： 織田　幸美(ODA　Yukimi)

【授業の紹介】
　学童期、乳幼児期に子どもが直面する発達上の課題について理解を深め、課題解決に向けての実践力を高めるための基礎を養います。授業は文献や先行研究を見つけ、発表することでお互いに自分なりの考えをもって取り組めるように、討論を中心に進めます。また、カウンセリング技法や人間関係を深めるワークに対する理解を深めるとともに学生が主体となって取り組みます。
　この授業ではGoogle Classroom(クラスコード：7uw3n2p）を使用し、ICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・集団や個人の人間関係力を高めるワークについて理解し、実践できる。
・カウンセリング技法に習熟し，日常生活にも活用できるようになる。
・発表をもとに自分なりの考えを持ち、お互いに討論ができる。

【成績の評価】
受講態度・出席状況（２０％）レジュメの内容（５０％）討議への参画（２０％）などにより、総合的に評価します。
発表・討議の際および期末に全体の講評を行いフィードバックをします。

【使用テキスト】
適宜紹介します。

【参考文献】
適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のあるきょういんによる授業科目です。小学校で・中学校での教員やスクールカウンセラーとしての経験を活かし，具体的な事例を示しながら授業をおこないます。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 人間関係を深めるワークについて カウンセリング技法について 心理アセスメントの方法について	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(１時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。（１時間）	
2	人間関係を深めるワーク（構成的グループエンカウンター）	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
3	人間関係力を高めるワーク（ソーシャルスキルトレーニング）	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
4	カウンセリングの要素	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
5	カウンセリングの技法①（傾聴技法・・受容，繰り返し）	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
6	カウンセリングの技法②（傾聴技法・・感情の反射，明確化）	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
7	カウンセリングの技法③（積極技法・・自己開示，支持）	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
8	カウンセリングの技法④（積極技法・・解決志向セラピー）	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
9	心理アセスメント①　（TEG，CMI）	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
10	心理アセスメント②　（WISC,WAIS）	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
11	心理アセスメント③　（バウムテスト，HTPP）	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
12	心理アセスメント④　（YG性格検査，内田クレペリン）	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
13	文献研究の方法	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
14	研究テーマの設定	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
15	今期のまとめと意見交換	予習として人間関係を深めるワークやカウンセリング技法、心理アセスメントの方法などについて調べ、個々の課題に基づいてレジュメにまとめること(1時間) 復習として討論を通して出された課題に対して情報収集し、発表の準備をすること。(1時間)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK5
授業形態：　演習
科目名：　演習III【教科指導（科学）ゼミ】
担当教員：　糸目　真也(ITOME　Shinya)

【授業の紹介】
この授業科目は、将来、教員として必要な専門的な知識を身に付けるために、次のア～オの学習活動に取り組む。
ア　小学校での理科教育や環境教育、防災教育等に関する内容を、小学校学習指導要領解説理科編及び教科書をもとに把握する。
イ　アを踏まえて、理科教育や環境教育、防災教育等に関して、身近な自然やモノを素材とした教材開発と授業研究のための文献や資料、先行事例について調査する。
ウ　イを踏まえて、卒業研究のテーマを検討し、決定する。
エ　ウを踏まえて、卒業研究の進め方を具体的に考えた後に、卒業研究を進めていく。
オ　ア～エと並行して、今日の学校が抱えている課題についても、適宜、学ぶこととする。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・将来、教員として必要な素養と幅広い人間性、教科に関する専門的な知識と技能を身に付けることができる。
・実物を見る、実物に触れる、実際につくる、現場を知ることを大切にして、手と目と足と頭を使って教材を開発して教材化し、授業を実践する基礎力を身に付けることができる。
・情報活用能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、課題解決能力を身に付けることができる。
・理科教育や環境教育、防災教育等に関しての知見を深め、演習Ⅳへと継続・発展させることができる。

【成績の評価】
ゼミ活動への取組状況（レポートや提出物等も含む）５０％、ゼミ活動の成果３０％、期末までの向上度２０％を目安とする。レポートや提出物等は評価して返却する。発表・討議の際及び期末に全体の講評を行うことでフィードバックをします。

【使用テキスト】
授業で連絡します。以下を予定
文部科学省編「小学校学習指導要領解説　理科編」
小学校理科の教科書　等

【参考文献】
適宜、連絡します

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業です。担当教員は高等学校での理科の授業で培った経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
2	小学理科の学習内容の調査と理解	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
3	小学環境教育の学習内容の調査と理解	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
4	小学防災教育の学習内容の調査と理解	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
5	小学総合的な学習の時間の学習内容の調査と理解	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
6	小学理科、環境教育、防災教育、総合的な学習の時間のまとめ	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の実験・観察の内容等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
7	小学校低学年の理科の実験・観察の先行事例の調査	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の実験・観察の内容等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
8	小学校高学年の理科の実験・観察の先行事例の調査	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の授業実践例等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
9	小学校の環境教育実践の先行事例の調査	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の授業実践例等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
10	小学校の防災教育実践の先行事例の調査	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の授業実践例等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること	担当：糸目真也

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（１時間）	
11	小学校の総合的な学習の時間の先行事例の調査	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の文献や資料味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
12	小学校理科、環境教育、防災教育、総合的な学習の時間のいずれかの教材研究①：文献調査とテーマ決定	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の教材作成の枠組み等を考え、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
13	小学校理科、環境教育、防災教育、総合的な学習の時間のいずれかの教材研究②：教材の作成	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の発表資料を作成し、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
14	教材開発のゼミ内発表と討議	次回の授業内容を確認し、予習として作成した教材の修正箇所を確認し、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
15	教材開発の修正とまとめ	後期演習Ⅳの授業内容を確認し、予習として演習Ⅲの内容と接続できる内容を確認・調査し、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK5
授業形態：　演習
科目名：　演習III【造形教育ゼミ】
担当教員：　佐々木　啓祐(SASAKI　Keisuke)

【授業の紹介】
　本科目では、本学卒業後、赴任する保育所、幼稚園、こども園や、地域の造形教育（表現活動）の推進役として活躍することのできるよう、造形教育の意義やねらい等について、文献等から様々な考え方を学ぶとともに、幼児の造形活動を指導するにあたって必要となる知識や技能を実習を通して身に付けます。
　演習Ⅲでは、造形活動全般を通して、工作も含め、学生が主体となって「子どもたちが夢中になって取り組む造形教材」の研究開発を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・技法遊びの実習を通して、造形表現の基礎となる知識や技能を身に付けることができる。
・保育や教育の現場で掲示物など、よりよい環境づくりに必要とされる造形的な構成力や表現力を、イラスト制作を通して身に付けることができる。

【成績の評価】
　造形教育や造形活動に対する知識・技能よりも、レジュメの内容や模擬授業の準備の程度（60%）、質疑応答への参画の態度（40%）など、これらを身に付けるために真摯に取り組む意欲や態度を評価します。
　作成した作品やレジュメ等に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行います。
　20分以上の遅刻は欠席とします。また欠席３回で欠席１回とします。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
「保育所保育指針 解説」（平成30年2月 厚生労働省）
「幼稚園教育要領 解説」（平成30年2月 文部科学省）
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）
令和２年～５年使用 小学校図画工作科 教科用図書
「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　本授業を担当する教員は、小学校で８年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、香川県教育委員会の図画工作科担当指導主事として、長きに渡って現場の先生方に図画教育科の指導を行ってきました。
　また、香川県教育委員会から幼児の造形活動の指導員として委嘱され、４年間、県内の幼稚園や保育所等で、２歳児から５歳児までの子どもたちと造形活動を行ってきました。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、ゼミに期待することをもとめておく（１時間）	
2	発表及び討議：造形教育の実態（教育現場から）について 小学校以降、受けてきた図工の授業の思い出（楽しかったことや、つまらなかったことなど）	予習として、配布されている個人プロティールを記載しておく（１時間）	
3	発表及び討議：造形教育の意義やねらい、戦後の教育の展開（論争点）について 保育所・幼稚園、小学校で造形活動や図工の授業は必要か? 保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領から	予習として、配布されている造形教育に関するワークシートを完成させておく	
4	作品制作：「幼児に体験させたい造形遊び」教師が園児たちに実践してきた造形遊びを10題材程度、写真記録等により紹介する。 第5回から15回までの11回は、造形教育ゼミに所属する学生が各自で「幼児に体験させたい造形遊び」をゼミ内で紹介しあい、その中から優れたものを皆でいくつかを選んで制作活動を行う。	予習として、「子どもたちが夢中になって取り組む造形活動」の教材の条件、及び「幼児に体験させたい造形遊び」を考えておく。（１時間以上）	
5	「幼児に体験させたい造形遊び」をゼミ内で紹介しあう。一人10分、２・３題材程度の発表	予習として「幼児に体験させたい造形遊び」のプリント資料を用意しておく。（１時間以上）	
6	発表し合う活動②、皆で制作活動を行う教材の決定	分担された造形教材の用具や材料をリストアップし、授業時間外で購入したり、注文したりする。（１時間以上）	
7	皆で行う制作活動①	分担された学生は、授業時間外で制作し持参する。（１時間以上）	
8	皆で行う制作活動②	分担された学生は、授業時間外で制作し持参する。（１時間以上）	
9	皆で行う制作活動③	分担された学生は、授業時間外で制作し持参する。（１時間以上）	
10	皆で行う制作活動④	分担された学生は、授業時間外で制作し持参する。（１時間以上）	
11	皆で行う制作活動⑤	分担された学生は、授業時間外で制作し持参する。（１時間以上）	
12	皆で行う制作活動⑥	分担された学生は、授業時間外で制作し持参する。（１時間以上）	
13	皆で行う制作活動⑦	分担された学生は、授業時間外で制作し持参する。（１時間以上）	
14	皆で行う制作活動⑧	分担された学生は、授業時間外で制作し持参する。（１時間以上）	
15	発表及び討議：研究内容の整理とまとめ、後期の研究の方向性の検討	写真記録や成果と課題を整理し、まとめておく。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK6
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅳ【幼児教育ゼミ】
担当教員： 山田　純子(YAMADA　Junko)

【授業の紹介】
　演習Ⅳは、学生がそれぞれの興味・関心等により設定したテーマに関わる絵本、紙芝居等の紹介や保育・教育についての研究協議を行います。さらにそれらを深化し、発展させるとともに、ゼミ活動の一環として、絵本の読み聞かせや手遊びなどによる子育て支援ボランティア活動「おはなし会」公演等を行います。そして、これらを通して保育に必要な専門知識と実践力を養っていきます。
　また、これらの諸活動を通じて獲得した課題意識に基づき、卒業論文の構想に結び付けていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
(1)絵本、紙芝居等を活用して、子どもと本との関わりについて研究し、理解を深めることができる。
(2)表現力、コミュニケーション能力を高め、将来、保育所や幼稚園等における人間教育、情操教育を担当することのできる資質や能力、態度等を身に付けることができる。

【成績の評価】
　受講態度・状況（20%）、学習シート・課題のまとめ（60%）、「おはなし会」ボランティア活動状況等（20%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
　学生自身が用意した、市販の絵本、紙芝居や、パネルシアターなどを随時教材として使用します。

【参考文献】
　随時紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、子どもたちの具体的な姿や保育活動の事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	演習の全体計画	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	
2	学生各自のテーマ設定に関する確認と検討協議	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。（1時間） 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	
3	参考資料、文献の整理	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	
4	参考資料、文献の発表	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	
5	参考資料、文献の研究討議(①グループ)	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	
6	参考資料、文献の研究討議(②グループ)	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	
7	研究構想案の検討（研究の目的）	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
8	研究構想案の検討(研究の内容)	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	
9	研究構想案の発表（①グループ）	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	
10	研究構想案の発表（②グループ）	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	
11	学生各自の研究発表、研究討議	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	
12	学習成果の検討と分析	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	
13	学習成果の発表とまとめ	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	
14	卒業論文構想発表会	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
15	卒業論文構想発表会の考察と課題（まとめ）	各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておくこと。(1時間) 子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておくこと。(1時間)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK6
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅳ【保育ゼミ】
担当教員： 松原　勝敏(MATSUBARA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
　教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、前期に引き続いて、各回でのゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・卒業論文のテーマ決定に向けて、教育や保育に関わる現代的な問題についてレジュメを作成し、問題の本質を追究する力量を獲得できる。

【成績の評価】
　レジュメの内容(50%)や質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。
　毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】
　基礎演習テキスト『しるべ』（Ｉ年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】
　授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	発表及び討議：個々の夏休み中の研究成果の発表	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
2	発表及び討議：個々の夏休み中の研究成果の発表	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
3	発表及び討議：後期の研究課題の発表	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
4	発表及び討議：研究目的の検討	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
5	発表及び討議：研究の方向性と結論の予測	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
6	発表及び討議：論証の方法の検討	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
7	発表及び討議：論証に用いる資料の検討	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
8	発表及び討議：研究内容の発表	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
9	発表及び討議：研究内容の修正	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
10	発表及び討議：卒業論文構想発表会のレジュメの試作	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
11	発表及び討議：卒業論文構想発表会のレジュメの修正	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
12	発表及び討議：卒業論文構想発表会のレジュメの完成	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
13	発表及び討議：発表用プレゼンテーション資料の作成	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
14	発表及び討議：卒業論文構想発表会での発表	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
15	発表及び討議：後期の研究のまとめ、卒論に向けての課題の検討	予習：発表用のレジュメを作成し、内容を整理する。(40分) 復習：授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。(20分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK6
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅳ【保育実践ゼミ】
担当教員： 野町　真知子(NOMACHI　Machiko)

【授業の紹介】
　演習Ⅳでは、演習Ⅲにおいて学習した内容を踏まえ、卒業論文のテーマ・研究内容を決定します。そして、テーマ・ないようについてまとめ、発表、討議を重ねます。他者の研究状況も発表を通して理解しながら協力・協働する力も培うことを目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．文献、資料などを通して、自らの興味ある情報を得ることができる。
２．研究について計画、実践、振り返りをすることができる。
３．自らの研究テーマについて発表をし、他学生の研究テーマについても自分の意見を伝えることができる。
４．卒業論文の構想をレジュメにできる
５．卒業論文の構想、内容について発表できる。

【成績の評価】
レジュメの作成・発表準備・発表（70%）、意見交換への参加（30%）、により評価します。
レジュメなどは添削して、次の授業時に返却します。
研究状況、学習成果のまとめについては、発表時に解説、講評します。

【使用テキスト】
厚生労働省「保育所保育指針解説」

【参考文献】
研究テーマに沿って適宜使用します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のある教員による授業科目です。保育所、こども園で保育士、主任保育士をしてきた中での経験をもとに保育の実践に必要な知識、技術について授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	夏季課題を行い、発表に向けて準備を行う。(1時間)	
2	夏季課題の発表	他の学生の夏季課題の発表を聞いた内容をまとめ、意見交換できる資料の準備を行う。(1時間)	
3	夏季課題の検討	他の学生の意見をもとに、夏季課題で調べた内容について、再検討すべき課題を見つけまとめる。(1時間)	
4	思考マップの再検討	前期の学習や夏季課題の学習をもとに、前期に作成した思考マップに新たなキーワードや用語を書き足す。(1時間)	
5	研究計画	思考マップをもとに、興味のあるテーマについてどのような研究を進めるのか検討し、発表するためにまとめる。(1時間)	
6	研究計画の発表	他の学生の研究計画の発表を聞いた内容をまとめ、意見交換できる資料の準備を行う。(1時間)	
7	研究計画の検討	他の学生の意見をもとに、研究計画の内容について、再検討すべき課題を見つけまとめる。(1時間)	
8	卒業論文構想発表会に向けて	決定した研究テーマをもとに卒業論文構想発表会のレジュメを作成するための文献研究などを行いまとめる。(1時間)	
9	卒業論文構想発表会レジュメ作成	決定した研究テーマをもとに卒業論文構想発表会のレジュメを作成するための文献研究などを行いまとめる。(1時間)	
10	卒業論文構想発表会レジュメ修正　文章構成の確認	決定した研究テーマをもとに卒業論文構想発表会のレジュメを作成するための文献研究などを行いまとめる。(1時間)	
11	卒業論文構想発表会レジュメ完成　研究目的、結果の予測の確認	決定した研究テーマをもとに卒業論文構想発表会のレジュメを作成する。(1時間)	
12	卒業論文構想発表会準備　読み原稿の作成	卒業論文構想発表会のレジュメをもとに発表練習ができる準備や資料の作成を行う。(1時間)	
13	卒業論文構想発表会練習、意見交換	卒業論文構想発表会のレジュメをもとに発表練習ができる準備や資料の作成を行う。発表練習を行う。(1時間)	
14	卒業論文構想発表会リハーサル　発表練習、質疑応答	卒業論文構想発表会の発表練習を行ったことを振りかえり、改善点などを検討し、まとめる。(1時間)	
15	1年間の振り返りと今後の課題について　文献研究の振り返りと今後の研究んの進め方について	卒業論文構想をもとに、卒業論文の作成に向けて情報収集や文献研究などを行う。(1時間)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK6
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅳ【特別支援教育支援システムゼミ】
担当教員： 山口　明乙香(YAMAGUCHI　Asuka)

【授業の紹介】
　演習Ⅲの内容を引き継ぎ、卒業論文の構成と内容を具体的に絞り込み、卒業論文を作成するための研究の方法と計画を立てます。第1回目から第５回目の授業では、各自の研究テーマに沿って、実地研究、調査研究、文献研究等の進め方と準備について学習します。また卒業論文の主となるデータの収集を複数のリソースから行います。またこれらを分析しまとめ、わかりやすく伝える工夫の仕方を学びます。この演習Ⅳを通じて、子どもの育ちに関連する課題に強い関心をもって情報収集を行うことで、幅広い教養を身に付け、新たな課題に対して、主体的かつ自律的に学ぶ姿勢を育みます。また中間発表など意見交換を行うことで、他者との協働作業やコミュニケーション能力を高めます。
　本授業では、ICTを活用して、フィールドワーク、グループワークの結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。ICT端末を携帯して授業へ参加してください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
　自らの課題設定に対して，情報収集し，文章としてまとめ，わかりやすく発表するプレゼンテーションの仕方など，卒業論文作成に求められる知識と技能を向上を目指す。
１．研究方法の種類とのその特徴について説明するこができる
２．研究計画を立案することができる
３．研究計画を基に，資料収集及びデータ収集を実施できる
４．研究遂行の結果を文章にまとめることができる

【成績の評価】
　受講態度（30%），提出物（40%），発表（30%）等を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】
適宜紹介します。

【参考文献】
適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜半期スケジュール＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	授業時間外にも，適宜，集めた情報や資料を整理することが必要です（1時間）。また，本講義では，各回で各自の進捗状況の報告を行います。ゼミ内の中間発表会を行いますので，レジュメ作成等の準備が必要です。
2	研究の方法と計画（研究法の確認）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜研究法の案＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
3	研究の方法と計画（研究計画の作成）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜計画案＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
4	研究開始の準備（調査及び実践：文献研究，調査研究）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜文献リスト＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
5	研究開始の準備（調査及び実践：実地研究，事例研究）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜文献リスト＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
6	中間発表の準備（レジュメ作成）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜レジュメ下書き＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間）。	
7	中間発表	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜レジュメ＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
8	研究（文献収集及びデータ収集：資料収集）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜資料リストを作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
9	研究（文献収集及びデータ収集：資料整理）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜資料リスト＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
10	研究（文献収集及びデータ収集：仮説の設定）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜RQと仮説＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
11	研究（文献収集及びデータ収集：結果のまとめ）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜結果のシート＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
12	発表の準備（様式作成）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜レジュメ作成＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
13	発表の準備（レジュメ作成）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜レジュメシート＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
14	発表の準備（発表練習）	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜発表原稿＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	
15	卒業論文構想発表会準備と発表	予習として、シラバスを確認し、配布資料及び動画を事前に確認しておくこと(0.5時間)。復習としてGoogleクラスルームへ配布された授業資料を再度読み直し、指定した課題＜発表原稿＞を作成し、クラスルームの課題提出機能を使用して提出してください(0.5時間)。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK6
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅳ【授業研究ゼミ】
担当教員： 秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya)

【授業の紹介】
　本授業は、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での教科・生徒指導の経験を生かし、豊富で具体的な実践事例を示しながら授業を行います。
　「演習Ⅲ」で行った著名な戦後教育の実践家の検討をもとに、個別に設定した研究テーマについての発表・検討を踏まえ、それをさらに深化・拡充します。
　また、4年次に受験する教員採用試験の願書等の書き方、試験問題の傾向と分析を行います。

＊リモートでの授業に備えClassroomへの参加、準備をお願いします。
　クラス：2024演習Ⅲ・Ⅳ（授業研究ゼミ３年）　クラスコード　：pdr7vjc

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・教育に関わる論点についての情報を収集・整理・分析する力、レジュメを作成する力、論点についての本質を見極める力の獲得を目指す。
・「演習Ⅲ・Ⅳ」の研究成果をもとに、卒業論文のテーマを決定することができる。
・研究の目的、論文構成、結論の予測を明確にした「卒業論文構想」をＡ４用紙１枚にまとめることができる。
・「卒業論文構想発表会」において研究の概要を発表し、質疑に対して的確に応答できる。
・自身の教育観、児童観を明確にし、その内容をエントリーシートに表すことができる。また、学生や教員を面接官役に見立てた場で効果的にアピールできる。

【成績の評価】
①　論証可能な適切な研究題目を設定できたか（25%）
②　研究題目に関わる予備調査（資料収集）が十分であるか（25%）
③　①②を踏まえ、「卒業論文構想発表会」で検討される発表レジュメを作成できたか（50%）
①②③を基本として、出席状況、教員採用試験への取り組み意欲などを合わせて総合的に評価します。
評価したことは、次年の「卒業論文」作成の指導に反映します。
また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】
・木下 是雄 『理科系の作文技術』中公新書 （前期に購入済み）
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】
・『香川県教員試験「過去問」シリーズ　香川県の論作文・面接　2022年度版』　協同教育研究会編など受験する教員採用試験の地域の過去問題集等。
・野口芳宏『教員採用試験αシリーズ2022年度版「模擬授業・場面指導」』一ツ橋書店
・常磐会学園大学教職教育研究会編『論作文と面接・模擬授業　教員採用試験のために』大阪教育図書
・現代教職研究会編者『教員採用試験αシリーズ2022年度版「30秒アピール面接」』一ツ橋書店
　その他、適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の現場での学級担任としての学習指導、研究授業などの校内研修を担当する現職教育主任としての経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
2	発表と討議　研究のねらいの明確化①（「主張」の文章化）	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
3	発表と討議　研究のねらいの明確化②（「主張」の修正）	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
4	発表と討議　仮の「研究主題」の設定①（「主張」を一文で示す）	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
5	発表と討議　仮の「研究主題」の設定②（「主張」と「タイトル」の関連）	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
6	発表と討議　予想される「結論」の設定①（学生半数）	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
7	発表と討議　予想される「結論」の設定②（学生残り半数）	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
8	発表と討議　「主題」を論証する手だて（KJ法）①（学生１／３名ずつ）	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
9	発表と討議　「主題」を論証する手だて（KJ法）②（学生１／３名ずつ）	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
10	発表と討議　「主題」を論証する手だて（KJ法）③（学生１／３名ずつ）	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
11	発表と討議　「論文構成」①（学生半数）	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
12	発表と討議　「論文構成」②（学生残り半数）	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
13	研究のまとめ　「卒業論文構想会」のレジュメ作り①（学生半数）	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
14	研究のまとめ　「卒業論文構想会」のレジュメ作り②（学生残り半数）	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
15	卒業論文構想発表	・研究テーマが個別になるので、テーマの選定･設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。 ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。 　毎日、最低でも30分以上の時間を上記２点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK6
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅳ【健康スポーツゼミ】
担当教員： 田中　美季(TANAKA　Miki)

【授業の紹介】
　演習Ⅳ（健康スポーツゼミナール）では，演習Ⅲの内容を引き継ぎ，卒業論文のテーマの領域を絞り込んでいきます。文献を読み，レジュメを作成していく中で，卒業論文という長文を完成させるための文章表現のマナーを修得していきます。

＜Google Classroom クラスコード＞ rna5wdb

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．先行文献を読み，その内容を正確に把握し理解できる。
２．文献の内容を要約することで，表現したい筋書きや内容を明確にすることができる。
３．レジュメを作成する際に，その都度，文章表現のマナーを修得することができる。
４．授業におけるさまざまな活動の中で，共に助け合い，豊かな心と創造力を身に付けることができる。

【成績の評価】
授業中に作成するレジュメおよびレポート：80%
授業態度（討議の態度，プレゼンテーション）：20%
※ 全体の60%以上の得点で合格とします。
※ レジュメおよび小レポートの評価については，オフィスアワーにてフィードバックします。
※ 原則として，対面授業で行います。また，単位認定には，授業の2/3以上の出席が必要です。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
その都度，提示する

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
2	興味のある領域の文献を読もう①（図書館にて）	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
3	興味のある領域の文献を読もう②（Web上にて）	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
4	興味のある領域の文献を読もう③（収集した文献のまとめ）	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
5	レジュメを作成しよう①（レジュメとは何か）	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
6	レジュメを作成しよう②（読み易さのための工夫）	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
7	レジュメを作成しよう③（レジュメの構成を考える）	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
8	レジュメを作成しよう④（主張部分の明示）	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
9	レジュメを作成しよう⑤（論理構造の明示）	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
10	文章表現のマナー①（引用文献の書き方）	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めて	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		おいてください（30分）。	
11	文章表現のマナー②（タイプ別レジュメの書き方）	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
12	文章表現のマナー③（レジュメの書き方のまとめ）	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
13	卒業論文のテーマの領域についてのレジュメの構成を考える	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
14	卒業論文のテーマの領域についてのレジュメを書いてみる	各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，レジュメのに沿って発表できるように発表原稿を作成してくてさい（30分）。	
15	作成したレジュメを発表する	発表について振り返り，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その振り返りをもとに，卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK6
授業形態：　演習
科目名：　演習Ⅳ【教育心理ゼミ】
担当教員：　横川　和章(YOKOGAWA　Kazuaki)

【授業の紹介】
　この授業では、心理学関係の講義やこれまでの演習で得られた知識をもとに、子どもの教育・保育に関わる教育心理学的理解をさらに深めていきます。まず、興味のある内容に関連した論文の講読、レジュメの作成、発表、討論などを行い、独自性豊かな研究テーマを開拓します。次に、研究の方法について詳細に議論し、自らの卒業論文のための研究計画を立ててもらいます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．卒業論文のための基礎として、文献の熟読、まとめ、発表、ディベートを通し、様々な論文や文献を基盤にし、発展的な研究を考えられる態度を確立し、実際の研究プロセスを体験することで，研究の楽しさや難しさが理解できる。
２．卒業論文のテーマを絞り込み、それに向けて関連文献をまとめることができる。

【成績の評価】
・授業への参加状況（態度、意欲など）（20%）、発表（40%）、討論内容（20%）、研究内容（20%）を総合的に評価します。
・発表や資料に関する教員からの講評を通してフィードバックを行います。

【使用テキスト】
その都度指示します。

【参考文献】
宮本聡介・宇井美代子（2014）『質問紙調査と心理測定尺度―計画から実施・解析まで』（サイエンス社）
南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（2001）『心理学研究法入門』（東京大学出版会）
大野木裕明・中澤潤（2002）『心理学マニュアル　研究法レッスン』（北大路書房）
小宮あすか・布井雅人（2018）『Excelで今すぐはじめる心理統計』（講談社）
サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実（2019）『質的研究法マッピング』（新曜社）

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
2	研究テーマに関する意見交換	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
3	各人の論文の発表と討論	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
4	各人の論文の発表と討論（第３回で発表した論文に関連する論文）	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
5	各人の論文の発表と討論（第４回で発表した論文に関連する論文）	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
6	各人の論文の発表と討論（第５回で発表した論文に関連する論文）	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
7	卒業論文の関連領域とテーマに関する討論	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
8	卒業論文のテーマと方法に関する討論	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
9	卒業論文のテーマとなる文献の調査と報告（第８回を踏まえた報告）	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
10	卒業論文のテーマとなる文献の調査と報告（第９回の資料を改善したものを報告）	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
11	卒業論文構想発表会の資料作成（草案の作成）	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
12	卒業論文構想発表会の資料作成（草案の修正を作成）	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
13	卒業論文構想発表会の発表練習（各自資料をもとに準備）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
14	卒業論文構想発表会の発表練習（前回の意見をもとに修正）	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
15	卒業論文構想発表会	予習として、必要な文献・必要な情報を事前に収集しておくこと（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK6
授業形態：　演習
科目名：　演習Ⅳ【学校教育ゼミ】
担当教員：　藤本　駿(FUJIMOTO　Syun)

【授業の紹介】
　演習Ⅲを発展させることとし、各自の研究課題を明確にする。まず関連する論文を取り上げてレジュメを作成し、検討を行う。それによって、卒業研究としての見通しがつくように研究をさらに進める。最終的に卒業論文構想を作成し、報告会で報告する。また、一般教養を身につけ、そして就職試験等に向けての対策も講じる。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・各自の関心に基づく教育・保育に関する研究課題を設定することができる。
・自ら設定した研究課題に関する文献・資料を収集し、調査し、分析することができる。
・各自で分析したことを整理し、ゼミ内で発表し、意見交換することができる。
・日常的に教育問題に関心を持ち、社会人としての素養を身に付けることができる。

【成績の評価】
　授業態度や授業への積極的参加状況（30%）、各自の研究課題の進捗状況（50%）、新聞記事の紹介（20%）などにより総合的に評価する。
　発表後は、教員から講評を受けることでフィードバックを行う。また、最終回では、全体の講評を行う。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版』実教出版、2015年。など

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、研究の進め方	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
2	研究課題の再検討	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
3	調査方法の再検討	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
4	文献・資料の収集	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
5	文献・資料の整理	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
6	文献・資料の分析	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
7	文献・資料の要約	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
8	発表レジュメの作成	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
9	発表レジュメの修正	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
10	卒論構想発表会の準備	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
11	卒論構想発表会のレジュメ作成	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
12	卒論構想発表会のレジュメの修正	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
13	ゼミ内での発表と意見交換	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
14	卒論構想発表会の練習	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習とし	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		て、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
15	全体のまとめ、今期の振り返り	予習として、各自の研究テーマに基づく先行研究を要約すること（1時間）、復習として、授業中に指摘を受けたこと、疑問に思ったことをノート等にまとめること（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK6
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅳ【特別支援教育ゼミ】
担当教員： 堺　るり子(SAKAI　Ruriko)

【授業の紹介】
　演習Ⅳでは、演習Ⅲの内容を踏まえて卒業研究の内容を決定するとともに、論証に必要な資料等を収集するなど、卒業論文を作成する準備を進めます。計画的に研究内容に関するレジュメを作成し、討議を通して研究内容に関する理解を深め、新たな検討課題も設定します。自分はなぜこの問題に取り組むのか、という動機を明確にして、先行研究を検証し、仮説を考えましょう。
　この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：zmrzr4x）を使用し、課題の提示や資料配付等を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．研究内容に関する文献や先行研究等の資料、情報を検索・収集することができる。
２．グループ討議や体験活動の発表で、疑問や気付き、考え等を積極的に述べることができる。
３．卒業論文構想発表会のレジュメを作成する過程で、理論と実践を関連付けて理解することができる。
４．研究の目的を明確に説明し、問題を追及することができる。

【成績の評価】
・レジュメの内容（60%）、発表・討議（40%）を踏まえて総合的に評価します。
・レジュメについては授業時に講評し、改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】
高松大学発達科学部オリジナルテキスト

【参考文献】
桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版』（実教出版、2015年）
藤田直也編『学生のプレゼンテーション・トレーニング』（実教出版、2015年）
中邑賢龍著『学校の中のハイブリッドキッズたち』（こころリソースブック出版会、2015年）
愛媛大学教育学部附属特別支援学校著『将来の働く生活を実現する教育』（明治図書、2011年）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。特別支援教育に取り組んできた経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 授業の概要	予習として、夏季休業中の課題について、レジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時に疑問に思ったこと等についてノート等にまとめること（1時間）	
2	研究課題の発表：特別支援教育に関する内容	予習として、関連する文献や先行研究を収集し、発表する内容をレジュメにまとめること（1時間） 復習として、討議で指摘された問題や疑問に思ったことについて調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
3	研究課題の発表：特別支援教育以外の内容	予習として、関連する文献や先行研究を収集し、発表する内容をレジュメにまとめること（1時間） 復習として、討議で指摘された問題や疑問に思ったことについて調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
4	研究テーマに関する意見交換	予習として、研究課題のレジュメを読み、質問等の内容をノート等にまとめること（1時間） 復習として、意見交換を行い疑問に思ったことや質問を受けて調べた内容を、ノート等にまとめること（1時間）	
5	研究方法の検討	予習として、研究テーマに関連する文献や先行研究を収集し、整理した内容をレジュメにまとめること（1時間） 復習として、討議で指摘された問題や疑問に思ったことについて調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
6	関連資料の収集及び要約：グループA	予習として、研究テーマに関連する文献や先行研究を収集し、内容を要約してレジュメにまとめること（1時間） 復習として、討議で指摘された問題や疑問に思ったことについて調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
7	関連資料の収集及び要約：グループB	予習として、研究テーマ関連する文献や先行研究を収集し、内容を要約してレジュメにまとめること（1時間） 復習として、討議で指摘された問題や疑問に思ったことについて調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
8	研究内容の発表及び討議：グループA	予習として、研究テーマに関連する文献や先行研究を収集し、発表する内容をレジュメにまとめること（1時間） 復習として、討議で指摘された問題や疑問に思ったことについて調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
9	研究内容の発表及び討議：グループB	予習として、研究テーマに関連する文献や先行研究を収集し、発表する内容をレジュメにまとめること（1時間） 復習として、討議で指摘された問題や疑問に思ったことについて調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
10	卒業論文構想発表のレジュメ作成	予習として、研究テーマに関連する先行研究や収集した情報をもとに、題目が研究したい内容を表しているか検討し、レジュメを作成すること（1時間） 復習として、討議で指摘された問題や疑問に思ったことについて調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	卒業論文構想発表のレジュメ修正	予習として、研究テーマに関連する先行研究や収集した情報をもとに、研究の目的が明確なレジュメを作成すること（1時間） 復習として、討議で指摘された問題や疑問に思ったことについて調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
12	卒業論文構想発表のレジュメ完成	予習として、研究テーマに関連する先行研究や収集した情報をもとに結論の予測を考察し、レジュメを作成すること（1時間）、 復習として、討議で指摘された問題や疑問に思ったことについて調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
13	卒業論文構想発表の内容に関する意見交換	予習として、ゼミ生全員の卒論構想発表のレジュメを読み、自分の意見をノート等にまとめること（1時間） 復習として、討議で指摘された問題や疑問に思ったことについて調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
14	卒業論文構想発表会の練習	予習として、質問に適切に答えることができるように、自分の考えや調査したことをノート等にまとめること（1時間） 復習として、発表会で助言を得た内容や質問を受けた内容について、ノート等にまとめること（1時間）	
15	演習Ⅳの振り返り、次年度に向けた課題	予習として、演習Ⅳの学びの成果をレジュメにまとめ、提出すること（1時間） 復習として、卒業論文構想発表会における学びや課題等について、ノート等にまとめること、春季休業中の卒業研究の課題について、ノート等にまとめること（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK6
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅳ【乳幼児保育研究ゼミ】
担当教員： 川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】
　演習Ⅳでは、演習Ⅲにおいて文献、先行研究をもとに学習したことをふまえ、卒業論文のテーマや研究内容を決定していきます。そして、そのテーマや研究内容についてレジュメにまとめ、発表・討議を重ねます。また、演習Ⅲに引き続き、今日の子育て課題や保育情勢について知り、理解を深めていきます。これらを通して、保育者として、教育・保育に必要な専門的知識と実践力を養っていきます。
　この授業では、Google Classroom（クラスコード： 37fdenq ）を活用し、課題提出や連絡事項を伝えます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・卒業論文のテーマに向けて文献や先行研究を検索し、それらの資料の分析を行い、各自レジュメを作成して発表できる。
・他学生の意見を尊重しながらも自分の考えを述べるなど、積極的に討論に参加することができる。
・卒業論文構想を作成できる。
・卒業論文構想について、発表し、説明できる。
・今日の子育て課題や保育情勢について知り、理解を深めることができる。

【成績の評価】
　課題及びレジュメの内容（60%)、討議への参画（40%）を総合的に評価します。課題及びレジュメについては、毎回授業時に講評を行い、課題改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】
　なし

【参考文献】
・文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
・厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
・内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館
※その他、必要であれば適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例等を紹介しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業の概要について）	【予習】夏季休暇中の課題について、レポートにまとめること。（1時間） 【復習】授業の最後に課す課題についてワークシート等にまとめること。（1時間）	
2	夏季休業中の課題の発表（研究テーマについて）	【予習】研究テーマについて発表ができるように資料を整理し、ノート等にまとめておくこと。 【復習】授業で抽出された課題点をノート等にまとめておくこと。（1時間））	
3	発表・討議①：研究目的と結論の予測（乳幼児に関するテーマ）	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集を行い、レジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をノート等にまとめておくこと。（1時間）	※学生の発表内容によりテーマに変更あり
4	発表・討議②：研究目的と結論の予測（保育に関するテーマ）	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集を行い、レジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をノート等にまとめておくこと。（1時間）	※学生の発表内容によりテーマに変更あり
5	研究方法の検討	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集を行い、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をノート等にまとめておくこと。（1時間）	
6	研究内容の発表①（乳幼児に関するテーマ）	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集を行い、レジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をノート等にまとめておくこと。（1時間）	※学生の発表内容によりテーマに変更あり
7	研究内容の発表②（保育に関するテーマ）	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集を行い、レジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をノート等にまとめておくこと。（1時間）	※学生の発表内容によりテーマに変更あり
8	卒業論文構想発表会にむけて	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集を行い、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をノート等にまとめておくこと。（1時間）	
9	卒業論文構想発表会レジュメ作成	【予習】各自の研究テーマに関連した情報収集や分析をもとに、研究目的について検討し、レジュメを作成すること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容を再検討し、レジュメを作成すること。（1時間）	
10	卒業論文構想発表会レジュメ修正	【予習】各自の研究テーマに関連した情報収集や分析をもとに、研究結果の予測について検討し、レジュメを作成すること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容を再検討し、レジュメを作成すること。（1時間）	
11	卒業論文構想発表会レジュメ完成	【予習】各自の研究テーマに関連した情報収集や分析をもとに、論文構成ついて検討し、レジュメを作成すること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容を再検討し、レジュメを完成させること。（1時間	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
12	卒業論文構想発表会発表準備	【予習】構想発表会のレジュメをもとに、読み原稿を作成しておくこと。（1時間） 【復習】先行研究から情報収集するなどして、質疑応答対策をノート等にまとめておくこと。（1時間）	
13	卒業論文構想発表会発表練習	【予習】構想発表会のレジュメをもとに、読み原稿を修正し、作成しておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、質疑応答対策をノート等にまとめておくこと。（1時間）	
14	卒業論文構想発表会	【予習】卒業論文構想発表会のレジュメを読み返し、発表に必要な資料を整理してノートにまとめておくこと。（1時間） 【復習】発表会で指導して頂いた内容についてノート等にまとめておくこと。（1時間）	
15	後期の振り返り、次年度に向けて	【予習】卒業論文構想発表会での気付きや課題をノートにまとめておくこと。（1時間） 【復習】論文執筆に向けた春季休業中の課題について、ノート等にまとめておくこと。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK6
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅳ【教育相談ゼミ】
担当教員： 織田　幸美(ODA　Yukimi)

【授業の紹介】
　演習Ⅲで学んだことをもとに，カウンセリングやアセスメントの考え方を基盤として，学童期、乳幼児期に子どもが直面する発達上の課題について理解を深めるとともに、課題を解決するための教育実践についての研究を深めます。文献研究の方法に習熟し，卒業論文のテーマの領域を絞り込みます。構想発表に向けて各自検討を重ね、ゼミ内での発表と討論を繰り返し、準備を整えます。
　この授業では演習Ⅲに引き続きGoogle Classroom(クラスコード：7uw3n2p）を使用し、ICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・　子どもの発達上の心理的課題を解決するための様々な実践や研究について先行研究から理解する。
・　卒業論文作成に向けて関心のあるテーマについて研究を深め、レジュメを作成して発表することができる。

【成績の評価】
受講態度・出席状況（２０％）レジュメの内容（５０％）討議への参画（２０％）などにより、総合的に評価します。
発表・討議の際及び期末に全体の講評を行いフィードバックをします。

【使用テキスト】
適宜紹介します。

【参考文献】
適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のあるきょういんによる授業科目です。小学校で・中学校での教員やスクールカウンセラーとしての経験を活かし，具体的な事例を示しながら授業をおこないます。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
2	後期の研究課題の発表	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
3	卒業論文のテーマに関わる意見交換①	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
4	卒業論文のテーマに関わる意見交換②(前回の続き)	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
5	参考資料、文献調査①(グループ１)	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
6	参考資料、文献調査①(グループ２)	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
7	参考資料、文献調査①(グループ３)	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
8	テーマ別の研究、発表、討議①(グループ１)	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
9	テーマ別の研究、発表、討議②(グループ２)	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
10	テーマ別の研究、発表、討議③(グループ３)	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		載しておくこと。(1時間)	
11	卒業論文構想発表会に向けてのレジュメ作成①	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
12	卒業論文構想発表会に向けてのレジュメ作成②	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
13	卒業論文構想発表会に向けてのレジュメ作成③	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
14	卒業論文構想発表会に向けての発表練習	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
15	今期のまとめと意見交換	予習として個々の課題に基づき、関連する文献や先行研究を収集、整理してレジュメにまとめること。(2時間) 復習として討議で出された課題を自分なりにまとめて再構成し、自分の意見をノートに記載しておくこと。(1時間)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK6
授業形態： 演習
科目名： 演習Ⅳ【教科指導（科学）ゼミ】
担当教員： 糸目　真也(ITOME　Shinya)

【授業の紹介】
　この授業科目は、小学校での理科教育や環境教育、防災教育等に関する学習内容をもとに、身近な自然やモノを素材とした教材開発と授業研究に関することをテーマとして、演習Ⅲを踏まえて卒業研究の内容の検討を進めていく。そして、卒業論文の作成準備に取りかかり、卒業論文構想発表会でその成果を発表する。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・将来、教員として必要な素養と幅広い人間性、教科に関する専門的な知識と技能を身に付けることができる。
・実物を見る、実物に触れる、実際につくる、現場を知ることを大切にして、手と目と足と頭を使って教材を開発して教材化し、授業を実践する基礎力を身に付けることができる。
・卒業研究の取組を通して、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、課題解決能力を伸長させることができる。
・卒業研究で深めた理科教育や環境教育、防災教育等に関する知見を、卒業後も活用することができる。

【成績の評価】
卒業研究への取組状況（発表レポートや提出物等も含む）５０％、卒業論文の成果３０％、発表会の成果２０％を目安とする。発表レポートや提出物等は評価して返却する。討議、中間報告、発表会の節目の時に講評を行うことでフィードバックをします。

【使用テキスト】
授業で連絡します。以下を予定
文部科学省編「小学校学習指導要領解説　理科編」
小学校理科の教科書　等

【参考文献】
適宜、連絡します

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業です。担当教員は高等学校での理科の授業で培った経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
2	卒業研究検討①：小学校理科３年生「地球」分野の実験・観察の調査と研究	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
3	卒業研究の検討②：小学校理科４年生「地球」分野の実験・観察の調査と研究	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
4	卒業研究の検討③：小学校理科５年生「地球」分野の実験・観察の調査と研究	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
5	卒業研究の検討④：小学校理科６年生「地球」分野の実験・観察の調査と研究	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
6	卒業研究の検討⑤：主に小学校理科「エネルギー・粒子」の実験・観察の文献調査（先行事例等）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
7	卒業研究の検討⑥：主に小学校理科「生命・地球」の実験・観察の文献調査（先行事例等）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
8	卒業研究の検討⑦：卒論テーマの決定と論文構成の検討	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
9	卒業研究の進め方と論文作成のレクチャー	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
10	卒業研究実験・論文作成（主に研究目的）の開始	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること	担当：糸目真也

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（１時間）	
11	後期中間までの振り返り（進捗状況の報告等）	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
12	卒業論文構想発表会の準備①：発表原稿の作成	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
13	卒業論文構想発表会の準備②：発表原稿の修正・完成	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
14	卒業論文構想発表会の準備③：発表練習	次回の授業内容を確認し、予習としてその範囲のキーワードの意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
15	後期末の振り返り（進捗状況等の報告）	復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（２時間）	担当：糸目真也
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング：　KENK6
授業形態：　演習
科目名：　演習Ⅳ【造形教育ゼミ】
担当教員：　佐々木　啓祐(SASAKI　Keisuke)

【授業の紹介】
　本科目では、本学卒業後、赴任する保育所、幼稚園、こども園や、地域の造形教育（表現活動）の推進役として活躍することのできるよう、造形教育の意義やねらい等について、文献等から様々な考え方を学ぶとともに、幼児の造形活動を指導するにあたって必要となる知識や技能を実習を通して身に付けます。
　演習Ⅳでは、造形活動全般を通して、工作も含め、学生が主体となって「子どもたちが夢中になって取り組む造形教材」の研究開発を行います。
　加えて後半は卒業論文の構想を練ります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・技法遊びの実習を通して、造形表現の基礎となる知識や技能を身に付けることができる。
・保育や教育の現場で掲示物など、よりよい環境づくりに必要とされる造形的な構成力や表現力を、イラスト制作を通して身に付けることができる。

【成績の評価】
　造形教育や造形活動に対する知識・技能よりも、レジュメの内容や模擬授業の準備の程度（60%）、質疑応答への参画の態度（40%）など、これらを身に付けるために真摯に取り組む意欲や態度を評価します。
　作成した作品やレジュメ等に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行います。
　20分以上の遅刻は欠席とします。また欠席３回で欠席１回とします。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
「保育所保育指針 解説」（平成30年2月 厚生労働省）
「幼稚園教育要領 解説」（平成30年2月 文部科学省）
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）
令和２年～５年使用 小学校図画工作科 教科用図書
「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　本授業を担当する教員は、小学校で８年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、香川県教育委員会の図画工作科担当指導主事として、長きに渡って現場の先生方に図画教育科の指導を行ってきました。
　また、香川県教育委員会から幼児の造形活動の指導員として委嘱され、４年間、県内の幼稚園や保育所等で、２歳児から５歳児までの子どもたちと造形活動を行ってきました。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 　発表及び討議： 個々の夏休み中の実践研究の発表	予習として、夏休み中の課題の持参する（２時間以上）	
2	イラストについて 　　様々な描き方を学ぶ	保育の現場で必要とされるイラストを描く力について、自分なりの考え方をまとめておく（１時間）	
3	作品制作： 保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題によるイラスト練習①	授業時間外の課題として、保育の現場や役立つ「自分なりのイラスト集」を作成する（１時間以上）	
4	作品制作： 保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題によるイラスト練習②	授業時間外の課題として、保育の現場や役立つ「自分なりのイラスト集」を作成する（１時間以上）	
5	作品制作： 保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題によるイラスト練習③	授業時間外の課題として、保育の現場や役立つ「自分なりのイラスト集」を作成する（１時間以上）	
6	作品制作： 保育士・幼稚園教諭採用試験実技問題によるイラスト練習④	授業時間外の課題として、保育の現場や役立つ「自分なりのイラスト集」を作成する（１時間以上）	
7	発表及び討議： 研究課題、研究目的の発表、研究の方向性と結論の予測	予習として、卒業論文の構想について現時点での考えをまとめておく	
8	発表及び討議： 論証の方法、論証に用いる資料の検討	授業時間外に過去の卒業論文や卒業論文を読んで、具体的な研究内容や様方法についてまとめておく（１時間以上）	
9	発表及び討議： 研究内容の発表	復習として、自己の卒業論文構想の問題点は何かについてまとめておく（１時間以上）	
10	発表及び討議： 卒業論文構想発表会のレジュメの試作	ゼミ生の卒業論文構想を聞いて。自己の卒業論文構想の修正・改善を図る（１時間以上）	
11	発表及び討議： 卒業論文構想発表会のレジュメの修正	ゼミ生の卒業論文構想を聞いて。自己の卒業論文構想の修正・改善を図る（１時間以上）	
12	発表及び討議： 卒業論文構想発表会のレジュメの完成	ゼミ生の卒業論文構想を聞いて。自己の卒業論文構想の修正・改善を図る（１時間以上）	
13	発表及び討議： 発表用プレゼンテーション資料の作成	授業時間及び授業時間外の時間を使って、発表原稿と想定問答を作成しておく（１時間以上）	
14	発表及び討議： 卒業論文構想発表会での発表	発表会での質問を整理しておく（１時間以上）	
15	発表及び討議： 後期研究のまとめ	自己の卒業論文構想の課題を整理し、４月以降の計画を立てておく（１時間以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK7
授業形態： 演習
科目名： 卒業論文【授業研究ゼミ】
担当教員： 秋山　達也(AKIYAMA　Tatsuya)

【授業の紹介】
　本授業は、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での教科・生徒指導の経験を生かし、豊富で具体的な実践事例を示しながら、それを理論と結びつけて授業を行います。
　前年度までの演習（Ⅰ～Ⅳ）における研究を踏まえ、教養教育･専門教育・演習活動で習得した知識と技能、観察･参加と教育実習で得られた成果を総動員して研究に取り組みます。「知識（体系）を教育・保育の実践と関連づけて理解」の集大成として位置づけ、卒業論文発表会において研究成果を明らかにします。

＊リモートでの実施に備え、Classroomへの参加、準備をお願いします。
　クラス名：2024卒業論文（授業研究ゼミ４年）　　クラス コード：tsfq3rh

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の３つを設定します。
１　先行研究に可能な限りあたり、文献や資料を収集しファイリングできる。
２　自己の研究の位置づけをはっきりさせ、明確な研究テーマを設定することができる。
３　教育･保育に関わる論点についての情報を収集･整理･分析し、論文としてまとめることができる。

【成績の評価】
100%、卒業論文の内容で評価します。授業研究に関する論文になりますので、教職に就き日々授業実践を行う中で自分の主張の妥当性を確かめる事（フィードバック）が真の評価となります。
また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】
・木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）756円
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】
・フライ著・酒井一夫訳　『アメリカ式論文の書き方』（東京図書、1994年）
その他、適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の現場での学級担任としての学習指導、研究授業などの校内研修を担当する現職教育主任としての経験、勤務校に籍を置いての大学院での研究活動の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	前期オリエンテーション　卒業論文完成までのタイムテーブルづくり①	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
2	発表と討議１　「先行研究」の収集と絞り込み（～５回）	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
3	発表と討議２	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
4	発表と討議３	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
5	発表と討議４	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
6	発表と討議５	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
7	発表と討議６　「先行研究」の分析と検討（～１２回）	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
8	発表と討議７	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低で	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		も１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
9	発表と討議８	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
10	発表と討議９	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
11	発表と討議１０	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
12	発表と討議１１	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
13	発表と討議１２	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
14	研究のまとめ１（研究内容の整理と分析）	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
15	研究のまとめ２（研究内容の整理と分析）	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
16	後期オリエンテーション　卒業論文完成までのタイムテーブルづくり②	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
17	発表と討議１３　「研究主題」の明確化①	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
18	発表と討議１４　「研究主題」の明確化②	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
19	発表と討議１５　「研究主題」の論証①	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
20	発表と討議１６　「研究主題」の論証②	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
21	発表と討議１７　「用語統一」と「脚注」	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
22	発表と討議１８　「書式」	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
23	発表と討議１９　各章ごとの校正（～２３回）	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
24	発表と討議２０	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
25	発表と討議２１	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
26	発表と討議２２	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
27	発表と討議２３	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
28	卒業論文発表会発表資料作成１	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
29	卒業論文発表会発表資料作成２	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
30	卒業論文発表会	研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第１回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも１回は卒業論文に関する相談を行うよう心がけてください。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK7
授業形態： 演習
科目名： 卒業論文【特別支援教育ゼミ】
担当教員： 堺　るり子(SAKAI　Ruriko),山口　明乙香(YAMAGUCHI　Asuka)

【授業の紹介】

演習Ⅲ・Ⅳの学びで見出した研究課題について、子育て支援に関する専門科目や教育実践に関する専門科目で修得した内容を基盤として、卒業論文を執筆します。執筆にあたり、自分の見解を明確にすることができるように文献や先行研究等の内容を考察してください。また、調査や実地研修の内容を、事例研究としてまとめることもよいでしょう。自分が理解できた内容を自分の文章として表すことや、情報発信ができる内容を含んでいることを重視します。

この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：ggkbzu5）を使用し、課題の提示や資料配付等を行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】

１．テーマを追求する上で必要な情報を収集・分析することができる。
２．得られた結論を論理的に整理し、文章にまとめることができる。
３．卒業論文発表会に向けて、プレゼンテーションの技法を身に付けることができる。

【成績の評価】

・レジュメの内容（20%）、質疑応答、討議への参画の程度（20%）、卒業論文の完成度（50%）、、卒業論文発表（10%）により総合的に評価します。
・レジュメは授業時に講評し、改善のためのフィードバックを行います。
・卒業論文は個別に指導し、修正・加筆を指示します。

【使用テキスト】

高松大学発達科学部オリジナルテキスト

【参考文献】

個々の研究テーマに応じて適宜紹介します。

桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版』（実教出版、2015年）
藤田直也編『学生のプレゼンテーション・トレーニング』（実教出版、2015年）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。特別支援教育に取り組んできた経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 卒業論文構想の再検討	予習として、春季休業中における卒業研究の成果と進捗状況をレジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時に指摘された問題等について調べ直し、ノート等にまとめること（1時間）	
2	問題意識の具体化と明確化	予習として、テーマに関する文献や研究論文を読み、各自のテーマの背景や研究の意義等をレジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時に指摘された問題等について調べ直し、研究内容について検討したことをノート等にまとめること（1時間）	
3	卒業論文作成の留意事項	予習として、卒業論文作成の留意事項について文献等で調べ、ノート等にまとめること（1時間） 復習として、授業時に配付された資料の内容について、学んだことをノート等にまとめること（1時間）	
4	前期の研究計画及び研究課題の検討	予習として、前期の研究計画を立案し、レジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時に指摘された問題等について調べ直し、研究内容について検討したことをノート等にまとめること（1時間）	
5	文献調査の方法及び文献紹介	予習として、各自のテーマに関する文献を調査し紹介する文献について、レジュメにまとめること （1時間） 復習として、授業時に指摘された問題等について調べ直し、研究内容について検討したことをノート等にまとめること（1時間）	
6	文献の内容の理解と疑問点等の把握	予習として、各自のテーマに関する文献を読み、内容を要約してレジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時に指摘された問題等について調べ直し、研究内容について検討したことをノート等にまとめること（1時間）	
7	文献の内容のまとめと考察	予習として、各自のテーマに関する文献を読み、重要な内容をノート等にまとめること（1時間） 復習として、文献学習で学んだこと及び考察したことをレジュメにまとめること（1時間）	
8	先行研究の調査方法及び先行研究の紹介	予習として、各自のテーマに関する先行研究を調査し、紹介する先行研究についてレジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時に指摘された問題等について調べ直し、研究内容について検討したことをノート等にまとめること（1時間）	
9	先行研究の理解と疑問点の把握	予習として、各自のテーマに関する先行研究を読み、内容を要約してレジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時の討議で出た疑問点や問題点について調べ直し、研究内容について検討したことをノート等にまとめること（1時間）	
10	先行研究のまとめと考察	予習として、各自のテーマに関する先行研究を読み、重要な内容をノート等にまとめること（1時間） 復習として、先行研究から学んだこと及び考	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		察したことを、レジュメにまとめること（1時間）	
11	論証方法の検討	予習として、自らの問いに対して、どのような調査により何を明らかにするのかを具体的に考え、ノート等にまとめること（1時間） 復習として、授業時の討議で出た疑問点や問題点について調べ直し、論証方法について検討したことをノート等にまとめること（1時間）	
12	研究テーマの再検討	予習として、各自の研究テーマに関する先行研究等の考察を通して研究テーマについて再検討し、ノート等にまとめること（1時間） 復習として、授業時の討議で出た疑問点や問題点について調べ直し、研究テーマについて検討したことをノート等にまとめること（1時間）	
13	研究内容の再検討	予習として、各自の研究テーマに関する先行研究等の考察を通して研究内容について再検討し、ノート等にまとめること（1時間） 復習として、授業時の討議で出た疑問点や問題点について調べ直し、研究テーマについて検討したことをノート等にまとめること（1時間）	
14	研究結果の再検討	予習として、各自の研究テーマに関する先行研究等の考察を通して研究結果について再検討し、ノート等にまとめること（1時間） 復習として、卒論構想からこれまでに、研究テーマや研究内容等について再検討した内容をノート等にまとめること（1時間）	
15	卒業論文中間発表及び夏季休業中の研究課題	予習として、中間発表のレジュメを作成すること（1時間） 復習として、討議で出た課題等を整理し、今後の研究課題をレジュメにまとめること（1時間）	
16	夏季休業中の研究成果の発表（Aグループ）	予習として、夏季休業中における研究の成果と進捗状況について、レジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時の討議で出た疑問点や問題点について調べ直し、研究テーマについて検討したことをノート等にまとめること（1時間）	
17	夏季休業中の研究成果の発表（Bグループ）	予習として、夏季休業中における研究の成果と進捗状況について、レジュメにまとめること（1時間） 復習として、授業時の討議で出た疑問点や問題点について調べ直し、研究テーマについて検討したことをノート等にまとめること（1時間）	
18	後期の研究計画及び調査方法の再検討	予習として、卒業論文の執筆の計画を「執筆計画書」にまとめ、提出すること（1時間） 復習として、授業時の討議で出た疑問点や問題点について調べ直し、調査方法について検討したことをノート等にまとめること（1時間）	
19	研究目的の確定	予習として、テーマに関連する先行研究や収集した情報をもとに、解明する対象を明確にしてレジュメにまとめること（1時間） 復習として、討議で指摘された問題等について調べ直し、研究目的を執筆すること（1時	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		間）	
20	論文構成の確定	予習として、テーマに関連する先行研究や収集した情報をもとに、論文構成をレジュメにまとめること（1時間） 復習として、構成が論理的な筋道になっているか確認し、論文構成をまとめること（1時間）	
21	第1章及び第2章の執筆内容	予習として、テーマに関連する先行研究や収集した情報をもとに、第1章と第2章を執筆すること（1時間） 復習として、構成が論理的な筋道になっているか確認し、論文構成をまとめること（1時間）	
22	第3章及び第4章の執筆内容	予習として、テーマに関連する先行研究や収集した情報をもとに、第3章と第4章を執筆すること（1時間） 復習として、構成が論理的な筋道になっているか確認し、論文構成をまとめること（1時間）	
23	考察と結論の検討	予習として、テーマに関連する先行研究や収集した情報をもとに、考察と結論を執筆すること（1時間） 復習として、自分が言いたいこと、収集した資料等から確実に言えること等を整理し、まとめ直すこと（1時間）	
24	卒業論文全体の修正	予習として、卒業論文の題目が内容を的確に表しているか、章節等の見出しは適切かなどについて確認すること（1時間） 復習として、問題設定と結論の整合性があるかどうかを確認すること（1時間）	
25	卒業論文要旨の完成	予習として、要旨の内容を検討して執筆すること確認すること（1時間） 復習として、卒業論文の重要なポイントを絞ることができているか、研究内容の全体が分かるか、研究の目的と結果が対応しているかなどを確認して執筆すること（1時間）	
26	卒業論文最終確認	予習として、卒業論文の表紙、目次、本文、引用・参考文献の内容と要旨を見直し、修正箇所の有無を確認すること（1時間） 復習として、プレゼンテーション資料を作成すること（1時間）	
27	プレゼンテーション資料の作成	予習として、プレゼンテーション資料に応じた発表原稿を作成すること（1時間） 復習として、指導を得た内容に応じて、スライド等を改善しておくこと（1時間）	
28	卒業論文発表会リハーサル	予習として、テーマを選んだ動機や各自の研究内容の重要生について簡潔に述べることができるように、ポイントをノート等にまとめること（1時間） 復習として、質問に適切に答えることができるように、自分の考えや調査したことをノート等にまとめること（1時間）	
29	卒業論文発表会	予習として、卒業研究の重要な内容を確認するとともに、質問に適切に答えることができるように、自分の考えや調査したことをノート等にまとめること（1時間） 復習として、発表会で指導・助言を得た内容についてノート等にまとめること（1時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
30	研究成果報告	復習として、卒業論文発表会における学びや課題等について、ノート等にまとめること、卒業研究を行ったことで身に付いたスキル等について、レジュメにまとめること（2時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK7
授業形態： 演習
科目名： 卒業論文【健康スポーツゼミ】
担当教員： 田中　美季(TANAKA　Miki)

【授業の紹介】
　卒業論文（健康スポーツゼミナール）では“子どものからだ”“子どもの運動”あるいは“スポーツ”という幅広い分野から自己の研究テーマを確定し，教養教育および専門教育での習得した「理論」と「実践力」を総動員することにより，卒業論文を執筆します。

＜Google Classroom クラスコード＞ 2ojwvdb

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．テーマの選択から始まり，研究目的から論文を展開させることができる。
２．収集した様々なデータなどから考察，分析を重ね，私見を検討してまとめることができる。
３．論文を完成させる過程において，実際の問題点を把握，分析することができる。
４．自分の考えを構築しまとめるだけでなく，実際に論文を様式どおりに作成できる。
５．論文を発表するというプレゼンテーション能力，他の学生との討議における態度など，総合的な力を養うことができる。
６．卒業論文の作成をとおして，共に支え合い，豊かな心と創造力を身につけることができる。

【成績の評価】
授業態度（討議の態度，発表会におけるプレゼンテーション能力）：20%
卒業論文（卒業論文発表会を含む）：80%
※ 全体の60%以上の得点で合格とします。
※ 成績については，オフィスアワーにてフィードバックします。
※ 原則として，対面授業で行います。単位認定には，授業の2/3以上の出席が必要です。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
その都度，提示する

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
2	卒業論文のテーマを絞り込む①（収集した先行研究のまとめ）	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
3	卒業論文のテーマを絞り込む②（卒論のテーマの領域を決定する）	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
4	卒業論文のテーマを絞り込む③（卒論のテーマを決定する）	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
5	卒業論文の概要を作成する	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
6	論文全体の筋書きを作成する①（章立てを考える）	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
7	論文全体の筋書きを作成する②（章立てと対応ページ）	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
8	自分の論文の筋書きを発表する	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
9	各論文の筋書きを検討する	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
10	研究の背景を考える	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
11	収集した文献と研究の背景を対応させる	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
12	研究の目的を考える	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいて	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
13	収集した文献と研究の目的を対応させる	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
14	研究の目的を発表する	各自の卒業論文の「研究の目的」について発表原稿を作成してください（30分）。 授業後は，発表内容を振り返り，ノート等にまとめてください（30分）。	
15	中間総括（研究の目的の展開）	各自の卒業論文の「研究の目的」について考察したものをノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，振り返った考察をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
16	文章表現の様式確認する	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
17	論文の様式を確認する	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
18	基本概念や専門用語の定義について	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
19	問題の所在を探る	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
20	問題の所在と研究の目的を対応させる	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
21	問題を解決する手法を考える	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
22	問題解決のために客観的な評価を行う	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
23	問題可決のために客観的な考察を行う	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
24	各研究成果を討議しよう	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）。	
25	論文発表の準備をしよう	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）	
26	論文を発表する①（リハーサル）	各自の卒業論文について発表原稿を作成してください（30分）。 授業後は，発表内容を振り返り，ノート等にまとめてください（30分）。	
27	論文を発表する②（前半）	各自の卒業論文について発表原稿を作成してください（30分）。 授業後は，発表内容を振り返り，ノート等にまとめてください（30分）。	
28	論文を発表する③（後半）	各自の卒業論文について発表原稿を作成してください（30分）。 授業後は，発表内容を振り返り，ノート等にまとめてください（30分）。	
29	総括（作成した論文の最終校正）	各自の卒業論文のテーマに関するその都度必要な資料を収集し，ノートにまとめておいてください（30分）。 授業後は，その関連資料をもとに，卒業論文の作成を進めておいてください（30分）	
30	卒業論文発表会	各自の卒業論文について発表原稿を作成してください（30分）。 授業後は，発表内容を振り返り，ノート等にまとめてください（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK7
授業形態： 演習
科目名： 卒業論文【音楽ゼミ】
担当教員： 水嶋　育(MIZUSHIMA　Ikumu)

【授業の紹介】
演習Ⅳで決定した卒業論文のテーマに従って各自研究を進めていきます。ゼミでは毎回論文の進捗状況を発表し他の学生とともに検討し意見交換を行います。論文作成にあたって、問題を特定し、情報を精査し解決策を探り、得た結論を的確に表現するという一連の作業を経験します。これにより、教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して論理的な思考力と創造力を用いて判断する能力を修得します。また、オープンキャンパスやふれあいコンサートでの準備や発表を通して教育・保育の実践力をさらに高めていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		４．子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・充実した内容の論文を完成することができる。
・分りやすく伝えるスキルを磨き、またグループ内でのコミュニケーション能力を高めることができる。
・教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して論理的な思考力と創造力を用いて判断することができる。

【成績の評価】
発表内容、論文の完成度を検討して単位を認定する。
研究内容９０％　発表能力１０％
実技演奏等の発表に関しては、その都度コメントを与える。
主に卒業論文原稿等の提出物は、口頭と筆記により添削指導を行う。

【使用テキスト】
なし

【参考文献】
白井利明・高橋一郎（２００８）「よくわかる卒論のか書き方」ミネルヴァ書房
石井一成（２０１１）「大学生のためのレポート・論文の書き方」ナツメ社

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習（２時間）：テーマに関する基礎知識を纏めめる。 復習（２時間）：テーマに関する基礎知識を纏める。	
2	基本資料に基づいたテーマに関する基礎知識の発表	予習（２時間）：テーマに関する基礎知識を纏める。 復習（２時間）：授業での意見を踏まえて、テーマに関する基礎知識をさらに纏める。	
3	順次発表　思考マップの作成	予習（２時間）：思考マップの素案を作成する。 復習（２時間）：思考マップを仕上げる。	
4	順次発表　問いと答えリストの作成	予習（２時間）：問いと答えリストの素案を作成する。 復習（２時間）：問いと答えリストを仕上げる。	
5	順次発表　論証方法の考察	予習（２時間）：論証方法の案を作成する。 復習（２時間）：論証方法を決定し、必要なものを記録する。	
6	順次発表　データの収集と効果的な見せ方の考察	予習（２時間）：可能な項から執筆する。 復習（２時間）：学生、教員の意見を踏まえて、可能な項から執筆する。	
7	順次発表　アウトラインの作成	予習（２時間）：アウトラインの作成をする。 復習（２時間）：学生、教員の意見を踏まえて、アウトラインを再検討する。可能な項から執筆する。	
8	順次発表　アウトラインの完成	予習（２時間）：可能な項から執筆する。 復習（２時間）：アウトラインを確定し、本格的に執筆を開始する。	
9	順次発表　論文に適った日本語表現	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。	
10	第I中間発表　グループ①　これまでの成果発表	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。	
11	第I中間発表　グループ②　これまでの成果発表	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。	
12	第６回オープンキャンパスの準備１（発案、計画）	予習（１時間）：オープンキャンパスのだしものについての案を纏めておく。 復習（３時間）：分析、検討を重ね、卒論を執筆する。	
13	第６回オープンキャンパスの準備２（練習）	予習（２時間）：オープンキャンパスの準備、練習を行う。分析、検討を重ね、卒論の執筆する。 復習（２時間）：オープンキャンパスの準	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		備、練習を行う。分析、検討を重ね、卒論の執筆する。	
14	第６回オープンキャンパスの準備３（練習、修正）	予習（２時間）：オープンキャンパスの準備、練習を行う。分析、検討を重ね、卒論の執筆する。 復習（２時間）：オープンキャンパスの準備、練習を行う。分析、検討を重ね、卒論の執筆する。	
15	第６回オープンキャンパスの準備４（リハーサル）	予習（２時間）：オープンキャンパスの準備、練習を行う。分析、検討を重ね、卒論の執筆する。 復習（２時間）：オープンキャンパスの準備、練習を行う。分析、検討を重ね、卒論の執筆する。	
16	第II中間発表　グループA　引用の基本ルール	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。	
17	第II中間発表　グループB　文献リスト作成上の確認	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。	
18	第II中間発表　グループC　日本語表記のルール確認	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。	
19	第III中間発表　グループA　第１６回での状況に従ってテーマを設定	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。	
20	第III中間発表　グループB　第１７回での状況に従ってテーマを設定	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。	
21	第III中間発表　グループC　第１８回での状況に従ってテーマを設定	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。	
22	第IV中間発表　グループA　清書前の最終チェック	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。	
23	第IV中間発表　グループB　清書前の最終チェック	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
24	第IV中間発表　グループC　清書前の最終チェック	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。	
25	最終発表グループA　卒論要旨	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、修正する。	
26	最終発表グループB　卒論要旨	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、修正する。	
27	最終発表グループC　卒論要旨	予習（２時間）：分析、検討を重ね、執筆する。 復習（２時間）：分析、検討を重ね、修正する。	
28	発表スライドのチェック	予習（２時間）：発表スライドを作成する。 復習（２時間）：発表スライドを修正する。	
29	プレゼンテーションの要領	予習（２時間）：ワークシートに従い、プレゼンテーションの準備を行う。 復習（２時間）：ワークシートに従い、プレゼンテーションの問題点の把握と、修正を行う。	
30	質疑応答対策	予習（２時間）：他学生への質問を纏めておく。 復習（２時間）：質疑応答対策集を作成する。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK7
授業形態： 演習
科目名： 卒業論文【保育ゼミ】
担当教員： 松原　勝敏(MATSUBARA　Katsutoshi)

【授業の紹介】
　教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、各回でのゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。そして、最終的には、卒業論文をまとめ、卒業論文発表会につなげていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・卒業論文の作成に向けて、個々にテーマを追求する上で必要な情報の収集や分析ができる。
・各自のテーマに関して、概論的な知識の獲得と学習の成果を他者にわかりやすく伝えることができる。
・質の高い論文を完成し、発表会において効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

【成績の評価】
　レジュメの内容(30%)やゼミでの質疑応答への参画の程度(20%)および論文や発表の完成度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。
　毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。
　前期・後期それぞれ3回以上を欠席した場合には、単位不認定を含め、厳しく対応します。

【使用テキスト】
　基礎演習テキスト『しるべ』（Ｉ年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】
　授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】
　無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
　無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習：卒業論文研究計画の作成。(1時間30分) 復習：研究計画の修正。(30分)	
2	発表及び討議：春期休業中の研究成果の発表	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
3	発表及び討議：前期の研究計画と方向性	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
4	発表及び討議：研究目的の検討	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
5	発表及び討議：研究の方向性の検討	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
6	発表及び討議：研究結果及び結論の予測	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
7	発表及び討議：研究成果の発表	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
8	発表及び討議：研究課題の追究	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
9	発表及び討議：論証方法の検討	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
10	発表及び討議：分析資料の検討	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
11	発表及び討議：研究課題の再検討	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
12	発表及び討議：中間発表レジュメ作成	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
13	発表及び討議：中間発表レジュメの修正	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
14	卒業論文中間発表会	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
15	発表及び討議：今後の研究課題と研究計画	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
16	後期オリエンテーション	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
17	発表及び討議：夏期休業中の研究成果の発表	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
18	発表及び討議：研究目的の確定	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
19	発表及び討議：論文構成の確定	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
20	発表及び討議：第1章の研究内容	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
21	発表及び討議：第2章の研究内容	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
22	発表及び討議：第3章の研究内容	予習：発表資料の準備。(1時間30分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
23	発表及び討議：結論の検討	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
24	発表及び討議：卒業論文全体の見直し	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
25	発表及び討議：卒業論文全体の修正	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
26	発表及び討議：卒業論文要旨の試作	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
27	発表及び討議：卒業論文要旨の完成	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
28	発表及び討議：プレゼンテーション資料の作成	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
29	卒業論文発表会	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
30	発表及び討議：研究成果と課題の振り返り	予習：発表資料の準備。(1時間30分) 復習：発表内容の振り返り・補充(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK7
授業形態： 演習
科目名： 卒業論文【教育心理ゼミ】
担当教員： 横川　和章(YOKOGAWA　Kazuaki)

【授業の紹介】
　演習Ⅲ、Ⅳで検討した研究課題に沿って、卒業論文の内容を深めていきます。教育・保育や現代の子育てに関わる各自のテーマに沿った情報を収集し、論理的に分析・検討して、結論を導いていきます。発表や討議を通して、よりよい発表や議論の仕方を学び、考える力や議論する力を習得し、卒業論文の完成や発表会へとつなげていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・研究テーマに沿った必要な情報を収集し、分析することができる。
・研究内容を他者に対して適切に説明したり、他者の説明を聞いたりし、それに基づいて議論ができる。
・卒業論文を完成させ、その内容について適切に説明することができる。
・卒業論文作成を通して、教育・保育に関する専門性を高めることができる。

【成績の評価】
・授業時のレジュメ及び発表（20%）、討議への参画とその内容（20%）、卒業論文（50%）、卒業論文の発表（10%）を総合的に評価します。
・発表や討論の内容に関する教員からの講評を通してフィードバックを行います。

【使用テキスト】
適宜紹介します。

【参考文献】
適宜紹介します。

【実務経験】
無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
2	演習Ⅳ以降の研究成果の発表①	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
3	演習Ⅳ以降の研究成果の発表②	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
4	演習Ⅳ以降の研究成果の発表③	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
5	演習Ⅳ以降の研究成果の発表④	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
6	これまでの研究成果のまとめ	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
7	研究の方向性の検討	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
8	情報収集と発表・討議①	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
9	情報収集と発表・討議②	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
10	情報収集と発表・討議③	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
11	情報収集と発表・討議④	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
12	追加の情報収集と発表・討議①	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
13	追加の情報収集と発表・討議②	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
14	追加の情報収集と発表・討議③	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習と	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		して、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
15	追加の情報収集と発表・討議④	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
16	後期オリエンテーション	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
17	前期以降の研究成果の発表・討議①	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
18	前期以降の研究成果の発表・討議②	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
19	前期以降の研究成果の発表・討議③	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
20	前期以降の研究成果の発表・討議④	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
21	卒業論文の作成	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
22	卒業論文の検討	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
23	卒業論文全体の見直し	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
24	卒業論文全体の修正	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
25	卒業論文全体の追加の修正	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
26	卒業論文要旨の検討	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
27	卒業論文要旨の完成	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
28	卒業論文最終確認	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
29	卒業論文発表会の最終準備	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
30	卒業論文発表会	予習として、必要な文献・必要な情報をまとめレジュメを作成すること（30分）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK7
授業形態： 演習
科目名： 卒業論文【幼児教育ゼミ】
担当教員： 山田　純子(YAMADA　Junko)

【授業の紹介】
　演習Ⅲ、Ⅳで得た学びを各自の研究課題を基に構成し、質の高い卒業論文の作成を目指します。絵本や紙芝居、童話、言葉による表現媒体等を主な研究対象としますが、保育・教育からの視点で研究を進めていきます。個別研究活動を中心にしながら、適宜、個別指導やゼミ所属学生によるグループ討議を取り入れていきます。また、研究活動や就職活動を支える学生生活の在り方に関わる適時適切な学習活動や指導も行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
（１）教育や保育に活かせる研究活動に取り組むことができる。
（２）論文作成を通して今後の保育・幼児教育活動に資するに足る専門性を総合的に身に付けることができる。

【成績の評価】
　課題（レジュメ）の取組姿勢と内容（20%）、卒業論文及び発表会におけるプレゼンテーション（80%）により評価します。提出された課題（レジュメ）は、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】
　使用しません。

【参考文献】
　演習の中で個々の研究テーマに応じて適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、子どもたちの具体的な姿や保育活動の事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 学生各自の卒業論文の資料収集（検討）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
2	学生各自の卒業論文の研究計画の策定	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
3	学生各自の卒業論文の研究計画の検討	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
4	学生各自の卒業論文の資料収集（協議）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
5	学生各自の卒業論文の資料収集（発表）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
6	学生各自の卒業論文の資料収集（検討）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
7	学生各自の卒業論文の作成の検討（資料の整理と活用）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
8	学生各自の卒業論文の作成の検討（情報の組み立て方）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
9	学生各自の卒業論文の作成の検討（作成の心得）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
10	学生各自の卒業論文の作成の検討（論文の構成）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
11	学生各自の卒業論文の作成の検討（まとめ方）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
12	学生各自の卒業論文の作成の検討（文章の整理）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
13	学生各自の卒業論文の作成の検討（語尾の表現）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
14	学生各自の卒業論文の作成の検討（引用方法とその記述）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	
15	研究の中間報告（協議）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	
16	研究の中間報告（報告1）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	
17	研究の中間報告（報告2）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	
18	研究の中間報告（報告3）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	
19	研究の中間報告の検討	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	
20	学生各自の卒業論文の報告1と討議	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	
21	学生各自の卒業論文の報告2と討議	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	
22	学生各自の卒業論文の報告3と討議	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	
23	卒業論文草稿の修正（協議）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	
24	卒業論文の作成と修正（協議）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	
25	卒業論文の作成と修正（報告１）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	
26	卒業論文の作成と修正（報告２）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	
27	卒業論文要旨の作成（協議）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。 （2時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
28	卒業論文要旨の作成（報告）	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
29	卒業論文の発表準備	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
30	卒業論文発表会	授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（2時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK7
授業形態： 演習
科目名： 卒業論文【保育実践ゼミ】
担当教員： 野町　真知子(NOMACHI　Machiko)

【授業の紹介】
　演習Ⅲ・Ⅳを通して学習してきた卒業論文のテーマに沿って、研究を進めていきます。乳幼児教育・保育、子育て支援等に関する情報を収集・分析し、研究内容をレジュメにまとめ、発表したり討議をすることを経験します。情報収集してきた内容をもとに、興味関心のあるテーマについて知識を深め卒業論文としてまとめます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・文献や先行研究等、研究に必要な情報を集めることができる。
・研究テーマに基づいて、必要な検証方法を見出し、その方法を実践できる。
・自分の研究内容を分かりやすく説明したり、他学生の研究内容を聞いて質問するなど、積極的に討議に参加できる。
・提出期限を守り、計画的に卒業論文に向けての研究を進めることができる。
・規定にしたがって、卒業論文・要旨を仕上げることができる。
・卒業研究について、発表し、その内容を説明することができる。

【成績の評価】
授業時のレジュメ（20%）、討議への参加（10%）、卒業論文の完成度（60%）、卒業論文発表（10%）により、評価します。
レジュメは添削し、次の授業時に解説、返却します。また卒業論文については、その都度個別に解説・指導し、返却します。

【使用テキスト】
・厚生労働省『保育所保育指針解説』（2018年）フレーベル館

【参考文献】
個々の研究テーマに沿って、指示します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のある教員による授業科目です。保育所、こども園で保育士、主任保育士をしてきた中で乳児保育に携わってきた経験をもとに乳児保育の実践に必要な知識、技術について授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 前期の日程と計画の確認	春季休暇の課題をもとに今後の研究の進め方について計画する(1時間)	
2	卒業論文構想の再確認、発表	春季休暇の課題をもとに、卒業論文構想について再検討を行い発表できる準備を行う(1時間)	
3	春季休暇の課題についての発表、意見交換	春季休暇の課題について分かりやすくまとめ発表を行う準備をする(1時間)	
4	卒業研究、研究方法について	事前に配布されている資料をもとに卒業研究について学び分かりやすくまとめる(1時間)	
5	情報収集について	事前に配布されている資料をもとに情報収集について学び、情報収集を行う(1時間)	
6	卒業論文作成について(文章の書き方の決まり、まとめ方について)	事前に配布されている資料をもとに学習を行う。必要なことはまとめておく。(1時間)	
7	研究テーマの再検討	今まで学習した内容をもとに研究テーマについて再検討を行うための資料の収集を行い、まとめる。(1時間)	
8	研究目的、内容の再検討	今まで情報収集した内容をもとに研究目的、内容について再検討できる資料をまとめる。(1時間)	
9	中間発表準備(情報収集)	今までの情報収集をもとに不足している部分などないかを検証し、まとめる(1時間)	
10	中間発表準備(レジュメ作成)	中間発表のための資料を準備する。(1時間)	
11	中間発表に向けて(研究内容の確認)	中間発表のための資料を準備する。(1時間)	
12	中間発表(前期の研究内容についてのまとめ)	中間発表のための資料を準備する。(1時間)	
13	中間発表についての検討	中間発表について振り返りを行い、まとめる(1時間)	
14	論文構成の確認	中間発表の検討をもとに論文構成について再検討を行う。(1時間)	
15	夏季休暇中の研究計画	夏季休暇中の研究の計画をたてるため、今までの研究について振り返りまとめる(1時間)	
16	後期オリエンテーション(後期の日程と計画の確認)	夏季休暇中の研究を振りかえる。今後研究が必要なことの再確認を行いまとめる。(1時間)	
17	夏季休暇中の成果発表	夏季休暇の研究についてまとめ、発表の準備をする。(1時間)	
18	夏季休暇中の研究についての討議	成果発表を振りかえり、今後必要な研究について検証しまとめる。(1時間)	
19	研究内容についての発表と検討　卒業論文作成に必要な情報収集	研究内容について情報収集、論文作成を行う。(1時間)	
20	研究内容についての発表	研究内容について情報収集、論文作成を行う。(1時間)	
21	研究内容についての検討・意見交換	研究内容について情報収集、論文作成を行う。(1時間)	
22	研究内容についての発表と検討(全体)	研究内容について情報収集、論文作成を行	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		う。(1時間)	
23	結論の最終検討	研究内容について情報収集、論文作成を行う。(1時間)	
24	卒業論文全体の修正	卒業論文全体を振りかえり、修正箇所の確認を行う。(1時間)	
25	卒業論文要旨作成・検討	卒業論文全体を振りかえり、要旨の作成の準備行う。(1時間)	
26	卒業論文要旨完成	卒業論文全体を振りかえり、要旨の作成の準備行う。(1時間)	
27	卒業論文最終確認	卒業論文全体の振り返りを行う。(1時間)	
28	卒業論文発表の検討	卒業論文発表の準備を行う。(1時間)	
29	卒業論文発表リハーサル	卒業論文発表の準備を行う。(1時間)	
30	卒業論文の振り返りと今後の課題についての意見交換	卒業論文について振り返り、今後の課題について検証しまとめる。(1時間)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK7
授業形態： 演習
科目名： 卒業論文【乳幼児保育研究ゼミ】
担当教員： 川口　めぐみ(KAWAGUCHI　Megumi)

【授業の紹介】
　演習Ⅲ・Ⅳで見出した研究課題に沿って、卒業論文の内容を深めていきます。具体的には、各自のテーマに沿った乳幼児保育・教育に関する情報を収集し分析していき、研究内容のレジュメを発表したり討議をしたりしていきます。その中で、コミュニケーション力や協力・協働する力を習得していきます。また、卒業発表に向けて、研究内容を他者に伝える技術を習得していきます。
　この授業では、Google Classroom（クラスコード： y3ku7jp ）を活用し、課題提出や連絡事項を伝えます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	１．教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。
		６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。
		７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・文献や先行研究等、個々の研究テーマに沿った必要な情報の収集及び分析をすることができる。
・自分の研究内容を説明したり他学生の研究内容を聞いたり質問したりする等、積極的に討議に参加できる。
・卒業論文を完成させ、その内容について発表し、分かりやすく説明することができる。
・卒業論文作成を通して、乳幼児保育・教育に必要な豊かな心や専門性を総合的に身に付けることができる。

【成績の評価】
　授業時のレジュメ２０％、討議への参画２０％、卒業論文の完成度（卒業論文発表も含む）６０％により、総合的に評価します。
　授業時のレジュメは、授業時に解説し、返却します。また卒業論文については、その都度個別に解説・指導し、返却します。

【使用テキスト】
　使用しません

【参考文献】
　文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
　厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
　内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

　その他、個々の研究テーマに応じて適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
　この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例等を紹介しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション（授業の概要）	【予習】春季休業中の課題内容を整理し、レジュメにまとめて提出すること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
2	春季休業中の研究成果の発表・討議①（主に障害・虐待に関するテーマについて）	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析を行い、レジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
3	春季休業中の研究成果の発表・討議②（主に乳幼児・保育に関するテーマについて）	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析を行い、レジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
4	研究の方向性の検討	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析を行い、レジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
5	情報収集及び分析成果の発表・討議①（主に障害に関するテーマについて）	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析を行い、レジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
6	情報収集及び分析成果の発表・討議②（主に虐待に関するテーマについて）	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析を行い、レジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
7	情報収集及び分析成果の発表・討議③（主に乳幼児に関するテーマについて）	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析を行い、レジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
8	情報収集及び分析成果の発表・討議④（主に保育に関するテーマについて）	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析を行い、レジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
9	論証方法の検討	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析から、調査方法について検討し、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
10	研究テーマの再検討	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析から、研究テーマについて検討し、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
11	研究内容の再検討	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析を行い、レジュメにまとめる。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
12	研究結果の再検討	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析から、研究結果について検討し、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
13	卒業論文中間発表の準備	【予習】これまでの各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析内容を、ノート等にまとめておくこと。 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
14	卒業論文中間発表	【予習】中間発表のためのレジュメを作成しておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究内容について検討したことをノート等にまとめておくこと。（1時間）	
15	夏季休業中の研究課題と研究計画	【予習】各自の研究テーマに関連した文献や先行研究等の情報収集や分析を行い、レジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、研究計画を立案し、ワークシートにまとめること。（1時間）	
16	後期オリエンテーション（卒業論文提出に向けて）	【予習】夏季休暇中の研究の進捗状況について、レポートにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、論文執筆に向けた計画をワークシートにまとめて提出すること。（1時間）	
17	夏季休業中の研究成果の発表・討議①	【予習】夏季休業中の研究成果を発表できるようレジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、卒業論文を執筆すること。（1時間）	
18	夏季休業中の研究成果の発表・討議②	【予習】夏季休業中の研究成果を発表できるようレジュメにまとめること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、卒業論文を執筆すること。（1時間）	
19	研究目的の確定	【予習】各自の研究テーマに関連した情報収集や分析をもとに、研究目的について検討し、卒業論文を執筆すること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、卒業論文を再検討し、執筆すること。（1時間）	
20	論文構成の確定	【予習】各自の研究テーマに関連した情報収集や分析をもとに、論文構成について検討し、卒業論文を執筆すること。（1時間）） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、卒業論文を再検討し、執筆すること。（1時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
21	結論の検討	【予習】各自の研究テーマに関連した情報収集や分析をもとに、結論について検討し、卒業論文を執筆すること。（1時間）） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、卒業論文を再検討し、執筆すること。（1時間）	
22	卒業論文全体の見直し	【予習】各自の研究テーマに関連した情報収集や分析をもとに、内容について検討し、卒業論文を執筆すること。（1時間）） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、卒業論文を再検討し、執筆すること。（1時間）	
23	卒業論文全体の修正	【予習】各自の研究テーマに関連した情報収集や分析をもとに、内容について検討し、卒業論文を執筆すること。（1時間）） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、卒業論文を再検討し、執筆すること。（1時間）	
24	卒業論文要旨の検討	【予習】卒業論文の内容を見直し、卒業論文の要旨を検討して執筆すること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、卒業論文要旨を再検討し、執筆すること。（1時間）	
25	卒業論文要旨の完成	【予習】卒業論文の要旨の内容を検討して執筆すること。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、卒業論文要旨を再検討し、執筆すること。（1時間）	
26	卒業論文最終確認	【予習】卒業論文と要旨の内容を見直して完成させること。（1時間） 【復習】卒業論文の内容を見直し。プレゼンテーション資料を作成すること。（1時間）	
27	プレゼンテーション資料完成	【予習】プレゼンテーション資料に合わせた読み原稿を作成しておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、プレゼンテーション資料を見直し、作成すること。（1時間）	
28	卒業論文発表会リハーサル	【予習】修正したプレゼンテーション資料をもとに、読み原稿を作成しておくこと。（1時間） 【復習】授業で抽出された課題点をもとに、質疑応答対策をノート等にまとめておくこと。（1時間）	
29	卒業論文発表会	【予習】卒業論文を読み返し、発表に必要な資料を整理してノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】発表会で指導して頂いた内容についてノート等にまとめておくこと。（1時間）	
30	研究成果報告と課題の振り返り	【予習】卒業論文発表会での気付きや課題をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】調査に協力いただいた方へのフィードバック資料を作成すること。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK7
授業形態： 演習
科目名： 卒業論文【教育相談ゼミ】
担当教員： 織田　幸美(ODA　Yukimi)

【授業の紹介】
　演習Ⅲ・Ⅳで取組んだ研究課題を卒業論文として構成し直し，修正しながら，卒業論文を完成させます。卒業論文の研究テーマは，児童等が発達上に経験する諸問題に対しその成長を支える予防的・開発的な相談援助に関するテーマを中心に研究に取り組むことを望みます。
　また、卒業論文作成を通して，これまで習得した知識や技能，自己の興味・関心を学問的に発展させます。
　この授業ではGoogle Classroom(クラスコード：hszu2fh）を使用し、ICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。
		５．子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
　自身の興味・関心を学問的にまとめ，他者へ発信する力を向上させることを目指す。
　また、自らの課題設定に対して，情報収集し，文章としてまとめ，他者へわかりやすく発表するプレゼンテーション能力を獲得する。
１．研究設問を設定し，適切な方法を選択し，研究遂行できる
２．先行研究をまとめ，必要な調査を実施し，データを整理できる
３．先行研究やデータ分析の結果を適切に表記することができる
４．研究の目的，方法，結果，考察について文章にまとめることができる

【成績の評価】
論文への取り組み状況や受講態度（30%）、論文の完成度（40%）発表（30%）等を総合して評価する。
発表・討議の際および全体の講評を行いフィードバックをします。

【使用テキスト】
適宜紹介する

【参考文献】
適宜紹介する

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のあるきょういんによる授業科目です。小学校で・中学校での教員やスクールカウンセラーとしての経験を活かし，教育現場での現実的で具体的な課題について深い考察を促すような指導をおこないます。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
2	テーマについて①（これまでの課題の再検討）	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
3	テーマについて②(これまでに収集した先行研究の再検討)	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間）	
4	テーマについて③(テーマを決定する)	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
5	卒業論文の概要の作成	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
6	論文構成の検討①(章立てを考える)	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
7	論文構成の検討②(章立てと対応ページ)	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
8	論文構成の発表	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
9	論文構成の相互批評・修正	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
10	資料の再点検	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
11	文章表現のマナーを確認する	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
12	先行研究、資料、調査の文章化	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
13	研究の目的の文章化	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
14	研究の目的の修正	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
15	研究の方法の文章化・修正	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
16	これまでの振り返りと今後の計画	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
17	論文前半の文章化	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 中間報告のためのレジュメ作成、論文作成のための時間外学習（3時間）	
18	論文前半の点検・修正	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 論文作成のための時間外学習（3時間）	
19	追加調査	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 論文作成のための時間外学習（3時間）	
20	追加資料の点検	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 論文作成のための時間外学習（3時間）	
21	論文後半の文章化	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 論文作成のための時間外学習（3時間）	
22	論文後半の点検・修正	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 論文作成のための時間外学習（3時間）	
23	論文構成全体の点検・修正	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 論文作成のための時間外学習（3時間）	
24	各研究成果の討議	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 論文作成のための時間外学習（3時間）	
25	論文発表の準備	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 論文作成のための時間外学習（3時間）	
26	論文の発表と討論①(リハーサル)	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 論文作成のための時間外学習（3時間）	
27	論文の発表と討論②（前半）	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 論文作成のための時間外学習（3時間）	
28	論文の発表と討論③(後半)	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 論文作成のための時間外学習（3時間）	
29	総括（作成した論文の最終校正）	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 論文作成のための時間外学習（3時間）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
30	卒業論文発表会	卒業論文作成に向けての情報や資料収集・整理（2時間） 論文作成のための時間外学習（3時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK7
授業形態： 演習
科目名： 卒業論文【教科指導ゼミ】
担当教員： 糸目　真也(ITOME　Shinya),竹田　忠弘(TAKEDA　Tadahiro)

【授業の紹介】
この授業では、理科についての専門性を深めるために、次の学習活動を行う。
・小学校での理科教育や環境教育、防災教育等に関して、その知識の定着と実験・観察の技能を習得する。
・身近な自然やモノを素材とした教材開発と授業研究を卒業研究のテーマとして、自ら考え研究を行い、その　成果を卒業論文としてまとめる。
・授業を通して、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、課題解決能力を伸長させて、理科教育を通して、子どもたちの豊かな感性と学習意欲を育むことができる資質を養う。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	６．教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
・卒業研究に取り組む中で、五感を重視した小学校理科の教材を開発し、それを生かした授業研究に取り組む　ことができる。
・卒業研究に取り組む中で、小学校理科の確かな知識と実験・観察の技能を定着させることができる。
・卒業研究の成果をわかりやすく伝えられるようにプレゼンテーションの技法を習得することができる。
・卒業研究の成果を論文として的確にまとめる文章力を伸長することができる。

【成績の評価】
卒業研究の取組状況（実験・観察の取組、提出物等）５０％、卒業論文の成果３０％、発表会の成果（プレゼンテーション資料の作成と発表）２０％を目安とする。前期末、後期末、発表会等の節目の時に講評を行うことでフィードバックをします。

【使用テキスト】
授業で連絡します。以下を予定。
文部科学省編「小学校学習指導要領解説　理科編」
小学校理科の教科書　等

【参考文献】
適宜紹介します。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員が高等学校で理科の授業をした経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	次回の授業内容を確認し、予習として発表資料を整理し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
2	春期休業中の研究成果の発表	次回の授業内容を確認し、予習として卒業研究の検討課題や質問事項等を整理し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
3	前期の研究計画と方向性の話し合い	次回の授業内容を確認し、予習として卒業研究のの内容の修正箇所や質問事項等を整理し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
4	研究成果の検証と卒業研究内容の修正	次回の授業内容を確認し、予習として研究目的の原稿を作成し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
5	卒業研究の実践①：主に研究目的の確認・作成	次回の授業内容を確認し、予習として論文構成（章及び節の設定）を考え、ペーパー等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
6	卒業研究の実践②：主に研究目的の完成と論文構成（章及び節）の検討	次回の授業内容を確認し、予習として参考文献や参考資料を調べ、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
7	卒業研究の実践③：主に引用文献の調査と資料収集、先行事例の調査	次回の授業内容を確認し、予習として実験や実習、観察の先行事例を調べ、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
8	卒業研究の実践④：主に④にもとづく実験や実習・観察の開始	次回の授業内容を確認し、予習として予備実験等を行い、その結果をペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
9	卒業研究の実践⑤：主に⑤の実験や実習・観察結果の振り返り	次回の授業内容を確認し、予習として発表のレジュメ原稿の草案を作成し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
10	卒業論文中間発表レジュメとプレゼンテーション資料の準備・作成	次回の授業内容を確認し、予習として発表のレジュメ原稿等を完成、発表の練習等をしておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関す	担当：糸目真也

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		る課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	
11	卒業論文中間発表会	次回の授業内容を確認し、予習としてこれまでの卒業研究の成果と課題についてまとめ、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間	担当：糸目真也
12	研究成果の検証と今後の実験や実習・観察の検討	次回の授業内容を確認し、予習としてこれまでの卒業研究の成果と課題についてまとめ、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
13	研究内容の検討・修正・確認	次回の授業内容を確認し、予習として主にこれまでの実験・観察の成果と課題についてまとめ、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
14	実験や実習・観察内容の修正・実施	次回の授業内容を確認し、予習としてこれまでの卒業研究の成果と課題についてまとめ、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
15	夏季休業中の研究課題の確認	次回の授業内容を確認し、予習としてこれまでの卒業研究の成果と課題をもとに、夏季休業中に実験・観察を行うなどして、卒業研究を進めておくこと（10時間） 授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポー復習としてトにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
16	夏季休業中の研究成果の発表	次回の授業内容を確認し、予習として主に論文構成について課題を整理して再構築し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
17	論文構成の再構築・確認・修正	次回の授業内容を確認し、予習として主に指定された領域の論文を作成し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
18	卒業論文作成①：主に研究目的と第１章領域の作成、必要に応じて補足実験・観察等	次回の授業内容を確認し、予習として主に指定された領域の論文を作成し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
19	卒業論文作成②；主に第２と第３章領域の作成、必要に応じて補足実験・観察等	次回の授業内容を確認し、予習として主に指定された領域の論文を作成し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
20	卒業論文作成③：主に第４と第５章領域の作成、必要に応じて補足実験・観察等	次回の授業内容を確認し、予習として主に指定された領域の論文を作成し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
21	卒業論文作成④：主に結論と引用文献の作成、必要に応じて補足実験・観察等	次回の授業内容を確認し、予習として主に指定された領域の論文を作成し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
22	卒業論文作成⑤：論文全体の確認と発表会の準備	次回の授業内容を確認し、予習として発表のレジュメ原稿等を完成、発表の練習等をしておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
23	卒業論文後期発表会	次回の授業内容を確認し、予習として卒業論文のの修正箇所や追加内容項等を整理し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
24	卒業論文の最終確認：修正箇所、追加内容の検討	次回の授業内容を確認し、予習として卒業論文のの修正箇所や追加内容項等を最終確認し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
25	卒業論文の内容の最終調整：修正箇所と追加内容を中心に手直し	次回の授業内容を確認し、予習として卒業論文全体を読み返し、文章表現等を最終検討し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
26	卒業論文の書式の最終確認・修正：誤字・脱字・言い回し（文章表現）を中心に手直し	次回の授業内容を確認し、予習として卒業論文要旨の草稿を考えて、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
27	卒業論文要旨の作成	次回の授業内容を確認し、予習として卒業論文全体並びに卒論要旨を読み返し、文章表現等を最終検討し、ペーパー等にまとめておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
28	卒業論文及び卒論要旨の最終チェック	次回の授業内容を確認し、予習として発表のレジュメ原稿やプレゼンテーション資料等を完成、発表の練習等をしておくこと（２時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	担当：糸目真也
29	卒業論文発表会の準備：プレゼンテーション	次回の授業内容を確認し、予習として１年間	担当：糸目真也

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	資料の作成等	を通しての卒業研究の取組に対する成果や課題ついて、ペーパー等にまとめておくこと（１時間） 復習として授業の最後に課す授業内容に関する課題をレポートにまとめて提出すること（１時間）	
30	卒業研究の成果の振り返り	特になし	担当：糸目真也
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK7
授業形態： 演習
科目名： 卒業論文【生徒指導力向上ゼミ】
担当教員： 峯　寛文(MINE　Hirofumi),藤本　駿(FUJIMOTO　Syun)

【授業の紹介】
　演習Ⅲ・Ⅳでは、教師に求められる学習指導力と生徒指導力のうち生徒指導に焦点を絞り、多面的にその理解を深めてきました。卒業論文では、それを基盤として研究課題を設定し追及する中で、本学部がカリキュラム・ポリシーとしている「教育者・保育者に求められる使命感・倫理観の涵養」や「問題を自ら発見し、多様な情報収集・分析能力の技法と能力の獲得」等を図ります。なお、学修の過程では積極的に発表・討論を取り入れます。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	７．教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】
１．研究課題の追求に向け、必要な文献や資料等の収集・分析を行い、それをもとに演習Ⅳで立てた論文構想を見直し、テーマや構成を明確にすることができる。
２．学部で定めた書式に沿って論文を完成させるとともに、発表会で明快な要旨説明ができる。
３．論文の作成を通して、教育・保育に関する知識体系と実践の関連をより深く理解することができる。

【成績の評価】
卒業論文及び卒業論文要旨の完成度：60%
授業への参画姿勢(主体性、討論内容、レジュメ内容等）：40%
毎回の授業時に学習成果の点検や講評等によるフィードバックを行う。

【使用テキスト】
文部科学省「生徒指導提要」(令和４年12月)

【参考文献】
適宜紹介する。

【実務経験】
有り

【実務経験と授業科目の関係性】
この授業は実務経験のある教員による授業科目です。学校現場や教育行政での経験を生かし、具体的な事例を交えながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】
無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	資料の収集・分析、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
2	先行研究等、資料の収集・分析及び検討①	資料の収集・分析、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
3	先行研究等、資料の収集・分析及び検討②	資料の収集・分析、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
4	先行研究等、資料の収集・分析及び検討③	資料の収集・分析、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
5	研究テーマ及び論文構成の見直し・検討①	研究テーマ、論文構成や内容の検討、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
6	研究テーマ及び論文構成の見直し・検討②	研究テーマ、論文構成や内容の検討、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
7	研究テーマ及び論文構成の見直し・検討③	研究テーマ、構成や内容の検討、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
8	先行研究等の分析及び検討①	先行研究の分析・検討、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
9	先行研究等の分析及び検討②	先行研究の分析・検討、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
10	先行研究等の分析及び検討③	先行研究の分析・検討、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
11	研究テーマと論文構成の明確化①	研究テーマ、論文構成や内容の検討、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
12	研究テーマと論文構成の明確化②	研究テーマ、論文構成や内容の検討、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）な	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ど、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
13	研究テーマと論文構成の明確化③	研究テーマ、論文構成や内容の検討、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
14	発表・討議①(研究の目的、方向性、論証方法等)	研究の目的や方向性、論証方法等の検討、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
15	発表・討議②(研究の目的、方向性、論証方法等)	研究の目的や方向性、論証方法等の検討、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
16	後期オリエンテーション	前期の学修内容を踏まえた研究内容の方向や修正について、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
17	書式の確認	執筆に向けた書式の設定、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
18	各章の執筆①	各章の執筆、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
19	各章の執筆②	各章の執筆、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
20	各章の執筆③	各章の執筆、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
21	各章の執筆④	各章の執筆、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
22	各章の執筆⑤	各章の執筆、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
23	各章の校正①	各章の校正、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
24	各章の校正②	各章の校正、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
25	各章の校正③	各章の校正、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
26	論文構成全体の見直し・修正	卒業論文全体の見直し・修正、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
27	卒業論文発表要旨の作成	卒論要旨の作成、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
28	卒業論文発表要旨の完成	卒論要旨の発表、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
29	卒業論文発表会準備	発表会で提示するパワーポイントの作成、ゼミ内で行う発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
30	卒業論文発表会	ゼミ内で行うリハーサルとしての発表やその準備（レジュメ作成等）など、一連の学習活動・作業に要する時間として、ゼミの時間に加え、各自トータル60時間以上が必要になります。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： KENK7
授業形態： 演習
科目名： 卒業論文【造形教育ゼミ】
担当教員： 佐々木　啓祐(SASAKI　Keisuke)

【授業の紹介】

卒業論文のテーマは、幼児・児童の造形活動に関するものなら自由です。

研究方法は、できれば自らオリジナル教材を作成・開発し、それを保育所や幼稚園、小学校で実践するなどして、その実践の様子や詳細に記録にとどめ、成果や課題を考察するという“実践研究”を主たる研究方法とします。その他に、アンケートを現場の先生方や子どもたちにとって考察を加えるなどする“調査研究”も論文作成のための有効な方法と考えています。

授業では、造形教育に関する様々な研究論文を読むことから始め、３年次に提出した「卒業論文構想」の再検討を行っていきます。

大切なことは、将来、保育や教育の現場で子どもたちを指導する実践者として、「実践につながる研究であること」だと考えています。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
201904～202404	発達科学部	２．教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。
		３．子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
201904～202404	発達科学部	③　コミュニケーション能力	
		④　思考力・判断力・表現力	
		⑦　自己研修力	

【到達目標】

○　本学卒業後、赴任する保育所、幼稚園、こども園、小学校現場や、地域の造形教育（表現活動や図画工作教育）の推進役として活躍することのできる知識や技能、及び実践意欲等の資質能力を身に付けることができる。

○　卒業論文作成を通して、テーマの設定や内容、方法、成果や課題の書き方など、実践研究の方法についての基礎的な知識や技能を身に付けることができる。

【成績の評価】

教材作成・開発において、教材のよし・あし（20%）よりも、作成に取り組む意欲や態度（30%）を評価します。論文作成も同様で、論文の出来不出来（20%）よりも、作成に取り組む意欲や態度（30%）を評価します。作成した教材やレポート、その発表等に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

20分以上の遅刻は欠席とします。また欠席３回で欠席１回とします。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

「保育所保育指針 解説」（平成30年2月 厚生労働省）
「幼稚園教育要領 解説」（平成30年2月 文部科学省）
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）
令和２年～５年使用 小学校図画工作科 教科用図書
「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）　ほか、適宜紹介します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

本授業を担当する教員は、小学校で８年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、香川県教育委員会の図画工作科担当指導主事として、長きに渡って現場の先生方に図画教育科の指導を行ってきました。

また、香川県教育委員会から幼児の造形活動の指導員として委嘱され、４年間、県内の幼稚園や保育所等で、２歳児から５歳児までの子どもたちと造形活動を行ってきました。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	第１回　オリエンテーション、３年次の「卒業論文構想」の再検討　（保育士や幼稚園教員をめざす学生は、併せて実技試験対策も計画に入れる。）	休み中の課題として、卒業論文の作成計画を立て、提出する（１時間以上）	
2	第２回　卒業論文のテーマに関する様々な研究論文（実践研究）の読解と分析①	授業時間外の課題として、参考とする図書や論文を読解し、内容をゼミで紹介するための準備をする。（１時間以上）	
3	第３回　卒業論文のテーマに関する様々な研究論文（実践研究）の読解と分析②	授業時間外の課題として、参考とする図書や論文を読解し、内容をゼミで紹介するための準備をする。（１時間以上）	
4	第４回　卒業論文のテーマに関する様々な研究論文（実践研究）の読解と分析③	授業時間外の課題として、参考とする図書や論文を読解し、内容をゼミで紹介するための準備をする。（１時間以上）	
5	第５回　卒業論文のテーマや研究内容・方法の再検討、決定	授業時間外で、再度、卒業論文のテーマや研究内容・方法を再検討し、確定する。（１時間以上）	
6	第６回　タイムテーブルの作成・提出	タイムテーブルが不完全な場合は、授業時間外で、再度作成し直し、提出する。（１時間以上）	
7	第７回　造形活動の教材作成・開発など①（研究内容・方法によって様々である）	授業時間外においても、研究内容・方法に応じて、実践や実践のまとめを進め、ゼミの時間での中間報告の準備をする。（１時間以上）	
8	第８回　造形活動の教材作成・開発など②	授業時間外においても、研究内容・方法に応じて、実践や実践のまとめを進め、ゼミの時間での中間報告の準備をする。（１時間以上）	
9	第９回　造形活動の教材作成・開発など③	授業時間外においても、研究内容・方法に応じて、実践や実践のまとめを進め、ゼミの時間での中間報告の準備をする。（１時間以上）	
10	第10回 造形活動の教材作成・開発など④	授業時間外においても、研究内容・方法に応じて、実践や実践のまとめを進め、ゼミの時間での中間報告の準備をする。（１時間以上）	
11	第11回 造形活動の教材作成・開発など⑤	授業時間外においても、研究内容・方法に応じて、実践や実践のまとめを進め、ゼミの時間での中間報告の準備をする。（１時間以上）	
12	第12回 造形活動の保育現場での実践計画、データ収集計画の立案など	授業時間外においても、研究内容・方法に応じて、実践や実践のまとめを進め、ゼミの時間での中間報告の準備をする。（１時間以上）	
13	第13回 保育現場での実践など①（先方の都合で、授業日以外に実施する場合もある）	保育現場で実践を行う場合は、事前に所や円の都合の良い日時を設定し、承諾を得ておくとともに、細部に渡って入念な打ち合わせをする。（１時間以上）	
14	第14回 保育現場での実践など②	保育現場での実践は授業期日に関係なく実施する。（１時間以上）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
15	第15回 保育現場での実践など③	保育現場での実践は授業期日に関係なく実施する。（１時間以上）	
16	第16回 後期オリエンテーション、実践のデータ収集と整理	ゼミ内で発表できるよう、授業時間外にこれまでの取組をまとめておく。（１時間以上）	
17	第17回 造形活動の教材作成・開発、及び保育現場での実践など①（現場での実践が難しい場合は、模擬授業や個別に幼児・児童に依頼）	ゼミ内での模擬授業は、あらかじめ指導案を作成・配布しておき、実施後はすみやかに記録をまとめておく。（１時間以上）	
18	第18回 造形活動の教材作成・開発、及び保育現場での実践など②	ゼミ内での模擬授業は、あらかじめ指導案を作成・配布しておき、実施後はすみやかに記録をまとめておく。（１時間以上）	
19	第19回 造形活動の教材作成・開発、及び保育現場での実践など③	ゼミ内での模擬授業は、あらかじめ指導案を作成・配布しておき、実施後はすみやかに記録をまとめておく。（１時間以上）	
20	第20回 実践のデータ収集と整理・分析、内容構成など①	授業時間に関係なく、執筆準備をする。（１時間以上）	
21	第21回 実践のデータ収集と整理・分析、内容構成など②	授業時間に関係なく、執筆準備をする。（１時間以上）	
22	第22回 実践のデータ収集と整理・分析、内容構成など③	授業時間に関係なく、執筆準備をする。（１時間以上）	
23	第23回 卒業論文執筆①	授業時間に関係なく、論文・論文要旨を執筆していく。（１時間以上）	
24	第24回 卒業論文執筆②	授業時間に関係なく、論文・論文要旨を執筆していく。（１時間以上）	
25	第25回 卒業論文執筆③	授業時間に関係なく、論文・論文要旨を執筆していく。（１時間以上）	
26	第26回 卒業論文執筆④	授業時間に関係なく、論文・論文要旨を執筆していく。（１時間以上）	
27	第27回 卒業論文執筆⑤	授業時間に関係なく、論文・論文要旨を執筆していく。（１時間以上）	
28	第28回 ゼミ内発表会、論文修正	ゼミ内での発表会後、授業時間に関係なく、論文を修正する。（１時間以上）	
29	第29回 レジュメ作成	想定問答を作成しておく。（１時間以上）	
30	第30回 卒業論文発表会	想定問答を作成し、予行をしておく。（１時間以上）	
	定期試験(実施しない)		